

人間福祉心理学科
(2022年度以前入学者、2023年度編入学者用)



2023

人間福祉心理学科
(2022年度以前入学者、2023年度編入学者用)



2023

目 次

ルーテル学院大学の3つの方針	4
2023年度 学事暦	8
2023年度 曜日別講義日一覧	10

I 履修ガイド 11

授業に関すること	14
履修登録	18
定期試験・レポート提出	23
成績評価・成績通知	26
学籍について	28
コース選択と資格取得について	30

II 履修概要 31

総合人間学部・人間福祉心理学科	33
1 学科の由来	
2 教育目標	
3 教育の特色	
4 卒業要件	
A 教養科目	34
B 専門科目	40
C コースと履修モデル	42
キリスト教人間学コース	
福祉相談援助コース	
地域福祉開発コース	
子ども支援コース	
臨床心理コース	
D 資格取得に関して	57
E 社会福祉領域の実習について	71
E-1 社会福祉士のための実習	
① 2022年度1年次入学者、2021年度1年次入学者、2022年度2年次編入学者対象(社会福祉士)	
② 2020年度までの1年次入学者及び2021年度までの2年次、3年次編入学者対象(社会福祉士)	

E-2	精神保健福祉士のための実習	
③	2021年度1年次入学者、2022年度2年次編入学者対象(精神保健福祉士)	
④	2020年度までの1年次入学者及び2021年度までの2年次編入学者対象(精神保健福祉士)	
E-3	その他の実習	
⑤	2020年度1年次入学者、2021年度までの2年次編入学者(ソーシャルワーク実習Ⅱ)	
⑥	2020年度1年次入学者、2021年度までの2年次編入学者(ソーシャルワーク実習Ⅲ)	
⑦	2021年度以降の1年次入学者、2022年度以降の編入学者(ソーシャルワーク現場体験実習)	
⑧	2021年度1年次入学者及び2022年度2年次の編入学者	
F	公認心理師の演習・実習について	82
G	卒業論文について	85
H	「人を対象とする研究計画等の審査」申請手続きについて	88

III 関連事項その他

89

関連規程	91
定期試験関係の規程、長期履修制度に関する内規	
ルーテル学院大学学位規程、授業等における気象災害の対策等に関する指針	
2023年度教員名簿、専任教員、非常勤講師	102

IV 講義概要

105

科目ナンバリングについて	107
2023年度 開講科目表	108
(シラバス目次)	

• 教養(LiberalArts)科目

• 専門科目

※各科目のシラバスは、開講科目表における科目ナンバーの右隣りにページの記載があります。

ルーテル学院大学の3つの方針

ルーテル学院大学 「入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)」

ルーテル学院大学は建学の精神に基づき、人間を包括的にとらえて、「心と福祉と魂の高度な専門家」を養成することを目的とします。特にいのち、心、子どもと家族、障がい者や高齢者、地域社会などを総合的に捉える力を養います。

この目的にそった人材を育成するために、これまでの学習および経験を通じて下記のような意欲・態度・知識を有する学生を求めます。

1. 人と社会に貢献する意欲

人を理解し支援するための知識や技術を学びたいと願い、自分の人生を人と社会のために役立てたいという意欲を持っている学生を求めます。

2. 基礎的なコミュニケーション能力

自分の考えをまとめ、他者の思いを理解するためのコミュニケーションの基礎的な能力を身につけている学生を求めます。

3. 主体的に調べ、考え、学ぶ積極的な姿勢

社会や人間に対し多面的な興味をもち、主体的に調べ、考え、学ぶ積極的な姿勢がある学生を求めます。

4. 他者と協働して学ぶ態度

他者と協力しておこなう学習・活動に参加でき、必要に応じて、自分の考えを主張したり、他者の考えを取り入れたりすることができる学生を求めます。

5. 基礎的な学力

対人援助の専門職に必要な知識を修得するための基礎的な学力をもっている学生を求めます。

6. 本学の教育の特色の理解

本学が一学科のもとで提供する福祉相談援助、地域福祉開発、子ども支援、臨床心理、キリスト教人間学の5つのコースの特色を理解している学生を求めます。

上記のような学生の力を正しく判断するために、多様な選抜方法を実施し、面接を重視して選抜します。

【以上】

「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」

ルーテル学院大学は、以下のような方針でカリキュラムを提供しています。

学生は2年次開始時までには、福祉相談援助コース、地域福祉開発コース、子ども支援コース、臨床心理コース、キリスト教人間学コースのいずれかのコースを選択します。そして、履修モデルを参考にしつつ、学際的な学びをし、心と福祉と魂の高度な専門家に必要な価値、知識、技術を身につけます。

I. 教育内容

1. キリスト教といのちについての学びを深める教育

キリスト教を基盤とした人格教育の提供、および、キリスト教といのちについて学びを深める教育をします。

2. 生命について学び、生きる力を体得する教養教育

生命・環境について広く学び、コミュニケーション能力を高め、生きる力を体得し、キャリアを築く力を育む教養教育を提供します。

3. 世界の言語・文化・社会の理解を深める国際教育

実践的なコミュニケーション能力を習得する語学教育、世界の宗教・文化・社会の理解を深める専門教育、海外研修・海外インターンシップ・留学の機会の提供と個別支援を通して国際教育を提供します。

4. 総合的に人間についての学びを深める総合人間学教育

社会福祉学、臨床心理学、キリスト教学に基づいた専門教育と教養教育を基盤に、自己を理解し、総合的・包括的な人間理解と他者支援ができる教育を提供します。

5. キャリア形成に結びつく専門教育

専門科目の体系的履修を通して、生涯を通してのキャリア形成に資する教育を行います。社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師等の国家資格取得の支援、および、臨床心理士や牧師を目指す人の進学支援を行います。

6. 思索力を育み、能動的な学びを促す少人数教育

学年ごとに少人数による演習科目を設け、また、卒業演習や卒業論文執筆などを通して学びを統合させ、思索力を育み、能動的な学びを促す教育を提供します。

7. 実習、インターンシップを核とした体験重視の実践教育

本学での学びと具体的な他者支援や社会での働きの現場での体験を通し、理論と実践を有機的に結びつける場として、専門領域の実習、国内・海外インターンシップ等の機会を数多く用意し、実践的な教育を行います。

II. 教育方法

初年次には、オリエンテーション、履修指導の個別面接の複数回実施、少人数の演習科目を提供することなどを通して、専門教育への円滑な移行を支援します。

演習科目はもちろん、講義科目においても、少人数グループに分かれてのディスカッション、ロールプレイ、事例検討など、実践的な力を養う参加型の教育方法を用います。

アクティブラーニングの実施、リフレクションペーパーの提出などを求め、思索の深化・思いの言語化をさせ、自律的に調査研究する能力を高めます。

全ての学生が卒業までに、専門領域の実習、国内・海外インターンシップのいずれかを履修できるよう実践的な教育の機会を保障します。

Ⅲ. 評 価

学生の履修や履修効果を確認するために、講義概要に科目の評価方法を明記し、5段階評価をします。GPA制度を採用し、在学生の履修指導に活用します。

このようなカリキュラム履修を通して、学生は人間性、総合的・実践的な学習能力、コミュニケーション能力および他者支援に必要な高度な専門性を身につけます。

【以上】

「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」

ルーテル学院大学は、建学の精神に則り、人間を包括的にとらえる「心と福祉と魂の高度な専門家」を養成することを目的とします。この目的を実現するために、「キリスト教的人間理解」を基盤として、「福祉」「子ども」「心理」を学際的に学べる専門教育と教養教育とを中心として、人間を総合的に理解し援助する力を養うためのカリキュラムを提供します。

その中から、学生各自の関心と目的意識に応じて、必修科目を含む所定の単位を履修し、それによって下記の資質と能力とを獲得した者に対して、卒業を認め、学士(総合人間学)の学位を授与します。

1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性

自己理解を深め、豊かな人間性を身につけて、自然・文化・宗教・歴史を重んじ、さまざまな条件のもとにある一人ひとりの人間のいのちと価値を尊び、他者を理解し支え、共に生きることを喜ぶことができるようになること。

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性

心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、深く総合的な人間理解に立って、個人の痛みを癒し、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになること。また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるようになること。

3. 総合的・実践的な学習能力

ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。そのために、必要とされる他の人々との協働作業を創り、積極的に参与できるようになること、さらに、それを生涯にわたって伸ばしていける学習能力を身につけること。

4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力

コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

【以上】

2023年度 学事暦

全体学事暦	2023年(前)	卒業論文 スケジュール	対象コース	2023年(前)
入学式(14:00～)	4月3日(月)			
新入生・在学生オリエンテーション	4月4日(火)～10日(月)			
履修登録入力期間	4月6日(木)～17日(月)			
指導費等履修登録に関する書類提出期間	4月6日(木)～17日(月)			
全学健康診断	4月7日(金)			
授業開始	4月11日(火) ※土曜授業日は4月8日(土)			
新入生アドバイザーとの顔合わせ	5月10日(水) 2限			
社会福祉実習開始週	5月15日(月)～	第2回中間発表会	相談・地域・子ども	該当者がいないため開催なし
		第1回中間発表会	キリスト	5月17日(水) 2限
履修中止申請期間	5月26日(金)～29日(月)10時			
定例学生総会	6月7日(水) 2限			
		第1回中間発表会	臨床	6月14日(水)
夏祭り	7月5日(水) 2限			
海の日は授業実施日	7月17日(月)			
補講	7月18日(火)・24日(月)			
通常授業終了	7月22日(土)			
前期試験期間	7月25日(火)～31日(月)			
レポート提出期間	7月25日(火)～31日(月) ※土・日除く			
課題配信型授業試験日	8月1日(火)			
集中講義期間① (この期間外に実施される場合もあり)	8月2日(水)～8日(火)			
追試・再試期間	8月9日(水)・10日(木)			
夏休一斉休業(事務受付なし)	8月14日(月)・15日(火)			
集中講義期間② (この期間外に実施される場合もあり)	9月11日(月)～16日(土)			
全体学事暦	2023年(後)	卒業論文 スケジュール	対象コース	2023年(後)
前期成績通知閲覧(ポータルサイト)	9月8日前後を予定			
後期履修変更入力期間	9月14日(木)～25日(月)			
指導費等履修に関する書類提出期間	9月14日(木)～25日(月)			
敬老の日は後期授業開始日	9月18日(月) ※土曜授業日は9月16日(土)			
成績個別面談	9月20日(水) 2限			
1日神学校(休講)	9月23日(土)			
創立記念礼拝	9月26日(火)			
前期卒業式	9月27日(水)			
創立記念休日(休講)/学生会企画	10月4日(水)			
スポーツの日は授業実施日	10月9日(月)			
		第2回中間発表会	キリスト	10月11日(水) 2限
		第2回中間発表会	臨床	10月11日(水)
履修中止申請期間	10月27日(金)～31日(火)10時			

全体学事暦	2023年(後)	卒業論文 スケジュール	対象コース	2023年(後)
愛祭(学園祭)に伴う休講日	11月3日(金)～6日(月)			
学園祭準備日	11月3日(金)			
学園祭当日	11月4日(土)・5日(日)			
学園祭後片付け	11月6日(月)			
		第1回中間発表会	相談・地域・子ども	11月8日(水) 2限
学部入学試験(授業は実施)	11月25日(土)			
定例学生総会	12月6日(水)	卒業論文提出締切	キリスト	12月6日(水) 16:30
補講	12月12日(火)・19日(火)・20日(水)・21日(木)			
クリスマス礼拝	12月13日(水) 2限			
入学試験(授業は実施)	12月16日(土)			
通常授業終了	12月18日(月)			
全体学事暦	2024年(後)	卒業論文 スケジュール	対象コース	2024年(後)
授業再開	1月9日(火)			
		卒業論文審査・口頭試問	キリスト	1月10日(水) 2限
共通テスト(休講)	1月13日(土)・14日(日)			
		卒業論文発表会	キリスト	1月17日(水) 2限
		卒業論文提出締切	臨床	1月19日(金) 16:30
通常授業終了	1月20日(土)			
後期試験期間	1月22日(月)～27日(土)			
レポート提出期間	1月22日(月)～27日(土)			
課題配信型授業試験日	1月29日(月)			
コース選択調査票提出(変更希望者のみ)	1月31日(水)16:30まで	修正後の卒業論文再提出	キリスト	1月31日(水) 16:30
追試期間	1月31日(水)・2月1日(木)・5日(月)			
		卒業発表会資料提出	臨床	2月1日(木) 16:30
入学試験	2月2日(金)			
神学校入学試験	2月5日(月)			
		卒業論文発表会・審査	臨床	2月6日(火)
入学試験	2月7日(水)			
卒業確定者氏名掲示	2月22日(木)			
入学試験	2月28日(水)			
		修正後の卒業論文再提出	臨床	2月29日(木) 16:30
卒業式(14:00～)	3月7日(木)			
入学試験	3月9日(土)			

※入学試験に関する構内立入禁止に関しては掲示にて告知します。

2023年度 曜日別講義日一覧

前 期

下線ゴシックは、祝日開講日です。

授業回数	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	4/17	4/11	4/12	4/13	4/14	4/8
2	4/24	4/18	4/19	4/20	4/21	4/15
3	5/1	4/25	4/26	4/27	4/28	4/22
4	5/8	5/2	5/10	5/11	5/12	4/29
5	5/15	5/9	5/17	5/18	5/19	5/13
6	5/22	5/16	5/24	5/25	5/26	5/20
7	5/29	5/23	5/31	6/1	6/2	5/27
8	6/5	5/30	6/7	6/8	6/9	6/3
9	6/12	6/6	6/14	6/15	6/16	6/10
10	6/19	6/13	6/21	6/22	6/23	6/17
11	6/26	6/20	6/28	6/29	6/30	7/1
12	7/3	6/27	7/5	7/6	7/7	7/8
13	7/10	7/4	7/12	7/13	7/14	7/15
14	7/17	7/11	7/19	7/20	7/21	7/22
※定期試験	7/31	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29

※試験日は原則授業と同じ曜日、講時で行いますが、諸事情により変更となる場合があります。科目によっては試験日を授業または補講とする場合があります。

後 期

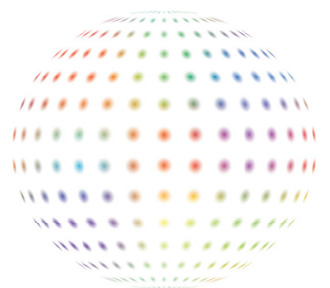
下線ゴシックは、祝日開講日です。

授業回数	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/16
2	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30
3	10/2	10/3	10/11	10/5	10/6	10/7
4	10/9	10/10	10/18	10/12	10/13	10/14
5	10/16	10/17	10/25	10/19	10/20	10/21
6	10/23	10/24	11/1	10/26	10/27	10/28
7	10/30	10/31	11/8	11/2	11/10	11/11
8	11/13	11/7	11/15	11/9	11/17	11/18
9	11/20	11/14	11/22	11/16	11/24	11/25
10	11/27	11/21	11/29	11/30	12/1	12/2
11	12/4	11/28	12/6	12/7	12/8	12/9
12	12/11	12/5	12/13	12/14	12/15	12/16
13	12/18	1/9	1/10	1/11	1/12	1/6
14	1/15	1/16	1/17	1/18	1/19	1/20
※定期試験	1/22	1/23	1/24	1/25	1/26	1/27

※試験日は原則授業と同じ曜日、講時で行いますが、諸事情により変更となる場合があります。科目によっては試験日を授業または補講とする場合があります。

I

履修ガイド



2023年度の履修上の特別の注意

1. 履修登録期間中は並行して行われている科目に出てみることもあり得るが、少なくとも2回目の授業からは出席することが必要である。科目によっては、第1講からの出席が必須のもの(最初出席しなければ、その後の履修を認められないもの)があるので注意すること。
2. 学則に「毎学年最低20単位以上、最高48単位以下を履修しなければならない」と定めてあるが、4年生で卒業必要条件を十分満たすと見込まれるものに限って、この規定を適用しないことを認める。
3. 本学では、1、2、3年次に1年間のGPAが1.0未満の場合、原級留置(留年)とすることを方針としている。但し、当該年度に20単位以上の単位取得がある場合、教務委員会の協議を経て進級とすることができる。
4. 前の学年度で35単位以上を履修し、優秀(GPA 2.7以上、下記参照)な成績を修めた者については、54単位を限度として49単位以上の履修を認めることになっているが、無理な履修計画はたてないこと。
5. 本学は、次の場合、成業の見込みがない者として進路の変更を求める場合がある。
「2年間の取得単位合計が30単位未満」の場合
6. 本学では、欠席回数が講義回数の3分の1を超えた場合、期末試験の受験資格を失うという規定を示し、特に語学の場合は更に厳しく4分の1を超えてはならない、と定めている。この「4分の1」条項は語学以外の科目でも適用することがあり得るので、学生は十分に注意し、出席に励むことが強く望まれる(遅刻も3回で欠席1回に数える)。

本学における GPA の算定方法

GPA (Grade Point Average) は成績評価点平均のことです。本学では各科目の成績1単位につき、ポイントの評価点を与えています。各科目の単位数に評価点を乗じたものの総合計を総履修登録単位数(不可の科目の単位数も含まれる)で除したものが GPA となります。

再履修科目については、累計 GPA の計算時には再履修前の当該科目の登録単位数及び成績ポイントは算入しません。ただし、単年度の GPA にはそれぞれ算入します。

※成績1単位につきポイント数 秀⇒4ポイント、優⇒3ポイント、良⇒2ポイント、可⇒1ポイント、不可⇒0ポイント

$$\text{GPA} = \frac{(\text{秀の科目の単位数} \times 4) + (\text{優の科目の単位数} \times 3) + (\text{良の科目の単位数} \times 2) + (\text{可の科目の単位数} \times 1)}{\text{総履修登録単位数(全科目)}}$$

よって履修登録はしたけれど途中でその科目を放棄したり、履修登録数が多すぎて学習に支障がでて思ったような成績が得られなかった場合、当然 GPA は低くなります。履修登録時に十分な履修計画をたてて無理のない学習をすることをおすすめします。

GPA 制度の狙いは、学生の学力の到達水準を明確にして、学習の「量ではなく、質を問う」ことにあります。

本学では上記の成績優秀者の判定の他に諸奨学金受賞者の選考時にも利用されています。

授業に関すること



新型コロナウイルスの感染拡大状況によって、時間割や履修登録の手続方法、定期試験実施方法、掲示板の活用方法などが変更になる可能性があります。

変更内容はポータルサイトから案内されますので、常にポータルサイトを確認して下さい。

授業時間

授業は下記の時間どおりに行われます。

時 限	対 面 授 業 時 間	ハイブリット授業時間	
第 1 時 限	8時50分～10時30分(100分)	遠隔授業	8時30分～10時10分(100分)
第 2 時 限	10時40分～12時20分(100分) ※1		10時20分～12時00分(100分)
礼 拝	12時25分～12時40分 ※2		昼休み・礼拝 通学移動時間
昼 休 み	12時40分～13時20分	対面授業	14時30分～16時10分(100分)
第 3 時 限	13時20分～15時00分(100分)		16時20分～18時00分(100分)
第 4 時 限	15時10分～16時50分(100分)	遠隔授業	18時10分～19時50分(100分)
第 5 時 限	17時00分～18時40分(100分)		

※1 水・学科の時間10時40分～12時10分

※2 水のみ礼拝12時15分～12時40分

休 講

授業を休講する場合には、担当教員より連絡があり次第総合オフィス掲示板および学生ポータルサイトでその旨案内します。

休講の掲示がなく、授業開始から30分以上経過しても担当教員が入室しない場合は、学生支援センターに連絡して指示を受けて下さい。

尚、電話による問い合わせは、受付けておりません。

時間割・教室変更

事情により時間割、教室等を変更する場合があります。その都度教学掲示板に掲示しますので、学期の始めには特に注意して下さい。

実習・研修期間の授業の扱いについて

下記の科目については公欠の扱いをいたします。手続きについてはオリエンテーション等でご確認下さい。

○ソーシャルワーク実習・心理実習

公欠の扱いをすると公欠の回数を本来の授業回数から差し引いて出席率が計算されます。

なお、英語科目、コンピュータ関係科目、及び集中講義科目については授業の性格上(授業欠席が次回の授業に多大な影響を与える、短期に集中して行うため)原則として公欠は認めません。もし、履修の必要のある学生は事前に担当教員にご相談下さい。

公欠は休んだコマの補講を保障するものではありません。各自で授業に追いつくように努力して下さい。

学校感染症に罹患した場合の対処

学校保健安全法に定められている学校感染症に罹患した場合、感染拡大を防止するため、治癒するまでの期間は登校することはできません。感染症に罹患した場合や少しでも疑いがある場合には下記の通り対応して下さい。

学校感染症の種類は、※新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ・百日咳・麻疹(はしか)・流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)・風疹(三日はしか)・水痘(水ぼうそう)・結核・咽頭結膜熱(プール熱)・髄膜炎菌性髄膜炎等です。

1. 直ちに医療機関で受診し医師の判断と指示に従って、感染の危険がなくなるまで自宅療養して下さい。
2. 罹患した旨を登校せず電話で学生支援センターに連絡し、必要な指示を受けて下さい。

特に、定期試験時期などは影響が多いため、不利益な状況にならないように注意して下さい。

3. 治癒後は、登校初日に大学所定の「学校感染症治癒証明書」を提出してください。「学校感染症治癒証明書」は大学 HP よりダウンロード・プリントアウトし、診断を受けた医師により証明を受けて下さい。但し、自宅療養期間が記載されていれば医療機関の様式で発行された証明書でも可能です。

また、授業を欠席した場合は「学校感染症治癒証明書」と一緒に欠席した科目毎に「欠席届」を学生支援センターに提出する必要があります。証明印を押された「欠席届」を各自で担当教員に渡して下さい。

※新型コロナウイルス感染症の陽性・濃厚接触者になった場合は、「健康チェック表」と「欠席届」を各自で担当教員に提出して下さい。

学生支援センター：0422-31-4682(健康管理室 内線615)

社会福祉と臨床心理の実習中に学校感染症に罹患した場合の対処

実習先へ向かう前に毎朝必ず検温し、万一、発熱や咳等の症状が有り新型コロナウイルス、インフルエンザやその他学校感染症のいずれかが疑われる場合は、安全を期して実習先には行かないで下さい。

その様な場合は、必ず実習先・実習担当教員、社会福祉の実習はコミュニティ人材養成センター、臨床心理の実習は臨床心理相談センターに電話連絡を入れ、必要な指示を受けると共に医療機関で受診し医師の判断を受けて下さい。

- 学校感染症の種類は、※新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ・百日咳・麻疹(はしか)・流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)・風疹(三日はしか)・水痘(水ぼうそう)・結核・咽頭結膜熱(プール熱)・髄膜炎菌性髄膜炎等です。
- 「学校感染症治癒証明書」に証明された自宅療養期間中は欠席扱い(通常講義・実習関係)とはなりません。
- 体調不良の場合はコミュニティ人材養成センター(不在の場合は、学生支援センター)に直ちに連絡・相談をして下さい。

※新型コロナウイルス感染症の陽性・濃厚接触者になった場合は、「健康チェック表」と「欠席届」を各自で担当教員に提出して下さい。

コミュニティ人材養成センター：0422-31-7920

臨床心理相談センター：0422-32-0316

疾病、忌引、就職活動等による欠席について

公欠以外の理由(疾病、忌引、就職活動等)で欠席する場合は、学生支援センターにある「欠席届」に必要事項を記入して、事前又は事後速やかに担当教員へ各自で提出して下さい。ただし、欠席届を提出すれば、すべてが考慮されるとは限りません。出欠の評価は、各担当教員の判断によります。遠隔授業については、メールで担当教員に欠席の連絡をして下さい。

疾病、事故等により2週間以上の長期にわたり欠席する場合は、直ちに学生支援センターへ連絡し、診断書等の事

由を証明する書類を提出して下さい。学生支援センターから担当教員へ欠席の連絡をします。この場合も、公欠とはなりませんので、すべてが考慮されるとは限りません。欠席日数が多いと判断されると不可となります。

補 講

担当教員の都合により休講となった科目については、補講を行うことがあります。

補講科目・時間割は教学掲示板あるいはポータルサイトにて連絡します。平常の授業時間割、授業教室と異なりますので、各自確認して下さい。土曜日や平常授業時の別時限に設定されることもあります。

テキストの購入

テキスト等については、各自で書店等より購入することを原則としますが、前期及び後期初めに東京インターカレッジコープを通して予約・購入することもできます。但し、手許にテキストが届くまで1ヶ月位かかりますのでシラバスに最初からテキストを利用すると記載のある場合は、各自で購入下さい。詳細については、別途教学掲示板にて確認の上、所定の期日に注文予約の手続きと受取りを確実に行って下さい。(東京インターカレッジコープへの加入が必要です。)

この購買は特別に行っていますので申込後のキャンセルはできません。また連絡がなく受取りがない場合は本人の自宅に着払いで郵送します。

また、講義によってはテキストの代りに大量のコピーを有料にて配布する場合がありますので、予め了解しておいて下さい。

発表用レジメ等のコピーについて

コピー料は受益者負担を原則とし、有料となります。

例えば授業やゼミにおいて研究発表やグループ学習等で指名された学生が、その内容のレジメをクラスの人數分準備するコピー資料については、学生の自己負担となります。パワーポイント等の活用は担当教員にご相談下さい。

また、実習記録についても同様の扱いとなります。

JR ストライキ発生時の対応

○首都圏の JR 東日本がストライキした場合。

(1)ストライキに入らなかった場合は、平常通り授業を行います。

(2)ストライキに入ったが、午前7時までに解決した場合は、午前中の授業を休講とし、午後の授業は平常通り行います。

(3)ストライキが午前7時以降も続行されている場合は、全日休講とします。

○私鉄ストライキの場合は、平常通り授業を行います。

○その他、災害等により、JR 東日本が不通になった場合には、上記に準じます。

台風等の気象災害対策について

本学では、台風や暴風等の気象災害の発生または発生が予想される際の対応について「授業等における気象災害の対策等に関する指針」(関連事項その他のページを参照)に定めています。

日頃から指針を確認し、安全を最優先にした行動をしてください。

また災害等の休講情報等については、極力掲示または学生ポータルサイトに掲載をしますのでその都度確認をしてください。

なお、地震等を含め、甚大な被害が発生又は発生が予想される場合については、この指針第7条第6項に定める通り、緊急対策本部によって対応を決定し、発表・伝達します。各自で大学ホームページや学生ポータルサイト、テレビ、ラジオなどで情報収集に努め、常に安全を優先にし、冷静な行動をしてください。また、学生ポータルサイトにて安否確認をすることもあります。

履修登録



履修登録について

4月に行われるオリエンテーションには、必ず出席してください。

在学生は、学年別履修指導、資格関係履修指導、個別履修相談等を行います。



履修登録にあたっては、履修モデルや各科目の履修学年目安を参考にして、各自で履修計画を作ります。必要に応じて、教員から履修指導を受けて下さい。

履修登録入力期間中(後期は履修変更入力期間中)に必ず本人が登録して下さい。入力期間中は、随時、登録・取消ができます。

登録完了後、「履修確認表」を印刷(またはPDFで保管)して手もとに保管して下さい。



入力期間終了後、学生支援センターにて登録不備等のチェック。

担当教員による出席簿の印刷、確認。



入力期間終了後、再度、登録・取消した科目に間違いがないか確認。訂正がある場合や授業時に出席確認で名前が呼ばれない時は、保管した「履修確認表」をもってすぐに学生支援センターに申し出ること。



履修登録完了。

履修登録上の注意事項

- 4月の履修登録、9月の履修変更はそれぞれの指定された期間内に必ず手続きをして下さい。
- 4月の前期履修登録期間に通年でバランスよく履修計画をたてて、後期科目も含めてその年度に履修しようとする科目は全て年度初めに登録して下さい。
- 通年科目(「教会音楽実技Ⅰ」、「卒業論文」等)と8月・9月に行われる集中講義の登録は、4月の履修登録期間のみ可能です。後期からの登録、取消は出来ませんのでご注意ください。
- 9月の履修変更期間は後期開講科目に限り、補充登録・取消が出来ます。(前期開講科目や通年科目、8月・9月の集中講義科目の取消しはできません。)
- 前期に「不可」がついた科目も履修総単位数に含まれます。「不可」科目の履修単位も含めて48単位を超えての補充登録は出来ません。
- 受講人数に制限のある科目については、後期に補充登録できないことがあります。
- 前期に登録した後期開講の「教会音楽実技Ⅱ又はⅢ」を、後期履修変更期間に取消をした場合、指導費は返金になります。
- 実習科目については原則、取消はできず、実習費の返金もありません。実習の取消を希望する場合は、実習担当教員に相談して下さい。
- 履修登録を忘れたり、間違った登録をすると授業に出席することも、試験を受けることもできず、単位取得できませんので登録の時はよく確認して下さい。
- 「教会音楽実技」の履修希望者は、オリエンテーションで開催される説明会に必ず出席して下さい。

- 毎年度の履修単位は、最低20単位以上、最高48単位以下にとどめるようにして下さい。

前学年度に優秀な成績(35単位以上修得し、GPA 2.7以上)を修めた者については、54単位を限度として49単位以上の履修が認められます。希望する学生は、履修登録期間中にポータルサイトの個人成績一覧にて確認して下さい。

- 編入学生の卒業要件は、ポータルサイトの個人成績一覧の分野別成績取得状況にある卒業単位基準の教養必修科目等の免除単位数には反映できません。各自で入学時に配布されている認定書をもとに確認して下さい。

履修中止申請について

- 前・後期とも授業開始後、6～7週目位に履修中止申請期間を設けています。
- 履修登録完了後、受講科目を放棄したい場合は履修中止申請期間中に学生支援センターに手続きすることにより、履修登録の取消ができます。ただし、実習科目について履修を放棄する時は、実習担当教員に相談して下さい。
- 原則、履修中止申請をしても実習費、指導費、教材費については返金できません。
- 履修中止申請期間以降は、授業を放棄しても履修の取消はできず成績に「不可」がつきます。
- 通年科目、夏季集中講義科目は前期履修中止申請期間のみ中止申請が可能です。
申請手続きができるのは正規学生のみです。
- 履修中止申請期間に聴講科目を取り消すことは出来ませんが、聴講から履修に、履修から聴講に変更することはできません。

履修についての注意

- 履修者が極端に少ない場合(5名未満が目安)や、履修登録者が公開講座生と科目等履修生のための科目は、担当教員、学科長、教務委員長、学生支援センター長による話し合いおよび教務委員会を経て、登録開始後でも閉講になることがあるので承知しておいて下さい。
- シラバスに各科目の成績評価の基準が記載されています。この成績評価は、出席が当然の前提であり、欠席は減点の対象となる場合があります(加点にはなりません)。なお、欠席回数は、特にことわらない限り全体の3分の1を超えると単位認定の試験の受験資格を失います。遅刻も3回で欠席1回に数えられます。特に、語学については、欠席回数は全体の4分の1を超えないようにと指示されることが多いので、欠席しないようにして下さい。
- 社会福祉士受験資格関係の科目は、内容を集約的に取扱うので、欠席回数は4分の1を超えてはいけません。
- 社会福祉士、公認心理師等の実習に出る前には、良以上の成績が必要な科目があります。オリエンテーションや説明会に必ず出席して、指導を受けて下さい。所定の単位、成績を取得できない場合は実習を行うことができませんので注意して下さい。
- 履修登録期間中に履修変更する場合も、少なくとも2回目の講義には出席する必要があります。ただし科目によっては、1回目の講義から出席が必須なものがありますので注意して下さい。
- 単位履修をせずに授業を聴講することもできますが、通年4科目(上限)までとします。聴講を希望する場合は、担当教員の許可を得て、履修登録の際に聴講で入力して下さい。
出席・授業参加については、正規単位履修と同じく行わなければなりません。出席がかんばしくないと授業担当者が判断する場合、聴講を中止させることがあります。尚、途中から単位履修に変更することは、一切認められません。
- 8月・9月の集中講義科目の成績は、後期科目の成績と一緒にお知らせします。
- 9月卒業を希望している学生は、集中講義科目を含めずに前期科目で卒業出来るように履修を計画して下さい。

再履修について

すでに可以上の成績のついた科目を再履修する場合、再履修登録をした時点で、前の成績と単位は抹消され、成績証明書には、再履修時の成績と単位のみが残ります(再履修で不可となると前に修得した単位も消えてしまいますので十分に注意して下さい)。

不可がついた科目について

成績証明書には、不可がついた科目の記載はありません。

実習費や指導費が必要な科目について

学生納付金とは別に実習費や指導費がかかる科目及び費用、支払い方法については下表の通りです。

証紙は、必ず履修登録提出期間内に購入し、上部半分を切り取り、学籍番号、氏名を記入してポータルサイトより出力される専用の提出用紙に貼り付けて期日までに学生支援センターに提出して下さい。下部半分(領収書半分)は、氏名を記入し各自で保管して下さい。一旦登録した場合は取消が出来ず費用が発生しますのでご注意ください。

実習費や指導費が必要な科目	費 用	支払い方法
キリスト教音楽実技 (ピアノ・リードオルガン)	80,000円(通年)、40,000円(半期) (初年度、初回の履修は通年で登録)	券売機で証紙(教会音楽実技)購入
キリスト教音楽実技 (パイプオルガン)	100,000円(通年)、50,000円(半期) (初年度、初回の履修は通年で登録)	券売機で証紙(教会音楽実技)購入
ソーシャルワーク実習Ⅰ	40,000円	券売機で証紙(社会福祉実習)購入
ソーシャルワーク実習Ⅰ(新)	30,000円(2021年度以降入学者)	券売機で証紙(社会福祉実習)購入
ソーシャルワーク実習Ⅱ (3単位もの)	30,000円	券売機で証紙(社会福祉実習)購入
ソーシャルワーク実習Ⅱ(新) (4単位もの)	40,000円	券売機で証紙(社会福祉実習)購入
ソーシャルワーク現場体験実習	40,000円	券売機で証紙(社会福祉実習)購入
精神保健福祉実習	40,000円	券売機で証紙(社会福祉実習)購入
心理実習Ⅰ	20,000円	券売機で証紙(心理実習)購入
心理実習Ⅱ	20,000円	券売機で証紙(心理実習)購入

※この他に教材費がかかる科目がありますのでシラバスで確認して下さい(「野外活動とキャンピング」等)。

コンピュータ室(201教室)の利用について

パソコンを使って自習をする学生は、コンピュータ室(201教室)を利用して下さい。開室時間は、平日(月～金)9時から20時までです。新型コロナウイルス感染症のため、閉室や時間制限をすることがあります。利用方法は新学期オリエンテーション時や掲示、ポータルサイト等でお知らせします。

「キリスト教音楽実技(ピアノ、リード・オルガン、パイプ・オルガン)」の履修について

* 初めて「キリスト教音楽実技」を履修する学生は、通年科目での履修となります。「キリスト教音楽実技Ⅰ」として1年間で2単位を与えます。「キリスト教音楽実技Ⅰ」既習者は半年履修を認め「キリスト教音楽実技Ⅱ・Ⅲ」として1単位を与えます。

履修登録する場合、登録する科目は、下記を参照して下さい。

「キリスト教音楽実技Ⅰ」(2単位：通年)→初めて履修登録をする場合

「キリスト教音楽実技Ⅱ」(1単位：前期・後期)→2回目に履修登録する場合(前期・後期どちらかを選択)

「キリスト教音楽実技Ⅲ」(1単位：前期・後期)→3回目に履修登録する場合(前期・後期どちらかを選択)

＊「キリスト教音楽実技(ピアノ、リード・オルガン、パイプ・オルガン)」は4単位までを卒業に必要な単位として履修することができます。

「キリスト教音楽実技(ピアノ、リード・オルガン、パイプ・オルガン)」指導の目的

- 本学における「キリスト教音楽実技(ピアノ、リード・オルガン、パイプ・オルガン)」指導は、Beyer(バイエル)又は同程度教材をすでに修了している者を対象に、教会及び諸施設での礼拝その他に必要な音楽技術の習得のために行われます。
- 補助的に保育士試験合格準備のために行われます。

「キリスト教音楽実技(ピアノ、リード・オルガン、パイプ・オルガン)」指導の基本方針

本学は、音楽学校とは異なり、楽器機材の設備も極めて限られているので、ピアノ・オルガンの実技履修指導を次のような方針で行います。

- ① 初心者に対するピアノ、オルガンの初級実技指導は行わない。
- ② 「キリスト教音楽実技(ピアノ、リード・オルガン、パイプ・オルガン)」は Beyer(バイエル)又は同程度教材修了者を対象とする専門教育科目です。
- ③ 「キリスト教音楽実技(ピアノ、リード・オルガン、パイプ・オルガン)」の実技指導は、教会や諸施設での礼拝その他の奉仕に必要な音楽技術の習得を目的とする学生を優先して行います。
機材設備や時間割に余裕のある場合、特に希望者には保育士試験のための準備を兼ねる指導が行われる可能性もあります。
- ④ 「キリスト教音楽実技(ピアノ、リード・オルガン、パイプ・オルガン)」の実技履修は、4単位までとします。
但し、パイプ・オルガン技術習得を希望し教師が適当と認め許可した学生は、4単位を修得後も、聴講生(指導費は必要)としてその指導を引き続いて受けることができます。
- ⑤ 実技履修単位(2単位)取得のためには、以下の条件を満たさなければなりません。
前・後期各10回、計20回の実技指導(レッスン)を受け、レッスン外の練習を十分に行うこと。練習せずにレッスンに臨んだ場合は、欠席扱いとなります。
- ⑥ 履修者数は、ピアノ、リード・オルガン、パイプ・オルガンを合わせて35名を限度とし、原則として次の手続きを経て決定されます。

学年初めオリエンテーション時に、実技指導教員と個別に面接を行います。



実技指導教員は、上記の目的・条件や学生のこれまでの実技指導状況を考慮した上で、35名までの履修学生を決定します。



指導教員と面接をし、履修を許可された学生は、所定の実技履修のための WEB 履修登録を行って下さい。



実技指導費として以下の金額を納入して下さい(履修登録の際に券売機にて証紙を購入し、証紙提出票を学生支援センターに提出して下さい)。

ピアノ、リード・オルガン	80,000 円(年額)	40,000 円(半年)
パイプ・オルガン	100,000 円(年額)	50,000 円(半年)

＊練習室の利用は、本学「キリスト教音楽実技(ピアノ、リード・オルガン、パイプ・オルガン)」履修者のみ

楽器機材の設備が極めて限られているので、ピアノ・オルガン実技指導室兼練習室(113)、礼拝堂の楽器使用は、原則として、本学で「キリスト教音楽実技(ピアノ、リード・オルガン、パイプ・オルガン)」を履修し指導を受けている学生に限られます。

練習する場合は、学生支援センターに学生証を提示して教室のカギを借りて下さい。詳細は学生支援センター窓口にて各自確認して下さい。

チャペルオルガニストで登録する場合の指導費の扱いについて

本学入学後に初めてチャペルオルガニストになる者は、WEB履修登録で該当の科目を登録し学生支援センターに指導費をお支払い下さい。後日、承認が得られましたら指導費を返金いたします。

以前にチャペルオルガニストになったことがあり、再度チャペルオルガニストとして履修登録する者は、WEB履修登録で該当の科目を登録してWEBで打出された証紙提出票に「〇〇年度チャペルオルガニスト」と書いて学生支援センターに履修登録期間内に提出して下さい。指導費は、学生支援センターにお支払いいただく必要はありません。

東京神学大学、九州ルーテル学院大学との単位互換制度について

現在、本学は東京神学大学及び九州ルーテル学院大学との間で単位互換制度を設けています。以下に示す単位互換の対象となるそれぞれの大学の授業を受けて単位を修得すれば、これを本学の単位として認定するものです。対象科目、手続き等については以下の通りです。

1. 単位認定を認められている科目

東京神学大学 「ラテン語Ⅰ」「ラテン語Ⅱ」

九州ルーテル学院大学 「環境学」(遠隔授業となります。本学の「地球と宇宙Ⅰ」として単位認定します。)

2. 履修登録について

登録申込は本学の学生支援センターで受付けます。そして、学生支援センターから一括してそれぞれの大学に登録をします。登録申し込み用紙は本学の「履修登録用紙」とは異なりますので、履修希望者は学生支援センターへ申し出て下さい。

3. 履修について

それぞれの大学の授業に出席するわけですから、当該大学の学事暦、履修要項に従います。臨時休講や試験成績に関する指示は、各大学から直接履修学生に連絡されますので注意して下さい。また、東京神学大学の教務会掲示板も確認するようにしてください。

4. 単位取得、成績について

成績は学年末にまとめて、それぞれの大学教務課からルーテル学院大学学生支援センターへ報告されます。これを本学の該当科目として認定し、成績入力処理し成績通知をします。

定期試験・レポート提出

定期試験

1. 試験期間・試験時間

定期試験は前期・後期年2回、試験期間内に行われます。

試験時間は、基本的には試験期間中における、通常の授業と同じ曜日・講時で行われます。

2. 定期試験についての諸注意

- 試験日程(時間割)は、原則試験期間2週間前後にポータルサイトに掲示します。
- 試験教室は平常の授業の教室と異なる場合があるので、必ず各自確認して下さい。
- 試験日程・試験教室は、発表後に変更する場合がありますので試験当日まで常にポータルサイトに注意して下さい。
- 試験中は机上に学生証を提示することを定めているので、学生証を忘れた場合は必ず学生支援センターにて、学生証にかわる「試験受験許可証」受け取りの手続きをして下さい。ただし学生証が発行されていない場合は、受験資格がありませんので注意して下さい。
- 疾病その他事故により定期試験を受験できない場合は、事前又は事後速やかに学生支援センターに連絡して指示を受けて下さい。
- その他、別記「定期試験関係の規定」「定期試験受験要項」「定期試験における不正行為について」を熟読して下さい。

追試験

疾病その他やむを得ない事由により定期試験を受験できない場合は、試験前にすみやかに学生支援センターに連絡の上、必要書類(医師の診断書など欠席理由を証明するもの等)を添えて、上記事由が解決してから4日以内に学生支援センターに、「追試験願」とともに願い出て下さい。

教務委員会の審査を経て、当該科目の追試験受験を許可された者には、大学の指定した期日に追試験を行います。

尚、本人の不注意による未受験はいかなる場合も追試験を行いませんので、十分注意して下さい。

- 原則として、当該年度を越えて追試験はできません。
- 詳細は、別記の「定期試験関係の規定」を参照して下さい。

再試験

定期試験を受験し、不合格であった者に対して担当教員の判断により再試験を実施することがあります。成績が「不可」となった者に必ず再試験が実施されるわけではありません。再試験を実施する科目及び対象者は、学生支援センター又は担当教員より掲示でのみ告知します。受験を希望する者は、再試験前に「再試験願」に必要事項を記入の上、「再試験受験料」(証紙支払い)を添付して学生支援センターに願い出て下さい。

〔受験料 1科目につき1,000円〕

- 再試験は1回限りとし、その評価は点数に80%を乗じたものとします。
- 原則として、当該年度を越えて再試験はできません。

○詳細は、別記の「定期試験関係の規定」を参照して下さい。

レポート提出

筆記試験に代えて課せられたレポートは、その提出に際して下記の点に注意して下さい。

遠隔授業実施時は、新型コロナウイルス感染防止のため窓口でのレポート受付は行っていません。担当教員、学生支援センター等の指示に従い、メールや課題提出システム等での提出となります。

- レポート課題・提出期限等は、原則試験期間2週間前にポータルサイトでお知らせします。
- レポートの提出は、定められた提出期間中における提出期限日時までに提出して下さい。
- 提出期限を過ぎたものは正当な理由のないかぎり学生支援センターでは一切受け付けません。
- コンピュータ、プリンタ、コピー機、データの故障や順番待ち等により、提出期限を過ぎることは正当な理由にはならないので一切認められません。また学生支援センターでプリントアウト等の対応はいたしません。早めの準備やバックアップを各自の責任で行って下さい。
- 担当教員、学生支援センター等の指示により、学生支援センター窓口でレポートを提出する場合があります。レポート提出票に必要事項を記入の上、レポートとともに提出してください。
- 担当教員、学生支援センター等の指示以外の提出方法で提出した場合は、いかなる理由であっても学生支援センターでは一切受け付けません。
- レポート試験についても不正行為があった場合は通常の試験における不正行為に準じた処分を行います。

◎提出期限に遅れた場合

- 正当な理由(それを証明する書面〔診断書等〕)があれば追試験と同様の扱いで受け付けます。すみやかに学生支援センターに連絡し、指示を受けて下さい。
- 正当な理由がない場合、原則受け付けができません。ただし担当教員が特別に許可した場合に限り、再試験扱いで受け付ける場合があります。

(評価は点数に80%を乗じたもの 再試験料1,000円)

定期試験受験要領

担当教員の特別の指示がある場合を除き、定期試験は以下の要領で行う。

1. 縦の列は前席者の真後ろに座り、横の列は一人おきに着席する。
2. 前列より詰めて着席し、後列席に固まらないようにする。
3. 筆記具を除き、持ち込みの認められているテキスト・文献類以外は机の上に置かず、他の持ち物は鞆に詰めて足下に置く。
4. 机上に学生証を置くこと。
5. 試験開始後20分を過ぎたら、試験の受験を認めない。
6. 試験開始後30分を経過するまで、退席を認めない。
7. 解答用紙は試験監督者に提出して退席する。
8. 受験中は私語をせず、他の学生の迷惑になる行為は厳に慎む。
9. 携帯電話、スマートフォンの電源を切り、机上に置かないこと(時計、計算機としての使用も認めない)。
10. 質問があるときは、挙手で試験監督に申し出る。
11. 受験者数によっては、複数の教室を準備し、あらかじめ受験会場を指定するので、試験に関する掲示をよく見ること。
12. 試験時間は60分・90分以内を原則とし、担当教員がこれを指定する。障害学生については試験時間内の延長を認めることがある。

定期試験における不正行為について

- 定期試験における座席の位置については、入学試験に準じて不正行為の起こらないように準備されるが、万一不正行為が起こった場合、不正行為に関係した学生全員が厳しい処分の対象となる。不正行為に対する処分については、定期試験前に公に掲示し、注意が喚起される。
- 詳細は後述の「処分規則」を参照のこと。

成績評価・成績通知



単位認定について

単位認定は、試験あるいはそれに代わる方法で行います。
規定の時間数以上欠席した科目については、単位認定を行いません。
単位認定の基準は、以下のとおりです。

- 秀 (100～90点)
- 優 (89～80点)
- 良 (79～70点)
- 可 (69～60点)以上合格
- 不可 (59～ 0点)不合格

学年について

大学での履修は厳密に学年次によっているわけではありませんが、次のような場合は、単に履修指導としてだけでなく、学年の編成にも影響し、同年次の学習を2度することを求められることがあります。

- 本学では、1、2、3年次に1年間に20単位以上の履修を求めており、また、GPA が1.0未満の場合、原級留置(留年)とすることを方針としている。
- 1年次で、語学単位及び1年次必修科目単位をほとんど取得できないような場合。
- 必修科目、選択必修科目の履修や、累積の単位数が、進級予定の学年に不足すると教務委員会が判断する場合。

進路の再考について

2年間で合わせて30単位未満しか単位取得ができなかった場合は、成業の見込みのない者として進路の変更を求める場合があります。

尚、事前に教務委員会よりお知らせします。

卒業について

休学期間を除き、4年以上在学し所定の単位を修得した者には、卒業判定教授会の議を経て卒業を認定し、学士(総合人間学)の学位を授与します。年度末に卒業要件を満たしている場合は、卒業が認定され卒業を延期することはありません。

卒業確定者の氏名は、卒業判定教授会の翌日10時(予定)に掲示で発表します。

成績通知について

各学年次修了後成績がまとまり次第(3月下旬頃)、成績を保護者・保証人宛に通知します。

本人には次年度4月の在校生オリエンテーション時、前期終了科目についても、後期授業開始前にポータルサイトから通知します。

4年次学生については、卒業式オリエンテーション時に「成績通知書」をお渡しします。

尚、成績通知書は一度しか配付しませんので大切に保管して下さい。

成績に疑義がある場合は、「成績確認願」を指定の期日までに学生支援センター窓口に提出してください。成績確認ができるのは、成績の誤記入等担当教員の誤りと思われること、またはシラバスの成績評価方法に照らして疑義がある場合です。成績評価への特別な配慮を求めるような内容は受け付けません。

学籍について



休学、復学、退学などで学籍に変更が出る場合は、事前にコース主任と相談の上、学生支援センターに申し出て所定の手続きを取って下さい。毎月の手続き期間を過ぎると、次月扱いとなり学生納付金等に影響しますのでご注意ください。

休学(学則第31条・第36条参照)

疾病、その他やむを得ない事由により、満2カ月以上欠席しようとする時は、その事実を証明する書面(診断書等)を添え、保証人の連署の上、「休学願」を提出し、教授会の議を経て休学することができます。

尚、その際コース主任の面談を受けてから手続きして下さい。

〔休学期間〕

- 連続3年、通算4年を越えることはできません。
- 休学期間は在学年数に含まれません。

〔休学在籍料〕

- 150,000円(年額)
- 前期又は後期のみの場合……75,000円
- 学期途中の休学の場合

休学開始日前日の属する月までの学生納付金を月割りで納め、休学期間中は月割りで休学在籍料を納めて下さい。

休学開始日は原則として届出日の翌月1日付けとなりますので十分に考慮されましたら速やかに手続きして下さい。

但し、前期7月1日、後期1月1日以降の届出については、翌学期からの休学となります。

復学(学則第31条参照)

休学の事由がなくなった時は、保証人の連署の上、「復学願」を提出し、教授会の議を経て復学することができます。

休学期間中であっても、その事由がなくなったときは、届け出て復学することができます。疾病等の場合は、復学にあたり、医師の診断書等が必要となる場合があります。

復学にあたり、不安等がある場合は、復学前相談ができますので、学生支援センターまで、お申し出下さい。

退学(学則第32条・第36条参照)

疾病、その他の事由により退学しようとする時は、医師の診断書その他事由を明らかにした書面を添え、保証人の連署の上、「退学願」を提出し、教授会の議を経て退学することができます。

尚、その際、コース主任の面談を受けてから手続きして下さい。

退学日は原則として届出日の月末付けとなりますので十分に考慮されましたら速やかに手続きして下さい。手続きの締切を過ぎると次月扱いとなり、その分の学生納入金が発生します。学期途中での退学は、前期は6月末、後期は12月末までに届出て下さい。それ以降は、学期末付けの退学となります。

除 籍(学則第34条参照)

次に該当する者は、教授会の議を経て除籍となります(学生納付金を納めた期間の単位を認めます)。

- 学生納付金の納入を怠り、催告を受けてもなお納付しない者
- 規定在学年数を超えた者
- 規定休学期間を越えてなお就学できない者
- 長期間にわたり行方不明な者(大学からの連絡に応答が無い状況の場合もこれに該当します)

コース選択と資格取得について

コース選択は、基本的に学生の主体的な選択によって決定されます。本学での学びと将来の進路、また資格取得に関わるものと理解して下さい。学生は、入学時・履修登録時・前期終了時・後期終了時にコース選択と履修のための面接・相談を行い、2年次進級までにコースを決定します。すなわち、入学時にすでに希望を確認しているが、入学後のオリエンテーション時のコース説明、及び資格取得等に関するガイダンスを受けること、また初年度前期・後期終了時の面接・相談を通しコース決定について熟考し、2年次進級までにコース決定をします。

ただし、学生は1年次においてもそれぞれ入門的な専門科目を履修することができ、また1年次後期には、各専門分野の入門ゼミ(フレッシュマン・ゼミ)を履修することが勧められます。そのため前期終了時に最終的なコース決定に至らない場合でも、おおそ自分の希望する専門分野を選択することが望ましいです。

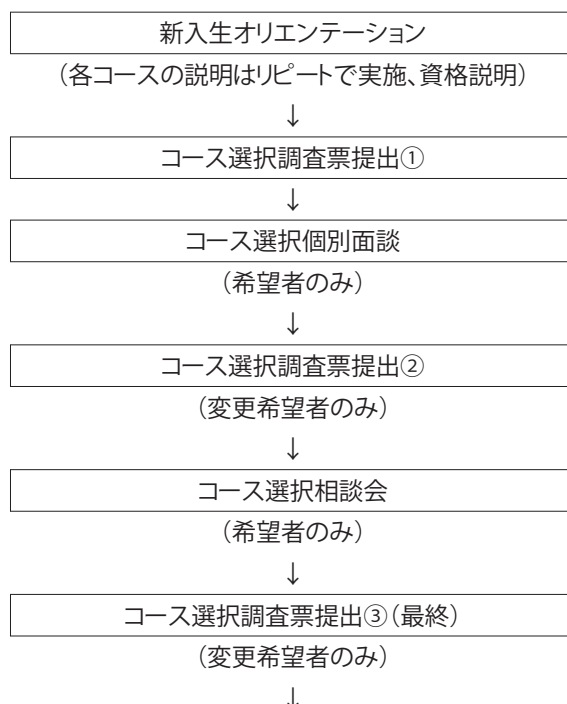
もちろん、2年次以降も学年進行に伴い、その履修状況や、本人の適性、および進路希望などを確認しつつ、コースの変更も可能な場合があります。

各種の資格取得に関しては、登録されたコースによらずに、必要な単位取得をもって可能ですが、資格によってはそれにふさわしいコースがあるので、よく説明を聞き、必要ならコース教員に相談をして下さい。

各コースのコース主任・副主任が履修等のガイダンス、および学生との面接・相談を行います。

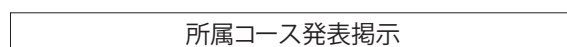
2022年度 コース選択スケジュール

1年次



2年次

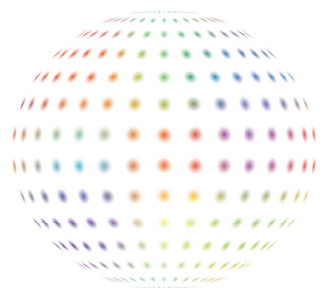
4月



以後、転コース希望者は所属及び変更希望のコース主任と相談の上、変更が可能な場合がある(年度途中での変更は原則できません)。

II

履修概要



総合人間学部・人間福祉心理学科

1 学科の由来

- ・ 従来展開してきたキリスト教・社会福祉・臨床心理、三つの学科を統合し学際的な学びを可能とします。
- ・ 対人援助の現場の多様なニーズ、包括的人間理解の必要性に応えます。
- ・ 具体的なキャリアを目指した履修の実現を目指します。

2 教育目標

人間を魂と心と生活、家族や地域社会と関わる存在として総合的に理解し、対人援助に関わる高度専門職業人としての基礎を培います。学生は、「キリストの心を心とする」愛に根ざした対人援助に関わる専門職、社会人を養成します。

3 教育の特色

次の五つをもって、本学科の特色とします。

① 人間の総合的・包括的理解と対人援助の基礎的素養

キリスト教の人間理解と世界への洞察を軸として、人間存在を包括的・総合的に理解し、対人援助専門職として求められる福祉や心理の基礎、また主要な知識と技術を身につけます。

② 「いのち」の問題への理解

特に今日の「いのち」を巡る諸問題を探究する力と人間の尊厳を重んじる心を涵養し、他者との関係性に生きること、および、その倫理についての理解を身につけます。

③ 実践的教育

対人援助のための具体的価値と知識と技術においては、社会福祉と臨床心理の専門分野の教育研究、特に実習教育の実績を生かし、学生の必要に合わせて、職業倫理の取得、実践力・応用力を養います。特色 GP にも採択された包括的実習指導教育システムの実績をさらに展開させ、学生が教室で学ぶことと現場で体験することとを結び合わせ、具体的な問題を深く捉え、解決する力を養成します。

④ 総合人間学としての総合演習

キリスト教人間学や社会福祉、臨床心理といった各分野を総合し、学際的な研究と教育を実現し、学生一人ひとりの課題や希望に基づく総合的演習を可能にします。全人的ケアを行う対人援助のための課題の把握と探究する取り組み、問題解決のための実践的力の養成を実現します。

⑤ 具体的なキャリア形成

「総合人間学」としての学びを、具体的な働き(キャリア)に結びつけながら、資格取得も含めて、実質的な具体的な人材像を目指し、学びを深めていきます。

そのため、学生は各自がコース選択を行い、コースの履修モデルに基づく履修のための相談・指導を得られます。

4 卒業要件

学則に定める、必修、選択必修の取得を含め、教養科目 30 単位以上、専門科目 72 単位以上、合計 124 単位以上の単位取得によって卒業とします。

A 教養科目

教養

教養教育の理念と方法

教養主任 原 島 博

大学での学びとは

大学生活は、皆さんの人生のうちでもっとも成長する4年間であると思います。自分という個性を見つめたり発見したりする期間であり、その個性に磨きをかける時です。社会に大きく目が開かれる時でもあります。おそらく高校までは、同郷の同じ文化圏の友人たちと一緒に学んできたと思いますが、大学には全国から学生が集まってきます。日本の中にも異なる文化があることを身をもって知り、自己の再発見のきっかけになるかもしれません。海外へ行ってカルチャーショックを受けるかもしれません。一方、同じ専門分野を学ぼうとする友、志を同じくする者が一堂に集まる場所でもあります。夢や悩みを深いところで共有しながら切磋琢磨することができる場がここにあります。

高校までの学びは、理解力と暗記力が中心でしたが、大学の学びは、筆記試験の○×解答で答えられるものばかりではありません。正しい答えが幾つもある問題を考えたり、誰も解くことのできない難問を扱うこともあります。大学では、いろいろなことに興味をもって自主的に学んで欲しいと思います。専門性を高めるとともに、自分の知識のすそ野を広げて欲しいのです。その中で、「自分の頭で考える力」、「疑問をもつ力」、「批判的思考力」を鍛えます。「善悪や真偽を的確に判断する力」を養います。難問や失敗から学ぶことも多くあります。このような経験を通して、広い視野に立った「問題解決能力」が身についていく……ことを期待しているのです。

大学の授業は、受講する科目は必修科目も選択科目も自分で選択し、学期初めの指定期間中に履修登録する必要があります。また、卒業するためには、最低限必要な取得単位数が決まっています。履修の順序が決まっている科目もあります。授業の前後には予習復習が不可欠です。したがってこれらのことを考慮しながら、自分に合った履修計画を立てることが大切です。

教養教育の理念

本学の教養教育課程は、「生命について深く学び、生きる力を体得する教育」を基本理念としています。私たちは様々な環境が複合的に重なり合う中で生活していますが、「生きる力」とは、生命について深く知ることであり、生命を取り巻く様々な環境の特性を理解し、これら環境との間のコミュニケーション力を高める知性を身に付けることであると考えています。

そこで、カリキュラムは、(1)生命、(2)環境、(3)コミュニケーションの3分野を軸として構成されています。開講されている科目は、以下の「履修モデルと教育方法の原則」で紹介していますので、科目の設置の意図、科目と科目の間の関係等を十分理解して履修することが大切です。

また、ここで提供される科目群は、人間福祉心理学科の専門教育の基礎となるだけでなく、5コースの専門性をより深め、発展させる力を養う応用的側面や学際的要素ももっていますので、1～2年生だけでなく、4年間に渡って学ぶよう履修計画を立てるとよいでしょう。

履修モデルと教育方法の原則

1. 教養カリキュラムの3分野と相互関係

カリキュラムを構成する3分野、生命、環境、コミュニケーションの関係は、下記のようになります。各々の分野を構成する科目群については、履修モデル表：教養科目(38～39頁)を参照してください。

(1) 生命分野

生命分野は、①基礎と②健康の2つに区分されます。基礎科目では、先ず、必修の「総合人間学」があります。「ヒトとは何か」、「人間性とは何か」という大きなテーマについて、自然科学、社会科学、人文科学の専門領域を代表する専任教員が複数で関わり「人間という生命」を総合的に考えます。

キリスト教の入門科目としては、前期の「キリスト教概論Ⅰ」、後期の「聖書を読む」が必修です。ここではキリスト教を通じた世界観、人間観、倫理観の学びが、みなさんの豊かな人間性の形成に役立つことを期待しています。

「現代生命科学Ⅰ－Ⅱ」は、自然科学的な生命観や生物の多様性とそれらを育む生態系に関する基本概念、地球環境問題と共生社会等について学びます。数少ない自然科学系の基礎科目ですので、5コースともに履修をお勧めします。

さらに、健康科目では、身体を健康を運動と理論の両面から学ぶ「スポーツと健康」を用意しています。健康な身体に、健全な精神が宿るといわれています。健康管理の基礎を学び、今後の人生の過ごし方をより充実したものにしましょう。

(2) 環境分野

環境分野は、①自然環境、②社会環境、③文化環境の3つに区分されます。「生命」あるいは「人間」はこれらの環境に取り囲まれて生きています。「生きる力」の修得とは、これらの質的に異なる環境を深く理解することであり、またこれら環境との間のコミュニケーション能力を高め、柔軟な対応力を身に付けることであります。

自然環境科目としては、「環境学」で自然環境について学びます。(九州ルーテル学院大学との単位互換科目)

社会環境科目としては、必修の「心理学」と「社会福祉原論Ⅰ」のほか、「社会学」、「憲法・法学」、「中世史との対話/近世史との対話」等を用意し、人間社会の成り立ちや社会生活を理解するための基本理念を学びます。

文化環境科目としては、「教養としての哲学」、「哲学と論理」、「教育学」、「音楽の基礎」、「音楽の実際」を用意し、芸術や哲学的思考、教育といった分野の文化的素養を高めます。

(3) コミュニケーション分野

コミュニケーション分野は、①基礎、②情報処理、③語学の3つに区分されます。基礎科目では、先ず「コミュニケーションの演習」があります。大学生としてのコミュニケーションの基本として、上手な話(講義)の聞き方、文章・レポートの書き方、スピーチやグループ研究/発想法、考えをまとめる技術等を学びます。選択科目扱いですが、新入生は必ず受講するようにして下さい。

さらに、2～4年次には就職にそなえるコミュニケーション技術を学ぶ「キャリアデザイン基礎・実践」があります。

情報処理科目では、「コンピュータ入門Ⅰ－Ⅱ」の2つの授業で、パソコンの基礎知識と基本的な操作技術を身につけます。基本的には、文書や表計算の作成に必要な基礎的能力を養います。レポート課題や卒業論文などの作成のために必要なワードの基本操作を習得し、また、エクセルを使った表計算とグラフ作成ができるようになります。

教養としての語学科目は、英語、ドイツ語、さらに留学生のための「日本語特講」を用意しています。将来のために語学力を高めようとする学生や海外研修を考えている学生は、前もって必要な語学を履修しておくといでしょう。

中でも英語教育は、極めて充実した内容をもっています。生きた英語を効果的に身につけるために、native

speaker の英語教育研究者がチームを組んで英語総合学習プログラムを実施しています。Speaking/Listening、Reading、Grammar、Writing、総合科目の5つのカテゴリに対して、学生のレベルに合わせて、基礎、応用、上級のコースを選択できるようになっています。基礎からしっかり学びたい人、得意な英語をさらに伸ばしたい人、留学したい人、英語力を生かして通訳や翻訳をやりたい人、多くのニーズに応えるプログラムがあります。海外研修や留学などで学習の大きな成果が認められています。

2. 講義／自習／体験学習で実力アップ

教育の場として、①講義、②自習（図書館、コンピュータ室）、③体験学習を用意し、3者の有機的なつながりを通して教育の効果を上げることを目指しています。

勉強は教室の中だけではありません。講義では、推薦図書が紹介されたり、レポートなどの課題の提出がしばしば要求されます。図書館は、専門書の宝庫です。書庫へ行って、興味ある分野の専門書の背表紙を見るだけでも勉強になります。コンピュータ室は自習用に開放されていますので、インターネットで課題について調べることもあります。野外体験や見学が含まれる科目もあります。

それぞれの教育の場では、対話的な方法を様々なかたちで創意工夫し、学生との相互作用により教育環境の向上を図ります。

3. 基本的な学問研究の力

教養プログラム全体の中で目指していることは、学生の皆さんが、個別の学問領域と学際的研究に対する基本的な学問研究の力を身につけていくということです。本学では、基本的な学問研究の力とは、①適切な疑問をもつ力、②自分で考え、表現・発信する力、と考えています。

教養科目の構成・単位数・履修年次（目安）等については、2023年度開講科目表（108～115頁）を参照のこと。

履修モデルについて

1. 履修は、学生各自の目的、関心に応じて

- (1) 履修は、基本的に自分の責任で選択し、実施していきます。そのために、大きな枠を決めるだけで、必修は少なくなっています。
- (2) 履修の決定に当たっては、各自がこの「講義概要」をよく読み理解することから始めることが求められています。講義内容だけでなく、必修・選択の区別、履修学年の目安、科目による履修の順序等を考えて履修科目を決定することが必要です。必修や1年次に設定されている科目については初年度に優先して履修します。
- (3) 履修モデル表には、開講されている教養科目の履修学年の目安が示されています。1～2年次の履修が勧められている科目は、専門科目を学ぶ上での基礎科目となるものです。これらを参考に、履修の優先順位、効果的な履修の順序を決めていきます。年間に履修できる教養と専門科目の合計単位数は最高48単位と決められていますので、4年間を通した履修計画も視野に入れておくといよいでしょう。
- (4) 教養科目は、専門に限らず、その専門職に広い視野を持てるようにと開講されています。他の学問領域から異なる視点を得て、学際的（異なる学問領域にわたる）能力を培って下さい。
- (5) 社会福祉士国家試験・精神保健福祉士国家試験等の受験を目指している場合は、それぞれに必要な教養科目が定められていますので、必要な科目の履修もれがないように注意が必要です。

2. 卒業に必要な教養科目単位と他の単位

限られた数の必修単位を含んで、卒業のためには次のような単位を履修することが基本的に必要です。

教養科目 30単位以上
 専門科目 72単位以上
 教養科目・専門科目から22単位以上
 合 計 124単位以上

3. 教養科目の必修科目と必修単位数 [卒業要件]

教養科目のうち必修として履修しなければならない科目と単位数は、次の必修6科目12単位と英語5科目の中から選択必修として履修しなければならない1～2科目2単位です。さらに、これら必修14単位に加えて、選択必修と選択教養科目の中から16単位以上を履修し、教養科目合計が30単位以上となることが卒業要件です。

(1) 必修6科目12単位[配当年次 1年]

「総合人間学」(前期：2単位)
 「キリスト教概論Ⅰ」(前期：2単位)
 「聖書を読む」(後期：2単位)
 「社会福祉原論Ⅰ」(前期：2単位)
 「心理学」(前期：2単位)
 「コミュニケーションの演習」(前期・後期：2単位) ※前後期リポート授業、指定された開講期で履修すること

(2) 英語選択必修2単位[配当年次 1～4年]

(以下の英語5科目の中から2単位分が必修)

「英語 Reading」(前期：2単位)
 「英語 Speaking / Listening」(前期：2単位)
 「英語 Writing / Grammar」(前期：2単位)
 「英語 Speaking / Listening 演習」(前期：2単位)
 「英語特別演習(Independent Study)」(1単位) ※上級者向けであるため、履修については担当教員と要相談

(3) 教養科目合計が30単位以上

(1)と(2)の必修単位を含めて、教養科目の単位合計が30単位以上が卒業要件となります。

社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師国家試験等の受験を目指している場合は、それぞれ履修すべき教養科目が定められているので、注意して下さい。

履修モデル表：教養科目(1) (◎)：必修科目 (○)：選択必修科目

分野	1 年次履修科目	2 年次履修科目	3 年次履修科目	4 年次履修科目
生命科学	△総合人間学(◎) △キリスト教概論Ⅰ(◎) ▼キリスト教概論Ⅱ ▼聖書を読む(◎)			
	△現代生命科学Ⅰ ▼現代生命科学Ⅱ (2023 年度を最後に閉講) [1～4 年次]			
健康	△スポーツと健康(体育実技を含む) A ▼スポーツと健康(体育実技を含む) B			
環境	△地球と宇宙Ⅰ(▼「環境学」(九州リリーサル学院大学との単位互換科目)) [1～4 年次]			
社会	△中世史との対話 ▼近世史との対話 △憲法 ▼法学 △社会学 ▼社会学Ⅱ △心理学(◎) ▼心理学概論 △社会福祉原論Ⅰ(◎) ▼社会福祉原論Ⅱ	[1～2 年次]		
文化	△教養としての哲学 ▼哲学と論理 △教育学 △音楽の基礎 ▼音楽の実際	[1～2 年次]		

分野	1 年次履修科目		2 年次履修科目		3 年次履修科目		4 年次履修科目	
	コミュニケーション		基礎		情報処理		語学	
コミュニケーション	△・▼コミュニケーションの演習(◎)							
	△視覚障害者 PC 入門		[1～4 年次]					
	△英語 Reading (○)		△英語 Speaking/Listening 演習 (○)		[2～3 年次]			
	△英語 Speaking/Listening (○) △英語 Writing/Grammar (○)		□英語特別演習 (Independent Study) (○)		[2～4 年次]			
学	△ドイツ語初級 I ▼ドイツ語初級 II		△ドイツ語講読 I (2023 年度を最後に閉講) ▼ドイツ語講読 II					
	△日本語特講 (留学生) I ▼日本語特講 (留学生) II		[1～2 年次]					

B 専 門 科 目

キリスト教の人間理解に基づく他者援助専門職養成のために

①総合人間学コア科目群

総合人間学部、人間福祉心理学科での専門教育として、包括的・総合的人間理解と他者援助に関わる人材育成のために中心となるキリスト教、社会福祉、臨床心理の各領域から基礎的科目(全20科目40単位)をコア科目群として、そこから4科目8単位を選択必修として2・3年次の間に取得する。

②総合人間学キリスト教といのち科目群

「総合人間学」における包括的人間理解に関わって、キリスト教的人間理解といのちに関する理解を深めるためにキリスト教といのち科目群(全8科目16単位)を置き、その中から2科目4単位を選択必修として1年次から4年次までの間に取得する。

③総合人間学国際プログラム科目群(2018年度入学者以降対象)

国際的な視点をしっかりと持ち、グローバル市民としての自覚を深め、他文化を理解し、国際社会に積極的に参加していく人材を養成する。実践的な知識と技術等を修得するため、海外インターンシップ、海外研修を行う。

④総合人間学外国語原典講読科目群

それぞれの専門領域における原典を講読、及びそのための語学力養成を目指し、専門的学びを深めるための科目を提供する。専門用語の知識や海外での研究にも学びつつ、大学院や神学校などの進学に向けた語学力を身につける。

⑤総合人間学総合演習科目群

1年次における各専門分野の入門ゼミ、2～3年次におけるキャリア形成のための演習、卒業に向かうまとめの段階における総合演習科目。

1年次より各自の関心のあるテーマ・課題について考察、ディスカッションを重ねることにより、自ら学習、研究していく力を養う。

キャリア教育の基礎的科目(1科目2単位)を選択必修として2・3年次の間に取得する。(2018年度以降入学者、社会人、編入学生も該当します)

本学の全教員を担当教員とする総合演習科目を3年後期から4年次の選択必修科目とし、総合人間学の学びをそれぞれが主体的に学びのうちに統合する。

学生のニーズや課題によって、異なる専門領域から複数の指導を受けることを可能とする。

全体的・包括的人間理解の上に立つ研究の視点と実現を支援する。

⑥総合人間学総合実践科目群

本学での学びと具体的な他者支援や社会での働きの現場を結び、理論から実践へ、実践から理論へと有機的連携を行い、実践的力を養成する実習、国内インターンシップを行う。

教員と現場実習指導者と学生が綿密な連絡と振り返りを実現するルーテルの実習教育の実績を生かして、大学での学びを現場と統合し、より実践的な知識と技術等を修得する。

⑦総合人間学キャリア形成専門科目群

学生が将来のキャリアを目指し、専門的な学びを深めていく。

「キリスト教人間科目系」「福祉相談援助科目系」「地域福祉開発科目系」「子ども支援科目系」「臨床心理科目系」の科目群から自由に主体的に学ぶ。

資格取得など具体的なキャリア形成を目指す。

C コースと履修モデル

学生が自らの希望を生かし、適性や将来の進路を考えてカリキュラム履修及び資格取得を目指し、具体的キャリア形成を実現するためにコース制をもって、これを支援する。学生は、2年次進級までに以下のコースのいずれかを選択する。

(次ページ以降を参照のこと)

キリスト教人間学コース

コースの目標：

「人間、特に生と死、また宗教的事柄に深い理解を持ち、対人援助を行う人材」の養成を行います。

コース説明：

人間の総合的・包括的理解に立って、他者援助を行う人材を養成することを目的とする本学の教育・研究の中で、特に「魂」や、スピリチュアルな課題、宗教的な事柄についての理解を深め、人間とその「いのち」の問題を探究するコースです。

現代社会は多様な文化・宗教・価値観をもつ人々が共生する社会です。現代の国際社会を生きていくためにも、文化・宗教についての理解は不可欠といえるでしょう。本コースでは、日本におけるキリスト教のあるべき姿を探究しつつ、世界の文化・宗教を併せて学び、人間理解を深めます。

福祉の現場、臨床心理・カウンセリングの現場においても、「生と死」の問題に直面している方や、その家族を支えていくケースは少なくありません。現代のように高度な科学・技術社会においてこそ、「いのち」への課題は大きくなっているといえるでしょう。

キリスト教人間学コースではキリスト教を中心に宗教・文化・芸術のなかに表される人間の魂の深みについて理解を深め、また「いのち学」として、現代の様々な「生と死」をめぐる問題を探究していきます。

本学は、牧師を養成する大学・神学校としての神学研究・教育の伝統を持っていますが、その蓄積を生かして、キリスト教世界のみならず、現代のスピリチュアリティの課題、魂の問題に向かい合っていきます。

資格：「宗教文化士」(民間資格)の取得のための受験資格を得るのに最も適したコースです。

進路：

将来、キリスト教会や教会関連の施設、あるいは病院やホスピス、福祉施設などで、また冠婚葬祭業(ブライダルプランナー、葬送ディレクター)や他の一般企業で人生に深く関わるような現場での対人援助を行う人材としての進路を目指し、学んでいただけます。

牧師を目指す場合には、さらにそれぞれの教派神学校への進学準備をいたします。

人間、特に生と死、また宗教的事柄に深い理解を持ち、他者援助を行う人材向け履修モデル

学年	教養科目		総合人間学専門科目						単位 数
	必修	選択	コア科目群	キリスト教といのち科目群	外国語原典講読/ 国際プログラム科目群	総合演習科目群	実践科目群	キャリア形成科目群	
1 年 前 期	総合人間学 キリスト教概論Ⅰ 社会福祉原論Ⅰ 心理学 コミュニケーションの 演習	ドイツ語初級Ⅰ ※1 現代生命科学Ⅰ 英語 Speaking/Listening					文化史		毎学年最低20単位以上、最高48単位以下の履修が必要
1 年 後 期	聖書を読む	キリスト教概論Ⅱ ドイツ語初級Ⅱ ※1 現代生命科学Ⅱ		いのち学序説		キリスト教フレッシュ マンゼミ		社会福祉入門	
2 年 前 期					ギリシア語Ⅰ	キリスト教特講ゼミⅠ キャリアデザイン基 礎	食といのちと環境Ⅰ	社会福祉と国際問題	
2 年 後 期					ギリシア語Ⅱ				
3 年 前 期			キリスト教の人間観Ⅰ ※2 カウンセリング実技 の基本	人間・いのち・世界Ⅰ 人間の尊厳と人権	新約聖書原典講読		キリスト教の歴史Ⅰ	高齢者福祉の諸問題 こどもと教育	
3 年 後 期			キリスト教の人間観Ⅱ ※2 発達心理学	人間・いのち・世界Ⅱ キリスト教の倫理	多文化ソーシャル ワーク	卒業演習Ⅰ	旧約聖書の人間観 聖書に見るジェン ダー 比較文化論		
4 年 前 期						卒業演習Ⅱ 卒業論文	キリスト教の信仰 日本における死生学	野外活動とキャンピ ング 青年心理学 (閉講)	
4 年 後 期						卒業論文	キリスト教と死生学 キリスト教カウンセリ ング	ターミナルケアとグ リーフワーク	
単位数	12単位	18単位以上	8単位以上	コア科目群8単位を含めて72単位以上					124

無印は2単位 ※1は1単位 ※2 2023年度を最後に閉講

キリスト教特講ゼミⅠ～Ⅲを履修する場合は担当教員およびコース主任と必ず相談すること。

福祉相談援助コース

コースの目標：

「福祉、特に障がい、高齢、医療、司法等の分野で相談援助の専門職(ソーシャルワーカー)として活躍する人材」の養成を行います。

コース説明：

人間の総合的・包括的理解に立って、他者援助を行う人材を養成することを目的とする本学の中で、特に社会福祉の領域における、相談援助(ソーシャルワーク)の学びを深めるコースです。

現代社会では、貧困、被虐待、犯罪の繰り返し、障がいや病気などの課題をかかえ、社会から排除されたり、生活上の困難を抱えたりする人がいます。そのような人々の権利をまもり、生活を支援する、相談援助の専門職への期待が大きくなっています。そこで、本コースでは、保健・医療・教育分野等の専門職と連携・協働しながら、一人ひとりの意思と希望を尊重し、人権を守り、生活の質を向上させるための、相談援助の専門職(ソーシャルワーカー)としての価値・知識・技術を身につけます。

本学の社会福祉教育は1976年より開始され、国家資格創設時(社会福祉士：1987年)より、受験資格が取得できるカリキュラムを提供してきました。社会福祉の実習指導教育は、文部科学省の特色 GP プログラムに選定された実績もあります。

学部卒業後、地域で相談援助の専門職としての仕事に従事できるよう、実践的な講義、演習と十全なサポート体制による実習指導を提供します。

資格：

「社会福祉士(国家資格)」の取得のための受験資格を得るのに適したコースです。社会福祉主事(国家資格・任用資格)も取得できます。

進路：

将来、病院(総合病院)の相談室、障がい者の生活支援、就労継続や就労移行支援事業所、地域の福祉分野の相談機関、司法分野(保護観察所や刑務所)、教育分野などにおける相談援助の専門職(ソーシャルワーカー)として活躍する人材を目指して学んでいただけます。

また、現場での実践経験などを経て大学院へ進学し、教育・研究職に従事する人も養成します。

福祉分野で相談援助の専門職として活躍する人材向け履修モデル
①2021年度以降1年次入学者及び2022年度以降2年次入学者用

学 年	教養科目		総合人間学専門科目						単 位 数	
	必修	選択	コア科目群	キリスト教といのち科目群	外国語原典講読/ 国際プログラム科目群	総合演習科目群	実践科目群	キャリア形成科目群		
1 年 前 期	総合人間学 キリスト教概論 社会福祉原論Ⅰ 心理学 コミュニケーションの演習	憲法 スポーツと健康 A 社会学 英語 Speaking/Listening				ソーシャルワーク演習Ⅰ			40	
1 年 後 期	聖書を読む	キリスト教概論Ⅱ 社会福祉原論Ⅱ 心理学概論 社会学Ⅱ		いのち学序説		ソーシャルワーク演習Ⅱ		社会福祉入門 権利擁護と成年後見 制度		精神保健
2 年 前 期			社会福祉の基礎 ソーシャルワーク論Ⅰ 地域福祉論Ⅰ 社会保健論Ⅰ 児童福祉の諸問題 カウンセリング実技の 基本			ソーシャルワーク演習Ⅲ	ソーシャルワーク実 習Ⅰ ※3 ソーシャルワーク実 習指導Ⅰ	人体の構造と機能及 び疾病	43	
2 年 後 期			ソーシャルワーク論Ⅱ				ソーシャルワーク実 習指導Ⅱ	ソーシャルワーク論Ⅲ 高齢者福祉論 障害者福祉論 児童・家庭福祉論		精神疾患とその治療 地域支援技法Ⅰ 地域支援技法Ⅱ
3 年 前 期				人間・いのち・世界Ⅰ		ソーシャルワーク演習Ⅳ	ソーシャルワーク実 習Ⅱ ※4 ソーシャルワーク実 習指導Ⅲ ソーシャルワーク実 習指導Ⅳ		33	
3 年 後 期		地域福祉論Ⅱ				ソーシャルワーク演習Ⅴ	ソーシャルワーク実 習指導Ⅴ ※1	保健医療サービス ソーシャルワークの 理論と方法(専門) 更生保護制度論 公的扶助論		社会保障論Ⅱ 社会福祉調査 福祉サービスの組織 と経営
4 年 前 期					社会福祉と国際協力	ソーシャルワーク演 習Ⅵ		ソーシャルワーク論Ⅳ	小児と高齢者の栄養	12
4 年 後 期								ソーシャルワーク論Ⅴ リーフワーク	ターミナルケアとグ リーフワーク	
単位数	12	16	18	4	2	12	16	44		

無印は2単位 ※1は1単位 ※3は3単位 ※4は4単位

* 2021年度1年次入学者が精神保健福祉士を取得するためには、この他に指定科目の履修が必要となります

福祉分野で相談援助の専門職として活躍する人材向け履修モデル

②2020年度までの入学者及び2021年度までの2年次編入学者、2022年度までの3年次編入学者用

学年	教養科目		総合人間学専門科目						単位数	
	必修	選択	コア科目群	キリスト教といのち科目群	外国語原典講読/ 国際プログラム科目群	総合演習科目群	実践科目群	キャリア形成科目群		
1 年 前期	総合人間学 キリスト教概論Ⅰ 社会福祉原論Ⅰ 心理学 コミュニケーションの演習	憲法 スポーツと健康 A 社会学 英語 Speaking/Listening				ソーシャルワーク演習Ⅰ		介護概論		
1 年 後期	聖書を読む	キリスト教概論Ⅱ 社会福祉原論Ⅱ 心理学概論 社会学Ⅱ		いのち学序説		ソーシャルワーク演習Ⅱ		社会福祉入門 権利擁護と成年後見 制度		42
2 年 前期			社会福祉の基礎 ソーシャルワーク論Ⅰ 地域福祉論Ⅰ 社会福祉論Ⅰ 高齢者福祉の諸問題 障害者福祉の諸問題 児童福祉の諸問題			ソーシャルワーク演習Ⅲ		医学一般/人体の構造と機能及び疾病		
2 年 後期			ソーシャルワーク論Ⅱ 地域福祉論Ⅱ				ソーシャルワーク実 習指導Ⅰ	ソーシャルワーク論Ⅲ 高齢者福祉論 障害者福祉論 公的扶助論 就労支援サービス	社会福祉論Ⅱ 福祉行政と福祉計画 精神医学/精神疾患とその治療 精神障害者の生活支援システム 精神保健福祉に関する制度と サービス	44
3 年 前期				人間・いのち・世界Ⅰ		ソーシャルワーク演 習Ⅳ	ソーシャルワーク実 習Ⅰ ※4 ソーシャルワーク実 習指導Ⅱ ソーシャルワーク実 習指導Ⅲ			27
3 年 後期						ソーシャルワーク演 習Ⅴ	ソーシャルワーク実 習指導Ⅳ ※1	保健医療サービス 精神保健福祉の理論 と相談援助の方法 更生保護制度論	社会福祉調査 児童福祉論 福祉サービスの組織 と経営	
4 年 前期					社会福祉と国際協力	ソーシャルワーク演 習Ⅵ		ソーシャルワーク論Ⅴ 小児と高齢者の栄養		14
4 年 後期								ソーシャルワーク論Ⅳ ソーシャルワーク論Ⅵ リーダーワーク	ターミナルケアとグ リーフワーク	
単位数	12	16	18	4	2	12	11	52		

*精神保健福祉士を取得するためには、指定科目の履修が必要となります

無印は2単位 ※1は1単位 ※4は4単位

地域福祉開発コース

コースの目標：

「誰もが地域で安心してその人らしく暮らす事ができる多文化共生の地域社会づくりと、生活基盤を開発する人材」の養成を行います。

コース説明：

人間の総合的・包括的理解に立って、他者援助を行う人材を養成することを目的とする本学の教育・研究の中で、特に暮らしの視点で地域づくりに貢献し、地域住民が“幸せな生活”を送るための手助けとなる地域を基盤とした対人援助について学ぶコースです。

地域における人間関係の希薄化・孤立化に伴い、高齢者の孤立死、ホームレス問題などが深刻な社会問題となっています。さまざまな生活課題をかかえる人々が、地域住民として安心ある生活を実現するために必要なコミュニティづくりや、福祉サービスの推進が求められています。

地域福祉開発コースでは、地域を基盤にしたコミュニティづくりや、地域支援・福祉サービス推進・開発手法等について、大学での講義、演習と実習を通じて学びます。

資格：

「社会福祉士(国家資格)」の取得のための受験資格を得るのに適したコースです。また、社会福祉主事(国家資格・任用資格)も取得できます。

進路：

将来、地方公務員や社会福祉協議会をはじめとする福祉現場や NPO(特定非営利活動法人)/NGO(非政府組織)、国際協力機関、地域包括支援センター、企業など、様々な分野で活躍できる人材を目指して学んでいただけます。

非営利組織、公共団体でコミュニティづくりをする人材向け履修モデル ①2021年度以降1年次入学者及び2022年度以降2年次入学者用

学年	教養科目		総合人間学専門科目						単位数
	必修	選択	コア科目群	キリスト教といのち科目群	外国語原典講読/国際プログラム科目群	総合演習科目群	実践科目群	キャリア形成科目群	
1年前期	総合人間学 キリスト教概論 社会福祉原論Ⅰ 心理学 コミュニケーションの 演習	憲法 英語 Speaking/Listening				ソーシャルワーク演習Ⅰ			30
1年後期	聖書を読む	社会福祉原論Ⅱ		いのち学序説		ソーシャルワーク演習Ⅱ		社会福祉入門 権利擁護と成年後見 制度	
2年前期			社会福祉の基礎 地域福祉論Ⅰ 社会保障論Ⅰ ソーシャルワーク論Ⅰ		国際社会福祉概説		ソーシャルワーク実習Ⅰ ※3 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		31
2年後期			ソーシャルワーク論Ⅱ		多文化ソーシャルワーク			高齢者福祉論 障害者福祉論 地域支援技法Ⅰ 地域支援技法Ⅱ	
3年前期			心理療法治療概説 カウンセリング実技 の基本		社会福祉と国際協力				22
3年後期			地域福祉論Ⅱ			ソーシャルワーク演習Ⅴ		福祉サービスの組織 と経営 社会福祉調査 社会福祉特講Ⅲ 児童・家庭福祉論 社会保障論Ⅱ	
4年前期						ソーシャルワーク演習Ⅵ			10
4年後期								ターミナルケアとグ リフワーク	
単位数	12	6	16	2	6	8	5	24	10

無印は2単位 ※1は1単位 ※3は3単位

非営利組織、公共団体でコミュニティづくりをする人材向け履修モデル
②2020年度までの入学者及び2021年度までの2年次編入学者、2022年度までの3年次編入学者用

学年	教養科目		総合人間学専門科目						単位数	
	必修	選択	コア科目群	キリスト教といのち科目群	外国語原典講読/ 国際プログラム科目群	総合演習科目群	実践科目群	キャリア形成科目群		
1 年前期	総合人間学 キリスト教概論Ⅰ 社会福祉原論Ⅰ 心理学 コミュニケーションの 演習	憲法 英語 Speaking/Listening				ソーシャルワーク演 習Ⅰ			28	
1 年後期	聖書を読む	社会福祉原論Ⅱ		いのち学序説		ソーシャルワーク演 習Ⅱ		権利擁護と成年後見 制度 精神保健		
2 年前期			地域福祉論Ⅰ 社会保障論Ⅰ ソーシャルワーク論Ⅰ		国際社会福祉概論			精神保健福祉相談援 助の基礎	30	
2 年後期			地域福祉論Ⅱ ソーシャルワーク論Ⅱ	社会福祉とキリスト教	多文化ソーシャル ワーク		社会保障論Ⅱ 福祉行政財政と福祉計画	ソーシャルワーク論Ⅲ 高齢者福祉論 障害者福祉論 野外活動とキャンピング		
3 年前期			心理療法治療概説 カウンスリング実技 の基本		社会福祉と国際協力			臨床心理学概論	18	
3 年後期						ソーシャルワーク演 習Ⅴ	福祉サービスの組織 と経営 社会福祉特講 C	児童福祉論 レクリエーションとグ ループリーダー		
4 年前期						ソーシャルワーク演 習Ⅵ	地域支援技法Ⅰ		10	
4 年後期							地域支援技法Ⅱ ターミナルケアとグ ループワーク	産業組織心理学		
単位数	12	6	14	4	6	8		36		

無印は2単位

子ども支援コース

コースの目標：

「生活環境の改善や心のケアを通して、子どもや家族が直面する様々な課題に対応できるように支援する人材」の養成を行います。

コース説明：

「人間の総合的・包括的理解に立って他者援助を行う人材」を養成することを目的とする本学の教育・研究の中で、子どもが健全に成長し、幸せに生活を送るために必要な支援の方法や考え方について学ぶコースです。

いじめ・虐待・不登校など子どもを取り巻く人間関係の課題や、親の病気や離婚、ドメスティック・バイオレンスなど家族内で生ずる課題、貧困や差別、児童労働や難民など社会的な課題などが深刻化しています。このような問題に対応して子どもや家族を支援できる人材への期待が大きくなっています。

子ども支援コースでは、子どもや家族を支援するために役立つ児童福祉や児童心理の理論や技術、価値観を学び、子どもや家族が課題に対処する力を発揮できるように支援する方法を講義、演習、実習を通して学びます。

具体的には、子どもの発達や成長について学ぶ科目、様々な生活課題と解決のための支援や制度に関する科目、子どもの心理的課題や心理的ケアに関する科目、子どもや家族の国際的な課題と支援について学ぶ科目、保育に関する科目などを履修することができます。

履修モデル：

履修モデルには、子どもや家族に関連する科目を幅広く含めて、おおよそ適切な履修時期を示しています。将来の目標によって、社会福祉士の資格を目指す場合、臨床心理関係の資格を目指す場合、保育士資格を目指す場合など、各自の関心や目標に応じて、必要な科目を組み合わせ、計画的に履修してください。

資格：

子どもの支援に結びつく資格として、5コースのいずれにおいても、卒業時に、社会福祉主事、児童指導員、児童心理司の任用資格が得られます。子ども支援コースで学ぶことによって、特に児童指導員や児童心理司として必要な知識や技術・価値観を詳しく学べます。

- 1) 児童福祉関係の仕事を目指す場合には、社会福祉士(国家資格)を取得することが役立ちます。
- 2) 児童福祉関係の中でも児童館や学童保育、保育所での仕事を目指す場合は、保育士(国家資格)を取得することが役立ちます。「保育士特講Ⅰ」「保育士特講Ⅱ」の履修と、保育士筆記試験対策講座への参加をお勧めします。

保育士を目指す場合の科目履修については64ページからの説明を参考にしてください。

- 3) 子どもや家族を心理面から支援する仕事を目指す場合には、心理関係の資格が役に立ちます。認定心理士(民間資格)は心理学の基本的知識を持っていることを証明する資格です。大学卒業時に、各自が申請して書類審査を受けます。公認心理師(国家資格)取得を希望する場合は、大学で公認心理師に必要な科目を履修して卒業後、実務を経験するか、大学院に進学する必要があります。臨床心理士(民間資格)取得を希望する場合は、日本臨床心理士資格認定協会が指定する大学院に進学する必要があります。

実習：

1) ソーシャルワーク実習について

- 2022年度1年次入学者、2021年度1年次入学者及び2022年度2年次編入学者は社会福祉国家試験の受験資格を得るための実習教育の詳細については71ページからの説明を参照してください。
- 2020年度までの入学者及び2021年度の2年次・3年次入学者、2022年度以降の2年次入学者は社会福祉士国家試験の受験資格を得るための実習教育の詳細については75ページからの説明を参照してください。

2)心理実習

子ども支援コースの学生も、臨床心理関係の科目を十分に履修することにより、「心理実習」の履修が可能です。

「心理実習」を履修するためには、2年後期または3年後期に「心理演習」を履修する必要があります。「心理演習」を履修する時期や履修するための成績条件、心理実習の時期や内容など詳細については82ページからの説明を参照してください。

進路：

児童福祉施設(児童養護施設・乳児院・母子生活支援施設・児童館など)の児童指導員・少年指導員・保育士など。子ども家庭支援センター、児童相談所など相談機関の職員、学童保育や青少年育成団体の職員、国際支援団体の職員、スクールソーシャルワーカーなど。臨床心理士または公認心理師の資格を取得するとスクールカウンセラーや児童福祉施設の心理療法担当職員・相談機関の心理職など。

児童指導員など子どもや家族を支援する人材向け履修モデル

学年	教養科目		総合人間学専門科目					単位数	
	必修	選択	コア科目群	キリスト教といのち科目群	外国語原典講読/ 国際プログラム科目群	総合演習科目群	実践科目群	キャリア形成科目群	
1 年前期	総合人間学 キリスト教概論Ⅰ 社会福祉原論Ⅰ 心理学 コミュニケーションの 演習	憲法 スポーツと健康 A 社会学 英語 Speaking/Listening						子ども支援キャリア デザイン 野外活動とキャンピ ング	ソーシャルワーク演 習Ⅰ
1 年後期	聖書を読む	キリスト教概論Ⅱ 社会福祉原論Ⅱ 心理学概論 法学		いのち学序説				臨床心理プレシ ュ マンゼミ	ソーシャルワーク演 習Ⅱ 社会福祉入門
2 年前期			児童福祉の諸問題 社会福祉の基礎 ソーシャルワーク論Ⅰ		国際社会福祉概説	キャリアデザイン基 礎		保育原理と保育士の 専門性 保育士特講Ⅰ	社会福祉と国際協力 社会保障論Ⅰ
2 年後期				キリスト教と生命倫理	外国語の言語と文化 (フィリピン語) ※1 多文化ソーシャル ワーク		心理演習またはソー シャルワーク実習指 導Ⅰ	保育士特講Ⅱ 児童・家庭福祉論 レクリエーションとグ ループリーダー 障害者・障害児心理学	
3 年前期			発達心理学 教育心理学 カウンセリング実技 の基本		臨床心理英専門書講 読Ⅰ	卒業演習プレゼミ ナール ※1	心理実習またはソー シャルワーク実習Ⅰ	子どもと教育	キリスト教音楽実技Ⅰ
3 年後期						ソーシャルワーク演 習Ⅴ		子どもと家族の国際 問題と支援 小児と高齢者の栄養 福祉心理学	学習・言語心理学
4 年前期						ソーシャルワーク演 習Ⅵ 卒業論文		教育カウンセリング	
4 年後期						卒業演習Ⅲ 卒業論文		家族心理学 子どものグリーフ ワーク ※1 プレイセラピーの理 論と実際 ※1	
単位数	12	16	12	4	7	13	4	46	

無印は2単位 ※1は1単位 ※4は4単位

臨床心理コース

コースの目標：

「臨床心理学的な素養を持ち人間のこころの働きに理解のある人材」を養成します。また、「臨床心理士及び公認心理師資格を目指す学生の基礎力と大学院進学」を支援します。

コース説明：

人間の総合的・包括的理解に立って、他者援助を行う人材を養成することを目的とする本学の教育・研究の中で、特に臨床心理の領域における、こころのケアに関する学びを深めるコースです。

現代社会では、不登校、いじめ、発達障害等の発達に伴う課題をかかえる子どもに関する援助の問題など臨床心理の専門家に対するニーズはますます大きなものとなっています。

そこで、本コースでは、保健・医療・教育分野等の専門職と連携・協働しながら、一人ひとりのこころに寄り添い、さまざまな課題や悩みの解決を支援できるための、理論や技法を学びます。

そのために、人のこころとその働きの理解を深めるための様々な領域の心理学、こころの状態を知るために必要な心理学研究法、こころの支援のための心理療法や面接法などを、講義・演習・実習体験を通して学びます。いわゆるカウンセリングの実習的技能だけでなく、心理学研究の基礎である仮説検証的研究の考え方を学び、科学的に世の中の諸事象を考える態度を養います。

資格：

臨床心理士の指定大学院に進学して「臨床心理士」や「公認心理師」を目指すのに適したコースです。また、公認心理師の指定科目25科目を履修して卒業することで資格試験を受験するための学部としての要件が満たされます。学部段階では、「認定心理士」の資格を取得することが可能です。児童指導員、児童心理司の任用資格が得られます。

進路：

大学院進学後「臨床心理士」を取得した場合は、病院、民間のクリニック、教育相談機関相談員、スクールカウンセラーとして活躍できます。「臨床心理士」「公認心理師」の資格取得を望まない場合は、心理の知識を生かして企業の人事部門・営業部門での仕事や、質問紙調査の知識を生かして調査部門での仕事が期待されています。また、児童指導員として施設で子どものために働く道もあります。

コース必修科目について：

以下のコース必修科目は、卒業に必要な必修科目ではありませんが、臨床心理コースに所属した以上、必ず、履修してほしいものです。履修モデルを参照しながら優先的に履修してください。

- 臨床心理フレッシュマンゼミ
- 心理学的支援法
- 心理学統計法
- 心理学研究法Ⅰ（データ解析）
- 臨床心理学概論
- カウンセリング実技の基本
- キャリアデザイン基礎

履修モデル：

臨床心理コースは、将来、臨床心理士や公認心理師の資格取得または心理学を活かした仕事に就きたいと思っている人に適したコースです。入学時点で資格取得の意志がはっきりしている人は、全体の必修科目以外に、1年前期では、心理学的支援法、臨床心理学概論の履修をすすめます。

後期では、臨床心理フレッシュマンゼミと心理学統計法の履修をすすめます。臨床心理フレッシュマンゼミでは、文献研究の仕方や心理学の論文の読み方、心理学のレポートの書き方を学び、心理学統計法では、心理学研究とりわけ量的研究と言われる方法の基礎である統計法について学びます。どちらの科目も今後、心理学を学んでいくための基礎的な科目なので、できるだけ、臨床心理コースの所属を考えている学生は、1年生後期に履修して下さい。

2年生では、前期に心理学研究法Ⅰ（データ解析）を、2年後期には心理学実験を必ず履修して下さい。これらは統計法の基礎の上に学習する心理学研究法の実習で非常に大切な科目です。また、量的研究とは少し違った方法である質的研究を学びたい学生は、質的研究法を2年か3年で履修して下さい。3年生では、アンケート調査の仕方を学ぶ「質問紙調査法」、観察や実験についての方法を学ぶ「心理学研究法Ⅱ（実験法・面接法・観察法）」をできるだけ履修して研究の幅を広げて下さい。3年の後期からは、ゼミ配属がなされ、本格的な卒業論文にむけた指導が始まります。そのために、上記の方法論の授業を順番に学びつつ、各自の興味に従って色々な心理学の各論を学ぶよう履修計画をたてるようにして下さい。履修モデルには「公認心理師」の資格取得を目指す場合のモデルが示されています。他の資格を目指す等の場合は、それぞれの目標によって必要な科目を加えて下さい。

公認心理師を目指す場合の科目履修については、P62からの説明を必ず確認して下さい。

（認定心理士について）

認定心理士は学部段階の心理教育課程をしっかりと修得して卒業したことを証明する資格です。必要な単位を履修すれば、申請することにより取得できます。P68にある認定心理士資格取得に必要な指定科目との対照表をよくみて必要な科目を履修してください。とくに、基礎科目として、心理学、心理学概論、臨床心理学概論、カウンセリング実技の基本、心理学研究法Ⅰ、心理学統計法、心理学実験、心理的アセスメントなどについては、早めに履修するようにしてください。また、選択必修科目として、(d)から(h)の内3領域以上から合計4単位以上、合計16単位以上の単位が必要ですので計画的に履修していきましょう。

その他の科目については、特に、順番はないので（2年3年の指定にこだわらずに）、各自の興味にあわせて履修モデルを参考にしながら履修計画をたてて下さい。

心理の専門職として活躍する人材向け履修モデル(公認心理師資格取得)

学年	教養科目		総合人間学専門科目					単位数
	必修	選択	コア科目群	キリスト教といのち科目群	外国語原典講読/ 国際プログラム科目群	総合演習科目群	実践科目群	キャリア形成科目群
1 年前期	総合人間学 キリスト教概論Ⅰ 社会福祉原論Ⅰ 心理学 コミュニケーションの 演習	憲法 英語 Speaking/Listening 英語 Reading						臨床心理学概論 心理学的支援法 青年心理学
1 年後期	聖書を読む	キリスト教概論Ⅱ 法学 心理学概論		いのち学序説		臨床心理フレッシュ マンゼミ		心理学統計法 精神保健
2 年前期		社会学	カウンセリング実技 の基本 キリスト教の人間観Ⅰ ※a 心理的アセスメント 心理学研究法Ⅰ(デー タ解析)			キャリアデザイン基 礎		サイゴドラマⅠ 人体の構造と機能及 び疾病 公認心理師の職責 社会・集団・家族心理学
2 年後期	環境学		心理学実験 キリスト教の人間観Ⅱ ※a	キリスト教と生命倫理			心理実習Ⅰ	学習・言語心理学 心理検査技法演習 サイゴドラマⅡ 質的研究法 心理演習 知覚・認知心理学
3 年前期			発達心理学	人間・いのち・世界Ⅰ	臨床心理特講A(大 学院進学支援講座)	卒業演習ブレゼミ ナール	心理実習Ⅱ	交流分析 質問紙調査法 野外活動とキャンピング 心理学研究法Ⅱ(実験 法・面接法・観察法) 産業・組織心理学
3 年後期				キリスト教の倫理		キャリアデザイン実 践 卒業演習Ⅰ	心理実習Ⅱ	司法・犯罪心理学 サイゴドラマⅢ サイゴドラマⅢ演習 感情・人格心理学 精神分析学
前4 期年						卒業演習Ⅱ		
後4 期年						卒業演習Ⅲ 卒業論文		
単位数	12 単位	18 単位以上	8 単位以上	コア科目群8単位を含めて72単位以上				124

※1年間の履修登録の上限は、48単位になります。前の学年で優秀な成績を修めた者について54単位を認めていますが無理のない履修計画をして下さい。

※a 2023年度を最後に閉講

D 資格取得に関して

社会福祉士

1 資格の概要

ソーシャルワーカーの「国家資格」です。

「社会福祉士及び介護福祉士法」によって定められた資格であり、高齢、児童、障がい、医療、司法福祉、生活困窮、女性福祉、地域福祉、国際福祉など、さまざまな領域において日常生活、社会生活を送る上で、課題に直面している人が支援の対象となります。名称独占資格です。

2 資格取得の方法

大学を卒業するまでに、以下の「必要科目の一覧」に示す科目を全て履修し、単位取得することによって、国家試験受験資格を得ることができます。そのうえで、国家試験を受験して合格し、登録を行うことによって資格を取得します。通常、大学4年間で全ての指定科目を単位取得見込みとなり、4年次の2月に行われる国家試験を受験します。合格発表は3月上旬です。

3 国家資格取得支援

国家資格取得を支援するために、4年次後期に、「社会福祉特講(社会福祉士受験対策講座)」「ソーシャルワークキャリアアップゼミ(共通科目対策講座含む)」の開講、3・4年次に外部講師による受験対策講座の開講、模擬テストの実施・案内等を行うので、必ず参加するように。

4 必要科目の一覧

国家資格のカリキュラムが改定され、指定科目が変わりました。そのため、入学年度によって、本学におけるカリキュラムや履修すべき科目名が異なります。

4-1 2022年度1年次入学者、2021年度1年次入学者及び2022年度以降2年次編入学者

指定科目名	本学での履修科目名	社会福祉士		配当年次
		履修	基礎	
	社会福祉入門	○		1後
	社会福祉の基礎	○		2前
医学概論	人体の構造と機能及び疾病	◎	基礎	2前
心理学と心理的支援	心理学	◎	基礎	1前
社会学と社会システム	社会学	◎	基礎	1前
社会福祉の原理と政策	社会福祉原論Ⅰ	◎		1前
	社会福祉原論Ⅱ	◎		1後
社会福祉調査の基礎	社会福祉調査	◎	基礎	3・4後
ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワーク論Ⅰ	◎	基礎	2前
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	同(ソーシャルワーク論Ⅰ)	◎	基礎	(2前)
ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワーク論Ⅱ	◎		2後
	ソーシャルワーク論Ⅲ	◎		2後
ソーシャルワークの理論と方法(専門)	ソーシャルワーク論Ⅳ(新)	◎		4前
	ソーシャルワーク論Ⅴ(新)	◎		4後
地域福祉と包括的支援体制	地域福祉論Ⅰ	◎		2前
	地域福祉論Ⅱ	◎		3後

指定科目名	本学での履修科目名	社会福祉士		配当年次
		履修	基礎	
福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営	◎	基礎	3後
社会保障	社会保障論Ⅰ	◎	基礎	2前
	社会保障論Ⅱ	◎	基礎	3後
高齢者福祉	高齢者福祉論	◎	基礎	2後
障害者福祉	障害者福祉論	◎	基礎	2後
児童・家庭福祉	児童・家庭福祉論	◎	基礎	2後
貧困に対する支援	公的扶助論	◎	基礎	3後
保健医療と福祉	保健医療サービス	◎	基礎	3後
権利擁護を支える法制度	権利擁護と成年後見制度	◎	基礎	1後
刑事司法と福祉	更生保護制度論	◎	基礎	3後
ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	◎		1前
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	◎		1後
ソーシャルワーク演習(専門)	ソーシャルワーク演習Ⅲ	◎		2前
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	◎		3前
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	◎		3後
	ソーシャルワーク演習Ⅵ	◎		4前
ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ(新)	◎		2前
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ(新)	◎		2後
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ(新)	◎		3前
	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ(新)	◎		3前
	ソーシャルワーク実習指導Ⅴ	◎		3後
ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習Ⅰ(新)	◎		2前
	ソーシャルワーク実習Ⅱ(新)	◎		3前

注1 履修欄の記号で、「◎印」の科目は、指定科目として国家資格の受験資格取得のために必ず履修しなければならない科目である。「○印」の「社会福祉入門」「社会福祉の基礎」は、指定科目ではないが、本学のカリキュラムとして、国家資格の受験資格取得のために必ず履修を求めている科目である。

注2 本学における履修科目名の後に(新)と付している科目は、本学の旧カリキュラムにおいても、同一名称で、かつ、内容が異なるものが提供されているときに付している。新カリキュラムに沿った科目には、区別けをするため、講義概要や時間割等において(新)を付記する。

注3 本学在学中に受験資格を取得せずに卒業した場合であっても、本学において国家資格の「基礎科目」に指定された科目を全て履修し、単位取得していれば、卒業後各国家資格の短期養成施設(6か月～9か月程度)において受験資格を取得することができる。「基礎科目」は、各資格の「基礎」欄に「基礎」と書かれた科目である。

4-2 2020年度までの入学者、及び2021年度までの2年次編入学者、2022年度までの3年次編入学者用

指定科目名	本学での履修科目名	社会福祉士		配当年次
		履修	基礎	
	社会福祉入門	○		1後
	社会福祉の基礎	○		2前
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	※	※基礎	2前
心理学理論と心理的支援	心理学	※	※基礎	1・2前
社会理論と社会システム	社会学	※	※基礎	1・2前
現代社会と福祉	社会福祉原論Ⅰ	◎		1前
	社会福祉原論Ⅱ	◎		1後

指定科目名	本学での履修科目名	社会福祉士		配当年次
		履修	基礎	
地域福祉の理論と方法	地域福祉論Ⅰ	◎		2前
	地域福祉論Ⅱ	◎		2後
社会保障	社会保障論Ⅰ	◎	基礎	2前
	社会保障論Ⅱ	◎	基礎	3後
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画 #	◎	基礎	集中
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	◎	基礎	2後
低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	◎	基礎	3後
保健医療サービス	保健医療サービス	◎	基礎	3後
相談援助の基盤と専門職	ソーシャルワーク論Ⅰ	◎	基礎	2前
	ソーシャルワーク論Ⅵ	◎	基礎	4後
相談援助の理論と方法	ソーシャルワーク論Ⅱ	◎		2後
	ソーシャルワーク論Ⅲ	◎		2後
	ソーシャルワーク論Ⅳ	◎		4後
	ソーシャルワーク論Ⅴ	◎		4前
福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営	◎	基礎	3後
社会調査の基礎	社会福祉調査	◎	基礎	3・4後
高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者福祉論	◎	基礎	2後
	介護概論 #	◎	基礎	1・2前
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童福祉論	◎	基礎	2後
権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度	★	★基礎	1・2後
更生保護制度	更生保護制度論	★	★基礎	3後
就労支援サービス	就労支援サービス #	★	★基礎	2後
相談援助演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	◎		1前
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	◎		1後
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	◎		2・3前
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	◎		3・4前
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	◎		3後
	ソーシャルワーク演習Ⅵ	◎		4前
相談援助実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	◎		2・3後
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	◎		3・4前
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	◎		3・4前
	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	◎		3・4後
相談援助実習	ソーシャルワーク実習Ⅰ	◎		3・4前

注1 履修欄の記号で、「◎印」の科目は、指定科目として国家資格の受験資格取得のために必ず履修しなければならない科目である。「○印」の「社会福祉入門」「社会福祉の基礎」は、指定科目ではないが、本学のカリキュラムとして、国家資格の受験資格取得のために必ず履修を求めている科目である。

注2 「※印」と「★印」の科目は、3科目のうち1科目を選択して履修すれば受験資格は取得できることになっている。しかし、国家試験では指定科目すべてが均等に出題されるので、全科目履修することが望ましい。

注3 「#印」の科目は、国のカリキュラムの変更に伴い、本学においてすでに閉講した科目である。

注4 本学在学中に受験資格を取得せずに卒業した場合であっても、本学において各国家資格の「基礎科目」に指定された科目を全て履修し、単位取得していれば、卒業後各国家資格の短期養成施設(6か月～9か月程度)において受験資格を取得することができる。「基礎科目」は、各資格の「基礎」欄に「基礎」と書かれた科目である。なお、「※基礎」、「★基礎」印の科目については、3科目のうち1科目履修していればよい。

精神保健福祉士

1 資格の概要

精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの「国家資格」です。

「精神保健福祉士」は「精神保健福祉士法」によって定められた資格であり、精神障がいを抱える人とその家族等が主な支援の対象となります。名称独占資格です。

2 本学での資格取得対象者

本学では、カリキュラムの変更に伴い、精神保健福祉士については、2022年度(以降)1年次入学者には対応していません。また、例年、3年次編入学者には対応していません。

2021年度より前の1年次入学者及び、2年次編入学者まで取得の可能性があります。2022年度2年次入学者も取得可能性があります。入学後、社会福祉士のカリキュラムに沿って履修をし、3年次に「社会福祉士」のための実習に行き、一定の条件を満たした者で希望する者は、「社会福祉士」に加え「精神保健福祉士」の受験資格を取得することができます。

3 資格取得の方法

大学を卒業するまでに、以下の「必要科目の一覧」に示す指定科目を全て履修し、単位取得することによって、国家試験受験資格を得ることができます。そのうえで、国家試験を受験して合格し、登録を行うことによって資格を取得します。通常は、大学4年間で全ての指定科目を単位取得見込みとなり、4年次の2月に行われる国家試験を受験します。合格発表は3月上旬です。

4 国家資格取得支援

国家資格取得を支援するために、4年次後期に、「社会福祉特講 A(社会福祉士受験対策講座)」「社会福祉特講 B(精神保健福祉士受験対策講座)」「キャリアアップゼミ(共通科目対策講座含む)」の開講、3・4年次に外部講師による受験対策講座の開講、模擬テストの実施・案内等を行うので、必ず参加するように。

5 必要科目の一覧

精神保健福祉士については、本学のカリキュラムにおいて、まずは社会福祉士の受験資格取得のためのカリキュラムに沿って履修することが求められているため、この項では、社会福祉士との共通科目や、一部の読み替え科目は省いて、社会福祉士指定科目以外に必要な科目を示しています。

また、国家資格のカリキュラムが改定され、指定科目が変わりました。そのため、入学年度によって、本学におけるカリキュラムや履修するべき科目名が異なります。

さらに、本学で提供するカリキュラムの変更に伴い、科目の開講年度が限定されています。開講年度に注意をして計画的に履修をしてください。

5-1 2021年度1年次入学者及び2022年度以降の2年次以降の編入学者

指定科目名	本学での履修科目名	精神保健福祉士		配当年次	最終 開講年度
		履修	基礎		
精神医学と精神医療	精神疾患とその治療	◎		2後	—
現代の精神保健の課題と支援	精神保健	◎		1前	—
ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワーク論Ⅰ(社福)	◎	(基礎)	2前	—
精神保健福祉の原理	精神保健福祉の原理	◎		2前	2022
ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワーク論Ⅱ(社福)	◎	(基礎)	2後	—
	ソーシャルワーク論Ⅲ(社福)	◎	(基礎)	2後	—

指定科目名	本学での履修科目名	精神保健福祉士		配当年次	最終 開講年度
		履修	基礎		
ソーシャルワークの理論と方法(専門)	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	◎		3後	2023
精神障害リハビリテーション論	精神障害リハビリテーション論	◎		3後	2023
精神保健福祉制度論	精神保健福祉制度論	◎		2後	2022
ソーシャルワーク演習	(ソーシャルワーク演習Ⅰ)(社福)	◎	(基礎)	1前	—
	(ソーシャルワーク演習Ⅱ)(社福)	◎	(基礎)	1後	—
ソーシャルワーク演習(専門)	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ	◎		3後	2023
	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	◎		4前	2024
	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ	◎		4後	2024
ソーシャルワーク実習指導	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	◎		3後	2023
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	◎		4前	2024
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	◎		4前	2024
ソーシャルワーク実習	精神保健福祉実習	◎		4前	2024

- 注1 本学のカリキュラムは、まず社会福祉士の国家資格受験資格のためのカリキュラムに沿っての履修が求められる。それを経ないと、「精神保健福祉実習」や「精神保健福祉実習指導Ⅰ～Ⅲ」の科目は履修できない。
- 注2 「本学での履修科目名」の後に「(社福)」と書いてある科目は、社会福祉士の指定科目を読み替える科目である。
- 注3 「精神保健福祉実習」は、「ソーシャルワーク実習Ⅰ(新)」及び「ソーシャルワーク実習Ⅱ(新)」を終えたものは、実習時間の一部が免除される。
- 注4 本学在学中に受験資格を取得せずに卒業した場合であっても、本学において各国家資格の「基礎科目」に指定された科目を全て履修し、単位取得していれば、卒業後各国家資格の短期養成施設(6か月～9か月程度)において受験資格を取得することができる。「基礎科目」は、各資格の「基礎」欄に「基礎」と書かれた科目である。
- 注5 卒業後に精神保健福祉士を取得するメリット
卒業後に精神保健福祉士養成施設(通信制の専門学校等)において受験資格を取得することも可能である。社会福祉士を取得していると、相談援助の実務経験が1年以上あれば、多くの場合、精神保健福祉士の実習科目が免除になる。相談援助業務(実務経験)は幅広く認められ、児童養護施設、障害者福祉サービス事業、特別養護老人ホームや養護老人ホーム、公的な相談機関の窓口職員などの相談援助に従事する職種の者の業務が幅広く認められている。

5-2 2020年度までの入学者、2021年度2年次編入学者

指定科目名	本学での履修科目名	精神保健福祉士		配当年次	最終 開講年度
		履修	基礎		
精神疾患とその治療	精神医学	◎		2後	—
精神保健の課題と支援	精神保健	◎		1後	—
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	◎		2前	2021
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	◎		3後	2022
精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉に関する制度とサービス	◎		2後	2021
精神障害者の生活支援システム	精神障害者の生活支援システム	◎		2後	2021
精神保健福祉援助演習(基礎)	ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅲ(社福)	●			
精神保健福祉援助演習(専門)	精神保健福祉援助演習(専門Ⅰ)	◎		4前	2023
	精神保健福祉援助演習(専門Ⅱ)	◎		4後	2023

指定科目名	本学での履修科目名	精神保健福祉士		配当年次	最終 開講年度
		履修	基礎		
精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉援助演習実習指導Ⅰ	◎		3 後	2022
	精神保健福祉援助演習実習指導Ⅱ	◎		4 前	2023
	精神保健福祉援助演習実習指導Ⅲ	◎		4 前	2023
精神保健福祉援助実習	精神保健福祉実習	◎		4 前	2023

注1 本学のカリキュラムは、まず社会福祉士の国家資格受験資格のためのカリキュラムに沿っての履修が求められる。それを経ないと、「精神保健福祉実習」や「精神保健福祉実習指導Ⅰ～Ⅲ」の科目は履修できない。

注2 「本学での履修科目名」の後に「(社福)」と書いてある科目は、社会福祉士の指定科目を読み替える科目である。

注3 「精神保健福祉実習」は、「ソーシャルワーク実習Ⅰ(新)」及び「ソーシャルワーク実習Ⅱ(新)」を終えたものは、実習時間の一部が免除される。

注4 本学在学中に受験資格を取得せずに卒業した場合であっても、本学において各国家資格の「基礎科目」に指定された科目を全て履修し、単位取得していれば、卒業後各国家資格の短期養成施設(6か月～9か月程度)において受験資格を取得することができる。「基礎科目」は、各資格の「基礎」欄に「基礎」と書かれた科目である。

注5 卒業後に精神保健福祉士を取得するメリット

卒業後に精神保健福祉士養成施設(通信制の専門学校等)において受験資格を取得することも可能である。社会福祉士を取得していると、相談援助の実務経験が1年以上あれば、多くの場合、精神保健福祉士の実習科目が免除になる。相談援助業務(実務経験)は幅広く認められ、児童養護施設、障害者福祉サービス事業、特別養護老人ホームや養護老人ホーム、公的な相談機関の窓口職員などの相談援助に従事する職種の者の業務が幅広く認められている。

公認心理師

1 資格の種類とその概要

公認心理師は心理系の資格の中で初めてできた国家資格です。病院で働く希望がある場合は今後この資格の取得が求められることが予想されます。臨床心理士とともに公認心理師の両方の資格取得を考えるのが得策でしょう。ただし、教育分野や司法分野・産業分野などでは、現在でも資格の種類を問わないで心理業務がなされている分野もあります。臨床心理士や産業カウンセラーなどの資格で十分通用する分野もありますが、将来的にどうなるかははっきりしません。よく考えて取得の計画を立てて下さい。

2 資格取得の方法

2018年4月以降に入学・編入学した人が、公認心理師資格試験の受験資格を得るためには、

- (1) 大学において公認心理師に必要な科目(別表1①～②⑤科目：心理学研究法はⅠとⅡの両方を履修する必要があります)を修めて卒業し、かつ、大学院において必要な科目(10科目)を修めてその課程を修了した者
- (2) 大学において公認心理師に必要な科目を修めて卒業し、かつ、法に定める施設にて一定の期間以上、法に定められた心理に関する業務に従事した者の2つの道が示されています。

一方、皆さんが(2)の方法で受験資格を得るためには、大学卒業後すぐに所定の施設に、就職する必要があります。しかし、大学を出たばかりの資格を持たない者に簡単に就職の道は開かれていないのが現実です。

そのため、皆さんの多くが、公認心理師の受験資格を得るためには、公認心理師プログラムを有する大学院に進学する(1)の方法が基本となると考えて下さい。

そこで、大学における公認心理師取得のための必要科目を別表1に示しました。この別表1に示す25科目をすべ

て履修することによって、皆さんは必要な科目を修めて大学の学部を卒業したとみなされます。

3 経過措置について

2017年9月までに、大学に入学または編入学した人には経過措置が適用されます。25科目すべてを履修する代わりに、別表1に示す、ⅠからⅤの科目群から所定の科目以上を履修していれば、必要な科目を修めて卒業したとみなされます。

科目名については、必要な科目の類似科目が読み替えによって認められます。2017年10月時点での在校生に関しては、読み替え可能な科目は別表1のとおりですが、それ以前の卒業生に関しては、科目名が変わっている場合があります。そのために、個別対応が必要な場合は大学にお問い合わせください。この場合も資格を取得するためには、さらに大学院に進学するルートが基本です。

4 大学院に進学しないルートについて

大学院に進学しないで実務経験を得る方法については、今のところ、未知な部分が多いのが現実です。数年たって実際に実務経験を経て公認心理師を取得する人がかなり出てくるかもしれません。あるいは病院によっては、公認心理師を取得できるプログラムを有することをうたって心理師候補として採用するところが出てくるかもしれません。そのような情報にも関心を持って、この制度の行く末を見守ってってください。

別表1 公認心理師に必要な科目

	公認心理師カリキュラム 大学における必要な科目	公認心理師資格取得のために 必要な本学の科目名
Ⅰ	①公認心理師の職責	公認心理師の職責
	②心理学概論	心理学概論
	③臨床心理学概論	臨床心理学概論
	④心理学統計法	心理学統計法
	⑤心理学研究法	心理学研究法Ⅰ (データ解析)、心理学研究法Ⅱ(観察法・面接法・実験法) ※ⅠとⅡの両方を履修する必要があります
	⑥心理学実験	心理学実験
Ⅱ	⑦知覚・認知心理学	知覚・認知心理学
	⑧学習・言語心理学	学習・言語心理学
	⑨感情・人格心理学	感情・人格心理学
	⑩神経・生理心理学	神経・生理心理学
	⑪社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学
	⑫発達心理学	発達心理学
	⑬障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学
Ⅳ	⑭健康・医療心理学	健康・医療心理学
	⑮福祉心理学	福祉心理学
	⑯教育・学校心理学	教育・学校心理学
	⑰司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学
	⑱産業・組織心理学	産業・組織心理学
Ⅴ	⑲人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病
	⑳精神疾患とその治療	精神疾患とその治療
	㉑関係行政論	関係行政論

	公認心理師カリキュラム 大学における必要な科目	公認心理師資格取得のために 必要な本学の科目名
Ⅲ	⑭心理的アセスメント	心理的アセスメント
	⑮心理学的支援法	心理学的支援法
	⑳心理演習	心理演習
	㉑心理実習	心理実習Ⅰ・Ⅱ

※1 2018年度以降入学者は①～㉑の25科目全てを履修する必要があります。

※2 2017年度以前の入学者は2021年以前の講義概要で確認してください。

保育士

1 資格の種類とその概要

保育士は、児童の保育及び保護者等への保育に関する支援を行う専門職で、児童福祉法によって定められている名称独占の国家資格です。保育所で保育士として就職を希望する場合は、この資格が求められることがほとんどです。児童養護施設や乳児院、児童館、学童保育などの児童福祉分野の求人でも、この資格が採用要件のひとつとなっているところが多くあります。

2 資格取得の方法

本学では保育士資格を取得できるカリキュラムを有していませんが都道府県が実施する保育士試験を受験し合格することによって資格取得が可能です。授業科目として「保育原理と保育士の専門性」「保育士特講Ⅰ」「保育士特講Ⅱ」を受講して下さい。さらに、就職進路支援として開催される「保育士筆記試験対策講座」をぜひ受講して下さい。

保育士試験の受験資格は以下のとおりです。

①大学に2年以上在学し62単位以上取得済み(または62単位以上取得見込み)であること。

②大学に1年以上2年未満在学し、2年次終了年度内に62単位以上取得済み(または62単位以上取得見込み)であること。

2年次終了年度内に62単位取得見込みであれば、大学2年次から保育士試験を受験できます(ただし、大学2年次終了時点で62単位取得できなかった場合は不合格となります)。

3 保育士試験受験科目

保育士試験 筆記試験科目

保育士試験科目	本学で履修しておく参考になる科目例
社会福祉	「社会福祉原論Ⅰ」「社会福祉原論Ⅱ」
児童家庭福祉	「児童福祉論」「児童・家庭福祉論」「関係行政論」
保育の心理学	「心理学」「心理学Ⅱ」「心理学概論」「発達心理学」
子どもの保健	「精神保健」
子どもの食と栄養	「小児と高齢者の栄養」
保育原理	「保育原理と保育士の専門性」
保育実習理論	
教育原理	「子どもと教育」
社会的養護	「児童福祉論」「児童・家庭福祉論」「福祉心理学」

1. 上記の科目は保育士試験の受験対策のための科目ではありませんが、関連する内容を学べます。試験科目全般について学ぶためには「保育士特講Ⅰ・Ⅱ」を開講しています。

- 筆記試験は科目ごとに合格が発表され、その合格は合格した時を含めて3年間有効です。たとえば、1年目に「社会福祉」「子どもの保健」の2科目を合格した場合、2年目、3年目の筆記試験ではその2科目は免除として他の科目を受験できます。
- 筆記試験9科目全てに合格した場合に、実技試験を受験します。実技試験科目は、「音楽表現に関する技術」「造形表現に関する技術」「言語表現に関する技術」の3科目から2科目選択して受験します。
- 保育士試験は年2回実施されます。詳細は、以下の全国保育士養成協議会ホームページを参考にして下さい。
<http://hoyokyo.or.jp/exam/>
- 「児童福祉論」は、2021年度入学者より「児童・家庭福祉論」として開講されます。

社会福祉主事任用資格

1 資格の種類とその概要

福祉事務所現業員として任用される者に要求される資格(任用資格)です。社会福祉施設職員等の資格に準用されており、福祉関係施設・機関へ就職を希望する際に、この資格を取得していることが採用要件となっている場合があります。地方公務員の福祉職採用試験を受験する場合は、取得が求められます。

※任用資格とは

その資格があればその職業や職位として名乗ることができるものではなく、資格取得後にその資格名称の職に任用されて初めて効力を発揮する資格のことです。

2 資格取得の方法

大学等において「社会福祉法第19条第1項」に定められた「社会福祉に関する科目」のうち、3科目以上修めて卒業した場合に、取得することができます。本学の場合には、以下の必要科目の一覧のうち、法令上の指定科目3科目以上履修した上で、必要な申請を大学にした場合に、「社会福祉主事任用資格取得(見込)証明書」の発行を受けることができます。

3 必要科目の一覧

法令上の指定科目	本学での開講科目
社会福祉概論	「社会福祉原論Ⅰ」及び「社会福祉原論Ⅱ」
社会福祉事業史	
社会福祉援助技術論	ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅵ 全て※1、ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅴ 全て※2
社会福祉調査論	社会福祉調査
社会福祉施設経営論	福祉サービスの組織と経営
社会保障論	「社会保障論Ⅰ」及び「社会保障論Ⅱ」
公的扶助論	公的扶助論
児童福祉論	児童福祉論※1、児童・家庭福祉論※2
家庭福祉論	児童福祉論※1、児童・家庭福祉論※2
保育理論	
身体障害者福祉論	障害者福祉論
知的障害者福祉論	障害者福祉論
精神障害者保健福祉論	「精神保健」または「精神疾患とその治療」
老人福祉論	高齢者福祉論
医療社会事業論	
地域福祉論	「地域福祉論Ⅰ」及び「地域福祉論Ⅱ」
法学	「法学」または「権利擁護と成年後見制度」

法令上の指定科目	本学での開講科目
民法	
行政法	
経済学	
社会政策	
経済政策	
心理学	心理学
社会学	社会学
教育学	教育学
倫理学	
公衆衛生学	
医学一般	人体の構造と機能及び疾病
リハビリテーション論	
看護学	
介護概論	介護概論※1
栄養学	
家政学	

※ 1 : 2020年度までの入学者及び2021年度の2年次・3年次入学者、2022年度3年次入学者

※ 2 : 2021年度以降1年次入学者

なお本学開講科目において、「『科目名Ⅰ』及び『科目名Ⅱ』」と書いてある場合は、ⅠとⅡの両方履修することによって、指定科目1科目を履修したと見なされる。Ⅰのみでは認められない。

児童指導員任用資格

1 資格の種類とその概要

児童福祉施設で子どもを支援する児童指導員を任用する際に求められる資格(任用資格)です。児童養護施設や児童館などの児童福祉施設への就職を希望する際には、この資格が採用要件のひとつとされる場合が多いです。

2 資格取得の方法

大学の学部で、社会福祉学、心理学、教育学若しくは社会学を専修する学科またはこれらに相当する課程を修めて卒業した場合に取得できます。

本学「人間福祉心理学科」はこれに当てはまるため、卒業時に全員取得可能です。卒業(見込)時に必要な申請を大学にした場合に、「児童指導員任用資格取得(見込)証明書」の発行を受けられます。

知的障害者福祉司任用資格、身体障害者福祉司任用資格

1 資格の種類とその概要

知的障害者福祉司は、都道府県が設置する知的障害者更生相談所に必置の資格であり、知的障害者福祉法によって規定されています。身体障害者福祉司は、都道府県が設置する身体障害者更生相談所に必置の資格であり、身体障害者福祉法によって規定されています。いずれも福祉事務所にも配置可能とされており、「都道府県知事又は市町村長の補助機関である職員」、すなわち地方公務員の任用資格です。

2 資格取得の方法

社会福祉主事と同様、大学等において「社会福祉法第19条第1項」に定められた「社会福祉に関する科目」のうち、3科目以上修めて卒業した場合に、取得することができます。

必要科目は「社会福祉主事任用資格」と同様であり、つまり、「社会福祉主事任用資格」を取得した場合は、「知的障害者福祉司任用資格」「身体障害者福祉司任用資格」も同時に取得したことになります。よって本学では、この2資格について取得（見込）証明書の発行は行っていない。

臨床心理士

1 資格の名称

臨床心理士

2 資格の種類と概要

公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が実施する試験に合格し、認定を受けることで取得できる“心理専門職の証”となる資格です。

3 資格取得の方法

本資格を取得するためには、大学卒業後に①臨床心理士養成に関する指定大学院へ進学し、所定のカリキュラムを修了して“臨床心理士試験受験資格”を得ること、②臨床心理士試験に合格すること、が必要です。

本学の大学院は臨床心理士指定大学院ですので、積極的に進学を目指してください。

認定心理士

1 資格の名称

認定心理士

2 資格の種類

学会認定資格、申請により取得可能

3 資格の概要

大学学部において必要な心理学関連科目を十分に学習し、臨床心理学の基礎知識のほか、心理学実験や心理学研究に関するスキルを身につけていることを証明する資格です。

4 資格取得のための必要科目および履修条件について

「認定心理士資格取得に必要な指定科目との対照表」に従って必要な科目を履修します。

卒業時点で日本心理学会の所定の様式に従い申請を行う。4年生の終わりに説明会を実施するので出席して下さい。

5 認定心理士資格申請に必要な科目取得の条件

基 礎 科 目 (a)4単位以上(b)(c)合計8単位以上、このうち(c)が4単位以上^[注]

選 択 科 目 (d)から(h)のうち3領域以上から各領域4単位以上、合計16単位以上^[注]

そ の 他 (a)から(i)の科目から8単位以上

合 計 36単位以上

[注]基礎科目と選択科目の単位取得において、副次主題は単位の2分の1が認定の対象となる。また、選択科目には必ず基本主題を含むことにする。

6 認定心理士資格取得に必要な指定科目との対照表

2018年度以降に入学した者は、「本学の該当する科目：2018年度以降」の科目を参照すること。

2018年度より前に入学したものは「本学の該当する科目：2017年度まで」と「本学の該当する科目：2018年度以降」の両方の科目を参照すること。

なお、「本学の該当する科目：2018年度以降」の科目で※印がついているものは、※1：2018年度まで開講の科目と、※2：2019年度まで開講の科目があるので、注意すること。

科目領域	本学の該当する科目：2017年度まで	本学の該当する科目：2018年度以降
基礎科目		
(a)心理学概論		
基本主題	心理学(2)、心理学Ⅱ(2)	心理学(2)、心理学概論(2)
副次主題	心理療法概説(2)、臨床心理学概説(2)	臨床心理学概論(2)
(b)心理学研究法		
基本主題	心理学研究法Ⅰ(2)、心理学研究法Ⅲ(2)	心理学統計法(2)、心理学研究法Ⅰ(データ解析)(2)、心理学研究法Ⅱ(観察法・面接法・実験法)(2)
副次主題		
(c)心理学実験実習		
基本主題	心理学基礎実験(2)	心理学実験(2)
副次主題	心理検査技法Ⅰ(2)、心理検査技法Ⅱ(2)、人間行動観察実習(2)、質問紙調査法実習(2)	心理検査技法演習(2)、質問紙調査法(2)、心理演習(2)心理的アセスメント(2)
選択必修科目		
(d)知覚心理学・学習心理学		
基本主題	学習心理学(2)、認知心理学(2)	知覚・認知心理学(2)
副次主題		
(e)生理心理学・比較心理学		
基本主題	生理心理学(2)、神経心理学(2)	神経・生理心理学(2)
副次主題		
(f)教育心理学・発達心理学		
基本主題	教育心理学(2)、発達心理学(2)、青年心理学(2)	教育・学校心理学(2)、発達心理学(2)、青年心理学(2)
副次主題	教育カウンセリング(2)	
(g)臨床心理学・人格心理学		
基本主題	カウンセリングの理論(2)、人格心理学(2)、交流分析(2)、精神分析学(2)、カウンセリング実技の基本(2)、カウンセリングの実践(2)、絵画療法(1)、箱庭・コラージュ療法(1)、子どものプレイセラピー(1)、サイコドラマⅠ(1)、サイコドラマⅡ(1)、サイコドラマⅢ(1)、サイコドラマⅢ演習(1)、家族療法(2)、犯罪心理学(2)、臨床心理実習前演習(2)、臨床心理実習Ⅰ(2)、臨床心理実習Ⅱ(2)	感情・人格心理学(2)、交流分析(2)、精神分析学(2)、カウンセリングの実践(2)※1、子どものプレイセラピー(1)※2、サイコドラマⅠ(1)、サイコドラマⅡ(1)、サイコドラマⅢ(1)、サイコドラマⅢ演習(1)、心理学的支援法(2)、健康・医療心理学(2)、障害者・障害児心理学(2)、福祉心理学(2)、臨床心理実習前演習(2)※1、臨床心理実習Ⅰ(2)※2、臨床心理実習Ⅱ(2)※2
副次主題	精神保健(2)、精神医学(2)、臨床心理の倫理(2)	精神保健(2)、精神疾患とその治療(2)、臨床心理の倫理(2)※1

科目領域	本学の該当する科目：2017年度まで	本学の該当する科目：2018年度以降
(h) 社会心理学・産業心理学		
基本主題	社会心理学(2)、家族心理学(2)、産業組織心理学(2)	社会・集団・家族心理学(2)、産業・組織心理学(2)、家族心理学(2)、司法・犯罪心理学(2)
副次主題		
(i) 心理学関連科目、卒業論文・卒業研究		
卒業論文・卒業研究	卒業論文(4)、卒業演習Ⅰ(2)、卒業演習Ⅱ(2)、卒業演習Ⅲ(2)	卒業論文(4)、卒業演習Ⅰ(2)、卒業演習Ⅱ(2)、卒業演習Ⅲ(2)
その他の科目	キリスト教カウンセリング(2)	キリスト教カウンセリング(2)

※ 1：2018年度まで開講

※ 2：2019年度まで開講

児童心理司

1 資格の種類とその概要

児童相談所で、子どもや保護者などの相談に応じて、心理診断や心理療法、カウンセリング、助言指導などをする職員です。児童相談所は都道府県や指定都市、東京都内の特別区などが設置します。児童心理司という名称や職務は、厚生労働省が定める『児童相談所運営指針』「第2章 児童相談所の組織と職員」に記されています。

2 資格取得の方法

児童心理司という名称は児童福祉法に明記されていませんが、要件は児童福祉法第12条の3第2項第二号に定められていて、「大学で心理学を専修する学科又はこれに相当する課程を修めて卒業した者」となっています。心理学及び臨床心理学に関する科目を十分に履修する必要があります。本学では、任用資格の証明書を発行していません。

都道府県や指定都市、特別区などが設置する児童相談所に配置されるので、児童心理司は都道府県や指定都市、特別区などの地方公務員です。したがって、地方公務員として採用される必要があります。

宗教文化士

1 資格の名称

宗教文化士

2 資格の種類

民間資格、受験資格

3 資格の概要

大学で日本や世界の歴史と現状について学び、宗教への理解を深めた人が得られる資格です。大学で指定された科目を一定以上履修すると、受験資格が得られます。宗教文化教育推進センター（以下「センター」）が認定する民間資格です。

4 資格取得のための必要科目および履修条件について

(1) 科目の認定

- ① 学生が自分の取得した単位が到達目標に相当するかどうかをキリスト教人間学コース主任と相談して、センターに申し出ます。センターが判断して認定試験を受けられるかどうかを通知します。
- ② 受験する者は該当する科目に関わる部分の単位を取得したことを証明する書類(成績証明書、単位取得証明書等)を提出します。

(2) 到達目標と対応する科目例

1 教えや儀礼、神話を含む宗教文化の意味について理解ができる。

① 概論的な科目

宗教学、比較宗教学、宗教社会学、宗教人類学、宗教史学、宗教民俗学、宗教心理学、宗教現象学、宗教哲学などに相当する科目

・ 本学で対応する科目例

世界の宗教Ⅰ・Ⅱ、日本の宗教Ⅰ・Ⅱ、キリスト教概論Ⅰ・Ⅱ

② 宗教と文化の関わりを扱う科目

宗教と文学、宗教と芸術、宗教と美術、宗教と音楽といった科目

・ 本学で対応する科目例(人間福祉心理学科が履修出来ない科目も含む)

比較文化論、キリスト教美術特講、キリスト教文学特講

2 キリスト教、イスラーム、ヒンドゥー教、仏教、神道などの宗教伝統の基本的な事実について、一定の知識を得ることができる。

① 宗教史関係の科目

神道思想、神道史、仏教思想、仏教史、キリスト教思想、キリスト教史、イスラーム思想、イスラーム史、ユダヤ教史、ヒンドゥー教史といった科目。

・ 本学で対応する科目例

キリスト教の歴史Ⅰ、Ⅱ、キリスト教の信仰

② 比較宗教学、宗教社会学、宗教人類学、宗教史学などで、具体的な宗教の事例を扱っている科目

・ 本学で対応する科目例

聖書を読む、日本の宗教Ⅰ、Ⅱ、キリスト教倫理、キリスト教と生命倫理、食といのちと環境Ⅰ、Ⅱ、キリスト教の人間観Ⅰ、Ⅱ

3 現代人が直面する諸問題における宗教の役割について、公共の場で通用する見方ができることを目標とする。

現代宗教論、政治と宗教、宗教と社会、宗教と経済、宗教と倫理、宗教とジェンダー、死生学といった科目

① 現代宗教論・宗教と社会

・ 本学で対応する科目例

いのち学序説、食といのちと環境Ⅰ・Ⅱ、世界の宗教Ⅰ、Ⅱ

② 宗教とジェンダー、死生学、宗教と倫理

・ 本学で対応する科目例

人間の尊厳と人権、聖書に見るジェンダー、キリスト教の倫理、キリスト教と生命倫理、キリスト教と死生学

E 社会福祉領域の実習について

この項においては、社会福祉領域の実習として、社会福祉士のための実習をはじめいくつかの実習についての説明があります。入学年次によって内容が異なりますので、該当するところをよく読んでください。

E-1 社会福祉士のための実習

社会福祉領域の実習として、社会福祉士のための実習があります。入学した学年や年次によって、履修すべき科目名、履修するための要件などが異なるので、自分の該当する要件をよく理解して履修してください。

① 2022年度1年次入学者、2021年度1年次入学者、2022年度2年次編入学者対象(社会福祉士)

1 国のカリキュラムの改定

社会福祉士のためのカリキュラムは、4年制大学への入学者の場合、2021年度1年次入学者より大きく変わりました。指定科目の名称、実習の科目の数、実習時間、実習の個所数なども変わりました。よって、講義概要のこの項をよく読んでください。2023年度の4年次生とは、卒業までに求められる内容が異なります。

なお、国家試験の出題科目が変わるのは、2021年度1年次入学者が4年生になる2024年度からです。

2 社会福祉士の受験資格取得のための実習

本学に2022年度および2021年度に1年次に入学した学生、及び2022年度に2年次へ編入学した学生は、国の新カリキュラムに基づき、社会福祉士を目指すことになります。実習科目は「ソーシャルワーク実習Ⅰ」と「ソーシャルワーク実習Ⅱ」です。なお、旧カリキュラムの同名の科目で、中身が異なる科目との混同を避けるため、時間割や講義概要等では、「ソーシャルワーク実習Ⅰ(新)」と「ソーシャルワーク実習Ⅱ(新)」と(新)を付して記すことがあります。

3 前期科目を計画的に履修する必要性

履修モデルに沿って3年次に「ソーシャルワーク実習Ⅱ(新)」を履修する場合、3年次前期は実習関連科目と金曜日に開講される科目以外は履修できません。

4年次前期に、「ソーシャルワーク実習Ⅱ(新)」を履修する場合、実習日は公欠扱いとなり、月曜から木曜に開講される科目でも履修はできます。しかし、授業を欠席する回数が多くなると、授業の理解が不十分となる恐れがあります。このようなことから、特に前期に開講される科目は計画的に履修する必要があります。

4-1 ソーシャルワーク実習Ⅰ

社会福祉士の国家資格取得を目指す学生や、将来社会福祉の領域で働くことを目指す学生は、まずは「ソーシャルワーク実習Ⅰ(新)」を2年前期に履修することを目指しましょう。

- (1) 社会福祉士の受験資格を取得するために必要な実習科目です。1か所目の実習を行います。
- (2) 大学の近隣自治体の社会福祉協議会等で行う実習です。
- (3) 実習は概ね30時間行います(3～5時間×6日～10日)。

4-2 ソーシャルワーク実習Ⅰの履修条件

社会福祉士受験資格取得を目指し、「ソーシャルワーク実習Ⅱ(新)」の履修にすすむ場合と、「ソーシャルワーク実習Ⅰ(新)」の履修のみで、「ソーシャルワーク実習Ⅱ(新)」は履修しない場合とで、履修条件が異なります。表E-1の

科目の全ての履修条件をそろえる必要があります。

表 E-1 「ソーシャルワーク実習Ⅰ」「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の履修条件(1年次履修科目)

○＝ソーシャルワーク実習Ⅰ(新)のみ可能、

◎＝ソーシャルワーク実習Ⅱ(新)も可能で社会福祉士受験資格へ

*「良以上」とは、良、優、秀のこと。

		不可	可	良 以上	再履修等により履修条件を満たす場合の実習年次
1年 前期	ソーシャルワーク演習Ⅰ	×	×	○○	1年次に良以上の成績がとれなかった場合、2年次前期に再履修し「良」以上となれば3年次○、4年次◎
1年 前期	社会福祉原論Ⅰ	△ ※1	△ ※1	◎	1年次に良以上の成績がとれなかった場合、2年次前期に再履修し「良」以上となり、SW実習Ⅰ(新)が良以上で単位取得済みであれば、3年次◎。3年次前期に再履修し「良」以上となり、SW実習Ⅰ(新)が良以上で単位取得済みであれば4年次◎
1年 後期	ソーシャルワーク演習Ⅱ	×	×	○○	1年次に良以上の成績がとれなかった場合、2年次後期に再履修し「良」以上となれば3年次○、4年次◎
1年 後期	社会福祉原論Ⅱ	△ ※2	△ ※2	◎	1年次に良以上の成績がとれなかった場合、SW実習Ⅰ(新)が良以上で単位取得済みで、2年次後期に再履修し「良」以上となれば3年次◎
1年 後期	社会福祉入門	×	○	◎	1年次に良以上の成績がとれなかった場合、2年次後期に再履修し「良」以上となれば3年次○、4年次◎

※1 「社会福祉原論Ⅰ」は、履修登録をして、十分出席して試験を受けた者のみ、「不可」であっても、「社会福祉原論Ⅰ」(再履修)と「ソーシャルワーク実習Ⅰ(新)」の並行履修を認める。他の条件がそろっている場合には、後述の「ソーシャルワーク演習Ⅲ」の並行履修も認める。

※2 「社会福祉原論Ⅱ」は、履修登録をして、十分出席して試験を受けた者のみ、「不可」であっても、「ソーシャルワーク実習Ⅰ(新)」の履修を認める。他の条件がそろっている場合には、後述の「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」の並行履修も認める。

*全ての科目の履修条件がそろえる必要がある。

4-3 ソーシャルワーク実習Ⅰの単位取得条件

- (1) 大学で行うゼミ形式の「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ(新)」を並行履修します。
- (2) 必要とされる実習時間数以上の実習を行うこと、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ(新)」(ゼミ)の出席、実習目標の設定、実習記録の提出、実習報告書の提出が必要です。

5-1 ソーシャルワーク実習Ⅱ

社会福祉士の受験資格取得のためには、「ソーシャルワーク実習Ⅱ(新)」の履修が必要です。

- (1) 社会福祉士の受験資格を取得するために必要な実習科目です。2か所目の実習を行います。
- (2) 高齢者福祉、障がい者福祉(知的障がい、身体障がい)、児童福祉のいずれかの分野で行います。
- (3) 実習は概ね210時間行います(【7～8時間】×【週4日】×【7～8週間】)。

5-2 ソーシャルワーク演習Ⅲの履修条件

「ソーシャルワーク実習Ⅱ(新)」を履修する前年度の前期に原則として「ソーシャルワーク演習Ⅲ」を履修します。そのためには、表 E-2の科目の全ての履修条件をそろえる必要があります。この要件は、表 E-1のソーシャルワーク実習Ⅰ(新)の履修条件とは異なるため、確認してください。

表 E-2 「ソーシャルワーク演習Ⅲ」の履修条件

*「良以上」とは、良、優、秀のこと。

		不可	可	良 以上	再履修により「ソーシャルワーク演習Ⅲ」を履修する時期
1年 前期	ソーシャルワーク演習Ⅰ	×	×	◎	1年次に良以上の成績がとれなかった場合、2年次前期に再履修し「良」以上となれば3年次履修可能
1年 前期	社会福祉原論Ⅰ	△ ※1	△ ※1	◎	1年次に良以上の成績がとれなかった場合、2年次前期に再履修で「良」以上の成績を目指していれば、「ソーシャルワーク演習Ⅲ」は並行履修可能
1年 後期	ソーシャルワーク演習Ⅱ	×	×	◎	1年次に良以上の成績がとれなかった場合、2年次後期に再履修し「良」以上となれば3年次履修可能
1年 後期	社会福祉原論Ⅱ	△ ※2	△ ※2	◎	1年次に良以上の成績がとれなかった場合、2年次後期に再履修で「良」以上の成績を目指す予定であれば、2年次「ソーシャルワーク演習Ⅲ」は履修可能。後期に社会福祉原論Ⅱを、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（新）と並行履修すること。
1年 後期	社会福祉入門	×	×	◎	1年次に良以上の成績がとれなかった場合、2年次後期に再履修し「良」以上となれば3年次履修可能

※1 履修登録をして、十分出席して試験を受けた者に限る。

※2 履修登録をして、十分出席して試験を受けた者に限る。

*全ての科目の履修条件がそろえる必要がある。

*「社会福祉原論Ⅰ」と「ソーシャルワーク演習Ⅲ」との並行履修は認められる。また、「社会福祉原論Ⅱ」と「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（新）」の並行履修は認められる。しかし、再履修の結果「良」以上の成績がとれなかった場合には、「ソーシャルワーク実習Ⅱ（新）」の履修はできない。

5-3 ソーシャルワーク実習Ⅱの履修条件

「ソーシャルワーク実習Ⅱ（新）」の履修条件は、4-2で述べた1年次の履修科目「ソーシャルワーク演習Ⅰ、社会福祉原論Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、社会福祉原論Ⅱ、社会福祉入門」が全て「良」以上の成績で単位取得できていることの他、2年次以降に表 E-3の科目の全ての条件をそろえる必要があります。

表 E-3 「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の履修条件(2年次以降履修科目)

*「良以上」とは、良、優、秀のこと。

		不可	可	良 以上	再履修により「ソーシャルワーク実習Ⅱ」を履修する時期
2年 前期	ソーシャルワーク演習Ⅲ	×	×	◎	欄外の注を確認すること。
2年 前期	ソーシャルワーク実習Ⅰ（新）	×	×	◎	2年次に良以上の成績がとれなかった場合、3年次前期に再履修し「良」以上となれば4年次◎
2年 前期	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（新）	×	×	◎	2年次に良以上の成績がとれなかった場合、3年次前期に再履修し「良」以上となれば4年次◎
2年 前期	社会福祉の基礎	×	×	◎	2年次に良以上の成績がとれなかった場合、3年次前期に再履修し「良」以上となれば4年次◎
2年 後期	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（新）	×	×	◎	2年次に良以上の成績がとれなかった場合、3年次後期に再履修し「良」以上となれば4年次◎
2年 後期	「ソーシャルワーク実習Ⅱ（新）」で実習を行う分野の科目〔高齢者福祉論、障害者福祉論、児童・家庭福祉論のいずれか〕	×	◎	◎	2年次に単位取得できなかった場合、3年次後期に単位取得すれば4年次◎

注) 2年前期(あるいは3年前期)に「ソーシャルワーク演習Ⅲ」を履修しはじめていても、2年前期(あるいは3年前期)の「社会福祉の基礎」が「良」以上の成績で単位取得できなかった場合、2年後期(あるいは3年後期)の「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（新）」を履修することができません。

- ① 2年次にそのような状況になった場合、3年前期で「社会福祉の基礎」を再履修する必要があります。
- ② 再履修で「良」以上の成績で単位取得できた場合に、3年後期に「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（新）」を履修することができます。

5-4 ソーシャルワーク実習Ⅱの実習分野を決めるプロセス

「ソーシャルワーク演習Ⅲ」(2年前期あるいは3年前期)の授業で、「ソーシャルワーク実習Ⅱ（新）」に向けての準備を行います。

- (1) 「ソーシャルワーク実習Ⅱ（新）」で選択する各分野〈高齢者福祉、障がい者福祉(知的障がい・身体障がい)、児童福祉〉の実習について説明します。
- (2) 希望分野の調査を行います。
- (3) 選択に迷いのある学生、何らかの配慮を必要とする学生、分野ごとに人数調整が必要な場合に個別面接を行います。
- (4) 同年度後期には「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（新）」を履修し、実習分野に分かれたゼミで学びを深めます。

5-5 ソーシャルワーク実習Ⅱの単位取得条件

- (1) 大学で行うゼミ形式の「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（新）」、「ソーシャルワーク実習指導Ⅳ（新）」を並行履修します。
- (2) 「ソーシャルワーク演習Ⅳ」を並行履修します。この科目は、ソーシャルワーク実習Ⅱを行う年次の4月から5月（実習前）に集中して開講します。すべて出席することが求められます。
- (3) 大学で行うゼミ形式の「ソーシャルワーク実習指導Ⅴ」を、同年度の後期に履修します。
- (4) 必要とされる実習時間以上の実習を行うこと、「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（新）」、「同Ⅳ（新）」及び「同Ⅴ」の出席、実習目標の設定、実習記録の提出、実習報告書の提出が必要です。

5-6 ソーシャルワーク実習Ⅱを4年次に履修するときの関連科目の履修時期

ソーシャルワーク実習Ⅱを4年次に履修するときの関連科目の履修時期は以下のとおりです。

表 E-4 ソーシャルワーク実習Ⅱを4年次に履修するときの関連科目の履修時期

3年前期	ソーシャルワーク演習Ⅲ *例外あり
3年後期	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（新）
4年前期	ソーシャルワーク実習Ⅱ（新）
4年前期	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（新）、ソーシャルワーク実習指導Ⅳ（新）
4年前期	ソーシャルワーク演習Ⅳ
4年後期	ソーシャルワーク実習指導Ⅴ

* 履修条件となっている科目を再履修してもなおいずれかの科目の成績が「可」あるいは「不可」の者は、4年間で国家資格の受験資格取得のための実習や実習指導関連科目を履修し、卒業することは不可能となる。

5-7 コース変更をした学生の特例（ソーシャルワーク演習Ⅲの履修時期）

原則として1年前期に「ソーシャルワーク演習Ⅰ」を「良」以上の成績で単位取得していなければ、2年次に「ソーシャルワーク演習Ⅲ」を履修することができません。ただし、次の要件を満たした場合に限り、2年前期に「ソーシャルワーク演習Ⅰ」と「ソーシャルワーク演習Ⅲ」の並行履修を認めます。

- (1) 1年前期(7月)のコース選択個別面談で国家資格取得の意思表示をする。
- (2) 1年後期に「ソーシャルワーク演習Ⅱ」を「良」以上の成績で単位取得する。

- (3) 1年後期の「社会福祉入門」を「優」以上の成績で単位取得する。

② 2020年度までの1年次入学者及び2021年度までの2年次、3年次編入学者対象(社会福祉士)

1 社会福祉士の受験資格取得のための実習

本学の2020年度までの1年次入学者及び2021年度までに編入学した学生は、国の2021年改定前の社会福祉士カリキュラムに基づき、社会福祉士を目指すことになります。実習科目は「ソーシャルワーク実習Ⅰ」です。

2 前期科目を計画的に履修する必要性

履修モデルに沿って3年次に「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を履修する場合、3年次前期は実習関連科目と金曜日に開講される科目以外は履修できません。

4年次前期に、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を履修する場合、実習日は公欠扱いとなり、月曜から木曜に開講される科目でも履修はできません。しかし、授業を欠席する回数が多くなると、授業の理解が不十分となる恐れがあります。このようなことから、特に前期に開講される科目は計画的に履修する必要があります。

3-1 ソーシャルワーク実習Ⅰ

- (1) 社会福祉士の受験資格を取得するために必要な実習です。
- (2) 高齢者福祉、障がい者福祉(知的障がい、身体障がい)、児童福祉のいずれかの分野で行う実習です。
- (3) 実習は概ね180時間行います(7～8時間×週4日×6～7週(週5日の場合もあります。インターバルが入ることがあります))。

3-2 ソーシャルワーク実習Ⅰの履修条件

「ソーシャルワーク実習Ⅰ」は、3年次に履修する場合と、4年次の履修となる場合があります。

ソーシャルワーク実習Ⅰを履修するためには、原則として実習の前年度の前期に「ソーシャルワーク演習Ⅲ」を、実習の前年度の後期に「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」を履修する必要があります。

3-3 ソーシャルワーク演習Ⅲの履修条件

「ソーシャルワーク演習Ⅲ」を実習前年度前期に履修するには、表 E-5 の科目の全ての履修条件をそろえる必要があります。

表 E-5 「ソーシャルワーク演習Ⅲ」の履修条件

*「良以上」とは、良、優、秀のこと。

		不可	可	良以上	再履修により「ソーシャルワーク演習Ⅲ」を履修する時期
1年前期	ソーシャルワーク演習Ⅰ	×	×	○	1年次に良以上の成績がとれなかった場合、2年次前期に再履修し「良」以上となれば3年次履修可能
1年前期	社会福祉原論Ⅰ	△※1	△※1	○	1年次に良以上の成績がとれなかった場合、2年次前期に再履修で「良」以上の成績を目指していれば、「ソーシャルワーク演習Ⅲ」は並行履修可能
1年後期	ソーシャルワーク演習Ⅱ	×	×	○	1年次に良以上の成績がとれなかった場合、2年次後期に再履修し「良」以上となれば3年次履修可能
1年後期	社会福祉原論Ⅱ	△※2	△※2	○	1年次に良以上の成績がとれなかった場合、2年次後期に再履修で「良」以上の成績を目指す予定であれば、「ソーシャルワーク演習Ⅲ」は履修可能。社会福祉原論Ⅱを、ソーシャルワーク自習指導Ⅰと並行履修すること。
1年後期	社会福祉入門	×	×	○	1年次に良以上の成績がとれなかった場合、2年次後期に再履修し「良」以上となれば3年次履修可能

※1 履修登録をして、十分出席をして試験を受けた者に限る。

※2 履修登録をして、十分出席をして試験を受けた者に限る。

*全ての科目の履修条件がそろう必要がある。

*「社会福祉原論Ⅰ」と「ソーシャルワーク演習Ⅲ」との並行履修は認められる。また、「社会福祉原論Ⅱ」と「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」との並行履修は認められる。しかし、再履修の結果「良」以上の成績がとれなかった場合には、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の履修はできない。

3-4 ソーシャルワーク実習Ⅰの履修条件

「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の履修条件は、2-3で述べた1年次の履修科目「ソーシャルワーク演習Ⅰ、社会福祉原論Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、社会福祉原論Ⅱ、社会福祉入門」が全て「良」以上の成績で単位取得できていること、2年次以降に、表 E-6 の科目の全ての条件をそろえる必要があります。

表 E-6 「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の履修条件(2年次以降履修科目)

*「良以上」とは、良、優、秀のこと。

		不可	可	良以上	再履修により「ソーシャルワーク実習」を履修する時期
2年前期	ソーシャルワーク演習Ⅲ	×	×	○	2年次に良以上の成績がとれなかった場合、3年次前期に再履修し「良」以上となれば4年次履修可能
2年前期	社会福祉の基礎	×	×	○	2年次に良以上の成績がとれなかった場合、3年次前期に再履修し「良」以上となれば4年次履修可能
2年後期	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	×	×	○	2年次に良以上の成績がとれなかった場合、3年次後期に再履修し「良」以上となれば4年次履修可能
2年後期	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」で実習を行う分野の科目[高齢者福祉論、障害者福祉論、児童福祉論のいずれか]	×	○	○	2年次に単位取得できなかった場合、3年次後期に単位取得すれば4年次履修可能

3-5 ソーシャルワーク実習Ⅰの実習分野を決めるプロセス

「ソーシャルワーク演習Ⅲ」(2年前期あるいは3年前期)の授業で、「ソーシャルワーク実習」に向けての準備を行います。

- (1) 「ソーシャルワーク実習」で選択する各分野(高齢者福祉、障がい者福祉(知的障がい・身体障がい)、児童福祉)の実習について説明します。
- (2) 希望分野の調査を行います。
- (3) 選択に迷いのある学生、何らかの配慮を必要とする学生、分野ごとに人数調整が必要な場合に個別面接を行います。
- (4) 同年度後期には「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」を履修し、実習分野に分かれたゼミで学びを深めます。

3-6 ソーシャルワーク実習Ⅰの単位取得条件

- (1) 大学で行うゼミ形式の「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」、「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」を並行履修します。
- (2) 「ソーシャルワーク演習Ⅳ」を並行履修します。この科目は、実習を行う年次の4月から5月(実習前)に集中して開講します。すべて出席が求められます。
- (3) 大学で行うゼミ形式の「ソーシャルワーク実習指導Ⅳ」を、同年度の後期に履修します。
- (4) 必要とされる実習時間以上の実習を行うこと、「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」「同Ⅲ」及び「同Ⅳ」の出席、実習目標の設定、実習記録の提出、実習報告書の提出が必要です。

3-7 ソーシャルワーク実習Ⅰを4年次に履修するときの関連科目の履修時期

4年次にソーシャルワーク実習Ⅰを履修することとなった場合の関係科目の履修時期は以下のとおりです。

表 E-7 ソーシャルワーク実習Ⅰを4年次に履修するときの関連科目の履修時期

3年前期	ソーシャルワーク演習Ⅲ
3年後期	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
4年前期	ソーシャルワーク実習Ⅰ
4年前期	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ
4年前期	ソーシャルワーク演習Ⅳ
4年後期	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ

*履修条件となっている科目を再履修してもなおいずれかの科目の成績が「可」あるいは「不可」の者は、4年間で国家資格の受験資格取得のための実習や実習指導関連科目を履修し、卒業することは不可能となる。

3-8 コース変更をした学生の特例(ソーシャルワーク演習Ⅲの履修時期)

原則として1年前期に「ソーシャルワーク演習Ⅰ」を「良」以上の成績で単位取得していなければ、2年次に「ソーシャルワーク演習Ⅲ」を履修することができません。ただし、次の要件を満たした場合に限り、2年前期に「ソーシャルワーク演習Ⅰ」と「ソーシャルワーク演習Ⅲ」の並行履修を認めます。

- (1) 1年前期(7月)のコース選択個別面談で国家資格取得の意思表示をする。
- (2) 1年次後期の「社会福祉入門」の成績が「優」以上であること。

3-9 「ソーシャルワーク演習Ⅲ」履修者の「社会福祉の基礎」の成績に関する特例

2年前期(あるいは3年前期)に「ソーシャルワーク演習Ⅲ」を履修しはじめていても、2年前期(あるいは3年前期)の「社会福祉の基礎」が「良」以上の成績で単位取得できなかった場合、2年後期(あるいは3年後期)の「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」を履修することができません。

- (1) 2年次にそのような状況になった場合、3年前期で「社会福祉の基礎」を再履修することになります。
- (2) 「社会福祉の基礎」を再履修して「良」以上の成績で単位取得できた場合、3年後期に「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」を履修できます。

E-2 精神保健福祉士のための実習

③ 2021年度1年次入学者、2022年度2年次編入学者対象(精神保健福祉士)

1 精神保健福祉士の受験資格取得のための実習

本学の2021年度までの1年次入学者及び2022年度までに2年次へ編入学した学生は、社会福祉士受験資格取得のためのカリキュラムに沿って履修した上であれば、精神保健福祉士を目指すことができます。実習科目は「精神保健福祉実習」です。

2 国のカリキュラムの改定

精神保健福祉士のためのカリキュラムは、4年制大学への入学者の場合、2021年度1年次入学者より大きく変わりました。指定科目の名称、科目の数、社会福祉士との共通科目、本学において履修しなければならない科目の名称や数も変わりました。よって、講義概要のこの項をよく読んでください。2022年度の3年次、4年次生とは、卒業までに求

められる内容が異なります。

なお、国家試験の出題科目が変わるのは、2021年度1年次入学者が4年生になる2024年度からです。

3 前期科目を計画的に履修する必要性

4年次に「精神保健福祉実習」を履修する場合、実習日は公欠扱いとなり、月曜から木曜に開講される科目でも履修はできます。しかし、授業を欠席する回数が多くなると、授業の理解が不十分となる恐れがあります。このようなことから、特に2～3年次の前期に開講される科目は計画的に履修する必要があります。

4 精神保健福祉実習

- (1) 精神保健福祉士の受験資格を取得するために必要な実習です。
- (2) 精神科病院および精神障害者を主に支援する障害福祉サービス事業所等の2か所以上で実習を行います。
- (3) 実習は210時間必要です。ただし、本学のカリキュラムでは社会福祉士のための実習を終えている学生が行くため、そのうちの60時間が免除となります。よって、150時間の実習を行います。原則、7～8時間×週4日×5～6週です。週5日の場合もあります。2か所行きますので、時期は不確定です。精神科病院における実習を90時間以上行うことが求められています。

5 精神保健福祉実習の履修条件

精神保健福祉実習の履修条件は、以下の表 E-8のとおりです。

表 E-8 精神保健福祉士実習を履修する条件

〈1年次科目〉 社会福祉原論Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅰ 社会福祉原論Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅱ 社会福祉入門 〈2年次科目〉 ソーシャルワーク演習Ⅲ 社会福祉の基礎 ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ 〈3年次科目〉 ソーシャルワーク演習Ⅳ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	3年前期が修了した段階で、左記の14科目すべてが「良」以上の成績で、かつ、12科目以上が「優」の成績で単位取得済みであること。
精神保健福祉士指定科目の「専門科目」6科目 〔精神疾患とその治療、精神保健、精神保健福祉の原理、精神保健福祉制度論、ソーシャルワークの理論と方法（専門）、精神障害リハビリテーション論〕	開講年度に注意して履修すること。3年次終了時までに履修していない科目数が2科目以下であること。
3年次前期のアンケート調査	期限内に「希望する」で回答
3年次前期の事前説明会	出席
事前説明会後のレポート	期限内に提出
選抜試験	希望人数により8月に実施
社会福祉領域教授会の審議	決定、後期開始前に通知あるいは掲示

6 精神保健福祉実習の単位取得条件

- (1) 3年後期に「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ」を履修し、「良」以上の成績で単位取得します。

- (2) 大学で行うゼミ形式の「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅲ」を4年次前期に並行履修します。
- (3) 「精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ」を4年次前期に並行履修します。
- (4) 「精神保健福祉援助演習(専門)Ⅲ」を4年次後期に履修します。
- (5) 必要とされる実習時間の実習を行うこと、実習指導Ⅱ及び同Ⅲ、演習(専門)Ⅱ、Ⅲの出席、2か所の実習先それぞれについて、実習目標の設定、実習記録の提出、実習報告書の提出が必要です。

④ 2020年度までの1年次入学者及び2021年度までの2年次編入学者対象(精神保健福祉士)

1 精神保健福祉士の受験資格取得のための実習

本学の2020年度までの1年次入学者及び2021年度までの2年次編入学者は、社会福祉士受験資格取得のためのカリキュラムに沿って履修した上で、精神保健福祉士を目指すことができます。国の2021年改定前の社会福祉士カリキュラムに基づき、精神保健福祉士を目指すことになります。実習科目は「精神保健福祉実習」です。

2 前期科目を計画的に履修する必要性

4年次に「精神保健福祉実習」を履修する場合、実習日は公欠扱いとなり、月曜から木曜に開講される科目でも履修はできません。しかし、授業を欠席する回数が多くなると、授業の理解が不十分となる恐れがあります。このようなことから、特に前期に開講される科目は計画的に履修する必要があります。

3 精神保健福祉実習

- (1) 精神保健福祉士の受験資格を取得するために必要な実習です。
- (2) 精神科病院および精神障害者を主に支援する障害福祉サービス事業所等の2か所以上で実習を行います。
- (3) 実習は210時間必要です。ただし、本学のカリキュラムでは社会福祉士のための実習を終えている学生が行くため、そのうちの60時間が免除となります。よって、150時間の実習を行います。(7～8時間×週4日×5～6週(週5日の場合もあります。2か所行きますので、時期は不確定です)。精神科病院における実習を90時間以上行うことが求められています。

4 精神保健福祉実習の履修条件

精神保健福祉実習の履修条件は、以下の表 E-9のとおりです。

表 E-9 精神保健福祉士実習を履修する条件

<1年次科目> 社会福祉原論Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅰ 社会福祉原論Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅱ 社会福祉入門 <2年次科目> ソーシャルワーク演習Ⅲ 社会福祉の基礎 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ <3年次科目> ソーシャルワーク演習Ⅳ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3年前期が修了した段階で、左記の12科目すべてが「良」以上の成績で、かつ、9科目以上が「優」の成績で単位取得済みであること。
--	--

精神保健福祉士指定科目の「専門科目」6科目 〔精神疾患とその治療、精神保健、精神保健福祉相談援助の基盤（専門）、精神保健福祉に関する制度とサービス、精神障害者の生活支援システム、精神保健福祉の理論と相談援助の展開〕	開講年度に注意して履修すること。3年次終了時までに履修していない科目数が2科目以下であること。
3年次前期のアンケート調査	期限内に「希望する」で回答
3年次前期の事前説明会	出席
事前説明会後のレポート	期限内に提出
選抜試験	希望人数により8月に実施
社会福祉領域教授会の審議	決定、後期開始前に通知あるいは掲示

5 精神保健福祉実習の単位取得条件

- (1) 3年後期に「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」を履修し、「良」以上の成績で単位取得します。
- (2) 大学で行うゼミ形式の「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅲ」を4年次前期に並行履修します。
- (3) 「精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ」を4年次前期に並行履修します。
- (4) 「精神保健福祉援助演習（専門）Ⅱ」を4年次後期に履修します。
- (5) 必要とされる実習時間の実習を行うこと、実習指導Ⅱ及び同Ⅲ、演習（専門）Ⅰ、Ⅱの出席、2か所の実習先それぞれについて、実習目標の設定、実習記録の提出、実習報告書の提出が必要です。

E-3 その他の実習

⑤ 2020年度1年次入学者、2021年度までの2年次編入学者 （ソーシャルワーク実習Ⅱ）

1 ソーシャルワーク実習Ⅱ

- (1) 国家資格とは関係のない実習科目です。
- (2) 対象となる学年は、2019年度1年次入学者、2020年度1年次入学者、2021年度までの2年次編入学者です。
- (3) 3年次に「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を履修し、さらに特定の機関での実習を希望する者が履修します。
- (4) 児童相談所、子ども家庭支援センター、社会福祉協議会、病院（精神科病院以外）、国内の国際機関等における実習です。
- (5) 3年後期から4年次に、金曜午後の時間帯に予定されるゼミ（あるいは個別指導）に出席します。
- (6) 4年次に実習先から指定された日程で、約10日間の実習を行います。日程は11月、12月になることもあります。
- (7) 実習目標の設定、実習記録の提出、実習報告書の提出が必要です。

⑥ 2020年度1年次入学者、2021年度までの2年次編入学者 （ソーシャルワーク実習Ⅲ）

2 ソーシャルワーク実習Ⅲ

- (1) 国家資格とは関係のない実習科目です。
- (2) 対象となる学年は、2019年度1年次入学者、2020年度1年次入学者、2021年度までの2年次編入学者です。
- (3) 3年次、あるいは4年次にソーシャルワーク実習Ⅲを行います。

- (4) 「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の履修条件を満たしている必要があります。
- (5) 約24日間の実習を行います。
- (6) 並行して金曜に開講されるゼミ(あるいは個別指導)に出席します。
- (7) 「ソーシャルワーク演習Ⅳ」を並行履修します。
- (8) 同年度後期に「「ソーシャルワーク実習指導Ⅳ」の履修か、個別指導を受けます。
- (9) 必要とされる実習時間以上の実習を行うこと、ゼミ(あるいは個別指導)の出席、実習目標の設定、実習記録の提出、実習報告書の提出が必要です。

⑦ 2021年度以降の1年次入学者、2022年度以降の編入学者 (ソーシャルワーク現場体験実習)

3 ソーシャルワーク現場体験実習

- (1) 国家資格とは関係のない実習科目です。
- (2) 対象となる学年は、2021年度以降の1年次入学者、2022年度以降の編入学者です。
- (3) 3年次、あるいは4年次にソーシャルワーク現場体験実習を行います。
- (4) 「ソーシャルワーク実習Ⅱ(新)」の履修条件を満たしている必要があります。
- (5) 指定された施設・機関で、概ね210時間の実習を行います。
- (6) 実習と並行して金曜に開講されるゼミ(あるいは個別指導)に出席します。
- (7) 「ソーシャルワーク演習Ⅳ」を並行履修します。
- (8) 同年度後期に「「ソーシャルワーク実習指導Ⅴ」の履修か、個別指導を受けます。
- (9) 必要とされる実習時間以上の実習を行うこと、ゼミ(あるいは個別指導)の出席、実習目標の設定、実習記録の提出、実習報告書の提出が必要です。

⑧ 2021年度1年次入学者及び2022年度2年次の編入学者

4 上級ソーシャルワーク実習

- (1) 「上級ソーシャルワーク実習」は、2024年度のみ開講されます。
- (2) 対象の学生に対して、2023年度の「ソーシャルワーク演習Ⅲ」の授業内で説明します。

F 公認心理師の演習・実習について

1. 公認心理師資格取得のために必要な演習・実習

公認心理師資格の取得を目指すために必要な演習・実習科目として、「心理演習」「心理実習Ⅰ」「心理実習Ⅱ」があります。

本学では、社会福祉士と公認心理師の両資格を取得することはできないので、履修希望者は、社会福祉士のための実習を履修することはできません。

履修年次は、2年次後期に「心理演習」と「心理実習Ⅰ」、3年次に通年で「心理実習Ⅱ」を履修します。なお、3年次後期から4年次にかけての履修も可能です。ただし、「心理演習」と「心理実習Ⅰ」は同じ年に履修してください。また、履修登録は履修希望年次の前期に必ず行うようにしてください。前期に履修登録をしていない場合にはいかなる理由があっても当該年度の履修はできませんので、十分に注意してください。

「心理演習」「心理実習Ⅰ」「心理実習Ⅱ」の履修定員は30名です。

「心理実習Ⅰ」「心理実習Ⅱ」の実習時間数は80時間以上です。

2. 履修条件

(1) 「心理演習」と「心理実習Ⅰ」を履修するためには、以下の基準をすべて満たすことが条件となります。

(a) 当該年度前期開講科目までで臨床心理系科目(別表F-1参照)を20単位以上取得

(b) 2023年度前期までの全履修科目のGPA 2.40以上

* 当該年度夏期集中講義の科目は取得単位およびGPA換算に含まれません。

(c) 「心理学的支援法」「臨床心理学概論」の2科目に関して「良」以上の成績での単位取得

もし、履修希望者の中で上記の基準を満たしている人数が履修定員の30名を超えた場合は、GPA上位30名を選抜します。よって、基準を満たしていても、「心理演習」「心理実習Ⅰ」が履修できない場合があります。

別表F-1 GPA算出に使用する臨床心理の科目

	授 業 科 目	単位	履修年次 目安
科 教 目 養	心理学	2	1・2
	心理学概論	2	1・2
総 合 人 間 学 コ ア 科 目 群	教育心理学	2	2
	発達心理学	2	2
	カウンセリング実技の基本	2	2
	心理学研究法Ⅰ(データ解析)	2	2
	心理的アセスメント	2	2・3・4
	心理学実験	2	2
(子 ども 支 援 系) 総 合 人 間 学 キ ャ リ ア 形 成 科 目 群	障害者・障害児心理学	2	2
	子どものプレイセラピー (2019まで開講) ※旧カリ科目	2	3・4 ★
	プレイセラピーの理論と実際 ※新カリ科目	1	3・4 ★
	子どものグリーフワーク (2019まで開講、2021年より奇数年隔年)	1	3・4 ★
	教育・学校心理学	2	2・3・4
(臨 床 心 理 系) 総 合 人 間 学 キ ャ リ ア 形 成 科 目 群	家族心理学	2	2・3・4
	臨床心理フレッシュマンゼミ	2	1
	心理学的支援法	2	1
	公認心理師の職責	2	2・3・4
	心理療法演習	2	2・3・4

	授 業 科 目	単位	履修年次 目安	
総合人間学キャリア形成科目群(臨床心理系)	青年心理学	2	1・2・3・4	
	心理学統計法	2	1	
	質的研究法	2	2・3・4	
	心理学研究法Ⅰ(データ解析)	2	2	
	質問紙調査法	2	3	★
	心理学研究法Ⅱ(観察法・面接法・実験法)	2	3・4	★
	心理的アセスメント	2	2・3・4	
	心理検査技法演習	2	2・3・4	
	学習・言語心理学	2	2・3・4	
	知覚・認知心理学	2	2・3・4	
	生理心理学	2	2・3・4	
	神経・生理心理学	2	2・3・4	
	臨床心理学概論	2	1・2	
	サイコドラマⅠ	1	2・3・4	
	サイコドラマⅡ	1	2・3・4	
	サイコドラマⅢ	1	2・3・4	★
	サイコドラマⅢ演習	1	2・3・4	★
	感情・人格心理学	2	2・3・4	
	交流分析	2	2・3・4	
	社会・集団・家族心理学	2	2・3・4	
	産業・組織心理学	2	2・3・4	
	精神分析学	2	2・3・4	
	人体の構造と機能及び疾病	2	2	
	精神疾患とその治療	2	2・3・4	
	健康・医療心理学 ※新カリ科目	2	2・3・4	
	福祉心理学	2	3・4	★
	司法・犯罪心理学	2	2・3・4	
	関係行政論	2	2	
	心理演習 ※新カリ科目	2	2	
	臨床心理特講 A(大学院進学支援講座)	1	2・3・4	

3年後期に履修する学生の基準でもありますので、2年次で履修できない科目(★印)も含まれています。

(2) 「心理実習Ⅱ」に進むための条件

「心理実習Ⅰ」の履修者が「心理実習Ⅱ」に進むためには、以下の要件を満たす必要があります。

①「心理演習」「心理実習Ⅰ」の成績が良以上であること

②「心理実習Ⅰ」の出席状況

- ・「心理実習Ⅰ」に関して、原則として、欠席を2回以上した場合は、「心理実習Ⅱ」の履修が認められません。
- ・遅刻は2回で欠席1回扱いとします。
- ・また欠席1回の場合も、公認心理師資格に必要な実習時間の要件を満たすために課題を課します。
- * 国家資格の専門職を目指す実習生として、自身の心身の健康のセルフケアと日常生活の自己管理を意識して行うようにしてください。

③「心理実習Ⅱ」の受講態度

- ・実習生としての動機づけの明確さ、グループ活動への主体的な参加、グループでの協調的な取り組み、心身の体調管理を行えること

☆上記要件を基準とし、公認心理師資格養成に関わる教員の会議で検討の上、「心理実習Ⅱ」の履修の可否を決定します。

＊公認心理師の実習としては、「心理実習Ⅰ」「心理実習Ⅱ」の両方の単位が必要です。

「心理実習Ⅱ」の履修が認められなかった場合、公認心理師資格取得はできません。

＊「心理実習Ⅰ・Ⅱ」の実習費は、定められた期限内に支払いを済ませてください。

収められた実習費に関しては、いかなる場合においても返金は認められません。

3. 「心理実習Ⅰ」「心理実習Ⅱ」の履修中止条件

①実習時間が80時間に満たない場合

②実習期間中に以下の状態が生じた場合

ア 重大なルール違反

イ 利用者への加害行為・人権侵害行為

ウ 守秘義務違反(公認心理師法第41条秘密保持義務)

エ 連携義務違反(公認心理師法第42条)

オ 信用失墜行為(公認心理師法第40条)

カ 心身の事由による実習の継続困難

＊アからオに関しては、次年度以降の再履修は認めない。

＊カに関しては、心身の状態が改善した上で、面接等によって再履修の可否を判断する。

G 卒業論文について

卒業論文は、大学における勉強のまとめとして、一定のテーマについて研究をし、それをまとめて発表できる能力が示されるものでなくてはならない。

本学においては、卒業論文執筆は選択である。自分の卒業論文のテーマは、受講する演習などに関連するものであることが望ましく、指導教員とよく相談の上、論文を執筆する。

卒業論文執筆を希望する学生は、定められた期日までに卒業論文執筆希望を学生支援センターに提出し、教授会はそれを承認し、指導教授を決める。

卒業論文執筆にあたっては、毎週あるいは定期的に一定の時間、指導教員のもとで指導を受ける。卒業論文の単位は、卒業論文指導と提出された卒業論文に対して与えられるものである。卒業演習やソーシャルワーク演習とは別に履修登録する必要がある。卒業論文を書くための4年間のスケジュール(目安)を別紙の通り示している。

卒業論文に関する課題の内容や指導方法はコースごとに違いがあるので、詳細については、指導教員の指示に従うこと。

1. 卒業論文の形式

ワープロ	本文2万字以上(上限なし)
	A4判1ページに1200字(40字×30行)
	左端は、最低3cmは空白をとる
	フォントサイズ ポイント10.5または11

2. 提出方法

- オリジナル(原本)とコピー(各自の責任で行う)したもの計2部を、いずれもクリップでとめて提出する(穴を開けて綴じないように、クリップは各自で準備すること)。
- 論文の他に、論文の概要(A4レポート用紙に2枚程度)を、本文同様2部提出すること(提出方法は、指導教員の指示に従うこと)。
- 論文の概要のない論文、論文枚数が規定に達していないもの、および論文として不備なもの(少なくとも、表紙、目次、本文、文献一覧の揃っていないもの)は、学生支援センターとしても受理しないので、注意すること。
- 訂正後の再提出は、PDF データでの提出になります(2020年度から変更)。

3. ゼミ(卒業演習Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅴ・Ⅵ)の履修について

卒業論文の執筆を希望する学生は、3年後期からゼミ(卒業演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ/ソーシャルワーク演習Ⅴ・Ⅵ)に所属することとなる。所属するゼミは、コースによって以下のように異なる。

- ・キリスト教人間学コース、臨床心理学コース 「卒業演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
- ・福祉相談援助コース、地域福祉開発コース 「ソーシャルワーク演習Ⅴ・Ⅵ」
- ・子ども支援コースにあっては、社会福祉士受験資格や大学院進学希望、研究テーマ等によって、どちらかのゼミに所属することとなるので、事前にコース主任、副主任、希望する指導教員等と相談すること。

ゼミは、卒業論文は書かないがゼミに参加したい学生も履修可能。

4. 「卒業論文」の履修について

卒業論文の執筆を希望する学生は、4年の前期に必ず「卒業論文」を履修登録すること(「卒業演習」「ソーシャルワーク演習Ⅴ・Ⅵ」とは別に登録が必要です)。

通年科目のため、後期の履修変更期間に追加登録、取消は出来ないので注意すること。

5. 論文の構成、形式について

論文の構成や形式、引用文献の示し方、作成スケジュールは、専門領域により違いがある。については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。参考までに、論文の構成について以下に示す。

〈論文の構成について〉

表紙(主題、副題、年度、学科・コース名、学籍番号、氏名、指導教員を明記)

論文の概要

目次

本文(論文に相応しい章立てをすること)

文献一覧(その他、必要な付録事項)

あとがき(必須ではないが、あることが望ましい)

※はじめに、凡例は、必要に応じて目次の次に記すことができる。

※註が必要な場合には、本文と文献一覧の間に記すことができる。

6. 卒業論文執筆進行スケジュール(一覧表参照)

卒業論文作成希望の提出、中間発表、卒業論文の提出、卒論審査・口頭試問等のスケジュールについて、各領域により異なるので、注意すること。

※発表会等の日時は、講義概要の2023年度学事暦で確認して下さい。

7. 人を対象とする調査の実施について

学生が人を対象とする調査を実施しようとする場合には、研究倫理委員会の審査を受けて承認を得た上で実施する必要がある。「人を対象とする研究計画等の審査」申請手続きについて(P. 88)を確認し、遺漏のないよう申請した上で実施すること。

卒業論文執筆進行 スケジュール

学年	福祉相談援助・地域開発、子ども支援コース	臨床心理コース、子ども支援コース	キリスト教人間学コース
第1学年度	準備期	準備期	準備期(読書の濫読期)：第一段階読書
第2学年度	卒業論文中間発表、最終発表に出席等	卒業論文中間発表、最終発表に出席等	卒業論文中間発表、最終発表に出席等
第3学年度	卒業論文中間発表、最終発表に出席等	卒業論文テーマの検討	仮テーマの設定
6月中旬	卒業論文希望提出	卒業論文ガイダンス	資料蒐集期：第二段階読書
6月末	卒業論文希望提出	卒業論文希望提出	卒業論文ガイダンス
7月中旬	卒業論文希望提出、指導教員内定	卒業論文希望提出	卒業論文希望提出
7月下旬	指導教員と個別面接(夏休み中の準備指導)	指導教員内定	卒業論文仮題提出、指導教員内定
夏休み			
後期	「ソーシャルワーク演習V」履修	「卒業演習ブレゼミナール」「卒業演習I」履修	資料整理期：第三段階読書
11月中旬	卒業論文中間発表①	「卒業演習II」履修	「卒業演習I」履修
前期	「ソーシャルワーク演習VI」履修		「卒業演習II」履修
4月			
4月中旬	「卒業論文」「ソーシャルワーク演習VI」履修登録	「卒業論文」「卒業演習II、III」履修登録	「卒業論文」「卒業演習II、III」履修登録
5月～7月			文献研究・調査等の実施
5月上旬～6月中旬	卒業論文中間発表②	卒業論文中間発表①	卒業論文研究中間発表① 構想の補正
7月下旬	卒業論文提出		研究・論文執筆期
9月下旬	卒業論文最終発表		
10月上旬	卒業論文審査・口頭試問		
10月中旬		卒業論文中間発表②	卒業論文研究中間発表②
10月末	訂正後再提出(PDFデータで提出)		
11月			論文補正 清書
12月		卒業論文提出	卒業論文提出
12月上旬～中旬			卒業論文審査・口頭試問
1月上旬			
1月20日前後		卒業論文発表会資料提出	卒業論文最終発表
1月下旬		卒業論文最終発表、卒業論文審査	訂正後再提出(PDFデータで提出)
2月下旬		訂正後再提出(PDFデータで提出)	

※日程は、講義概要の2023年度学事暦で確認して下さい。

H 「人を対象とする研究計画等の審査」申請手続きについて

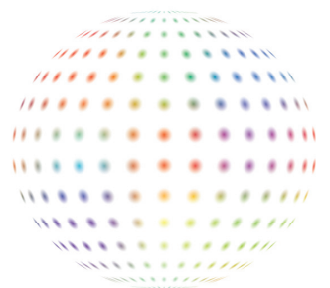
研究倫理委員会

上記事項の申請手続きについては、以下の要領で行いますので、申請者はそれに従って申請書類を提出してください。

1. 研究倫理委員会は、申請者が行おうとしている研究計画等が、本学の「研究倫理規定」に照らして適切であるかどうかの判断を行うのがその責務であって、そのための指導は本委員会の権限外にあるので、申請者は事前に指導教員から十分な指導と助言を受けてから、申請書類を提出してください。申請書類中の記入にあたっての注意事項をよく読んで記載してください。
2. 提出書類の形式的事項(提出日時、提出者の所属、氏名など)も、遺漏のないようにしてください。
3. 申請書類の受付は、年度4回(1月末日期限、5月末日期限、6月末日期限、10月末日期限)に限定します。期限に遅れた場合には(例えば、3月はじめの提出の場合には5月の審査という具合に)、次回の審査に回されません。
4. 本委員会は遅滞なく提出書類について審査をするよう努めますが、現在の教職員の勤務体制から時間的余裕が必要なので、申請者は申請期限から実際に申請事項の研究(調査)に入るまでに、1ヶ月の余裕を見込んでください。但し、修正や再提出を求められることがあるため、申請が認められるまでは、調査を実施することができません。
5. 申請書類の書式は、大学ポータルサイトの掲示板からダウンロードしてご利用ください。
申請書類は、最近の新しい状況に対応するために、改訂を繰り返しています。
そのため申請にあたっては、必ず、最新のものをを用いてください。
6. 申請が認められた場合、審査結果を通知いたします。
認可番号は、年度ごとの通し番号となります。(例えば、2023年度の第1号認可本号は23-01となります)。
審査の結果、修正を要する場合は、指導教員より審査結果が伝えられてから原則として2週間以内に修正を行い再提出してください。修正にあたっては、別添3の様式に従い、修正箇所と修正内容を明確にした「再提出依頼書」を同時に提出してください。
7. 疑問点は、指導教員に相談してください。
8. 申請書類の提出窓口は、学生支援センターで、提出時は原本1部、コピー2部の計3部提出してください。ただし、修正後の再提出は原本1部のみでよいです。(再審査の場合は、3部必要です)。
提出の際、大学院研究室、学生支援センターに備え付けの「申請書類提出票」を添えてください。「申請書類提出票(控)」は必ず受け取り、申請が認められるまで大切に保管してください。

III

関 連 事 項
そ の 他



定期試験関係の規程

定期試験に関する規程(試験規則および不正行為に関する処分規則)は以下のとおりですので、よく読んでおいて下さい。

ルーテル学院大学試験規則

(目 的)

第 1 条 本規則は、学則第 18 条に基づく試験に関する事項を定める。

(試験の種類と方法)

第 2 条 試験の種類は、定期試験(学期末試験、学年末試験)、平常試験、追試験、再試験とする。

2 試験の方法は、筆記試験、レポート試験等によるものとし、その方法は担当教員が定める。

(受験資格)

第 3 条 次に該当するものに受験資格が与えられる。

- (1) 当該科目を履修登録しているもの
- (2) 当該科目の出席が3分の2以上のもの
但し、特に担当の教員が別に定める場合はこのかぎりではない。
- (3) 所定の学生納付金(延納・分割願出者含)を納めているもの

(筆記試験の方法)

第 4 条 定期試験、追試験、再試験における方法は次の通りとする。

- (1) 定期試験等の筆記試験の受験に際しては、学生は学生証を提示しなければならない。
- (2) 試験時間は、原則として一科目 90 分以内とする。但し実技試験を除く。
- (3) 障害学生等の受験については、個別の事情により、試験会場、試験時間、解答方法など特別の配慮を行うことができる。
- (4) 試験開始後 20 分を経過した後は試験を受けることができない。また試験開始後 30 分を経過しなければ試験教室からの退出を認めない。途中で試験教室から退出する場合でも解答用紙は必ず提出しなければならない。

(試験の評価)

第 5 条 試験の成績評価は以下の通りとする。

秀	100～90
優	89～80
良	79～70
可	69～60
不可	59 点以下 (不合格)

(レポート試験)

第 6 条 筆記試験に代えて課せられたレポートは、担当教員が指定した日時までに学生支援センターへ提出しなければならない。日時を過ぎたものは、担当教員の同意のないかぎり学生支援センターでは一切受け付けない。提出が遅れたレポートについては、教員の同意がある場合に限り、再試験扱いとなる。

- 2 レポートを直接教員に提出することまたは郵送によって提出することは認めない。
- 3 障害学生等のレポート提出については、第 4 条・第 3 項に準ずる。

(不正行為)

第7条 試験において不正行為を行った場合は、別に定める処分規則による処置を行う。

(定期試験)

第8条 定期試験とは、各学期末の学事暦に定められた期間に行われる試験をいう。

2 定期試験は、担当教員の判断により前号による所定期間以外にも実施できるものとする。

3 集中講義科目の試験は、期日を定めて実施する。

(平常試験)

第9条 平常試験とは、定期試験以外に担当教員が必要と認めて随時授業時間内に実施する試験をいう。

2 平常試験の実施は、原則として担当教員の責任で行う。

(追試験)

第10条 受験資格のあるものが、前号の定期試験に次の事由により欠席した場合には教務委員会で審査の上、当該科目の追試験を認める。

(1) 災害(台風、水害、火災等)

(2) 交通機関の事故・遅滞(交通機関などの証明書を必要とする)

(3) 負傷または疾病(医師の診断書を必要とする)

(4) 二親等以内の親族またはそれに準ずる者の死亡による忌引

(5) その他教務委員会において適当と認め、担当教員が了承した事由(就職試験等)

2 追試験を受けようとする者は、上記の事由が解決してから4日以内に欠席した事由を証明する書類を添えて学生支援センター長に願い出なければならない。

3 原則として、当該年度を越えて追試験はできない。

(再試験)

第11条 試験に不合格であった者に対して、担当教員の判断により、再試験の受験を認めることがある。

2 再試験の申請は学生支援センター長に提出する。

3 再試験は一回限りとし、その評価は点数に80%を乗じたものとする。

4 再試験料は、1科目につき、1,000円とし、再試験を受ける前に学生支援センターに支払うものとする。

5 原則として、当該年度を越えて再試験はできない。

第12条 卒業年次の学生で、卒業に必要な単位が不足する者に対し、次の要件すべてを満たす場合に限り、教務委員会で審査の上、再々試験の受験を認めることがある。

(1) 卒業年次に履修登録が行われている科目であること(但し、過去において受験の上、不可(不合格)と判断されて卒業年次に再履修している科目は除外される。)

(2) 担当教員の同意があること

2 再々試験受験科目は2科目を限度とする。

3 再々試験の運用については、第11条の通常の再試験に準ずる。

附則1 本規則は、1994年4月1日よりこれを施行する。

2 本規則は、2007年4月1日よりこれを施行する。

3 本規則は、2017年4月1日よりこれを施行する。

試験における不正行為に関する処分規則

第1条 この規則は、不正な手段を用いて受験した学生の処分を定めたものである。

第2条 試験における不正行為とは、定期試験その他の筆記試験においてなされる次のことをいう。

- (1) 代人として受験すること、または代人に受験させること
- (2) 持ち込みが認められていない文献等を使用すること
- (3) 持ち込みが認められている文献等を貸借すること
- (4) 他人の答案を見たり、自分の答案を他人に見せたりすること
- (5) 問題の内容に関して口頭または合図で話すこと
- (6) カンニングペーパーおよびそれに準ずるもの(メモ類)の用意またはそれらを使用すること
- (7) 所持品、身体、机等に解答およびそれに類するものを書き込むこと
- (8) 試験監督者の指示に従わないこと
- (9) その他上記に類する行為

第3条 不正行為の判断は、試験監督ならびに教務委員会が行う。

第4条 前第3条により、その事実調査を行うに際し、当該学生に対して口頭または文書による弁明の機会を与えなければならない。

第5条 不正行為を行った者は、当該学期における全ての履修科目が認定されない。

- 2 教務委員長は、教授会での議を経て、不正行為者に対し処分を通知する。

2017.4改正

レポート試験における不正行為に関する処分規則

第1条 この規則は、不正な手段を用いたレポートの作成及び提出した学生の処分を定めたものである。

第2条 レポート試験における不正行為とは、定期試験または、その他の筆記試験に代わる課題作成と提出の際になされる剽窃及び盗作と判断される次のことをいう。

- (1) 他人のレポートを写すこと
- (2) 出典記述無く、他の文献及び資料を写すこと
- (3) 代人にレポートを記述させること
- (4) 出典記述無く、インターネット上の記述内容をコピーすること

- 2 インターネットから引用する場合は、情報収集元の URL と情報取得日を記載することで正当なものとして判断される。

第3条 不正行為の判断は、当該科目の担当教員ならびに教務委員会が行う。

第4条 前第3条により、その事実調査を行うに際し、当該学生に対して口頭または文書による弁明の機会を与えなければならない。

第5条 不正行為を行った者は、その当該科目の単位が認定されない。なお、事案によっては教授会の議を経て当該学期における全ての履修科目が認定されない場合がある。

- 2 教務委員長は、教授会での議を経て、不正行為者に対し処分を通知する。

2017.4改正

長期履修制度に関する内規



第1条 この内規は、本人が社会人であること、もしくは特別な理由がある場合に、通常の履修年限を延長することを認めることとし、以下それに伴う事務の取り扱いを定める。

なお、「特別な理由」に関しては、入学時、もしくは必要に応じて、教授会の審議を経て、学長が認める。

第2条 履修年限の延長は、通常の第1、2学年の2年間、また第3、4学年の2年間を単位年限とし、その2年間の履修年限を3年間に延長することができるものとする。

第1学年に入学した者は、入学手続き時、および、通常の場合の第3学年に進級時に、所定の様式に従って申請することができる。その場合、最初の3年間を経過した時点において、引き続きこの制度の利用を希望する場合は、改めて申請するものとする。

ただし、単位年限の初年度終了時に申請する場合に限り、その変更を可能とし、その単位年限の残り1年間で2年間で修めることができるものとする。

第3条 第2学年に編入学する者で、この制度の利用を希望する者は、第2学年の終了時に申請するものとし、第2学年については通常履修の学則に従うものとする。ただし、第3学年終了時に申請する場合に限り、その変更を可能とし、単位年限の残り1年間で2年間で修めることができるものとする。

第3学年に編入学する者で、この制度の利用を希望する者は、その編入学手続き時に申請しなければならない。ただし、第3学年終了時に申請する場合に限り、その変更を可能とし、単位年限の残り1年間で2年間で修めることができるものとする。

第4学年へ編入学する者に関しては、この制度の利用は原則として認められないものとする。

第4条 年度途中にこの制度へ変更することは出来ない。

また、この長期履修制度から通常の履修への変更は、これを妨げない。この変更については、教授会の審議を経て、学長が認める。

第5条 学生納付金については、別表の通りとする。なお、第2条、第3条、第4条によってこの長期履修制度を利用するものが、通常の履修年限に短縮する場合も、学生納付金については、登録当初に予定されたものを、指定の期日までに納入しなければならない。

また、長期履修登録料は通常履修への変更後は納入する必要はない。

第6条 この制度を利用する者は、年間の履修単位の上限を通常の場合の3分の2、すなわち32単位とする。

第7条 休学中は、通常の場合の休学在籍料を納入するものとする。

第8条 長期履修制度を利用する場合であっても、学則の定める在学年限を超えることはできない。

第9条 本内規に定める事項以外のことは、本大学学則の定めによるものとする。

第10条 本内規の変更は大学教授会において決定するものとする。

附 則 この内規は、2003年4月1日から施行する。

2. この内規は、その一部を改正し、2005年4月1日から施行する。
3. この内規は、その一部を改正し、2008年12月1日から施行する。
4. この内規は、その一部を改正し、2015年4月1日から施行する。
5. この内規は、その一部を改正し、2021年4月1日から施行する。
6. この内規は、その一部を改正し、2022年4月1日から施行する。

別表 長期履修制度 学生納付金(～2020年度入学生)

通常の第1・2次の2年間、第3・4年次の2年間を単位年限とする。

	(通常)2年間を単位年限				3年間				3年間(初年度終了時に変更の場合)					
	授業料	施設費	設備費	年額計	授業料	長期履修登録料	施設費	設備費	年額計	授業料	長期履修登録料	施設費	設備費	年額計
1年(3年)	800,000	230,000	90,000		540,000	*50,000	184,000	72,000	846,000	800,000		230,000	90,000	1,120,000
2年(4年)	800,000	230,000	90,000		530,000	*50,000	184,000	72,000	836,000	400,000	*100,000	161,000	63,000	724,000
長期履修 3年目					530,000	*50,000	184,000	72,000	836,000	400,000	*50,000	161,000	63,000	674,000
小計	1,600,000	460,000	180,000	2,240,000	1,600,000	*150,000	552,000	216,000	2,518,000 (+278,000)	1,600,000	*150,000	552,000	216,000	2,518,000 (+278,000)

(注意)入学金、実習費等は別途必要となります。

別表 長期履修制度 学生納付金(2021年度入学生)

通常の第1・2次の2年間、第3・4年次の2年間を単位年限とする。

	(通常)2年間を単位年限				3年間				3年間(初年度終了時に変更の場合)					
	授業料	施設費	設備費	年額計	授業料	長期履修登録料	施設費	設備費	年額計	授業料	長期履修登録料	施設費	設備費	年額計
1年(3年)	800,000	250,000	100,000	1,150,000	540,000	*50,000	200,000	80,000	870,000	800,000		250,000	100,000	1,150,000
2年(4年)	800,000	250,000	100,000	1,150,000	530,000	*50,000	200,000	80,000	860,000	400,000	*100,000	175,000	70,000	745,000
長期履修 3年目					530,000	*50,000	200,000	80,000	860,000	400,000	*50,000	175,000	70,000	695,000
小計	1,600,000	500,000	200,000	2,300,000	1,600,000	*150,000	600,000	240,000	2,590,000 (+290,000)	1,600,000	*150,000	600,000	240,000	2,590,000 (+290,000)

(注意)入学金、実習費等は別途必要となります。

別表 長期履修制度 学生納付金(2022年度入学生～)

通常の第1・2次の2年間、第3・4年次の2年間を単位年限とする。

	(通常)2年間を単位年限				3年間				3年間(初年度終了時に変更の場合)					
	授業料	施設費	設備費	年額計	授業料	長期履修登録料	施設費	設備費	年額計	授業料	長期履修登録料	施設費	設備費	年額計
1年(3年)	880,000	250,000	100,000	1,230,000	594,000	*50,000	200,000	80,000	924,000	880,000		250,000	100,000	1,230,000
2年(4年)	880,000	250,000	100,000	1,230,000	583,000	*50,000	200,000	80,000	913,000	440,000	*100,000	175,000	70,000	785,000
長期履修 3年目					583,000	*50,000	200,000	80,000	913,000	440,000	*50,000	175,000	70,000	735,000
小計	1,760,000	500,000	200,000	2,460,000	1,760,000	*150,000	600,000	240,000	2,750,000 (+290,000)	1,760,000	*150,000	600,000	240,000	2,750,000 (+290,000)

(注意)入学金、実習費等は別途必要となります。

ルーテル学院大学学位規程



(趣旨)

第1条 この規程は、学位規則第13条(昭和28年文部省令第9号)並びにルーテル学院大学学則(以下「学則」という。)及びルーテル学院大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)の規定に基づき、ルーテル学院大学(以下「本学」という。)が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

(学位の種類)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

2 学位に付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

(学士)

学 部	学 科	学士の学位の専攻分野の名称
総合人間学	人間福祉心理学科	総合人間学
	キリスト教学科	キリスト教学、神学
	社会福祉学科	社会福祉学
	臨床心理学科	臨床心理学

(修士・博士)

研究科	専 攻	修士の学位の専攻分野の名称	博士の学位の専攻分野の名称
総合人間学研究科	社会福祉学専攻	社会福祉学	社会福祉学
	臨床心理学専攻	臨床心理学	

(学位授与の要件)

第3条 学士の学位は、学則第20条第1項に規定するところにより、本学を卒業した者に授与する。

2 修士の学位は、大学院学則第19条第1項に規定するところにより、本大学院の博士前期課程または修士課程を修了した者に授与する。

3 博士の学位は、大学院学則第20条第1項に規定するところにより、本大学院の博士後期課程を修了した者に授与する。

4 前項に定めるもののほか、博士の学位は、本大学院の博士後期課程を経ない者が博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格し、且つ、本大学院の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された者に授与することができる。

5 キリスト教学科において、学位に付記する専攻分野の名称に神学を希望する者は、本条第1項の要件に加え、別表に定める科目の修得を要する。

(学位授与の申請)

第4条 本学大学院の学生が、学位の授与を申請するときは、別記様式第1号または第2号による学位申請書に論文正・副3部を添え、学長に提出しなければならない。

2 前条第4項の規定により博士の学位の授与を申請する者は別記様式第2号による学位申請書に論文正・副3部及び下記の額の論文審査手数料を添え、学長に提出するものとする。

一 本学の社会福祉学科専任教員(元専任教員を含む)、本学社会福祉学科卒業生、大学院総合人間学研究科社会福祉学専攻修了者(博士後期課程で博士論文提出資格試験に合格したが、期限内に論

- | | |
|------------------|----------|
| 文を提出せず退学したものを含む) | 200,000円 |
| 二 本学社会福祉学科非常勤教員 | 300,000円 |
| 三 その他 | 500,000円 |
- 3 学位申請書の提出の時期は、毎年1月末までとする。ただし、特別の事由のあるときは大学院教授会の審議を経て、提出時期を定めることができる。
- 4 第3条第4項に規定する学位の授与を申請する者の学位申請書は、随時提出することができる。

(審査付託)

第5条 学長は修士、および博士の学位申請書を受理したときは、大学院教授会にその審査を付託する。

(審査委員会)

- 第6条 大学院教授会は、前条の規定による審査付託があったときは、次の各号に定める審査員で組織する審査委員会を設ける。
- 一 修士の学位にあつては、関連する科目の担当教員2名以上
 - 二 博士の学位にあつては、研究科教授会の委員3名
- 2 大学院教授会において必要と認めたときは、大学院教授会は、前項に定める審査員以外に、大学院教授会以外の教員、他の大学院又は研究所等の教員及び学識経験者を審査員に加えることができる。

(学位論文等の審査等)

- 第7条 審査委員会は、学位論文の審査及び最終試験又は第3条第4項に規定する本学大学院の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することの確認(以下「学力の確認」という。)を行う。
- 2 審査委員会の審査方法等に関する事項は、大学院教授会の審議を経て別に定める。

(審査期間)

- 第8条 審査委員会は、第4条第1項の規定による学位授与の申請にかかる学位論文の審査及び最終試験を、毎年2月末までに行うものとする。ただし、特別な事由があるときは大学院教授会の審議を経て、別に定めることができる。
- 2 審査委員会は、第4条第2項の規定による学位授与の申請にかかる学位論文の審査及び学力の確認を、当該申請を受理した日から1年以内に終了しなければならない。ただし、特別の事情があるときは、大学院教授会の審議を経て、審査期間を延長することができる。

(審査結果の報告)

- 第9条 審査委員は、学位論文の審査及び最終試験又は学力の確認が終了したときは、学位論文の審査及び最終試験又は学力確認の結果報告書を添えて大学院教授会に報告しなければならない。

(学位授与の審議)

- 第10条 大学院教授会は、前条の報告に基づいて、学位論文の審査及び最終試験又は学力確認の可否ならびに学位を授与すべきか否かについて審議し、その結果を学長に報告する。

(学位の授与)

- 第11条 学長は、前条の報告に基づき、修士又は博士の学位を授与すべきものと決定した者には、所定の学位記を交付して学位を授与し、当該学位を授与できないと決定した者には、その旨通知する。

(博士論文の要旨等の公表)

第12条 学長は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に、その論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表するものとする。

2 博士の学位を授与された者は、当該学位を授与された日から1年以内に、その論文を印刷公表するものとする。ただし、当該学位を授与される前にすでに印刷公表したときは、この限りでない。

3 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該論文の全文に代えて、その内容を要約したものを印刷公表することができる。この場合、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

(記録の保存)

第13条 学長は、学位の授与に関し、審査及び試験または学力の確認の経過、その他必要事項を記載した記録簿を作成し、これを保存しなければならない。

(学位の名称)

第14条 本学の学位を授与された者が学位の名称を用いるときは、本大学名を付記するものとする。

(博士の学位授与の報告)

第15条 学長は、博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3月以内に学位規則別記様式第一により文部科学大臣に報告する。

(学位の取消)

第16条 学位を授与された者が不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときには、学長は教授会又は大学院教授会の審議を経て、すでに授与した学位を取り消し、学位を返付させ、かつ、その旨を公表する。

2 学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があったときは、前項の例により、その学位を取り消すことができる。

(学位の様式)

第17条 学位の様式は、第3条第1項にあつては別記様式第3、第2項にあつては別記様式第4、第3項にあつては別記様式第5、第4項にあつては別記様式第6のとおりとする。

(改廃)

第18条 この規程の改廃は学士の学位に関する条項は大学教授会、修士及び博士の学位に関する条項については大学院教授会の審議を経て学長が決定する。

附 則

1. この規程は、2004年4月1日からこれを施行する。
2. この規程は、その一部を改正し、2005年4月1日からこれを施行する。
3. この規定は、その一部を改正し、2007年7月4日からこれを施行する。
4. この規定は、その一部を改正し、2013年4月1日からこれを施行する。
5. この規定は、その一部を改正し、2014年4月1日からこれを施行する。
6. この規定は、その一部を改正し、2015年4月1日からこれを施行する。

様式第1号～6号は省略

授業等における気象災害の対策等に関する指針

(趣旨)

第1条 学校法人ルーテル学院(以下「本学」という。)における気象災害を予防し又は最小限とするため、気象災害への対応に関し指針を定める。

(定義)

第2条 この指針において「気象災害」とは、大雨、洪水、大雪、暴風、暴風雪、波浪、竜巻、高潮又は津波により生じる被害をいう。

(対応の原則)

第3条 本学の気象災害への対応は、原則として、気象警報の発令状況および JR 中央線の運行状況により決定する。

(情報の収集)

第4条 本学の教職員及び学生は、テレビ、ラジオ、インターネット等により注意報・警報等の情報を得るように努めなければならない。

(授業・定期試験等の取扱い)

第5条 本学の授業、定期試験等(以下「授業等」という。)に関し、東京都(23区及び多摩)において暴風警報が発令または JR 中央線(武蔵境駅を含む区間)が運休した場合、発令または運休以後に開始される授業等を休講とする。

2 この場合において、警報解除又は運転再開後における授業等の実施については、別表の通り定める。

3 第7条に定める対策会議がオンラインでの授業の実施を認めた場合は、担当教員の判断で休講をオンライン授業に替えることができる。

(学生の対応)

第6条 前第5条に基づき授業等が休講となった場合には、本学の学生は、課外活動等を含めて登校してはならない。また安全を最優先とし自己責任の下、危険を回避しなければならない。

2 暴風警報が居住地または通学経路内において発令されている場合には、本学の学生は、課外活動等を含めて登校してはならない。

3 暴風警報以外の警報発令時等において交通機関の運休等が生じた場合、または気象災害による身体の危険を感じた場合には、本学の学生は、無理な登校はしないこととする。

4 第2項及び第3項に基づき登校しなかった場合は、本学の学生は、その旨を後日遅滞なく担当教員に欠席届により申し出ることとする。

5 休講措置を決定した際に学内にいる学生は、速やかに帰宅をしなければならない。ただし、帰宅することが危険と判断される場合は、安全が確認されるまで学生支援センターが指示する場所で待機することとする。

(休講等の決定について)

第7条 休講等の決定については、教務委員長を議長として、事務長、学生支援センター長、事務管理センター長の構成による対策会議を持って決定する。

また、夜間並びに土曜日の学部及び大学院の授業等においては、特別な配慮が必要な場合は対策会議の決定を考慮したうえで、社会福祉学専攻主任及び臨床心理学専攻主任を含めて決定する。

- 2 対策会議議長および社会福祉学専攻主任は対策会議の設置と決定した事項を速やかに学長に報告する。
- 3 対策会議には必要により担当する教職員を陪席させることができる。
- 4 教務委員長が不在等のため対策会議を運営することが不可能な際は、事務長、学生支援センター長、事務管理センター長の順に議長の職務を代理する。
- 5 対策会議は議長が招集する。
- 6 対策会議の開催が、夜間・休日等で招集が困難と想定される場合は、電話等の通信手段の利用も考慮しつつ、予めその決定方法について構成員で確認しておく。
- 7 学長は、議長の報告により対策会議を超えた対応が必要と判断した際には、緊急対策本部を設置し、連携又は職務の移管を指示する。
- 8 付属研究所等の主催する講義・セミナー・講演・会合等については、原則として所長等が実施の可否について判断する。

(休講等の告知)

第8条 学生支援センター及び事務管理センターは、気象災害を予防するために必要な関連情報を収集し、大学のホームページ、ポータルサイト、学内掲示板、緊急連絡網(教職員)、学内放送等により、当該情報を大学の教職員及び学生及び学外関係者に対して提供する。

附 則

この指針は、2011年12月7日から施行する。

この指針の一部を改正し、2014年1月8日から施行する。

この指針の一部を改正し、2018年9月12日から施行する。

この指針の一部を改正し、2021年12月8日から施行する。

別表(第5関係)

警報解除またはJR 中央線(武蔵境駅を含む区間)の運行再開状況に応じた方針

- 6:00までに警報が解除または中央線が運転再開した場合 ……平常通り授業
 - 9:00までに警報が解除または中央線が運転再開した場合 ……第3講時以降授業
 - 9:00以後も警報が継続または中央線が不通の場合 ……終日休講とする
- 気象災害の予報が気象庁から出ている場合は、当日を待たずに休講等を決定できる。

2023年度 教員名簿



名誉教授

ケネス・デール
前田 ケイ
福山 和女
西原 雄次郎
ジェームス・サック

柴田 千頭男
増野 肇
鈴木 浩
藤井 英一
金子 和夫

清重 尚弘
白井 幸子
和田 敏明
市川 一宏

専任教員(学部)

学長 石居 基夫
チャプレン 河田 優

学部長 田副 真美
学科長 高山 由美子

一般教養主任 原 島 博

コース主任 上村 敏文(キリスト教人間学コース) 高山 由美子(福祉相談援助コース)
山口 麻衣(地域福祉開発コース) 加藤 純(子ども支援コース)
田副 真美(臨床心理コース)

浅野 貴博
植松 晃子
ジェームス・サック
谷井 淳一
松田 崇志

アンドリュー・ウィルソン
大曲 睦恵
ジャン・プレケنز
廣瀬 圭子
宮本 新

石川 与志也
笹尾 千津子
高城 絵里子
福島 喜代子

神学校
神学校長

立山 忠浩
齋藤 衛

平岡 仁子

非常勤講師

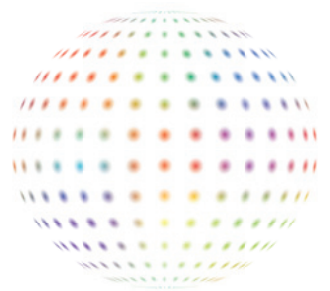
アデレード・アミサ
伊藤 光太郎
江本 真理
金子 和夫
岸 洋子
古寺 久仁子
荘島 幸子
鈴木 喜子
多田 哲
ドイル 綾子
中舘 和彦
西原 雄次郎
樋野 興夫
宮内 珠希
室城 順子
山梨 有子
渡邊 公実子

荒川 明宏
上田 卓司
岡部 卓
河村 従彦
北村 英哉
佐藤 舞
白井 雅人
添田 雅宏
田中 雅幸
永杉 理恵
中村 洸太
橋本 憲幸
深井 李々子
村上 律子
安田 真由子
湯口 依子
渡邊 由己

市川 一宏
江草 愛
越智 隆太
岸 千代
小高 真美
下ノ本 直美
鈴木 あおい
田島 靖則
崔 善愛
仲宗根 森敦
西下 彰俊
肥田 裕久
松野 航大
村田 夏子
山崎 律子
和 田 敏明

IV

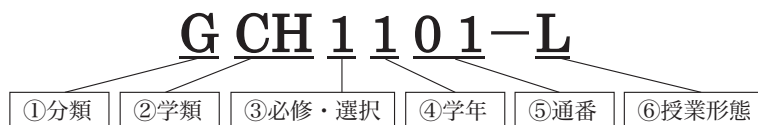
講義概要



科目ナンバリングについて

本学総合人間学部では、2019年度から科目ナンバリング制度を導入しています。
科目ナンバリング導入の目的は授業科目に特定の番号を付与し分類することで、学修の段階や順序等を示し、教育プログラムにおけるカリキュラムの体系性を明示する仕組みです。
科目ナンバリングを導入することで、学生が科目の水準や専門性に応じて適切な授業科目を選択し、受講する手助けとなります。

2023年度はP108の開講科目表に科目ナンバーを掲載します。科目ナンバリングの構造は以下の通りです。



①分類

一般教養科目 G 総合人間学部専門科目 I

②学類

〈一般教養科目〉

導入教育 FR (Freshman)
 キリスト教教学系 CH (Christianity)
 人文科学系 HU (Humanities)
 社会科学系 SS (Social Science)
 自然・情報科学系 NI (Natural Science&Information Technology)
 外国語 FL (Foreign Language)
 健康・スポーツ系 PE (Physical Education)
 キャリア教育 CE (Career Education)
 体験学修 EL (Experiential Learning)

〈専門科目〉

キリスト教人間学系 CS (Christian Studies)
 福祉相談援助系 SW (Social Work)
 地域福祉開発系 CD (Community Development)
 子ども支援系 CF (Child and Family Studies)
 臨床心理系 CP (Clinical Psychology)
 専門共通 AD (Advanced、国際、卒論等)

③各分類ごとの必修または選択

必修→1 選択→2 選択必修→3

④学年

1：大学1年次レベル
 2：大学2年次レベル
 3：大学3年次レベル
 4：大学4年次レベル

⑤学年ごとの通番

01から始め、学年ごとに通番する。

⑥授業形態

講義 L (Lecture) 演習 S (Seminar)
 実技 P (Practice) 実習 T (Training)

2023年度 開講科目表(2021年度以降1年次入学者、2022年度以降2年次編入生含む)

開講科目表の見方

①必修・選択等欄： ○印：必修 ○印：選択必修 無印：選択 ×印：履修不可

教養(Liberal Arts)科目

	授 業 科 目	単位	履修年次 目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載 ページ
教 養 科 目	総合人間学	2	1	前期1	○	GFR1101-L	116
	聖書を読む (2023年度を最後に閉講)	2	1	後期1	○	GCH1101-S	116
	キリスト教概論Ⅰ	2	1	前期1	○	GCH1102-L	117
	キリスト教概論Ⅱ	2	1	後期1		GCH2101-L	118
	社会福祉原論Ⅰ	2	1	前期1	○	GSS1101-L	119
	社会福祉原論Ⅱ	2	1	後期1		GSS2101-L	120
	心理学	2	1・2	前期1	○	GHU1101-L	121
	心理学概論	2	1・2	後期1		GHU2101-L	121
	現代生命科学Ⅰ (2023年度を最後に閉講)	2	1・2・3・4	前期1		GNI1110-L	122
	現代生命科学Ⅱ (2023年度を最後に閉講)	2	1・2・3・4	後期1		GNI2111-L	123
	スポーツと健康(体育実技を含む)A	2	1・2	前期1		GPE2101-P	124
	スポーツと健康(体育実技を含む)B	2	1・2	後期1		GPE2102-P	125
	地球と宇宙Ⅰ→九州ルーテル学院大学の「環境学」を単位互換	2	1・2・3・4	後期1		GNI2112-L	—
	中世史との対話 (奇数年隔年開講)	2	1・2	前期1		GHU2102-L	126
	近世史との対話 (奇数年隔年開講)	2	1・2	後期1		GHU2103-L	126
	憲法	2	1・2	前期1		GSS2102-L	127
	法学 (2023年度を最後に閉講)	2	1・2	後期1		GSS2103-L	128
	社会学	2	1・2	前期1		GSS2104-L	129
	社会学Ⅱ	2	1・2	後期1		GSS2105-L	129
	教養としての哲学	2	1・2	前期1		GHU2105-L	130
	哲学と論理	2	1・2	後期1		GHU2106-L	131
	教育学	2	1・2	後期1		GHU2107-L	132
	音楽の基礎	2	1・2	前期1		GHU2108-P	132
	音楽の実際	2	1・2	後期1		GHU2109-P	133
	コミュニケーションの演習	2	1	前期1・後期1	○	GFR1102-S	134
	コンピュータ入門Ⅰ (2023年度を最後に閉講)	2	1・2	前期1×2		GNI2114-P	135
	コンピュータ入門Ⅱ (2023年度を最後に閉講)	2	1・2	後期1×3		GNI2115-P	136
	視覚障害者 PC 入門	2	1	前期1		GNI2116-P	136
	英語 Reading	2	1	前期2	○〈1〉	GFL3104-S	137
群	英語 Speaking/Listening	2	1	前期2	○〈1〉	GFL3101-S	138
	英語 Writing/Grammar	2	1	前期2	○〈1〉	GFL3105-S	139
	英語特別演習(Independent Study)	1	2・3・4	前期1	○〈1〉	GFL3201-S	140
	英語 Speaking/Listening 演習	2	2・3	前期2	○〈1〉	GFL3204-S	141
	ドイツ語初級Ⅰ	1	1	前期1		GFL2101-S	142
	ドイツ語初級Ⅱ	1	1	後期1		GFL2102-S	142
	ドイツ語講読Ⅰ (2023年度を最後に閉講)	1	1・2	前期1		GFL2104-S	143
	ドイツ語講読Ⅱ (2023年度を最後に閉講)	1	1・2	後期1		GFL2105-S	144
	日本語特講(留学生)Ⅰ	1	1・2	前期1		GFL2111-S	145
	日本語特講(留学生)Ⅱ	1	1・2	後期1		GFL2112-S	145
教養科目まとめ ・総合人間学、聖書を読む、キリスト教概論Ⅰ、社会福祉原論Ⅰ、心理学、コミュニケーションの演習は必修。 ・〈1〉英語科目のうち2単位以上を選択必修。 以上の必修、選択必修を含めて30単位以上を履修すること。							

専門科目

	授 業 科 目	単位	履修年次 目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載 ページ
総合人間学 コア科目群	キリスト教の人間観Ⅰ (2023年度を最後に閉講)	2	2・3・4	前期1	○〈2〉	ICS3203-L	146
	キリスト教の人間観Ⅱ (2023年度を最後に閉講)	2	2・3・4	後期1	○〈2〉	ICP3201-L	147
	社会福祉の基礎	2	2	前期1	○〈2〉	ISW3201-L	148
	ソーシャルワーク論Ⅰ	2	2	前期1	○〈2〉	ISW3202-L	148
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2	2	後期1	○〈2〉	ISW3203-L	149
	障害者福祉の諸問題	2	2	閉講	○〈2〉	ISW3204-L	—
	高齢者福祉の諸問題	2	2	閉講	○〈2〉	ISW3205-L	—
	地域福祉論Ⅰ	2	2	前期1	○〈2〉	ICD3201-L	150
	地域福祉論Ⅱ	2	3	後期1	○〈2〉	ICD3302-L	151

	授 業 科 目	単位	履修年次 目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載 ページ
コア科目群	総合人間学						
	社会保障論Ⅰ	2	2	前期1	○〈2〉	ICD3203-L	152
	児童福祉の諸問題	2	2	前期1	○〈2〉	ICF3201-L	153
	発達心理学	2	2	後期1	○〈2〉	ICF3203-L	154
	カウンセリング実技の基本	2	2	前期1	○〈2〉	ICP3202-L	155
	心理学研究法Ⅰ（データ解析）	2	2	前期1	○〈2〉	ICP3203-L	156
	心理的アセスメント	2	2・3・4	前期1	○〈2〉	ICP3204-L	157
いのち・キリスト教と人間学	心理学実験	2	2	後期2	○〈2〉	ICP3205-S	157
	いのち学序説	2	1・2	後期1	○〈3〉	ICP3101-L	158
	人間の尊厳と人権	2	2・3・4	後期1	○〈3〉	ICP3206-L	159
	キリスト教と生命倫理（奇数年隔年開講）（2023年度を最後に閉講）	2	2・3・4	前期1	○〈3〉	ICP3207-L	160
	人間・いのち・世界Ⅰ	2	3・4	前期1	○〈3〉	ICP3301-L	161
	人間・いのち・世界Ⅱ（2024年度を最後に閉講）	2	3・4	後期1	○〈3〉	ICP3302-L	161
	キリスト教の倫理	2	2・3・4	2024	○〈3〉	ICP3208-L	—
国際プログラム科目群	英語特別プログラム（ESP: English for Special Purposes）	1	1・2	閉講		IAD2101-S	—
	多文化ソーシャルワーク	2	2・3・4	後期1		IAD2201-L	162
	社会福祉と国際協力	2	2・3・4	前期1		IAD2203-L	163
	海外研修A（アジア）	2	1・2・3・4	休講		IAD2103-T	—
	海外研修B（欧米）	2	1・2・3・4	休講		IAD2104-T	—
	海外インターンシップ前ゼミ	2	3	閉講		IAD2301-S	—
	海外インターンシップA（アジア）	2	3	閉講		IAD2302-T	—
科外総合科目群	海外インターンシップB（欧米）	2	3	閉講		IAD2303-T	—
	ヘブル語Ⅰ（2023年度休講）	4	2	休講		ICS2201-S	—
	ヘブル語Ⅱ（2023年度休講）	4	2	休講		ICS2202-S	—
	ギリシア語Ⅰ	4	3	前期2		ICS2301-S	163
	ギリシア語Ⅱ	4	3	後期2		ICS2302-S	164
	ラテン語Ⅰ 2023年度は東京神学大学で開講	2	3・4	前期1		ICS2303-S	165
	ラテン語Ⅱ 2023年度は東京神学大学で開講	2	3・4	後期1		ICS2304-S	166
総合人間学総合演習科目群	臨床心理英専門書講読A	2	2・3・4	閉講		ICP2201-S	—
	臨床心理英語論文読解Ⅰ	2	2・3・4	前期1		ICP2203-S	166
	キャリアデザイン基礎	2	2・3	前期1	○〈4〉	IAD2204-L	167
	キャリアデザイン実践	2	3	後期1	○〈4〉	IAD2304-S	168
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	1	前期1		ISW2101-S	169
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	1	後期1		ISW2102-S	170
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	2・3	前期1	○〈4〉	ISW2201-S	170
総合人間学実践科目群	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	3	前期1		ISW2301-S	171
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	3	後期1		ISW2302-S	172
	ソーシャルワーク演習Ⅵ	2	4	2024		ISW2401-S	173
	ソーシャルワーク・キャリアアップゼミ	2	4	2024		ISW2402-S	174
	キリスト教フレッシュマンゼミ	2	1	後期1		ICS2101-S	174
	キリスト教特講ゼミⅠ	2	2・3・4	前期 or 後期		ICS2203-S	175
	キリスト教特講ゼミⅡ	2	2・3・4	前期 or 後期		ICS2204-S	176
総合人間学実践科目群	キリスト教特講ゼミⅢ	2	2・3・4	前期 or 後期		ICS2205-S	176
	臨床心理フレッシュマンゼミ	2	1	後期1		ICP2101-S	177
	卒業演習 プレゼミナール	1	3	前期1		ICP2301-S	178
	卒業演習Ⅰ	2	3	後期1		IAD2305-S	179
	卒業演習Ⅱ	2	4	2024		IAD2401-S	179
	卒業演習Ⅲ	2	4	2024		IAD2402-S	180
	卒業論文	4	4	2024		IAD2403-S	181
総合人間学実践科目群	食といのちと環境Ⅰ	2	2・3	前期1		ICS2205-L	182
	食といのちと環境Ⅱ（2023年度を最後に閉講）	2	2・3	後期1		ICS2206-L	183
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（新）	2	2	前期1		ISW2202-S	184
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（新）	2	2・3	後期1		ISW2203-S	185
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（新）	2	3・4	前期1		ISW2304-S	185
	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ（新）	2	3・4	前期1		ISW2305-S	186
	ソーシャルワーク実習指導Ⅴ（新）	1	3・4	後期1		ISW2303-S	187
総合人間学実践科目群	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	2	3	後期1		ISW2308-S	191
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	2	4	2024		ISW2403-S	—
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	2	4	2024		ISW2404-S	—
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2	3	後期1		ISW2306-S	192
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2	4	2024		ISW2405-S	193
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	2	4	2024		ISW2406-S	194
	ソーシャルワーク実習Ⅰ（新）	3	2	前期1		ISW2209-T	195
総合人間学実践科目群	ソーシャルワーク実習Ⅱ（新）	4	3・4	前期1		ISW2307-T	196
	上級ソーシャルワーク実習（2024年度のみ開講）	3	4	2024		ISW2407-T	—
	ソーシャルワーク現場体験実習	4	3・4	通年1		ISW2313-T	198
	精神保健福祉実習	4	4	2024		ISW2408-T	199
	心理実習Ⅰ	2	2	後期1		ICP2205-T	200
	心理実習Ⅱ	2	3	前期2・後期1		ICP2302-T	201
	世界の宗教Ⅰ（奇数年隔年開講）	2	2・3・4	前期1		ICS2207-L	202
総合人間学キャリア形成科目群	文化史	2	1・2・3	前期1		ICS2102-L	203
	比較文化論（2024年度を最後に閉講）	2	3・4	後期1		ICS2307-L	203
	いのちのキリスト教史	2	2・3・4	前期1		ICS2209-L	204
	日本における死生学	2	4	2024		ICS2403-L	205
	キリスト教と死生学	2	4	2024		ICS2404-L	205
	キリスト教カウンセリング	2	3・4	後期1		ICS2308-L	206
	キリスト教の歴史Ⅰ（2023年度を最後に閉講）	2	2	前期1		ICS2209-L	207
総合人間学キャリア形成科目群	キリスト教の歴史Ⅱ（2024年度を最後に閉講）	2	2	後期1		ICS2210-L	207
	旧約聖書精読	2	3・4	後期1		ICS2311-L	208
	新約聖書精読（偶数年隔年開講）	2	3・4	2024		ICS2312-L	—

	授 業 科 目	単位	履修年次 目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載 ページ
(総合人 間学系)	旧約聖書の間人観 (2024年度より偶数年開講)	2	3	後期1		ICS2313-L	209
	新約聖書の人物像 (奇数年隔年開講)	2	3・4	前期1		ICS2314-L	210
	聖書に見るジェンダー (偶数年隔年開講)	2	3・4	2024		ICS2315-L	—
	美術史 (偶数年隔年開講)	2	2・3・4	2024		ICS2212-L	—
	キリスト教美術特講 (偶数年隔年開講)	2	2・3・4	2024		ICS2213-L	—
	キリスト教音楽実技Ⅰ	2	1・2・3・4	通年		ICS2104-P	211
	キリスト教音楽実技Ⅱ	1	2・3・4	前期1		ICS2214-P	212
	キリスト教音楽実技Ⅲ	1	2・3・4	後期1		ICS2215-P	213
	日本の宗教Ⅰ	2	2・3	後期1		ICS2216-L	213
	キリスト教の信仰	2	4	2024		ICS2405-L	214
総合人 間学系	社会福祉入門	2	1	後期1		ISW2103-L	215
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2	2	後期1		ISW2204-L	216
	ソーシャルワーク論Ⅳ(新)	2	4	2024		ISW2410-L	—
	ソーシャルワーク論Ⅴ(新)	2	4	2024		ISW2411-L	—
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)(2023年度を最後に閉講)	2	3	後期1		ISW2310-L	220
	高齢者福祉論	2	2	後期1		ISW2205-L	220
	障害者福祉論	2	2	後期1		ISW2206-L	221
	保健医療サービス	2	3	後期1		ISW2311-L	222
	精神保健福祉の原理	2	2	閉講		ISW2207-L	—
	精神保健福祉制度論	2	2	閉講		ISW2208-L	—
	精神障害リハビリテーション論 (2023年度を最後に閉講)	2	3	後期1		ISW2315-L	223
	権利擁護と成年後見制度	2	1・2	後期1		ISW2105-L	224
	公的扶助論	2	3	後期1		ISW2314-L	224
	更生保護制度論	2	3	後期1		ISW2312-L	225
	人体の構造と機能及び疾病	2	2	前期1		ISW2213-L	226
	精神保健	2	1・2・3・4	後期1		ISW2106-L	227
	精神疾患とその治療	2	2・3・4	後期1		ISW2214-L	229
	ターミナルケアとグリーフワーク	2	2・3・4	2024		ISW2215-L	—
	聴覚障害者のコミュニケーション	2	1・2・3・4	閉講		ISW2107-L	—
	社会福祉特講 A	2	4	2024		ISW2412-L	230
	社会福祉特講 B (2024年度を最後に閉講)	2	4	2024		ISW2413-L	230
	社会保障論Ⅱ	2	3	後期1		ICD2305-L	231
	地域支援技法Ⅰ	2	2・3・4	後期1		ICD2203-L	232
	地域支援技法Ⅱ	2	2・3・4	後期1		ICD2204-L	233
(総合人 間学系)	福祉サービスの組織と経営	2	3	後期1		ICD2306-L	234
	社会福祉調査	2	3・4	後期1		ICD2307-L	235
	地域開発総論	2	4	閉講		ICD2403-L	—
	社会福祉特講 C	2	3	閉講		ICD2309-L	—
	保育原理と保育士の専門性	2	2	前期1		ICF2201-L	236
	児童・家庭福祉論	2	2	後期1		ICF2202-L	236
	レクリエーションとグループリーダー (2023年度を最後に閉講)	2	2	後期1		ICF2203-S	239
	障害者・障害児心理学	2	2	前期1		ICF2204-L	239
	家族心理学 (2024年度を最後に閉講)	2	2・3・4	後期1		ICF2205-L	241
	子どもと教育 (2024年度を最後に閉講)	2	3	前期1		ICF2301-L	242
総合人 間学系	子どもと家族の国際問題と支援	2	3	閉講		ICF2302-L	—
	プレイセラピーの理論と実際 (奇数年隔年開講)	1	3・4	後期1		ICF2303-L	242
	子どものグリーフワーク (奇数年隔年開講)	1	3・4	後期1		ICF2304-L	243
	教育・学校心理学	2	2・3・4	後期1		ICF2206-L	244
	小児と高齢者の栄養	2	2・3・4	前期1		ICF2208-L	245
	子ども支援キャリアデザイン	2	1・2・3	前期1		ICF2101-S	245
	野外活動とキャンピング	2	1・2・3・4	前期1		ICF2102-P	246
	保育士特講Ⅰ	2	1・2・3・4	前期1		ICF2103-L	248
	保育士特講Ⅱ	2	1・2・3・4	後期1		ICF2104-L	249
	心理学的支援法	2	1	前期1		ICP2102-L	250
総合人 間学系	公認心理師の職責	2	2・3・4	前期1		ICP2206-L	251
	青年心理学	2	1・2・3・4	閉講		ICP2103-L	—
	心理学統計法	2	1	後期1		ICP2104-L	252
	質的研究法	2	2・3・4	後期1		ICP2208-L	253
	質問紙調査法	2	3	前期1		ICP2303-S	254
	心理学研究法Ⅱ(観察法・面接法・実験法)	2	3・4	前期1		ICP2304-S	255
	心理検査技法演習	2	2・3・4	後期1		ICP2209-S	256
	学習・言語心理学	2	2・3・4	後期1		ICP2210-L	257
	知覚・認知心理学	2	2・3・4	後期1		ICP2211-L	257
	神経・生理心理学	2	2・3・4	前期1		ICP2213-L	258
	臨床心理学概論	2	1・2	前期1		ICP2105-L	259
	サイコドラマⅠ	1	2・3・4	前期1		ICP2214-L	259
	サイコドラマⅡ	1	2・3・4	後期1		ICP2215-S	261
	サイコドラマⅢ	1	2・3・4	後期1		ICP2216-S	262
	サイコドラマⅢ演習	1	2・3・4	後期1		ICP2217-S	263
	感情・人格心理学	2	2・3・4	後期1		ICP2218-S	264
	交流分析	2	2・3・4	前期1		ICP2219-L	264
	社会・集団・家族心理学	2	2・3・4	集中		ICP2220-L	265
	産業・組織心理学	2	2・3・4	前期1		ICP2221-L	266
	精神分析学	2	2・3・4	後期1		ICP2222-L	267
	健康・医療心理学	2	2・3・4	前期1		ICP2223-L	268

	授 業 科 目	単位	履修年次 目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載 ページ
(リ ア 床 心 成 科 学 キ ャ リ ア 系)	福祉心理学	2	3・4	後期1		ICP2305-L	269
	司法・犯罪心理学	2	2・3・4	後期1		ICP2224-L	270
	関係行政論	2	2	前期1		ICP2225-L	271
	心理演習	2	2	後期1		ICP2226-L	272
	臨床心理特講 A(大学院進学支援講座)	1	2・3・4	前期1		ICP2227-L	273
専門科目まとめ ・〈2〉総合人間学コア科目群から8単位以上を選択必修とする。 ・〈3〉総合人間学キリスト教といのち科目群から4単位以上を選択必修とする。 ・〈4〉総合人間学総合演習科目群の「キャリアデザイン基礎」「キャリアデザイン実践」「ソーシャルワーク演習Ⅲ」より 1科目2単位選択必修 以上の選択必修を含めて、72単位以上を取得すること。							
卒業要件 教養科目から必修、選択必修を含めて30単位以上 専門科目から選択必修を含めて72単位以上 以上を含めて124単位以上を取得することが必要							

2023年度 開講科目表(2020年度以前入学者、2021年度2年次編入生、2022年度3年次編入用)

開講科目表の見方

- ①2017年度以前の入学者については昨年度の開講科目表で科目名や科目群を確認して下さい。
 ②必修・選択等欄： ◎印：必修 ○印：選択必修 無印：選択 ×印：履修不可

教養(Liberal Arts)科目

	授 業 科 目	単位	履修年次 目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載 ページ
教 養 科 目 群	総合人間学	2	1	前期1	◎	GFR1101-L	116
	聖書を読む(2023年度を最後に閉講)	2	1	後期1	◎	GCH1101-S	116
	キリスト教概論Ⅰ	2	1	前期1	◎	GCH1102-L	117
	キリスト教概論Ⅱ	2	1	後期1		GCH2101-L	118
	社会福祉原論Ⅰ	2	1	前期1	◎	GSS1101-L	119
	社会福祉原論Ⅱ	2	1	後期1		GSS2101-L	120
	心理学	2	1・2	前期1	◎	GHU1101-L	121
	心理学概論	2	1・2	後期1		GHU2101-L	121
	現代生命科学Ⅰ(2023年度を最後に閉講)	2	1・2・3・4	前期1		GNI2110-L	122
	現代生命科学Ⅱ(2023年度を最後に閉講)	2	1・2・3・4	後期1		GNI2111-L	123
	スポーツと健康(体育実技を含む)A	2	1・2	前期1		GPE2101-P	124
	スポーツと健康(体育実技を含む)B	2	1・2	後期1		GPE2102-P	125
	地球と宇宙Ⅰ→九州ルーテル学院大学の「環境学」を単位互換	2	1・2・3・4	後期1		GNI2112-L	—
	地球と宇宙Ⅱ	2	1・2・3・4	閉講		GNI2113-L	—
	中世史との対話 (奇数年隔年開講)	2	1・2	前期1		GHU2102-L	126
	近世史との対話 (奇数年隔年開講)	2	1・2	後期1		GHU2103-L	126
	憲法	2	1・2	前期1		GSS2102-L	127
	法学 (2023年度を最後に閉講)	2	1・2	後期1		GSS2103-L	128
	社会学	2	1・2	前期1		GSS2104-L	129
	社会学Ⅱ	2	1・2	後期1		GSS2105-L	129
	教養としての哲学	2	1・2	前期1		GHU2105-L	130
	哲学と論理	2	1・2	後期1		GHU2106-L	131
	教育学	2	1・2	後期1		GHU2107-L	132
	音楽の基礎	2	1・2	前期1		GHU2108-P	132
	音楽の実践	2	1・2	後期1		GHU2109-P	133
	コミュニケーションの演習	2	1	前期1・後期1	◎	GFR1102-S	134
	コンピュータ入門Ⅰ (2023年度を最後に閉講)	2	1・2	前期1×2		GNI2114-P	135
	コンピュータ入門Ⅱ (2023年度を最後に閉講)	2	1・2	後期1×3		GNI2115-P	136
	視覚障害者PC入門	2	1	前期1		GNI2116-P	136
	英語 Reading	2	1	前期2	○〈1〉	GFL3104-S	137
	英語 Speaking/Listening	2	1	前期2	○〈1〉	GFL3101-S	138
	英語 Writing/Grammar	2	1	前期2	○〈1〉	GFL3105-S	139
	英語特別演習(Independent Study)	1	2・3・4	前期1	○〈1〉	GFL3201-S	140
	英語 Speaking/Listening 演習	2	2・3	前期2	○〈1〉	GFL3204-S	141
	ドイツ語初級Ⅰ	1	1	前期1		GFL2101-S	142
	ドイツ語初級Ⅱ	1	1	後期1		GFL2102-S	142
	ドイツ語講読Ⅰ (2023年度を最後に閉講)	1	1・2	前期1		GFL2104-S	143
	ドイツ語講読Ⅱ (2023年度を最後に閉講)	1	1・2	後期1		GFL2105-S	144
	外国の言語と文化 初級(韓国語)	1	1・2・3・4	閉講		GFL2107-S	—
	日本語特講(留学生)Ⅰ	1	1・2	前期1		GFL2111-S	145
	日本語特講(留学生)Ⅱ	1	1・2	後期1		GFL2112-S	145
教養科目まとめ ・総合人間学、聖書を読む、キリスト教概論Ⅰ、社会福祉原論Ⅰ、心理学、コミュニケーションの演習 ・〈1〉英語科目のうち2単位以上を選択必修。 以上の必修、選択必修を含めて30単位以上を履修すること。							

専門科目

	授 業 科 目	単位	履修年次 目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載 ページ
総合人間学 科目群	人間・文化とキリスト教Ⅰ (奇数年隔年開講)	2	2・3	閉講	○〈2〉	ICS3201-L	—
	人間・文化とキリスト教Ⅱ (偶数年隔年開講)	2	2・3	閉講	○〈2〉	ICS3202-L	—
	キリスト教の人間観Ⅰ (2023年度を最後に閉講)	2	2・3・4	前期1	○〈2〉	ICS3203-L	146
	キリスト教の人間観Ⅱ (2023年度を最後に閉講)	2	2・3・4	後期1	○〈2〉	ICP3201-L	147
	社会福祉の基礎	2	2	前期1	○〈2〉	ISW3201-L	148

	授 業 科 目	単位	履修年次 目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載 ページ
総合人間学コア科目群	ソーシャルワーク論Ⅰ	2	2	前期1	○〈2〉	ISW3202-L	148
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2	2	後期1	○〈2〉	ISW3203-L	149
	障害者福祉の諸問題	2	2	閉講	○〈2〉	ISW3204-L	—
	高齢者福祉の諸問題	2	2	閉講	○〈2〉	ISW3205-L	—
	地域福祉論Ⅰ	2	2	前期1	○〈2〉	ICD3201-L	150
	地域福祉論Ⅱ	2	2	後期1	○〈2〉	ICD3202-L	151
	社会保障論Ⅰ	2	2	前期1	○〈2〉	ICD3203-L	152
	児童福祉の諸問題	2	2	前期1	○〈2〉	ICF3201-L	153
	教育心理学	2	2	閉講	○〈2〉	ICF3202-L	—
	発達心理学	2	2	後期1	○〈2〉	ICF3203-L	154
	カウンセリング実技の基本	2	2	前期1	○〈2〉	ICP3202-L	155
	心理学研究法Ⅰ（データ解析）	2	2	前期1	○〈2〉	ICP3203-L	156
	心理的アセスメント	2	2・3・4	前期1	○〈2〉	ICP3204-L	157
	心理学実験	2	2	後期2	○〈2〉	ICP3205-S	157
教といのちのち 科目群	いのち学序説	2	1・2	後期1	○〈3〉	ICP3101-L	158
	人間の尊厳と人権	2	2・3・4	後期1	○〈3〉	ICP3206-L	159
	社会福祉とキリスト教	2	2・3・4	閉講	○〈3〉	ISW3207-L	—
	キリスト教と生命倫理（2023年度を最後に閉講）	2	2・3・4	前期1	○〈3〉	ICP3207-L	160
	人間・いのち・世界Ⅰ	2	3・4	前期1	○〈3〉	ICP3301-L	161
	人間・いのち・世界Ⅱ（2024年度を最後に閉講）	2	3・4	後期1	○〈3〉	ICP3302-L	161
	キリスト教の倫理	2	2・3・4	2024	○〈3〉	ICP3208-L	—
国際プログラム 科目群	英語特別プログラム(ESP: English for Special Purposes)	1	1・2	閉講		IAD2101-S	—
	外国の言語と文化(フィリピン語)	1	1・2・3・4	閉講		IAD2102-S	—
	多文化ソーシャルワーク	2	2・3・4	後期1		IAD2201-L	162
	国際社会福祉概説	2	2	閉講		IAD2202-L	—
	社会福祉と国際協力	2	2・3・4	前期1		IAD2203-L	163
	海外研修A（アジア）	2	1・2・3・4	休講		IAD2103-T	—
	海外研修B（欧米）	2	1・2・3・4	休講		IAD2104-T	—
	海外インターンシップ前ゼミ	2	3	閉講		IAD2301-S	—
	海外インターンシップA（アジア）	2	3	閉講		IAD2302-T	—
	海外インターンシップB（欧米）	2	3	閉講		IAD2303-T	—
原典講読科目群	ヘブル語Ⅰ（2023年度休講）	4	2	休講		ICS2201-S	—
	ヘブル語Ⅱ（2023年度休講）	4	2	休講		ICS2202-S	—
	ギリシア語Ⅰ	4	3	前期2		ICS2301-S	163
	ギリシア語Ⅱ	4	3	後期2		ICS2302-S	164
	ラテン語Ⅰ 2023年度は東京神学大学で開講	2	3・4	前期1		ICS2303-S	165
	ラテン語Ⅱ 2023年度はルーテル学院大学で開講	2	3・4	後期1		ICS2304-S	166
	臨床心理英専門書講読A（2023年度以降閉講）	2	2・3・4	閉講		ICP2201-S	—
総合人間学 総合演習科目群	臨床心理英語論文読解Ⅰ	2	2・3・4	前期1		ICP2203-S	166
	キャリアデザイン基礎	2	2・3	前期1	○〈4〉	IAD2204-L	167
	キャリアデザイン実践	2	3	後期1	○〈4〉	IAD2304-S	168
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	1	前期1		ISW2101-S	169
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	1	後期1		ISW2102-S	170
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	2・3	前期1	○〈4〉	ISW2202-S	170
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	3	前期1		ISW2301-S	171
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	3	後期1		ISW2302-S	172
	ソーシャルワーク演習Ⅵ	2	4	前期1		ISW2401-S	173
	ソーシャルワーク・キャリアアップゼミ	2	4	後期1		ISW2402-S	174
	キリスト教フレッシュマンゼミ	2	1	後期1		ICS2101-S	174
	キリスト教特講ゼミⅠ	2	2・3・4	前期 or 後期		ICS2203-S	175
	キリスト教特講ゼミⅡ	2	2・3・4	前期 or 後期		ICS2204-S	176
	キリスト教特講ゼミⅢ	2	2・3・4	前期 or 後期		ICS2205-S	176
	キリスト教特講ゼミⅣ	2	3	閉講		ICS2306-S	—
	キリスト教特講ゼミⅤ	2	4	閉講		ICS2401-S	—
	キリスト教特講ゼミⅥ	2	4	閉講		ICS2402-S	—
	臨床心理フレッシュマンゼミ	2	1	後期1		ICP2101-S	177
	卒業演習プレゼミナール	1	3	前期1		ICP3201-S	178
	卒業演習Ⅰ	2	3	後期1		IAD2305-S	179
	卒業演習Ⅱ	2	4	前期1		IAD2401-S	179
	卒業演習Ⅲ	2	4	後期1		IAD2402-S	180
	卒業論文	4	4	通年1		IAD2403-S	181
総合人間学 実践科目群	食といのちと環境Ⅰ	2	2・3	前期1		ICS2205-L	182
	食といのちと環境Ⅱ（2023年度を最後に閉講）	2	2・3	後期1		ICS2206-L	183
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	2・3	後期1		ISW2203-S	—
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2	3・4	前期1		ISW2303-S	188
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2	3・4	前期1		ISW2304-S	189
	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	1	3・4	後期1		ISW2305-S	190
	精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ	2	4	前期1		ISW2403-S	—
	精神保健福祉援助演習（専門）Ⅱ	2	4	後期1		ISW2404-S	192
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2	3	後期1		ISW2306-S	192
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2	4	前期1		ISW2405-S	193
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	2	4	前期1		ISW2406-S	194
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	4	3・4	前期1		ISW2307-T	196
	ソーシャルワーク実習Ⅱ（2023年度を最後に閉講）	3	4	休講		ISW2407-T	—
	ソーシャルワーク実習Ⅲ	4	3・4	通年1		ISW2308-T	197
	精神保健福祉実習	4	4	前期1		ISW2408-T	199
	インターンシップゼミ	2	3・4	閉講		ISW2309-S	—
	インターンシップⅠ	1	3・4	閉講		ICD2301-T	—
	インターンシップⅡ	1	3・4	閉講		ICD2302-T	—
	心理実習Ⅰ	2	2	後期1		ICP2205-T	200
	心理実習Ⅱ	2	3	前期2・後期1		ICP2302-T	201

	授 業 科 目	単位	履修年次 目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載 ページ
総合人間学キャリア形成科目群（キリスト教人間学系）	世界の宗教Ⅰ（奇数年隔年開講）	2	2・3・4	前期1		ICS 2207-L	202
	世界の宗教Ⅱ（奇数年隔年開講）	2	2・3・4	閉講		ICS 2208-L	—
	文化史	2	1・2・3	前期1		ICS 2102-L	203
	比較文化論（2024年度を最後に閉講）	2	3・4	後期1		ICS 2307-L	203
	いのちのキリスト教史	2	2・3・4	前期1		ICS 2209-L	204
	日本における死生学	2	4	前期1		ICS 2403-L	205
	キリスト教と死生学	2	4	後期1		ICS 2404-L	205
	キリスト教カウンセリング	2	3・4	後期1		ICS 2308-L	206
	キリスト教の歴史Ⅰ（2023年度を最後に閉講）	2	2	前期1		ICS 2209-L	207
	キリスト教の歴史Ⅱ（2024年度を最後に閉講）	2	2	後期1		ICS 2210-L	207
	聖書入門Ⅰ（旧約）	2	2	閉講		ICS 2210-L	—
	聖書入門Ⅱ（新約）	2	2	閉講		ICS 2211-L	—
	旧約聖書精読	2	3・4	後期1		ICS 2311-L	208
	新約聖書精読（偶数年隔年開講）	2	3・4	2024		ICS 2312-L	—
	旧約聖書の人間観（2024年度より偶数年開講）	2	3	後期1		ICS 2313-L	209
	新約聖書の人物像（奇数年隔年開講）	2	3・4	前期1		ICS 2314-L	210
	聖書に見るジェンダー（偶数年隔年開講）	2	3・4	2024		ICS 2315-L	—
	美術史（偶数年隔年開講）	2	2・3・4	2024		ICS 2212-L	—
	キリスト教美術特講（偶数年隔年開講）	2	2・3・4	2024		ICS 2213-L	—
	キリスト教文学特講（奇数年隔年開講）	2	1・2	閉講		ICS 2103-L	—
	キリスト教音楽実技Ⅰ	2	1・2・3・4	通年		ICS 2104-P	211
	キリスト教音楽実技Ⅱ	1	2・3・4	前期1		ICS 2214-P	212
	キリスト教音楽実技Ⅲ	1	2・3・4	後期1		ICS 2215-P	213
総合人間学キャリア形成科目群（福祉相談援助系）	日本の宗教Ⅰ	2	2・3	後期1		ICS 2216-L	213
	日本の宗教Ⅱ（偶数年隔年開講）	2	2・3	閉講		ICS 2217-L	—
	キリスト教の信仰	2	4	前期1		ICS 2405-L	214
	社会福祉入門	2	1	後期1		ISW 2103-L	215
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2	2	後期1		ISW 2204-L	216
	ソーシャルワーク論Ⅳ（2023年度を最後に閉講）	2	4	後期1		ISW 2409-L	216
	ソーシャルワーク論Ⅴ	2	4	前期1		ISW 2410-L	217
	ソーシャルワーク論Ⅵ	2	4	後期1		ISW 2411-L	218
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開（2024年度を最後に閉講）	2	3・4	後期1		ISW 2310-L	219
	介護概論	2	1・2	閉講		ISW 2104-L	—
	高齢者福祉論	2	2	後期1		ISW 2205-L	220
	障害者福祉論	2	2	後期1		ISW 2206-L	221
	保健医療サービス	2	3	後期1		ISW 2311-L	222
	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	2	2	閉講		ISW 2207-L	—
	精神保健福祉に関する制度とサービス	2	2	閉講		ISW 2208-L	—
	精神障害者の生活支援システム	2	2	閉講		ISW 2209-L	—
	権利擁護と成年後見制度	2	1・2	後期1		ISW 2105-L	224
	公的扶助論	2	2・3	後期1		ISW 2211-L	224
	就労支援サービス	2	2・3	閉講		ISW 2212-L	—
	更生保護制度論	2	2・3	後期1		ISW 2212-L	225
	人体の構造と機能及び疾病	2	2	前期1		ISW 2213-L	226
	精神保健	2	1・2・3・4	後期1		ISW 2106-L	227
	精神疾患とその治療	2	2・3・4	後期1		ISW 2214-L	229
総合人間学キャリア形成科目群（地域福祉開発系）	ターミナルケアとグリーフワーク（偶数年隔年開講）	2	2・3・4	2024		ISW 2215-L	—
	聴覚障害者のコミュニケーション	2	1・2・3・4	閉講		ISW 2107-L	—
	社会福祉特講 A	2	4	後期1		ISW 2412-L	230
	社会福祉特講 B（2024年度を最後に閉講）	2	4	後期1		ISW 2413-L	230
	ボランティア・市民活動論	2	2・3	閉講		ICD 2202-L	—
	社会保障論Ⅱ	2	2	後期1		ICD 2203-L	231
	地域支援技法Ⅰ	2	2・3・4	後期1		ICD 2203-L	232
	地域支援技法Ⅱ	2	2・3・4	後期1		ICD 2204-L	233
	福祉行政財政と福祉計画	2	3	閉講		ICD 2305-L	—
	福祉サービスの組織と経営	2	3	後期1		ICD 2306-L	234
	社会福祉調査	2	3・4	後期1		ICD 2307-L	235
	福祉実践調査	2	3・4	閉講		ICD 2308-L	—
	地域開発総論	2	4	閉講		ICD 2403-L	—
	社会福祉特講 C	2	3	閉講		ICD 2309-L	—
	保育原理と保育士の専門性	2	2	前期1		ICF 2201-L	236
	児童福祉論	2	2	後期1		ICF 2202-L	237
	レクリエーションとグループリーダー（2023年度を最後に閉講）	2	2	後期1		ICF 2203-S	239
	障害者・障害児心理学	2	2	前期1		ICF 2204-L	239
	家族心理学（2024年度を最後に閉講）	2	2・3・4	後期1		ICF 2205-L	241
	子どもと教育（2024年度を最後に閉講）	2	3	前期1		ICF 2301-L	242
	子どもと家族の国際問題と支援	2	3	閉講		ICF 2302-L	—
	プレイセラピーの理論と実際（奇数年隔年開講）	1	3・4	後期1		ICF 2303-L	242
	子どものグリーフワーク（奇数年隔年開講）	1	3・4	後期1		ICF 2304-L	243
総合人間学キャリア形成科目群（子ども支援系）	教育・学校心理学	2	2・3・4	後期1		ICF 2206-L	244
	小児と高齢者の栄養	2	2・3・4	前期1		ICF 2208-L	245
	子ども支援キャリアデザイン	2	1・2・3	前期1		ICF 2101-S	245
	野外活動とキャンピング	2	1・2・3・4	前期1		ICF 2102-P	246
	保育士特講Ⅰ	2	1・2・3・4	前期1		ICF 2103-L	248
	保育士特講Ⅱ	2	1・2・3・4	後期1		ICF 2104-L	249

	授 業 科 目	単位	履修年次 目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載 ページ
総合人間学 キャリア形成科目群 (臨床心理学系)	心理学的支援法	2	1	前期1		ICP2102-L	250
	公認心理師の職責	2	2・3・4	前期1		ICP2206-L	251
	心理療法演習 (偶数年隔年開講)	2	2・3・4	閉講		ICP2207-S	—
	青年心理学	2	1・2・3・4	閉講		ICP2103-L	—
	心理学統計法	2	1	後期1		ICP2104-L	252
	質的研究法	2	2・3・4	後期1		ICP2208-L	253
	質問紙調査法	2	3	前期1		ICP2303-S	254
	心理学研究法Ⅱ(観察法・面接法・実験法)	2	3・4	前期1		ICP2304-S	255
	心理検査技法演習	2	2・3・4	後期1		ICP2209-S	256
	学習・言語心理学	2	2・3・4	後期1		ICP2210-L	257
	知覚・認知心理学	2	2・3・4	後期1		ICP2211-L	257
	生理心理学	2	2・3・4	閉講		ICP2212-L	—
	神経・生理心理学	2	2・3・4	前期1		ICP2213-L	258
	臨床心理学概論	2	1・2	前期1		ICP2105-L	259
	サイコドラマⅠ	1	2・3・4	前期1		ICP2214-L	259
	サイコドラマⅡ	1	2・3・4	後期1		ICP2215-S	261
	サイコドラマⅢ	1	2・3・4	後期1		ICP2216-S	262
	サイコドラマⅢ演習	1	2・3・4	後期1		ICP2217-S	263
	感情・人格心理学	2	2・3・4	後期1		ICP2218-S	264
	交流分析	2	2・3・4	前期1		ICP2219-L	264
	社会・集団・家族心理学	2	2・3・4	集中		ICP2220-L	265
	産業・組織心理学	2	2・3・4	前期1		ICP2221-L	266
	精神分析学	2	2・3・4	後期1		ICP2222-L	267
	健康・医療心理学	2	2・3・4	前期1		ICP2223-L	268
	福祉心理学	2	3・4	後期1		ICP2305-L	269
	司法・犯罪心理学	2	2・3・4	後期1		ICP2224-L	270
	関係行政論	2	2	前期1		ICP2225-L	271
	心理演習	2	2	後期1		ICP2226-L	272
	臨床心理特講 A(大学院進学支援講座)	1	2・3・4	前期1		ICP2227-L	273
専門科目まとめ ・(2)総合人間学コア科目群から8単位以上を選択必修とする。 ・(3)総合人間学キリスト教などの科目群から4単位以上を選択必修とする。 ・(4)総合人間学総合演習科目群の「キャリアデザイン基礎」「キャリアデザイン実践」「ソーシャルワーク演習Ⅲ」より 1科目2単位選択必修(2018年度入学者より) 以上の選択必修を含めて、72単位以上を取得すること。							
卒業要件 教養科目から必修、選択必修を含めて30単位以上 専門科目から選択必修を含めて72単位以上 以上を含めて124単位以上を取得することが必要							

総合人間学

科目ナンバー	GFR1101-L
2単位：前期1コマ	1年 必修
原島 博、樋野 興夫、ジャン・ブレゲンズ、 上村 敏文、高山 由美子、山口 麻衣、加藤 純、 田副 真美、河田 優	

〔到達目標〕

- (1) 人間とは何か、人間の尊厳とは何かを多面的に考察し理解することができる。
- (2) 地域、日本、世界を構成する私たちはどのような社会づくりをめざすべきなのか。それを学際的に考察し理解することができる。
- (3) 大学の理念、5つのコースの内容、アプローチ、連携のシステムを理解し、自らの職業選択などに活かすことができる。

〔履修の条件〕

総合人間学部の必修科目であり、新入生は入学初年度に必ず受講すること。

〔講義概要〕

人間を魂とこころと生活、家族や地域社会と関わる存在として総合的に理解し、対人援助に関わる高度専門職業人としての基礎を培う。そのために、キリスト教の人間理解と世界への洞察を軸として、人間存在を包括的・総合的に理解する。特に、「いのち」を巡る諸問題を探求する力と人間の存在を重んじる心を涵養し、他者との関係性に生きること、その倫理について学ぶ。さらに、総合人間学としての学びを具体的なキャリアに結びつけながら、学びをふかめていく。

■授業計画

- | | | |
|------|-----------------|----------|
| 第1回 | 総合人間学とは | |
| 第2回 | 人間：いのちと尊厳 | |
| 第3回 | キリスト教と日本文化 | |
| 第4回 | 福祉と人間 | |
| 第5回 | 地域と人間 | |
| 第6回 | 子ども・家族と人間 | |
| 第7回 | こころと人間 | |
| 第8回 | 異文化・多文化における人間理解 | |
| 第9回 | 聖書と人間 | |
| 第10回 | 開発・発展と人間 | |
| 第11回 | 楕円形のこころ① | |
| 第12回 | 楕円形のこころ② | |
| 第13回 | 聖書とがん① | |
| 第14回 | 聖書とがん② | |
| 第15回 | 総合人間学をふりかえって | レポート・テスト |
| 第16回 | - | |

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

「その他の評価方法」とは、毎回提出するリアクションペーパーの内容や、授業時における質疑応答などの内容により評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

指定テキストの各単元の要約と重要語句について、また、毎回配布される講義資料により予習・復習をすること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを原則として次の講義内容において行う。また、授業内での質問等はその都度コメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性、3.総合的・実践的な学習能力、4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。宗教、生活、子ども、こころ、いのち、言語、文化など学際的に人間理解を進めることにより、人間を包括的にとらえることができる価値・知識・技術を身につける。

〔テキスト〕

がん細胞から学んだ生き方「ほっとけ 気にするな」のがん哲学(へるす出版)樋野興夫 1800円+税

〔参考文献〕

「聖書とがん」(イーグレイプ)1600円+税

聖書を読む

科目ナンバー	GCH1101-S
2単位：後期1コマ	1年 必修
河田 優	

〔到達目標〕

キリスト教精神に基づく本学において、これからの対人援助の専門的な学びのためにまず「聖書を読む」。映像や音楽等さまざまな方法を通して聖書をより身近なものとして受け止め、この時代に語られる言葉としての考えを分かち合う。このように広く、また深く読み進める中で、聖書がなぜ長い歴史の中で多くの人々の心を動かし、愛と奉仕の生き方に向かわせたかを学ぶ。

〔履修の条件〕

必修科目。いずれのコースを希望する者も必ず履修すること。

〔講義概要〕

旧約・新約聖書全体についての基礎的なオリエンテーションの後、様々な方法で聖書を読み進め、人間や世界についての理解と思索を深める。講義形式ばかりではなく、時にグループになり意見を交し合い、学びを深める。またワークシートを用いて調べ学習なども行う。

■授業計画

- | | | |
|-----|-----------|--|
| 第1回 | オリエンテーション | 一人で読む、グループで読む、礼拝で読むなど、それぞれの聖書の読み方について授業方法の説明 |
| 第2回 | 聖書基礎知識 | 聖書とはどのような書物か、その成立から現代にいたるまで |
| 第3回 | 旧約聖書 | |

- 創世記① 聖書を繰り返し読み黙想する。創造物語からそこに記されている疑問点をあげる。
- 第4回 旧約聖書
創世記② 創造物語から与えられた疑問点をテーマとし、図書館やインターネットなどを利用して文献を調べる。
- 第5回 旧約聖書
創世記③ 小レポートの書き方について学び、創造物語から小レポートを作成する。
- 第6回 美術作品を通して聖書を読む
キリスト教絵画「創世記」「最後の晩餐」を中心に作者の信仰を探る。
- 第7回 キリスト教音楽を通して聖書を読む
キリスト教音楽の歴史を紹介し、その曲に表される聖書の言葉を分かち合う。
- 第8回 新約聖書
福音書① イエスの教えを取り上げ、グループで意見を交し合う。
- 第9回 新約聖書
福音書② 聖書時代の生活から聖書の言葉を体験してみる。
- 第10回 新約聖書
福音書③ クリスマスの出来事を読む。
- 第11回 新約聖書
福音書④ 聖書に登場する人物を知る。「ペトロ」
- 第12回 新約聖書
福音書⑤ イエスキリストの十字架と復活の意味を学ぶ(ワークシート)
- 第13回 祈りと共に読まれる聖書
黙想の体験を行う。
- 第14回 発表
イエスのたとえ話を解釈し、今日的意味についてまとめる。
- 第15回 ー
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

発言など授業での積極的な取り組み
ワークシートなどの宿題。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

次回の授業として予告される聖書箇所をあらかじめ読んでおく。
聖書にある語句などを予め調べておく。指定された図書、聖書箇所、礼拝に出席してのレポートなど与えられた課題への取り組み。
各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

授業で提出したリアクションペーパーについては、次回の授業でフィードバックを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

本学ディプロマポリシーのキリスト教人間理解に基づく「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。聖書を読むことにより、キリスト教の愛と命について深く学ぶ。また意見交換を行い、その学びを深める。

〔テキスト〕

聖書(日本聖書協会発行新共同訳が望ましい)

〔参考文献〕

特になし。
授業で紹介。

〔備考〕

学内で行われる礼拝もしくは近隣教会に複数回出席し、礼拝の感想や聖書から語られるメッセージの要約を課題として実施します。

キリスト教概論Ⅰ	
科目ナンバー	GCH1102-L
2単位：前期1コマ	1年 必修
河田 優	

〔到達目標〕

- ①「キリストの心を心とする」という建学の精神に基づいて教育を進める本学において、専門的な学びを始める前に基盤となるキリスト教の概要を理解する。
- ②聖書を中心に学びを進めるが、その他にも歴史等、様々な面からキリスト教を学び、今の私たちの生活にも影響を与えているキリスト教についての知識を深める。

〔履修の条件〕

必修。特に条件はなし。キリスト教に関心を持って授業に臨むことを期待します。

〔講義概要〕

毎時間の授業は、授業ごとにテーマを定め、概論として聖書をはじめて読む学生にもわかりやすくキリスト教を紹介していくことになります。
時には、ビデオなどの視聴覚教材を用いながら、より理解を深めていきます。またキリスト教に関する働きに従事する特別講師による講義もあります。
随時、質問を受け付けるようにし、丁寧に学びを進めていきます。

■授業計画

- 第1回 ミッションスクールとしてのルーテル学院①
オリエンテーション テキスト(聖書)の紹介 ルーテル学院の礼拝、宗教活動について学ぶ
- 第2回 ミッションスクールとしてのルーテル学院②
本学の建学の精神とミッションステートメントについて学ぶ
- 第3回 身近にある様々な教会とカルトとの違い
地域のキリスト教会を紹介し、それぞれの特徴を知る。
- 第4回 社会に生きるキリスト者

- 信仰者として社会奉仕をされている方の講演を聞く。
- 第5回 聖書の紹介①
世界中で読まれている聖書の成立から私たちの手元に届くまで
- 第6回 聖書の紹介②
旧約聖書の構成とよく知られている物語を紹介
- 第7回 聖書の紹介③
新約聖書の構成とよく知られている物語を紹介
- 第8回 聖書の示すキリスト教会
キリスト教会の使命について
- 第9回 キリスト教の歴史①
教会の成立から十字軍まで
- 第10回 キリスト教の歴史②
ルターの宗教改革から現代まで
- 第11回 日本とキリスト教
キリスト教伝来から現代の教会
- 第12回 キリスト教から現代を考える①
聖書から見るわたしたちのいのちと性
- 第13回 キリスト教から現代を考える②
さまざまな社会問題に対する取り組み
- 第14回 まとめ
ルーテル学院での私たちの学びとキリスト教について考える。
- 第15回 試験
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(70%)、レポート(10%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

発言など授業での積極的な取り組み

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

授業ごとに次の授業内容テーマを予告するので、指定された聖書箇所、関連の図書などをあらかじめ読む。復習としては、授業内容と関連した事柄を調べ、毎回ノートにまとめる。各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

授業後に提出されたリアクションペーパーは、次の授業にフィードバックを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

本学ディプロマポリシーの「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。聖書をテキストに「神が愛しておられるいのち」について学び、互いのいのちの尊厳のために仕え合う人間性を養っていく。

〔テキスト〕

新共同訳聖書(日本聖書協会発行)。代わりに新改訳聖書や口語訳聖書でも構いません。3回目講義までに準備してください。オリエンテーションで聖書の紹介をします。

〔参考文献〕

土井かおる著 よくわかるキリスト教(PHP研究所)1,350円

富田正樹著 キリスト教資料集(日本キリスト教団出版局)1,000円

〔備考〕

授業では毎回、聖書は欠かさず持参してください。
礼拝や聖書についての学びのためにも、学校の礼拝や地域の教会の礼拝にも積極的に出席してください。

キリスト教概論Ⅱ		
科目ナンバー	GCH2101-L	
2単位：後期1コマ	1年	
河田 優		

〔到達目標〕

- ①聖書から特にイエス・キリストの生涯を学び、罪ある人間を救おうとされる神の愛と人々に奉仕する生き方について理解します。
- ②現代社会のさまざまな問題を、キリスト教的な考え方からも捉えていくことができる程の基礎的学力を得ます。
- ③福祉やカウンセリング、地域社会や子供などの専門分野での学びにどのようにキリスト教の教えが関わっているかを学び、専門的な学びの土台とします。

〔履修の条件〕

条件ではないが、キリスト教概論Ⅰを履修済みであることが望ましい。また、キリスト教に関心を持って積極的な発言を期待します。

〔講義概要〕

毎時間の授業は、聖書から学ぶことが中心です。聖書をはじめて読む学生にもわかりやすく聖書の言葉を解説します。時には、ビデオなどの視聴覚教材、さらにワークシートなどを用いながら、より理解を深めます。
キリスト教活動に関わる特別講師を招き、講義をすることがあります。
随時、質問を受け付けるようにし、丁寧に学びを進めます。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション
日本人の宗教観とキリスト教について
- 第2回 宗教って何だろう
世界の様々な宗教と比較して考えるキリスト教
- 第3回 キリスト教から見る神について
神はいるのか、どのような存在なのか。
- 第4回 キリスト教から見る人間について
聖書の創造物語と罪の問題
- 第5回 イエス・キリスト①
イエス・キリストが現れる時代背景について
- 第6回 イエス・キリスト②
イエスの誕生と公生涯のはじめ
- 第7回 イエス・キリスト③
イエスの宣教と教え(マタイ福音書「山上の説教」から)
- 第8回 イエス・キリスト④
イエスが起こしたとされる様々な奇跡とその意味

- 第9回 イエス・キリスト⑤
十字架へと向かうイエスの受難について
- 第10回 イエス・キリスト⑥
イエスの十字架と復活とは
- 第11回 宗教改革とマルティン・ルター
ルターの信仰と生涯を学ぶ
- 第12回 キリスト教と出会った人々①
愛と奉仕に生きた人々の紹介(歴史的な人物から)
- 第13回 キリスト教と出会った人々②
愛と奉仕に生きる人々の紹介(現在の社会の中で)
- 第14回 まとめ
キリスト教を土台としたミッションスクールで学び、遣わされていく私たち
- 第15回 試験
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(70%)、レポート(10%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

発言などによる授業への積極的な取り組み。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

授業ごとに次の授業内容テーマを予告、その授業内容に関連の本などを予め読む。また授業内容についてノートを作成する。各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

時に授業でリアクションペーパーを提出する。そのフィードバックは次の授業においてなされる。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

本学のディプロマポリシーである「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。特にキリスト教の中心であるイエスの言葉とその生涯を学ぶ中で、隣人への愛とそれを表す生き方について深く学ぶ。

〔テキスト〕

新共同訳聖書(日本聖書協会発行)。代わりに新改訳聖書や口語訳聖書でも構いません。

〔参考文献〕

土井かおる著 よくわかるキリスト教(PHP研究所)1,350円
富田正樹著 キリスト教資料集(日本キリスト教団出版局)1,000円

〔備考〕

授業では毎回、聖書は欠かさず持参してください。
礼拝や聖書についての学びのためにも、学校や地域の教会の礼拝にも積極的に出席してください。礼拝出席の感想を課題とする場合があります。

社会福祉原論Ⅰ

科目ナンバー	GSS1101-L
2単位：前期1コマ	1年 必修
浅野 貴博	

〔科目補足情報〕

社会福祉士受験資格取得のための指定科目であり、2年次以降の「ソーシャルワーク実習Ⅰ及びⅡ」の履修を希望する者は、本科目を一定以上の成績で単位取得する必要がある。

〔到達目標〕

ソーシャルワーカーを含む対人援助職(Helping profession)を目指す上で考えなければならない、「社会福祉」は何のためにあるのかという本質的な問いに対して、「人権(Human rights)」を軸として学びを深める。

①社会福祉の基本である人権とは何かを理解する。

②社会福祉における人権の意義について、社会福祉の諸分野における様々な問題を通して理解する。

③人権を支援するソーシャルワークの存在意義について理解する。

※本科目を通じ、「主体的に」学ぶ姿勢を身に付けることが強く望まれる。

〔履修の条件〕

・教養科目の必修科目である。

・社会福祉士の受験資格取得を目指す者は、同じく指定科目である「社会福祉原論Ⅱ」(後期)と併せて履修すること。

〔講義概要〕

「社会福祉」は何のためにあるのかについて、「人権」を軸にした上で、様々な社会問題を通して学ぶ。授業では、受講生の問題関心を深めるために、新聞記事や視聴覚教材等を適宜活用しながら、小グループでのディスカッションも取り入れて進められる。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション：授業の概要と方針について
- 第2回 レポートのまとめ方
- 第3回 人権とは何か(1)
- 第4回 人権とは何か(2)
- 第5回 社会福祉における人権(1)
- 第6回 社会福祉における人権(2)
- 第7回 社会福祉の諸分野と人権(1)：貧困
- 第8回 社会福祉の諸分野と人権(2)：児童
- 第9回 社会福祉の諸分野と人権(3)：障がい
- 第10回 社会福祉の諸分野と人権(4)：高齢
- 第11回 社会福祉の諸分野と人権(5)：マイノリティ①(女性)
- 第12回 社会福祉の諸分野と人権(6)：マイノリティ②(外国にルーツのある人)
- 第13回 社会福祉の諸分野と人権(7)：マイノリティ③(LGBTQ+)
- 第14回 人権を支援するソーシャルワーク
- 第15回 ※定期試験は実施しない
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

- ・前半と後半に2回のレポートを課す(詳しくは授業で説明する)。
- ・「その他の評価方法」については、毎回の授業時に提出を課すリアクションペーパーにより評価する。
- ・定期試験は実施しない。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。レポート課題の作成に向けて、授業等で紹介された参考文献を読み、自分の考えを言語化することを意識する。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを授業の中で行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

〔2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性〕及び〔3.総合的・実践的な学習能力〕に該当する。

〔テキスト〕

特定のテキストは使用しない。授業において、適宜参考文献を紹介する予定。

〔参考文献〕

木原活信(2014)『[シリーズ・福祉を知る①]社会福祉と人権』ミネルヴァ書房

社会福祉原論Ⅱ

科目ナンバー	GSS2101-L
2単位：後期1コマ	1年
浅野 貴博	

〔科目補足情報〕

社会福祉士受験資格取得のための指定科目であり、2年次以降の「ソーシャルワーク実習Ⅰ及びⅡ」の履修を希望する者は、本科目を一定以上の成績で単位取得する必要がある。

〔到達目標〕

- ①日本および欧米における社会福祉の歴史を概観した上で、「社会福祉」は何のためにあるのかについて、その思想と理論を踏まえて学びを深める。
 - ②社会福祉制度と近年の動向について学んだ上で、ソーシャルワークの意義について考える。
- ※本科目を通し、受け身ではなく、「主体的に」学ぶ姿勢を身に付けることが強く望まれる。

〔履修の条件〕

社会福祉士の受験資格取得を目指す者は、同じく指定科目である「社会福祉原論Ⅰ」(前期)と併せて履修すること。

〔講義概要〕

「社会福祉原論Ⅰ」で学んだ「人権」を中心とした社会福祉の理念を踏まえた上で、社会福祉の歴史や社会福祉制度を学ぶことを通して、「社会福祉」は何のためにあるのかについて考える。授業では、受講生の問題関心を深めるために、新聞記事等も適宜活用しながら、小グループでのディスカッションも取り入れて進められる。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション：授業の概要と方針について
- 第2回 社会福祉の歴史：日本の歩み(1)
- 第3回 社会福祉の歴史：日本の歩み(2)
- 第4回 社会福祉の歴史：日本の歩み(3)
- 第5回 社会福祉の歴史：欧米の歩み(1)
- 第6回 社会福祉の歴史：欧米の歩み(2)
- 第7回 社会福祉の思想と理論(1)
- 第8回 社会福祉の思想と理論(2)
- 第9回 社会福祉の思想と理論(3)
- 第10回 社会福祉制度と近年の動向(1)
- 第11回 社会福祉制度と近年の動向(2)
- 第12回 社会福祉制度と近年の動向(3)
- 第13回 社会福祉におけるソーシャルワークの方法と担い手(1)
- 第14回 社会福祉におけるソーシャルワークの方法と担い手(2)
- 第15回 ※定期試験は実施しない
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(40%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

- ・レポートに加えて、小テスト(※2回)を実施する。なお、小テストは、授業で習った知識についての穴埋め問題とする(詳しくは授業で説明する)。
- ・定期試験は実施しない。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。小テストに備えて復習を行うこと。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

小テストの実施後に問題の解説を行い、必要な基礎知識の理解を促す。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

〔2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性〕及び〔3.総合的・実践的な学習能力〕に該当する。

〔テキスト〕

特定のテキストは使用しない。授業において、適宜参考文献を紹介する予定。

〔参考文献〕

各社から出版されている社会福祉士養成講座の『社会福祉の

原理と政策』を参照のこと。

心理学	
科目ナンバー	GHU1101-L
2単位：前期1コマ	1～2年 必修
松田 崇志	

〔到達目標〕

本講義では、心理学の基本的な知識の習得を目標としている。また、日常生活場面や対人援助場面における人間の行動について、授業で紹介する内容と結びつけて考えることができるようになることを目標とする。

〔履修の条件〕

特になし

※後期の「心理学概論」と連続した内容である。

〔講義概要〕

心理学は人間の「心」を理解しようとする学問である。前期の心理学では、「錯視はなぜ起きるのか?」「どうしたら効率的に記憶できるのか?」といった人間の情報処理についての内容や、「どのように経験によって行動を変容させていくのか?」「人は生涯にわたりどのように発達していくのか?」といった学習と発達についての内容を中心に、心理学を広く概観していく。

各授業の中では、それぞれのテーマについて概説するとともに、簡単な実験や調査を入れながら、心理学の知見を確認する。授業はパワーポイントを用いて行う。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション、講義の進め方、心とは?
- 第2回 心理学とは何か?
- 第3回 知覚①：視知覚
- 第4回 知覚②：注意の仕組み
- 第5回 記憶①：記憶の仕組み
- 第6回 記憶②：記憶術
- 第7回 記憶③：日常生活における記憶
- 第8回 言語と思考
- 第9回 学習①：古典的条件づけ
- 第10回 学習②：オペラント条件づけ
- 第11回 学習③：社会的学習
- 第12回 感情と動機づけ
- 第13回 発達①：乳幼児・児童・青年
- 第14回 発達②：成人・老年
- 第15回 試験
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

最終試験に加え、毎回の授業の感想の記入および授業中に課す課題の提出によって成績評価を行う。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

授業後に配布資料を見返す、授業中に紹介する参考文献の該当箇所を読むなどして復習をすること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

授業の感想・質問などに対するフィードバックを次の講義において行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を習得することで、他者理解が深まり、より円滑な人間関係の構築に必要な知識を習得することができる。

〔テキスト〕

特になし

〔参考文献〕

- ①内田一成(監訳)「ヒルガードの心理学(第16版)」 金剛出版 2015年 (本体価格：22,000円+税)
- ②無藤隆他「心理学(New Liberal Arts Selection)」 有斐閣 2004年 (本体価格：3,700円+税)
- ③金沢創・市川寛子・作田由衣子「ゼロからはじめる心理学・入門-人の心を知る科学(有斐閣ストゥディア)」 有斐閣 2015年(本体価格：1,800円+税)
- ④青木紀久代・神宮英夫 「カラー版 徹底図解 心理学」新星出版社 2008年 (本体価格：1,500円+税)

〔備考〕

授業の進度などに応じて、授業内容を変更することがある。

心理学概論	
科目ナンバー	GHU2101-L
2単位：後期1コマ	1～2年
松田 崇志	

〔到達目標〕

本講義では、心理学の基本的な知識の習得を目標としている。また、日常生活場面や対人援助場面における人間の行動について、授業で紹介する内容と結びつけて考えることができるようになることを目標とする。

〔履修の条件〕

特になし。

※前期の「心理学」と連続した内容である。

〔講義概要〕

心理学は人間の「心」を理解しようとする学問である。本講義では、「心理学の成り立ち」について、心理学の歴史と応用について紹介する。また、「人の心の基本的な仕組み及び働き」について、生物学的基礎、知能、パーソナリティ、社会、臨床の各領域の知見や理論について広く概観していく。

各授業の中では、それぞれのテーマについて概説するとともに、簡単な実験や調査を入れながら、心理学の知見を確認する。

授業はパワーポイントを用いて行う。

■授業計画

第1回	オリエンテーション, 講義の進め方, 授業に使用する参考文献の紹介
第2回	心理学の成り立ち
第3回	心の生物学的基盤: 脳の構造と機能, 自律神経系・内分泌系, 遺伝
第4回	知能: 知能の理論, 知能検査
第5回	パーソナリティ: パーソナリティの理論, パーソナリティの発達
第6回	社会①: 対人関係: 印象形成, 対人魅力
第7回	社会②: 社会的認知: 原因帰属, ステレオタイプ, 対人認知
第8回	社会③: 集団: 他者の存在, 同調, 服従
第9回	臨床①: 心の健康と不適応
第10回	臨床②: 精神障害
第11回	臨床③: 心理アセスメント
第12回	臨床④: 心理療法
第13回	心理学の展開①: 産業・組織心理学
第14回	心理学の展開②: 教育心理学・犯罪心理学
第15回	試験
第16回	-

【成績評価】

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

【成績評価(備考)】

最終試験に加え、毎回の授業の感想の記入および授業中に課す課題の提出によって成績評価を行う。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

授業後に、配布資料を見返す、授業中に紹介する参考文献の該当箇所を読むなどして復習をすること。本科目では各授業回におおよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

授業の感想・質問などに対するフィードバックを次の講義において行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を習得することで、他者理解が深まり、より円滑な人間関係の構築に必要な知識を習得することができる。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

- ①内田一成(監訳)「ヒルガードの心理学(第16版)」金剛出版 2015年 (本体価格: 22,000円+税)
- ②無藤隆他「心理学(New Liberal Arts Selection)」有斐閣 2004年 (本体価格: 3,700円+税)
- ③金沢創・市川寛子・作田由衣子「ゼロからはじめる心理学・入門-人の心を知る科学(有斐閣ストゥディア)」有斐閣 2015

年(本体価格: 1,800円+税)

④青木紀久代・神宮英夫「カラー版 徹底図解 心理学」新星出版社 2008年 (本体価格: 1,500円+税)

【備考】

授業の進度などに応じて、授業内容を変更することがある。

現代生命科学 I

科目ナンバー	GNI2110-L
2単位: 前期1コマ	1~4年
樋野 興夫	

【到達目標】

「現代生命科学」目的は、「人の死期を再び未確定の彼方に追いや、死を忘却させる方法を成就すること」である。「適時診断と的確治療」の実現である。

治療にあたって、より患者の視点に寄り添うことが求められる。「病氣」の根幹を追求し、俯瞰的に物事を総合的に見られるようにすることを目的とする。

1. 世界の動向を見極めつつ歴史を通して今を見通せるようになる。
2. 俯瞰的に「生命」の理を理解し「理念を持って現実に向かい、現実の中に理念」を問う人材となる。
3. 複眼の思考を持ち、視野狭窄にならず、教養を深め、時代を読む「具眼の士」の種蒔く人材となる。

【履修の条件】

「現代生命科学」は、疾患の理解の基礎となる学問である。患者の視点に立った医療が求められる現代、生命科学の在り方を静思する。ダイナミックな「広々とした生命科学」は、時代の要請であると考ええる。「広々とした生命科学」とは、「生命科学」には限りがないことをよく知っていて、新しいことにも自分の知らないことにも謙虚で、常に前に向かって努力しているイメージである。「深くて簡明、重くて軽妙、情熱的で冷静」をモットーに、「胆力と品性」をキーワードに、時代の要請感のある授業を目的とする。

【講義概要】

「病氣」の根幹を追求しようとする「the study of the diseased tissues」を機軸とする。「病氣」の本態が遺伝子レベルで具体的に考えられるようになり、21世紀は、生命科学にとってエキサイティングな時代の到来である。「潜在的な需要の発掘」と「問題の設定」を提示し、「生命科学に新鮮なインパクト」を与え、ダイナミックにも魅力ある「生命科学の環境」を作らねばならない。これらを通して実践的な「生命哲学」の涵養を図る。

「病氣と遺伝子」に関する最新情報を交え、病氣関連遺伝子、病氣の発生病機、遺伝性疾患等について「生命哲学」を含めながら体系的に講義を行う。

■授業計画

第1回	1. 病理学の領域
第2回	2. 細胞・組織とその障害
第3回	3. 再生と修復
第4回	4. 循環障害
第5回	5. 炎症

- 第6回 6.免疫とアレルギー
 第7回 7.感染症
 第8回 8.代謝異常
 第9回 9.老化と老年病
 第10回 10.新生児の病理
 第11回 11.先天異常
 第12回 12.腫瘍(1)
 第13回 13.腫瘍(2)
 第14回 14.生命の危機
 第15回 15:試験レポート
 第16回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

【成績評価(備考)】

出席率と試験レポートとの合計点により総合的に評価を行う。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

講義ごとに、提出される質問、意見に対しては提出された用紙に回答を記載し、あるいは次講義の中でフィードバックを行う。課題レポートに対しても同様のフィードバックを行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

現代生命科学の考え方や知識、現代生命科学的視点からの人間理解におけるリテラシー、科学的理解の限界及び科学倫理の諸問題に対処する視点を、また意見交換を行うことによって、1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性を養う機会とする。

【テキスト】

「カラーで学べる病理学」(NOUVELLE HIROKAWA)定価
 本体 2500円 + 税

【参考文献】

「われ21世紀の新渡戸とならん」(イーグレープ)
 「楕円形の心」春秋社
 「種を蒔く人になりなさい」(いのちのことば社)
 「いい覚悟で生きる」(小学館)
 「病気は人生の夏休み」(幻冬舎)
 「明日この世を去るとしても、今日の花に水をあげなさい」(幻冬舎)
 「日めくり 人生を変える言葉の処方箋」(いのちのことば社)
 「人生から期待される生き方」(主婦の友社)
 「がんばりすぎない、悲しみすぎない。」(講談社)
 「生きがいに気づく、いい言葉」(PHP 研究者)
 「あなたはそこにいてだけで価値のある存在」(KADOKAWA)
 「いい人生は、最期の5年で決まる」(SB 新書)
 「生きる力を引き出す寄り添い方」(青春出版社)

現代生命科学 II

科目ナンバー	GNI2111-L
2単位：後期1コマ	1～4年
樋野 興夫	

【到達目標】

病気とともに暮らすことを知り、患者と対話し、患者に寄りそう方法を受講者自らがみつけ、笑顔になることをめざします。

【履修の条件】

「現代生命科学」は、疾患の理解の基礎となる学問である。患者の視点に立った医療が求められる現代、生命科学の在り方を静思する。ダイナミックな「広々とした生命科学」は、時代の要請である。と考える。「広々とした生命科学」とは、「生命科学」には限りがないことをよく知っていて、新しいことにも自分の知らないことにも謙虚で、常に前に向かって努力しているイメージである。「深くて簡明、重くて軽妙、情熱的で冷静」をモットーに、「胆力と品性」をキーワードに、時代の要請感のある授業を目的とする。

【講義概要】

生きることの根源的な意味を考えようとする患者と、病気の発生と成長に哲学的な意味を見出そうとする対話。授業では教科書の読みあわせと解説をしつつ、受講者とのディスカッションを中心に講義をすすめます。

■授業計画

- 第1回 1) 症候と疾患の関係
 第2回 2) 循環器系
 第3回 3) 呼吸器系
 第4回 4) 歯・口腔系
 第5回 5) 消化器系
 第6回 6) 内分泌器系
 第7回 7) 造血器系
 第8回 8) 腎・尿路系
 第9回 9) 生殖器・乳腺
 第10回 10) 脳・神経系
 第11回 11) 運動器系
 第12回 12) 病理診断検査
 第13回 13) 用語の解説
 第14回 14) 質疑、自由討論
 第15回 15) 試験レポート
 第16回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

【成績評価(備考)】

出席率と試験レポートとの合計点により総合的に評価を行う。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

講義ごとに、提出される質問、意見に対しては提出された用紙に回答を記載し、あるいは次講義の中でフィードバックを行う。課題レポートに対しても同様のフィードバックを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

現代生命科学の考え方や知識、現代生命科学的視点からの人間理解におけるリテラシー、科学的理解の限界及び科学倫理の諸問題に対処する視点を得、また意見交換を行うことによって、1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性を養う機会とする。

〔テキスト〕

「カラーで学べる病理学」(編集：渡辺照男 NOUVELLE HIROKAWA) 定価 本体 2500円 + 税

〔参考文献〕

「われ21世紀の新渡戸とならん」(イグレーブ)
「楕円形の心」春秋社
「種を蒔く人になりなさい」(いのちのこば社)
「いい覚悟で生きる」(小学館)
「病気は人生の夏休み」(幻冬舎)
「明日この世を去るとしても、今日の花に水をあげなさい」(幻冬舎)
「日めくり 人生を変える言葉の処方箋」(いのちのこば社)
「人生から期待される生き方」(主婦の友社)
「がんばりすぎない、悲しみすぎない。」(講談社)
「生きがいに気づく、いい言葉」(PHP 研究者)
「あなたはそこにいだけで価値のある存在」(KADOKAWA)
「いい人生は、最初の5年で決まる」(SB 新書)
「生きる力を引き出す寄り添い方」(青春出版社)

スポーツと健康(体育実技を含む)A	
科目ナンバー	GPE2101-P
2単位：前期1コマ	1～2年
仲宗根 森敦	

〔到達目標〕

生涯にわたり健康で豊かな生活をおくるためには、日常的な運動・スポーツの実践が重要であり、自身の体調を管理する方法や栄養学的な知識の習得が必要不可欠である。この講義では、生活習慣病の予防、運動を介した体調管理、日常的に運動に親しむような態度や知識を獲得することを目的とする。

〔履修の条件〕

履修の条件

- ①運動・スポーツや身体トレーニングに関心があること
- ②他者とのコミュニケーションをとることができること
- ③実技が可能であること
- ④実技は様々な学生と一緒に行うが、その点を理解してこの授業に積極的に参加できること

〔講義概要〕

健康で豊かな日常生活を過ごすためには運動に対する理論的な知識や技術、態度といったものが不可欠になります。そのような

運動に対する知識を学び、簡単な運動を行うことで自分の身体の調子を整えたり生涯にわたって運動に親しむ態度を身につける方法を学んで行きます。

■授業計画

- 第1回 「ガイダンス」 授業の目的と進め方について概説する
- 第2回 (実技①)「体づくり運動」動くことを楽しむための体づくりの運動を実践する
- 第3回 (実技②)「ラジオ体操」ラジオ体操を実践する
- 第4回 (実技③)「ウォーキング」脂肪燃焼を目的とした有酸素トレーニングを実践する
- 第5回 (実技④)「なわとび①」短なわとびの実践
- 第6回 (実技⑤)「なわとび②」長なわとびの実践
- 第7回 (実技⑥)「なわとび③」様々ななわとび運動の応用の実践
- 第8回 (実技⑦)「球技」バスケット3VS3
- 第9回 (実技⑧)「球技」バスケット6VS6
- 第10回 (実技⑧)「球技」ウォーキングフットサル
- 第11回 (講義①)運動と栄養
- 第12回 (講義②)運動と心
- 第13回 (講義③)生活習慣病とその予防
- 第14回 まとめ(授業内でのレポート作成)
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(70%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

講義全体の2/3以上の出席をしていること。
毎回授業の小レポートの提出をすること(1回5点×14回分)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

実技においては着替え、運動用の靴について準備してください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

レポートやリアクションペーパーに対するフィードバックを次の講義内容において行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

3総合的・実践的な学習能力に関連する。自分の健康、体力、コンディショニングを把握し、健康な生活や高い体力を獲得するための方法論を理解し、実践する能力を養う。

〔テキスト〕

テキストについてはとくに購入はしないが、各講義概要についての資料を適宜配布することとします。

〔参考文献〕

なし

【備考】

第1回のオリエンテーションでは、本講義の進め方や成績、約束事など大変重要なことを説明します。そのため必ず出席するようにしてください。もし欠席する場合には、担当者と事前に連絡を取るようにしてください。また、本授業に関し欠席した場合には、欠席分のプリントを特別に配布することはありませんので自助努力で補うようにしてください

各自運動着およびランニングシューズを用意すること。

実技授業の際には、アクセサリ類や貴金属は外して臨むこと。本授業は天候や授業理解度によって、講義内容が変更になることがあります。

スポーツと健康(体育実技を含む)B

科目ナンバー	GPE2102-P
2単位：後期1コマ	1～2年
仲宗根 森敦	

【到達目標】

健康な生活を生涯にわたり営むには、運動の実践やスポーツ活動への参加が必要不可欠である。日常的な運動・スポーツの実践は身体に様々な適応と変化をもたらす。生活習慣病の予防や減量などのポジティブな適応や、突然死や熱中症などのネガティブな側面も有する。本講義では、運動に対する知識を学び、自分の身体の調子を整えたり生涯にわたって運動に親しむ態度を身につける方法を学ぶことを目的とする。本講義は座学と実技を融合して行う。

【履修の条件】

- ①運動・スポーツや身体トレーニングに関心があること
- ②他者とのコミュニケーションをとることができること
- ③実技が可能であること
- ④実技は男女一緒に行うが、その点を理解してこの授業に積極的に参加できること

【講義概要】

講義にて、運動が身体に与える生理的な適応を概説する。それぞれの体力や年齢に合わせて運動が健康に与える影響について学び、生涯にわたり実践できるポピュラーなスポーツ・運動を実践する。

■授業計画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | ガイダンス、オリエンテーション(講義の進め方および実技に対する注意事項等の説明) |
| 第2回 | (実技)スポーツ実践①ウォーキングフットサル |
| 第3回 | (実技)スポーツ実践①ウォーキングフットサル |
| 第4回 | (実技)スポーツ実践②バスケット |
| 第5回 | (実技)スポーツ実践②バスケット |
| 第6回 | (実技)スポーツ実践③ドッチビー |
| 第7回 | (実技)スポーツ実践③ドッチビー |
| 第8回 | (実技)スポーツ実践④ベタンク |
| 第9回 | (実技)スポーツ実践⑤アルティメット |
| 第10回 | (実技)スポーツ実践⑥まとめ |
| 第11回 | (実技)スポーツ実践⑦ダンス |
| 第12回 | (講義)「運動と栄養」運動後の食事の影響について |

第13回 (講義)「運動との関わり」青年期・壮年期・高齢期の各時期において運動とどのように関わるべきかを理解する

第14回 まとめ(授業内でのレポート作成)

第15回 -

第16回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(70%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

【成績評価(備考)】

講義全体の2/3以上の出席をしていること。

毎回授業の小レポートの提出をすること(1回5点×14回分)。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

実技においては着替え、運動用の靴について準備してください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

レポートやリアクションペーパーに対するフィードバックを次の講義内容において行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

3総合的・実践的な学習能力に関連する。自分の健康、体力、コンディショニングを把握し、健康な生活や高い体力を獲得するための方法論を理解し、実践する能力を養う。

【テキスト】

テキストについてはとくに購入はしないが、各講義概要についての資料を適宜配布することとします。

【参考文献】

なし

【備考】

第1回のオリエンテーションでは、本講義の進め方や成績、約束事など大変重要なことを説明します。そのため必ず出席するようにしてください。もし欠席する場合には、担当者と事前に連絡を取るようにしてください。また、本授業に関し欠席した場合には、欠席分のプリントを特別に配布することはありませんので自助努力で補うようにしてください。

各自運動着およびランニングシューズを用意すること。

実技授業の際には、アクセサリ類や貴金属は外して臨むこと。本授業は天候や授業理解度によって、講義内容が変更になることがあります。

中世史との対話

科目ナンバー	GHU2102-L
2単位：前期1コマ	1～2年
早川 朝子	

〔到達目標〕

ヨーロッパ中世の初期から末期までの大まかな歴史の流れと時代の特色を理解する。

ヨーロッパの中世史を学ぶうえで重要となる歴史学上の概念を習得する。

〔履修の条件〕

歴史学は過去を学ぶ学問ですので、過去の出来事に関心をもっていることが重要です。

〔講義概要〕

ヨーロッパ中世の社会においては、芸術や学問、さらには人々の日常生活にまでキリスト教の影響が及びました。この授業では、キリスト教が浸透し定着していったヨーロッパ中世の歴史を概観したうえで、教会建築、巡礼、教会暦、死生観など人々の日常に関わる具体的な事柄をとり上げ、それぞれにみられるキリスト教の影響や中世の人々の考え方を考察します。なお、とり上げる事柄は状況により変更する場合があります。

授業は講義が中心で、配付するプリントに沿って進めていきます。また関連する地図や画像をパワーポイントで見えていきます。最後に学んだことの確認や振り返りのための練習問題を行います。

■授業計画

第1回	ヨーロッパの地理、時代区分と西暦、「ヨーロッパ」の名称
第2回	中世史の大まかな流れ、キリスト教の誕生、古代から中世へ
第3回	中世前期から中期のヨーロッパとキリスト教
第4回	中世後期のヨーロッパとキリスト教
第5回	修道院
第6回	教会建築
第7回	巡礼と聖地
第8回	農村：農産物と農業経営
第9回	都市：古代から中世へ、生活環境
第10回	中世の人々の日常と死生観
第11回	教会暦と時間
第12回	十二世紀ルネサンスと中世の人々の「世界」
第13回	ユダヤ人
第14回	疫病の流行と医学
第15回	試験
第16回	－

〔成績評価〕

試験(50%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

授業の最後に行う練習問題にどのくらい真剣に取り組んだか、授業中やその後に積極的に発言したり質問したりしたかなど、授業に臨む姿勢を重視します。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

配付したプリントなどをよく見て、前回の授業内容の復習をすることが望ましいです。登場する人物についてはそれぞれが何をしたのか、歴史学上の概念についてはそれぞれが何を意味するのかといったことを確認し、整理するようにしてください。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とします。合計15回の授業で60時間となります。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

練習問題については、その次の回に正解を提示し解説を行います。また、練習問題の最後に質問や意見・感想を書く欄を設けますので、何かある場合には書いてもらい、書かれたことに対しては必ず回答するようにします。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

3.総合的・実践的な学習能力に該当します。総合的・実践的な学習能力を養ううえで、基本となるのは、文献や資料を見て、そこから何が読みとれるのかを的確に理解し整理することと考えます。歴史学はそのような学問の基本を身につけるのに役立ちます。

〔テキスト〕

指定しません。プリントを配付します。

〔参考文献〕

神崎忠昭『新版 ヨーロッパの中世』(慶應義塾大学出版会、2022年)3000円。
堀越宏一・甚野尚志編著『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』(ミネルヴァ書房、2013年)3500円。
甚野尚志・堀越宏一編『中世ヨーロッパを生きる』(東京大学出版会、2004年)2800円。

近世史との対話

科目ナンバー	GHU2103-L
2単位：後期1コマ	1～2年
早川 朝子	

〔到達目標〕

宗教改革の経過とそれがヨーロッパ社会に及ぼした影響についての理解を深める。

ヨーロッパの近世史を学ぶうえで重要となる概念を習得する。

〔履修の条件〕

歴史学は過去を学ぶ学問ですので、過去の出来事に関心をもっていることが重要です。

〔講義概要〕

ルネサンス・宗教改革を経て時代は中世から近代へと移行し、近代の最初の300年ほどを近世と呼んでいます。近世の初めに宗教改革が起きて、新たなキリスト教の宗派、プロテスタントが誕生します。その後ヨーロッパでは、カトリックを信仰する地域とプロテスタントを信仰する地域との間で宗派対立が激しくなっていきます。この授業では、ドイツの宗教改革について詳細に考察したうえで、他地域への宗教改革の広まりや、オランダの独立、改暦、

三十年戦争など、宗派対立が関わる出来事を取り上げていきます。なお、授業の各回で扱う内容は状況により変更する場合があります。

授業は講義が中心で、配付するプリントに沿って進めていきます。また関連する地図や画像をパワーポイントで見えていきます。最後に学んだことの確認や振り返りのための練習問題を行います。

■授業計画

- 第1回 時代区分、1500年頃のヨーロッパ、近世史の大まかな流れ
- 第2回 ルネサンス
- 第3回 宗教改革のはじまり：『九十五ヵ条の論題』と贖宥状販売、ルターの足跡
- 第4回 宗教改革者になるまでのルター
- 第5回 ローマ教皇・ドイツ国王との対決、宗教改革の予期せぬ展開
- 第6回 ルターの家庭生活、宗教改革前のヨーロッパ社会とドイツ
- 第7回 ドイツにおける宗教改革の展開、宗教改革と都市社会、宗教改革の先駆者たち
- 第8回 宗教改革思想の伝達：木版画
- 第9回 スイスの宗教改革：ツヴィンゲリとカルヴァン
- 第10回 再洗礼派の誕生と広まり
- 第11回 イングランドの宗教改革
- 第12回 フランス宗教戦争、オランダの独立、改暦
- 第13回 三十年戦争、科学革命：ガリレイ
- 第14回 三十年戦争後のヨーロッパ、魔女狩り
- 第15回 試験
- 第16回 -

【成績評価】

試験(50%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

【成績評価(備考)】

授業の最後に行う練習問題にどのくらい真剣に取り組んだか、授業中やその後に積極的に発言したり質問したりしたかなど、授業に臨む姿勢を重視します。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

配付したプリントなどをよく見て、前回の授業内容の復習をすることが望ましいです。登場する人物についてはそれぞれが何をしたのか、歴史学上の概念についてはそれぞれが何を意味するのかといったことを確認し、整理するようにしてください。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とします。合計15回の授業で60時間となります。

【試験・レポート等のフィードバック】

練習問題については、その次の回に正解を提示し解説を行います。また、練習問題の最後に質問や意見・感想を書く欄を設けますので、何かある場合には書いてもらい、書かれたことに対しては必ず回答するようにします。

【ディプロマポリシーとの関連性】

3.総合的・実践的な学習能力に該当します。総合的・実践的な学習能力を養ううえで、基本となるのは、文献や資料を見て、そこ

から何が読みとれるのかを的確に理解し整理することと考えます。歴史学はそのような学問の基本を身につけるのに役立ちます。

【テキスト】

指定しません。プリントを配付します。

【参考文献】

ローランド・ベイントン著、出村彰訳『宗教改革史』(新教出版社、2017年)2800円。
 ティム・ダウリー著、青木義紀訳『地図で学ぶ宗教改革』(いのちのことば社、2017年)2400円。
 君塚直隆『ヨーロッパ近代史』(筑摩書房、2019年)1000円。

憲法	
科目ナンバー	GSS2102-L
2単位：前期1コマ	1～2年
金子 和夫	

【到達目標】

国の最高法規である日本国憲法について理解できる。社会福祉士国家試験、各種公務員採用試験などに寄与できるとともに、日常生活にも学んだ知識が活用できる。

【履修の条件】

本科目は、社会福祉士の受験資格を希望する者は、「権利擁護と成年後見制度」とあわせて履修すること。それ以外の者もそうしてほしい(「法学」履修者)。

【講義概要】

本講義は国民主権、平和主義、基本的人権の尊重という基本原理を中心に、具体的事例をあげながら講義する。中でも基本的人権を中心に、その一般理論、自由権、社会権の内容について判例をあげながら紹介する。さらに、三権分立や地方自治についても講義する。

■授業計画

- 第1回 ガイダンス授業(法の一般理論・憲法の基本原理)
- 第2回 国民主権
- 第3回 平和主義
- 第4回 基本的人権の一般理論(幸福追求権)
- 第5回 基本的人権の一般理論Ⅱ(平等権)
- 第6回 自由権Ⅰ(精神的自由)
- 第7回 自由権Ⅱ(人身の自由)
- 第8回 自由権Ⅲ(経済的自由)
- 第9回 社会権Ⅰ(生存権)
- 第10回 社会権Ⅱ(生存権に関する判例)
- 第11回 社会権Ⅲ(教育権、勤労権、労働基本権)
- 第12回 三権分立(その抑制と均衡)
- 第13回 財政(政教分離原則、公私分離原則)
- 第14回 地方自治(自治体の事務、条例)
- 第15回 試験
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

憲法に規定される基本的人権を始めとした理念・原則・条文に関し、新聞記事やTVニュース等に関心を持つこと。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性に該当する。人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できる、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献するために、心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につける。

〔テキスト〕

テキストは使用しない。毎回講義資料を配布する。

〔参考文献〕

憲法に関する文献は、専門的な研究書から受験参考書まで数多くあるので、自分で使いやすい文献を利用すること。
渋谷他『憲法1・2・3』＜有斐閣アルマ＞(有斐閣)
初宿他『いちばんやさしい憲法入門』＜有斐閣アルマ＞(有斐閣)
芦部信喜『憲法』(有斐閣)など

〔備考〕

授業はキャッチボール形式です。教員の質問に対し多くの学生に答えてもらう形式で進めます。

法学

科目ナンバー

GSS2103-L

2単位：後期1コマ

1～2年

金子 和夫

〔到達目標〕

民法を中心に権利擁護制度について理解できる。成年後見制度や消費者保護制度、損害賠償制度、虐待防止関係制度、不服申立て制度などについて説明できる、また、公務員採用試験などに寄与できるとともに、日常生活にも学んだ知識が活用でき

る。

〔履修の条件〕

本科目は「憲法」とあわせて履修してほしい。社会福祉士の国家試験受験希望者は「権利擁護を支える法制度」を参照すること。なお、「権利擁護と成年後見制度(新科目名：権利擁護を支える法制度)」を履修済みの学生は本科目を履修できない。

〔講義概要〕

民法を中心に憲法、行政法について講義する。民法では、成年後見、契約、不法行為、親族・相続、行政法では、行政処分や不服申立てを中心に学習する。さらに、消費者・利用者の権利擁護を支える仕組みと法的諸問題、それに係る機関・専門職について、その実際を理解する。

■授業計画

- | | |
|------|---|
| 第1回 | ガイダンス(法の理解) |
| 第2回 | 行政法(行政処分と不服申立て、行政訴訟、国と自治体の関係) |
| 第3回 | 民法(契約と消費者保護) |
| 第4回 | 民法(国家賠償を含む損害賠償) |
| 第5回 | 民法(夫婦とDV防止法) |
| 第6回 | 民法(親子と児童虐待防止法) |
| 第7回 | 民法(扶養・相続と高齢者虐待防止法) |
| 第8回 | 民法(権利能力、行為能力) |
| 第9回 | 成年後見制度(制度の概要) |
| 第10回 | 成年後見制度(任意後見を含めた利用動向) |
| 第11回 | 成年後見制度(成年後見制度利用促進法、成年後見制度利用支援事業、日常生活自立支援事業) |
| 第12回 | 権利擁護制度(組織、団体と専門職) |
| 第13回 | 権利擁護制度(権利擁護の意義と仕組み) |
| 第14回 | 権利擁護制度(権利擁護活動と意思決定支援) |
| 第15回 | 試験 |
| 第16回 | - |

〔成績評価〕

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

少子高齢社会における高齢者の実態、知的障がい者や精神障がい者を取り巻く状況などについて、新聞記事やTVニュース等に関心を持つこと。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性、および、3.総合的・実践的な学習能力に該当する。本科目を学ぶことにより、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることが出来るよう援助するために福祉の専門職に必要な価値、知識を得る。また、ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言・実行できる学習能力を得る。

〔テキスト〕

テキストは使用しない。毎回講義資料を配布する。

〔参考文献〕

憲法、行政法、民法それぞれにテキストが多数出版されているので、自分で使いやすい文献を利用すること。

川井健『民法入門』（有斐閣）

石川他『はじめての行政法』＜有斐閣アルマ＞（有斐閣）

『権利擁護を支える法制度』（中央法規）

『法学』（全国社会福祉協議会）など

〔備考〕

授業はキャッチボール形式で行います。教員の質問に対し多くの学生が答える方法で授業を進めます。

社会学		
科目ナンバー	GSS2104-L	
2単位：前期1コマ	1～2年	
西下 彰俊		

〔到達目標〕

我々の人生を社会学の基礎概念の一つである「ライフコース」という観点から捉える。ライフコースとは何かについて受講生に理解してもらう。

社会学では、このライフコースの前半に焦点を当てる。特に、子ども、女性を中心にしつつ、日本社会ではどのような社会問題があるかを理解する。比較の準拠点としてスウェーデンを選び、スウェーデンと日本を比較する。

〔履修の条件〕

特になし。

〔講義概要〕

ライフコースの前半に焦点を当て、現代社会で生起している様々な問題を素材に社会的観点から捉えることとする。取り上げるトピックスは、いじめ、ひきこもり、モラトリアム、失業、フリーター、派遣社員などである。これらの社会問題を、「家族の小規模化」、「核家族化」、「家族の個人化」、「産業化」、「少子化」、「IT化」等の社会変動という背景要因と関連づけて、分かりやすく説明する。

■授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	社会学の基礎概念その1 地位と役割、属性と業績
第3回	社会学の基礎概念その2 ライフコース、役割変動
第4回	社会学の基礎概念その3 マージナルマン

第5回	社会学の基礎概念その4 核家族化、家族変動
第6回	何故、晩婚化・非婚化が進むのか
第7回	晩婚化と非婚化は社会問題ではない
第8回	何故、いじめがなくならないのか
第9回	いじめと福祉論
第10回	何故、ひきこもりとニートが増えたのか
第11回	ひきこもり自由とその危うさ
第12回	健康を害するライフスタイルとしてのタイプ A
第13回	性別役割分業とは何かー平等社会スウェーデンと比較する
第14回	全体のまとめ
第15回	試験
第16回	-

〔成績評価〕

試験(75%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(25%)

〔成績評価(備考)〕

毎回のリアクションペーパーの内容から積極的な参加度の程度を調べ、成績評価に加味する(25%)。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

オリエンテーションで配付する資料を参考にする。配付資料には、各回の授業で取り上げる資料・文献のリストを載せるので、毎回当該文献・資料を予習した復習する。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。なお、リモート授業の場合には、毎回配布教材をポータルに添付し、毎回2本(各30分)の動画教材のURLをポータルに掲載する。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

毎回授業内容に関する問いを1問ないし2問設定し、リアクションペーパーに記述してもらう。そのリアクションペーパーに対するフィードバックを後日の講義において行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

社会学は社会関係学であるし、人間関係学でもある。本講義を通じて、全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性を身に付けることが到達目標である。

〔テキスト〕

テキストは使用しない。レジュメを配布する。

〔参考文献〕

第1回のオリエンテーションで配付する資料を参考にする。加えて、授業内で適宜紹介する。

社会学Ⅱ		
科目ナンバー	GSS2105-L	
2単位：後期1コマ	1～2年	
西下 彰俊		

〔到達目標〕

人生後半のライフコースに焦点を当て、家族関係、定年退職、介

護といったトピックスを中心に社会学の概念を用いながら学ぶ。加えて要介護高齢者、認知症高齢者の介護に焦点を当て、韓国や台湾という東アジアの国々での介護政策のあり方と比較しながらグローバルなセンスも身につけることを目標に掲げる。特に介護に関しては、社会全体の課題であると同時に、受講生一人ひとりの老後問題として感得するセンスを身につけることを学ぶ。最終的には、認知症フレンドリーコミュニティ構築に向けて、我々一人一人に何ができるのかを考える。

【履修の条件】

社会学Ⅱを履修するには、社会学Ⅰが履修済みであることが望ましい。

【講義概要】

個人のライフコースの後半部分において、家族や社会と関わる部分について学ぶ。特に介護(ケア)が重要なライフイベントになるので、要介護高齢者、認知症高齢者をめぐる介護問題、地域福祉問題について、韓国や台湾と比較しながらグローバルな視点から詳しく論じる。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 人生後半のライフコースと関連する社会学のキー概念、サクセスフルエイジングの説明(その1)
- 第3回 人生後半のライフコースと関連する社会学のキー概念、生きがいの説明(その2)
- 第4回 日本社会の高齢化のマクロな将来予測を、スウェーデン・韓国・台湾と比較
- 第5回 日本の要介護高齢者・認知症高齢者と介護保険
- 第6回 日本の在宅サービス
- 第7回 日本の施設サービス
- 第8回 日本における高齢者虐待の現状、原因、防止対策
- 第9回 韓国の要介護高齢者・認知症高齢者と介護保険
- 第10回 韓国の在宅サービスと施設サービス
- 第11回 韓国における高齢者虐待の現状、原因、防止対策
- 第12回 台湾の要介護高齢者・認知症高齢者と介護制度
- 第13回 台湾の在宅サービスと施設サービス
- 第14回 まとめ各国の介護システムの強みと弱み
- 第15回 試験
- 第16回 -

【成績評価】

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

【成績評価(備考)】

毎回のリアクションペーパーの内容から授業に対する積極的参加度を把握し、評価に加味する。リモート授業の場合には、期末レポートが50%、毎回の授業時に示す問に対する解答状況が50%の配分となる。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

テキストで扱う章及び論点について予習および復習をすること。毎回の授業で、次回で扱う内容の予告をする。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

毎回2問前後のクイズを出し受講生の知識や意見をリアクションペーパーに解答してもらう。そのフィードバックを次回の授業の冒頭で行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

社会学は、人間関係学であり、社会関係学である。授業内容の理解を通じて、2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性を習得することが本講義の到達目標である。

【テキスト】

西下彰俊『東アジアの高齢者ケア：韓国・台湾のチャレンジ』(新評論, 2022年)

【参考文献】

適宜、授業中に紹介する。

【備考】

なし。

教養としての哲学		
科目ナンバー	GHU2105-L	
2単位：前期1コマ	1～2年	
白井 雅人		

【到達目標】

- (1) 哲学の歴史について、大まかな理解を得る。
- (2) 哲学的な概念に対して、自分なりに説明できるようになる。
- (3) 自分自身の考え方に対して、批判的な視座を得る。

【履修の条件】

履修に当たって、条件は課さない。

【講義概要】

哲学の歴史を簡単にたどりながら、哲学的な考え方を身につけていくことを目指す。予備知識なしで、哲学的な考え方に親しむことができるようにしていきたい。西洋の哲学の歴史に留まらず、インドの釈迦や中国の孔子などの思想、日本の哲学思想などを見ていく。現実の中に隠れている秩序の発見というのが哲学の課題の一つとなっている。この課題がどのようなものであるのか、どのように現実の中に隠れている秩序を発見するのかを見ていきたい。

■授業計画

- 第1回 イントロダクション：夏目漱石を手がかりに考える
- 第2回 井上円了の妖怪学と哲学
- 第3回 古代ギリシアの哲学者たち
- 第4回 ソクラテスの弁明と社会への警告
- 第5回 目に見えた姿と思考で捉えた姿
- 第6回 イデアと哲人政治
- 第7回 仏教の前史：古代インドの初期思想
- 第8回 ブッダの言葉(1)：サイの角のようにただ独り歩め
- 第9回 ブッダの言葉(2)：一切の生きとし生けるものは、幸せ

であれ

- 第10回 ユダヤ教の創世期と預言者たち
 第11回 孔子の言葉(1)：仁の思想
 第12回 孔子の言葉(2)：君子のあり方
 第13回 儒教の展開：朱子の理気二元論
 第14回 西田幾多郎の『善の研究』
 第15回 -
 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(60%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

レポートは学期末に提出。レポートにウェブサイトからの無断引用があった場合、不合格となる。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

配布プリントをよく読み返し、理解を定着させることが望ましい。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーへのフィードバックは、次回の講義において行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することで、哲学的な視座で人間を捉え、人間の好ましいあり方について検討し、人間を多面的にとらえ総合的に考えることができる。

〔テキスト〕

毎回プリントを配布する

哲学と論理	
科目ナンバー	GHU2106-L
2単位：後期1コマ	1～2年
白井 雅人	

〔到達目標〕

- (1) 言葉と人間の問題について、大まかな理解を得る。
- (2) 哲学的な概念に対して、自分なりに説明できるようになる。
- (3) 自分自身の考え方に対して、批判的な視座を得る。

〔履修の条件〕

履修に当たって、条件は課さない。

〔講義概要〕

言葉と人間について考えながら、哲学的な考え方を身につけていくことを目指す。予備知識なしで、哲学的な考え方に親しむことができるようにしていきたい。まず、言語の問題について見ていき、次いで薬物依存の問題を見ていく。これらによって「自分で何とかする」ということの困難さを学び、人間は言語や環境に大きな

影響を受けながら生きているということを哲学的に見ていく。

■授業計画

- 第1回 イントロダクション：自己を物語ること
 第2回 ヴィトゲンシュタインの言語ゲーム理論
 第3回 ジェンダーと言葉
 第4回 コミュニケーションの前提
 第5回 討議倫理
 第6回 薬物依存からの「回復」(1)：薬物依存と共助組織
 第7回 薬物依存からの「回復」(2)：回復のステップ
 第8回 薬物依存からの「回復」(3)：回復を支える社会へ
 第9回 障害を克服する主体とは？
 第10回 人間の尊厳は何にあるのか？
 第11回 近代の主体の病
 第12回 西田幾多郎の哲学(1)：行為と社会
 第13回 西田幾多郎の哲学(2)：預言者的実存
 第14回 まとめ：言葉と人間
 第15回 -
 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(60%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

レポートは学期末に提出。レポートにウェブサイトからの無断引用があった場合、不合格となる。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

配布プリントをよく読み返し、理解を定着させることが望ましい。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーへのフィードバックは、次回の講義において行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することで、哲学的な視座で人間を捉え、人間の好ましいあり方について検討し、人間を多面的にとらえ総合的に考えることができる。

〔テキスト〕

毎回プリントを配布する

〔参考文献〕

相良翔『薬物依存からの「回復」：ダルクにおけるフィールドワークを通じた社会学的研究』、ちとせプレス、2019年

教育学

科目ナンバー	GHU2107-L
2単位：後期1コマ	1～2年
橋本 憲幸	

〔到達目標〕

本講義の目標は、「教育」とは何かについて、さらには「よい教育」とはどのようなものかについて、教育論議やこれまでの自身の被教育体験に囚われすぎず、また、教育学の諸理論を踏まえながら、自ら考えられるようになることです。それは、これが教育だ、教育はこうあるべきだとすぐに解を出すということでは必ずしもありません。たしかに教育に関する答えを求める姿勢も必要です。しかしそれ以上に重要なことは、教育に関する問いを自ら立て、その事柄について自ら吟味し続けられるようになることです。自らいったん出した解を疑えるようになることも大切です。

〔履修の条件〕

履修希望者は可能な限り初回の講義に出席してください。そこで講義の進め方や課題などについて説明します。やむをえない事情で初回に出席できない場合や出席できなかった場合は必ず早めに申し出てください。

〔講義概要〕

私たちは、これまで教育を受けてきた体験があることから、「教育」とは何かについて、そして「よい教育」とはどのようなものかについて、自分なりの見方を持つようになります。しかし、それは本当に「よい」ものでしょうか。また、それは本当に「教育」なのでしょう。別の角度から捉えたとき、それは「教育」とも「よい教育」とも呼べないものかもしれません。それは「学習」と呼ばれるべきものかもしれませんし、「教育」ではなく「福祉」なのかもしれません。本講義では、「教育」とはどのようなものなのか、それは他者にどのように関与することなのか、人間をどのようにしようとするものなのかを改めて根底から考えるための契機を提供します。自分がどのような教育観を有しているのかを自覚し、それを教育学の諸理論を踏まえて自省することが重要です。その過程で、教育には答えがない、教育には答えしかない、教育について考えても仕方がない、と聞き直りたくなることがあるかもしれません。その前で踏みとどまり、教育について粘り強く省察し続けていくことを強く期待します。

■授業計画

- 第1回 講義「教育学」のねらいと進め方
- 第2回 「教育」とは何か
- 第3回 何が「教育」なのか
- 第4回 教育学は「教育」をどう定義するか
- 第5回 教育の本質とは何か
- 第6回 教師はなぜ教えられるか
- 第7回 教育は民主主義的に決定すべきか
- 第8回 学校は必要か
- 第9回 教育は社会を変革できるか
- 第10回 教育は社会を子どもから守れるか
- 第11回 教育は子どもを社会から守れるか
- 第12回 学校は子どもを家庭から守れるか
- 第13回 教育は子どもの幸せを願えるか
- 第14回 よい教育をできるのは誰か

第15回 試験

第16回 -

〔成績評価〕

試験(60%)、レポート(20%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

授業内課題(毎時のリフレクション・ペーパーの記入と提出など)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

予習では、教育に関する文献や報道に目を通し、そこで「教育」がどのように捉えられているのかを理解します。復習では、当該回で言及した文献を実際読み、講義内容の理解を深めます。本科目では各講義回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リフレクション・ペーパーのフィードバックを次回講義冒頭で実施します。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

とりわけ「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に関連します。他でもない教育という他者への関わり方への理解を深めます。教育とは何かを突き詰めることで、教育ではない他者関与の輪郭に触れることにもなり、そのあり方を追究する際の手がかりとなるはずです。

〔テキスト〕

使用しません。文献を適宜紹介します。

〔参考文献〕

- ヘレン・M・ガンター、2020、『教育のリーダーシップとハンナ・アーレント』末松裕基・生澤繁樹・橋本憲幸訳、春風社。(3,000円+税)
- 橋本憲幸、2018、『教育と他者——非対称性の倫理に向けて』春風社。(4,000円+税)
- 末松裕基編、2016、『現代の学校を読み解く——学校の現在地と教育の未来』春風社。(2,300円+税)

音楽の基礎

科目ナンバー	GHU2108-P
2単位：前期1コマ	1～2年
渡邊 公実子	

〔到達目標〕

1.楽典の基礎知識を学び、前期では特に14種類の全音階的音程の判別ができるようになる。2.創作リズムを作成し、ボディーパーカッションで表現する。(個人またはグループで発表)3.創作したリズムを楽譜に書き起こし、仲間と共有して演奏する。4.読譜力を身につける。

〔履修の条件〕

音楽に興味を持つ者。授業内容を毎回復習し、知識・技術の習

得に努力すること。

【講義概要】

音楽は古来より、人間の身体や魂に調和をもたらし、また、豊かな人間形成に深く関与するものとして、大切な教養科目とされてきた。この授業では、歴史の中で様々な文化を背景に育まれ、受け継がれてきた「人に調和をもたらす音楽」を、自分自身の力で読み取り、表現へとつなげる基礎力を養うことを目標とする。前期は基礎的な音楽理論(楽典)を学びながら、音楽実技(視唱・リズム打ち・リズム創作・ボーディーパーカッションの個人又はグループ発表)に取り組む。後期の「音楽の実際」も前期に引き続き基礎的な楽典の学びは継続される。1年間で楽典の基礎知識を得ることを目指す。履修者の人数やレベル、社会状況に応じて授業内容は変更されることがある。

■授業計画

第1回	オリエンテーション・講義内容の説明 読譜能力・基礎知識テスト
第2回	楽譜について/読譜スピードテスト1/音程についてⅠ
第3回	楽譜の歴史/音程についてⅡ
第4回	リズムの基礎/音楽用語
第5回	音程(全音階の音程)Ⅰ/リズム創作Ⅰ
第6回	倍音について/リズム創作Ⅱ
第7回	リズム創作Ⅲ
第8回	楽典復習/リズム創作Ⅲ
第9回	小試験Ⅰ
第10回	音階Ⅰ(長音階のしくみと種類)/呼吸と発声Ⅰ
第11回	声帯の動き・喉の仕組みについて(DVD鑑賞)
第12回	音階Ⅱ(長音階15種)/呼吸と発声Ⅱ
第13回	小試験Ⅱ/読譜スピードテスト2
第14回	音階Ⅲ(短音階のしくみ)/アンサンブル(歌唱・リズムなど)
第15回	リズム創作発表(実技試験)
第16回	-

【成績評価】

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(40%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(20%)

【成績評価(備考)】

その他の評価方法：授業内で行う実技試験の評価など。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

楽典の基礎知識は復習をして、暗記する努力が必要な場合もある。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

【試験・レポート等のフィードバック】

講義内で行った小テストの答案返却・解説は、原則としてテストを実施した翌週に行う。提出された課題プリント等は、添削して返却。実技発表については、適宜、授業内に口頭でコメントする。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「3.総合的実践的な学習能力」「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。ミュージック・リテラシーを得ること、高めることで、より深く音楽作品を読み解き、味わうこと

が可能となる。また、音楽を通してその背景にある思想や文化に関心を持ち、理解を深めることにより、豊かな教養を身につけることができる。音楽の学びは、調和のとれた全人的な人間形成にとって必要不可欠なものであり、音楽を探究することは真理を見つめることにも繋がる。自己表現のためだけでなく、他者と共感し、思いを交わすコミュニケーションツールの一つである音楽を学ぶことは、また一方で、総合的・実践的な学習能力の開発・探究そのものといえる。

【テキスト】

改訂『音楽通論』教育芸術社(934円+消費税)ISBN 978-4-87788-421-5

その他、随時プリントを配布

【参考文献】

必要に応じて授業内で紹介。

【備考】

毎回、次の3点を持参すること。

1.テキスト 2.配布したプリント 3.筆記用具(楽譜を書く時には鉛筆使用が望ましい)

(※テキストは早めに準備し、毎回必ず持参すること)4.時間計測できるもの(携帯可)

音楽の実際

科目ナンバー	GHU 2109-P
2単位：後期1コマ	1～2年
渡邊 公実子	

【到達目標】

1.楽譜から音楽を読み取る基礎力を身につける。2.基本的な音楽理論を一通り理解し、簡単な分析や伴奏付けができるレベルになる。3.指揮法の基礎を学び、実践できるようになる。

【履修の条件】

「音楽の基礎」を履修済みが必要。後期から受講する場合は、前期「音楽の基礎」の授業内容を第3回の授業時までに努力して習得する必要がある。

【講義概要】

音楽は古来より、人間の身体や魂に調和をもたらし、また、豊かな人間形成に深く関与するものとして、大切な教養科目とされてきた。この授業は、前期に引き続き、歴史の中で様々な文化を背景に育まれ、受け継がれてきた「人に調和をもたらす音楽」を、自分自身の力で読み取り、表現へと繋げる基礎力を養い、体得することを目指す。前期に引き続き基礎的な音楽理論(楽典)を学びながら、音楽実技にも取り組む。実技は、実践に役立つ指揮法の基礎を学び、簡単な楽曲の指揮ができるようになることを目指す他、リズム打ちや視唱、書き取りなど適宜行う予定。履修者の確定と共に、人数やレベル、社会状況に応じて授業内容は変更されることがある。

■授業計画

第1回 オリエンテーション・講義内容の説明

- 基礎知識テスト・前期学習内容の復習Ⅰ/リズム・アン
サンプルⅠ
- 第2回 前期学習内容の復習Ⅱ/音名と音程(全音階的音
程)/リズム・アンサンプルⅡ
- 第3回 音程Ⅰ(半音階的音程)/指揮法の基礎/リズム・アン
サンプルⅢ
- 第4回 音程Ⅱ(半音階的音程)/指揮法の基礎と実践Ⅰ
(DVD鑑賞)
- 第5回 音階の仕組み(長調)/指揮法の基礎と実践Ⅱ
- 第6回 音階の仕組み(長調・短調)Ⅰ/調性について/指揮法
の基礎と実践Ⅲ
- 第7回 音階の仕組み(長調・短調)Ⅱ/調名・調号Ⅰ/指揮法
実践
- 第8回 小試験Ⅰ
- 第9回 移調・転調Ⅰ/関係調Ⅰ/調名・調号Ⅱ
- 第10回 移調・転調Ⅱ/関係調Ⅱ/楽典総合問題Ⅱ
- 第11回 基礎的な楽典の復習/和音・和声について
- 第12回 和音Ⅰ(コードネーム)/音楽用語・奏法
- 第13回 和音Ⅱ(コードネーム)/
- 第14回 小試験Ⅱ/音楽鑑賞(DVD)
- 第15回 音楽理論総合問題/指揮法実技試験
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(40%)、課題提出(40%)、
その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

その他の評価方法：授業内で行う実技試験の評価など。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

学習した楽典の基礎知識は、その都度よく復習して暗記する努
力が必要ながある。本科目では各授業回に4時間の準備学
習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間と
なる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

講義内で行った小テストの答案返却・解説は、原則としてテスト
を実施した翌週に行う。提出された課題プリント等は、添削して
返却。実技発表については、適宜、授業内に口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「3.総合的実践的な学習能力」「4.他者理解と自己表現のため
のコミュニケーション能力」に該当する。ミュージック・リテラシーを
得ること、高めることで、より深く音楽作品を読み解き、味わうこと
が可能となる。また、音楽を通してその背景にある思想や文化に
関心を持ち、理解を深めることにより、豊かな教養を身につけるこ
とができる。音楽の学びは、調和のとれた全人的な人間形成に
とって必要不可欠なものであり、音楽を探究することは真理を見
つめることにも繋がる。自己表現のためだけでなく、他者と共感
し、思いを交わすコミュニケーションツールの一つである音楽を学
ぶことは、また一方で、総合的・実践的な学習能力の開発・探究
そのものといえる。

〔テキスト〕

改訂『音楽通論』教育芸術社(934円+消費税)ISBN 978-4-

87788-421-5

(※必ず購入すること)

〔参考文献〕

必要に応じて授業内で紹介。

〔備考〕

毎回、次の3点を持参すること。

1.テキスト2.配布プリント3.筆記用具(楽譜を書く時に鉛筆使用
が望ましい)

(※テキストは早めに準備し、毎回必ず持参すること)

コミュニケーションの演習

科目ナンバー	GFR1102-5
2単位：前期1/後期1コマ	1年 必修
田中 雅幸	

〔到達目標〕

- 1.日本語の表記、特質について理解し正しい文章(レポート、小
論文等)を書けること。
- 2.自分の探求すべきテーマ・問題を発見すること。
- 3.探求すべきテーマ・問題について適切な方法を用いて情報を
収集できること。
- 4.探求すべきテーマ・問題について適切に資料や情報を探し出
し、それらを論理的な文章としてまとめることができること。

〔履修の条件〕

講義には当然継続性があるので、コミュニケーション能力を高め
るためにできるだけ欠席せずに参加することが必要である。小テ
ストも継続的に行うので欠席を避ける。講義には国語辞書(携帯
に便利なもので可、電子辞書も可)を必ず持参のこと。本科目では
各授業回におよそ200分の準備学習(予習復習等)を必要と
する。

同一年度内の再履修はできません。

〔講義概要〕

現在、情報技術の飛躍的な発展によって、コミュニケーションのあ
り方は実に多様化している。そのような状況の中で、自分に必要
な適切な情報を取捨選択し、それを自分の思考に生かすことは
非常に難しくなっている。本講義では、このような情報の洪水の中
で自分の必要な情報や知識を探し出し、レポートや論文を作成
するための基礎的な能力を身につけることを目標とする。

授業は基本的にパワーポイントを用いた講義と演習(文章作成
やグループワークなど)を組み合わせる。また、講義の
冒頭に毎回漢字の小テストを実施する。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション-講義概要の説明、文章に関するア
ンケートの実施、自己紹介文を書く。
- 第2回 文章表現①：日本語の文字の特性、表記上のルール
を理解する。
- 第3回 文章表現②：文章表現上のレトリックおよび文体につ
いて理解する。
- 第4回 文章表現③：悪文の特性を理解し、わかりやすい文

- 章を書けるようにする。
- 第5回 文章表現④：賛否型小論文を書く
- 第6回 テーマ・問題：自分の探求すべきテーマ・問題の発見方法を理解する。
- 第7回 文章・文献の読み方①：速読の方法を理解する。
- 第8回 文章・文献の読み方②：精読の方法・要約の方法を理解する。
- 第9回 文章・文献の読み方③：文章批評の方法を理解する。
- 第10回 社会調査：質的研究の方法を理解する。
- 第11回 社会調査：データの読み取り方を理解する。
- 第12回 社会調査：量的調査の方法を理解する
- 第13回 研究計画：今後の研究計画を作成する。
- 第14回 レポートの提出
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(30%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

欠席した場合の小テストの再試験は実施しないので欠席は極力避けること。授業への参加度が重要。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

小テストは必ず事前学習をして受けること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

講義内で課した課題については適宜授業時にコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力及び総合的・実践的な学習能力に該当する。文章表現能力を身につけることにより他の人々との協働作業を創り、社会に貢献できる。また文章で表現をすることで自己を対象化でき、自分の思いや考えを深めることができる。

〔テキスト〕

『漢検 2級 漢字学習ステップ』(改訂四版)日本漢字能力検定協会 1320円+税

その他の教材はすべて担当で作成する。

〔参考文献〕

「新しい国語表記ハンドブック」(第八版)三省堂 800円+税

※その他の参考文献は随時講義内で提示する。

〔備考〕

毎回国語辞書を持参すること。電子辞書可。

コンピュータ入門I

科目ナンバー	GNI2114-P
2単位：前期1コマ	1～2年
佐藤 舞	

〔到達目標〕

①パソコンの基礎知識と基本的操作技術を身につけること。②大学生のレポート・論文作成のために必要なワードの基本操作を習得すること。

〔履修の条件〕

・MS Word で課題を作成できるように、パソコンとアプリを準備すること。

なお、macOSの使用を制限はしませんが、講義はWindows準拠で進めますので、macOSの操作方法は扱いません。また、macOSの場合の操作方法を質問されても対応いたしかねます。

・遠隔講義の場合、動画を視聴するためのイヤホン・ヘッドホン等をご用意ください。

(視覚障害者のためのPCクラスについては別途、実施されます。)

〔講義概要〕

本講義では、実際にパソコンを使用して演習を行う。各回の最初に、その回で学習する技能についてレジュメ(またはパワーポイント)に基づいて説明し、説明された操作方法に沿って各自で課題を行う。これらの演習を通して、大学生のレポート・論文作成のために必要なワードの基本操作を習得することを目指す。なお、一部の題材についてはDVD等映像や音楽を使用する場合もある。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション(本講義の目的、概要、構成)
- 第2回 パソコンの基礎知識
- 第3回 タイピング演習
- 第4回 電子メール
- 第5回 電子メールの書き方
- 第6回 ワード(1)(和文・英文の入力)
- 第7回 ワード(2)(文字書式)
- 第8回 ワード(3)(段落書式)
- 第9回 ワード(4)(ページ設定1)
- 第10回 ワード(5)(ページ設定2)
- 第11回 課題作成・質問回答
- 第12回 ワード(6)(その他の機能)
- 第13回 課題作成・質問回答
- 第14回 課題作成・質問回答
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(60%)、その他の評価方法(40%)

〔成績評価(備考)〕

単位認定のために提出が必須の課題(60%)のほか、任意提出

の課題(40%)を設ける。

〔 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 〕

課題が講義時間内に完了しなかった場合には、自分のパソコンか大学のパソコンなどを用いて課題を仕上げるよう求める。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔 試験・レポート等のフィードバック 〕

課題内容について、適宜口頭またはメール文面でコメントする。

〔 ディプロマポリシーとの関連性 〕

4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。この科目を習得することで、見やすく、わかりやすいレポートや論文を作成して自分の考えを的確に伝えるための技能を身につけることができる。

〔 備考 〕

ファイルの保存媒体は各自で選んでかまわないが、大学のパソコンを使用する際は USB メモリ等に保存すること。また、講義で扱う内容は状況に応じて変更する可能性がある。

コンピュータ入門Ⅱ		
科目ナンバー	GNI2115-P	
2単位：後期1コマ	1～2年	
佐藤 舞		

〔 到達目標 〕

①エクセルを使った表計算とグラフ作成の方法を身につけること。②エクセルの表やグラフを挿入したワード文書を作成することができるようになること。③今日の情報社会において、資料情報などのデータ収集整理や ICT の有効活用についての的確に応じするための基礎を習得すること。

〔 履修の条件 〕

・こちらから指定する条件は特にありません。

〔 講義概要 〕

本講義では、実際にノートパソコンを使用して演習を行う。各回の最初に、その回で学習する技能についてレジュメ(またはパワーポイント)に基づいて説明し、説明された操作方法に沿って各自で課題を行う。これらの演習を通して、大学生のレポート・論文作成のために必要なエクセルの基本操作やデータサイエンスの基礎を習得することを目指す。なお、一部の題材についてはグループワークを取り入れる場合もある。

■授業計画

第1回 オリエンテーション(本講義の目的、概要、構成)
第2回 パソコンの基礎知識
第3回 エクセル(1)(エクセルの基礎知識)
第4回 エクセル(2)(ワークシートの基本操作1)
第5回 エクセル(3)(ワークシートの基本操作2)
第6回 課題作成・質問回答
第7回 エクセル(4)(セル参照)

第8回 エクセル(5)(グラフ作成)
第9回 エクセル(6)(図表を含むレポート作成)
第10回 課題作成・質問回答
第11回 エクセル(7)(データの活用)
第12回 演習(1)(データ収集・コーディング)
第13回 演習(2)(データ作成・加工)
第14回 演習(3)(データ分析)
第15回 -
第16回 -

〔 成績評価 〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(70%)、その他の評価方法(30%)

〔 成績評価(備考) 〕

任意提出の課題を提出した場合、その完成度に応じて加点評価する(30%)。

〔 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 〕

課題が講義時間内に完了しなかった場合には、自分のパソコンか大学のパソコンなどを用いて課題を仕上げるよう求める。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔 試験・レポート等のフィードバック 〕

課題内容について、授業内に適宜口頭でコメントする。

〔 ディプロマポリシーとの関連性 〕

3.総合的・実践的な学習能力に該当する。この科目を習得することで、社会における問題をデータから発見し、分析して対策を考え、実行するためのリテラシーを身につけることができる。

〔 備考 〕

講義には USB メモリ等の保存媒体を持参すること。また、講義で扱う内容は状況に応じて変更する可能性がある。

視覚障害者 PC 入門		
科目ナンバー	GNI2116-P	
2単位：前期1コマ	1年	
荒川 明宏		

〔 到達目標 〕

①パソコンの基礎知識と基本的操作技術を身につけること。
②大学生のレポート・論文作成のために必要なパソコンの基本操作を習得すること。

〔 履修の条件 〕

視覚障がい学生で、スクリーンリーダーでパソコン操作をする方を対象とする。

〔 講義概要 〕

本講義では、実際に受講する学生のレベルを見ながら授業をすすめる。ノートパソコンを使用して演習を行う。説明された操作方法に沿って課題を行う。これらの演習を通して、大学生のレポー

ト・論文作成のために必要なパソコンの基本操作を習得することを目指す。

■授業計画

第1回	オリエンテーション(本講義の目的、概要、構成)、必要な視覚障害者向け機器の確認
第2回	音声化ソフト並びに Windows のショートカット
第3回	パソコンの基礎知識
第4回	電子メール・メールの書き方
第5回	タイピング演習、熟語登録
第6回	ワード(1)(和文・英文の入力)
第7回	ワード(2)(文字書式)
第8回	ワード(3)(段落書式)
第9回	ワード(4)(ページ設定)
第10回	ワード(5)(表の作成)
第11回	Internet による検索
第12回	Excel の基本操作(計算式)
第13回	Excel での表の作成
第14回	Word・Excel での質問回答
第15回	-
第16回	-

【成績評価】

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(100%)

【成績評価(備考)】

授業ごとに課題に取り組む。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

授業内容について、授業内に適宜口頭でコメントする。

【ディプロマポリシーとの関連性】

4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。この科目を習得することで、見やすく、わかりやすいレポートや論文を作成して自分の考えを的確に伝えるための技術を身につけることができる。

英語 Reading		
科目ナンバー	GFL3104-S	
2単位：前期2コマ	1年	
ジャン・プレゲنز		

【到達目標】

英語の文書のレトリック(文書の構造)を把握して、読解力をたかめる。また、語彙を増やす方法も教える。

【履修の条件】

- (1) 授業は、前期2コマ。
- (2) 語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。

る。

(3) 本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。

(4) 授業で課せられる課題(assignment)は、定められた期日に提出することが必要である。定められた提出期限に遅れた課題については、1/2の課題としてしか評価されないので注意が必要である。

【講義概要】

○ この授業では、常に辞書に頼ることなく、英文を効果的に英語で読んでいくためのスキルを習得することを目指している。接頭辞、接尾辞ラテン語を起源とする語幹の学習を中心としたreadingに必要な語彙力の増強が授業の中心となる。

○ 語彙力の増強と並行して、Scanning(特定の情報を読み出す読み方、拾い読み)、Skimming(文の大意を読みとる読み方、斜め読み)に加えて、文の複数の主題をまとめるスキル、段落の中心概念(main idea)を読みとるスキル等の習得にも強調がおかれる。時事英文にも取り組む。

受講には最新版のテキストが必要です。必ず購入して受講してください。テキストなく受講しても単位が認められません。

■授業計画

第1回	Reading Faster Introduction/ Diagnostic Test/ Parts of speech(Jabberwocky)
第2回	Word study History of the English language
第3回	Latin Stems/ Prefixes/ Introduction to extensive reading Keeping a Vocabulary Notebook
第4回	Unit 1, Lesson 1
第5回	Unit 1, Lesson 2
第6回	Unit 1, Lesson 3
第7回	Quiz on A,B, Unit 2, Lesson 1
第8回	Unit 2, Lesson 2
第9回	Quiz on C, D, Unit 2, Lesson 3(Review)
第10回	Unit 3, Lesson 1
第11回	Quiz on E, F Unit 3, Lesson 2
第12回	Unit 3, Lesson 3
第13回	Quiz on G, H Unit 4, Lesson 1
第14回	Unit 4, Lesson 2
第15回	Quiz on I, J, K, L Unit 4, Lesson 3(Review)
第16回	Unit 5, Lesson 1 Understanding Topics
第17回	Quiz on M Introduction to Reading Projects/Authentic materials Vocabulary Notebooks Part 1
第18回	Reading Patterns The Listing Pattern
第19回	Quiz on N, O The Time Order Pattern

- 第20回 Unit 5, Lesson 2
 第21回 Quiz on P
 Unit 5, Lesson 3
 第22回 The Comparison Pattern
 第23回 Quiz on Q,R,S
 The Cause/Effect Pattern
 第24回 Unit 6 Lesson 1
 第25回 Quiz on T-Z
 Unit 6 Lesson 2
 第26回 Unit 6 Lesson 3(Review)
 Vocabulary Notebooks Part 2
 第27回 Unit 7 Lesson 2
 第28回 Reading Projects
 第29回 Reading Projects
 第30回 -
 第31回 -
 第32回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(50%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

毎回の宿題は不可欠。特に毎週の Vocabulary Quiz の復習がもとめられています。本科目では、各授業100分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

二回、単語のノートのチェックで、学生一人ひとりと指示します。Reading Project は個人的指導、フィードバック。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
 コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

〔テキスト〕

Patricia Ackert et al, Reading and Vocabulary Development 1, Fact and Figures, Fourth Edition. National Geographic Learning(Cengage) ¥3340 (ISBN 9789814896535)

〔参考文献〕

特になし

英語 Speaking/Listening

科目ナンバー	GFL3101-S
2単位：前期2コマ	1年
ジャン・プレゲンズ、アデレード・アミサ	

〔到達目標〕

英語の発音、発声、Formulaic expressions(挨拶など、)実用的な会話の訓練と習得。

〔履修の条件〕

- (1)語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。
- (2)この授業では、単に出席するだけでなく、積極的に授業に参加する(active participation)ことが求められ、評価の大切な要因となります。
- (3)本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。
- (4)授業出席が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。

〔講義概要〕

- 授業は、充実した指導を徹底させるために2グループに分かれ、2グループがほぼ同じ内容の学習ができるように努める。
 - 英語の Speaking と Listening のスキル(技能)のダイナミックスを習得することに重きが置かれる。
 - 主に、自然なスピードの英語の発音・リズム・アクセント・イントネーション・発音上の省略形の学習を通して聴解力の増強に努める。実際の内容のある練習・演習も織り込んで、英語によるこの授業では、学生が今まで習ってきた英語を用いて話していくスキルとしての Speaking と Listening を促進するための実際的な方策についても学びを行う。
- 受講には最新版のテキストが必要です。必ず購入して受講してください。テキストなく受講しても単位がみつめられません。

■授業計画

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 1)Introduction to Course |
| 第2回 | 1)Introductions
2)Phonetics Test |
| 第3回 | 1)Practice
2)Clear Speech : Vowel sounds |
| 第4回 | 1)Lesson 1 A
2)Clear Speech : Vowel and Consonant sounds |
| 第5回 | 1)Lesson 1 A
2)Clear Speech, pp. 2-6 |
| 第6回 | 1)Lesson 1 B
2)Clear Speech, pp. 7-9 |
| 第7回 | 1)Lesson 1 B
2)Clear Speech, Unit 2 |
| 第8回 | 1)Lesson 2 A
2)Clear Speech, Units 2-3 |
| 第9回 | 1)Lesson 2 A
2)Clear Speech, Unit 4 |
| 第10回 | 1)Lesson 2 B
2)Clear Speech, Unit 4 |
| 第11回 | 1)Lesson 2 B
2)Clear Speech, Unit 5 |
| 第12回 | 1)Lesson 3 A
2)Clear Speech, Unit 5 |
| 第13回 | 1)Lesson 3 A
2)Clear Speech, Unit 6 |
| 第14回 | 1)Lesson 3 B
2)Clear Speech, Unit 7 |
| 第15回 | 1)Lesson 3 B
2)Clear Speech, Unit 7 |

- 第16回 1) Review
2) Midterm Test (Phonetics/Lexicarry)
- 第17回 1) Review
2) Clear Speech, Test, pp. xiii-xv
- 第18回 1) Lesson 4 A
2) Clear Speech, Unit 8
- 第19回 1) Lesson 4 A
2) Clear Speech, Unit 8
- 第20回 1) Lesson 4 B
2) Clear Speech, Unit 9
- 第21回 1) Lesson 4 B
2) Clear Speech, Unit 10
Pronunciation Review
- 第22回 1) Lesson 5 A
2) Clear Speech, Unit 11
- 第23回 1) Lesson 5 A
2) Clear Speech, Unit 11
- 第24回 1) Lesson 5 B
2) Clear Speech, Unit 15
- 第25回 1) Lesson 5 B
2) Clear Speech, Unit 15
- 第26回 1) Lesson 6 A
2) Clear Speech, Unit 15
- 第27回 1) Lesson 6 A
2) Clear Speech Test
- 第28回 1) Lesson 6 B/Review
2) Review
- 第29回 Speaking Test
- 第30回 -
- 第31回 -
- 第32回 -

〔成績評価〕

試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(30%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

教科書のCDを復習する。本科目では、各授業100分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

試験の結果、中間テストで一人一人を評価する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と意思の言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

〔テキスト〕

Judy B. Gilbert, Clear Speech(4rd Edition),(Cambridge University Press)定価¥2,499
Angela Buckingham, et al., Get Real 1(New Edition),(Macmillan)定価¥2,500

〔参考文献〕

特になし

英語 Writing/Grammar

科目ナンバー	GFL3105-S
2単位：前期2コマ	1年
ジャン・プレゲンス	

〔到達目標〕

英語の文書の種類、段落(paragraph)の構造を学ぶ。

〔履修の条件〕

- (1) 語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。
- (2) 本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。
- (3) 授業出席が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。
- (4) 授業で課せられる課題(assignment)は、定められた期日に提出することが必要である。定められた提出期限に遅れた課題については、1/2の課題としてしか評価されないので注意が必要である。

〔講義概要〕

- 英語の Grammar のポイントをふまえながら、Writing の力をつけていくための学習をする。
 - 授業では、個人的及びビジネス上の手紙文を書く等の実際的な書く練習も豊富に含まれる。
- 受講には最新版のテキストが必要です。必ず購入し受講してください。テキストなく受講しても単位が認められません。

■授業計画

- 第1回 Class rules/ Common mistakes in English
- 第2回 Unit 1. The Paragraph, Topic Sentences
- 第3回 Unit 1. Paragraph form, More on Topic Sentences
- 第4回 Unit 1. Supporting sentences, Concluding sentences
- 第5回 Unit 1. Unity, Coherence
- 第6回 Unit 1 Run-on sentences, Review (Self-introduction)
- 第7回 Unit 1 Review
- 第8回 Unit 2 Descriptive paragraphs, use of the articles
- 第9回 Unit 2. Descriptive paragraphs, specific details
- 第10回 Unit 2. Adjectives, adjective order
- 第11回 Unit 2. The Be Verb, Review
- 第12回 Unit 3 Example paragraphs, sentence type
- 第13回 Unit 3. Examples as supporting details, Clustering
- 第14回 Unit 3. Simple present, review of sentence type, developing an outline
- 第15回 Unit 3. Review

- 第16回 Unit 4. Process paragraphs,
 第17回 Unit 4. Time-order words in process paragraphs
 第18回 Unit 4 Imperative sentences, advice, necessity, prohibition modals
 Review
 第19回 Personal letter/ Giving directions
 第20回 Unit 5. Narrative paragraphs
 第21回 Unit 5. Narrative paragraphs, sensory details, order of events
 第22回 Unit 5 The simple past, past continuous
 Review
 第23回 Business letters
 第24回 Unit 6. Opinion paragraphs
 第25回 Unit 6. Opinion paragraphs, facts and opinions
 第26回 Unit 6. Mechanics : there is/are; because/because of
 Review
 第27回 Final writing composition : brainstorming, outlining
 第28回 Final composition : sentences, organization
 第29回 Final Composition
 第30回 -Final Composition
 第31回 -
 第32回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(20%)、小テスト(0%)、課題提出(80%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

毎回の宿題の提出、復習が必要。宿題のなおし、2回目のチェック。本科目では、各授業100分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

宿題の個人的指導、説明。学生は宿題を一回書きなおして、もう一度チェックを受ける。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
 コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と意思の言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

〔テキスト〕

Alice Savage and Masoud Shafiei, Effective Academic Writing, The Paragraph
 Second Edition, Oxford ¥3696

英語特別演習 (Independent Study)

科目ナンバー	GFL3201-S
1単位：前期1コマ	2～4年
ジャン・ブレゲンズ	

〔到達目標〕

学生のニーズにあわせて授業を計画します。

〔履修の条件〕

- (1) 特別に英語の学力があると認められる者(帰国子女等)が履修できる。
 (2) 次の手続きを経て、履修が認められる。
 ・履修希望者は、次の学年はじめのオリエンテーション期間中に担当教員に申し出、相談して、履修内容、履修計画等を提出する。
 ・履修届最終期限前に教養部の教授会で承認を得て、履修届をする。
 (3) 通常の授業(1コマについて、100分授業を少なくとも14回)と同じかそれ以上の教員との学習、そのための予習・復習の学習が必要である。
 (4) 学習状況が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。

〔講義概要〕

学年度始めの履修計画に基づいて、1コマについて少なくとも週1回の指導を受け、勉強を続けていく。

■授業計画

- 第1回 Orientation/Needs Assessment
 第2回 First reading
 第3回 Homework/Second reading
 第4回 Homework/Third reading
 第5回 Homework and discussion/Fourth reading
 第6回 Homework/Fifth reading
 第7回 Homework/Sixth reading
 第8回 Homework/Seventh reading
 第9回 Homework/Next reading
 第10回 Homework and discussion/Next reading
 第11回 Homework and discussion/Next reading
 第12回 Homework and discussion/Next reading
 第13回 Homework and discussion/Next reading
 第14回 Homework and discussion/Next reading
 第15回 Final project
 第16回 -

〔成績評価〕

試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(70%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

先生の提供するプリントを事前によく読んでおくこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

毎回の宿題のフィードバック。個人的指導、先生と一对一の授業。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と意思の言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

〔テキスト〕

学生の履修計画に基づいて、適切なテキストを担当教員が選択する。

〔参考文献〕

必要な時に授業内で情報提供する。

英語 Speaking/Listening 演習	
科目ナンバー	GFL3204-S
2単位：前期2コマ	2～3年
ジャン・ブレゲンズ、アデレード・アミサ	

〔到達目標〕

英語での情報交換、発表の技術の学びと訓練。

〔履修の条件〕

- (1) 原則として「英語 Speaking/Listening」既修者及びそれと同等の英語力があると担当責任者が認定する者が履修できる。
- (2) 語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。
- (3) この授業では、単に出席するだけでなく、積極的に授業に参加する(active participation)ことが求められ、評価の大切な要因になります。
- (4) 本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。
- (5) 授業出席が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。
- (6) 最新版の教科書が必要

〔講義概要〕

- 前期の継続として、いろいろな演習を通して学生の実践的な Speaking/Listening の力を高めていくことに努める。
- 教科書の学習に加えて、英語による発表(presentation)、短いスピーチ、諸々の英語による情報伝達を計画していく演習も行われる。

■授業計画

第1回	Introductions/Review
第2回	Communication Strategies
第3回	Lesson 1A
第4回	Lesson 1B
第5回	Lesson 2A

第6回	Lesson 2B
第7回	Lesson 3A
第8回	Lesson 3B
第9回	Review Presentation Skills
第10回	Review Presentation Skills
第11回	Lesson 4A
第12回	Lesson 4B
第13回	Lesson 5A
第14回	Lesson 5B
第15回	Lesson 6A
第16回	Lesson 6B
第17回	Review Midterm Test
第18回	Communication Activities Midterm Test
第19回	Lesson 7A
第20回	Lesson 7B
第21回	Lesson 8A
第22回	Lesson 8B
第23回	Lesson 9A
第24回	Lesson 9B
第25回	Review
第26回	Lesson 10A
第27回	Lesson 10B
第28回	Presentations Test explanation
第29回	Speaking Test
第30回	-
第31回	-
第32回	-

〔成績評価〕

試験(20%)、レポート(0%)、小テスト(30%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(10%)

〔成績評価(備考)〕

スピーチ及びプレゼンテーション。
小テスト

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

宿題の実施、提出は不可欠です。本科目では、各授業100分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

毎回のスピーキング宿題の評価、ピアーズでの評価。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と意思の言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

【テキスト】

Angela Buckingham, et al. Get Real! 2(New Edition) Macmillan 定価¥2,500

【参考文献】

特になし

ドイツ語初級Ⅰ		
科目ナンバー	GFL2101-S	
1単位：前期1コマ		1年
多田 哲		

【科目補足情報】

オンデマンド形式の講義です。

【到達目標】

文字の読み方や発音などの初歩から始めて、ドイツ語の理解に不可欠である基礎を身につけます。

【履修の条件】

指定の教科書と独和辞書を用意してください。

後期の「ドイツ語初級Ⅱ」を履修するには、この「ドイツ語初級Ⅰ」を履修しておくこと。「ドイツ語初級Ⅰ」と「ドイツ語初級Ⅱ」は連続した講義を行います。

【講義概要】

ドイツといえば、ビールやソーセージを思い浮かべるでしょうか。あるいは、中世そのままに残る美しい街並みや壮麗なお城を思い浮かべるでしょうか。ドイツは、宗教改革者マルティン・ルター（マルチン・ルーテル）が生まれ育ったところであり、ルーテルの始まりの地です。音楽の父バッハや、文豪ゲーテ、哲学者カントを育んだドイツの歴史と文化は、ドイツ語によって綴られてきました。ドイツ語を学ぶと、その歴史と文化、そしてルーテルの精神に直に触れることができます。講義では基本的な文法を習得しながら、ドイツ語圏諸国の文化事情なども扱います。

講義はオンラインで行います。各回、YouTubeによる動画配信とPDFによる資料配布で受講してもらい、Googleフォームで課題に答えてもらいます。

■授業計画

- 第1回 ドイツ語のアルファベットと発音、ドイツ語圏の国々の紹介
- 第2回 ドイツ語で自己紹介(1) 人称代名詞
- 第3回 ドイツ語で自己紹介(2) 動詞の現在形
- 第4回 ドイツ語で自己紹介(3) 疑問文
- 第5回 ドイツ語で仲良くなる(1) 不規則動詞
- 第6回 ドイツ語で仲良くなる(2) 分離動詞
- 第7回 ドイツ語で仲良くなる(3) 否定疑問文
- 第8回 ドイツ語で注文する(1) 冠詞
- 第9回 ドイツ語で注文する(2) 否定冠詞
- 第10回 ドイツ語で注文する(3) 複数形
- 第11回 ドイツ語で頼みごと(1) 話法の助動詞1
- 第12回 ドイツ語で頼みごと(2) 話法の助動詞2
- 第13回 ドイツ語で頼みごと(3) 話法の助動詞3

第14回 前期の復習

第15回 -

第16回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

学習した事柄は毎回復習しておきましょう。次回の土台となります。教科書には音声ダウンロードが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

提出課題のフィードバックは次回の授業時に行います。

【ディプロマポリシーとの関連性】

4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の文化や歴史への理解を深めます。

【テキスト】

薦田奈美、渡邊紗代、Angela Niehaus 著『行ってみようドイツ！コミュニケーション・ドイツ語講座[改訂版]』2023年、白水社。本体2,700円+税。

教科書は2023年発行の[改訂版]を使いますので、古書店等で旧版を買わないように注意してください。

【参考文献】

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧『必携ドイツ語文法総まとめ - 改訂版 -』白水社、2003年、本体1,600円+税。

独和辞書はさまざまな出版社から出ています。特に指定はありません。電子辞書でも可。

【備考】

語学の講義は、読む、書く、聞く、話すという視聴覚要素で構成されていますが、視覚や聴覚に障がいがあり提供の視聴覚教材の利用が難しい場合は、申し出てください。別の方法を考えます。

ドイツ語初級Ⅱ		
科目ナンバー	GFL2102-S	
1単位：後期1コマ	1年	
多田 哲		

【科目補足情報】

オンデマンド形式の講義です。

【到達目標】

ドイツ語の基礎を学び、平易な文章や日常会話の理解に不可欠な要素を習得します。

【履修の条件】

指定のテキスト(教科書)と独和辞書を用意してください。この「ドイツ語初級Ⅱ」を履修するには、前期の「ドイツ語初級Ⅰ」を履修している必要があります。「ドイツ語初級Ⅰ」と「ドイツ語初級Ⅱ」は連続した講義を行います。

【講義概要】

ドイツといえば、ベンツや BMW を思い浮かべるでしょうか。あるいは、サッカーのブンデスリーガや脱原発・エコロジーを思い浮かべるでしょうか。ドイツは、宗教改革者マルティン・ルターが生まれ育ったところであり、ルーテルの始まりの地です。楽聖ベートーベンや、科学者アインシュタインを育んだドイツの歴史と文化は、ドイツ語によって綴られてきました。ドイツ語を学ぶと、その歴史と文化、そしてルーテルの精神に直に触れることができます。ドイツ語は元々、英語と同じ言語から派生した姉妹言語で、文法がよく似ています。講義では基本的な文法を習得しながら、簡単な会話にも挑戦し、ドイツ語圏諸国の文化事情なども扱います。講義はオンラインで行います。各回、YouTube による動画配信と PDF による資料配布で受講してもらい、Google フォームで課題に答えてもらいます。

■授業計画

- 第1回 前期の復習
- 第2回 ドイツ語で家族の紹介(1) 所有冠詞1
- 第3回 ドイツ語で家族の紹介(2) 所有冠詞2
- 第4回 ドイツ語で家族の紹介(3) 人称代名詞
- 第5回 ドイツ語で過去の話(1) 完了形1
- 第6回 ドイツ語で過去の話(2) 完了形2
- 第7回 ドイツ語で過去の話(3) 過去形
- 第8回 ドイツ語で買い物(1) 冠詞類1
- 第9回 ドイツ語で買い物(2) 冠詞類2
- 第10回 ドイツ語で買い物(3) 冠詞類3
- 第11回 ドイツ語でさようなら(1) 命令形
- 第12回 ドイツ語でさようなら(2) 前置詞1
- 第13回 ドイツ語でさようなら(3) 前置詞2
- 第14回 後期の復習
- 第15回 -
- 第16回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

学習した事柄は毎回復習しておきましょう。次回の土台となります。教科書には音声ダウンロードが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

提出のフィードバックは次回の授業時に行います。

【ディプロマポリシーとの関連性】

4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の文化

や歴史への理解を深めます。

【テキスト】

薦田奈美、渡邊紗代、Angela Niehaus 著『行ってみようドイツ！コミュニケーション・ドイツ語講座[改訂版]』2023年、白水社。本体2,700円+税。

教科書は2023年発行の[改訂版]を使いますので、古書店等で旧版を買わないように注意してください。

【参考文献】

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧『必携ドイツ語文法総まとめー改訂版ー』白水社、2003年、本体1600円+税。

独和辞書はさまざまな出版社から出ています。特に指定はありません。電子辞書でも可。

【備考】

語学の講義は、読む、書く、聞く、話すという視聴覚要素で構成されていますが、視覚や聴覚に障がいがあり提供の視聴覚教材の利用が難しい場合は、申し出てください。別の方法を考えます。

ドイツ語講読Ⅰ

科目ナンバー	GFL2104-S
1単位：前期1コマ	1～2年
多田 哲	

【科目補足情報】

オンデマンド形式の講義です。

【到達目標】

ドイツ語で物語を読むための基礎力を身につける。

【履修の条件】

ドイツ語の基本的な文法を理解している必要があります。

ドイツ語初級Ⅰとドイツ語初級Ⅱの両方を履修済みであることが望ましい。

【講義概要】

日本の児童文学で初めてドイツ児童文学賞を受賞した岩佐めぐみ著『はくはアフリカにすむキリンといます』のドイツ語訳を読み進めていきます。顔の見えない相手をどのように理解していくのか。グローバル化の世界で移民・難民や外国人排斥の問題にどう取り組んでいけば良いのか。相手の姿を想像することで相手を知っていく物語から、そのヒントを見つけましょう。

講義はオンラインで行います。各回、YouTube による動画配信と PDF による資料配布で受講してもらい、Google フォームで課題に答えてもらいます。

■授業計画

- 第1回 キリンの最初の手紙(1)
- 第2回 キリンの最初の手紙(2)
- 第3回 キリンの最初の手紙(3)
- 第4回 地平線は近いのか遠いか(1)
- 第5回 地平線は近いのか遠いか(2)

- 第6回 地平線は近いのか遠いか(3)
 第7回 地平線は近いのか遠いか(4)
 第8回 ペンギンとクジラ先生(1)
 第9回 ペンギンとクジラ先生(2)
 第10回 ペンギンとクジラ先生(3)
 第11回 ペンギンとクジラ先生(4)
 第12回 ペンギンの返事(1)
 第13回 ペンギンの返事(2)
 第14回 ペンギンの返事(3)
 第15回 -
 第16回 -

【成績評価】

試験(50%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

学習した事柄は毎回復習しておきましょう。次回の土台となります。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

フィードバックは必要に応じて行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の文化や歴史への理解を深めます。

【テキスト】

Megumi Iwasa 著『Viele Grüße, Deine Giraffe』Ursula Gräfe 訳、2017年、Moritz Verlag 発行。ペーパーバック版が2023年1月に発売され、Amazonで千円程度で買えます。届くまで時間がかかるため、早めに注文してください。

【参考文献】

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧『必携ドイツ語文法総まとめ 改訂版-』白水社、2003年、本体1600円+税。
 独和辞書はさまざまな出版社から出ています。特に指定はありません。電子辞書でも可。

ドイツ語講読Ⅱ		
科目ナンバー	GFL2105-S	
1単位：後期1コマ	1～2年	
多田 哲		

【科目補足情報】

オンデマンド形式の講義です。

【到達目標】

ドイツ語の物語を読むための読解力を身につける。

【履修の条件】

ドイツ語の基本的な文法を理解している必要があります。ドイツ語初級Ⅰとドイツ語初級Ⅱの両方を履修済みであることが望ましい。

【講義概要】

日本の児童文学で初めてドイツ児童文学賞を受賞した岩佐めぐみ著『はくはアフリカにすむキリンといます』のドイツ語訳を読み進めていきます。顔の見えない相手をどのように理解していくのか。グローバル化の世界で移民・難民や外国人排斥の問題にどう取り組んでいけば良いのか。相手の姿を想像することで相手を知っていく物語から、そのヒントを見つけましょう。

講義はオンラインで行います。各回、YouTubeによる動画配信とPDFによる資料配布で受講してもらい、Google フォームで課題に答えてもらいます。

■授業計画

- 第1回 キリンの次の手紙とペンギンの返事(1)
 第2回 キリンの次の手紙とペンギンの返事(2)
 第3回 キリンの次の手紙とペンギンの返事(3)
 第4回 キリンの次の手紙とペンギンの返事(4)
 第5回 キリンの次の手紙とペンギンの返事(5)
 第6回 ペンギンの姿を想像するキリン(1)
 第7回 ペンギンの姿を想像するキリン(2)
 第8回 ペンギンの姿を想像するキリン(3)
 第9回 ペンギンの姿を想像するキリン(4)
 第10回 ペンギンを訪ねるキリン(1)
 第11回 ペンギンを訪ねるキリン(2)
 第12回 ペンギンを訪ねるキリン(3)
 第13回 それからのこと(1)
 第14回 それからのこと(2)
 第15回 -
 第16回 -

【成績評価】

試験(50%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

学習した事柄は毎回復習しておきましょう。次回の土台となります。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

フィードバックは必要に応じて行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の文化や歴史への理解を深めます。

【テキスト】

Megumi Iwasa 著『Viele Grüße, Deine Giraffe』Ursula Gräfe 訳、2017年、Moritz Verlag 発行。ペーパーバック版が2023年1月に発売され、Amazonで千円程度で買えます。届く

まで時間がかかるため、早めに注文してください。

【参考文献】

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧『必携ドイツ語文法総まとめ 改訂版』白水社、2003年、本体1600円+税。
独和辞書はさまざまな出版社から出ています。特に指定はありません。電子辞書でも可。

日本語特講(留学生)Ⅰ		
科目ナンバー	GFL2111-S	
1単位：前期1コマ	1～2年	
ドイル 綾子		

【到達目標】

- ①日本語の学術的文章作成に必要な技能、知識を習得する。(通年)
- ②自分や他者の文章を批判的に読む力をつける。(通年)

【履修の条件】

これから卒業論文や修士論文、博士論文を執筆する予定であること。

【講義概要】

本授業では、日本語で学術的文章を書く上で必要な技能を、講義と演習によって身につけていきます。毎週、授業で扱う技能を使って小論文を書く課題が出されます。対面授業の場合には、翌週の授業において、課題文章を他の受講生と検討し合います。遠隔授業になった場合には、講師が提出された文章に対してコメントを入れ、返却します。

対面授業であれ遠隔授業であれ、「書く」課題と授業への積極的な取り組みを期待します。

■授業計画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | ガイダンス 講義の進め方、授業に使用するテキストや参考文献の紹介、
学術的文章とは何か |
| 第2回 | 学術的文章にふさわしい日本語-講義- |
| 第3回 | 学術的文章にふさわしい日本語-文章検討- |
| 第4回 | 一文一義で書く-講義- |
| 第5回 | 一文一義で書く-文章検討- |
| 第6回 | 文と文の関係を明示する-講義- |
| 第7回 | 文と文の関係を明示する-文章検討- |
| 第8回 | 明確な語句を使う-講義- |
| 第9回 | 明確な語句を使う-文章検討- |
| 第10回 | 「マップ」を使って書く-講義- |
| 第11回 | 「マップ」を使って書く-文章検討- |
| 第12回 | 全体を構成する-講義- |
| 第13回 | 全体を構成する-文章検討- |
| 第14回 | 全体を構成する-文章検討- |
| 第15回 | - |
| 第16回 | - |

【成績評価】

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(100%)、

その他の評価方法(0%)

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

テキストの指定箇所を読む。

毎週習った技能を意識し、文章を作成する。

本科目では各授業回に約50分の準備学習を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

対面授業の場合→対話によって文章を検討しながら行う。

遠隔授業の場合→講師が文章にコメントを入れ、返却する。

【ディプロマポリシーとの関連性】

4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。

学術的文章の書き方を学ぶことを通して、自己の考えを深化し、その考えを他者に端的に伝えることができる能力の獲得を目指す。

【テキスト】

佐渡島紗織・吉野重矢子(2008)『これから研究を書くひとのためのガイドブック-ライティングの挑戦15週間』ひつじ書房 2,160円

【参考文献】

浜田麻里・平尾得子・由井紀久子(1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版 2,700円

日本語特講(留学生)Ⅱ		
科目ナンバー	GFL2112-S	
1単位：後期1コマ	1～2年	
ドイル 綾子		

【到達目標】

- ①日本語の学術的文章作成に必要な技能、知識を習得する。(通年)
- ②自分や他者の文章を批判的に読む力をつける。(通年)

【履修の条件】

これから卒業論文や修士論文、博士論文を執筆する予定であること。

【講義概要】

本授業では、日本語で学術的文章を書く上で必要な技能を、講義と演習によって身につけていきます。毎週、授業で扱う技能を使って小論文を書く課題が出されます。対面授業の場合には、翌週の授業において、課題文章を他の受講生と検討し合います。遠隔授業になった場合には、講師が提出された文章に対してコメントを入れ、返却します。

対面授業であれ遠隔授業であれ、「書く」課題と授業への積極的な取り組みを期待します。

■授業計画

- | | |
|-----|-----------------|
| 第1回 | 論点を整理して書く-講義- |
| 第2回 | 論点を整理して書く-文章検討- |

- 第3回 数え上げて書く-講義-
- 第4回 数え上げて書く-文章検討-
- 第5回 パラグラフを作る-講義-
- 第6回 パラグラフを作る-文章検討-
- 第7回 抽象度を調節する-講義-
- 第8回 抽象度を調節する-文章検討-
- 第9回 参考文献を示す-講義-
- 第10回 参考文献を示す-参考文献リスト検討-
- 第11回 ブロック引用をする-講義-
- 第12回 ブロック引用をする-文章検討-
- 第13回 要約引用をする-講義-
- 第14回 要約引用をする-文章検討-
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(100%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

テキストの指定箇所を読む。

毎週習った技能を意識し、文章を作成する。

本科目では各授業回に約50分の準備学習を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

対面授業の場合→対話によって文章を検討しながら行う。

遠隔授業の場合→講師が文章にコメントを入れ、返却する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。

学術的文章の書き方を学ぶことを通して、自己の考えを深化し、その考えを他者に端的に伝えることができる能力の獲得を目指す。

〔テキスト〕

佐渡島紗織・吉野亜矢子(2008)『これから研究を書くひとのためのガイドブック-ライティングの挑戦15週間』ひつじ書房 2,160円

〔参考文献〕

浜田麻里・平尾得子・由井紀久子(1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版 2,700円

キリスト教の人間観Ⅰ		
科目ナンバー	ICS3203-L	
2単位：前期1コマ	2～4年	
ジェームス・サック		

〔到達目標〕

- 1.われわれは多元的な社会に住んでいるので、いろんな視点から(心理学的、社会的、神学的、人類学的な)人間を理解して、人間の存在の生きがいを探る。
- 2.いろいろな角度から現代の人間問題と取り組む。

3.課題図書を読み、小グループで議論して、自分の意見を積極的に表現するように奨励する。コミュニケーション・スキルを高める。

〔履修の条件〕

履修者の積極的な参加と発言を期待する。キリスト教という視点から人間を考える興味を持つ、意欲的な学生が望ましい。

〔講義概要〕

読書とグループ・ディスカッションを通して人間の喜び、悩みとジレンマを討議して、自分の思考と意見を伝える。講義と体験学習方式で授業を行い、人間って、どんな存在でしようかということを検討しながら、人間理解をする。一部の題材についてはDVD等の映像や画像を活用する。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション：講義の進め方、授業にしようするテキストや参考文献を紹介する。
- 第2回 方法論・主な課題：この学期取り上げる主な課題を説明する。「脳：限るな創造性」のビデオを見てから、意見交換をする。
- 第3回 ヘンリ・ナウエン 「静まりから生まれるもの」第1章を考える。
- 第4回 ヘンリ・ナウエン 「静まりから生まれるもの」第2章を考える。
- 第5回 「コミュニケーションとは?」というテーマを勉強する。
ヘンリ・ナウエン 「静まりから生まれるもの」第3章を考える。
- 第6回 「表と裏」土井健郎について話し合う。
- 第7回 ポール・トゥルニエ氏が書いた「人間：仮面と真実」(第1章)を読んで、少人数と全体として討議する。
- 第8回 自己概念の体験学習をする。
トゥルニエ氏の「人間：仮面と真実」(第2章)を読んで、少人数と全体として討議する。
- 第9回 「サヴァン症候群」のビデオを見る。
トゥルニエ氏の「人間：仮面と真実」(第3・4章)の抜粋を読んで、少人数と全体として討議する。
- 第10回 トゥルニエ氏の「人間：仮面と真実」(第8章)の抜粋を読んで、少人数と全体として討議する。
- 第11回 トゥルニエ氏の「人間：仮面と真実」(第9章)を読んで、少人数と全体として討議する。
- 第12回 ビデオ：「命は誰のものなのでしょう」を見てから意見交換をする。
- 第13回 ビデオ：「ALSとの戦い」と「モリー先生との火曜日」を見てから意見交換をする。
- 第14回 ビデオ：「ピーターの教室」を見てから"Mainstreaming"(普通学級参加)の長所と短所について話し合う。
- 第15回 レポートの提出
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(25%)、その他の評価方法(25%)

〔成績評価(備考)〕

成績評価のその他は少人数グループの話し合いの内容を評価

する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

キリスト教の人間観(I)では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習)を必要とする。授業前に配布された資料を予め読んでおく。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

レポートに対するフィードバックを次回の授業内容において行なう。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。物事の本質を把握し、問題点の発見、解決策を提言をし、実行できるように、必要とされる他の人々の協働作業を創り、積極的に参与できるようになることを身につける。

援助者になる学生がきちんと人間の話聞いて、援助できるようになることが出来る。

〔テキスト〕

「人間・仮面の真実」ポール・トゥルニエ 山村嘉己・渡辺幸博
ヨルダン社 1,900円
プリントをまとめたものを配布する。

〔参考文献〕

教材としてビデオを使用します。

キリスト教の人間観Ⅱ			
科目ナンバー		ICP 3201-L	
2単位：後期1コマ		2～4年	
ジェームス・サック			

〔到達目標〕

- 1.心理学的、社会的、神学的、倫理的、人類学的な視点から人間を理解して、人間の存在の生きがいを探る。
- 2.現代の人間問題と取り組む。
- 3.講義や小グループとしてジレンマのケース・スタディを提出することやグループで議論して自分の意見を積極的に表現するように勉強する。
- 4.授業の勉強と知識に基づいて、深く議論したり、意見を交換したりする。

〔履修の条件〕

キリスト教の人間観(I)を履修しなくても、キリスト教の人間観(II)を履修できる。

〔講義概要〕

講義、グループ・ディスカッションとケース・スタディを通して人間のジレンマを討議して、自分の思考と意見を伝える。講義とジレンマのケース・スタディ方式で授業を行なう。少人数のグループは一緒に特定のジレンマのケースを授業で提出する。全員でケースの選択を配慮してそれぞれの選択の当然の成り行きを検討する。一部の題材についてはDVD等の映像や画像を活用

する。

■授業計画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション：講義の進め方、授業に使用する教材や参考文献の紹介。ジレンマのビデオ：「無罪か有罪か」を見る。 |
| 第2回 | ジレンマや少人数のケース・スタディとグループの発表を説明する。 |
| 第3回 | 講義：「自我」
少人数のケース・スタディの準備 |
| 第4回 | 講義：「他者関係」
少人数のケース・スタディの準備 |
| 第5回 | 講義：「神との関係」
少人数のケース・スタディの準備 |
| 第6回 | 少人数のケース・スタディの準備 |
| 第7回 | 最終の少人数のケース・スタディの準備 |
| 第8回 | ケース・スタディの発表(グループ1) |
| 第9回 | ケース・スタディの発表(グループ2) |
| 第10回 | ケース・スタディの発表(グループ3) |
| 第11回 | 討議：「解離性」
ビデオ：「私の中の他人」を見てから一緒に考える。 |
| 第12回 | 討議：「ウイリアムズ症候群」
ビデオ：「ウイリアムズ症候群」を見てから討議する。 |
| 第13回 | マインドフルネスを考える |
| 第14回 | キリスト教の人間観を検討するとまとめ |
| 第15回 | レポートの提出 |
| 第16回 | ー |

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

成績評価のその他はグループ・ディスカッションの発言内容です。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

キリスト教の人間観(II)では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習)を必要とする。配布された資料を読む。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

レポートに対するフィードバックを次回の授業内容において行なう。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。援助者になる学生がきちんと人間の話聞いて、援助できるようになることが出来る。

〔テキスト〕

プリントをまとめたものを配布する。

〔参考文献〕

「甘えの構造」 土居健郎、弘文堂、1985年

社会福祉の基礎

科目ナンバー	ISW 3201-L
2単位：前期1コマ	2年
廣瀬 圭子	

〔科目補足情報〕

3・4年次で「ソーシャルワーク実習Ⅱ」「精神保健福祉援助実習」の履修を希望する学生は、本科目を一定の成績（※「良」以上）で単位取得済みであることが必須条件となる。」

〔到達目標〕

- ①社会福祉関係法制度それぞれの成り立ちと内容についての基礎的な知識を習得する。
 - ②ソーシャルワーク実践活動がどのような法制度の枠組みで行われているかを理解する。
- ※本科目を通し、実習の履修に向けて受け身ではなく、"主体的に"学ぶ姿勢を身に付けることが強く望まれる

〔履修の条件〕

- 〔履修の条件〕
- ・「社会福祉入門」を履修済みであること。但し「社会福祉入門」が単位取得できていなくても「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の履修を希望する場合は必ず履修すること。
 - ・編入生で「ソーシャルワーク実習Ⅱ」「精神保健福祉援助実習」の履修を希望する場合は、この「社会福祉の基礎」から履修すること。

〔講義概要〕

本講義では、実習に臨むにあたって必要とされる、社会福祉関係法制度及びこれに基づく社会福祉施設・機関等に関する基礎的な知識を習得することを目的として講義を中心に進める。具体的には、障害者総合支援法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、老人福祉法、介護保険法について学ぶ。受講生の問題関心を深めるために、適宜参考文献・資料を紹介したり、新聞記事等を教材として活用し小グループでの討議も行う。

■授業計画

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | ・オリエンテーション：授業の概要と方針について、社会福祉法制について |
| 第2回 | 障害者福祉法制度の歴史と今日的動向① |
| 第3回 | 障害者福祉法制度の歴史と今日的動向② |
| 第4回 | 障害者総合支援法の理解① |
| 第5回 | 障害者総合支援法の理解② |
| 第6回 | 身体障害者福祉法の理解 |
| 第7回 | 知的障害者福祉法の理解① |
| 第8回 | 知的障害者福祉法の理解② |
| 第9回 | 精神保健福祉法の理解① |
| 第10回 | 精神保健福祉法の理解② |
| 第11回 | 老人福祉法の理解① |
| 第12回 | 老人福祉法の理解② |
| 第13回 | 介護保険法の理解① |
| 第14回 | 介護保険法の理解② |
| 第15回 | 定期試験 |
| 第16回 | ー |

〔成績評価〕

試験(70%)、レポート(10%)、小テスト(10%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(10%)

〔成績評価(備考)〕

実習及び実習関連科目を履修するための必須科目であるため、授業への積極的な参加態度等も重要視する。なお、実習及び実習関連科目履修の可否については、成績をはじめ、授業態度等を勘案し、社会福祉領域の会議にて審議し最終的に決定する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

指定された参考資料・文献は、授業後に復習すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計14回の授業で90時間となる。定期試験に備えて復習を欠かさないようにすること

〔試験・レポート等のフィードバック〕

試験の成績内容について疑問などがある者は、既定の事務手続きに従って開示請求する事。ただし、点数のみの問い合わせについては、教員に直接申し出ることができる。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。この科目を履修することで、ソーシャルワーカーとして必要な社会福祉関係法制度に関する基本的知識を身に付けることができ、実習を履修する上での備えができる。

〔テキスト〕

参考文献に挙げた2点は必須ではないが、受験予定の者は、最低①は、持っておくことが望ましい。購入の際は、最新版を購入すること。(法律の改正が多いため)その他必要な資料は適宜配布する。

〔参考文献〕

- ①『社会福祉小六法』（各社から出版されている最新版）
- ②厚生労働統計協会『国民の福祉と介護の動向2022/2023年版』

ソーシャルワーク論Ⅰ

科目ナンバー	ISW 3202-L
2単位：前期1コマ	2年
福島 喜代子	

〔到達目標〕

- ①ソーシャルワーク専門職の概念、範囲、求められる役割を理解する。
- ②ソーシャルワークの基盤となる考え方、価値、倫理について理解する。
- ③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける総合的かつ包括的な支援を理解する。
- ④社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、多職種連携の必要性を理解する。
- ⑤ソーシャルワークの形成過程を理解する。

〔履修の条件〕

社会福祉入門、社会福祉原論Ⅰ、同Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱを履修しているか並行履修していること。社会福祉の基礎(社会福祉入門Ⅱ)を並行履修していることが望ましい。

社会福祉士および精神保健福祉士の指定科目であるソーシャルワークの基盤と専門職、および社会福祉士の指定科目であるソーシャルワークの基盤と専門職(専門)への読み替え科目である。

〔講義概要〕

授業は、講義と演習からなる。継続的な講義、演習により、ソーシャルワークの基盤となる知識を理解し、専門職としての価値と倫理を身につけ、包括的・総合的な支援をする力をつける。

■授業計画

第1回	授業の目的、ソーシャルワークによる総合的包括的な支援とは
第2回	ソーシャルワークの概念：ソーシャルワーク専門職のグローバル定義
第3回	ソーシャルワークの構成要素
第4回	ソーシャルワークの基盤となる考え方①(社会正義、人権尊重、集団的責任、多様性の尊重)
第5回	ソーシャルワークの基盤となる考え方②(権利擁護、ソーシャルインクルージョン他)
第6回	社会福祉士、精神保健福祉士の法的位置づけ
第7回	ソーシャルワークの倫理
第8回	ソーシャルワークの倫理的ジレンマ
第9回	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲①(行政、教育、司法等)
第10回	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲②(民間事業所、医療、独立型事務所等)
第11回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク
第12回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容
第13回	ソーシャルワークの形成過程1(ソーシャルワークの歴史)
第14回	ソーシャルワークの形成過程2(ソーシャルワークの歴史)
第15回	-
第16回	-

〔成績評価〕

試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(40%)

〔成績評価(備考)〕

授業での態度、貢献度を積極的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとして包括的・総合的な援助をするためにどのようにすれば良いか考えること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々

回の講義で行う。課題レポートについては、授業の最終回までにコメントを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、包括的・総合的な援助を行う基盤を身につけることができる。

〔テキスト〕

ソーシャルワークの基盤と専門職(共通・社会専門)(2021) 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 ISBN 978-4-8058-8241-2

〔参考文献〕

適宜紹介する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目

ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、ソーシャルワークに関しての理念、倫理、多職種連携などについての講義と演習を行う。

ソーシャルワーク論Ⅱ

科目ナンバー	ISW 3203-L
2単位：後期1コマ	2年
浅野 貴博	

〔科目補足情報〕

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。3年次以降の社会福祉関連施設・機関における「ソーシャルワーク実習Ⅱ」や「精神保健福祉実習」の基礎として位置づけられる。

〔到達目標〕

「ソーシャルワーク論Ⅰ」で学んだ、ソーシャルワーカーに必要な知識・技術・価値について、個別援助の方法(ケースワーク)を中心にさらに理解を進める。

※本科目を通し、実習の履修に向けて受け身ではなく、「主体的に」学ぶ姿勢を身に付けることが強く望まれる。

〔履修の条件〕

原則として、「社会福祉入門」「社会福祉の基礎」「社会福祉原論Ⅰ」「同Ⅱ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「同Ⅱ」「ソーシャルワーク論Ⅰ」を履修しているか並行履修していること。

〔講義概要〕

ソーシャルワーク実践を支える基礎理論、ソーシャルワーク実践のプロセス(展開過程)、相談援助をする上での基礎的な面接技術等を主に学ぶ。授業は講義と演習からなり、講義だけでなく、グループでのディスカッションやロールプレイ等のワークを適宜取り入れて進められる。

■授業計画

第1回 オリエンテーション：授業の概要と方針について

- 第2回 ソーシャルワークの形成過程
 第3回 ソーシャルワークの機能と構造
 第4回 人と環境の交互作用
 第5回 相談援助における援助関係
 第6回 小テスト①(予定)
 第7回 相談援助の展開過程①
 第8回 相談援助の展開過程②
 第9回 相談援助の展開過程③
 第10回 ソーシャルワークの基本技法：面接
 第11回 ソーシャルワーク実践の基礎理論①
 第12回 ソーシャルワーク実践の基礎理論②
 第13回 ソーシャルワーク実践の基礎理論③
 第14回 小テスト②(予定)
 第15回 ※定期試験は実施しない
 第16回 ー

【成績評価】

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(60%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(20%)

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

指定された参考文献を読んで授業に参加すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計14回の授業で90時間となる。小テスト(※計2回)に備えて復習を欠かさないようにすること。

【試験・レポート等のフィードバック】

小テスト(※計2回)の実施後に問題の解説を行い、必要な基礎知識の理解を促す。

【ディプロマポリシーとの関連性】

3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。この科目を履修することで、ソーシャルワーカーとして必要な基本的な知識と技術を身に付けることができ、実習を履修する上での備えができる。

【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、各社から出版されている社会福祉士養成講座の『ソーシャルワークの理論と方法』等を参照のこと。

【参考文献】

- ①川村隆彦(2011)『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規
- ②北島英治・副田あけみ・高橋重宏・渡部律子編(2010)『ソーシャルワーク実践の基礎理論(改訂版)』有斐閣
- ③空閑浩人編著(2009)『ソーシャルワーク入門～相談援助の基盤と専門職』ミネルヴァ書房
- ④空閑浩人(2016)『ソーシャルワーク論』ミネルヴァ書房

地域福祉論Ⅰ

科目ナンバー	ICD3201-L
2単位：前期1コマ	2年
市川 一宏	

【到達目標】

「ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。そのために、必要とされる他の人々との協働作業を創り、積極的に参与できるようにすること」を目的とする。そのため、人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等、地域福祉の基本的考え方を理解する。また、地域福祉の主体と対象、地域福祉に関わる組織、団体、及び専門職や地域住民の役割と実際および地域トータルケアシステムの構築方法について理解する。

【履修の条件】

毎回テキスト、過去のレジュメを必ず持参すること。国家試験受験者以外も、「地域福祉論Ⅰ」受講者は、「地域福祉論Ⅱ」とあわせて履修することが望ましい。なお、出席を重視し、4分の3以上の出席を求める。

【講義概要】

毎回の授業は授業計画に沿った詳細なレジュメを資料として配布し講義を行う。事例などを適宜取り入れ理解しやすくする。

■授業計画

- 第1回 総論 地域福祉論を学ぶにあたって
1. 地域社会の概念と理論、2. 地域福祉の視点(福祉コミュニティ論、在宅福祉サービス論、ボランティア・市民活動論・共生社会)
- 第2回 地域福祉の発展過程Ⅰ(1. 戦前の地域福祉の展開、2. 戦後の地域福祉の展開)
- 第3回 地域福祉の発展過程Ⅱ(1. 新しい福祉としての地域福祉：地方分権、社会福祉基礎構造改革、地域自立生活、地域包括ケア、地域共生社会、2. 福祉コミュニティの考え方と地域福祉の主体形成)
- 第4回 地域福祉問題の現状(1. 生活困窮、2. 孤立・ひきこもり、3. 虐待等)
- 第5回 地域福祉の推進主体(概説：地方自治体、NPO、市民活動組織、中間支援組織、町内会、自治会等地縁組織・民生委員、児童委員、主任児童委員、保護司、当事者団体、社会福祉協議会、共同募金、企業)
- 第6回 地域福祉の主体と形成(概説：当事者、代弁者、ボランティア、市民活動、住民自治、住民主体、参加と協働、エンパワメント、アドボカシー、福祉教育)
- 第7回 福祉行政システム(1. 国の役割、2. 都道府県の役割、3. 市町村の役割、4. 国と地方の関係)
- 第8回 地域福祉の主体と福祉教育(1. 福祉教育実践の2つの流れ、2. 福祉教育の概念、3. 福祉教育の推進主体)
- 第9回 地域福祉計画(1. 地域福祉計画の背景、2. 地域福祉計画の内容、3. 課題)
- 第10回 社会福祉協議会(1. 成立背景、2. 機能、3. 課題)
- 第11回 社会福祉法人(1. 成立背景、2. 役割、3. 現状と課題)
- 第12回 NPO、ボランティア活動(1. 基本的理念、2. 今日の

- における意味、3. これからのあり方)
- 第13回 民生委員児童委員、保護司(1. 成立背景、2. 役割、3. 現状と課題)
- 第14回 地域福祉と包括的支援体制の課題と展望(1 地域福祉ガバナンス①ガバナンスの考え方、②多様化・複雑化した課題と多機関協働の必要性、③社会福祉法における包括的な支援体制づくり、④住民の参加と協働、住民自治、⑤プラットフォームの形成と運営、2. 地域共生社会の構築①地域共生社会、②地域力の強化、包括的支援体制)
- 第15回 試験
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(70%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

- ・期末試験の評価を中心に成績70%
- ・その他、毎回の授業で提出するフィードバックに対する評価30%

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

前期試験に関しては、後期授業の開始時にコメントを行う。課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメントを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

本講義は、以下のポリシーに該当する。

1. 総合的・実践的な学習能力「ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。そのために、必要とされる他の人々との協働作業を創り、積極的に参与できるようになること、さらに、それを生涯にわたって伸ばしていける学習能力を身につけること。」2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性「心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるようになること、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるようになること」そして、それを生涯にわたって伸ばしていける学習能力を身につけることを目指します。

〔テキスト〕

社会福祉士養成講座「地域福祉と包括的支援体制」中央法規

〔参考文献〕

授業の中で紹介する

地域福祉論 II

科目ナンバー	ICD 3202-L
2単位：後期1コマ	3年
市川 一宏	

〔到達目標〕

「コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること」を目的とする。多職種・多機関との連携を含む、地域福祉におけるネットワークの意義と方法、及びその実際について理解する。ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域福祉計画と地域福祉活動計画、サービスの評価方法を含む地域福祉の推進方法について理解する。地域での生活を支える地域福祉サービス、災害と地域福祉、地域福祉の財源について理解する。

〔履修の条件〕

毎回テキスト、過去のレジュメを必ず持参すること。「地域福祉論 I」とあわせて履修すること。なお、出席を重視し、4分の3以上の出席を求める。

〔講義概要〕

毎回の授業は授業計画に沿った詳細なレジュメのパワーポイントを資料印刷し配布し講義を行う。事例などを適宜取り入れ理解しやすくする。

■授業計画

- 第1回 地域における福祉ニーズの把握方法と実際(1. 地域診断の考え方、2. 広義の地域診断の進め方、3. 狭義の地区診断、4. 統計調査によるニーズ把握の方法、5. 質的なニーズの把握方法)
- 第2回 地域福祉の方法論(1. コミュニティワーク、コミュニティオーガニゼーション、コミュニティソーシャルワークの定義と実践、2. 専門職種のチームアプローチ、3. 専門職と住民の関係)
- 第3回 住民の参加と方法(1. 住民参加の諸形態と役割、2. 市町村社会福祉行政における住民参加、3. 求められる参加のレベル、4. 参加の具体的な形態)
- 第4回 ソーシャルサポートネットワーク(1. ソーシャルサポートネットワーク、2. エコロジカルアプローチ、3. ライフモデルにおけるソーシャルワーク実践の考え方、4. 6つの機能)
- 第5回 地域における社会資源の活用・調整・開発(1. 社会資源と地域ネットワーク、2. 在宅生活を支援する仕組みの検討、3. 具体的検討課題：①インフォーマルな分野とフォーマルな分野の連携、②個別ネットワーク)
- 第6回 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制(1)地域包括ケアシステム(1. 地域包括ケアシステムの考え方、2. 地域包括ケアシステムの展開、3. 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの展開、4. 子育て世代包括支援センター)
- 第7回 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制(2)生活困窮者自立支援の考え方(1. 生活困窮者自立支

- 援制度と理念、2. 自立相談支援機関による支援過程と方
法、実際、3. 伴走型の支援と対象者横断的な包括的
相談支援、4. 個人および世帯の支援、5. 居住支援、
就労支援、家計支援、子どもの学習・生活支援)
- 第8回 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制(3)各
種施策1. 多機関協働による包括的支援体制、2. 住民
に身近な圏域における相談支援体制、3. 総合相談、
各種相談機関の連携、協議体、地域ケア会議、地域
包括支援センター運営協議会、要保護児童対策地域
協議会)
- 第9回 地域福祉の推進方法(1)日常生活自立支援事業(1.
背景、2. 現状、3. 課題)
- 第10回 地域福祉の推進方法(2)地域での生活を支える生活
支援サービス(1. 住民参加型在宅福祉サービス、2.
食事サービス、3. 見守り支援活動→小地域ネットワ
ーク、ふれあいいきいきサロン、4. 地域福祉型福祉サー
ビス)
- 第11回 地域福祉の推進方法(3)福祉サービスの評価と質の確
保(1. 福祉サービスの評価を必要とする背景、2. 評価
の考え方、3. 評価の方法)
- 第12回 地域福祉の推進方法(4)ボランティアコーディネーション
(1. 役割、2. 現状、3. 課題)
- 第13回 地域共生の実現に向けた多機関協働の仕組み(1. 保
健・医療・福祉に関わる多職種連携、2. 生活支援全
般に関わるネットワーク、3. 多職種連携等における個人
情報保護)
- 第14回 災害と地域福祉(1. 災害対策基本法、災害救助法、
2. 各自治体等の避難計画、
3. 災害時要援護者支援、4.BCP(事業継続計画)、5.
福祉避難所運営)
- 第15回 試験
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(70%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、そ
他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

- ・期末試験の評価を中心に成績70%
- ・その他、毎回の授業で提出するフィードバックに対する評価
30%

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要と
する。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメ
ントを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

本講義は、以下のポリシーに該当する。

1. 総合的・実践的な学習能力「ものごとの本質を把握し、問題
点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるよ
うになること。そのために、必要とされる他の人々との協働作業を

創り、積極的に参与できるようになること、さらに、それを生涯にわ
たって伸ばしていける学習能力を身につけること。』2. 全人的な
ヒューマン・ケアに必要な高度な専門性「心と福祉と魂の高度な
専門職に必要とされる価値また、そのような人生を送ることを可
能にする社会の形成に貢献できるようになること、また、そのような
人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるようになる
こと」そして、それを生涯にわたって伸ばしていける学習能力を
身につけることを目指します。

〔テキスト〕

社会福祉士養成講座「地域福祉と包括的支援体制」中央法規

〔参考文献〕

授業の中で紹介する

社会保障論Ⅰ	
科目ナンバー	ICD3203-L
2単位：前期1コマ	2年
金子 和夫	

〔到達目標〕

社会保障制度の全体像を説明でき、かつ、少子高齢社会の進
展と社会保障制度の改正を関連づけることができる。また、社会
福祉士国家試験、公務員採用試験などに寄与できるとともに、日
常生活にも学んだ知識が活用できる。

〔履修の条件〕

本科目は、社会福祉士国家試験の指定科目であり、受験資格
を希望する者は、「社会保障論Ⅱ」とあわせて必ず履修するこ
と。受験資格を希望しない者もそうしてほしい。

〔講義概要〕

社会保障の歴史を中心に、理念・範囲・機能について概観し、次
に、社会保障給付費を中心に社会保障の財政について、また、
社会保障の各制度の概要などについても説明するとともに、今
日の社会保障制度に大きな影響を与える少子高齢社会の状況
を明らかにする。その後、社会保障の各論としての労災保険制
度、雇用保険制度、生活保護制度などについて、また、民間保険
の概要などについて指摘する。

■授業計画

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス(社会保障の全体像) |
| 第2回 | 社会保障の展開(外国での発展過程) |
| 第3回 | 社会保障の展開(日本での発展過程) |
| 第4回 | 社会保障の理念・範囲・体系 |
| 第5回 | 社会保障の財源と費用 |
| 第6回 | 少子高齢社会の動向 |
| 第7回 | 少子高齢社会と労働環境 |
| 第8回 | 社会保険以外の制度(社会手当制度・生活保護制
度) |
| 第9回 | 労災保険制度(概要) |
| 第10回 | 労災保険制度(保険給付) |
| 第11回 | 労災保険制度(課題) |
| 第12回 | 雇用保険制度(概要) |

第13回 雇用保険制度(保険給付)

第14回 雇用保険制度(課題)

第15回 試験

第16回 -

〔成績評価〕

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

少子高齢社会や人口減少社会、社会保障財政、労災保険や雇用保険、生活保護や社会手当などについては、新聞記事やTVニュースなどで数多く見受けられるので常に関心を持って事前に調べる。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを次の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性に該当する。人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できる、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるために、心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を得る。

〔テキスト〕

テキストは使用せず、毎回講義資料を配布する。

〔参考文献〕

『社会保障』＜新社会福祉士養成講座＞(中央法規)

『社会保障』＜新社会福祉学習双書＞(全国社会福祉協議会)

『保険と年金の動向』(厚生統計協会)

『厚生労働白書』(日経印刷)

『社会保障入門』(中央法規)

『はじめての社会保障』(有斐閣)

上記以外にも文献は多数あるので、自分で使いやすい文献を利用すること。制度改正が頻繁に行われるので、最新版を利用すること。

〔備考〕

授業中の質問に答えられるよう、復習と予習をしっかり行ってください。

児童福祉の諸問題

科目ナンバー

ICF3201-L

2単位：前期1コマ

2年

加藤 純

〔到達目標〕

- 1)「各自が関心を持つ専門領域」と「子どもや家族の生活課題」との関連を理解して、児童福祉への関心を高める。
- 2)子どもの幸せに関わる課題を家族の状況と関連付けて理解する。
- 3)子どもや家族の生活課題を、さらに広く、社会の状況と関連付けて理解する。

〔履修の条件〕

参考図書を読んだりレポートを書いたり、授業外の時間をかなり必要とするので、十分な意欲を持って履修してください。

〔講義概要〕

支援が必要な「諸問題」を理解する視点を学ぶ科目です。

「問題」に対する制度政策的な対策は「児童福祉論」、実践的支援方法は「プレイセラピーの理論と実際」「子どものグリーフワーク」「福祉心理学」などで学びます。

社会福祉士や精神保健福祉士の受験資格取得に必要な指定科目ではありませんが、児童福祉論(社会福祉士の指定科目)を理解するために重要な内容を学びます。

■授業計画

- 第1回 「児童福祉」とは何か。
オリエンテーション(授業の目標、授業の進め方と内容、カリキュラム上の位置づけ、課題と成績評価)
- 第2回 児童福祉の目的(子どもの幸せ、ニーズ階層説)
役割理論(養育者の役割)と役割遂行に必要な資源(養育条件と養育環境)
- 第3回 ニーズの連続性(普通の育児～育児不安～児童虐待などを例に)
援助の連続性(子育て支援～補完～保護～家庭代替)
- 第4回 家族構成の変化とニーズ(親の離婚と子どもの心理的課題)
- 第5回 養育条件の変化(ひとり親家庭の生活課題)
- 第6回 家族の多様性と児童福祉1(里親・養子縁組)
- 第7回 家族の多様性と児童福祉2(里親・養子縁組)
- 第8回 社会状況の変化とニーズ(養護ニーズ発生理由の変遷)
- 第9回 家族内の課題と児童福祉1(アルコール依存症と家族)
- 第10回 家族内の課題と児童福祉2(家族内暴力のメカニズム)
- 第11回 家族内の課題と児童福祉3(家族内暴力への社会的な対応)
- 第12回 学校での課題と児童福祉1(いじめの理解と法律)
- 第13回 学校での課題と児童福祉2(不登校：医学・心理・社会福祉の視点から)
- 第14回 社会状況の変化と福祉理念(子どもの権利思想の展開)

第15回 期末試験
第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(20%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

「その他の評価方法」は期末の自己評価などです。すべての授業に出席することを前提として、欠席は3点、遅刻は1点の減点とします。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

授業時間内に必要な内容の全てを紹介できないので、参考文献の関連箇所を読んでください。

新聞やニュース、テレビドラマ、映画などを観ながら、子どもの気持ちや子どもの幸せについて考えてみてください。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

小テストと期末試験はオンラインで実施、採点します。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することにより、対人援助職としての全人的な視点から課題を理解する能力を身に付けることができる。

〔テキスト〕

- 1.ポータルを通して授業資料を提供します。
- 2.グーグルフォームにより資料と課題を提示します。

〔参考文献〕

白澤政和、岡田喜篤、高橋重宏他編(2003)『社会福祉士のための基礎知識 II』第3章と第4章
ウィンチェスター(2015訳)『だいじょうぶ！親の離婚』日本評論社
春日キスヨ(1989)『父子家庭を生きる』勁草書房
庄司洋子他(2002)『家族・児童福祉(改訂)』有斐閣
北川清一(2005)『児童福祉施設と実践方法[三訂]』中央法規
小松江里子(1996)『若葉のころ』講談社
小林桜児(2016)『人を信じられない病』日本評論社
正高信男(1998)『いじめを許す心理』岩波書店

〔備考〕

実務経験のある教員による科目。児童養護施設での児童指導員および教育相談室での教育相談員としての経験を活かして、子どもや家族の生活課題や学校問題について指導します。

発達心理学

科目ナンバー	ICF 3203-L
2単位：後期1コマ	2年
石川 与志也	

〔到達目標〕

- (1)発達心理学の基本概念を理解する
- (2)日常生活や臨床現場における現象を発達心理学の視点から理解する基礎を身につける

〔履修の条件〕

与えられることを待つだけでなく、自らの好奇心と探究心を持って心の発達について理解しようとする熱意のある学生の履修を期待する。「心理学」「心理学概論」を履修していることが望ましい。

〔講義概要〕

生涯発達の観点から発達心理学の基本概念や理論について学ぶ。

社会構造が大きく変化し、人間の発達に関わる現象も変化を呈してきている現代において、臨床現場や生活場面における発達に関わる現象をどのように理解することができるのか、ディスカッションをしながら学びを深める。

本講義は、以下の内容を含む。

- ①認知機能の発達及び感情・社会性の発達
- ②自己と他者の関係の在り方と心理的発達
- ③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達
- ④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方
- ⑤高齢者の心理

■授業計画

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション：発達心理学とは何か |
| 第2回 | 乳児期①：世界を知りはじめる |
| 第3回 | 乳児期②：人との関係のはじまり |
| 第4回 | 幼児期①：イメージと言葉の世界 |
| 第5回 | 幼児期②：自己の発達と他者との関係 |
| 第6回 | 児童期①：思考の深まり |
| 第7回 | 児童期②：社会性の発達 |
| 第8回 | 青年期①：自分らしさへの気づき |
| 第9回 | 青年期②：他者との関係とアイデンティティの発達 |
| 第10回 | 成人期：社会におけるアイデンティティの成熟と親密性の獲得 |
| 第11回 | 老年期：老いと円熟 |
| 第12回 | 教育と発達 |
| 第13回 | 発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方① |
| 第14回 | 発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方② |
| 第15回 | 試験 |
| 第16回 | - |

〔成績評価〕

試験(50%)、レポート(0%)、小テスト(40%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(10%)

〔成績評価(備考)〕

ディスカッションへの参加を評価する

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

参考文献をはじめ自分で関連の文献を探し、読み進めること。
発達心理学に関連する基本的事項の理解ならびに自分が関心を持ったテーマを、クラスの講義やディスカッション、文献等を読みながら、自分なりに深めること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

- ・リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。
- ・中間試験の解答・解説は、原則としてテストが実施された翌週に行う。
- ・期末試験のフィードバックを希望するものは、個別で担当教員にコンタクトを取ること。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

主に、「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」および「3.総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を修得することで、発達心理学に関する基本的知識および、現代の日本社会における人間の発達を理解する能力の基礎が身に付く。

〔テキスト〕

特に指定しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。

〔参考文献〕

- E.H.エリクソン〔仁科弥生訳〕(1950/1977) 幼児期と社会1 みすず書房。
E.H.エリクソン&J.M.エリクソン〔1997/2001〕ライフサイクル,その完結 増補版 みすず書房。
藤村宣之(2019) 発達心理学〔第2版〕ミネルヴァ書房。
杉山登志郎(2007) 発達障害の子どもたち 講談社現代新書。
千住淳(2014) 自閉症スペクトラムとは何か：ひとの「関わり」の謎に挑む ちくま新書。
滝川一廣(2017) 子どものための精神医学. 医学書院。
その他、適宜クラス内で紹介する。

〔備考〕

「実務経験のある教員による科目」臨床心理学の専門家としての実務経験を生かして、発達心理学に関わる具体的内容に関する教育を行う。

カウンセリング実技の基本

科目ナンバー	ICP 3202-L
2単位：前期1コマ	2年
植松 晃子	

〔到達目標〕

人が人を援助する際に重要なことは何か、知識を整理し、頭と身体を動かしながら、体験的に対人援助の基本としてカウンセリング実技に必要な基礎を学びます。

〔履修の条件〕

2年生以上が履修可能です。授業内で小グループを作り、役を演じることで学ぶロールプレイなどのワークショップを取り入れています。初回に授業の概要や体験授業のルールなどを説明します。体験型の授業ですので、授業のルールを守りながら、ロールプレイ、グループディスカッションから学ぶことができる人、基本的に全ての授業に出席し、積極的な参加ができる人を求めます。
※体験型授業は安全に進めるためのルールがありますので、教員から提示された場合は順守してください。

〔講義概要〕

カウンセリングでの援助について、具体的な体験の中で理解しながら、専門家がどのように人と関わっていくのかを理解します。前半は討論を交えた知識の整理を中心とし、後半はロールプレイを用いた体験学習を中心に授業を構成しています。基本的に授業計画に沿って進みますが、適宜変更することもあります。感染症対策のため、体験型授業の頻度や時間が限られる場合があります。基本的にシラバス通りに進みますが、適宜変更することがあります。

■授業計画

- | | |
|------|---------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション：授業の説明・ルールの説明 |
| 第2回 | カウンセリングとはどのような援助なのか(1)心の構造と機能 |
| 第3回 | カウンセリングとはどのような援助なのか(2)欲動 |
| 第4回 | カウンセリングとはどのような援助なのか(3)神経症のメカニズム |
| 第5回 | カウンセリングを成り立たせるもの(1)治療的環境 |
| 第6回 | カウンセリングを成り立たせるもの(2)臨床的態度1 |
| 第7回 | カウンセリングを成り立たせるもの(3)臨床的態度2 |
| 第8回 | カウンセリングを成り立たせるもの(4)臨床的態度3 |
| 第9回 | カウンセリングの技術(1)心理療法の環境をつくる1 |
| 第10回 | カウンセリングの技術(2)心理療法の環境をつくる2 |
| 第11回 | カウンセリングの技術(3)主訴を聴くとは1 |
| 第12回 | カウンセリングの技術(4)主訴を聴くとは2 |
| 第13回 | カウンセリングの技術(5)主訴を聴くとは3 |
| 第14回 | カウンセリングの技術：まとめのロールプレイ |
| 第15回 | - |
| 第16回 | - |

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(80%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

授業体験をまとめるワークシートによって評価する。体験学習を重視した授業であり、欠席は減点になるので注意してください。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

カウンセリングについての理解を深めるために、各自ノートやワークシート、また参考文献による予習と復習を薦めます。ワークシートには授業で掴んだこと、また次の授業で取り組みたいことを記入します。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

毎回の授業で、各自が作成したワークシートをもとに、質問やフィードバックをする時間を設ける。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。カウンセリングに関する知識や臨床の態度とは何かを学ぶことにより、カウンセリングの基礎を学ぶ。

〔参考文献〕

適宜、授業内で紹介する。

心理学研究法Ⅰ（データ解析）

科目ナンバー	ICP 3203-L
2単位：前期1コマ	2年
松田 崇志	

〔科目補足情報〕

公認心理師の資格試験の受験資格を得るためには、心理学研究法Ⅰ（データ解析）と心理学研究法Ⅱ（観察法・面接法・実験法）の両方を履修する必要があります。

〔到達目標〕

- ①統計の基礎を復習する
- ②エクセルを用いて、データ入力・図表の作成・関数が使用できる
- ③統計解析ソフトウェア（SPSS など）を用いて、代表的な統計的検定を行い、その解釈ができる

〔履修の条件〕

心理学統計法を履修済みであることが望ましい。
また、ワードやエクセルで文書を作成できることが望ましい。そのため、パソコンに不慣れなものはパソコンの授業を履修しておくことが望ましい。
2年後期の心理学実験で必要となるデータ処理技法を実習するものであるため、2年前期で履修すること。

〔講義概要〕

記述統計や推測統計の理解を基礎にして、エクセルでのデータ整理や要約、および統計解析ソフトウェア（SPSS など）を用いてデータ分析を行い、データを用いた実証的な思考方法の獲得を目指す。
第1回の授業で、第2回以降のクラス分け（月曜日4限または火曜日4限に分ける）を行うので、履修を希望する人は月曜日4限に必ず出席すること。
受講生の理解に応じて、シラバスの内容は若干変動する可能性がある。

■授業計画

- | | |
|-----|--------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーションとデータ解析の意義 |
| 第2回 | データの要約①：代表値と散布度 |
| 第3回 | データの要約②：Excelを用いた表と図の作成
課題① |
| 第4回 | 相関係数と回帰分析の理解 |

- | | |
|------|--|
| 第5回 | 統計解析ソフトウェアを用いた相関係数と回帰分析の実習 |
| 第6回 | 統計的仮説検定の基礎 |
| 第7回 | t 検定の理解 |
| 第8回 | 統計解析ソフトウェアを用いた t 検定の実習
課題② |
| 第9回 | カイ二乗検定の解説と実習 |
| 第10回 | 要因計画と分散分析の理解 |
| 第11回 | 統計解析ソフトウェアを用いた1要因分散分析（対応なし・対応あり）の実習
課題③ |
| 第12回 | 統計解析ソフトウェアを用いた2要因分散分析（対応なし×なし）の実習 |
| 第13回 | 統計解析ソフトウェアを用いた2要因分散分析（対応あり×あり）の実習
課題④ |
| 第14回 | 統計解析ソフトウェアを用いた2要因分散分析（混合要因計画）の実習 |
| 第15回 | 試験 |
| 第16回 | － |

〔成績評価〕

試験（60％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（40％）、その他の評価方法（0％）

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。前回までの授業を理解したものとして進行していくので復習は必ずしてほしい。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。
提出された課題は随時返却するので、必ずどこを間違えたか、内容を確認すること。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになることを目指し、自らデータを分析し、その分析結果について考える作業を行っていく。

〔テキスト〕

特になし

〔参考文献〕

- ①小塩真司『SPSSとAMOSによる心理・調査データ解析』東京書籍
- ②山内光哉『心理・教育のための統計法』サイエンス社

〔備考〕

遅刻、途中退出、居眠りは厳禁。
授業内容については、毎回積み重ねの学習となる。理解できなかったところがあったら、そのままにせず、教員か TA に申し出るようにすること。
必要に応じてパソコン室で自主学習を行うことを推奨する。

心理的アセスメント

科目ナンバー	ICP3204-L
2単位：前期1コマ	2～4年
田副 真美	

〔科目補足情報〕

公認心理師指定科目である

〔到達目標〕

1. 心理的アセスメントの目的及び倫理の理解
2. 心理検査の背景にある理論、配慮項目の理解
3. 検査者および被検査者の体験
4. 自己理解を深める
5. 心理検査結果におけるアセスメントについての理解

〔履修の条件〕

1. 検査の十分な知識を身につけるために、継続して出席が可能なこと
2. 心理検査の実施における倫理上の問題を十分に理解できること
3. 検査所見などのすべてのレポート提出が可能なこと

〔講義概要〕

この講義では心理的アセスメントの目的及び倫理および心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を学ぶ。心理検査では、医療や教育現場および研究で使用されている質問紙法、作業検査法、知能検査を取り上げる。

■授業計画

第1回	オリエンテーション 授業のねらい、授業の進め方、授業に使用するテキスト等の紹介
第2回	心理的アセスメントの目的及び倫理
第3回	心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）
第4回	心理検査の目的と留意点 心理検査の概要
第5回	様々な領域における心理的アセスメント
第6回	パーソナリティの検査① 体験と解説
第7回	パーソナリティの検査② 体験と解説
第8回	状態や症状の検査① 体験と解説
第9回	状態や症状の検査② 体験と解説
第10回	内田クレペリン精神検査の体験と解説
第11回	知能検査総論 WISC-IV：解説、結果のまとめ方
第12回	WISC-IV・WAIS-III：DVD 視聴
第13回	田中ビネー知能検査V：解説、DVD 視聴
第14回	事例およびまとめ
第15回	期末レポートの提出
第16回	－

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(10%)

〔成績評価(備考)〕

授業参加態度、小レポート、レポート試験により評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

連続する複数回の授業では、必ず前回の資料や検査に目を通し、講義に臨むこと。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、「3. 総合的・実践的な学習能力」、「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。公認心理師や臨床心理学の専門家としての実践的な知識と技術を身に付けることができる。

〔テキスト〕

必要な資料を適宜配布する。

〔参考文献〕

沼 初枝「臨床心理アセスメントの基礎」ナカニシヤ出版 2,100円
願興寺礼子、住吉隆弘(編)「心理検査の実際の初歩」ナカニシヤ出版 2,600円

〔備考〕

「実務経験のある教員による科目」公認心理師および臨床心理士として、特に医療領域等における心理臨床経験を活かして心理的アセスメントの指導を行う。

心理学実験

科目ナンバー	ICP3205-S
2単位：後期2コマ	2年
松田 崇志	

〔到達目標〕

- ①客観的に計測できる「行動」を指標として、人間の心の働きを科学的に捉える方法を理解する。
- ②心理学の代表的な実験を実施・体験することにより、実験の計画立案ができるようになる。
- ③小グループおよびペアで、実験データの実施・収集、統計的検定によるデータ処理、結果の適切な解釈および実験レポートの作成という過程を経験することによって、科学論文を作成する技能を身につける。

〔履修の条件〕

- ①「心理学研究法Ⅰ(データ解析)」「心理学統計法」「臨床心理フレッシュマンゼミ」を履修済みであることが望ましい。
- ②グループ編成を行うため、必ず初回から受講すること。また、全ての授業への出席、積極的な授業参加を求める。やむを得ない

事情がある場合は、担当教員に相談すること。

〔講義概要〕

本授業では、代表的な心理学実験をいくつか取り上げて、小グループ、またはペアで実際に実験を行い、データを集計し、統計ソフトでデータ解析を経て、結果を読み取る力を身に付ける。そしてレポート作成するまでの流れを体験的に学ぶ。

なお、本授業は毎週2コマ連続で開講しており、授業計画は2コマで1回分としている。

■授業計画

第1回	オリエンテーション、レポートの書き方、講義の進め方・参考文献の紹介
第2回	ミュラー・リヤー錯視：実験の手続き説明、実験、データ集計
第3回	ミュラー・リヤー錯視：実験結果の分析、解説
第4回	記憶の系列位置効果：実験の手続き説明、実験、データ集計
第5回	記憶の系列位置効果：実験結果の分析、解説
第6回	触2点閾の測定：実験の手続き説明、実験、データ集計
第7回	触2点閾の測定：実験結果の分析、解説
第8回	心的回転：実験の手続き説明、実験、データ集計
第9回	心的回転：実験結果の分析、解説
第10回	ストループ効果：実験の手続き説明、実験、データ集計
第11回	ストループ効果：実験結果の分析、解説
第12回	鏡映描写：実験の手続き説明、実験、データ集計
第13回	鏡映描写：実験結果の分析、解説
第14回	授業の振り返り
第15回	最終レポート
第16回	－
第17回	－
第18回	－
第19回	－
第20回	－
第21回	－
第22回	－
第23回	－
第24回	－
第25回	－
第26回	－
第27回	－
第28回	－
第29回	－
第30回	－
第31回	－
第32回	－

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(100%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

各実習のレポート提出によって評価を行う。また、提出された各実習のレポートは教員が添削して返却するので、添削された点

を修正したレポートを最終レポートとして提出してもらい、評価の対象とする。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

心理学統計法・データ解析の知識、心理学分野におけるレポートの書き方の知識が必須となるため、必ず復習しておくこと。また各実験実施後には、次週までにデータ入力課題となる場合がある。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。また、レポートのフィードバックに関しては、授業内で適宜コメントしたり、添削したレポートを返却する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目習得することで、論理的・客観的な視点でものごとをとらえることができるようになる。

〔テキスト〕

特に定めない。授業内で必要に応じてテキストを配布する。

〔参考文献〕

- ①B.フインドレイ著「心理学実験・研究レポートの書き方 学生のための初歩から卒論まで」北大路書房 1996年(本体価格：1,300円+税)
- ②西口利文・松浦均編「心理学実験法・レポートの書き方」ナカニシヤ出版 2008年(本体価格：2,200円+税)
- ③日本心理学会認定心理士資格認定委員会(編集)「認定心理士資格準拠実験・実習で学ぶ心理学の基礎」金子書房 2015年(本体価格：2,500円+税)
- ④小河妙子・斉藤由里・大澤香織「心理学実験を学ぼう！」金剛出版 2010年(本体価格：2,200円+税)
- ⑤宮原英種・宮原和子監修「心理学実験を愉しむ」ナカニシヤ出版 2003年(本体価格：2,400円+税)

〔備考〕

- ①詳細はオリエンテーションで伝えるが、授業内で実験の実施・データ収集を行う関係上、遅刻・欠席は厳禁である。
- ②全ての課題に対してレポートを提出しないと単位は認められない。
- ③受講者数などによって、実験種目を変更する場合がある。

いのち学序説

科目ナンバー	ICP3101-L	
2単位：後期1コマ	1～2年	
宮本 新		

〔到達目標〕

「いのち」をめぐるこんにちの諸問題に目を向け理解する。特にキリスト教的人間理解の視座に立ち、人間存在を継続して思索するための基礎的知識と方法を獲得することを目標とする。

〔履修の条件〕

「いのち」に関する諸問題に関心を持ち、クラスでのディスカッションならびにグループワークに積極的に取り組む者。

〔講義概要〕

現代社会における「いのち」をめぐる諸問題を踏まえ、キリスト教の視座に学び考える授業。毎回の授業では、主体的に考え、「いのち」について自らの考えを他者に伝えたり、また他の意見に耳を傾ける学習を通して、より深い学びを求めることになる。

■授業計画

- 第1回 序論 いのち学の主題とアプローチ
- 第2回 いのち学の現在：なぜ“いのち”なのか？
- 第3回 いのちの多元性とキリスト教
- 第4回 いのちと生命倫理①
- 第5回 いのちと生命倫理②
- 第6回 いのちと生命倫理③
- 第7回 いのちと終わり①～死生学入門
- 第8回 いのちと終わり②～死生学入門
- 第9回 いのちと共生～自然編
- 第10回 いのちと寄り添い
- 第11回 いのちと福祉①
- 第12回 いのちと福祉②
- 第13回 いのちと心理
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(60%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(40%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では毎授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習)を要する。主に授業等で紹介された参考文献にあたり、授業ごとの主題について自分の意見をまとめられるよう学習する。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

講義に加えて、クラス内のディスカッションや授業毎のリフレクションペーパーを積み重ね、より深い理解に到達することを目指します。学期末はそれぞれの学びの理解をはかる機会となる。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」と「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」を養うことに関わる。キリスト教の人間理解を広く学ぶこと、また個別研究をクラス履修者と共同で行う。

〔テキスト〕

テキストは特にない。適宜、聖書を用いる。

〔参考文献〕

参考書は、その都度クラスで紹介する。

人間の尊厳と人権

科目ナンバー

ICP 3206-L

2単位：後期1コマ

2～4年

渡邊 さゆり

〔到達目標〕

日本においても人権を脅かされ続けている人々がいることを意識化し、いくつかの人権課題についてその経緯と現状を自分の言葉で話すことができる。キリスト教信仰実践における人権の取り組みや、市民運動について説明できる。「ミクロ」と「マクロ」の両視点から人権をとらえ直し、隣人性と高い人権意識を持つための基礎知識を得る。

〔履修の条件〕

「キリスト教概論」または「聖書入門」を履修済みであること。講義ではディスカッション、プレゼンテーションを取り入れる。特に、レスポンスシートを書くことで自己省察を行うため、積極的な講義参与を必要とする。

〔講義概要〕

21世紀に生かされる私たちにとって「人間の尊厳/人権」が危機にあるという現実を、具体的な例を取り上げ紹介する。特に、日本における外国人の人権が蹂躪されていること、ジェンダーに関する取り組みに焦点を当てる。「人種主義」についての基本的な用語や考え方を学び合い、これまで自分にも染み付いているはずの差別意識を認知することから始める。人権課題の各論の観察にとどまらず、人権保障の取り組みを知り、その従事者の動機を探り人権意識を高めてゆく共同作業を行いたいと思う。人種差別、ジェンダーとセクシュアリティを特に取り上げる予定である。

■授業計画

- 第1回 授業の基調と進め方の説明/人権について考えるために～基本用語の解説と分かち合い～
- 第2回 レイズムとは何か～人種主義の神話とパラダイム転換について～ BLM、そしてコロナ・パンデミックにおけるヘイトクライム
- 第3回 インターネット使用による差別の再生産～日本にもある身分制度と差別
- 第4回 アイス、琉球の歴史と現状～多民族共生、文化多様性の取り組みとカラクリ
- 第5回 在日コリアンの歴史、人権回復の取り組みと課題
- 第6回 在日外国人差別～難民認定率1パーセントに満たない日本の現状～
- 第7回 日本に住むミャンマーにルーツを持つ人々と軍事クーデター/軍事政権下で人権は守られるのか？
- 第8回 ジェノサイド、ヘイトクライムの歴史と現代
- 第9回 ジェンダーとセクシュアリティ① ～概説：女性差別について～
- 第10回 ジェンダーとセクシュアリティ② ～フェミニズムとは何か～
- 第11回 ジェンダーとセクシュアリティ③～セクシュアルマイノリティはなぜ差別されるのか～
- 第12回 ジェンダーとセクシュアリティ④～性差別とキリスト教の信仰理解～

- 第13回 インターセクショナリティについて
 第14回 マイクロアグレッションとホワイトフラジリティ
 第15回 レポート
 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(40%)、小テスト(0%)、課題提出(60%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

課題提出とは、毎回のレスポンスシート提出のことである。欠席するとこの課題提出が不可となるので注意すること。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

予習として、次回テーマに関する基本的情報開示が前講義内で行われるので、資料に必ず目を通して講義出席をする。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

毎回の講義で前回のレスポンスシートへの再応答を行う。発表、ワークショップへの助言、評価は口頭で講義内で行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。本科目を履修することにより、高い人権意識を身に着け、隣人性を養うことが可能となる。

〔テキスト〕

講義内で資料を配布する

〔参考文献〕

グリュン A. 村椿嘉信『従順という心の病—わたしたちはすでに従順になっている』ヨベル2016年
 ヒューマンライツ・ナウ『人権で世界を変える30の方法』合同出版 2009年
 他、講義内で提示する

〔備考〕

受講者は必ず筆記用具、または自身の状況に応じてそれに代わるものを持参すること。

からの検証が必要である。いわゆる保守的な「聖書主義」「伝統主義」の立場には固執せず、自由な議論を許容する姿勢が求められる。

〔講義概要〕

本科目においては、特に生命倫理(バイオエシックス)のケーススタディをととして、「愛すること」における生命操作の是非について考えてみたい。

取り扱うトピックは、「安楽死・尊厳死」「人工妊娠中絶」「優生思想」「生殖補助医療」等。

本科目は講義とディスカッション形式により進められる。

■授業計画

- 第1回 生命倫理(バイオエシックス)の歴史
 第2回 尊厳死・安楽死1.「カレン・クインランの事例」
 映画「海を渡る夢」(DVD)
 第3回 尊厳死・安楽死2.
 「ナンシー・クルーザンの事例」「ヘルガ・ワングリーの事例」
 第4回 尊厳死・安楽死3.「エリザベス・ボーピアの事例」
 第5回 尊厳死・安楽死4.「ラリー・マカフィーの事例」
 映画「ハッピーエンドの選び方」(DVD)
 第6回 「障がい」を持って生きるということ
 「障害学」検証
 第7回 ジョーゼフ・フレッチャーの「状況倫理」
 第8回 医師による死の補助
 「ジャック・キボーキアン医師の事例」「ティモシー・クイル医師の事例」
 第9回 優生思想・人工妊娠中絶1.「ケネス・エデリン医師の事例」
 第10回 優生思想・人工妊娠中絶2.「ベビー・ジェーン・ドウ事例」
 第11回 優生思想・人工妊娠中絶3.「プロライフ vs. プロチョイス」
 映画「スリー・ウイメン」(DVD)
 第12回 新型出生前診断と染色体異常胎児の中絶
 第13回 着床前スクリーニング(PGS)と卵子核移植
 第14回 ヒトゲノム編集とデザイナーベビー
 報道検証
 「生命倫理における、国内外の最新トピック」
 第15回 —
 第16回 —

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(80%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

各講義ごとに求められるリアクションペーパーの完成度(80%)と、小レポート(20%)の完成度。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

講義はさまざまな事例を通して、生命倫理のトピックを各自が考えることに主眼が置かれる。したがって、講義の後に自分でその内容を振り返り、問題点を整理しておくこと。本科目では各授業回におよそ4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

キリスト教と生命倫理

科目ナンバー	ICP 3207-L
2単位：前期1コマ	2～4年
田島 靖則	

〔到達目標〕

「愛」をその根本原理に据えるキリスト教倫理の視点を学ぶことにより、単なる「社会規範」としての倫理ではない、それぞれの人間の生き方そのものとしての決断を模索したいと考える。

〔履修の条件〕

キリスト教倫理の視点には、保守的立場とリベラルな立場の両面

〔試験・レポート等のフィードバック〕

開講期中に提出されたリアクションペーパーに記される質問や意見は、講義中で取り上げてディスカッションのテーマとする。リアクションペーパーと小レポートの評価は、求められる都度各個人に情報開示する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」について、いわゆる「生命主義」から自由な立場の「隣人愛」を模索することにより、その土台となる思想形成に寄与する。

〔テキスト〕

テキスト購入は不要

〔参考文献〕

グレゴリー・E・ペンス『医療倫理<1>』みすず書房 2000年
グレゴリー・E・ペンス『医療倫理<2>』みすず書房 2001年

人間・いのち・世界Ⅰ	
科目ナンバー	ICP3301-L
2単位：前期1コマ	3～4年
石居 基夫	

〔到達目標〕

人間とは何か、生きるとはどういうことか。私たちの生を深く掘り下げる視点に触れ、「いのち」の問題に迫っていくためのキリスト教的な思索の基本を身につけることを目標とする。

〔履修の条件〕

「キリスト教概論」などキリスト教関連科目の基礎科目を履修していることが条件となる。

また、「いのち学序説」を履修していることが望ましい。

〔講義概要〕

関係の存在としての私たち人間のあり方を深く学びながら、生きることの神秘と可能性とを宗教(キリスト教)という地平から探っていく。

■授業計画

- 第1回 イントロダクション・人間、また宗教に関して学ぶ。
- 第2回 人間とは何か①
- 第3回 人間とは何か②
- 第4回 世界とは何か①
- 第5回 世界とは何か②
- 第6回 生きることの意味と価値
- 第7回 わたしがわたしであること
- 第8回 心とからだ
- 第9回 自然の中で
- 第10回 働くこと
- 第11回 性と結婚①
- 第12回 性と結婚②
- 第13回 人間の罪
- 第14回 人間・いのち・世界
- 第15回 -

第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

各クラスで紹介する聖書、本等を出来る限り読むこと、とりあげるトピックに関して、自分の考察を深めることにおよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーや提出物について次回授業内で応答する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」及び「3.総合的・実践的な学習能力」に関わり、キリスト教的視点に立って、人間といのちの本質を深く学ぶ。

〔テキスト〕

聖書(日本聖書協会・新共同訳)

〔参考文献〕

パスカル『パンセ』、サン・テグジュペリ『星の王子様』など授業内で紹介する。

人間・いのち・世界Ⅱ	
科目ナンバー	ICP3302-L
2単位：後期1コマ	3～4年
石居 基夫	

〔到達目標〕

現代と宗教の関係について考えるための基礎的な視点と考え方に触れ、現代世界における宗教の持つ意味を深く探求する力を獲得する。

〔履修の条件〕

キリスト教概論などキリスト教関連科目の基礎科目を履修していることが条件となる。

「いのち学序説」、「人間・いのち・世界Ⅰ」を履修していることが望ましい。

〔講義概要〕

この授業では宗教が持っている役割、その問題性や可能性を探りながら、「現代社会」と「いのち」の問題を深く考察していく。

■授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 現代日本と宗教①
- 第3回 現代日本と宗教②
- 第4回 科学・理性時代と宗教
- 第5回 情報化社会と人間
- 第6回 マテリアリズムの世界
- 第7回 ニヒリズムと宗教

- 第8回 歴史を生きること
- 第9回 自然を生きること
- 第10回 戦争と平和
- 第11回 安らかな死
- 第12回 世界の宗教
- 第13回 文化の中のスピリチュアリティ
- 第14回 宗教の否定
- 第15回 ー
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

各クラスで紹介する聖書、本等を出来る限り読むこと、とりあげるトピックに関して、自分の考察を深めることにおよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーや提出物については次回授業の中で応答する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」及び「3.総合的・実践的な学習能力」に関わり、キリスト教的視点に立って、人間といのちの本質を深く学ぶ。

〔テキスト〕

聖書(日本聖書協会・新共同訳)

〔参考文献〕

授業内で紹介する

多文化ソーシャルワーク

科目ナンバー	IAD 2201-L
2単位：後期1コマ	2～4年
原島 博	

〔到達目標〕

日本社会のなかで定住化する異文化を背景にもつ難民、移民が増加している現状を理解し、生活課題の特徴および課題への対応に必要な初歩的な多文化ソーシャルワークの知識、価値、技術を身につけることを目標とします。

〔履修の条件〕

本講義は、日本国内で増加する難民、移民の生活に関心があり、多文化ソーシャルワークの視点を大切に、現場の実践から学ぼうとする意欲があることを条件とします。

〔講義概要〕

第二次世界大戦前に、日本の経済は貧しく、日本人を移民として海外に送り出していた時代がありました。戦後には、日本に残留した在日コリアンや中国の残留日本人孤児とその家族が来

日したため、受け入れのあり方が問われました。1980年代から1990年代にかけては、インドシナ地域からの難民を受け入れ、また、日本経済の繁栄によるアジアからの多くの出稼ぎ労働者が日本にやって来ました。その過程で、労働、医療、在留に関わる人権や生活問題が生じました。現在では、オールドカマーと呼ばれる在日コリアンの高齢化、他方、労働や結婚でニューカマー(新たに来日した人々)と呼ばれるアジア及び南米出身の人々が日本の地域社会で暮らしています。今後、発展途上国内の失業と日本の少子高齢化により労働力不足が要因となり、外国人労働者とその家族が地域社会に入ってくる。すでに、2019年4月より、特別技能という在留資格により日本で働く外国人が増えることになります。このような政策の流れによって日本社会はますます多文化・多民族化していくことでしょう。民族や国籍を超えて日本社会は多文化化に対応しなければなりません。日本社会が異文化社会からやってくる人々とどのように多文化共生を進めるべきか考えたいと思います。現場での実践家による講義も含まれていますので、有意義な学習ができます。

■授業計画

- 第1回 授業の概要と進め方
- 第2回 多文化社会論：オールドカマー
- 第3回 多文化社会論：ニューカマー
- 第4回 多文化社会：外国人の定住化の現状
- 第5回 多文化社会の課題①
- 第6回 多文化社会の課題②
- 第7回 多文化ソーシャルワーク理論①
- 第8回 多文化ソーシャルワーク理論②
- 第9回 多文化ソーシャルワークのアプローチ
- 第10回 演習①
- 第11回 演習②
- 第12回 演習③
- 第13回 演習④
- 第14回 多文化ソーシャルワークのまとめ
- 第15回 期末レポート
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

テーマに関する文献を読むことを通して、基本的理解を發展させてほしい。本科目では各授業回に200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対する補足説明を次回の講義時に行う。課題レポートにコメントを付して返却を行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

ディプロマポリシー1～4に該当する。異文化社会から様々な理由で来日して生活している難民、移民の生活課題を理解し、多文化共生を実践する支援者に求められる人間性、知識を身に付ける。

〔テキスト〕

授業毎に資料を配布します。

〔参考文献〕

適宜紹介します。

社会福祉と国際協力	
科目ナンバー	IAD2203-L
2単位：前期1コマ	2～4年
原島 博	

〔到達目標〕

本科目は、国際協力を実践する上で必要な社会・経済開発理論、知識や価値感を習得します。また、国境を越えた社会福祉における社会開発課題の解決への取り組みについて事例検討することで、ワーカーの役割を理解することができるようになります。

〔履修の条件〕

授業では、資料、ビデオなどの視聴覚教材以外に、人数を考慮してワークショップ形式を取り入れていくので、グループ活動への積極的な参加を条件とします。国際協力の実践を社会福祉の視点から学びたいと考えている学生諸君の参加を期待します。海外インターンシップで実習を考えている場合は、必ず履修してください。

〔講義概要〕

「社会福祉と国際協力」では、対象社会の単位を地球社会(Global Society)と位置づけています。地球社会では、一日1ドル以下の収入で生活する家族、ストリートチルドレン、児童労働、予防できる感染症による死亡、民族紛争、環境破壊など反福祉的状況が存在しています。世界人口70億人の内、3分の2を占める人々は開発途上国に暮らしています。雇用、保健、栄養、教育、居住環境など、基本的な生活ニーズを満たせないこれらの人々の福祉は、国境を越えて暮らす先進国社会の私達の課題でもあります。いくつかのテーマを取り上げ、現場での取り組みと日本の国際協力のあり方についてNGOスタッフの講義も含まれています。21世紀の福祉は「国家」という枠組みから「世界」という枠組みに移行し、国際主義を再構築することが人類には求められています。是非、「福祉国家」を超え、「福祉世界」の思想と国際協力の在り方を一緒に考えてみましょう。

■授業計画

- 第1回 授業の概要及び進め方
- 第2回 「開発」という背景と概念
- 第3回 「国際協力」の背景と概念
- 第4回 人間の安全保障の概念
- 第5回 持続可能な開発目標
- 第6回 国連と国際協力
- 第7回 国連と国際協力
- 第8回 政府と国際協力
- 第9回 NGOと国際協力
- 第10回 NGOと国際協力
- 第11回 国際協力としての国際ソーシャルワーク
- 第12回 国際協力としての国際ソーシャルワーク

第13回 国際協力としての国際ソーシャルワーク

第14回 まとめ

第15回 ー

第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

テーマに関連する参考文献を読み、テーマの理解を深めてください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対してコメントするとともに、授業の中でフィードバックする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

グローバルな課題に対して、人間の尊厳、相互理解、地球規模の共生社会を国際福祉の視点から考える。事例検討を通して問題、分析、解決の方法を学び、国際協力の理解を深める。グループワークを通じて、参加者同士のコミュニケーション能力を高める機会を提供する。

〔テキスト〕

授業毎に資料を配布すると同時に、個別に参考文献を紹介しします。

〔参考文献〕

適宜紹介します。

ギリシア語Ⅰ	
科目ナンバー	ICS2301-S
4単位：前期2コマ	3年
安田 真由子	

〔到達目標〕

新約聖書のギリシア語原典を読むため、ギリシア語の基礎を身につける。

〔履修の条件〕

新約聖書ギリシア語原典に関心のある方。語学の授業なので、予復習、とくに語彙、活用語尾等の暗記を欠かさぬこと。

〔講義概要〕

テキストなどを用いて新約ギリシア語の文法を学び、翻訳練習などの課題をととして実力をつける。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーションー授業の進め方、新約ギリシア語についての初歩的説明を行う。
- 第2回 アルファベット、発音の基本について学ぶ。
- 第3回 アクセント、句読点など、読み方の基本を確認し、音読

- 訓練を行う。
- 第4回 マルコ1：1-3を用いて、ギリシア語の構造や語彙を確認。
- 第5回 アルファベットと読み方の小テスト。第2変化の男性、中性名詞と男性、中性定冠詞。テキストなどに基づいて文法を学び、例文を用いて理解を深め、練習問題を解くことで読解力を付ける。基本的には以下同様。
- 第6回 第1変化の女性名詞、女性定冠詞。第3変化名詞の紹介(暗記は不要、特定の語彙の確認)。
- 第7回 名詞の小テスト。マルコ1：4-6を用いて、前置詞、接続詞、名詞の格の用法。
- 第8回 第1、第2変化の形容詞とその用法。
- 第9回 形容詞の小テスト。マルコ1：7-8を用いて代名詞を学ぶ。
- 第10回 動詞の基本の確認。語彙の紹介。直説法能動相現在。翻訳練習。
- 第11回 直説法能動相未来。翻訳練習。
- 第12回 復習、翻訳練習。
- 第13回 これまでのまとめの中テストを実施。
- 第14回 直説法中受動相現在、直説法中動相未来。
- 第15回 *eiμi* の現在、未来形。
- 第16回 直説法能・中受動相未完了。
- 第17回 *eiμi* の未完了。
ヨハネ1：1-5を用いて、翻訳練習および動詞の確認。
- 第18回 未完了動詞の小テスト。
直説法能・中動相アオリスト。
- 第19回 直説法受動相未来、アオリスト。
- 第20回 直説法現在完了、過去完了。
- 第21回 動詞のまとめと復習。マルコ1：9-11を用いて翻訳練習。
- 第22回 動詞の小テスト。
第3変化名詞。
- 第23回 分詞の基本。マルコ1：1-11の分詞を確認。
- 第24回 現在分詞。
- 第25回 分詞の用法。翻訳練習。
- 第26回 未来分詞。
- 第27回 未完了分詞。
- 第28回 アオリスト分詞。
- 第29回 -
- 第30回 -
- 第31回 -
- 第32回 -

〔成績評価〕

試験(25%)、レポート(0%)、小テスト(25%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

試験、小テストの他に、授業内での練習問題や翻訳課題、事前準備を伴う語彙・文法解析のプレゼンテーションを習熟度の指標として評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回に200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

講義内小テストの解答・解説は、テストが実施された次の回に行う。試験の解答・解説は、答案用紙にコメントを記して返す。練習問題の解答や語彙・文法解析プレゼンテーション、ギリシア語聖書原典の講読については、授業内に適宜口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」新約聖書の本文を通して、古代の人々の信仰と発想と思想を理解することによって、現代に生きる人々の価値観、言動を支えているものをより深く理解することができる。

〔テキスト〕

テキストは授業内で指示する。

〔参考文献〕

必要に応じて授業内で指示。

〔備考〕

語学の習得には繰り返しの暗記、練習が不可欠なので、予復習をしっかりと行うこと。シラバスは対面式を念頭に作成されているため、オンラインに切り替わった場合、授業の進め方に変更の可能性あり。

ギリシア語Ⅱ		
科目ナンバー	ICS 2302-S	
4単位：後期2コマ	3年	
安田 真由子		

〔科目補足情報〕

ギリシア語Ⅰを履修済みの場合のみ履修可能。

〔到達目標〕

新約聖書のギリシア語原典を読むための語学力を身につける。

〔履修の条件〕

「ギリシア語Ⅰ」を同年度に履修していることが必要です。
新約聖書ギリシア語原典に関心のある方。語学の授業なので、予復習、とくに語彙、活用語尾等の暗記を欠かさぬこと。

〔講義概要〕

テキストに従って新約ギリシア語の文法を学び、文法を終えたら新約聖書の原典講読を通じて語彙や文法の確認を行う。

■授業計画

- 第1回 ギリシア語Ⅰの復習。
- 第2回 分詞の用法と訳し方の確認。
- 第3回 母音融合動詞。テキストに基づいて文法を学び、例文に触れることで理解を深め、練習問題を解くことで読解力を付ける。基本的には以下同様。
- 第4回 接続法。
- 第5回 条件文。
- 第6回 マタイ4：1-11を持ちいて接続法の用法と訳し方の確認。

- 第7回 接続法と母音融合動詞の小テスト。不定法。
 第8回 不定法の用法。
 第9回 命令法。
 第10回 μ 動詞①。
 第11回 μ 動詞②。
 第12回 数詞、固有名詞。
 第13回 総復習。
 第14回 文法の総合テストを実施。
 第15回 新約聖書ギリシア語原典講読に向けての準備。新約聖書のギリシア語テキストについての解説、次回以降の授業の進め方の確認、原典講読のデモンストレーションを行う。
 第16回 新約聖書ギリシア語原典講読。課題に指定したテキストを1節ずつ、文法と語彙の確認をしながら翻訳していく。学生は、課題分の翻訳を事前に準備することが望ましい。課題テキストは、学生の習熟度及びルーテル教会の聖書日課に応じて指示する。以下同様。
 第17回 新約聖書ギリシア語原典講読。
 第18回 新約聖書ギリシア語原典講読。
 第19回 新約聖書ギリシア語原典講読。
 第20回 新約聖書ギリシア語原典講読。
 第21回 新約聖書ギリシア語原典講読。
 第22回 新約聖書ギリシア語原典講読。
 第23回 新約聖書ギリシア語原典講読。
 第24回 新約聖書ギリシア語原典講読。
 第25回 新約聖書ギリシア語原典講読。
 第26回 新約聖書ギリシア語原典講読。
 第27回 新約聖書ギリシア語原典講読。
 第28回 新約聖書ギリシア語原典講読。
 第29回 -
 第30回 -
 第31回 -
 第32回 -

〔成績評価〕

試験(25%)、レポート(0%)、小テスト(25%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

試験、小テストの他に、授業内での練習問題や翻訳課題、事前準備を伴う語彙・文法解析のプレゼンテーションを習熟度の指標として評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回に200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

講義内小テストの解答・解説は、テストが実施された次の回に行う。試験の解答・解説は、翌週に答案用紙にコメントを記して返す。練習問題の解答や語彙・文法解析プレゼンテーション、ギリシア語聖書原典の講読については、授業内に適宜口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」新約

聖書の本文を通して、古代の人々の信仰と発想と思想を理解することによって、現代に生きる人々の価値観、言動を支えているものをより深く理解することができる。

〔テキスト〕

テキストは授業内で指示。

〔参考文献〕

必要に応じて授業内で指示。

〔備考〕

語学の習得には繰り返しの暗記、練習が不可欠なので、予復習をしっかりと行うこと。シラバスは対面式を念頭に作成されているため、オンラインに切り替わった場合、授業の進め方に変更の可能性あり。

ラテン語Ⅰ	
科目ナンバー	ICS2303-S
2単位：前期1コマ	3～4年
本城 仰太	

〔科目補足情報〕

ラテン語の基礎文法を習得する。

〔到達目標〕

ラテン語の基礎文法や辞書の使い方など習得し、ラテン語聖書ウルガタやラテン教父を読むための基礎作りをする。

〔履修の条件〕

原則、通年で履修すること。

〔講義概要〕

テキストに即して Unit 毎に、文法を学び、練習問題を解いていく。

■授業計画

- 第1回 導入、J.F.Collins, Primer of Ecclesiastical Latin の Unit 1
 第2回 Unit 2, 3
 第3回 Unit 4
 第4回 Unit 5
 第5回 Unit 6
 第6回 Unit 7
 第7回 Unit 8
 第8回 Unit 9
 第9回 Unit 10
 第10回 Unit 11
 第11回 Unit 12
 第12回 Unit 13
 第13回 Unit 14
 第14回 Unit 15
 第15回 総括・期末試験
 第16回 -

〔成績評価〕

試験(50%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

出席を前提とし、試験と課題提出で総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。
毎回、課題(テキストの練習問題)をやってくる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

毎回、模範解答を配布し、課題の解説をしてフィードバックを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性に該当。ラテン語の習得は、私たちが形成する知識や文化遺産へのアクセスを可能とし、成熟した人間性を涵養する役に立つ。

〔テキスト〕

担当者が用意するプリント(日本語訳)

〔参考文献〕

小林標『ラテン語の世界ローマが残した無限の遺産』(中公新書、2006)、水谷智洋編『<改訂版>羅和辞典』(研究社)(各辞典については初回授業で説明する)

ラテン語Ⅱ

科目ナンバー	ICS2304-S
2単位：後期1コマ	3～4年
本城 仰太	

〔科目補足情報〕

ラテン語の基礎文法を習得し、ラテン語の文章を読んでいく。

〔到達目標〕

ラテン語の基礎文法や辞書の使い方など習得し、ラテン語聖書ウルガタやラテン語の信条、ラテン教父の文章を読むことができるようにする。

〔履修の条件〕

原則、通年で履修すること。

〔講義概要〕

テキストに即してUnit毎に、文法を学び、練習問題を解いていく。後半はラテン語聖書ウルガタ、ラテン語の信条の文章を読んでいく。

■授業計画

第1回	J.F.Collins, Primer of Ecclesiastical Latin のUnit 16
第2回	Unit 17
第3回	Unit 18

第4回 Unit 19

第5回 Unit 20

第6回 Unit 21

第7回 Unit 22

第8回 Unit 23

第9回 Unit 24

第10回 ラテン語の信条テキストを読む①

第11回 ラテン語の信条テキストを読む②

第12回 ラテン語の信条テキストを読む③

第13回 ラテン語聖書ウルガタを読む①

第14回 ラテン語聖書ウルガタを読む②

第15回 ラテン語聖書ウルガタを読む③

第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

出席を前提とし、試験と課題提出で総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

1回の授業あたりの授業外学習は180分～240分を目安とする。
毎回、課題(テキストの練習問題や講読)をやってくる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

毎回、模範解答を配布し、課題の解説をしてフィードバックを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性に該当。ラテン語の習得は、私たちが形成する知識や文化遺産へのアクセスを可能とし、成熟した人間性を涵養する役に立つ。

〔テキスト〕

担当者が用意するプリント(日本語訳)

〔参考文献〕

水谷智洋編『<改訂版>羅和辞典』(研究社)、R.Gryson (ed.), Biblia Sacra Vulgata, Deutsche Bibelgesellschaft, Editio quinta (5th ed.), 2007

臨床心理英語論文読解Ⅰ

科目ナンバー	ICP2203-S
2単位：前期1コマ	2～4年
植松 晃子	

〔到達目標〕

心理学の研究論文を正しく読む力を身に付ける。はじめに、研究論文がいかに構成されているかを学び、また問題、方法、結果、考察で何が表現されているかを適切に読み取ることができるようにする。

【履修の条件】

2年生以上が履修できる。欠席せず参加し、心理学の英語の論文を読めるようになりたいと熱意を持った学生を求める。心理学分野の研究論文を読むため、前年までに臨床心理フレッシュマンゼミ、統計法の授業を受講し、日本語の心理学の専門書や論文に触れていることが望ましい。これらの授業を受講していない場合や聴講の希望がある場合でも受講できるが、事前に相談をしてください。

【講義概要】

通常授業の場合は、英語論文を読んでいく予定である。多くはないが、授業の予習が求められ、毎回の課題提出がある。基本的にシラバスに従うが、受講生の人数や授業展開によって適宜変更がある。初回授業で使用する論文を紹介する。

■授業計画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション
：心理学の研究論文の構成・特徴についての解説と授業で読む論文の紹介 |
| 第2回 | 論文を読み構造を掴む1 |
| 第3回 | 論文を読み構造を掴む2 |
| 第4回 | 論文を読み構造を掴む3 |
| 第5回 | 論文を読み構造を掴む4 |
| 第6回 | 論文を読み構造を掴む5 |
| 第7回 | 英語論文を読む1 |
| 第8回 | 英語論文を読む2 |
| 第9回 | 英語論文を読む3 |
| 第10回 | 英語論文を読む4 |
| 第11回 | 英語論文を読む5 |
| 第12回 | 英語論文を読む6 |
| 第13回 | 英語論文を読む7 |
| 第14回 | 英語論文を読む8 |
| 第15回 | - |
| 第16回 | - |

【成績評価】

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(80%)、その他の評価方法(20%)

【成績評価(備考)】

1パラグラフ～2パラグラフ程度の論文の翻訳課題によって評価する。自分の分担でない英文翻訳に対しても、積極的に参加することが望ましい。※遠隔授業では、毎回の課題提出によって評価する。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

各自、積極的な予習復習を求めます。自分の担当箇所だけでなく毎回翻訳をし、授業中に修正した点については復習することで英語論文に精通してってください。担当者は翻訳の修正版を翌週までに提出します。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

【試験・レポート等のフィードバック】

各自が分担した箇所の翻訳を事前に提出し、授業中にフィードバックする。

【ディプロマポリシーとの関連性】

3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。英文の学術論文に触れることで、英語力を用いて心理学研究の方法論や研究によって分かる内容の理解を深めることができる。

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

適宜紹介する

キャリアデザイン基礎

科目ナンバー	IAD2204-L
2単位：前期1コマ	2～3年
田副 真美	

【到達目標】

自らが社会で活躍している姿を描き、社会人として求められる「基礎力」を習得することを目指します。また、併せて就職活動で活用できる知識・ノウハウの獲得を目指します。

【履修の条件】

将来を考えること、また、社会人として求められる基礎力の獲得を目的としていますので、一般企業の就職に希望・関心がある者、自らのキャリアデザインに関心がある者を対象とします。原則として2・3年生を対象とします。

【講義概要】

ねらい：人との関わりの中で自分らしさを発揮し、主体的な行動につながるマインドやスキルを身につける。

進め方：講義よりもワークを中心に進め、自分の意見・考えを伝え、他者の意見・考えを聴く機会を設けます。

(1) 社会人として働いている方のお話を聴き、自分の生き方や働き方を考えるきっかけを提供します。その上で、将来の目標および大学生活での行動計画づくりを行います。

(2) 社会人として求められる「コミュニケーション力(聴く、話す、書く)」について、具体的な方法を理解した上で実践します。

(3) 自己理解を深め、「自分がどのように社会と関わるのか」を考えます。

(4) 個人及びグループワークを通じて、自己に対する気づきを得る機会を提供します。

(5) 就職活動において、自分自身をしっかりと表現する方法を学びます。

状況により授業の順番や内容が一部変更になる場合があります。(担当講師：小風泰子)

■授業計画

- | | |
|-----|----------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション、今後の進め方の確認、大学生の基本姿勢について |
| 第2回 | コミュニケーションを学ぶ |
| 第3回 | 自己紹介 |
| 第4回 | 自己理解を深めよう |
| 第5回 | 伝わる話し方、話法 |
| 第6回 | プレゼンテーションを学ぶ |

- 第7回 社会人インタビュー
- 第8回 伝わる書き方、就職活動の基礎知識
- 第9回 インターンシップについて学ぶ(就職関連情報)
- 第10回 社会・企業を知る
- 第11回 グループディスカッション
- 第12回 マナー・働く価値観
- 第13回 ビジネスマナー(面接編)
- 第14回 復習を振り返り
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

授業態度(積極性、主体性、発言内容など)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

【予習】新聞の購読。企業選択の幅を広げ、業界・企業情報の収集をするために、ニュース、経済に関心を持つこと。【復習】配布資料の振り返りを行うこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントします。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。この科目を履修することで、社会人として働いている方のお話を聞いたり、各種グループワーク等を実践したりすることで他者を理解していく力が身に付きます。また、社会人として求められる「コミュニケーション力(聴く、話す、書く)」について具体的な方法を理解した上で自分自身をしっかりと表現することができるようになります。

〔テキスト〕

毎回必要な教材を配布します。配布した教材が散在しないよう、専用ファイルの準備をお願いします(資料のサイズは、A4を予定)。

〔参考文献〕

授業内で告知

〔備考〕

特になし

企業研究、グループディスカッション、面接、ビジネスマナー等の各種対策やテクニックを実践的に学び、自身が思い描く将来を具体化しつつ、それを実現するための自信と考え方及びスキルを身に付けます。

〔履修の条件〕

一般企業の就職に希望・関心がある者、自らのキャリアデザインに関心がある者で、「実際に就職活動を行う予定である者」を対象とします。2年生の履修も可能ですが、原則として3年生を対象とします。前期の「キャリアデザイン基礎」を受講していなくても履修可能であり、授業に問題なくついていくことができる設計になっています。なお、第11回目以降はより実践に即するため、リクルートスーツの着用を必須とします。

〔講義概要〕

ねらい：人との関わりの中で自分らしさを発揮し、主体的な行動につながるマインドやスキルを身につける。

進め方：講義よりもワークを中心に進め、自分の意見・考えを伝え、他者の意見・考えを聴く機会を設けます。

(1)自己理解を深めるため、職業興味検査やワークシートを元に自己分析を行い、強み等を言語化します。

(2)応募書類のポイントを理解し、必須となる項目を実際に記入していきます。

(3)業界・企業研究の方法を理解し、具体的に調べていきます。

(4)グループディスカッション、面接の対策法を学び、実際に体験をしていきます。

(5)ビジネスマナーの基本を理解し、実践的なスキルを学びます。

状況により授業の順番や内容が一部変更になる場合があります。(担当講師：小風泰子)

■授業計画

- 第1回 就活キックオフ(心構え、進め方、必要な準備の理解)
- 第2回 自己分析 ～Step I～(職業興味検査)
- 第3回 自己分析 ～Step II～(自分の強みを言語化する)
- 第4回 応募書類対策 ～Step I～(卒業論文・ゼミ・実習、趣味・特技の記入)
- 第5回 応募書類対策 ～Step II～(学生時代に力を入れたことの記入)
- 第6回 応募書類対策 ～Step III～(自己PRの記入)
- 第7回 業界研究
- 第8回 職種研究
- 第9回 応募書類対策 ～Step IV～(志望動機の記入)
- 第10回 グループディスカッション
- 第11回 ビジネスマナー
- 第12回 面接対策 集団面接
- 第13回 面接対策 個人面接 I
- 第14回 面接対策 個人面接 II
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

キャリアデザイン実践

科目ナンバー	IAD 2304-S
2単位：後期1コマ	3年
田副 真美	

〔到達目標〕

就職活動において求められる自己分析、応募書類、業界研究、

〔成績評価(備考)〕

授業態度(積極性、主体性、発言内容など)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

【予習】新聞の購読。企業選択の幅を広げ、業界・企業情報の収集をするために、ニュース、経済に関心を持つこと。【復習】配布資料やテキストの振り返りを行うこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントします。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。この科目を履修することで、グループディスカッションや面接、各種グループワーク等を通じて他者を理解したり、社会やビジネスで通じる実践的な自己表現を獲得できるようになります。

〔テキスト〕

『MY CAREER NOTEⅢ』制作・著作/株式会社ベネッセキャリア1,573円

〔参考文献〕

授業内で告知

〔備考〕

特になし

ソーシャルワーク演習Ⅰ		
科目ナンバー	ISW2101-S	
2単位：前期1コマ	1年	
浅野 貴博、廣瀬 圭子、大曲 睦恵		

〔到達目標〕

社会問題と社会福祉について考える。人々が直面する課題を、個人的な課題としてだけではなく、社会的な課題として理解する力を習得する。具体的な事例等を用いて、ソーシャルワークの場面と過程を想定した演習を行う。

〔履修の条件〕

社会福祉士の取得を目指す者が履修する科目である。社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。原則として、ソーシャルワーク実習Ⅰ開始前に履修することが求められる。

〔講義概要〕

少人数の演習で、次に掲げる具体的な事例等を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得すること。事例の背景を理解し、地域福祉の基盤整備や開発について考察する。毎回の課題について、グループダイナミクスを活用したグループ討議を行う。また、自分で調べ学習を行い考察を深める。

■授業計画

第1回 オリエンテーション/授業のねらいとグループダイナミク

スの活用

- 第2回 虐待(児童・障害者・高齢者等)とソーシャルアクション
- 第3回 虐待(児童・障害者・高齢者等)とソーシャルワークの展開過程
- 第4回 ひきこもりとアウトリーチ
- 第5回 ひきこもりとソーシャルワークの展開過程
- 第6回 貧困と地域アセスメント
- 第7回 貧困とソーシャルワークの展開過程
- 第8回 認知症とネットワーク
- 第9回 認知症とソーシャルワークの展開過程
- 第10回 終末期ケアとチームアプローチ
- 第11回 終末期ケアとソーシャルワークの展開過程
- 第12回 災害時のソーシャルワークと地域住民の組織化と地域福祉計画
- 第13回 災害時のソーシャルワークと社会資源の活用・調整・開発
- 第14回 全体のまとめと記録
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(40%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

毎回、授業の内容及感想を記して提出することを求める。授業内での発言・発表・質問、レポート等の提出状況と合わせて総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。毎回の課題について、社会問題としてとらえることを意識して、自分で調べ学習を行うこと。授業後に、討議内容、講義内容を復習し、ソーシャルワーカーとしてどのように社会資源の基盤整備を行い、調整し、開発できるかについて考察すること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて次回以降の授業時に行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、ものごとの本質を把握し解決策を目指す姿勢をおし、総合的・実践的な学習能力を身につける。また、他者との意見交換等をおして他者への理解と自身の思いを言語化する力を身につける。

〔テキスト〕

授業時に示す。

〔参考文献〕

授業時に示す。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、社会問題と社会福祉の関係についての課題提起とグループ学習の指導を行う。

ソーシャルワーク演習Ⅱ

科目ナンバー	ISW2102-S
2単位：後期1コマ	1年
原島 博、福島 喜代子、山口 麻衣	

〔到達目標〕

相談援助に係る基礎的な知識と技術を身につける。具体的な相談事例について、総合的・包括的な援助の過程を理解する。

〔履修の条件〕

社会福祉士の取得を目指す者が履修する科目である。社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。原則として、ソーシャルワーク演習Ⅰを履修済みであること。ソーシャルワーク実習Ⅰ開始前に履修することが求められる。

〔講義概要〕

少人数の演習で、具体的な課題別の相談援助事例等をもとに、総合的・包括的な援助について考察し、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技指導を行う。ファシリテーションを行い、グループダイナミクスを活用しながら学びを深める。そして全体発表会においてプレゼンテーションを行う。

■授業計画

第1回	オリエンテーション/グループダイナミクスの活用とファシリテーション
第2回	ソーシャルワークの展開過程、自己覚知、自己理解と他者理解
第3回	ケースの発見、アウトリーチ、基本的なコミュニケーション技術、言語的技術、非言語的技術
第4回	インテーク、契約、面接技術、面接の構造化、場の設定、ツールの活用
第5回	アセスメント
第6回	プランニング、ネゴシエーション
第7回	支援の実施、コーディネート
第8回	モニタリング、支援経過の把握と管理（記録）
第9回	チームアプローチ、ネットワーキング
第10回	支援の終結と事後評価
第11回	アフターケア
第12回	個人プレゼンテーション
第13回	グループプレゼンテーション
第14回	全体のまとめ
第15回	－
第16回	－

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(40%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

毎回、授業の内容と感想を記して提出することを求める。授業での発言・発表・質問、レポート等の提出状況と合わせて総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。前期に履修するソーシャルワーク演習Ⅰの終盤で、ソーシャルワーク演習Ⅱの担当テーマが定まる。テーマを担当する教員のもと、前期の終盤に集まるので、出された夏休みの課題に取り組むこと。後期の授業開始後も、グループごとに、メンバー全員で役割分担し、自分の分担(調べ学習、整理、まとめ、集約など)を責任をもって果たすこと。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて次回以降の授業時に行う。レポートについては、発表時にコメントを行う。発表時のコメントをもとに最終レポートの提出を求める。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することで、他者理解を深め、自己表現のためのコミュニケーション能力を伸ばし、最終的にグループとして人前で学んだことを発表する能力を身につける。

〔テキスト〕

授業時に示す

〔参考文献〕

授業時に示す

〔備考〕

実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する基本的な知識・技術等についての講義と演習、グループ学習の指導を行う。

ソーシャルワーク演習Ⅲ

科目ナンバー	ISW2202-S
2単位：前期1コマ	2～3年
高山 由美子、福島 喜代子、岸 千代	

〔到達目標〕

ソーシャルワーカーとして、必要となる相談援助の基礎技術を身につける。特に、コミュニケーション技術及び面接技術、マッピング技法を習得する。また、自己覚知と他者理解を深め、自分が将来活動する分野を選択し、必要な基礎知識を得る

〔履修の条件〕

原則として、社会福祉士の取得を目指す者が履修する科目である。
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。ソーシャルワーク実習Ⅱ(新)開始前に履修することが求められる。

ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、社会福祉入門の3科目を、「良」以上の成績で履修済みであること。
社会福祉原論Ⅰを良以上の成績で履修済みであるか、並行履修中であること。社会福祉原論Ⅱを良以上の成績で履修済みであるか、後期履修予定(良以上の成績)であること。社会福祉の基礎を良以上の成績で履修済みであるか、並行履修中であること。

【講義概要】

少人数の演習で、相談援助の基礎となる技術について、ロールプレイなどの実技指導を中心に学ぶ。講義、アンケート、個別面接などを通して実習分野や将来活動する分野を決定する支援を行う。

■授業計画

第1回	オリエンテーション/ソーシャルワーク実習と実習指導の理解
第2回	実習分野ごとの施設・機関と利用者の理解(その1)
第3回	実習分野ごとの施設・機関と利用者の理解(その2)
第4回	実習分野ごとの施設・機関と利用者の理解(その3)
第5回	自己覚知(自己理解と他者理解)
第6回	基本的なコミュニケーション技術の習得(自己紹介と実習目的の説明)
第7回	基本的なコミュニケーション技術の習得(生活施設で利用者と関わる)
第8回	ソーシャルワークの記録(支援過程の把握と管理)と実習記録
第9回	基本的な面接技術の習得(傾聴、共感、言語的技術、非言語的技術)
第10回	基本的な面接技術の習得(面接の構造化、家族関係図の記入)
第11回	基本的な面接技術の習得(場の設定、エコマップの記入)
第12回	基本的な面接技術の習得(ツールの活用、時間の流れの中で利用者を理解する)
第13回	分野別学習
第14回	分野別学習
第15回	－
第16回	－

【成績評価】

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

【成績評価(備考)】

参加型授業における発言、発表、毎回のリアクションペーパーの内容等で総合的に評価する。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。
コミュニケーション技術、面接技術などについて、授業後にふりかえりを行い、そのポイントを復習しておくこと。『実習の手引き』を読むこと。

【試験・レポート等のフィードバック】

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、他者理解と共感、自己理解と意思を言語化する力を身に付ける。

【テキスト】

『実習の手引き』ルーテル学院大学
履修者全員に配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

【備考】

実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、実習及び相談援助の技術に関する講義と演習を行う。

ソーシャルワーク演習Ⅳ

科目ナンバー	ISW 2301-S
2単位：前期1コマ	3年
高山 由美子、福島 喜代子、岸 千代	

【到達目標】

社会福祉の現場で、相談援助の専門家であるソーシャルワーカーの卵として、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対し、総合的かつ包括的な支援ができる知識と技術を身につける。

【履修の条件】

社会福祉士の受験資格取得を目指す学生が履修する科目である。社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、社会福祉入門、社会福祉の基礎、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅱのいずれもが「良」以上の成績で履修済みであること。社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ、同Ⅳを並行履修すること。特に指定されたコマ以外の授業はすべて出席すること。

【講義概要】

少人数(概ね10人～15人)の演習形式の授業を行う。個別指導並びにグループ指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を行う。支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について学ぶ。

■授業計画

第1回	オリエンテーション/実習評価表について
第2回	実習指導とは、実習指導を受けるとは

- 第3回 個人を対象としたソーシャルワーク(アウトリーチ、インテーク、アセスメント)
- 第4回 個人を対象としたソーシャルワーク(プランニング、支援の実施、モニタリング)
- 第5回 観察訓練、観察したものを伝達する訓練
- 第6回 感染症について学ぶ
- 第7回 グループを対象としたソーシャルワーク(グループワークの構成、ファシリテーション)
- 第8回 グループを対象としたソーシャルワーク(グループワークの展開過程<準備期、開始期、作業期、終結期>)
- 第9回 チームアプローチとネットワーキング(会議のコーディネートとマネジメント)
- 第10回 チームアプローチとネットワーキング(会議のコーディネートとマネジメント)
- 第11回 地域福祉の基盤整備と開発(地域アセスメント、地域福祉の計画)
- 第12回 地域福祉の基盤整備と開発(組織化、社会資源の活用・調整、開発)
- 第13回 記録の書き方(実習記録及び支援の経過の把握と管理)
- 第14回 児童、高齢、障害分野における利用者理解とソーシャルアクション
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(60%)、その他の評価方法(40%)

〔成績評価(備考)〕

参加型授業への貢献度を評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業ごとに、さまざまなテーマで話し合いが行われる。テーマに沿って出された課題の予習・復習を行うこと。授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとして包括的・総合的な援助をするためにどのようにすれば良いか考えること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に行う。課題については、授業の最終回までにコメントを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を実践できるようにする。

〔テキスト〕

『実習の手引き』ルーテル学院大学。履修者には配布する。

〔参考文献〕

授業の中で適宜紹介する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目

ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、相談援助に関する実践的な演習を行う。

ソーシャルワーク演習Ⅴ		
科目ナンバー	ISW2302-S	
2単位：後期1コマ	3年	
加藤 純、原島 博、高山 由美子、山口 麻衣		

〔到達目標〕

ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得する。ソーシャルワークの理論と実践を統合し、ソーシャルワーク実践をより適切に行えるようになる。支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について理解し、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。

〔履修の条件〕

社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。原則として、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習Ⅱ履修後に履修する。本演習は「ソーシャルワーク演習Ⅵ」と連続して履修しなければならない。なお、3年前期にゼミ(演習)の所属希望調査を行うのでポータルサイトのメッセージや掲示等に注意すること。卒業論文を執筆する者は、原則として指導教員のゼミ(演習)に所属する。

〔講義概要〕

少人数の演習で、グループおよび個別に指導する。各演習のテーマに基づき、各自調べてきたことをもとに発表し、討議する。ソーシャルワークの理論と実践の統合化を図るために、事例研究、事例検討、スーパービジョン等を行う。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション/ソーシャルワークの理論と実践の統合
- 第2回 支援を必要としている人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援
- 第3回 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開過程
- 第4回 実践モデルとアプローチ
- 第5回 アウトリーチ、ケースの発見、インテーク
- 第6回 アセスメント、プランニング、支援の実施
- 第7回 モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア
- 第8回 チームアプローチ、ネットワーキング
- 第9回 ソーシャルアクション、ネゴシエーション
- 第10回 ファシリテーション
- 第11回 コーディネーション
- 第12回 ソーシャルワークの価値、倫理的な判断
- 第13回 ソーシャルワーク理論と実践の統合化
- 第14回 プレゼンテーション
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

授業での発言、発表内容、貢献度等によって評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。授業内で提示される課題や議論のテーマに基づき、先行研究などを調べ、授業に備えること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と意思を言語化する力を身に付ける。

〔テキスト〕

授業の中で適宜紹介する。

〔参考文献〕

授業の中で適宜紹介する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目

ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助の理論と方法、技術等に関する総合的な演習を行う。

ソーシャルワーク演習Ⅵ	
科目ナンバー	ISW2401-S
2単位：前期1コマ	4年
加藤 純、原島 博、高山 由美子、山口 麻衣	

〔到達目標〕

ソーシャルワークという相談援助の理論と方法が、理論、技術、価値で体系化されたもので、ミクロ・レベルの個人だけでなく、家族集団からマクロ・レベルの社会までを対象にした高い専門性のものであることを理解し、現場実践の観察力、分析力、応用力、専門スタッフに対するスーパービジョン力を習得する。

〔履修の条件〕

社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。

4年次を対象とし、「ソーシャルワーク演習Ⅴ」を履修済みであることが求められる。体験学習と討論形式を採用するため、事前準備として文献による学習が求められる。

〔講義概要〕

ソーシャルワークの中でも、技術の習得を主にし、理論的に把握したあと、適格に実践に生かせることができるように、スーパービジョンの実際を通して学習する。

演習ごとのテーマに沿って課題に取り組み、ゼミ論をまとめる。

■授業計画

第1回	社会福祉士の役割と意義
第2回	相談援助の概念と範囲
第3回	相談援助の理念
第4回	スーパービジョンの概念と範囲
第5回	相談援助の権利擁護の意義
第6回	相談援助に係る専門職の概念と範囲
第7回	専門職理念と倫理的ジレンマ
第8回	総合的かつ包括的な援助と他職種連携
第9回	事例分析・相談援助の実際(権利擁護も含む)
第10回	実践モデル・人の包括的理解のためのツール
第11回	ニーズ・緊急性把握(アセスメント)
第12回	ソーシャルワークの専門性の理解
第13回	アセスメント・ソーシャルアクション・ネットワーキング
第14回	まとめ 専門職として果たす役割・機能 実践と理論の関連性
第15回	－
第16回	－

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

授業での発言、発表内容、貢献度等によって評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。授業内で提示される課題や議論のテーマに基づき、先行研究などを調べ、授業に備えること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と意思を言語化する力を身に付ける。

〔テキスト〕

授業の中で適宜紹介する。

〔参考文献〕

授業の中で適宜紹介する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助の理論と方法、技術等に関する総合的な演習を行う。

ソーシャルワーク・キャリアアップゼミ	
科目ナンバー	ISW2402-S
2単位：後期1コマ	4年
高山 由美子、市川 一宏、金子 和夫、加藤 純、 原島 博、山口 麻衣、浅野 貴博、廣瀬 圭子、 松田 崇志	

〔到達目標〕

大学生活の最終学期において、これまで一般教養科目、専門科目、実習関連科目で学んだ思想・理論・知識・技術等を、卒業後の実践の場に活かせるようにすることを目標とする。

〔履修の条件〕

社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験受験資格取得予定の学生は「ソーシャルワーク演習Ⅴ」「同Ⅵ」から引き続き履修すること。「ソーシャルワーク演習Ⅴ」「同Ⅵ」を履修し、国家試験受験資格取得を目指さない学生は、履修しなくてもよいが、キャリア形成ゼミの回は必ず出席すること。日程、教室などは掲示を行うので注意して従うこと。

〔講義概要〕

本講義は、大学生活の最終学期において、社会福祉の理論と実践の統合、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験準備、就職支援、キャリア形成などを行う。4年生全体を対象とした講義形式の授業と卒業ゼミを単位としたグループ授業の組み合わせで展開する。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション/国家試験受験体験と心得
- 第2回 キャリア形成ゼミ①
- 第3回 保健医療サービス
- 第4回 社会福祉原論
- 第5回 社会保障論
- 第6回 キャリア形成ゼミ②
- 第7回 福祉行財政と福祉計画
- 第8回 権利擁護と成年後見制度
- 第9回 人体の構造と機能及び疾病
- 第10回 公的扶助論
- 第11回 地域福祉論
- 第12回 心理学
- 第13回 社会学
- 第14回 障害者福祉論
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(50%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

成績評価の「その他」は、特に「理論と実践の統合」や「キャリア形成ゼミ」等においてフィードバックが求められるので、その内容で評価を行う。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習)が必要となる。これまで学んだ専門科目や実習関連科目等の内容をあらためて学習し、さらに、卒業後の進路・分野に関する研究を自ら行うこと。そして、本講義で再確認したこと、理解できなかったこと、あらたに発見したこと等についても自ら研究し、その上で必要に応じて教員と質疑応答を行うこと。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

- ・リアクションペーパーに対するフィードバックを必要に応じて次回以降の講義内において行う。
- ・講義内における小テストへの解答
- ・解説は授業内に行なう。
- ・発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

3「総合的・実践的な学習能力」に該当する。これまでに学んできた科目を振り返り、実践力を高めることと就職支援やキャリア形成等に一体的に取り組むことにより、総合的・実践的な力を習得する。

〔テキスト〕

テキストは使用しない。

〔参考文献〕

参考文献は、これまでの講義課目あるいは実習先等で提示された文献を参照すること。さらに、国家試験関係では、多くの出版社から「講座」としてテキストが出版されている。また、卒業後の進路関係についても、進学・就職に向けた専門的な文献が数多く出版されており、自分で使いやすいものを利用すること。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、これまで学んできた科目の講義と実践力を高めること及びキャリア支援に関する指導を行う。

キリスト教フレッシュマンゼミ	
科目ナンバー	ICS2101-S
2単位：後期1コマ	1年
宮本 新	

〔到達目標〕

科目としてのキリスト教ならびに神学の内容は幅広くまた深い。その範囲とアプローチについて入門的な知識を習得する。

〔履修の条件〕

キリスト教について学問的に取り組むことに関心がある人。

〔講義概要〕

はじめてキリスト教学や神学を学ぶ人のための入門講座。キリスト教にかかわる文化、心理、いのち、教理、人間と社会など幅広い専門領域について、教員たちがオムニバス形式で講義をする。「キリスト教領域」を入門的に学び、各自の研究領域を探究する演習科目となる。

■授業計画

- 第1回 序論：キリスト教領域の“研究範囲”①
- 第2回 聖書①
- 第3回 聖書②
- 第4回 キリスト教といのち①
- 第5回 キリスト教といのち②
- 第6回 キリスト教と心理①
- 第7回 キリスト教と心理②
- 第8回 キリスト教と文化①
- 第9回 キリスト教と文化②
- 第10回 暮らしの中のキリスト教①
- 第11回 暮らしの中のキリスト教②
- 第12回 キリスト教と社会①
- 第13回 キリスト教と社会②
- 第14回 まとめ：研究発表
- 第15回 レポート
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

期末レポートと各授業への積極的な参加。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。主に授業等で紹介された参考文献にあたること、また学期末のレポートにいたる予備的考察にあてる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

授業ごとのディカッションや質問についてはクラス内で深め、フィードバックを行います。また発表やレポートについては授業内で適宜口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。本学ディプロマ1はキリスト教総体の理念と接点がある。キリスト教とその文献を考察し、その思想と実際を批判的に検討し、多面的かつ総合的な思考する術を学習する。

〔テキスト〕

随時配布する。

〔参考文献〕

新共同訳聖書

キリスト教特講ゼミ I

科目ナンバー	ICS2203-S
2単位：前期又は後期	2～4年
石居 基夫、宮本 新、上村 敏文	

〔到達目標〕

キリスト教神学の基礎的な学びを深めること。特に、聖書、キリスト教神学の基礎的力と専門的知識を身に付けることを目標とする。また、インディペンデントスタディ等で、各自の関心領域について、指導教員とよく協議をして、内容を決定していくことになりますが、全体のバランス上、必ずしも希望に添うことは難しいこともあります。

〔履修の条件〕

学部のキリスト教概論は履修済み、聖書入門なども履修していることが望ましい。必ずコース主任などの履修指導を受け、具体的な学習方法について確認をすること。基本的には、神学校の講義を受講することが前提ですが、神学校のカリキュラムにシークエンスもありますから、履修登録前に、必ず担当の教員と相談をすること。

〔講義概要〕

キリスト教神学の基礎的な力をつける。聖書神学、教義学、神学史など受講生の関心に応じて学びを展開する。

■授業計画

- 第1回 イントロダクション・学びについての全体的計画とテキスト、方法などについて
- 第2回 聖書と神学
- 第3回 聖書と神学2
- 第4回 聖書と神学3
- 第5回 聖書と神学4
- 第6回 聖書と神学5
- 第7回 聖書と神学6
- 第8回 神学の基礎知識
- 第9回 神学の基礎知識2
- 第10回 神学の基礎知識3
- 第11回 神学の基礎知識4
- 第12回 教会と神学
- 第13回 学びのまとめ
- 第14回 神学の学びについて
- 第15回 レポートを提出する
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

聖書及びテキストの読書などの予習と講義録の確認と復習など各授業回200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

担当教員があらかじめ面談の上、リアクションペーパー、レポート、提出物などに対応を伝える。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3.総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的な理解を深めつつ、それを通して神学的思考と分析の力をつける。

キリスト教特講ゼミⅡ

科目ナンバー	ICS 2204-S
2単位：前期又は後期	2～4年
石居 基夫、宮本 新、上村 敏文	

〔到達目標〕

キリスト教神学の基礎的な学びを深めること。特に、聖書、キリスト教神学の基礎的力と専門的知識を身に付けることを目標とする。また、インディペンデントスタディ等で、各自の関心領域について、指導教員とよく協議をして、内容を決定していくことになりますが、全体のバランス上、必ずしも希望に添うことは難しいこともあります。

〔履修の条件〕

学部のカリキュラムは履修済み、聖書入門なども履修していることが望ましい。必ずコース主任などの履修指導を受け、具体的な学習方法について確認をすること。基本的には、神学校の講義を受講することが前提ですが、神学校のカリキュラムにシークエンスもありますから、履修登録前に、必ず担当の教員と相談をすること。

〔講義概要〕

キリスト教神学の基礎的な力をつける。聖書神学、教義学、神学史など受講生の関心に応じて学びを展開する。

■授業計画

第1回	イントロダクション・学びについての全体的計画とテキスト、方法などについて
第2回	聖書と神学
第3回	聖書と神学2
第4回	聖書と神学3
第5回	聖書と神学4
第6回	聖書と神学5
第7回	聖書と神学6
第8回	神学の基礎知識
第9回	神学の基礎知識2
第10回	神学の基礎知識3
第11回	神学の基礎知識4
第12回	教会と神学
第13回	学びのまとめ
第14回	神学の学びについて
第15回	レポートを提出する
第16回	ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

聖書及びテキストの読書などの予習と講義録の確認と復習など各授業回200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

担当教員があらかじめ面談の上、リアクションペーパー、レポート、提出物などに対応を伝える。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3.総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的な理解を深めつつ、それを通して神学的思考と分析の力をつける。

キリスト教特講ゼミⅢ

科目ナンバー	ICS 2205-S
2単位：前期又は後期	2～4年
石居 基夫、宮本 新、上村 敏文	

〔科目補足情報〕

基本的には神学校の講義を受講する場合に、事前に担当教員と必ず了解を得ること。また、インディペンデントスタディの場合にも同様に希望する教員の了解を得ること。了解がない場合には受講出来ない場合があります。

〔到達目標〕

キリスト教神学の基礎的な学びを深めること。特に、聖書、キリスト教神学の基礎的力と専門的知識を身に付けることを目標とする。

〔履修の条件〕

学部のカリキュラムは履修済み、聖書入門なども履修していることが望ましい。必ずコース長などの履修指導を受け、具体的な学習方法について確認をすること。

〔講義概要〕

キリスト教神学の基礎的な力をつける。聖書神学、教義学、神学史など受講生の関心に応じて学びを展開する。

■授業計画

第1回	イントロダクション・学びについての全体的計画とテキスト、方法などについて
第2回	聖書と神学
第3回	聖書と神学2
第4回	聖書と神学3
第5回	聖書と神学4
第6回	聖書と神学5
第7回	聖書と神学6
第8回	神学の基礎知識
第9回	神学の基礎知識2
第10回	神学の基礎知識3
第11回	神学の基礎知識4
第12回	教会と神学
第13回	学びのまとめ

第14回 神学の学びについて

第15回 レポートを提出する

第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

聖書及びテキストの読書などの予習と講義録の確認と復習など各授業回200分の準備学習を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

担当教員があらかじめ面談の上、リアクションペーパー、レポート、提出物などに対応を伝える。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3.総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的な理解を深めつつ、それを通して神学的思考と分析の力をつける。

臨床心理フレッシュマンゼミ	
科目ナンバー	ICP2101-S
2単位：後期1コマ	1年
松田 崇志、加藤 純、谷井 淳一、田副 真美、植松 晃子、石川 与志也、高城 絵里子	

〔到達目標〕

- 1) 自らの関心や疑問から心理学研究としてのテーマを設定する方法を身につける。
 - 2) 設定したテーマにしたがって文献を調査し、その内容をレポートとしてまとめるまでの過程を体験的に理解する。
 - 3) 自分のテーマや考えを適切に文章として表現することができる力を養う。
- 以上を通して、文献研究を進める力を身につける。

〔履修の条件〕

臨床心理コース必修科目である。

臨床心理コース2年次編入生も原則として履修すること。

その他のコース希望者や希望コース未定者も履修できる。

3年次編入生には別途履修について説明する。

〔講義概要〕

大学では、知識を与えられる学習ではなく、自ら調べる学習が大切です。この授業では、自らの心理学的関心や疑問を研究可能なテーマとして設定し、文献研究を経てレポートを作成するまでの過程を体験的に学びます。図書館でコンピュータを用いた文献検索をしますが、スマートフォンでも文献検索が可能です。レポートはコンピュータ上で作成することを勧めます。

なお、第6回と第11回の授業は複数の教員による少人数のグループ指導を行う。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション
研究の必要性(研究はどのような役に立つのか)
文献研究とは何か。
- 第2回 研究論文の構成を理解する。
自分の疑問を研究につなげよう(研究テーマの例示)。
- 第3回 インターネットで研究論文を見つける方法(1)
CiNii(サイニー)を使って研究論文を検索する方法を学ぶ。
- 第4回 インターネットで研究論文を見つける方法(2)
検索した論文の書誌情報を記録する(論文の著者・出版年・題名・掲載箇所)。
- 第5回 研究論文の読み方と研究論文の内容をレポートに書く方法
- 第6回 選んだ研究論文のまとめ作業とレポートの書き方(複数の教員による少人数のグループ指導)
- 第7回 図書館で本を検索する方法
a) 書籍のいろいろ。
b) OPAC を使って図書館で本を検索する方法。
- 第8回 ★ 第1回レポート提出 ★
文章表現のテクニック①：類似点を示す文・相違点を示す文
- 第9回 文章表現のテクニック②：数値データを示す文・具体例を示す文・一般論を示す文
- 第10回 文章表現のテクニック③：事実について述べる文・認識について述べる文
- 第11回 選んだ研究論文のまとめ作業と第2回レポートの書き方(複数の教員による少人数のグループ指導)
- 第12回 文章表現のテクニック④先行研究の内容を短く紹介する文
- 第13回 ★ 第2回レポート提出 ★
プレゼンテーションの方法
- 第14回 第2回レポートへのコメントとまとめ。
- 第15回 最終レポート
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

レポートは、授業内において、研究論文一つをまとめた第1回レポート、複数の研究論文をまとめた第2回レポートの2つを提出していただきます。最後に、最終レポートとして、第2回のレポートを加筆修正したものを提出してもらいます。提出課題は文献検索の結果報告などです。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

毎回の授業の内容を踏まえて、各自、文献研究を進めてください。毎回の課題を終えて教室に持参していることを前提に授業を進めます。レポートに使用する文献はプリントして毎回の授業に持参してください。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

課題のいくつかは提出を求めます。提出された課題は確認をして随時返却します。

第1回レポートと第2回レポートはコメントを記して返却します。第1回レポートは再提出を求めることがあります。第2回レポートは加筆修正して期末試験期間中に最終レポートとして提出してください。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

3. 総合的・実践的な学習能力に該当します。この科目では、支援が必要な課題や支援方法について自分自身で問を設定し、文献を調べ、調べた結果を他者に伝える力を養うことを目指します。

〔テキスト〕

特に定めなし。下記の参考文献の中から自分に合っていると思うものを身近なところに置いて、授業の進行に合わせて関連する箇所を読むこと。その他、レポートや論文の書き方に関する書籍を探してみても良い。

〔参考文献〕

田中共子編(2009)『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房
石黒 圭(2012)『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社
河野哲也(2002)『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶応義塾大学出版会
梅棹忠夫(1969)『知的生産の技術』岩波新書
浜田麻理他(1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版

〔備考〕

授業の進度や状況の変化などに応じて、授業内容を変更することがある。

本授業の6回目と11回目は別の曜時間にそれぞれの教員が担当する教室に分かれて実施する。詳細については、授業内で説明を行う。

卒業演習プレゼミナール

科目ナンバー	ICP2301-S
1単位：前期1コマ	3年
松田 崇志	

〔科目補足情報〕

この授業の中でゼミ配属の説明と希望調査を実施するので、臨床心理コースまたは子ども支援コースの3年生で後期の卒業演習のゼミの履修を希望する人は、この授業を必ず履修してください。

〔到達目標〕

- ①卒業論文のテーマの設定の仕方を学ぶ。
- ②卒業論文の書き方の基本を学ぶ。
- ③卒論に良く使う統計分析に関する理解を深める

〔履修の条件〕

臨床心理コースまたは子ども支援コースの3年生で、来年度、心理学的方法論に基づいて卒業論文を作成するつもりでいる学生。また、卒論は書かないが卒業演習のゼミには参加したい場合も履修すること。本学では、卒業論文は必修科目にしているが、将来、大学院に進学することを考えている学生は、必修に準ずると考えて、履修してほしい。学部で卒業論文の作法を会得しておかないと大学院進学ならびに進学後の研究に支障があるので、学部の勉強の集大成として取り組んでほしい。

なお、心理学研究法Ⅰ、心理学研究法Ⅱ、心理学実験、質問紙調査法、などを履修済みか並行履修していることが望ましい。

〔講義概要〕

卒業論文のテーマを選ぶために先行研究の選び方と、論文の読み方、卒業論文の執筆の仕方、引用文献の表示の仕方などを学ぶ。いくつかの論文を精読し、どのように論を展開しているか、どのような統計分析を用いて結論を出しているかを理解する。

■授業計画

- | | |
|-----|--------------------|
| 第1回 | 文献研究の方法 |
| 第2回 | 卒業論文の書き方 |
| 第3回 | 論文の読み方1：因子分析 |
| 第4回 | 論文の読み方2：相関と1要因分散分析 |
| 第5回 | 論文の読み方3：2要因分散分析 |
| 第6回 | 論文の読み方4：重回帰分析 |
| 第7回 | 論文の読み方5：共分散構造分析 |
| 第8回 | 最終レポート |
| 第9回 | － |

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(100%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

各自で自身の研究に関連した本や論文を読みすすめてください。本科目では各授業回におよそ50分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「3. 総合的実践的な学習能力」に該当する。これまで学んできた、仮説を実証する考え方に関して、さらに理解を深める。

〔テキスト〕

とくになし。プリントを配布する。

〔参考文献〕

とくになし。

卒業演習Ⅰ

科目ナンバー	IAD2305-S
2単位：後期1コマ	3年
石川 与志也、植松 晃子、高城 絵里子、 田副 真美、石居 基夫、上村 敏文、宮本 新、 アンドリュー・ウィルソン、加藤 純	

〔科目補足情報〕

※4年生で「卒業論文」を執筆する場合は、必ず「卒業論文」を履修登録してください。「卒業演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」だけでは、「卒業論文」の履修登録にはなりません。

〔到達目標〕

研究資料としての第一次、第二次資料の収集、先行研究の学び方から論文の書き方についての基本的な方法を学んでいきます。また、必要に応じて共同研究や量的調査の具体化、研究倫理の課題についての基礎的知識を習得します。自分の問題関心を具体的な研究へと前進させ、スケジューリングを行い、指導を受けながら論文執筆へと結びつけていくプロセスを学びます。

〔履修の条件〕

キリスト教人間学コースでは、特に必須ではありませんが、卒論を執筆する学生は必ず受講してください。特に、大学院あるいは神学校に進学を考えている学生にとっては、卒論を書いていることが要求される場合がありますから、受講を勧めます。

臨床心理コースで卒業論文を作成予定の学生は必須です。卒業論文は書かないがゼミに参加したい学生も履修可能です。3年生前期の6月頃にコース毎にゼミ配属の説明会がありますので必ず出席してください。説明会のうち希望調査を行い、ゼミの担当教員が前期の間に決まります。臨床心理コース担当教員の「卒業演習」を希望する場合は、「心理学研究法Ⅰ」、「心理学研究法Ⅲ」、「心理学基礎実験」、「質問紙調査法実習」を履修済みか並行履修することが必要です。そのため、後期の時間割では、担当教員が開設している「卒業演習Ⅰ」の曜日時間に履修をすることになります。子ども支援コースで本科目を履修したい学生は、子ども支援コース担当教員にご相談下さい。

〔講義概要〕

ゼミ形式で、卒業研究・論文の取り組みについて学びます。各自の専門分野に基づいた問題関心を掘り起こし、研究のテーマ設定、さらに具体的なテーゼの立て方を学びます。

■授業計画

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 テーマの設定の仕方1
- 第3回 テーマの設定の仕方2
- 第4回 テーマの設定の仕方3
- 第5回 文献研究1
- 第6回 文献研究2
- 第7回 文献研究3
- 第8回 研究企画書の作成1
- 第9回 研究企画書の作成2
- 第10回 研究企画書の作成3
- 第11回 研究テーマの発表1
- 第12回 研究テーマの発表2

第13回 研究テーマの発表3

第14回 研究の総括

第15回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(100%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

研究は、学生主体で進めていくものです。その時点までの研究の進捗を資料を含めて、ゼミの時間に提示し、それに対するコメントを指導教員やメンバーからフィードバックされて少しずつ研究が進みます。そういう意味で論文作成のプロセスすべてが予習であり、復習です。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

各自の卒業論文の内容について、常に修正・訂正を行い指導する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「3. 総合的・実践的な学習能力」でものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。

〔テキスト〕

特になし

〔参考文献〕

研究の進捗に応じて適宜指導教員よりアドバイス、指示があります。

卒業演習Ⅱ

科目ナンバー	IAD2401-S
2単位：前期1コマ	4年
石川 与志也、植松 晃子、高城 絵里子、 田副 真美、谷井 淳一、石居 基夫、上村 敏文、 宮本 新、アンドリュー・ウィルソン、加藤 純	

〔科目補足情報〕

※4年生で「卒業論文」を執筆する場合は、必ず「卒業論文」を履修登録してください。「卒業演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」だけでは、「卒業論文」の履修登録にはなりません。

〔到達目標〕

先行研究にあたり学術論文の取り組みについて学びを深め、テーマに即した議論の深め方や専門分野における方法論に具体的に習熟し、論文執筆のための論述を展開する力を養う。

〔履修の条件〕

キリスト教人間学コースでは、特に必須ではありませんが、卒論を執筆する学生は必ず受講してください。特に、大学院あるいは神学校に進学を考えている学生にとっては、卒論を書いていることが要求される場合がありますから、受講を勧めます。

臨床心理コースで卒業論文を作成予定の学生は必須です。卒業論文は書かないがゼミに参加したい学生も履修可能です。原則的に卒業演習Ⅰに引き続き、同じ指導教員に指導を受けます。

【講義概要】

原則的に卒業演習Ⅰに引き続き、同じ指導教員に指導を受けながら、研究をすすめます。

論文やプレゼンテーションの構成を考え、計画に基づいて研究と調査を実施し、結果の分析を行い、考察を経て論文を完成させる。また、執筆に伴う新たな課題の整理方法についても学ぶ。

■授業計画

第1回	オリエンテーション 研究指導は、研究方法によって、進め方は異なるので、指導教員と相談しながらすすめること。
第2回	研究指導①
第3回	研究指導②
第4回	研究指導③
第5回	研究指導④
第6回	研究指導⑤
第7回	研究指導⑥
第8回	研究指導⑦
第9回	研究指導⑧
第10回	研究指導⑨
第11回	研究指導⑩
第12回	研究指導⑪
第13回	研究指導⑫
第14回	まとめ
第15回	ー

【成績評価】

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(100%)、その他の評価方法(0%)

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

研究は、学生主体で進めていくものです。その時点までの研究の進捗資料を含めて、ゼミの時間に提示し、それに対するコメントを指導教員やメンバーからフィードバックされて少しずつ研究が進みます。そういう意味で論文作成のプロセスすべてが予習であり、復習です。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

発表やレジュメに関しては、その場で適宜コメントします。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「3. 総合的・実践的な学習能力」と「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することでものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになる。そして他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化。人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて行うことができるようになる。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

研究の進捗に応じて適宜指導教員よりアドバイス、指示があります。

卒業演習Ⅲ

科目ナンバー	IAD2402-S
2単位：後期1コマ	4年
石川 与志也、植松 晃子、高城 絵里子、 田副 真美、谷井 淳一、石居 基夫、上村 敏文、 宮本 新、アンドリュー・ウィルソン、加藤 純	

【科目補足情報】

※4年生で「卒業論文」を執筆する場合は、必ず「卒業論文」を履修登録してください。「卒業演習Ⅲ」だけでは、「卒業論文」の履修登録にはなりません。

担当教員

【到達目標】

研究資料としての第一次、第二次資料の収集、先行研究の学び方から論文の書き方についての基本的な方法論を学んでいきます。また、必要に応じて共同研究や量的調査の具体化、研究倫理の課題についての基礎的知識を習得します。自分の問題関心を具体的な研究へと前進させ、スケジューリングを行い、指導を受けながら論文執筆へと結びつけていくプロセスを学びます。

【履修の条件】

キリスト教人間学コースでは、特に必須ではありませんが、卒論を執筆する学生は必ず受講してください。特に、大学院あるいは神学校に進学を考えている学生にとっては、卒論を書いていることが要求される場合がありますから、受講を勧めます。

臨床心理コースで卒業論文を作成予定の学生は必須です。卒業論文は書かないがゼミに参加したい学生も履修可能です。還俗的に「卒業演習Ⅰ・Ⅱ」と同じ教員に指導を受けます。

【講義概要】

卒業論文の書き方を学び、完成に向かって研究をすすめる方法を学ぶ。自分で企画した研究を、確実に前進させ、中間発表をへて最終的に論文として完成させるプロセスを学ぶ。

■授業計画

第1回	オリエンテーション 研究指導は、研究方法によって、進め方は異なるので、指導教員と相談しながらすすめること。
第2回	研究指導①
第3回	研究指導②
第4回	研究指導③
第5回	研究指導④
第6回	研究指導⑤
第7回	研究指導⑥
第8回	研究指導⑦
第9回	研究指導⑧

- 第10回 研究指導⑨
 第11回 研究指導⑩
 第12回 研究指導⑪
 第13回 研究指導⑫
 第14回 まとめ
 第15回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(100%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

研究は、学生主体で進めていくものです。その時点までの研究の進捗を資料を含めて、ゼミの時間に提示し、それに対するコメントを指導教員やメンバーからフィードバックされて少しずつ研究が進みます。そういう意味で論文作成のプロセスすべてが予習であり、復習です。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

発表やレジュメに関しては、その場で適宜コメントします。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「3. 総合的・実践的な学習能力」と「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することでものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになる。そして他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化。人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて行うことができるようになる。

〔テキスト〕

特になし

〔参考文献〕

研究の進捗に応じて適宜指導教員よりアドバイス、指示があります。

卒業論文	
科目ナンバー	IAD2403-S
4単位：通年1	4年
福島 喜代子、原島 博、高山 由美子、山口 麻衣、浅野 貴博、石川 与志也、植松 晃子、加藤 純、高城 絵里子、田副 真美、谷井 淳一、石居 基夫、上村 敏文、宮本 新、アンドリュー・ウィルソン	

〔到達目標〕

卒業論文を作成することにより、大学における専門科目および一般教養科目その他学習の総合として、一定の分野において自分の研究をし、それをまとめて発表できる能力を持つことを目標とする。

〔履修の条件〕

「卒業演習(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)」,又は「ソーシャルワーク演習Ⅴ、Ⅵ」に

おいて指導教員の指導のもと論文の作成方法を学ぶこと。

〔講義概要〕

指導教員の指導のもと、学生ごとのペースで研究を進める。論文執筆に関しては、各コースから示される「執筆要項」に従うこと。ゼミでの発表、2回の中間発表会で、その時点での研究の進展具合を報告する。特別な事情のない限り、2回の中間発表ができない場合は、卒業論文の提出はできない(ただし、ゼミ論として、指導教員に提出することは可能である)。提出前に指導教員に読んでもらい、定められた日までに卒業論文を提出する。(指導教員によって卒業論文の提出時期が異なるので注意すること。)

〔成績評価〕

- 第1回 個別履修指導
 第2回 個別履修指導
 第3回 個別履修指導
 第4回 個別履修指導
 第5回 個別履修指導
 第6回 個別履修指導
 第7回 個別履修指導
 第8回 個別履修指導
 第9回 個別履修指導
 第10回 個別履修指導
 第11回 個別履修指導
 第12回 個別履修指導
 第13回 個別履修指導
 第14回 個別履修指導
 第15回 個別履修指導
 第16回 個別履修指導
 第17回 個別履修指導
 第18回 個別履修指導
 第19回 個別履修指導
 第20回 個別履修指導
 第21回 個別履修指導
 第22回 個別履修指導
 第23回 個別履修指導
 第24回 個別履修指導
 第25回 個別履修指導
 第26回 個別履修指導
 第27回 個別履修指導
 第28回 まとめ
 第29回 ー
 第30回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(100%)

〔成績評価(備考)〕

中間発表、最終発表、口頭試問等による合議評価

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

研究は学生が主体的に進めるものである。その中であって、論文テーマは受講する演習に関連するものであることが望ましく、指導教員とよく相談の上、論文執筆を進める。指導教員その他の

先生からのコメントや情報提供などを自分のものとしながら進めることが大切である。

【試験・レポート等のフィードバック】

各自の卒業論文の内容について、常に修正・訂正を行い指導する。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「3. 総合的・実践的な学習能力」でものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようにすること。

【テキスト】

研究の進捗に応じて適宜指導教員よりアドバイス、指示があります。

食といのちと環境 I

科目ナンバー	ICS2205-L
2単位：前期1コマ	2～3年
上村 敏文	

【科目補足情報】

前期は農業、林業、地球温暖化など、環境問題を中心に学びます。あらゆる分野において危機的状況が叫ばれています。有限の地球資源に対して、どのような気持ちで立ち向かっていくのかを真摯に学んでいきます。

【到達目標】

さまざまな文献、資料を参照し、また映像資料を見ながら、食といのちと環境について多角的に学びます。地球の温暖化、原発問題、食糧危機などさまざまな課題について議論をしながら深めていきます。それぞれの立場で、将来の地球をしっかりと他人事ではない議論をして洞察を深めます。それぞれの体力、目標を最大限尊重しますが、自分のハードルをやや高めに設定して、積極的に講義などに取り組み、高い意識をもって環境問題に対応できる能力をしっかりとつけていくことを目標にします。

【履修の条件】

前期の間に2回、週末などを利用して、郊外の農地（埼玉県坂戸近郊、学内）の農業体験の実習を行う（軍手を各自準備のこと）。オリエンテーションには必ず出席のこと。アフリカから欧米、そして日本と、将来の地球全体について大きな視野で学んでいきますから、「食」「いのち」「環境」に関心がある人を歓迎しますし、また積極的に意識を高くもってこの重要な課題にチャレンジしてほしいと思います。適宜、学内外の環境調査（学内の植生、近隣の農業など）、また必要に応じて軽い作業（除草、ガーデニング）もします。軍手を各自用意すること。公開講座にも指定していますから、市民の方もしっかりとしたコミュニケーションができることを履修条件として追加します。

【講義概要】

日本の風土と環境、そして世界の環境について、「食といのちと環境」の見地から学んでいきます。いわゆる弥生時代以降、あるいは現代の最新の研究ではすでに縄文時代から行われ始めて

いたと考えられる稲作と、それにまつわる文化、宗教（神道）の形成と変化、里山の形成と農業とその崩壊。鎮守の森の戦後急激な現象と都市化の影響。化石燃料を中心としたエネルギーの20世紀における消費量の急激な増加と、二酸化炭素の増大、そしてフロンガスとオゾン層の破壊などなど、従来の高度成長、競争的資本主義による根本的な社会構造の変化と危機的状況。いかにそれを克服していくかは、「意識の変化」しかありません。これからの世代が、しっかりと高い「意識」をもち、また世界が注目し始めている、縄文文化と神道の中に、その一つの打開策を見出したいと思います。「うみ やま あひだ」という自主映画が、小さな輪から大きな輪になりつつあり、フランスなど海外でも上映の依頼が来始めています。日本だけでなく、欧米諸国でも限られた地球資源をいかに大切にに使わせていただくかということがこれからの時代にもっとも求められています。福島原発問題も含めて、賛否両論のそれぞれの立場を把握しつつ、自然エネルギーのあり方、そして各自の「意識」をしっかりと高くもつための情報提供をしていきます。そして有機農法から自然農法の理念を学びます。栃木県西那須にあるアジア学院の事例を紹介しながら、アジア、アフリカの研修生を受け入れ、現代の最先端の農法ではなく、江戸時代の循環式農法をなぜ教えそして求められているのかを学びます。希望者には研修の情報を適宜供与します。文明社会が栄えたあとに必ず生じている砂漠化について、古代と現代を比較論証していきます。とくにアメリカの農業、そして水資源の争奪戦などを紹介していきます。すでに初代ワシントン大統領の時代からあった土地問題について、学者の間からどのような警鐘が鳴らされてきたかを学びます。最後に「いのち」ということに対して、昨今注目され始めている「平穏死」について多角的に学びます。死は必然的に、そして誰にでも予定されている事実として、徒然草にも記述があるように、生前からしっかりと学んでおく必要があります。前期はその導入をします。「いのち」の観点から、末期がんで余命1ヶ月と宣告された方（アルコール依存症、家庭崩壊など）が一つの出会いにより、新たな「いのち」を授かった実録を学びます。

■授業計画

- | | | |
|------|------------|---|
| 第1回 | オリエンテーション | 全体構造と講義の進め方について |
| 第2回 | 日本と米作り | 自然との適応と文化 |
| 第3回 | 稲作文化と神道 | 農業と祭、儀礼 |
| 第4回 | 森と農業 | その密接な関係と歴史
森林資源と農業について、南アルプスの自然農法について学ぶ |
| 第5回 | 環境汚染と地球 | 微生物と土 |
| 第6回 | 原発と自然エネルギー | 両立をはばんできたものと今後 |
| 第7回 | 福島と農業 | 「農業、やめますか?続けますか?」 |
| 第8回 | 自然農業の可能性 | 最高かつ手がかからない農業を考える
近未来の農業について喫緊の重要課題として討議する |
| 第9回 | 有機農法とその歴史 | その間違えた方向性について
会津農民福音学校の立体農業について |
| 第10回 | アフリカと農業 | 過去、現在、そして将来
コーヒー園などの試み |
| 第11回 | 植林文化と日本 | そのユニークな取り組み |
| 第12回 | 砂漠化の現状と将来 | アフリカ、中国、そしてアメリカ |

- を中心として
- 第13回 いのちの尊厳と死 だれしもが迎える「その時」をより豊かにするために
- 第14回 まとめ
- 第15回 ー
- 第16回 ー

【成績評価】

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(30%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

【成績評価(備考)】

積極的な講義の参加(ディスカッション)を望みます。毎回、リアクションペーパーなどで確認すると同時に、しっかりと講義の内容について深めるために課題図書のリーディングを指示します。しっかりとテキストを読んでいることが必要条件として求められています。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

講義の中で適宜ミニレポート、試験を実施します。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「1、いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することにより自然、社会、文化、環境に対して、人間として特に「生きる意味、意義」を中心として、総合的に考え、学んでいくことができるようにします。「食」「いのち」「環境」をキーワードとして、この困難な世の中にいかに力強く「生きて」「いく」かを真剣に学んでいきたいと思っています。

【テキスト】

正木高志『木を植えましょう』南方新社

【参考文献】

山田勇『世界森林報告』岩波新書
長沼毅『鉄といのちの物語』ウェッジ選書
前田達雄、真崎明『命の恩人 大山倍達』路書房

【備考】

参考文献は、講義の中でも適宜紹介していきます。基本的には配布資料。

食といのちと環境Ⅱ		
科目ナンバー	ICS2206-L	
2単位：後期1コマ	2～3年	
上村 敏文		

【科目補足情報】

実際にいろいろな場所に出かけることをします。オリエンテーションには必ず出席すること。前期、そして履修期間中に日程を掲示しますから、確認をしてください。

【到達目標】

食といのちの尊さを学ぶ。またその先には環境問題を視野に入れる。南アルプス、甲府のスモモ園、ブドウ園での農作業(雑草取り、間引き、収穫等)。地域の農家との交流をしながら日本、世界の農業、環境について考えていく。また南アルプス、山梨、あるいは会津のクリスチャン農家に分宿し対話を通して、日本の農業と環境(原子力の影響等)について考える。また、会津の特別講演を通していのちの大切さについて学ぶ。

【履修の条件】

食といのちと環境Ⅰを必ず履修していること。後期は収穫など、坂崎玉県坂戸近郊、越生梅林などの農業実習を3回程度、週末などの空いている時間を活用して農作業を行います。また、希望者にはアジア学院(栃木西那須野)や、福島県の会津農民福音学校を紹介するが、参加の義務はありません(参加する場合は、目的地までの交通費、食費、宿泊費は各自実費負担)。賀川豊彦の農村伝道とキリスト教の現状を体験する。会津若松の農家に分宿してそれぞれの農家の方々と交流する。学内の講義と併行して積極的に体験型のモデルを提供するので、できるだけその機会を活用することに関心がある学生の履修を期待します。前期に引き続き、学内、近隣農家の自然環境について、できるだけ野外に出て見学、軽作業を実施します。

【講義概要】

前期の「食といのちと環境Ⅰ」に引き続いて、「食」「いのち」「環境」のキーワードに基づいて講義をします。また南アルプスの農耕放棄地への植林(すもも)、アジア学院の農業体験、またブッチャリングを通して、日本の農業、そして世界の農業へと視野を広げていくことを講義以外に希望者には情報を与えます。毎年、行われている会津農民福音学校に参加することも奨励します。日本では現在あまり知られてはいませんが、世界ではガンジー、シュバイツァーと並び称された賀川豊彦の農村伝道とキリスト教の現状を体験する。会津若松の農家では分宿してそれぞれの農家の方々と交流することも希望者には情報を提供する。オリエンテーションには改めて全体構造を把握します。学内の植生について常に心を配りつつ、その変化を記録していきます。聖書の中から食、いのち、環境とかかわることを探しみみんなで共有しつつ、日本だけではなく、アジア、アフリカ、世界にも目を向けてみるようにします。基本的には学内外で集中的に実践活動に重きを置いていきますが、定期的に各自の関心、取り組みに対応して講義をすすめていきますから、毎週、確認作業をします。農家などの都合、あるいは天候により日程は変更する場合があります。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション 講義の全体構造について、特に課外活動についての説明を行う。
- 第2回 アフリカの農業について 飢餓とのたたかい
- 第3回 アジア学院(栃木県西那須野)農業研修、アジア・アフリカの研修生のチャレンジ
- 第4回 アメリカの農業について 土地利用と森林伐採の矛盾
- 第5回 世界の農業の趨勢 「水戦争」と「土地」
- 第6回 大学内園芸、近隣の農地を視察
- 第7回 近郊の農家の状況についての学習
- 第8回 日本の林業についての現状について

- 第9回 植林の文化 砂漠化と森と水
- 第10回 人工知能と今後の生活
- 第11回 人工知能と将来予測される変化について
- 第12回 シンギュラリティーについて
- 第13回 技術革新と農業
- 第14回 まとめ
- 第15回 ー
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(30%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

発表や、野外活動などは積極的に評価していく。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

毎回の事前学習での準備。オリエンテーションには必ず参加すること。実習に関しては、天候、農家との協議により講義内で繰り返し情報提供しますから、日程、場所などを確認してください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

発表などを通して、そのフィードバックをコメントシートなどを利用して積極的に行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することにより自然、社会、文化、環境に対して、人間として特に「生きる意味、意義」を中心として、総合的に考え、学んでいくことができるようになります。「食」「いのち」「環境」をキーワードとして、この困難な世の中にいかに力強く「生きて」「いくか」を真剣に学んでいきたいと思っています。

〔テキスト〕

正木高志『木を植えましょう』南方新社

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ(新)		
科目ナンバー	ISW2202-S	
2単位：前期1コマ	2年	
高山 由美子、福島 喜代子、原島 博、山口 麻衣、 岸 千代		

〔到達目標〕

実習を通してソーシャルワーカーの知識と技術を身につける。実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

〔履修の条件〕

ソーシャルワーク演習Ⅰと同Ⅱが良以上で単位できていること。社会福祉原論Ⅰと同Ⅱ、社会福祉入門については単位取得できていること。ソーシャルワーク実習Ⅰを履修すること。ただし、社

会福祉士受験資格を目指す場合は、社会福祉原論Ⅰと同Ⅱ、社会福祉入門は要件が異なるため、ソーシャルワーク演習Ⅲを履修する際には注意すること。

〔講義概要〕

社会福祉士資格取得のために指定された施設・機関において1か所目の実習(30時間以上、概ね4日～8日間)を行うための準備を行う。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション/実習及び実習指導の意義(スーパービジョン含む。)
- 第2回 実習を行う機関に関する基本的な理解と地域アセスメント
- 第3回 実習先の施設・機関の理解
- 第4回 実習先機関における職員の専門性や業務および地域住民やボランティア等に関する基本的な理解
- 第5回 ソーシャルワークの価値、倫理、個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解
- 第6回 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者による三者協議を踏まえた実習計画の作成
- 第7回 実習記録への記録内容及び記録方法
- 第8回 実習先で、地域住民やボランティア等と基本的なコミュニケーションを行い、適切に関わり、円滑な人間関係を形成する
- 第9回 実習内容の振り返り
- 第10回 実習内容の振り返り
- 第11回 実習記録を踏まえた課題の整理
- 第12回 実習報告書(総括レポート)の作成
- 第13回 実習生、実習担当教員、実習指導者の三者による実習後の評価
- 第14回 全体の総括とプレゼンテーション
- 第15回 ー
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

実習準備の達成度等を総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習)が必要となる。実習の準備として必要なことを調べ、課題に取り組む。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題については適宜コメントをフィードバックする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社

会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と意思を言語化する力を身に付ける。

【テキスト】

『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

【備考】

実務経験のある教員による科目

ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習指導を行う。

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ(新)

科目ナンバー	ISW 2203-S
2単位：後期1コマ	2～3年
高山 由美子、加藤 純、浅野 貴博、廣瀬 圭子、 岸 千代、下ノ本 直美、鈴木 喜子	

【到達目標】

実習を通してソーシャルワーカーの知識と技術を身につける。実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

【履修の条件】

社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。

【講義概要】

社会福祉士資格取得のために指定された施設・機関において現場実習（ソーシャルワーク実習Ⅱとして28日間以上、210時間以上）を行うための準備を行う。

■授業計画

第1回	オリエンテーション/実習の目的の理解
第2回	実習及び実習指導の意義（スーパービジョン含む。）
第3回	実習を行う実習分野の理解
第4回	実習を行う施設・機関の法的位置づけの理解
第5回	実習先のソーシャルワーカーの専門性や業務に関する基本的な理解
第6回	実習先の他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解
第7回	実習を行う実習分野の利用者の理解
第8回	ソーシャルワークの価値、倫理、個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解
第9回	実習目標の設定
第10回	実習身上書の作成
第11回	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三

者協議を踏まえた実習計画の作成

第12回 実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解

第13回 実習を行う施設・事業所のある地域アセスメント

第14回 多様な施設・機関における現場体験学習や見学実習

第15回 -

第16回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

【成績評価(備考)】

参加型授業であるため、実習の振り返りの言語化、他の学生へのフィードバック等の発言、毎回のリアクションペーパーの記述内容を評価する。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習）が必要となる。

実習の準備として必要なことを調べ、課題に取り組む。

【試験・レポート等のフィードバック】

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題については適宜コメントをフィードバックする。

【ディプロマポリシーとの関連性】

2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と意思を言語化する力を身に付ける。

【テキスト】

『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

【備考】

実務経験のある教員による科目

ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習指導を行う。

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ(新)

科目ナンバー	ISW 2304-S
2単位：前期1コマ	3～4年
高山 由美子、加藤 純、浅野 貴博、廣瀬 圭子、 岸 千代、下ノ本 直美、鈴木 喜子	

【到達目標】

ソーシャルワーク実習の準備が完成する。ソーシャルワーク実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することが

できる。ソーシャルワーク実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

〔履修の条件〕

社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅳ及びソーシャルワーク演習Ⅳを並行履修すること。

〔講義概要〕

ソーシャルワーク実習Ⅱと並行して履修する。週に1回帰校して、少人数(概ね10人前後)の演習形式で討議を行う。また、実習指導教員からグループ指導及び個人指導を受ける。理論と実践の統合を行う。

■授業計画

第1回	実習目標と実習計画の確認
第2回	実習指導、スーパービジョン
第3回	実習分野と地域社会の理解
第4回	実習先の施設・機関の理解
第5回	実習先の利用者の理解
第6回	実習先で関わる他の職種の専門性に関する基本的理解
第7回	実習先で必要とされるソーシャルワークの知識及び技術
第8回	ソーシャルワークの価値、倫理、個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解
第9回	実習記録への記録内容及び記録方法
第10回	利用者の支援計画とその実施、評価
第11回	巡回指導
第12回	実習分野における相談援助と自己覚知
第13回	実習の振り返りと自己評価
第14回	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習報告書(総括レポート)の作成
第15回	-
第16回	-

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

参加型授業であるため、実習の振り返りの言語化、他の学生へのフィードバック等の発言、毎回のリアクションペーパーの記述内容を評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。

授業ごとに、同じ分野で実習を行っている他の学生と討議を行い、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。

実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点につい

て、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題や疑問点については適宜コメントをフィードバックする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

〔テキスト〕

『実習の手引き』ルーテル学院大学。
その他、適宜授業の中で指示する。

〔参考文献〕

授業の中で適宜指示する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習指導を行う。

ソーシャルワーク実習指導Ⅳ(新)

科目ナンバー	ISW 2305-S
2単位：前期1コマ	3～4年
高山 由美子、加藤 純、浅野 貴博、廣瀬 圭子、 岸 千代、下ノ本 直美、鈴木 喜子	

〔到達目標〕

ソーシャルワーク実習の準備が完成する。
ソーシャルワーク実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。
ソーシャルワーク実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

〔履修の条件〕

社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅳ及びソーシャルワーク演習Ⅲを並行履修すること。

〔講義概要〕

ソーシャルワーク実習Ⅱの履修と並行して履修する。週に1回帰校して、少人数(概ね10人前後)の演習形式で討議を行う。また、実習指導教員からグループ指導及び個人指導を受ける。理

論と実践の統合を行う。

■授業計画

- 第1回 実習目標と実習計画の確認
- 第2回 実習指導、スーパービジョン
- 第3回 実習分野と地域社会の理解
- 第4回 実習先の施設・機関の理解
- 第5回 実習先の利用者の理解
- 第6回 実習先で関わる他の職種の専門性に関する基本的理解
- 第7回 実習先で必要とされるソーシャルワークの知識及び技術
- 第8回 ソーシャルワークの価値、倫理、個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解
- 第9回 実習記録への記録内容及び記録方法
- 第10回 利用者の支援計画とその実施、評価
- 第11回 巡回指導
- 第12回 実習分野における相談援助と自己覚知
- 第13回 実習の振り返りと自己評価
- 第14回 実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習報告書(総括レポート)の作成
- 第15回 -
- 第16回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

【成績評価(備考)】

参加型授業であるため、実習の振り返りの言語化、他の学生へのフィードバック等の発言、毎回のリアクションペーパーの記述内容を評価する。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。

授業ごとに、同じ分野で実習を行っている他の学生と討議を行い、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。

実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。

【試験・レポート等のフィードバック】

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題や疑問点については適宜コメントをフィードバックする。

【ディプロマポリシーとの関連性】

1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と自己表現を言語化する力を身に付ける。

【テキスト】

『実習の手引き』ルーテル学院大学。

その他、適宜授業の中で指示する。

【参考文献】

授業の中で適宜指示する。

【備考】

実務経験のある教員による科目

ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習指導を行う。

ソーシャルワーク実習指導Ⅴ(新)

科目ナンバー	ISW 2303-S
1単位：後期1コマ	3～4年
高山 由美子、加藤 純、浅野 貴博、廣瀬 圭子、岸 千代、下ノ本 直美、鈴木 喜子	

【到達目標】

ソーシャルワーカーとしての高度な知識と技術を理解する。自身の課題について深く理解し、適切に対処することができる。ソーシャルワークの理論と実践を統合させて理解できる。

【履修の条件】

社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅳ、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ、ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導Ⅳ及び、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。

【講義概要】

少人数(概ね10人前後)の演習形式で討議を行う。また、実習指導教員からグループ指導及び個人指導を受ける。理論と実践の統合を行う。

■授業計画

- 第1回 実習の達成度の確認
- 第2回 利用者の支援計画の作成と評価
- 第3回 実習内容の振り返り
- 第4回 実習記録を踏まえた課題の整理
- 第5回 実習報告書(総括レポート)の作成
- 第6回 実習生、実習担当教員、実習指導者の三者による実習後の評価
- 第7回 実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習報告書(総括レポート)の作成
- 第8回 全体の総括とプレゼンテーション
- 第9回 -
- 第10回 -
- 第11回 -
- 第12回 -
- 第13回 -

第14回 -
第15回 -
第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

実習を振り返っての言語化、提出された実習報告書の内容等を含めて総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回におよそ50分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。

授業ごとに、同じ分野で実習を行った他の学生と討議を行い、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。

実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題については適宜コメントをフィードバックする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

〔テキスト〕

『実習の手引き』ルーテル学院大学。
その他、授業の中で適宜指示する。

〔参考文献〕

授業の中で適宜紹介する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習の振り返りと総括を行う。

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

科目ナンバー	ISW2303-S
2単位：前期1	3～4年
高山 由美子、加藤 純、浅野 貴博、廣瀬 圭子、 岸 千代、下ノ本 直美、鈴木 喜子	

〔到達目標〕

ソーシャルワーク実習の準備が完成する。

ソーシャルワーク実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。

ソーシャルワーク実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

〔履修の条件〕

社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。

ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク演習Ⅳを並行履修すること。

〔講義概要〕

ソーシャルワーク実習Ⅰと並行して履修する。週に1回帰校して、少人数(概ね10人前後)の演習形式で討議を行う。また、実習指導教員からグループ指導及び個人指導を受ける。理論と実践の統合を行う。

■授業計画

第1回	実習直前の確認事項
第2回	実習目標と実習計画の確認
第3回	実習先の施設・機関の理解
第4回	実習先の利用者の理解
第5回	実習分野と地域社会の理解
第6回	実習分野における政策・制度の理解
第7回	実習分野における相談援助
第8回	実習先で行われる介護や保育などの関連業務の基本的理解
第9回	利用者との関わり方の確認
第10回	利用者の支援計画をたててみる
第11回	巡回指導
第12回	実習分野における相談援助と自己覚知
第13回	実習の振り返りと自己評価
第14回	実習報告書(総括レポート)の作成
第15回	-
第16回	-

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

参加型授業であるため、実習の振り返りの言語化、他の学生へのフィードバック等の発言、毎回のリアクションペーパーの記述内容を評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。

授業ごとに、同じ分野で実習を行っている他の学生と討議を行い、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。

実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題や疑問点については適宜コメントをフィードバックする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

〔テキスト〕

『実習の手引き』ルーテル学院大学。

その他、適宜授業の中で指示する。

〔参考文献〕

授業の中で適宜指示する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目

ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習指導を行う。

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	
科目ナンバー	ISW 2304-S
2単位：前期1コマ	3～4年
高山 由美子、加藤 純、浅野 貴博、廣瀬 圭子、 岸 千代、下ノ本 直美、鈴木 喜子	

〔到達目標〕

ソーシャルワーク実習の準備が完成する。

ソーシャルワーク実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。

ソーシャルワーク実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

〔履修の条件〕

社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。

ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ及びソーシャルワーク演習Ⅳを並行履修すること。

〔講義概要〕

ソーシャルワーク実習Ⅰの履修と並行して履修する。週に1回帰校して、少人数(概ね10人前後)の演習形式で討議を行う。また、実習指導教員からグループ指導及び個人指導を受ける。理論と実践の統合を行う。

■授業計画

第1回	実習直前の確認事項
第2回	実習目標と実習計画の確認
第3回	実習先の施設・機関の理解
第4回	実習先の利用者の理解
第5回	実習分野と地域社会の理解
第6回	実習分野における政策・制度の理解
第7回	実習分野における相談援助
第8回	実習先で行われる介護や保育などの関連業務の基本的理解
第9回	利用者との関わり方の確認
第10回	利用者の支援計画をたててみる
第11回	巡回指導
第12回	実習分野における相談援助と自己覚知
第13回	実習の振り返りと自己評価
第14回	実習報告書(総括レポート)の作成
第15回	－
第16回	－

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

参加型授業であるため、実習の振り返りの言語化、他の学生へのフィードバック等の発言、毎回のリアクションペーパーの記述内容を評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。

授業ごとに、同じ分野で実習を行っている他の学生と討議を行い、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。

実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題や疑問点については適宜コメントをフィードバックする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門

職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と意思を言語化する力を身に付ける。

〔テキスト〕

『実習の手引き』ルーテル学院大学。
その他、適宜授業の中で指示する。

〔参考文献〕

授業の中で適宜指示する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習指導を行う。

ソーシャルワーク実習指導Ⅳ

科目ナンバー	ISW 2305-S
1単位：後期1コマ	3～4年
高山 由美子、加藤 純、浅野 貴博、廣瀬 圭子、 岸 千代、下ノ本 直美、鈴木 喜子	

〔到達目標〕

ソーシャルワーカーとしての高度な知識と技術を理解する。
自身の課題について深く理解し、適切に対処することができる。
ソーシャルワークの理論と実践を統合させて理解できる。

〔履修の条件〕

社会福祉士のための実習を終えた者が履修する科目である。
ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク実習Ⅲのいずれかを履修する年度に必ず履修すること。
授業日は掲示等で確認すること。
社会福祉入門Ⅰ、Ⅱ（2014年以降入学者は社会福祉入門、社会福祉の基礎）、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、同Ⅳ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲを履修済みであること。

〔講義概要〕

少人数(概ね10人前後)の演習形式で討議を行う。また、実習指導教員からグループ指導及び個人指導を受ける。理論と実践の統合を行う。

■授業計画

第1回	実習の達成度の確認
第2回	実習評価の確認
第3回	実習内容の振り返り
第4回	実習記録の振り返り
第5回	実習報告書の確認
第6回	社会福祉の理論と実践の統合
第7回	専門職としての自覚
第8回	実習と実習指導の総括
第9回	-
第10回	-
第11回	-

第12回	-
第13回	-
第14回	-
第15回	-
第16回	-

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

実習を振り返っての言語化、提出された実習報告書の内容等を含めて総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回におよそ50分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。
授業ごとに、同じ分野で実習を行った他の学生と討議を行い、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。
実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題については適宜コメントをフィードバックする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と意思を言語化する力を身に付ける。

〔テキスト〕

『実習の手引き』ルーテル学院大学。
その他、授業の中で適宜指示する。

〔参考文献〕

授業の中で適宜紹介する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習の振り返りと総括を行う。

ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ

科目ナンバー	ISW 2308-S
2単位：後期1コマ	3年
西原 雄次郎	

〔到達目標〕

精神保健福祉相談援助に関する知識と技術について、個別の体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得する。社会福祉の現場における精神障害者等に対するソーシャルワーク援助の事例について、課題を捉え、解決に向けた総合的かつ包括的な援助について検討し、学ぶ。そのとき、ソーシャルワーカーとして思考し、援助における行為を想定し、実践できるようにする。

〔履修の条件〕

原則として、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰを履修していること。精神保健福祉援助実習指導Ⅰと並行履修すること。精神保健福祉実習を履修前に履修すること。

〔講義概要〕

少人数のグループ討議を中心に事例検討を行う。社会福祉の現場における精神障害者等に対するソーシャルワーク援助の事例について、課題を捉え、解決に向けた総合的かつ包括的な援助について検討し、学ぶ。すべての事例において、権利擁護、自己決定、当事者主体ごく当たり前の生活、社会正義、社会的復権等を実践的に考察する。

■授業計画

第1回	オリエンテーション、講義のすすめ方 これまでの履修によって身に付けた個々の受講者がかかえる諸課題の現状を受講者自身も把握し、それに応じた講義のすすめ方を提案する。また事例検討の進め方について基本的な確認を行う。
第2回	障害福祉サービス事業所におけるソーシャルワーク実践 (背景として障害者基本法、障害者総合支援法、障害者差別解消法、障害者虐待防止法等の理解)
第3回	司法(刑務所、矯正施設、保護観察所等)におけるソーシャルワーク実践(背景として触法精神障害者支援、刑の一部執行猶予制度、医療観察法、地域生活定着支援センター等の理解、)
第4回	行政機関とソーシャルワーク実践 (背景として生活保護制度、障害年金制度、各種手当等の理解)
第5回	医療機関におけるアルコール依存症者への受診、受療支援の実際 (背景として精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、アルコール健康障害対策基本法等の理解)
第6回	児童養護施設におけるソーシャルワーク実践(児童虐待への対応) (背景として児童福祉法、児童虐待防止法等の理解)
第7回	教育機関における不登校、ひきこもり、家族支援 (スクールソーシャルワーカー・教員・スクールカウンセラー等々との連携・協働等を視野にいれて)

- 第8回 自立支援協議会などの合議体におけるソーシャルワーク実践
(地域共生社会づくりに貢献する構成メンバーの一員として、どの様に活動するべきかを視野に入れて)
- 第9回 労働分野におけるソーシャルワーク実践
(背景として、職場ストレス、リワーク支援、労働安全衛生法等の理解)
- 第10回 貧困・低所得者・ホームレスのソーシャルワーク実践
(背景として、社会的排除、社会的孤立、居住支援制度、生活困窮者自立支援制度等の理解)
- 第11回 高齢者福祉施設・機関におけるソーシャルワーク実践
(背景として介護保険法、老人福祉法、高齢者虐待防止法等の理解)
- 第12回 地域生活支援とソーシャルワーク実践
(成年後見制度を理解し、これを活用して地域生活を継続する取り組み例から考える。)
- 第13回 当事者活動とソーシャルワーク実践
(ピアサポート、自助グループ活動等の実情を理解し、これを活用して地域生活を継続する取り組み例から考える。)
- 第14回 ソーシャルワークの理論と実践の統合、全体のまとめ
(全体を振り返り、足らなかった部分を補い、精神保健福祉士の役割について概観する。)
- 第15回 ー
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

授業への出席状況、授業ごとのFeedbackの内容、参加型授業における授業への貢献度等を総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

参加型授業における授業への貢献度を評価する。実習報告書の内容等を含めて総合的に評価する。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

レポート課題、実習報告、実習記録に対するフィードバックは、実習指導の授業内、また、個別指導でフィードバックを行っていく。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。
この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を、精神保健福祉の現場で実践できるようにする

〔テキスト〕

中央法規出版、最新精神保健福祉士養成講座『ソーシャルワーク演習』[精神専門]を用いる他、『実習の手引き』ルーテル学院大学や、授業の中で適宜指示する。

〔参考文献〕

受講生の関心等を聴きながら、授業時に適宜紹介する。

精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ

科目ナンバー	ISW 2404-S
2単位：後期1コマ	4年
鈴木 あおい	

〔到達目標〕

精神保健福祉相談援助に関する知識と技術について、個別の体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得する。ソーシャルワーカーとして、自身の課題について深く理解し、適切に対処できる。ソーシャルワークの理論と実践を統合させて理解できる。

〔履修の条件〕

精神保健福祉実習指導Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲを履修済みであること。
精神保健福祉援助演習(専門)Ⅰを履修済みであること。
精神保健福祉実習を履修する年度に必ず履修すること。授業日は掲示等で確認すること。
社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、同Ⅳ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、同Ⅳを履修済みであること。

〔講義概要〕

少人数(概ね10人前後)の演習形式で討議を行う。また、グループ指導及び個人指導を受ける。
精神保健福祉実習の体験を踏まえて、事例検討を行い、また、ロールプレイなどの実技指導を行う。

■授業計画

第1回	オリエンテーション、講義のすすめ方、予習復習について
第2回	精神保健福祉実習における体験の振り返り
第3回	精神保健福祉実習における課題の発見
第4回	入院、急性期の利用者や家族への相談援助の実際
第5回	退院支援、地域移行、地域支援に向けた相談援助の実際
第6回	利用者の理解とニーズ把握、支援計画の作成の実際
第7回	利用者とその家族の権利擁護及び支援の実際
第8回	多職種連携とチームアプローチ
第9回	ピアサポート、リカバリー支援の実際
第10回	アルコール依存等への支援の実際
第11回	教育・就労支援の実際
第12回	経済的支援、住居支援の実際
第13回	精神科リハビリテーションの実施、危機介入の実際
第14回	社会福祉の理論と実践の統合、全体のまとめ
第15回	-
第16回	-

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

参加型授業における授業への貢献度を評価する。実習報告書の内容等を含めて総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業ごとに、さまざまなテーマで話し合いが行われる。テーマに沿って出された課題の予習・復習を行うこと。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

レポート課題、実習報告、実習記録に対するフィードバックは、実習指導の授業内、また、個別指導でフィードバックを行っていく。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。
この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を、精神保健福祉の現場で実践できるようにする。

〔テキスト〕

『実習の手引き』ルーテル学院大学。
その他、授業の中で適宜指示する。

〔参考文献〕

授業の中で適宜紹介する。

〔備考〕

精神科ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、相談援助に関する演習を事例を中心に行う。

精神保健福祉援助実習指導Ⅰ

科目ナンバー	ISW 2306-S
2単位：後期1コマ	3年
福島 喜代子、大曲 睦恵	

〔到達目標〕

精神保健福祉援助実習に向けてソーシャルワーカーの知識と技術を試行と省察により身につける。自身の課題について理解し、研鑽を積むことができる。ソーシャルワークの理論と現場における実践を統合し理解を深められる。精神保健福祉実習に向けての準備ができる。

〔履修の条件〕

精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。
ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰを履修済みであること。また、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、社会福祉入門、社会福祉の基礎、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、同Ⅳ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、同Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、同Ⅳ、同Ⅴを履修済みであること。上記の16科目いずれもが「良」以上の成績で、かつ、13科目以上が「優」であること。
3年次前期の履修希望アンケートへの回答、事前説明会への参加、課題の提出等、手続きに沿って許可を得た者のみ3年次後期に履修できる。精神保健福祉分野における実習を希望する理由が明確であることが求められる。
原則として、精神保健福祉士の指定科目の講義科目を履修済み、あるいは並行履修中であること。

〔講義概要〕

少人数(概ね5～10人)の演習形式の授業で、個別指導及び集団指導を行う。精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク実習について、準備を重ねる。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション、講義の進め方、授業の予習復習の仕方について
- 第2回 精神保健医療福祉の利用者の理解
- 第3回 精神保健医療福祉の病院とそのサービスの理解
- 第4回 精神保健福祉分野における事業所とそのサービスの理解
- 第5回 精神障害者を取り巻く地域社会の理解
- 第6回 精神保健福祉領域のソーシャルワークに関する知識と技術の理解
- 第7回 精神保健福祉領域のソーシャルワーカーの役割の理解
- 第8回 精神保健福祉士に求められる職業倫理、法的責務、プライバシー保護、守秘義務
- 第9回 実習記録の内容及び記述方法
- 第10回 実習生、実習担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
- 第11回 実習指導、スーパービジョンの意義の理解
- 第12回 利用者とのかわり方
- 第13回 当事者の語りに触れる体験
- 第14回 見学実習、現場体験
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

参加型授業における授業への貢献度を評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。実習の準備教育が授業ごとにすすめられるので、ステップごとに復習すること。精神保健福祉分野の施設・機関に関する法律、制度、施設基準、サービス内容、利用者、などについて十分調べる。実習先施設・機関の法人理念、施設概要などは各自で調べる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。課題については授業内、また、個別指導でフィードバックを行っていく。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を、精神保健福祉の現場で実践できるようにする。

〔テキスト〕

『実習の手引き』ルーテル学院大学の他、適宜授業の中で指示する。

〔参考文献〕

適宜授業の中で紹介する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目

医療機関や地域における対人援助職としての実務経験を活かして、精神保健福祉領域における実習指導を行う。

精神保健福祉援助実習指導Ⅱ

科目ナンバー	ISW 2405-S
2単位：前期1 コマ	4年
福島 喜代子、大曲 睦恵	

〔到達目標〕

精神保健福祉実習の意義を理解する。精神障害者のおかれている現状と、生活実態や生活上の困難を理解する。精神保健福祉士としての倫理を身につける。

〔履修の条件〕

精神保健福祉士の受験資格のための指定科目である。精神保健福祉実習を行う者が並行履修する。

ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク演習Ⅳ、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及びソーシャルワーク実習Ⅰ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。

精神保健福祉実習及び精神保健福祉実習指導Ⅲ、精神保健福祉援助演習(専門)Ⅰを並行履修すること。

精神保健福祉士の指定科目が履修済み、あるいは並行履修中であること。

〔講義概要〕

少人数(概ね10名以下)の演習形式の授業で、個別指導及び集団指導を行う。精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク実習について、準備を重ねる。

■授業計画

- 第1回 実習直前の確認事項、実習先への連絡の仕方等の確認
- 第2回 実習目標と実習計画の確認
- 第3回 入院時の患者と家族への相談援助
- 第4回 急性期の利用者の理解
- 第5回 多職種との協働と連携の理解
- 第6回 利用者との関係の構築
- 第7回 実習先機関のスタッフ等との関係の構築
- 第8回 利用者の理解とニーズの把握
- 第9回 利用者の支援計画の作成
- 第10回 利用者との支援関係の形成
- 第11回 巡回指導
- 第12回 実習の評価

第13回 実習分野における相談援助と自己覚知

第14回 実習報告書(総括レポート)の作成

第15回 -

第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

参加型授業における授業への貢献度を評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業ごとに、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行う。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

ミニ課題に対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。レポート課題については授業内、また、個別指導でフィードバックを行っていく。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワークングやチームアプローチ等を、精神保健福祉の現場で実践できるようにする。

〔テキスト〕

『実習の手引き』ルーテル学院大学の他、適宜授業の中で指示する。

〔参考文献〕

適宜授業の中で紹介する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目

医療機関や地域における対人援助職としての実務経験を活かして、精神保健福祉領域における実習指導を行う。

精神保健福祉援助実習指導 III

科目ナンバー	ISW 2406-S
2単位：前期1コマ	4年
福島 喜代子、大曲 睦恵	

〔到達目標〕

精神保健福祉実習の意義を理解する。精神障害者のおかれている現状と、生活実態や生活上の困難を理解する。精神保健福祉士としての倫理を身につける。

〔履修の条件〕

精神保健福祉士の受験資格のための指定科目である。精神保健福祉実習を行う者が並行履修する。

ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク演習Ⅳ、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及びソーシャルワーク実習Ⅰ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。

精神保健福祉実習及び精神保健福祉実習指導Ⅱ、精神保健福祉援助演習(専門)Ⅰを並行履修すること。

精神保健福祉士の指定科目が履修済み、あるいは並行履修中であること。

〔講義概要〕

少人数(概ね10名以下)の演習形式の授業で、個別指導及び集団指導を行う。精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク実習について、準備を重ねる。

■授業計画

- 第1回 実習直前の確認事項、実習先への連絡の仕方等の確認
- 第2回 実習目標と実習計画の確認
- 第3回 退院支援と家族への相談援助
- 第4回 地域移行支援について
- 第5回 多職種との協働と連携の理解
- 第6回 利用者との関係の構築
- 第7回 実習先機関のスタッフ等との関係の構築
- 第8回 利用者の理解とニーズの把握
- 第9回 利用者の支援計画の作成
- 第10回 利用者との支援関係の形成
- 第11回 巡回指導
- 第12回 実習の評価
- 第13回 実習分野における相談援助と自己覚知
- 第14回 実習報告書(総括レポート)の作成
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

参加型授業における授業への貢献度を評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業ごとに、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行う。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

ミニ課題等に対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。レポート課題については授業内、また、個別指導でフィードバックを行っていく。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。
この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を、精神保健福祉の現場で実践できるようにする。

〔テキスト〕

『実習の手引き』ルーテル学院大学の他、適宜授業の中で指示する。

〔参考文献〕

適宜授業の中で紹介する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目

医療機関や地域における対人援助職としての実務経験を活かして、精神保健福祉領域における実習指導を行う。

ソーシャルワーク実習Ⅰ（新）	
科目ナンバー	ISW2209-T
3単位：前期1コマ	2年
高山 由美子、福島 喜代子、原島 博、山口 麻衣、岸 千代	

〔到達目標〕

実習を通して実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができるようになり、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく実践を行えるようになる。支援を必要とする人やその家族、施設・機関、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成を行えるようになる。地域や支援を必要とする人の状況を理解し、

〔履修の条件〕

ソーシャルワーク演習Ⅰと同Ⅱが良以上で単位できていること。社会福祉原論Ⅰと同Ⅱ、社会福祉入門については単位取得できていること。同時にソーシャルワーク実習指導Ⅰを履修すること。ただし、社会福祉士受験資格を目指す場合は、社会福祉原論Ⅰと同Ⅱ、社会福祉入門は要件が異なるため、ソーシャルワーク演習Ⅲを履修する際には注意すること。

〔講義概要〕

社会福祉士資格取得のために指定された施設・機関において1か所目の実習（30時間以上、概ね4日～8日間）を行う。実習中は、毎回実習記録を作成、提出し、実習指導を受ける。

■授業計画

第1回	実習のオリエンテーション
第2回	地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションをとる
第3回	地域住民やボランティア等と円滑な人間関係を形成する

第4回	実習先施設・機関が地域社会の中で果たす役割の理解
第5回	実習先施設・機関による具体的な地域社会への働きかけの理解
第6回	ソーシャルワーク実践におけるネットワーキングの実践的理解
第7回	地域における分野横断的・業種横断的な関係形成の理解
第8回	地域における社会資源の活用・調整・開発に関する理解
第9回	ソーシャルワーク実践におけるアウトリーチの実践的理解
第10回	ソーシャルワーク実践におけるファシリテーションの実践的理解
第11回	ソーシャルワーク実践におけるネゴシエーション、ソーシャルアクションの実践的理解
第12回	利用者等の権利擁護、エンパワメントの実践的理解
第13回	社会福祉士としての職業倫理と責任の理解
第14回	実習報告書の作成とプレゼンテーション
第15回	－
第16回	－

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

実習目標の達成度等を総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

実習を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行うこと。これまでの授業の復習を行うこと。実習中は毎日実習記録を書いて実習の振り返りを行い、次回の実習指導の授業及び実習日には提出をして、実習指導を受けること。実習後は実習報告書を書くこと。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

実習記録及び実習内容について実習先指導者及び実習指導教員が実習スーパービジョンとして適宜フィードバックを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、人間のいのちと価値を尊ぶ社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

〔テキスト〕

『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目

ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習を行う。

ソーシャルワーク実習Ⅱ(新)

科目ナンバー	ISW 2307-T
4単位：前期1コマ	3～4年
高山 由美子、加藤 純、浅野 貴博、廣瀬 圭子、 岸 千代、下ノ本 直美、鈴木 喜子	

〔到達目標〕

実習を通して実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができるようになり、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく実践を行えるようになる。支援を必要とする人やその家族の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。

〔履修の条件〕

社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。ソーシャルワーク実習指導Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導Ⅳ及びソーシャルワーク演習Ⅳを並行履修すること。そして、ソーシャルワーク実習指導Ⅳを後期に履修登録すること。

〔講義概要〕

社会福祉士資格取得のために指定された施設・機関において現場実習を行い、理論と実践の統合を図る。履修者は、28日、210時間以上の実習を行う。ソーシャルワーク実習Ⅰと合わせ、機能の異なる2カ所以上の実習施設で実習を行う。実習中は、毎回実習記録を作成、提出し、現場の実習指導者から実習指導を受ける。

■授業計画

第1回	実習のオリエンテーション
第2回	利用者やその関係者との基本的なコミュニケーションと、円滑な人間関係の形成
第3回	実習先施設・機関のスタッフ等との基本的なコミュニケーションを行い、円滑な人間関係を形成し、必要な指導を受ける
第4回	施設・機関の機能・サービス及び地域で果たす役割の理解
第5回	施設・機関の経営やサービスの管理運営(チームマネジメントや人材管理)の理解
第6回	多職種の連携・協働、チームアプローチ、ネットワーキングの実際を学ぶ
第7回	社会福祉士としての職業倫理の理解
第8回	ソーシャルワーカーの役割と責任の理解
第9回	利用者やその関係者との援助関係の形成
第10回	利用者を理解し、ニーズの把握し、支援計画を作成し、その実施及び評価
第11回	権利擁護、エンパワメント、ネゴシエーション、ソーシャル

アクションの理解

- 第12回 地域社会へのアウトリーチ、分野横断的・業種横断的な関係形成の理解
第13回 社会資源の活用、調整、開発に関する理解
第14回 実習報告書の作成とプレゼンテーション
第15回 -
第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

実習目標の達成度等を総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

実習を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。実習中は毎日実習記録を書いて実習の振り返りを行い、翌日には提出をして、実習指導を受けること。実習後は実習報告書を書くこと。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

実習記録及び実習内容について実習先指導者及び実習指導教員が実習スーパービジョンとして適宜フィードバックを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、人間のいのちと価値を尊ぶ社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

〔テキスト〕

『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

〔参考文献〕

授業の中で適宜紹介する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習を行う。

ソーシャルワーク実習Ⅰ

科目ナンバー	ISW 2307-T
4単位：前期1コマ	3～4年
高山 由美子、加藤 純、浅野 貴博、廣瀬 圭子、 岸 千代、下ノ本 直美、鈴木 喜子	

〔到達目標〕

実習を通してソーシャルワーカーの知識と技術を身につける。実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処すること

ができる。実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

〔履修の条件〕

社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。
社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク演習Ⅳを並行履修すること。そして、ソーシャルワーク実習指導Ⅳも履修登録すること。

〔講義概要〕

社会福祉士資格取得のために指定された施設・機関において現場実習を行い、理論と実践の統合を図る。履修者は、24日、180時間以上の実習を行う。実習中は、現場の実習指導者から実習指導を受ける。

■授業計画

第1回	オリエンテーション/実習施設・機関の理解等
第2回	利用者やその関係者との基本的なコミュニケーションと、円滑な人間関係の形成
第3回	実習先施設・機関のスタッフ、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションを行い、適切に関わり、必要な指導を受け、円滑な人間関係を形成する
第4回	利用者を理解し、ニーズを把握し、支援計画を作成する
第5回	利用者やその関係者との援助関係を形成する
第6回	利用者やその関係者の権利擁護、エンパワメントする支援、そのあり方を評価する
第7回	多職種の連携・協働、チームアプローチの実際を学ぶ
第8回	社会福祉士としての職業倫理を学ぶ
第9回	施設の就業規則の理解と組織の一員としての役割と責任を学ぶ
第10回	施設機関の経営やサービスの管理運営の実際を学ぶ
第11回	地域における施設・機関の位置づけの理解
第12回	地域社会へのアウトリーチ、ネットワークの理解
第13回	社会資源の活用、調整、開発に関する理解
第14回	実習記録の作成と自己評価
第15回	－
第16回	－

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

実習目標の達成度等を総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

実習を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。実習中は毎日実習記録を書いて実習の振り返りを行い、翌日には提出をして、実習指導を受けること。実習後は実習報告書を書くこと。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

実習記録及び実習内容について実習先指導者及び実習指導教員が実習スーパービジョンとして適宜フィードバックを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、人間のいのちと価値を尊ぶ社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

〔テキスト〕

『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

〔参考文献〕

授業の中で適宜紹介する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目

ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習を行う。

ソーシャルワーク実習Ⅲ

科目ナンバー	ISW 2308-T
4単位：通年1コマ	3～4年
高山 由美子	

〔到達目標〕

ソーシャルワーカーに必要な知識と技術を理解できる。

実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。

実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と実践を統合させて理解できる。

〔履修の条件〕

社会福祉士、精神保健福祉士受験資格取得の指定科目に該当しない実習をする者。

履修のためには、原則として、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの履修をしていること。ソーシャルワーク実習指導Ⅳに履修登録し、実習報告書を作成すること。

〔講義概要〕

原則として、福祉系の施設や機関において24日、180時間以上の実習を行う。実習中は、現場の実習指導者から実習指導を受ける。大学において、事前学習、実習中・実習後の指導を受ける。

■授業計画

第1回	実習のオリエンテーション
第2回	利用者との援助関係の形成
第3回	実習先施設・機関のスタッフ、地域住民やボランティア

- 等と適切な人間関係を形成する
- 第4回 利用者を理解し、支援計画を作成する
- 第5回 利用者やその関係者との援助関係を形成する
- 第6回 利用者の権利擁護、エンパワメントを理解する
- 第7回 多職種の連携、チームアプローチの実際を学ぶ
- 第8回 ソーシャルワーカーとしての職業倫理を学ぶ
- 第9回 組織の一員としての役割と責任を学ぶ
- 第10回 施設機関の経営やサービスの管理運営の実際を学ぶ
- 第11回 地域における施設・機関の位置づけの理解
- 第12回 アウトリーチ、ネットワーキングの理解
- 第13回 社会資源の活用、調整、開発に関する理解
- 第14回 実習報告書の作成と自己評価
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

実習目標の達成度などを総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

実習を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。実習中は毎日実習記録を書いて実習の振り返りを行い、翌日には提出をして、実習指導を受けること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

実習記録及び実習内容について実習先指導者及び実習指導教員が実習スーパービジョンとして適宜フィードバックを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、人間のいのちと価値を尊ぶ社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

〔テキスト〕

『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

〔参考文献〕

授業の中で適宜紹介する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習指導を行う。

ソーシャルワーク現場体験実習

科目ナンバー	ISW2313-T
4単位：通年1コマ	3～4年
高山 由美子	

〔到達目標〕

ソーシャルワーカーに必要な知識と技術を理解できる。
実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。
実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と実践を統合させて理解できる。

〔履修の条件〕

社会福祉士、精神保健福祉士受験資格取得の指定科目に該当しない実習をする者。
履修のためには、原則として、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの履修をしていること。ソーシャルワーク実習指導Ⅴに履修登録し、実習報告書を作成すること。

〔講義概要〕

原則として、福祉系の施設や機関において28日、210時間以上の実習を行う。実習中は、現場の実習指導者から実習指導を受ける。大学において、事前学習、実習中・実習後の指導を受ける。

■授業計画

- 第1回 実習のオリエンテーション
- 第2回 利用者との援助関係の形成
- 第3回 実習先施設・機関のスタッフ、地域住民やボランティア等と適切な人間関係を形成する
- 第4回 利用者を理解し、支援計画を作成する
- 第5回 利用者やその関係者との援助関係を形成する
- 第6回 利用者の権利擁護、エンパワメントを理解する
- 第7回 多職種の連携、チームアプローチの実際を学ぶ
- 第8回 ソーシャルワーカーとしての職業倫理を学ぶ
- 第9回 組織の一員としての役割と責任を学ぶ
- 第10回 施設機関の経営やサービスの管理運営の実際を学ぶ
- 第11回 地域における施設・機関の位置づけの理解
- 第12回 アウトリーチ、ネットワーキングの理解
- 第13回 社会資源の活用、調整、開発に関する理解
- 第14回 実習報告書の作成と自己評価
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

実習目標の達成度などを総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

実習を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査

等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。実習中は毎日実習記録を書いて実習の振り返りを行い、翌日には提出をして、実習指導を受けること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

実習記録及び実習内容について実習先指導者及び実習指導教員が実習スーパービジョンとして適宜フィードバックを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、人間のいのちと価値を尊ぶ社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と自己を言語化する力を身に付ける。

〔テキスト〕

『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

〔参考文献〕

授業の中で適宜紹介する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目

ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習指導を行う。

精神保健福祉実習		
科目ナンバー	ISW 2408-T	
4単位：前期1コマ	4年	
福島 喜代子、大曲 睦恵		

〔到達目標〕

精神保健福祉援助実習を通してソーシャルワーカーの知識と技術を身につける。実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

〔履修の条件〕

精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。

社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーカー実習指導Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、精神保健福祉実習指導Ⅰ全てを「良」以上の成績で履修済みであること。

精神保健福祉実習指導Ⅱ、同Ⅲ、精神保健福祉援助演習（専門Ⅰ）を並行履修すること。精神保健福祉援助演習（専門Ⅱ）も履修登録すること。

その他、履修条件については、講義概要の精神保健福祉士資格の該当ページを参照すること。

〔講義概要〕

精神保健福祉士資格取得のために指定された施設・機関にお

いて現場実習を行い、理論と実践の統合を図る。履修者は、2カ所以上の施設・機関において、合わせて24日、210時間以上の実習を行う。実習中は、現場の実習指導者から実習指導を受ける。

なお、社会福祉士の受験資格取得のための実習（ソーシャルワーク実習Ⅰ）の履修を終えた者は、必要とされる実習時間が60時間免除される。

■授業計画

- 第1回 入院時あるいは急性期の患者さんやその家族への相談援助を経験する。
- 第2回 入院中の患者さんとの関係を構築する。
- 第3回 退院、地域移行・地域支援の相談援助を経験する。
- 第4回 多職種や地域関係機関との協働と連携、チームアプローチを経験する。
- 第5回 患者さんの日常生活や社会生活状の問題に対する相談援助を経験する。
- 第6回 障害福祉サービス事業所等における利用者との関係の構築
- 第7回 利用者のニーズの把握、支援計画の作成
- 第8回 利用者やその家族との支援関係の構築
- 第9回 利用者やその関係者への権利擁護、エンパワーメント
- 第10回 精神保健福祉士としての職業倫理、法的義務の理解
- 第11回 スタッフの就業規定等の理解、組織の一員としての役割と責任の理解
- 第12回 組織の経営や、サービスの管理運営の実際
- 第13回 地域へのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発の理解
- 第14回 実習先施設・機関における実習指導及び巡回指導
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(60%)

〔成績評価(備考)〕

実習目標の達成度等を総合的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行う。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

実習記録に対するフィードバックは、実習指導の授業内、また、個別指導でフィードバックを行っていく。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を、精神保健福祉の現場で実践できるようにする。

〔テキスト〕

『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

【備考】

実務経験のある教員による科目

精神科ソーシャルワーカーや医療機関の対人援助職としての実務経験を活かして、精神保健福祉領域における実習指導を行う。

心理実習 I

科目ナンバー	ICP 2205-T	
2単位：後期1コマ		2年
高城 絵里子、石川 与志也、谷井 淳一、加藤 純、 田副 真美、植松 晃子		

【科目補足情報】

受講定員は30名とする。

【到達目標】

「心理実習 I」および「心理実習 II」において、公認心理師資格の取得に必要な5分野（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働）、80時間以上の実習を行う。

「心理実習 I」においては、特に以下の点を到達目標とする。

1. 実習に臨むための準備として、実習先となる分野の理解を深め、実習に取り組む姿勢と、実習に必要な知識および技術を養う。
2. 学内実習機関の見学実習を行い、臨床現場における公認心理師の職責の理解を深める。

なお、心理実習 I の学びは、以下の内容を含むものである。

- ①要支援者へのチームアプローチ
- ②多職種連携及び地域連携
- ③公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

【履修の条件】

- ・公認心理師資格取得のための指定科目です。
- ・履修条件として、以下の3点を満たす必要があります。
 - (a)当該年度前期開講科目までで臨床心理系科目（別表 参照）を20単位以上の取得
 - (b)2023年度前期までの全履修科目のGPA 2.40以上
 - (c)「心理学的支援法」臨床心理学概論」の2科目に関して「良」以上の成績での単位取得
- * 詳しくは、本講義概要の「公認心理師の演習・実習について」の項を参照してください。
- * **なお、当該年度前期集中講義の科目は、上記の(a) (b)に含まれませんのでご注意ください。
- ・上記の3つの条件を満たした者が履修定員の30名を超えた場合は、GPA 上位30名を選抜します。よって、上記の条件を満たしていても心理実習 I が履修できない場合があります。
- ・心理演習と、心理実習 I は同じ年に履修し、履修登録は必ず前期に行ってください。
- ・体験型の授業ですので、すべての授業に出席し、積極的な授業参加を求めます。

【講義概要】

本科目はまず実習に取り組む姿勢を理解し、つぎに実習先となる分野と機関の理解を深め、そして、実習の記録の書き方をはじめ実習に必要な知識と技能を習得する。その上で、実際に見学実習を行う。

なお、シラバスの内容やスケジュールは、実習先の都合等により変更することがある。

■授業計画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション
公認心理師になるための必要科目としての心理実習の目的と内容の概要を理解する |
| 第2回 | 心理実習への動機と目標を明確にする |
| 第3回 | 心理実習の位置づけと取り組む姿勢を理解する |
| 第4回 | 実習先となる施設の理解①：保健医療（グループワーク） |
| 第5回 | 実習先となる施設の理解②：保健医療①（発表とディスカッション） |
| 第6回 | 実習先となる施設の理解③：保険医療②（発表とディスカッション） |
| 第7回 | 実習先となる施設の理解④：福祉（グループワーク） |
| 第8回 | 実習先となる施設の理解⑤：福祉①（発表とディスカッション） |
| 第9回 | 実習先となる施設の理解⑥：福祉②（発表とディスカッション） |
| 第10回 | 実習先となる施設の理解⑦：教育・司法犯罪・産業労働（グループワーク） |
| 第11回 | 実習先となる施設の理解⑧：教育（発表とディスカッション） |
| 第12回 | 実習先となる施設の理解⑧：司法犯罪・産業労働（発表とディスカッション） |
| 第13回 | 見学実習の準備：観察学習の視点と方法、実習記録の書き方を学ぶ |
| 第14回 | 心理実習 I のまとめ：見学実習への配属決定：動機と目標の明確化 |
| 第15回 | レポート |
| 第16回 | － |

【成績評価】

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(50%)

【成績評価(備考)】

その他の評価方法として、毎回のディスカッション・小レポートの評価および受講態度を評価する。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習、復習）を必要とする。準備学習では、ここまでの心理学および公認心理師の資格に関係する必要科目の学びの内容の復習、実習先となる分野に関する知識の習得と情報収集、授業内で出された小レポート課題を求める。

【試験・レポート等のフィードバック】

見学実習のレポートは、担当教員のコメントによるフィードバックを行う。

また、授業時のディスカッションやその他の提出課題については、授業内でフィードバックを行う。

最終課題である実習関連書類については、提出後フィードバックを行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性、4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力へ該当する。さまざまなヒューマンケアの現場への見学実習を通してケアの実際を理解すると共に、現場でのさまざまな対人関係および大学でのディスカッションを通して他者理解と自己表現の実践に取り組む。

【テキスト】

特に定めない。必要に応じて授業内で資料を配布する。

【参考文献】

特に定めない。必要に応じて文献を紹介する。

【備考】

履修希望者は必ず第1回の授業におけるオリエンテーションに出席すること。

「実務経験のある教員による科目」担当教員は臨床心理学の専門家としての実務経験を生かして、実習の指導を行う。

心理実習Ⅱ		
科目ナンバー	ICP 2302-T	
2単位：前期2/後期1コマ	3年	
高城 絵里子、石川 与志也、笹尾 千津子、 谷井 淳一、加藤 純、田副 真美、植松 晃子		

【到達目標】

「心理実習Ⅰ」および「心理実習Ⅱ」において、公認心理師資格の取得に必要な5分野(保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働)、80時間以上の実習を行う。

「心理実習Ⅱ」においては、特に以下の点を到達目標とする。

1. 実習施設の見学実習を行い、臨床現場における公認心理師の職責の理解を深める。
2. 見学実習のまとめを行うことで、各施設およびそこにおける公認心理師の仕事に関する理解を深める。

なお、「心理実習Ⅱ」の学びは、以下の内容を含むものである。

- ①要支援者へのチームアプローチ
- ②多職種連携及び地域連携
- ③公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

【履修の条件】

①「心理演習」および「心理実習Ⅰ」の成績が良以上であること。

②履修に当たっては、公認心理師になるための自覚と責任と熱意を持っている者であることを原則とする。

③本科目は公認心理師資格の取得に必要な科目としての実習であり、授業時間が実習の必要時間に含まれるため、全クラスに出席することを求める。

④この科目は、通年開講であるため、前期と後期のクラスを通年

で受講すること。

【講義概要】

心理実習Ⅱでは、前期には見学実習を行い、後期には見学実習の体験を整理し、その理解を深めることを行う。特に、実習先となる機関、および、その機関における公認心理師の仕事に対する理解を深める。そのために、前期は実習先の事前学習、学外の実習先への見学実習および見学実習の記録の作成が中心となり、後期には見学実習で学んだことをグループで発表し、クラス全体でディスカッションをすることを中心とした授業となる。

なお、シラバスの内容やスケジュールは、実習先の都合等により変更することがある。

■授業計画

- 第1回 心理実習Ⅱのオリエンテーション(前期)
- 第2回 見学実習：大学院附属臨床心理相談センター
- 第3回 見学実習事前・事後学習
- 第4回 見学実習：保健医療分野
- 第5回 見学実習事前・事後学習
- 第6回 見学実習：福祉分野/産業・労働分野
- 第7回 見学実習事前・事後学習
- 第8回 見学実習：司法・犯罪分野
- 第9回 見学実習事前・事後学習
- 第10回 見学実習：教育分野
- 第11回 見学実習事前・事後学習
- 第12回 グループ学習準備
- 第13回 グループ学習準備
- 第14回 前期のまとめ
- 第15回 心理実習Ⅱのオリエンテーション(後期)
- 第16回 事後学習：大学院附属臨床心理相談センター
- 第17回 事後学習：保健医療分野Ⅰ
- 第18回 事後学習：保健医療分野Ⅱ
- 第19回 事後学習：保健医療分野Ⅲ
- 第20回 事後学習：保健医療分野Ⅳ
- 第21回 事後学習：福祉分野Ⅰ
- 第22回 事後学習：福祉分野Ⅱ
- 第23回 事後学習：産業・労働分野Ⅰ
- 第24回 事後学習：産業・労働分野Ⅱ
- 第25回 事後学習：司法・犯罪分野Ⅰ
- 第26回 事後学習：司法・犯罪分野Ⅱ
- 第27回 事後学習：教育分野
- 第28回 「心理実習Ⅰ・Ⅱ」のまとめ：実習全体の振り返りと記録の確認
- 第29回 -
- 第30回 -
- 第31回 -
- 第32回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(50%)

【成績評価(備考)】

実習報告のプレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションの内容および参加態度を評価する

〔 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習、復習)を必要とする。準備学習では、実習体験の整理と発表の準備、および実習体験の理解を深めるために必要な文献を読むことを求める。また、クラスでの発表とディスカッションを踏まえたレポート課題に取り組むことを求める。

〔 試験・レポート等のフィードバック 〕

見学実習のレポートは、担当教員によるコメントでのフィードバックを行う。
また、授業時のディスカッションやその他の提出課題については、授業内でフィードバックを行う。
最終課題である実習関連書類については、提出後フィードバックを行う。

〔 ディプロマポリシーとの関連性 〕

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性、4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力へ該当する。さまざまなヒューマンケアの現場への見学実習を通してケアの実際を理解すると共に、現場でのさまざまな対人関係および大学でのディスカッションを通して他者理解と自己表現の実践に取り組む。

〔 テキスト 〕

特に定めない。必要に応じて授業内で資料を配布する。

〔 参考文献 〕

特に定めない。必要に応じて文献を紹介する。

〔 備考 〕

履修希望者は必ず第1回の授業におけるオリエンテーションに出席すること。
「実務経験のある教員による科目」担当教員は臨床心理学の専門家としての実務経験を生かして、実習の指導を行う。

世界の宗教 I

科目ナンバー	ICS 2207-L
2単位：前期1コマ	2～4年
上村 敏文	

〔 科目補足情報 〕

宗教文化士の資格に対応します。

〔 到達目標 〕

各宗教の発生と歴史について基本的な考えについて概観する。それぞれの宗教が何を根本的に主張しているかを客観的に学んでいきます。三大宗教としてのキリスト教、イスラーム、仏教を中心に、古代からさまざまな地域における宗教を学び、それぞれの特徴を学ぶことにより敬意を持って理解を深めることができるようになることを目標とします。

〔 履修の条件 〕

世界の宗教に関心がある学生は参加して下さい。意欲的な学生の参加を希望します。初回のオリエンテーションには必ず出席

をする事。

〔 講義概要 〕

それぞれの宗教がその起源から今日にいたるまで、どのような価値観を形成してきたのかについて概観します。また前期は特に宗教史の視点から歴史的にどのような変遷を遂げて来たのかに注目して講義を進めていきます。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション 全体構造を俯瞰する。
- 第2回 世界の先史・未開社会の宗教 宗教とは何か
- 第3回 古代宗教 その定義と現在
- 第4回 ユダヤ人の宗教(1) 伝統と現代
- 第5回 ユダヤ人の宗教(2) その教えと誤解
- 第6回 キリスト教(1) 初代教会とその発展
- 第7回 キリスト教(2) 日本、アジア、アフリカへの宣教
- 第8回 イスラーム教(1) 基本構造とその教え
- 第9回 イスラーム教(2) アジア、欧米への進展
- 第10回 ヒンズー教 インドの社会における宗教
- 第11回 仏教(1) 根本思想と時代背景
- 第12回 仏教(2) 中国、チベット、そして日本への広がり
- 第13回 中国人の宗教 道教を中心として
- 第14回 日本人の宗教 神道を中心として
- 第15回 レポート
- 第16回 -

〔 成績評価 〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(30%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔 成績評価(備考) 〕

発表を重視します。

〔 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 〕

各宗教について、事前事後にしっかりとフォローすること。予習は課題図書を2時間、復習には2時間を目安にします。

〔 試験・レポート等のフィードバック 〕

各主要な三大宗教を中心として、理解を深めるために、適宜簡単な小テストを講義の終わりに実施する。また、基本用語を整理するためにレポートを課す。

〔 ディプロマポリシーとの関連性 〕

「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。本学の「ルターの宗教改革の精神」に基づき、比較宗教の視座から、特にキリスト教を基軸として、他の宗教との相違、共通点を深く認識し、理解することが出来る。

〔 テキスト 〕

岸本英夫編『世界の宗教』大明堂を定本にしますが、購入はしなくても大丈夫です。適宜、講義の中で引用します。

〔 参考文献 〕

藤原聖子『世界の教科書でよむ宗教』ちくまプリマー新書
橋爪大三郎『世界は宗教で動いている』光文社新書

〔備考〕

発表を適宜課します。

文化史	
科目ナンバー	ICS2102-L
2単位：前期1コマ	1～3年
上村 敏文	

〔科目補足情報〕

宗教文化士の資格試験に対応します。

〔到達目標〕

日本文化を中心に概説的に、また大陸、外国との関係、交流にも関心を持ちつつ学んで行きます。総合的な文化的、国際的見地を養う事ができることを目標としています。

〔履修の条件〕

特にありませんが、広く文化に興味を持つことを希望します。積極的に講義に参加するために、一度は、各自が最も関心のある領域で課題を提出していただきます。内容は文化に関することであればテーマは問いません。事前に内容について個別に協議します。

〔講義概要〕

日本文化史を中心に学びつつ、古代においては朝鮮半島、中国との関係、あるいはシルクロードを通りかかるペルシア等、中東との関係を、国風文化においては、源氏物語や日記文学を取り上げつつ平安の世界を学び、中世の武家文化は特に折形の殿中礼法の初歩を実技とともに取り上げます。また、近現代においては欧米文化との交渉、交流史を学びます。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション：
全体構造と日本の文化概説
- 第2回 古代文化史 縄文と弥生 新しい考古学の成果等をふまえて
- 第3回 古代文化史 大陸、朝鮮半島との交渉
- 第4回 中古文学の世界(1)万葉集と日本文化
- 第5回 中古文学の世界(2)源氏物語にみられる音楽、文化
- 第6回 中古文学の世界(3)日記文学 女流文化の中核
- 第7回 香の文化 その起源と発展について
- 第8回 武家文化 武家礼法(折形) 伊勢流と小笠原礼法
- 第9回 茶道の世界とキリスト教
- 第10回 能楽の世界(1) 能の起源と思想
- 第11回 能楽の世界(2) キリシタン能の歴史とその可能性
- 第12回 道の文化 武士道とキリスト教
- 第13回 歌舞伎、文楽の世界 庶民の文芸の勃興について
- 第14回 日本文化とは何か。講義の後にリアクションペーパーなどで簡単にまとめをします。
- 第15回 ー
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(30%)、課題提出(20%)、

その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

日本史を高校時代に選択していない場合は、高校レベルの教科書、参考書で各時代について復習しておくこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

講義に関してのフィードバックを次回に反映させる。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。いろいろな文化を学ぶことにより、より他者を理解することが出来る。キリストの心を文化の視点から、とくに日本文化の中でどのような可能性があるかを共に考察してゆく。

〔テキスト〕

特に指定しません。講義中に適宜参考文献を紹介します。

〔参考文献〕

網野善彦「日本の歴史」岩波新書
 観世清和『新訳風姿花伝』PHP
 中野剛志『日本思想史新論』ちくま新書
 上村敏文編『日本の近代化とプロテスタンティズム』教文館
 笠谷和比古編『徳川社会と日本の近代化』思文閣
 桜井徳太郎『日本人の生と死』岩崎美術社
 坂部慶夫『聖書のことはと茶のころ』淡交社

比較文化論	
科目ナンバー	ICS2307-L
2単位：後期1コマ	3～4年
上村 敏文	

〔科目補足情報〕

「宗教文化士」の受験に対応します。

〔到達目標〕

日本文化を中心として、アジア、アフリカ、欧米の文化とを比較研究していきます。領域としては、文学、音楽、美術、建築、演劇などさまざまなジャンルが交差的に関係してきますが、基本的にはそれぞれが最も関心のある領域を深めることを最大限の目標とします。各自の関心に応じてそれぞれの分野を深めて行く事が求められます。自分の関心と照らし合わせて複合的にさまざまな文化を楽しく学んでいくことができることを目標としています。

〔履修の条件〕

積極的に講義に参加するために、一度は、各自が最も関心のある領域で発表あるいは課題提出を課します。内容は比較文化に関することであれば選択するテーマは何でも構いません。発表前に内容について個別に協議します。他に自由課題は適宜出題しますから、3本学期中に提出してもらいます。

【講義概要】

日本文化を基調として、古代から現代までの特徴ある文化体系を学びながら、並行的に人類発祥の地としてのアフリカの文化から地中海世界、インド、アジア、ヨーロッパなど広範な地域について比較文化的に学びます。「宗教を一つの社会文化現象」と把握する立場から、特にアフリカの伝統的宗教、キリスト教、イスラーム教の関係について比較、対比して歴史的、宗教学的な考察を加えて行きます。現在、アフリカにおいて何故、キリスト教、イスラーム教が急速に伸びているのかを日本、アジアの状況と比較する事により検討していきます。併せて、馴染みの少ないイスラーム文化についても学んで行きます。より身近になりつつあるテーマとして、当然知っておくべき事項を学び、中近東やアジア、アフリカなどで起きていることなどを客観的に学んでいきます。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション 講義の全体構造と到達目標を明らかにする。
- 第2回 比較文化方法論(1) 宣教師と文化観察からのスタート
- 第3回 ラフカディオ・ハーンの見聞した日本
- 第4回 日本文化と欧米との遭遇 キリシタン時代
- 第5回 ポルトガルがもたらした日本文化 能楽との関係
- 第6回 「安土桃山時代」における西洋社会の影響
- 第7回 アジアの文化と宗教 中東との交渉 シルクロード
- 第8回 中国の文化と宗教 儒教と道教
- 第9回 韓国の文化と宗教 基督教を中心として
- 第10回 インドの文化と宗教 アーリアの侵入と土着文化
- 第11回 ネパールの文化と宗教 仏教の発祥と現代
- 第12回 ハワイ、ブラジル社会と日系人 キリスト教受容
- 第13回 国際社会における日本 「無宗教」と神道、武士道
- 第14回 比較文化の視座から、日本社会を考察する。
- 第15回 ー
- 第16回 ー

【成績評価】

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(30%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

世界史、日本史の幅広い基本的な知識は必要です。弱点がある場合は高校時代の教科書などで適宜補強しておくことが望ましい。講義を通して、各種の新聞を読むことを奨励します。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

発表などのフィードバックを次の講義等で行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。比較文化の方法論を学ぶことにより、より他者、異文化を理解することが出来るようになる。ミッションスクールとして、キリスト教精神のルーツを比較文化、比較宗教の視点から考察を深めていく。

【テキスト】

特に指定しません。講義中に適宜参考文献を紹介します。

【参考文献】

シュベングラール『西洋の没落』五月書房
島岡由美子『我が志アフリカにあり』朝日新聞社
笹森建美『武士道とキリスト教』新潮新書
松原久子『驕れる白人と闘うための日本近代史』文春文庫
井上章一『日本人とキリスト教』角川ソフィア文庫

いのちのキリスト教史

科目ナンバー	ICS 2209-L
2単位：前期1コマ	2～4年
アンドリュー・ウイルソン	

【到達目標】

キリスト教の伝統の中で、人間の生命のユニークな考えと価値、その文脈、保護、境界、未来について、深く比較的理解を深める。

【履修の条件】

キリスト教学科の学生は歴史神学～IVを履修していることが望ましい。社会福祉学科と臨床心理学科の学生はキリスト教概論を履修していることが望ましい。

【講義概要】

このコースでは、人間の生命の定義と価値に対するキリスト教のユニークなあかしを紹介します。特に強調されるのは、「神のイメージの中にある」創造と、個々のイメージが社会的環境の中でどのように生まれてくるのかということです。また、合理主義の科学と古典的な神話における代替案を探り、伝道と奴隷制に対する二つの闘争におけるキリスト教人類学のデモンストレーションを行います。

■授業計画

- 第1回 命・語源と先史時代：哲学、人類学、解剖学、ダーウィン対ルソー・高貴な野蛮人の神話
- 第2回 先史時代。ダーウィン対ルソー・高貴な野蛮人の神話
- 第3回 旧約聖書1：神の姿に造られた
- 第4回 旧約聖書2：預言者たち：選民は祝福されている
- 第5回 古典の間奏曲：ヘラクレイトス、パルメニデス、プラトン、アリストテレス
- 第6回 新約聖書1：受肉：最愛の御子の屈辱
- 第7回 新約聖書2：キリストの死へのバプテスマ、キリストの人生への再生
- 第8回 ローマのキリスト教化、貧困、自治、奴隷制度のゆっくりとした消滅
- 第9回 キリスト教共同体における生活中世の合成における身体と身体
- 第10回 ルター：律法、意志、シュテーンデ、バルーフ
- 第11回 奴隷制の再興：新たな条件、新たな正当化、新たな反論
- 第12回 Ius Gentium, Ius Populum：人権と自由民主主義の出現
- 第13回 齒と爪に自然の赤。ダーウィン、ニーチェ、キリスト教社会主義、国家社会主義
- 第14回 市民的権利、教会的責任；キリスト教宣教の福音派

人類学
第15回 レポート
第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(25%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(25%)

〔成績評価(備考)〕

出席と参加：50%
レポート：50%
積極的な質疑と応答

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性。総合的・実践的な学習能力。

〔テキスト〕

聖書と授業ごとにレジメを配布します。

日本における死生学		
科目ナンバー	ICS 2403-L	
2単位：前期1コマ	4年	
石居 基夫		

〔到達目標〕

日本人の伝統的死生観に学び、現代日本の死と生に関する問題を考察する力を養う。

〔履修の条件〕

特になし。

〔講義概要〕

日本の宗教・文化に一貫して流れる死生観を取り上げ、日本人の霊的ニーズのあり方に一つの焦点を当てて学んでいく。特に「自然志向型の霊性」と「共同体志向型の霊性」の二つについて歴史的な視点から見ていくことが大きなテーマとなる。死といのちについて、どのような物語を私たち日本人が共有してきているのかを探る。

■授業計画

第1回 イントロダクション 日本人の死生観
第2回 古事記(神道)に見る死生観①
第3回 古事記(神道)に見る死生観②
第4回 日本の仏教受容と死生観①
第5回 日本の仏教受容と死生観②
第6回 日本的な美意識と死生観①

第7回 日本的な美意識と死生観②
第8回 死の問題を考えること
第9回 山岳信仰と死生観
第10回 民間信仰と死生観
第11回 輪廻、生まれ変わりの思想
第12回 祖先儀礼
第13回 伝統的死生観と現代①
第14回 伝統的死生観と現代②
第15回 -
第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

日頃から、新聞や雑誌、小説などの題材をとおして「死と生」に関する現代的な問題に関心を持つように務める。授業の復習と読書やノート作成に毎週各授業におよそ200分の準備学習を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーには次回の授業で応答する。提出のレポートの返還。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

日本人の死と生についての理解を歴史的に学ぶことによって、「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3.総合的・実践的な学習能力」を養う。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考文献〕

加藤周一他『日本人の死生観 上・下』(岩波新書)、柳田邦男『犠牲』(文春文庫)、石居基夫『キリスト教における死と葬儀～現代の日本的霊性との出会い』(キリスト新聞社)その他、授業内で参考文献を紹介する。

キリスト教と死生学		
科目ナンバー	ICS 2404-L	
2単位：後期1コマ	4年	
石居 基夫		

〔到達目標〕

キリスト教の死と生、また復活の思想の形成とその神学的考察の意味を理解し、キリスト教がこの死といのちについて、現代の私たちに何をメッセージとしているか深く考察する。

〔履修の条件〕

特になし。前期「日本における死生学」を履修していることは望ましい。

【講義概要】

「日本における死生学」では日本の伝統的な死生観にもとづき日本の実践的な死者儀礼について理解を深めた。この授業では、キリスト教における死や死者に対する聖書の理解、また具体的な思想と実勢位の展開を追うことを大きなテーマとする。現代の日本において私たちの経験する「死」の問題に、日本のキリスト教はどのように向かい合うのかということを考えたい。（日本のキリスト教におけるスピリチュアルケアのあり方への探究を目指す。）

■授業計画

- 第1回 イントロダクション・死と生についてキリスト教史における課題と理解を深めることについて
- 第2回 旧約聖書の死の理解①
- 第3回 旧約聖書の死の理解②
- 第4回 新約聖書の死の理解①
- 第5回 新約聖書の死の理解②
- 第6回 古代教会の死の捉え方とケア
- 第7回 中世教会の死の捉え方とケア①
- 第8回 中世教会の死の捉え方とケア②
- 第9回 宗教改革の神学における死の問題
- 第10回 ルターと「死の問題」
- 第11回 近現代神学における死の理解
- 第12回 キリスト教とスピリチュアルケア
- 第13回 キリスト教と葬儀
- 第14回 現代のキリスト教における死といのちへのまなざし
- 第15回 ー
- 第16回 ー

【成績評価】

試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

キリスト教の歴史を含めた総合的な予習、授業内で紹介した聖書や図書の読書など復習に各授業回におよそ200分の準備学習を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

リアクションペーパーなどについては次回の授業において応答する。またレポートは返却する。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3.総合的・実践的な学習能力」を養う。キリスト教についての歴史的理解を深めつつ、特に死と生の理解を通し理論と実践を関連づける力を身につける。

【テキスト】

聖書(日本聖書協会・新共同訳)

【参考文献】

日本カトリック司教団『いのちのへのまなざし』、石居基夫『キリスト教の死と葬儀』など、必要に応じて、クラスにおいて紹介する。

キリスト教カウンセリング

科目ナンバー	ICS 2308-L
2単位：後期1コマ	3～4年
河村 従彦	

【到達目標】

一般的なカウンセリングとキリスト教カウンセリングの異同を理解する。臨床心理学の知見をベースに、キリスト教の神学と理念に基づく心理援助のあり方を学ぶ。将来、心理援助に関わることも視野に、自己洞察を深めることを目的とする。

【履修の条件】

特になし

【講義概要】

基本的に講義形式で授業を進める。積極的な質問やコメントは歓迎。随時ディスカッションを行う。キリスト教や心理学の知識(information)を身につけ、その上で自分ならどう考えるかを考察し、自らのスタンスを構築する(formation)。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション、キリスト教カウンセリングの意味と特徴
- 第2回 キリスト教カウンセリングの神学的基礎① ～聖書の人間観、臨床心理学との異同
- 第3回 キリスト教カウンセリングの神学的基礎② ～聖書の人間観、自立してゆく人間
- 第4回 キリスト教カウンセリングの神学的基礎③ ～聖書の人間観、信仰発達論
- 第5回 キリスト教カウンセリングの神学的基礎④ ～キリスト論的視座
- 第6回 援助者の資質 ～自己の人格形成の評価、自己洞察の深化
- 第7回 キリスト教カウンセリングの基本的姿勢 ～基本スタンス、プロセス、解決
- 第8回 スピリチュアリティ ～存在の根拠への目線
- 第9回 ターミナルケア ～たましいへの究極の援助
- 第10回 援助の具体例 ▼ビデオ視聴 「See You in the Morning」
- 第11回 苦難と悲嘆の理解 ～神学的理解に基づく援助、喪失への寄り添い
- 第12回 諸領域への対応 ～薬物依存、自死、DV
- 第13回 神さまイメージ理論 ～神さまイメージの内在化と援助の可能性
- 第14回 総括と振り返り ▼ビデオ視聴 「ヤコブへの手紙」
- 第15回 レポート
- 第16回 ー

【成績評価】

試験(0%)、レポート(40%)、小テスト(10%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。参考図書の講読とともに、学期末の課題・レ

ポート作成に役立つように、自己洞察について与えられた「気づき」は、ノートにまとめておくことを勧める。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

レポートはコメントを加えて返却する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。キリスト教理念に土台を置いた心理の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、総合的な人間理解に立って、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになること。

〔テキスト〕

特に指定しない。毎回講義ノート配布

〔参考文献〕

『子供服を着たクリスチャン』（デイビッド・シーモンズ著、イムマヌエル出版局、1500円＋税）

『ボクはこんなふうにして恵みを知ったークリスチャン・ホームのケース・スタディ』（河村従彦著、いのちのことば社 1400円＋税）

『ヨブ記に見る試練の意味』（河村従彦著、いのちのことば社、2017年、1300円＋税）

『なぜ私だけが苦しむのか』（ハロルド・クシュナー著、岩波現代文庫、1080円＋税）

『神さまイメージ豊かさ再発見ー聖書から心理臨床まで』（河村従彦著、イムマヌエル出版事業部、1500円＋税）

『神さまイメージと恵みの世界』（河村従彦著、いのちのことば社 1000円＋税）

その他、授業の中で提示する。

キリスト教の歴史Ⅰ	
科目ナンバー	ICS2209-L
2単位：前期1コマ	2年
アンドリュー・ウイルソン	

〔到達目標〕

キリスト教史の古代・中世の主な流れとテーマを学び、それによって現代の教会をより深く理解すること。

〔履修の条件〕

「文化とキリスト教Ⅰ/Ⅱ」を履修したことが望ましい。本講義は「キリスト教の歴史Ⅱ」の前に履修することが条件です。

〔講義概要〕

この講義は、教会の初期のユダヤ教の設定の広範なレビューから始まって、初代教会から宗教改革の前夜であるルネッサンスまでを辿る。ほぼ1500年に及ぶ教会史を辿るので、扱うテーマは多様である。古代教会の歴史は公会議と教義の発展が中心となり、特に三位一体の教義とキリスト論を代表的な問題として取り上げる。中世の歴史の中心課題は修道院制度や教会の東西分裂を検証する。イスラムとキリスト教の中世史を検証し、十字軍の歴史も学ぶ。ルネッサンスの人文主義の教会に対する影響を紹

介する。そして、宗教改革を予告した神学者についても学ぶ。

■授業計画

- 第1回 旧約聖書：家長、出エジプト、王と預言者、流刑、メシア
- 第2回 新約聖書1：ナザレのイエスの生涯と時代
- 第3回 新約聖書1：使徒言行録と使徒の旅
- 第4回 殉教者の時代。迫害と成長
- 第5回 異端と正統。とにかくこのイエスという人は誰なのか？
- 第6回 帝国主義のキリスト教に向けて
- 第7回 修道院主義。砂漠の都市
- 第8回 グローバルミッション。シリア）エチオピア、インド、中国、ロシア
- 第9回 西欧キリスト教の台頭荒野の前哨基地
- 第10回 キリスト教とイスラム教。征服、崩壊、十字軍
- 第11回 学校のこと。古典学習、哲学、神学
- 第12回 大聖堂石の中の議論
- 第13回 ルネッサンス。東洋から、そして過去からの新たな光
- 第14回 改革。コンシリアリズム、ウィクリフ、フス、ルター
- 第15回 レポート
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(25%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(25%)

〔成績評価(備考)〕

出席と参加：50%

レポート：50%

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性。総合的・実践的な学習能力。

〔テキスト〕

フスト・ゴンザレス著、『キリスト教史 上巻 ー初代教会から宗教改革の夜明けまで』、新教出版社、2002。(任意参照用)

キリスト教の歴史Ⅱ	
科目ナンバー	ICS2210-L
2単位：後期1コマ	2年
アンドリュー・ウイルソン	

〔到達目標〕

キリスト教史の宗教改革・現代の主な流れとテーマを学び、それによって現代の教会をより深く理解すること。

〔履修の条件〕

「文化とキリスト教Ⅰ/Ⅱ」を履修したことが望ましい。本講義は「キリスト教の歴史Ⅱ」の前に履修することが条件です。

〔講義概要〕

講義は、初期および中世の教会の主要テーマの復習から始まり、マルティン・ルターを中心とした改革について幅広く探求していくことになる。その後、宗教戦争による政治的混乱と、革命的ナショナリズムの中でのキリスト教の形成について探求する。特に、アメリカのキリスト教は、辺境の地でリバイバルを繰り返しながら形成され、19世紀を通じて進歩的なキリスト教と世界宣教を形成してきたことに注目する。さらに、科学と民主主義の出現が、欧米の想像力における教会の支配に対する挑戦であることを探求し、20世紀における真にグローバルな教会の出現を探求することによって、このセッションを締めくくる。

■授業計画

- 第1回 レビューキリスト教の教義キリスト教文化の誕生
- 第2回 ルネサンス、原初の改革
- 第3回 ルターと初期宗教改革
- 第4回 後期ルター、その他の改革運動
- 第5回 カトリック改革、植民地化、世界宣教Ⅱ
- 第6回 宗教対立・宗教的寛容
- 第7回 敬虔主義、ピューリタニズム、リバイバリズム
- 第8回 経験主義、啓蒙主義科学と時計仕掛けの神
- 第9回 植民地化・廃絶・世界宣教Ⅲ
- 第10回 進歩的キリスト教
- 第11回 歴史批評、ナショナリズム、ダーウインの挑戦
- 第12回 千年王国論、ペンテコステ派、そして世界の終わりへ
- 第13回 戦争する世界、危機の神学、解放？
- 第14回 世俗化とグローバル・キリスト教（世界宣教Ⅳ）
- 第15回 レポート
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「3.総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を履修することで、さまざまな歴史的な知識や時代への持続的な関与が身につけられます。

〔テキスト〕

フスト・ゴンザレス著、『キリスト教史下巻増補新版：宗教改革から現代まで』、増補新版、新教出版社、2020。(任意参照用) ISBN-13：978-4400221104

旧約聖書精読

科目ナンバー	ICS2311-L
2単位：後期1コマ	3年
アンドリュー・ウイルソン	

〔到達目標〕

このコースでは、創世記の天地創造から流刑までの旧約聖書の主要な人物と出来事を紹介します。聖書の基本的な登場人物や出来事に親しむことに重点を置いています。

〔履修の条件〕

特にありません。旧約聖書に関心を持つ学生の積極的な参加を期待します。

〔講義概要〕

授業は主にテキストを読み、一緒に議論することで構成される。受講生は質問をし、説明を求めることが要求される。講義では、必要に応じて美術や音楽も取り上げます。

■授業計画

- 第1回 天地創造創世記1-2章
- 第2回 堕落創世記3-4章、エデンの園からの追放、カインとアベル、バベル：11：1-9
- 第3回 ノア：創世記6-9章
- 第4回 アブラハム、サラ、イサク創世記12-22章
- 第5回 イサク、エサウ、ヤコブ創世記24-35章
- 第6回 ヨセフ：エジプトへ創世記36-37章、39-41章
- 第7回 ヨセフエジプトの解放創世記42-50章
- 第8回 モーセ誕生、宮廷、飛行、燃える茂み、始まり出エジプト記1-6章
- 第9回 モーセ脱出の災い、出エジプト、ミリアムの歌。出エジプト記7章～15章21節
- 第10回 シナイの荒野の彷徨、十戒、金の子牛。出エジプト記15：22-20：21；24、31：12-18；32-34、40：34-38；民数記9、11、13
- 第11回 ダビデ：サムエル記上16～21章、23：15～25：1、26、31章、サムエル記上1～2：4、5：1～16、7、11～12：25、18、22～23：7章
- 第12回 エリヤ、流刑、エズラ：第2列王17：6-23、23-25、エズラ1章
- 第13回 詩篇の選択
- 第14回 イザヤ書からメシア的なテキスト
- 第15回 ー
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(70%)

〔成績評価(備考)〕

リフレクションペーパーとディスカッション参加度 70%、期末レポート 30%

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

指示された聖書の該当箇所をあらかじめ読むこと。ディスカッショ

ン準備も含め各授業回に200分の準備学習(予習・復習など)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

理解できないことについて質問する。面白いと思ったこと、もっと理解したいと思ったことについて、観察する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」及び「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することで、現代社会と人間存在について思考を深めるとともに、全人的なケアにあたって精神的な土台となる神学の専門的な知識を得ることができる。

〔テキスト〕

新共同訳聖書

〔参考文献〕

講義中に適宜紹介する。

〔備考〕

毎回、新共同訳聖書を持参すること。

旧約聖書の人間観		
科目ナンバー	ICS2313-L	
2単位：後期1コマ	3年	
安田 真由子		

〔到達目標〕

旧約聖書のさまざまな登場人物を通して、人間や社会の描かれ方について知ること。また、旧約聖書の物語を現代社会の問題と照らし合わせながら、人間が生きてはどういうことかについて考えを深めること。

〔履修の条件〕

旧約聖書に興味のある人。

〔講義概要〕

旧約聖書に登場する人々がどのような文化・価値観・社会の中で生き、自らの信仰と歴史を形成していったのかを学ぶ。旧約聖書と周辺史料を参照しながら、各テーマについて1～2回の授業時間を使う。基本的に講義形式の授業になるが、一部の題材については視覚教材を活用し、グループディスカッションを行う。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション—講義の概要、進め方、テキストやその他の参考文献、課題と評価方法などの確認を行う。
- 第2回 旧約聖書を読むとは—旧約聖書を読む際に必要な知識についての概要と、物語を読んで解釈するとはどういうことかを学ぶ。
- 第3回 神の似姿としての人間—創造物語(創世記1-2章)を通して、神の形にかたどって人間が造られたとはどういうことかを学ぶ。

- 第4回 人の悪—いわゆる墮罪の物語(創世記3章)とノアの方舟の物語などを通して、人間の悪とその影響が何かを学ぶ。
- 第5回 男と女?—創世記とルツ記を通して、人間のジェンダーやセクシュアリティについて考える。
- 第6回 これまでのまとめ①—これまでの授業で触れられたトピックをディスカッションで掘り下げていく。
- 第7回 労働と休息—旧約聖書は、人間の罪の報いとして労働の義務が負わされたこと、安息日には休まなければならないことを示している。これらを通して、労働と休息について考える。
- 第8回 搾取、腐敗、告発—預言者たちの言葉(ミカ書やエレミヤ書など)を通して、経済搾取や政治的腐敗、そしてそれらを告発するということについて学ぶ。
- 第9回 これまでのまとめ②—授業内容を振り返る記述式のテストを行う。配布された資料やノートを参考にしながら、質問に答えること。課題は授業内で提出を原則とするが、終わらない場合は次の授業で提出。
- 第10回 正しい人の苦難—ヨブ記を通して、不条理や神義論について考える。
- 第11回 語られない人々—ヨブの妻と娘たちの描写から、物語で周縁化されている登場人物と、公正な表象について考える。
- 第12回 これまでのまとめ③—これまでの授業で触れられたトピックをディスカッションで掘り下げていく。
- 第13回 女たちのサバイバル—タマルやラハブの物語をとおして、女たちのサバイバルについて、それが物語られていることの意義について学ぶ。
- 第14回 物語ること、解釈すること—旧約聖書の歴史記述などを通して、現実を物語化(歴史化)することについて考える。
- 第15回 試験
- 第16回 —

〔成績評価〕

試験(40%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

試験と課題を中心に、毎回のフィードバック、授業内での質問に対する学生の回答などを評価する。「その他」にはディスカッションでの貢献が含まれる。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

授業で扱う聖書の箇所および参考文献を、考えながら熟読すること。課題・期末試験の準備を行うこと。ディスカッション回の前には、授業内容を丁寧に復習し、自分の考えをまとめておくこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーやディスカッションに対するフィードバックを次の講義において行う。課題は、訂正やコメントを入れて返却する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」新約聖書の本文を通して、古代の人々の信仰と発想と思想を理解することによって、現代に生きる人々の価値観、言動を支えているものをより深く理解することができる。

〔テキスト〕

『旧新約聖書』（いずれの訳でもよい）

〔参考文献〕

必要に応じて授業内で指示。

新約聖書の人物像

科目ナンバー	ICS2314-L
2単位：前期1コマ	3～4年
安田 真由子	

〔到達目標〕

新約聖書に登場するイエスに出会った人々を通して、イエスと出会うということ、イエスを理解するとはどういうことかを確認する。

〔履修の条件〕

新約聖書に興味のある人。

〔講義概要〕

新約聖書に登場する人々がイエスをどのように理解していったのか、また、キリスト教史の始まりにおいて人々が何を大切にし、何を問題にして教会の信仰と歴史を形成していったのかを学ぶ。新約聖書と周辺史料を参照しながら、各テーマについて各1～2回の授業時間を使う。基本的に講義形式の授業になるが、一部の題材については視覚教材を活用し、ディスカッションを行う。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション—講義の概要、進め方、テキストやその他の参考文献、課題と評価方法などの確認を行う。
- 第2回 新約聖書を読む—新約聖書を読む際に必要な知識や、物語を解釈する方法、アプローチなどを学ぶ
- 第3回 ルカ、帝国、ジェンダー(1)—ルカ福音書1章を通して、ローマ帝国と属州ユダヤの関係、マリアとエリサベトの働きなどについて学ぶ。時代背景と、ルカ1章の従来の解釈に焦点を当てる。
- 第4回 ルカ、帝国、ジェンダー(2)—ルカ福音書1章を通して、ローマ帝国と属州ユダヤの関係、マリアとエリサベトの働きなどについて学ぶ。ジェンダーに焦点を当てる。
- 第5回 歓迎されないイエス(1)—マタイ冒頭のヘロデ大王の描写から、権力とそれを揺るがすものについて考える。
- 第6回 歓迎されないイエス(2)—ルカ4章などから、イエスのメッセージが挑戦的・告発的であることについて考える。
- 第7回 ディスカッション回—これまでの授業内容を踏まえて、テーマを絞ってディスカッションを行う。
- 第8回 ローマ帝国、ユダヤ、異邦人、そしてパウロ(1)—ガラテヤ書から、ローマ帝国、ユダヤ、異邦人の三角関係

の中でパウロがどのように自己理解を変容させていったかを学ぶ。パウロ書簡、とりわけガラテヤ書の概要を紹介する。

- 第9回 ローマ帝国、ユダヤ、異邦人、そしてパウロ(1)—ガラテヤ書から、ローマ帝国、ユダヤ、異邦人の三角関係の中でパウロがどのように自己理解を変容させていったかを学ぶ。ガラテヤ書の記述に焦点を当てる。
- 第10回 これまでのまとめ—これまでの授業内容を踏まえ、学んだことについて記述する課題を行う。
- 第11回 経済搾取—金持ちの男(マタ19：16-30；マコ10：17-31；ルカ18：18-30)やぶどう園のたとえ(マコ12：1-9他)を通して、新約時代の経済の構造や搾取の問題について学ぶ。
- 第12回 イエスに癒された人々—悪霊レギオンに憑かれた男(マタ8：28-34；マコ5：1-20；ルカ8：26-39)や、シリア・フェニキアの人(マタ15：21-28；マコ7：24-30)の物語から、悪霊・病によって人を区別・排除することについて考える。
イエスの十字架を取り巻く人々(2)—ピラト(マタ27：1-2,11-26；マコ15：1-16；ルカ23：1-5,13-25；ヨハ18：28-19：16)
* 期末レポート準備用の課題(3)の提出日。
- 第13回 イエスの十字架と復活を取り巻く女性たち—空の墓を発見した女たちの物語(マタ27：45-56,28：1-8；マコ15：33-41,16：1-8；ルカ23：44-49,24：1-12；ヨハ19：28-30,20：1-18)などを通して、女性の描かれ方について考える。
- 第14回 ディスカッション回—これまでの授業内容を踏まえて、テーマを絞ってディスカッションを行う。
- 第15回 試験ないし期末レポート提出—試験は、配布資料やノートの持ち込み可。
- 第16回 —

〔成績評価〕

試験(40%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

課題と期末試験を中心に、ディスカッション、毎回のフィードバック、授業内での質問に対する学生の回答などを評価する。ディスカッションでの貢献は「その他の評価方法」に含まれる。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

授業で扱う人物に関する聖書の箇所および参考文献を、考えながら熟読すること。課題や期末試験のための準備を行うこと。ディスカッションに備えて丁寧に復習し、自分の考えをまとめること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーやディスカッションに対するフィードバックを次の講義内容において行う。課題やレポートへにはコメントをつけて返却する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」新約

聖書の本文を通して、古代の人々の信仰と発想と思想を理解することによって、現代に生きる人々の価値観、言動を支えているものをより深く理解することができる。

〔テキスト〕

『旧新約聖書』(いずれの訳でもよい)

〔参考文献〕

必要に応じて授業内で指示。

キリスト教音楽実技Ⅰ	
科目ナンバー	ICS2104-P
2単位：通年	1～4年
湯口 依子、深井 李々子	

〔科目補足情報〕

実技演習の授業である。

〔到達目標〕

希望する鍵盤楽器の基礎的な技術を習得し、読譜力と表現力を身につける。

〔履修の条件〕

ピアノは保育士試験の準備を目的にする者、または教会や施設で奉仕を目的にする者が履修することができる。

リードオルガンはバイエルまたは同程度の教材終了者の履修が望ましい。

パイプオルガンは J.S.バッハ「インヴェンション2声」程度が弾ける者が望ましい。

面接による担当者による許可が必要である。通年での履修。十分な練習を行うこと。

〔講義概要〕

ピアノは保育士試験準備を目的にする者は、「バイエル教則本」や子どもの歌の曲等のレッスンとなる。リードオルガンやパイプオルガンの実技指導は教会や諸施設での礼拝、その他の奉仕に必要な音楽技術の習得ができるようそれぞれのレベルに合わせたレッスンとなる。基本的な技術を学びながら教会音楽の作品を学ぶ。

個人レッスンの授業となるのでそれぞれが必要と思われる指導となる。

■授業計画

第1回	オリエンテーション。各々のレベルを確認し、レッスンの進め方やどのような曲に取り組むか説明し、課題を与える。
第2回	実技演習。初めて学ぶ楽器については(リードオルガンやパイプオルガン)楽器の特性や構造、弾き方などの説明をする。
第3回	実技演習。第3回目以降の授業においてはそれぞれのレベルに合わせてまた進み具合に合わせて練習の仕方なども含めた指導をし、課題を与えて実技演習となる。
第4回	実技演習

第5回	実技演習
第6回	実技演習
第7回	実技演習
第8回	実技演習
第9回	実技演習
第10回	実技演習
第11回	実技演習
第12回	実技演習
第13回	実技演習
第14回	実技演習。前期の総まとめ、および後期に取り組む課題を与える。

第15回	—
第16回	—
第17回	実技演習
第18回	実技演習
第19回	実技演習
第20回	実技演習
第21回	実技演習
第22回	実技演習
第23回	実技演習
第24回	実技演習
第25回	実技演習
第26回	実技演習
第27回	実技演習
第28回	実技演習
第29回	実技演習
第30回	実技演習
第31回	実技試験
第32回	—

〔成績評価〕

試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(70%)

〔成績評価(備考)〕

平常点：毎回のレッスンのための準備、練習を充分にして取り組むかどうかの平常評価を重んじる。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

個人レッスンなので与えられた課題を充分に練習してレッスンに臨むこと。一日に30分～40分程度の練習を重ねれば各レッスン毎におよそ240分ほどの準備で臨むことになる。14回の授業(レッスン)でおよそ56時間となる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

実技試験時に口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。音楽の基礎的なことを学びながら実技レッスンを受けることにより楽譜の読み方や技術的な向上を身につけることができる。また、音楽を奏することにより感性を磨くことができる。音楽を通しての奉仕やコミュニケーションなどの幅が広がる可能性が期待できる。

【テキスト】

それぞれのレベルに合わせ個別に指定する。

例)ピアノ:「バイエルピアノ教則本」「メトードローズ・ピアノ教則本」「子どもと遊ぶピアノ曲」(音楽之友社)等

オルガン:「教会オルガン基礎教程」(パックスエンタープライズ)「80コラール前奏曲集」「J. S. バッハオルガン曲集」(ペータース)「オルガン曲集 やさしい讃美歌前奏曲集」等

【参考文献】

特になし

【備考】

特になし

キリスト教音楽実技Ⅱ

科目ナンバー	ICS2214-P
1単位: 前期1コマ	2～4年
湯口 依子、深井 李々子	

【到達目標】

キリスト教音楽実技Ⅰをすでに履修した者が更に演奏技術を向上させ、音楽的な表現力やレパートリーを広げる。また実際に実習や礼拝などで奉仕ができるようにする。

【履修の条件】

すでにキリスト教音楽実技Ⅰを履修した者。ピアノは保育士試験の準備を目的にする者、または教会や施設で奉仕を目的にする者が履修することができる。

リードオルガンはバイエルまたは同程度の教材終了者の履修が望ましい。

パイプオルガンはリードオルガン課程修了者、またはJ.S. バッハ「インヴェンション2声」程度が弾ける者が望ましい。

面接による担当者による許可が必要である。十分な練習を行うこと。

【講義概要】

ピアノは保育士試験準備を目的にする者は、「バイエル教則本」や子どもの歌の曲等のレッスンとなる。リードオルガンやパイプオルガンの実技指導は教会や諸施設での礼拝、その他の奉仕に必要な音楽技術の習得ができるようそれぞれのレベルに合わせたレッスンとなる。基本的な技術及び更なるテクニックを身につけ、教会音楽の作品を中心にレベルアップを目指し学ぶ。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション。キリスト教音楽実技Ⅰで習得した曲を踏まえて各々のレベルに合わせて課題曲を決める。
- 第2回 実技演習
- 第3回 実技演習
- 第4回 実技演習
- 第5回 実技演習
- 第6回 実技演習
- 第7回 実技演習
- 第8回 実技演習

第9回 実技演習

第10回 実技演習

第11回 実技演習

第12回 実技演習

第13回 実技演習

第14回 総まとめとして実技試験をする。

第15回 —

第16回 —

【成績評価】

試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(70%)

【成績評価(備考)】

平常点: 毎回のレッスンのための準備、練習を十分にし向上心を持って取り組むかどうかの平常評価を重んじる。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

個人レッスンなので与えられた課題を十分に練習してレッスンに臨むこと。一日に30～40分程度の練習を重ねれば各レッスン毎におよそ240分の準備で臨み、14回の授業(レッスン)で56時間となる。

【試験・レポート等のフィードバック】

実技試験時に口頭でコメントする。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。音楽の基礎的なことを学びながら実技レッスンを受けることにより楽譜の読み方や技術的な向上を身につけることができる。また、音楽を奏することにより感性を磨くことができる。音楽を通しての奉仕やコミュニケーションなどの幅が広がる可能性が期待できる。

【テキスト】

それぞれのレベルに合わせ個別に指定する。

例)ピアノ:「バイエルピアノ教則本」「メトードローズ・ピアノ教則本」「子どもと遊ぶピアノ曲」(音楽之友社)等

オルガン:「教会オルガン基礎教程」(パックスエンタープライズ)「80コラール前奏曲集」「J. S. バッハオルガン曲集」(ペータース)「ブクステフーデオルガン曲集」(ハンセン)「バッハベルオルガン曲集」(ベーレンライター)等

【参考文献】

特になし

【備考】

特になし

キリスト教音楽実技Ⅲ

科目ナンバー	ICS2215-P
1単位：後期1コマ	2～4年
湯口 依子、深井 李々子	

〔到達目標〕

キリスト教音楽実技Ⅱをすでに履修した者が更に演奏技術を上させ、音楽的な表現力やレパートリーを広げる。また実際に実習や礼拝などで奉仕ができるようにする。

〔履修の条件〕

すでにキリスト教音楽実技Ⅱを履修した者。ピアノは保育士試験の準備を目的にする者、または教会や施設で奉仕を目的にする者が履修することができる。

リードオルガンはバイエルまたは同程度の教材終了者の履修が望ましい。

パイプオルガンはリードオルガン課程修了者、または J.S.バッハ「インヴェンション2声」程度が弾ける者が望ましい。

面接による担当者による許可が必要である。十分な練習を行うこと。

〔講義概要〕

ピアノは保育士試験準備を目的にする者は、「バイエル教則本」や子どもの歌の曲等のレッスンとなる。リードオルガンやパイプオルガンの実技指導は教会や諸施設での礼拝、その他の奉仕に必要な音楽技術の習得ができるようそれぞれのレベルに合わせたレッスンとなる。自分が学ぶ楽器に対する理解を深め、基本的な技術及び更なるテクニックを身につけ、教会音楽の作品を中心にレベルアップを目指し学ぶ。また音楽的表現力を高めることを目標にする。

■授業計画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション。キリスト教音楽実技Ⅱで習得した曲を踏まえて各々のレベルに合わせて課題曲を決める。 |
| 第2回 | 実技演習 |
| 第3回 | 実技演習 |
| 第4回 | 実技演習 |
| 第5回 | 実技演習 |
| 第6回 | 実技演習 |
| 第7回 | 実技演習 |
| 第8回 | 実技演習 |
| 第9回 | 実技演習 |
| 第10回 | 実技演習 |
| 第11回 | 実技演習 |
| 第12回 | 実技演習 |
| 第13回 | 実技演習 |
| 第14回 | 奏まめとして実技試験を行う。 |
| 第15回 | — |
| 第16回 | — |

〔成績評価〕

試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(70%)

〔成績評価(備考)〕

平常点：毎回のレッスンのための準備、練習を十分にし向上心を持って取り組むかどうかの平常評価を重んじる。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

個人レッスンなので与えられた課題を十分に練習してレッスンに臨むこと。一日に30分から40分程度の練習を重ねれば各レッスン毎におよそ240分の準備で臨み、14回の授業(レッスン)で56時間となる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

実技試験時に口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。音楽の基礎的なことを学びながら実技レッスンを受けることにより楽譜の読み方や技術的な向上を身につけることができる。また、音楽を奏することにより感性を磨くことができる。音楽を通しての奉仕やコミュニケーションなどの幅が広がる可能性が期待できる。

〔テキスト〕

それぞれのレベルに合わせ個別に指定する。

例)ピアノ：「バイエルピアノ教則本」「メトードローズ・ピアノ教則本」「子どもと遊ぶピアノ曲」(音楽之友社)等

オルガン：「教会オルガン基礎教程」(バックスエンタープライズ)「80コラール前奏曲集」「J. S. バッハオルガン曲集」(ベータース)「ブクステフーデオルガン曲集」(ハンセン)

「バッハベルベルオルガン曲集」(ベレンライター)等

〔参考文献〕

特になし

〔備考〕

特になし

日本の宗教Ⅰ

科目ナンバー	ICS2216-L
2単位：後期1コマ	2～3年
上村 敏文	

〔科目補足情報〕

宗教文化士の資格試験に対応します。

〔到達目標〕

古事記の上巻を中心に読破する。適宜、対応する日本書紀の部分とを比較検討する。また万葉集についても可能な限り導入する。

〔履修の条件〕

基本的な、日本の宗教の源流、背景について学びます。

〔講義概要〕

現存する日本最古の書物としての『古事記』の上巻を中心に読

んでいきます。中巻、下巻についても適宜取り上げます。また、比較資料として『万葉集』『日本書紀』も参考として使用しつつ、日本の宗教の源流を探訪します。文化、宗教、歴史等多角的に古代の日本を検証し、どのように日本人の宗教観が醸造されたかを学びます。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 古事記 序文の構造について
- 第3回 古事記と日本書紀の共通点と相違
- 第4回 古事記本文 国生み神話(天地開闢)
- 第5回 古事記本文 黄泉と中国
- 第6回 古事記本文 「罪と罰」 スサノヲノミコト
- 第7回 日本の仏教 黎明期
- 第8回 日本の仏教 展開
- 第9回 日本の仏教 鎌倉仏教
- 第10回 仏教の将来について
- 第11回 チベット仏教について
- 第12回 ヨガと仏教
- 第13回 神道と仏教、キリスト教
- 第14回 日本宗教のまとめ
- 第15回 ー
- 第16回 ー

【成績評価】

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(30%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

【成績評価(備考)】

積極的に講義とディスカッションに参加すること。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

古事記の音読をしますから、しっかりと読めるように準備すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

レポートなど、コメントシートを使用して次回の講義で反映します。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。キリストの風土と、日本の宗教がいかに融合できるかをより深く理解できるようになる。

【テキスト】

倉野憲司『古事記』岩波文庫

【参考文献】

網野善彦『海民と日本社会』新人物文庫
 唐木順三『日本人の心の歴史』筑摩書房
 所功『伊勢神宮』講談社学術文庫
 島田裕巳『神道はなぜ教えないのか』ベスト新書
 村松剛『死の日本文学史』中公文庫

キリスト教の信仰

科目ナンバー	ICS 2405-L
2単位：前期1コマ	4年
宮本 新	

【到達目標】

キリスト教の信仰の基本構造を学ぶ。またテキスト読解、発題、ディスカッションを通じて「聞く力、考える力、伝える力」を育みます。

【履修の条件】

キリスト教の信仰と思想に関心がある人。キリスト教学に初学の方も履修可能です。毎授業テキストの読解があり、発題やディスカッションに積極的に参加することが期待されます。

【講義概要】

キリスト教には長年の歴史を通じて、その信仰内容に系統立てられた構造がある。この構造的な理解を踏まえて、現代社会の様々な思想や出来事との関連について考える。毎回のクラスは、キリスト教思想に取り組んだ社会学者のテキストをゼミナール形式で読み進める。講義だけでなく、発題やディスカッションを通じて多面的に学びます。

■授業計画

- 第1回 キリスト教の基本構造について(1)
- 第2回 キリスト教の基本構造について(2)
- 第3回 「信じる」ということ
- 第4回 神について(1)
- 第5回 神について(2)
- 第6回 神について(3)
- 第7回 イエス・キリスト(1)～イエスとは誰だったのか?
- 第8回 イエス・キリスト(2)～誕生の神秘
- 第9回 イエス・キリスト(3)～降りる生き方
- 第10回 イエス・キリスト(4)～待つということ
- 第11回 聖霊について
- 第12回 教会について
- 第13回 罪の赦しについて
- 第14回 永遠の生命について
- 第15回 レポート
- 第16回 ー

【成績評価】

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

【成績評価(備考)】

レポート評価。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。主に授業等で紹介された参考文献にあたること、また学期末のレポートにいたる予備的考察にあてる。

【試験・レポート等のフィードバック】

授業ごとのディカッションや質問についてはクラスでさらなる討

議、フィードバックなどを行います。また発表やレポートについては授業内で適宜口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。本学ディプロマ1はキリスト教総体の理念と接点がある。キリスト教とその文献を考察し、その思想と実際を批判的に検討し、多面的かつ総合的な思考する術を学習する。

〔テキスト〕

適時、指定します。その他に印刷物を配布します。

〔参考文献〕

適時、紹介します。

社会福祉入門	
科目ナンバー	ISW 2103-L
2単位：後期1コマ	1年
高山 由美子	

〔到達目標〕

- ①我が国の社会福祉制度の成り立ちを理解する。
- ②社会福祉制度の根幹である社会福祉関係法(特に社会福祉法、生活保護法、児童福祉法)について、それぞれの成り立ちとその内容についての基礎的な知識を習得する。

〔履修の条件〕

社会福祉士国家試験の受験を希望している学生は必ず履修すること。

2・3年次で「ソーシャルワーク実習」の履修を希望する学生は、本科目を一定の成績(良)以上で単位取得済みであることが必須条件となる。

編入生で上記について希望している場合は「社会福祉の基礎」を履修済みであること。

欠席が3分の1を超えた場合は、定期試験の受験資格を失うことになるので、注意すること。

〔講義概要〕

本講義では、社会福祉法制度及びこれに基づく社会福祉施設・機関等に関する基本的な知識を習得することを目的として講義を中心に進める。具体的には、社会福祉法をはじめとする、社会福祉関係各法・制度の枠組みを学ぶ。さらに、各法制度等の内容を理解し、課題、問題点の考察も試みる。

■授業計画

- | | |
|-----|----------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション/到達目標、講義概要、評価について |
| | 社会福祉入門を学ぶための準備 |
| 第2回 | 社会福祉法制度の歴史についての理解 |
| 第3回 | 社会福祉法制度の背景と社会福祉の定義についての理解 |
| 第4回 | 社会福祉法の理解① |
| 第5回 | 社会福祉法の理解② |
| 第6回 | 社会福祉法の理解③ |

- | | |
|------|-----------|
| 第7回 | 社会福祉法の理解④ |
| 第8回 | 社会福祉法の理解⑤ |
| 第9回 | 社会福祉法の理解⑥ |
| 第10回 | 社会福祉法の理解⑦ |
| 第11回 | 生活保護法の理解① |
| 第12回 | 生活保護法の理解② |
| 第13回 | 児童福祉法の理解① |
| 第14回 | 児童福祉法の理解② |
| 第15回 | 定期試験 |
| 第16回 | － |

〔成績評価〕

試験(70%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。授業で取り上げる法制度に関連する出来事(ニュースや法制度の動向等)などにも関心を持ち、その背景を理解するように努めること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。レポートについては授業終了までに返却し解説する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な知識を獲得すると同時に、ものごとの本質を把握し解決策を目指す姿勢をとって高度な専門性と総合的・実践的な学習能力を身につける。

〔テキスト〕

必要な資料は適宜配布する。

いずれの出版社のものでもよいが、必ず『社会福祉小六法』の最新版を購入すること。

配付資料(すでに授業で取り上げたものも含めて)と『社会福祉小六法』は毎回の授業に必ず持参すること。

〔参考文献〕

『国民の福祉と介護の動向2023/2024年版』(厚生統計協会)

〔備考〕

実務経験のある教員による科目

ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、社会福祉法制度及びこれに基づく社会福祉施設・機関等に関する講義を行う。

ソーシャルワーク論Ⅲ

科目ナンバー	ISW 2204-L
2単位：後期1コマ	2年
大曲 睦恵	

〔到達目標〕

- ①ソーシャルワークの様々な方法を理解する。
- ②集団(グループ)を活用した支援を理解する。
- ③コミュニティワークの概念と支援を理解する。
- ④スーパービジョンとコンサルテーションについて理解する。

〔履修の条件〕

原則として、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、同Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱを履修しているか並行履修していること。ただし、これらの科目を履修していなくても、ソーシャルワーカーとして、グループやコミュニティの支援に興味がある者は履修できる。社会福祉士の指定科目「ソーシャルワークの理論と方法」への読み替え科目である。

〔講義概要〕

ソーシャルワークの主要な援助技術であるグループワーク、コミュニティワーク、スーパービジョンとコンサルテーションの意義、目的、方法を学ぶ。授業は、講義と演習の組み合わせで進める。演習では、討議やロールプレイを行う。積極的な参加が求められる。

■授業計画

- 第1回 授業方針、ソーシャルワークの多様な方法
- 第2回 グループワークの意義と目的、グループダイナミクス
- 第3回 グループワークの原則
- 第4回 グループワークの展開過程①準備期
- 第5回 グループワークの展開過程②開始期
- 第6回 グループワークの展開過程③作業期
- 第7回 グループワークの展開過程④終結期
- 第8回 セルフヘルプグループ
- 第9回 コミュニティワークの意義と目的
- 第10回 コミュニティワークの展開①(地域アセスメント、地域課題の発見)
- 第11回 コミュニティワークの展開②(住民参加、組織化、社会資源の開発)
- 第12回 スーパービジョンとコンサルテーションとは
- 第13回 スーパービジョンの意義、目的、方法
- 第14回 コンサルテーションの意義、目的、方法
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(40%)

〔成績評価(備考)〕

参加型授業への貢献度を評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習(予習・復

習等)が必要となる。授業で紹介するさまざまな事例についてソーシャルワーカーとして支援方法を考える。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。課題レポートについては、授業の最終回までにコメントを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、包括的・総合的な援助のうち、特にグループワーク、コミュニティワーク、スーパービジョンとコンサルテーションを実践できるようになる。

〔テキスト〕

第12巻『ソーシャルワークの理論と方法[共通科目Ⅱ]』(最新社会福祉士養成講座)中央法規出版

〔参考文献〕

適宜授業内で紹介する。

〔備考〕

ソーシャルワーカーとしての経験を活かし、グループワーク、コミュニティワーク、スーパービジョンとコンサルテーションに関する実践的な内容の講義と演習を行う。

ソーシャルワーク論Ⅳ

科目ナンバー	ISW 2409-L
2単位：後期1コマ	4年
西原 雄次郎	

〔到達目標〕

- ①4年前期までに学んだソーシャルワークに関する各科目の知識を、具体的な事例等を通して総合的・統合的に学習する。
- ②具体的な個別援助技術実践の場を想定して体験的に学ぶ。
- ③ソーシャルワーカーとして巣立つ際の基本的なセンスを習得する。
- ④考えること、意見を聴くこと、意見を述べること、文章を書くこと等々の力を付ける。

〔履修の条件〕

- ①社会福祉士受験資格取得のためには必修科目である。
- ②4年生の後期に履修することが条件である。

〔講義概要〕

- ①社会福祉現場における個別援助の実践を体験的に学習することを中心に進める。
- ②ソーシャルワーク面接の実際や、事例検討の実際等を学ぶ回には必ず出席し、体験することや議論することに積極的に参加することが必須である。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション/相談援助の理念/権利擁護等の

- 復習
 ・3年次までに履修した関連科目の復習・再確認をおこなう。
- 第2回 ソーシャルワークと面接① 概要の説明
 ・ソーシャルワーク面接の特徴を再確認し、ロールプレイ実施時の注意事項等を概説する。
- 第3回 ソーシャルワークと面接② ロールプレイ(録音)
 ・3人一組で、3回にわたって役割を交代しながらロールプレイを行い、それを録音する。
- 第4回 ソーシャルワークと面接③ 動画を観る
 ・ソーシャルワーク面接の基本を取り扱った動画を視聴し、意見交換を行う。
- 第5回 ソーシャルワークと面接④ 意見交換
 ・提出された逐語録、体験したロールプレイ、視聴した動画をもとに、意見交換を行い、ソーシャルワーク面接の特徴・留意点を再確認する。
- 第6回 事例検討① 事例検討の進め方
 ・事例検討は、一定のルールを前提にして進めることで、その効果を高めることが出来ると考えられる。そのルールについて再考・確認する。
- 第7回 事例検討② 事例検討の実際1(討議記録の提出)
 ・「現在進行形」の形を取った事例を2回にわたって検討する。
- 第8回 事例検討③ 事例検討の実際2(討議記録の提出)
 ・前回の続きを行い、議論を深め、事例のタイトル等も検討する。
- 第9回 事例検討④ 事例検討の実際3(まとめ)
 ・事例検討を通して学んだことを共有する。
 ・読む・考える・聴く・意見を述べる・書く等々の体験を振り返る。
- 第10回 ソーシャルワークにおけるスーパービジョン再考
 ・ソーシャルワークにおいてどのようなスーパービジョンを体験したのか、各自の経験をもとに類型化し、それぞれから学ぶべき事を確認する。
- 第11回 面接以外の様々な「相談」対応について
 ・「自力解決が困難な生活問題に直面している人たち」との対応で、「面接」と「相談」について、再考する。
- 第12回 ソーシャルワーク実践と記録・事務仕事
 ・日常の記録はもちろん、管理・運営業務に求められる事務能力と組織運営について考える。
- 第13回 ソーシャルワーク実践と他職種との連携・協力・共同
 ・「地域共生社会」づくりの一翼を担う者として、地域の貴重な「社会資源」として期待される存在となるために・・・。
- 第14回 ソーシャルワーク実践と倫理
 ・全体のまとめ
- 第15回 試験
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

成績評価の「その他」50%は、各授業時に提出するリアクション

用紙への記入内容や、各回の提出物の内容、及び、討議等への参加度を総合的に評価して行う。
 失敗を恐れず、積極的に授業に参加されたい。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

- ①授業に応じて逐語録の作成や、フィードバックの提出を求める。
- ②各回の授業時の自身の言動を振り返り、次回への課題を明確にして授業に臨んでもらいたい。
- ③本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

- ①リアクション用紙に対する担当者からの応答は次回の授業時に行う。
- ②課題レポートについてはそれぞれの授業時にコメントを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

本科目は、卒業前の総括的な学習を行う科目であり、「3. 総合的・実践的な学習能力」を育てることを中心とし、ディプロマポリシーの1,2,3,4の全てを意識しつつ授業を展開する。

〔テキスト〕

各授業毎に配布する担当教員作成のプリントを用いて授業を行う。
 市販のテキストは使用しない。

〔参考文献〕

大塚達雄他『ソーシャルケースワーク論』ミネルヴァ書房他、各社から出版されている「社会福祉士養成講座」(本学図書館に配架されているもの)を、必要に応じて紹介する。

ソーシャルワーク論Ⅴ

科目ナンバー	ISW 2410-L
2単位：前期1コマ	4年
高山 由美子	

〔到達目標〕

相談援助の基盤、相談援助の理論と方法を体系的に理解し、実践で応用できるようにする。個人や家族(ミクロレベル)、グループや組織(メゾレベル)、地域や社会(マクロ・レベル)までを対象に、さまざまな理論をもとに介入できるよう、実践力を身につける。

〔履修の条件〕

原則として、「ソーシャルワーク論Ⅰ」「同Ⅱ」「同Ⅲ」を履修済みであること。社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。精神保健福祉士の指定科目である精神保健福祉相談援助の基盤Ⅰへ読み替えをする科目でもある。社会福祉の国家資格の取得を目標としないものは、既習科目に関わらず履修することが可能である。

〔講義概要〕

大学生活の集大成として、ソーシャルワークの中の理論を理解し、スキルを習得し、実際の現場で、総合的・包括的な相談援助

が実践できるように学びを深める。

■授業計画

第1回	オリエンテーション 授業の方針 ソーシャルワークとは何か
第2回	ソーシャルワークの歴史
第3回	社会福祉士の役割と意義
第4回	相談援助専門職の倫理1
第5回	相談援助専門職の倫理2
第6回	相談援助の理念-自己決定、ノーマライゼーション、意思決定支援-
第7回	相談援助専門職の概念と範囲
第8回	相談援助の展開過程1
第9回	相談援助の展開過程2
第10回	相談援助の展開過程3
第11回	相談援助における社会資源の活用・調整・開発
第12回	相談援助における個人情報の保護
第13回	相談援助の実際
第14回	相談援助の実際
第15回	定期試験
第16回	-

【成績評価】

試験(30%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(40%)

【成績評価(備考)】

成績評価の「その他」40%は、各授業時のリアクションペーパーの提出状況と記入内容の評価。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。授業でのさまざまな課題提起に対して、ソーシャルワーク専門職という視点から考えること。

【試験・レポート等のフィードバック】

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の講義で行う。レポートについては、授業の最終回までに必要に応じてコメントを行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を実践できるようにする。

【テキスト】

新・社会福祉士養成講座『相談援助の基盤と専門職』『相談援助の理論と方法Ⅰ』『同Ⅱ』中央法規出版 (ソーシャルワーク論Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲなどの履修時に入手済みである場合、それを用いる。)

【備考】

実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助の理念、

理論と方法、実際等についての総合的・包括的な講義と演習を行う。

ソーシャルワーク論Ⅵ		
科目ナンバー	ISW2411-L	
2単位：後期1コマ	4年	
福島 喜代子		

【到達目標】

相談援助の基盤、相談援助の理論と方法を体系的に理解し、実践で応用できるようにする。個人や家族(ミクロレベル)、グループや組織(メゾレベル)、地域や社会(マクロ・レベル)までを対象に、さまざまな理論をもとに介入できるよう、実践力を身につける。

【履修の条件】

「ソーシャルワーク論Ⅰ」「同Ⅱ」「同Ⅲ」「同Ⅴ」を履修していることがのぞましい。ただ、社会福祉や対人援助に興味のある学生は4年次に履修をすることができる。

社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。精神保健福祉士の指定科目へ読み替えをする科目でもある。

【講義概要】

大学で受けた教育の集大成として、ソーシャルワークの中の理論を理解し、スキルを習得し、実際の現場で、総合的・包括的な相談援助が実践できるように学びを深める。

■授業計画

第1回	相談援助の理念、価値
第2回	総合的・包括的な相談援助とジェネラリスト・ソーシャルワーク
第3回	多様な実践モデルとアプローチ：心理社会的アプローチ
第4回	多様な実践モデルとアプローチ：機能的アプローチ
第5回	多様な実践モデルとアプローチ：問題解決アプローチ
第6回	多様な実践モデルとアプローチ：課題中心アプローチ
第7回	多様な実践モデルとアプローチ：危機介入アプローチ
第8回	多様な実践モデルとアプローチ：認知に焦点をあてた認知行動療法アプローチ
第9回	多様な実践モデルとアプローチ：行動に焦点をあてた認知行動療法アプローチ
第10回	多様な実践モデルとアプローチ：家族システムズアプローチ
第11回	ソーシャルワークと記録
第12回	スーパービジョン、コンサルテーション
第13回	ケア会議、ケースカンファレンス
第14回	社会資源の活用・調整・開発
第15回	-
第16回	-

【成績評価】

試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、

その他の評価方法(40%)

〔成績評価(備考)〕

参加型授業への貢献度を積極的に評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとして援助するためにどのようにすれば良いか考えること。授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとして包括的・総合的な援助をするために、モデルやアプローチを活用するときどのようにすれば良いか考えること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

ミニ課題に対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。レポート課題については、授業の最終回までに必要に応じてコメントを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を実践できるようにする。

〔テキスト〕

新・社会福祉士養成講座6巻『相談援助の基盤と専門職』8巻『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版 (ソーシャルワーク論Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲなどの履修時に入手済みである場合、それを用いる。)

〔参考文献〕

第12巻『ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座、中央法規出版
2021年 ISBN-10: 4805882425

〔備考〕

実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、総合的・包括的な相談援助についての実践的な講義と演習を行う。

精神保健福祉の理論と相談援助の展開

科目ナンバー	ISW2310-L
2単位：後期1コマ	3～4年
福島 喜代子	

〔到達目標〕

相談援助の専門職であるソーシャルワーカーとして、精神障害のある人の支援に関する知識と技術を得る。
ソーシャルワーカーとして、精神障害のある人も含めて支援できるようになる。

〔履修の条件〕

ソーシャルワークや対人援助に関心のある学生は、3、4年次に履

修をすることができる。精神保健福祉士の取得を目指していても、精神障害のある人への支援について学びたい人も履修することができる。

精神保健福祉士の指定科目である。精神保健福祉士を目指している者は、「ソーシャルワーク論Ⅰ」、「ソーシャルワーク論Ⅱ」、「ソーシャルワーク論Ⅲ」を履修済み、あるいは並行履修していること。今年度、最終開講年度である。

〔講義概要〕

相談援助の専門職であるソーシャルワーカーとして、精神障害のある人の支援に直接役に立つ知識と技術を身につける。講義、プリント教材、視聴覚教材を用いながら、具体的なソーシャルワークスキルを学ぶ。

■授業計画

第1回	授業方針、精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要
第2回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程
第3回	アウトリーチ、インテーク、アセスメント
第4回	援助関係の形成、面接
第5回	自殺危機にある人への対応
第6回	認知行動療法的アプローチによる介入
第7回	リカバリーと病気の自己管理(IMR)
第8回	精神保健福祉分野における家族支援の実践
第9回	家族システム論と家族支援
第10回	多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)
第11回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法
第12回	コミュニティワーク
第13回	個別支援からソーシャルアクションへの展開
第14回	関連分野における精神保健福祉士の実践展開
第15回	-
第16回	-

〔成績評価〕

試験(60%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(10%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

参加型授業への貢献度を評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業で紹介するさまざまな知識とスキルを、精神に障害のある人の支援でどのように実践していくのかについて学習すること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

ミニ課題に対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。レポート課題については授業終了までに授業内でコメントを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、精神障害のある人を包括的・総合的な援助を行うことができる。

〔テキスト〕

第4巻『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』、第5巻『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』中央法規出版、いずれも「新・精神保健福祉士養成講座」

〔参考文献〕

適宜紹介する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目

精神科ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かし、精神保健福祉領域における総合的・包括的な相談援助に必要な実践的な内容の講義を行う。

ソーシャルワークの理論と方法(専門)	
科目ナンバー	ISW2310-L
2単位：後期1コマ	3～4年
福島 喜代子	

〔到達目標〕

相談援助の専門職であるソーシャルワーカーとして、精神障害のある人の支援に関する知識と技術を得る。
ソーシャルワーカーとして、精神障害のある人も含めて支援できるようになる。

〔履修の条件〕

ソーシャルワークや対人援助に関心のある学生は、3、4年次に履修をすることができる。精神保健福祉士の取得を目指していても、精神障害のある人への支援について学びたい人も履修することができる。
精神保健福祉士の指定科目である。「ソーシャルワーク論Ⅰ」、「ソーシャルワーク論Ⅱ」、「ソーシャルワーク論Ⅲ」を履修済み、あるいは並行履修していること。また、「ソーシャルワーク論Ⅳ」「ソーシャルワーク論Ⅴ」を4年次に履修すること。最終開講年度である。

〔講義概要〕

相談援助の専門職であるソーシャルワーカーとして、精神障害のある人の支援に直接役に立つ知識と技術を身につける。講義、プリント教材、視聴覚教材を用いながら、具体的なソーシャルワークスキルを学ぶ。

■授業計画

第1回	授業方針、精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要
第2回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程
第3回	アウトリーチ、インテーク、アセスメント
第4回	援助関係の形成、面接
第5回	自殺危機にある人への対応
第6回	認知行動療法的アプローチによる介入
第7回	リカバリーと病気の自己管理(IMR)
第8回	精神保健福祉分野における家族支援の実践
第9回	家族システム論と家族支援
第10回	多職種連携・多機関連携(チームアプローチ)

第11回 ソーシャルアドミニストレーションの展開方法

第12回 コミュニティワーク

第13回 個別支援からソーシャルアクションへの展開

第14回 関連分野における精神保健福祉士の実践展開

第15回 -

第16回 -

〔成績評価〕

試験(60%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(10%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

授業参加の姿勢、貢献度を評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業で紹介するさまざまな知識とスキルを、精神に障害のある人の支援でどのように実践していくのかについて学習すること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。試験については授業内でコメントを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、精神障害のある人を包括的・総合的な援助を行うことができる。

〔テキスト〕

『ソーシャルワークの理論と方法(専門)ⅠⅡ』中央法規出版

〔参考文献〕

適宜紹介する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目

精神科ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かし、精神保健福祉領域における総合的・包括的な相談援助に必要な実践的な内容の講義を行う。

高齢者福祉論	
科目ナンバー	ISW2205-L
2単位：後期1コマ	2年
山口 麻衣	

〔到達目標〕

本講義では、福祉にとどまらず社会参加、社会保障、就労、保健・医療等の高齢者福祉政策を理解し、地域における様々な高齢者福祉領域での実践事例からの学びを通して、高齢者福祉政策の課題や高齢者支援のあり方の課題に気づき、どうすべきかの対処策を考察することができるよう知識を得て、考察するスキルを高めることを到達目標とする。

〔履修の条件〕

本講義は、社会福祉士国家試験受験のためには必要とされる。

〔講義概要〕

地域共生社会における地域包括ケアの推進はどうすべきか。高齢者福祉制度は、高齢者の権利、地方自治体への権限の委譲と格差の拡大、担い手の広がりやセーフティネットの不明確化、保健医療福祉、産業、環境との連携とそれを妨げる現状等の課題をもって、本講義では、高齢者福祉支援や政策を体系的に包括的に学び、今後の高齢者福祉のあり方を学習する。基本的に講義形式の授業になるが、一部、グループディスカッションを行う。

■授業計画

第1回	オリエンテーション 高齢者の暮らしを支える制度や支援の概要を体系的に学ぶ 高齢者の生活と社会：高齢化と高齢者の生活実態
第2回	高齢者の生活と社会：人生100年の長寿社会と高齢者の生き方とウェルビーイング 高齢者福祉の理念と発展過程：福祉制度老人福祉法制定まで
第3回	高齢者福祉の理念と発展過程：老人福祉法制定以降
第4回	介護保険制度の概要 介護保険制度の目的、仕組み、財政
第5回	介護保険制度の概要 現状と課題
第6回	介護保険制度の概要、現状と課題
第7回	介護保険制度の概要、現状と課題 市町村の高齢者施策の分析
第8回	地域共生社会と地域包括ケア、地域包括ケア、地域支援事業について理解を深める
第9回	高齢者支援における多職種連携、高齢者に対する保健・医療・福祉の連携
第10回	ケアマネジメントの流れと実際：地域包括支援センターの役割と実際
第11回	高齢者の経済・就労・社会参加に対する包括的な支援、 地域における認知症ケアの実際と課題
第12回	高齢者虐待防止の取組み
第13回	高齢者の住まいと住居支援、 テクノロジーを活用した高齢者福祉施策
第14回	高齢者をケアする家族等への包括的な支援、終末期ケアと家族等へのグリーフケア 全体のまとめ：高齢者福祉の課題
第15回	期末試験
第16回	ー

〔成績評価〕

試験(50%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

その他の評価としては、毎回の授業でのフィードバック、質問や討議・発表など積極的な授業参加で評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

テキストの学習は前提とされるが、それだけでなく、授業ごとに配布される資料、視聴覚教材を参照し、関係文献を自主的に学習していくことを望みたい。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを次の講義において行う。課題レポートについては、レポート返却時に個別にコメントし、授業時に全体的なコメントを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。介護保険制度の概要を理解し、地域包括ケアシステムの課題は何かを学び、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになるための知識を得る。

〔テキスト〕

全国社会福祉協議会社会福祉学習双書(2023)『高齢者福祉』

〔参考文献〕

厚生省の指標『社会福祉と介護の動向』その他は授業時に示す

障害者福祉論

科目ナンバー	ISW 2206-L
2単位：後期1コマ	2年
高山 由美子	

〔到達目標〕

- ①社会福祉士養成課程カリキュラムに対応する障害者福祉の基本的な知識を獲得する。
- ②障害者の生活実態を踏まえ、相談援助の基本となる関連法制度を理解する。
- ③障害者福祉の基本理念と制度の展開過程をふまえて障害者福祉の課題を理解する。

〔履修の条件〕

社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。履修学年の目安は2年次である。3年次以降、障害福祉分野でのソーシャルワーク実習を希望している場合は実習前に必ず履修し、単位取得しておくこと。

〔講義概要〕

授業は、配布資料やテキスト等を中心とした講義であるが、テーマによっては討議等の意見交換も行いながら、大きな変革期にある障害福祉の全体像について理解を深める。

■授業計画

第1回	オリエンテーション 到達目標、講義概要、評価等 障害福祉に関するこれまでの学びのふりかえり
第2回	障害福祉の基本理念を理解する①
第3回	障害福祉の基本理念を理解する②

- 第4回 統計から見る障害者の動向と生活状況
 第5回 障害福祉制度の発展過程の理解
 第6回 障害者の権利条約の理解
 第7回 障害者基本法と関連する法律の理解
 第8回 障害福祉施策と計画の理解
 第9回 障害者総合支援法の理解①
 第10回 障害者総合支援法の理解②
 第11回 障害者総合支援法の理解③
 第12回 さまざまな障害と関連法制度の理解
 第13回 障害者虐待防止法と権利擁護の理解
 第14回 障害当事者の活動と権利擁護の理解
 第15回 定期試験
 第16回 -

〔成績評価〕

試験(70%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。授業で取り上げる出来事(ニュースや法制度の動向等)などにも関心を持ち、その背景を理解するように努めること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックは、以降の授業時に必要に応じて行う。レポートについては授業終了までに返却し解説する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な権利擁護の視点と障害領域の知識を獲得すると同時に、ものごとの本質を把握し解決策を目指す姿勢をとって高度な専門性と総合的・実践的な学習能力を身につける。

〔テキスト〕

その他、必要な資料は適宜配布する。
 いずれの出版社のものでもよいが、最新版の『社会福祉小六法』を用意すること。
 テキスト、配布資料(すでに授業で取り上げたものも含めて)、『社会福祉小六法』は毎回の授業に持参すること。

〔参考文献〕

『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉』(中央法規出版)
 『障害者白書(2023年版)』(内閣府編)
 『障害福祉サービスの利用について』(全国社会福祉協議会)

〔備考〕

実務経験のある教員による科目
 ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、障害福祉に関する歴史、理論、制度、支援の実際等に関する講義を行う。

保健医療サービス

科目ナンバー	ISW2311-L
2単位：後期1コマ	3年
廣瀬 圭子	

〔科目補足情報〕

保健医療サービスとは、医療サービスと社会サービスから構成されたものである

〔到達目標〕

- ①社会福祉と保健医療との関係を理解する。
- ②保健医療サービスの供給システムの概要を理解する。
- ③保健医療ソーシャルワークの概要を理解する。

〔履修の条件〕

社会福祉の主要科目、とりわけソーシャルワークの方法論系科目ならびに社会保障論を履修していること。

〔講義概要〕

現代の社会福祉実践では、保健医療とのかかわり合いが大きくなっており、地域共生社会の拡充に寄与できるソーシャルワーカーは、医療との連携をはかりながら、社会福祉の視点・立場から事象をとらえ考察し、実践していくことが求められる。授業では、社会福祉士ならびに精神保健福祉士指定科目(共通科目)のシラバスに盛り込まれた内容を網羅しつつ、保健医療の歴史的変遷と基本的性質、保健医療ソーシャルワークの理論、医療福祉に関する課題に触れながら、能動的に保健医療と連携するソーシャルワーカーの姿勢や専門性に関する知識の獲得を目指す。

■授業計画

- 第1回 保健医療分野の課題をもつ人の理解
 第2回 医療倫理
 第3回 保健医療の動向(1)
 第4回 保健医療の動向(2)
 第5回 保健医療領域における支援の実際(1)：事例1・2
 第6回 保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスの関する知識(1)
 第7回 保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスの関する知識(2)
 第8回 保健医療領域における支援の実際(2)：事例3・4
 第9回 保健医療領域における専門職の役割と連携(1)
 第10回 保健医療領域における専門職の役割と連携(2)
 第11回 保健医療領域における支援の実際(3)
 第12回 保健医療領域における支援の実際(4)：事例5・6
 第13回 保健医療領域における支援の実際(5)：事例7・8
 第14回 保健医療サービスのまとめ・医療福祉に携わること
 第15回 試験
 第16回 なし

〔成績評価〕

試験(70%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(15%)、その他の評価方法(15%)

〔成績評価(備考)〕

その他の評価方法には、受講姿勢やグループワークへの参加態度が含まれる。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

講義前に指定テキストを読んでおくことを勧める。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする

〔試験・レポート等のフィードバック〕

レポートについては、授業内に適宜口頭でコメントする。
試験は、最終回にテキスト全範囲を対象に実施する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。わが国における保険医療サービスを学ぶとともに、保険医療を必要とする利用者や家族への支援方法を身に付けることができる。そのために、個人・社会の環境を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言や実行できるようになること。

〔テキスト〕

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)『最新・社会福祉士養成講座「5」保健医療と福祉』中央法規 2,500円(税別)

〔参考文献〕

小山秀夫・堀越由紀子・笹岡真弓編(2016)『保健医療サービス(改訂版)』ミネルヴァ書房

〔備考〕

実務経験のある教員による科目
福祉医療現場での経験を活かして、対人援助の方法を指導する。毎回、テキストを持参すること

精神障害リハビリテーション論

科目ナンバー ISW2315-L

2単位：後期1コマ 3年

小高 真美

〔到達目標〕

精神障害者のリハビリに焦点を当て、生活支援のための方法や精神保健福祉士など専門職の役割について、多面的な視点を持って理解を深めることを目指す。

〔履修の条件〕

精神保健福祉士の受験資格を取得するための必須履修科目である。
資格の取得を考えていない人の履修も歓迎する。

〔講義概要〕

講義だけでなく、演習やグループ討議、外部講師(精神障害者を支援する地域の事業所等の利用者や職員)による講演なども通じて、精神障害者の生活支援について包括的に学習する。

■授業計画

第1回 オリエンテーション、講義の進め方、課題の説明など

第2回 精神障害者の生活に関わる精神科医療や制度の変遷

第3回 精神障害者の生活とリカバリー

第4回 精神障害者のリカバリーを阻害するスティグマ

第5回 精神科長期在院の退院支援と地域生活支援①

第6回 精神科長期在院の退院支援と地域生活支援②

第7回 科学的根拠に基づく精神障害者の生活支援①

第8回 科学的根拠に基づく精神障害者の生活支援②

第9回 精神障害者の生活支援の実際①

第10回 精神障害者の生活支援の実際②

第11回 精神障害者の生活支援の実際③

第12回 精神障害者の生活支援と危機介入①

第13回 精神障害者の生活支援と危機介入②

第14回 精神障害者の家族支援と家族のリカバリー

第15回 まとめ

第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(40%)、小テスト(0%)、課題提出(60%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

授業形態(対面授業、オンライン授業、課題配信型授業など)によって、成績の評価方法を多少変更する可能性があります。その場合は、第1回のオリエンテーションで説明いたします。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

授業内容について、テキストや参考資料等の該当箇所目を通し予習・復習する。予習・復習に必要なテキスト該当箇所や資料等は、講義ごとに適宜指示する。予習・復習時間は1回につき、200分程度となる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

各課題は授業時間内にグループディスカッションあるいはクラスで発表し、他の受講生や教員からのフィードバックを受ける。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」および「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。精神疾患や精神障害のある人たちへのスティグマの理解やアンチスティグマへの行動、また疾患からのリカバリーの理念に基づく実践の理解などを主軸に学習を進める。また、事例検討や当事者による体験なども何うことで、生活支援における専門的、包括的な理解を促進する。

〔テキスト〕

精神保健福祉士の国家試験を受験される方は、参考文献に記載のテキストを購入されることをお勧めしますが、購入必須ではありません。

〔参考文献〕

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『精神障害リハビリテーション論(最新 精神保健福祉士養成講座3)』中央法規出版, 2021

その他、講義ごとに適宜紹介する。

権利擁護と成年後見制度

科目ナンバー	ISW 2105-L
2単位：後期1コマ	1～2年
金子 和夫	

〔到達目標〕

民法を中心に権利擁護制度について理解できる。成年後見制度や消費者保護制度、損害賠償制度、虐待防止関係制度、不服申立て制度などについて説明できる。社会福祉士国家試験や公務員試験などに寄与できるとともに、日常生活にも学んだ知識が活用できる。

〔履修の条件〕

本科目は、社会福祉士国家試験の指定科目であり、国家試験受験希望者は「憲法」とあわせて必ず履修すること。国家試験を受験しない学生は「法学」を参照すること。なお、法学を履修済みの学生は本科目を履修できない。

〔講義概要〕

民法を中心に憲法、行政法について講義する。民法では、成年後見、契約、不法行為、親族・相続、行政法では、行政処分や不服申立てを中心に学習する。さらに、消費者・利用者の権利擁護を支える仕組みと法的諸問題、それに係る機関・専門職について、その実際を理解する。

■授業計画

第1回	ガイダンス(法の基礎)
第2回	行政法(行政処分と不服申立て、行政訴訟、国と自治体の関係)
第3回	民法(契約と消費者保護)
第4回	民法(国家賠償を含む損害賠償)
第5回	民法(夫婦とDV防止法)
第6回	民法(親子と児童虐待防止法)
第7回	民法(扶養・相続と高齢者虐待防止法)
第8回	民法(権利能力、行為能力)
第9回	成年後見制度(制度の概要)
第10回	成年後見制度(任意後見を含めた利用動向)
第11回	成年後見制度(成年後見制度利用促進法、成年後見制度利用支援事業、日常生活自立支援事業)
第12回	権利擁護制度(組織、団体と専門職)
第13回	権利擁護制度(権利擁護の意義と仕組み)
第14回	権利擁護制度(権利擁護活動と意思決定支援)
第15回	試験
第16回	-

〔成績評価〕

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

少子高齢社会における高齢者の実態、知的障がい者や精神障がい者を取り巻く状況などについて、新聞記事やTVニュース等に関心を持つこと。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性、および、3.総合的・実践的な学習能力に該当する。本科目を学ぶことにより、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることが出来るよう援助するために福祉の専門職に必要な価値、知識を得る。また、ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言・実行できる学習能力を得る。

〔テキスト〕

テキストは使用しない。毎回講義資料を配布する。

〔参考文献〕

憲法、行政法、民法それぞれにテキストが多数出版されているので、自分で使いやすい文献を利用すること。
川井健『民法入門』(有斐閣)
石川他『はじめての行政法』<有斐閣アルマ>(有斐閣)
『権利擁護を支える法制度』(中央法規)
『法学』(全国社会福祉協議会)

〔備考〕

授業はキャッチボール形式で行います。教員の質問に対し多くの学生が答える方法で授業を進めます。

公的扶助論

科目ナンバー	ISW 2211-L
2単位：後期1コマ	3年
岡部 卓	

〔科目補足情報〕

貧困・低所得者問題とその対応策について(制度・政策、方法、体制)学ぶ。

〔到達目標〕

・現代社会における貧困・低所得者問題とその対応策である公的扶助制度について理解を図る。
・貧困・低所得状態にある人・世帯への相談援助活動の方法とその実際を通して「人が人を支える・支えられる」支援の在り方について考える。
授業時間外(予習・復習等)の学習

〔履修の条件〕

社会福祉士の国家試験受験科目「貧困に対する支援」に対応。

国試を目指す人は必ず履修すること。
テキストは各自必ず購入すること。
欠席が3分の1を超えた場合は受験資格を失う。

【講義概要】

講義は、大きくは、次の3つに分けて進める。(1) 公的扶助の前提とする現代社会における貧困・低所得者問題、公的扶助の概念、役割・意義、公的扶助の歴史について学ぶ。(2) 貧困対策としての生活保護制度や生活困窮者自立支援制度をはじめとするさまざまな低所得者対策の制度的仕組みや福祉事務所を中心とした生活保護の運営実施体制や関連機関等について学ぶ。(3) 貧困・低所得者に対して行われる相談援助活動の方法などについて学ぶ。

■授業計画

第1回	現代社会と公的扶助-概念と範囲、意義と役割
第2回	公的扶助の対象としての貧困・低所得者問題 (1) 貧困と社会的排除 (2) 貧困・低所得者問題の現代的課題
第3回	公的扶助の歴史(1) わが国における公的扶助の歴史
第4回	公的扶助の歴史(2) イギリスにおける公的扶助の歴史
第5回	生活保護制度の仕組み(1) 目的と原理、原則
第6回	生活保護制度の仕組み(2) 種類と内容、方法、保護施設
第7回	生活保護制度の仕組み(3) 権利および義務、不服申立てと訴訟、財源・予算
第8回	生活保護制度の仕組み(4) 最低生活保障水準と生活保護基準
第9回	生活保護の動向
第10回	生活保護の運営実施体制と関係機関・団体
第11回	生活保護における相談援助活動と自立支援
第12回	低所得者対策の概要(1) 生活困窮者自立支援法、生活福祉資金貸付制度
第13回	低所得者対策の概要(2) 社会手当、ホームレス対策、その他対策
第14回	低所得者に対する相談援助活動
第15回	レポート
第16回	-

【成績評価】

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

【成績評価(備考)】

リアクションペーパー 50%

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

講義後の復習と次回講義内容に関する文献・資料の紹介を行うので、次の講義までに読んでおくこと。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の授業時に行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性、および、3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。

専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、深く総合的な人間理解に立ち人権と生活を守り豊かな人生を送ることができるよう、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるようになること。

ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。

【テキスト】

最新社会福祉士養成講座4『貧困に対する支援』、中央法規出版、2022年

【参考文献】

厚生省の指標・臨時増刊『国民の福祉と介護の動向』 一般財団法人厚生労働統計協会

更生保護制度論

科目ナンバー	ISW 2212-L
2単位：後期1コマ	3年
西原 雄次郎	

【科目補足情報】

この科目は「刑事司法と福祉」に該当する科目である。

【到達目標】

- ① 我が国の「刑事司法と福祉」全般に関する基本的な知識を身に付ける。
- ② 歴史的な経緯も含めて、更生保護制度の概要を理解し、その中でソーシャルワーカーがどの様に貢献しているかを知り、今後のあるべき方向について一定の意見を形成する事が出来るようにする。

【履修の条件】

- ① 3～4年生で各自の履修プランにしたがって自由に履修可能である。
- ② 社会福祉士・精神保健福祉士共通の国家試験の出題範囲の科目である。

【講義概要】

- ① 司法における福祉活動の全体を概観する。
- ② 犯罪・司法統計や犯罪事例等を活用して、巷間に流布されている間違った常識ではなく、出来るだけ正確な知識の習得に資することを前提に講義を展開する。
- ③ 新聞や雑誌に掲載されている関連情報を積極的に活用する。

■授業計画

- 第1回 刑事司法と福祉の概略 オリエンテーション
・司法福祉の中の「刑事司法」「更生保護」の基本的な概念を整理し、規範的解決と実体的解決等という考え方について概説する。
- 第2回 刑事司法と福祉の歴史的経緯 先駆者の実践から

学ぶ①

・諸制度の全く整備されていない時代に、開拓的な事業を行った先達の事績を2回にわたって概説する。

第3回 刑事司法と福祉の歴史的経緯 先駆者の実践から学ぶ②

・前回の続きである。個々の先駆者の「熱」と、その「実践力」「持続力」「基本理念」等を皆で考えたい。

第4回 近年の犯罪統計から学ぶ

・わが国の犯罪統計から見てくる現状を理解し、何が課題となっているのかを概説する。

第5回 刑事司法手続の理解と福祉の関わり

・罪刑法定主義、適正手続の保障、といった諸概念と、それに基づいた刑事司法手続の基本を学び、「福祉」がどう関わっているのかを概説する。

第6回 少年司法手続の理解と福祉の関わり

・更生保護制度の分野で先駆的な役割を果たしてきた少年司法の現状を学び、「福祉」との関わりを概説する。

第7回 施設内処遇と福祉の関わり

・刑務所・少年院等の刑事施設内において期待されている福祉職の役割と現状について概観する。

第8回 社会内処遇としての更生保護制度1

・「地域共生社会」という概念が不明確な時代から、地域をベースに実践されてきた、更生保護の役割を担う機関、団体、担い手等を概説する。

第9回 社会内処遇としての更生保護制度2

・更生保護制度運用の実際と、その中で、福祉事業者や福祉職にはどのようなことが期待されているのかを皆で考えたい。

第10回 更生保護制度と高齢累犯者・累犯障がい者

・軽微な犯罪を繰り返す高齢者・障がい者への支援がどうあるべきか、福祉職には何が期待されているのかを概観する。

第11回 医療観察制度の現状と課題

・「医療観察法」と、保護観察所に配置されている「社会復帰調整官」の役割と課題について概観する。

第12回 更生保護と犯罪被害者支援

・「犯罪被害者基本法」成立の経緯と、「法」の内容を概説し、運用の現状と課題について概説する。

第13回 死刑制度を考える

・更生保護とは対極の位置にあると思われる「死刑制度」について、世界の趨勢も紹介しつつ、福祉職としてどうあるべきか、皆で考えたい。

第14回 総括 民事司法とも関わらせながら全体を総括する

・司法福祉は、刑事司法のみならず、民事司法とも関わる部分も多く見られる。そのことにも触れつつ、全体を概観する。

第15回 試験

第16回 ー

〔成績評価〕

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

成績評価の「その他20%」は、各授業時に提出されるリアクション用紙への記入内容や、授業への参加度を評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

①日常の社会福祉の学習の中には出てこない専門用語が数多く使われるので、授業時に配布する資料類や参考文献を参照して、事前・事後学習をすることが不可欠である。

②本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

①リアクション用紙に記載された内容に対するフィードバックは、次の授業時に行う。

②その他の質問等への対応も授業時を中心に行う。

③試験は、講義中に提供された知識・考え方を問うものである。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

本講義を通して、受講者は、本学のディプロマポリシーに記された「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」の一端を身に付けることになる。

〔テキスト〕

特定のテキストは使用しない。

授業時に適宜配布する資料に基づいて授業を展開するが、参考文献として、主として下記に記載の、中央法規出版 最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座10『刑事司法と福祉』を利用する。

〔参考文献〕

①中央法規出版 最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座10『刑事司法と福祉』他、各社から出版されている国試対応の文献を参考にする。

②法務省による『犯罪白書』『犯罪被害者白書』等と、最高裁判所、法務省、厚生労働省等のホームページで公開されている各種通知や最新の統計資料を用いる。

③日々の新聞等の犯罪報道に注意し、更生保護・司法福祉の視点で読む努力をしてもらいたい。

人体の構造と機能及び疾病

科目ナンバー	ISW2213-L
2単位：前期1コマ	2年
中館 和彦	

〔到達目標〕

社会福祉士、精神保健福祉士、及び公認心理師の国家試験を受ける際に必要な医学知識を主に、人体の基本的な構造と働き、重要な疾患や障害、我が国の保健医療対策や統計などについて理解する。また、公認心理師国家試験受験においては、「心身機能と身体構造及びさまざまな疾病や障害」と、「がん・難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病」を理解する必要がある。

〔履修の条件〕

社会福祉士と精神保健福祉士、及び公認心理師を受験する予定の学生と、医学について広く学びたい学生を対象とする。また、テキストは初回から使用するため授業開始までに各自購入すること。テキスト購入が授業開始に間に合わない学生は各自の責任で対応すること。

〔講義概要〕

社会福祉士及び精神保健福祉士は福祉の専門職として、そして公認心理師は心理の専門職として、医師や看護師などの医療職とともにチーム医療の中で大きな役割を担っている。しかし、疾病や障害を抱えた人と関わっていくため、医学的な基礎知識を持つことは必要かつ重要なことである。また、医療機関のみならず福祉施設やNPOなどで働く場合でも同様のことが言える。将来、そのような分野で働く際に必要な、心身機能と身体構造、そして基本的な医学知識をこの講義で取り扱っていく。しかし、それはまた、一般の日常生活の中でも役立つことも含まれ、将来専門職として働かない場合でも、この講義を受けることによって得るものは多いと考える。

■授業計画

第1回	オリエンテーション、講義の進め方、テキスト、試験についての説明
第1章	ライフステージにおける心身の変化と健康課題
第2回	第2章 健康および疾病の捉え方
第3回	第3章 身体構造と心身機能1
第4回	第3章 身体構造と心身機能2
第5回	第3章 身体構造と心身機能3
第6回	第3章 身体構造と心身機能4
第7回	第3章 身体構造と心身機能5
第8回	第3章 身体構造と心身機能6
第9回	第4章 疾病の障害の成り立ちおよび回復過程
第10回	第6章 疾病の障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション1
第11回	第6章 疾病の障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション2
第12回	第6章 疾病の障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション3
第13回	第6章 疾病の障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション4
第14回	第6章 疾病の障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション5
第15回	第6章 疾病の障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション6
第16回	第5章 リハビリテーションの概要と範囲1
第17回	第5章 リハビリテーションの概要と範囲2
第18回	第7章 公衆衛生
第19回	試験

〔成績評価〕

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(20%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

準備学習(予習・復習等)の内容及びそれに必要な時間

授業のスピードがかなり早いので、指定テキストをあらかじめ読んでおくこと。また、覚えることも多いので、自分なりに授業内容をまとめること。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

小テストおよび試験の解答と解説については、紙での配布またはオンラインで行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することによって、人間の体の働きを知り、基本的な医学知識を身につけることができる。

〔テキスト〕

最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座1
医学概論(2021年2月発行) 中央法規出版

〔参考文献〕

①プリント：必要に応じて配布する(紙またはオンライン)。

〔備考〕

小テストは、講義の進行状況をみながら講義内で行う。

高校までに習う生物の知識は理解しているという前提で授業を進めるので、不安がある場合には市販の参考書などで見直しておくこと。

精神保健	
科目ナンバー	ISW 2106-L
2単位：後期1コマ	1～4年
添田 雅宏	

〔到達目標〕

この講義ではわが国における精神保健の現状と対策について関心を持ち、対人援助職としての人間理解を深めていきます。またライフステージにおける精神保健の重要性と課題を理解し、国試に必要な知識の習得と併せて、人が生きていく上で精神保健がなぜ不可欠なのか講義とグループワークを通して考えます。答えを出すための知識・技法だけではなく、心の健康を考え続ける専門職に必要な知識、初歩的な考え方やスキルを身に付けることが授業の到達目標です。

本講義では精神保健福祉士、臨床心理技術者等対人援助の職に就く基本的な技術の獲得を目標としてグループワークを行います。学生本人の心身の状態の良し悪しに関わらず、基本的にはグループワークへの参加は必須とし、参加できない場合はその理由の提出を求めます。

〔履修の条件〕

履修登録を行った者

〔講義概要〕

精神保健は、心の健康保持・増進を目指す学問と実践です。「心の健康とは何か」を深く知るため国試対策用の講義だけでは

なく、自分の心の健康を増進するための技術や具体的な実践方法を体験してもらうためのワークショップを行います。

心の健康を増進・維持するための手法を在学中に獲得しておくことは、今後の人生にとって様々な局面で役に立つと思われる。また他者を理解するためには自己を理解することが不可欠なため、自分の強み(ストレンクス)と弱み(ウィークネス)に気づくセッションなども用意しています。

原則として一方的にただ聞いているだけの講義にはしません。参加型、協働型の講義となります。受講生の性格や考え方は最大限考慮しますが、積極的な参加を歓迎します。

■授業計画

- 第1回 精神保健の概要と課題
- ・自己紹介 精神保健学とは
 - ・なぜ精神保健が必要か
 - ・あなたの心が健康であるために
- 第2回 精神保健の基礎知識/こころのしくみの理解
- ・こころが健康であるとは
 - ・強いこころ、弱いこころ、しなやかなこころとは
 - ・こころのバランスの取り方(食べる、寝る、動く、話す、忘れる)
 - ・*マインドフルネス体験など
- 第3回 ライフサイクルにおける危機と課題
- ・乳幼児期
 - ・学童期
 - ・思春期
 - ・青年期
 - ・老年期
- 第4回 海外の精神保健事情の紹介
- ・イギリスの精神医療保健福祉改革の紹介
 - ・リカバリーカレッジの実践
 - ・ストレンクス、エンパワメント、リカバリー
 - ・リカバリー(ディスカバリー)の考え方
 - ・オープンダイアログの紹介
 - ・諸外国の実践紹介
- 第5回 精神障害の分類と特徴および精神保健学的アプローチ①
- ・代表的な精神障害の分類と説明
 - ・統合失調症
 - ・気分障害(うつ病、双極性障害、新型うつ)
- 第6回 精神障害の分類と特徴および精神保健学的アプローチ①②
- ・パーソナリティー障害
 - ・発達障害
- 第7回 長期在院者問題
- ・日本固有の問題として、負の歴史として歴然と横たわっている
 - ・精神科病院に長期入院されている方の実情を精神保健学的視点から考える
 - ・*DVD鑑賞
- 第8回 自殺対策
- ・わが国の自殺問題の現状を理解しその対策について考える
 - ・*いのちの電話・東京都自殺相談ダイヤル・SNS相談等

- 第9回 依存症対策
- ・アルコール依存症
 - ・薬物依存症
 - ・ギャンブル依存症
- 第10回 家族関係と精神保健
- ・家族関係が精神保健に及ぼす影響
 - ・精神医療保健福祉領域における家族のあり方について
 - ・家族を支えるシステムについて
- 第11回 精神保健活動の実践
- ・行政機関の役割(国、都道府県、区市町村)
 - ・保健所が果たす役割
 - ・市区町村の実践
- 第12回 居宅生活支援における対人援助職の役割を考える(グループワーク)①
- ・架空の事例を用いたロールプレイ
 - ・ソーシャルスキルトレーニング(SST)
- 第13回 精神保健福祉ユーザーからの視点を学ぶ
- ・精神保健医療福祉制度を利用している当事者を招いて、その方の歴史や支援者に対しての思いを伺う
- 第14回 講義のまとめ
- 第15回 ー
- 第16回 ー

【成績評価】

試験(0%)、レポート(60%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(40%)

【成績評価(備考)】

その他の評価はリアクションペーパーとグループワークでの言動を見ます。

正当な理由なくグループワークを欠席した学生は評価が下がることがあります。

また心身の状況が悪いながらもグループワークに出席した学生や積極的にグループ力動を高める働きをしている学生は高く評価します。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

教科書の該当箇所を読む。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

・リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

・発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することで、精神保健に関わる現代社会の問題を知り、人間の好ましいあり方について検討することを通して、人間を多面的にとらえ総合的に考えることができる。

【テキスト】

最新・精神保健福祉士養成講座2「現代の精神保健の課題と支援 第3版」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(中央法

規・3,300円)

精神疾患とその治療	
科目ナンバ	ISW2214-L
2単位：後期1コマ	2～4年
肥田 裕久	

【科目補足情報】

教科書的な話題だけではなく、生きて生活している人間としての患者さんの理解を学ぶ講義です。そのために多くの事例等話します。講師は臨床の精神科専門医ですので、興味関心を持てるよう努めます。

【到達目標】

精神科の患者さんの病状や困っているような事についての理解を深めて欲しいと思います。細かな知識の集積よりも、今後の職務や職分に役に立つ実践の知恵を得ることを目的とします。

【履修の条件】

特にはありません。

【講義概要】

教科書も使用しますが、あくまで参考的な使用です。各講義ごとに実臨床の話題を多くいたします。基礎的な講義が一段落ついたあとで、VR 体験もおこない、患者さんの経験している苦労を追体験でき、理解を深めるような授業構成になります。パワーポイントのオリジナル教材を使用します。

■授業計画

第1回	オリエンテーション 「精神科疾患を学ぶ上で重要な事項」 身体疾患の重要性の理解。
第2回	「精神科症候学」 精神科をむずかしくしているのは用語の煩雑さです。精神科専門用語の解説を行います。
第3回	第2回目講義の継続 第2回講義でわかりにくいような点を質問をうけ、解説。理解を深める
第4回	統合失調症1 疫学 病態生理 症状
第5回	統合失調症2 治療 薬物療法・精神科リハビリテーション
第6回	気分障害1 疫学 病態生理 症状
第7回	気分障害2 治療 薬物療法・精神科リハビリテーション
第8回	神経症性障害 疫学 病態生理 症状 治療 薬物療法・精神科リハビリテーション
第9回	第4-8回目の補足 十分に触れる事のできなかったことを補足・補遺します。この段階で、総括として事前に配布する質問用紙での回答を予定しています。
第10回	当事者の話を聴く機会。

VR の機材を使い、症状を追体験する。

教材は、統合失調症、ADHD を使用します。

- 第11回 器質性精神障害
疫学 病態生理 症状 治療 薬物療法・精神科リハビリテーション
- 第12回 児童・思春期の精神障害
自閉症スペクトラム障害 ADHD 知的障害など。概念整理と治療方法
- 第13回 精神科関連の法制度などの包括的講義
なぜ法律は変わって来たのか。収容主義から現在のリカバリー志向への変遷を追いながら、人権の在り方、精神科医療への変化等を説明します。
- 第14回 第10回から13回目まで十分に触れる事のできなかったことを補足・補遺します。および総括。
- 第15回 レポート試験
- 第16回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

【成績評価(備考)】

自分のことば、自分の思考で書かれているものを評価します。書籍・論文の引用ではない
オリジナルな意見を評価します。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

試験・レポート等のフィードバックは講義中などで適宜コメントでできるような時間を設ける予定です。

【ディプロマポリシーとの関連性】

本講義では精神障害を学ぶ事で「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」の涵養を目指します。

【テキスト】

標準的なテキストとして 「精神医学と精神医療」中央法規出版(2021年) 3,300円(3,000円+税)

【参考文献】

「精神科リハビリテーション スキルアップのための11講」星和書店

【備考】

本講座は隔週開講の1・2時間続きの講義となります。

社会福祉特講 A

科目ナンバー	ISW 2412-L
2単位：後期1コマ	4年
浅野 貴博、山口 麻衣、廣瀬 圭子、大曲 睦恵、西原 雄次郎	

〔到達目標〕

社会福祉士国家試験受験科目のうち、専門科目についての必要な知識を獲得する。

〔履修の条件〕

社会福祉士国家試験の受験を予定していること。

〔講義概要〕

社会福祉士国家試験の受験に必要な知識を獲得することを目的として、社会福祉士の国家試験科目の中から、専門科目を中心に取り上げる。なお、取り上げる科目の順序は変更する場合がある。

■授業計画

第1回	オリエンテーション/社会福祉士国家試験受験の心構え
第2回	小テスト(模擬試験)①
第3回	小テスト(模擬試験)②
第4回	相談援助の基盤と専門職
第5回	相談援助の理論と方法①
第6回	相談援助の理論と方法②
第7回	高齢者に対する支援と介護保険制度
第8回	児童や家庭に対する支援児童・家庭福祉制度
第9回	福祉サービスの組織と経営
第10回	就労支援サービス
第11回	社会福祉調査
第12回	更生保護制度論
第13回	小テスト(模擬試験)③
第14回	小テスト(模擬試験)④
第15回	ー
第16回	ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(50%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

評価は授業内に実施する小テストと授業時の応答によって行う。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習)が必要となる。社会福祉士国家試験に合格するためには講義以外での自主的な学習が不可欠であるので、自身の受験勉強計画をしっかりと立て、継続的な学習をすることを前提に出席すること。次回取り上げる科目については、必ず予習をしておくこと。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

授業時の質問等については適宜対応し、フィードバックを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な知識と技術、課題解決力を身につける。

〔テキスト〕

特に指定しない。

〔参考文献〕

参考文献は授業で紹介する。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目

ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、社会福祉士国家試験の受験に必要な科目に関する講義を行う。

社会福祉特講 B

科目ナンバー	ISW 2413-L
2単位：後期1コマ	4年
浅野 貴博、廣瀬 圭子、古寺 久仁子、大曲 睦恵	

〔到達目標〕

精神保健福祉士国家試験に合格できる力を付ける。

精神保健福祉士として活動するときに必要な法律、制度、技術を整理し、理解する。

〔履修の条件〕

4年生で、精神保健福祉士の国家試験を受験する予定の者。毎回、事前学習を行い、授業に参加する者。

〔講義概要〕

精神保健福祉士国家試験の「専門科目」について、過去問の回答状況、理解できていること、理解できていないことを確認しながら、講義を行う。精神保健福祉士として活動するときに必要となる法律、制度、技術について整理し、理解を深める。

■授業計画

第1回	授業の方針、模擬試験
第2回	模擬試験
第3回	精神疾患とその治療(精神医学)1
第4回	精神保健福祉に関する制度とサービス1<歴史>
第5回	精神保健福祉相談援助の基盤1<医療機関>
第6回	精神疾患とその治療(精神医学)2
第7回	精神保健福祉の理論と相談援助の展開1 地域移行、地域定着
第8回	精神保健の課題と支援(精神保健)1<家族、学校問題、発達障害者支援法>
第9回	精神障害者の生活支援システム1<居住支援、就労支援>
第10回	精神保健福祉に関する制度とサービス2<社会保障、相談支援事業所、更生保護制度>
第11回	精神保健福祉相談援助の基盤2<多職種連携、医療機関における精神障害者リハビリテーション>
第12回	精神障害者の生活支援システム2<精神保健福祉相

談員、精神保健福祉センター、精神医療審査会、精神保健審議会>

第13回 精神保健福祉の理論と相談援助の展開2<精神保健福祉士法、自殺対策基本法>

第14回 精神保健の課題と支援(精神保健)2<勤労、現代社会 ひきこもり等>

第15回 ※定期試験は実施しない

第16回 -

〔成績評価〕

試験(60%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(40%)

〔成績評価(備考)〕

参加型授業への貢献度を評価する

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業までに、指定した過去問を自分で解答してみる。また、授業後、正答できなかった問題については、その内容と理由について再確認し、復習すること。精神保健福祉に関係する法律、制度、サービス、統計、疾病等の確認をすること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

実施してきた過去問に対するフィードバックは、必要に応じ講義の中で行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。この科目を履修することで、精神保健福祉士に必要な知識を包括的・総合的に復習し、統括していくことになる。それにより、学習をすすめられるようになる。

〔テキスト〕

『精神保健福祉士国家試験過去問解説集』、『精神保健福祉士国家試験受験ワークブック(専門科目編)』、最新版。中央法規出版。予定。(授業開始時に周知する。)

〔参考文献〕

『精神保健福祉白書』中央法規出版。
その他、推薦図書を授業内で紹介する。

社会保障論 II	
科目ナンバー	ICD2203-L
2単位：後期1コマ	3年
金子 和夫	

〔到達目標〕

少子高齢社会の進展に伴い、制度改正が継続的に行われ、かつ、制度内容が複雑・多岐にわたっている社会保険制度の概要を説明できる。また、社会福祉士国家試験、公務員採用試験などに寄与できるとともに、日常生活にも学んだ知識が活用できる。

〔履修の条件〕

本科目は、社会福祉士国家試験の指定科目であり、受験資格を希望する者は、「社会保障論Ⅰ」とあわせて必ず履修すること。受験資格を希望しない者もそうしてほしい。

〔講義概要〕

社会保障制度の中心となる年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度の概要およびそれらの問題点・課題について指摘する。年金保険制度は、全国民を対象とする国民年金、民間企業の一般被用者を対象とする厚生年金保険、医療保険制度は、地域住民対象の国民健康保険、民間企業の被用者を対象とする健康保険を中心に、そして介護保険制度について述べる。

■授業計画

第1回	年金保険制度の概要
第2回	国民年金保険制度
第3回	厚生年金保険制度
第4回	その他の年金関連制度
第5回	年金保険制度の動向・課題
第6回	医療保険制度の概要
第7回	健康保険制度
第8回	国民健康保険制度
第9回	高齢者医療制度
第10回	医療保険・医療制度の動向・課題
第11回	介護保険制度の概要
第12回	介護保険制度における保険給付
第13回	介護保険制度の財源と負担
第14回	介護保険制度の動向・課題
第15回	試験
第16回	-

〔成績評価〕

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

年金保険、医療保険、介護保険は、少子高齢社会・人口減少社会の進展において重要な政策課題であり、新聞記事やTVニュースで取り上げられない日はないので常に関心を持って事前に調べる。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

【ディプロマポリシーとの関連性】

2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性に該当する。人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できる、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献するために、心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を得る。

【テキスト】

テキストは使用せず、毎回講義資料を配布する。

【参考文献】

『社会保障』＜新社会福祉士養成講座＞(中央法規)
『社会保障』＜新社会福祉学習双書＞(全国社会福祉協議会)
『保険と年金の動向』(厚生統計協会)
『厚生労働白書』(日経印刷)
『社会保障入門』(中央法規)
『はじめての社会保障』(有斐閣)
上記以外にも文献は多数あるので、自分で使いやすい文献を利用すること。制度改正が頻繁に行われるので、最新版を利用すること。

【備考】

授業中の質問に答えられるよう、復習と予習をしっかりと行ってください。

地域支援技法Ⅰ

科目ナンバー	ICD 2303-L
2単位：後期1コマ	2～4年
山口 麻衣、和田 敏明、岸 千代	

【科目補足情報】

2年次から履修可能。地域活動に関心があれば、コースを問わず履修できる。

【到達目標】

地域住民とともに地域の課題について考え調査しまとめるプロセスを通じて、地域福祉の推進に欠かせない「住民参加」の意義と手法を学ぶ。

【履修の条件】

- ①「地域福祉論Ⅰ」および「地域福祉論Ⅱ」の両方を履修済みまたは並行履修すること。
- ②原則、地域支援技法ⅠとⅡ両方受講すること。
- ③この科目は、木曜日3限および4限で、11月下旬までの予定である。現場フィールドワークを行う。授業すべてに出席できること。詳細日程は4月に提示する。
- ④地域支援に関心があり、将来、社会福祉協議会など、地域福祉推進にかかわる職業を目指している、もしくは子どもや高齢者、障がい者、外国人などを対象にした地域活動に関心があること。
- ⑤小グループでの演習において積極的に発言し役割を果たすことを求める。

【講義概要】

本学が三鷹市・小金井市・武蔵野市・調布市の自治体及び社会福祉協議会と共催で、4市の市民の方を対象に開催している「地域福祉ファシリテーター養成講座」を受講するものである。講義を聴くだけでなく、小グループに分かれて市民の方とともに演習を受ける参加型の授業である。地域活動団体への現地フィールドワークも実施する。小グループに分かれて、地域の社会資源や福祉課題について考え、学ぶ。

■授業計画

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | (1-1)これからの社会福祉と地域福祉ファシリテーターの役割 |
| 第2回 | (1-2)自分が感じている地域の課題について考える |
| 第3回 | (2-1)自分の地域について知る方法と地域の社会資源 |
| 第4回 | (2-2)自分の地域で役立つ社会資源を発見する |
| 第5回 | (3-1)地域活動を実践するうえで活用できる制度やサービス |
| 第6回 | (3-2)地域の福祉課題 |
| 第7回 | (4-1)地域で実際に展開されている活動を知る(1) |
| 第8回 | (4-2)地域で実際に展開されている活動を知る(2) |
| 第9回 | (5-1)地域でサポートするときの人との関わり方(1) |
| 第10回 | (5-2)地域でサポートするときの人との関わり方(2) |
| 第11回 | (6-1)フィールドワーク(実際の地域活動への訪問調査など)(1) |
| 第12回 | (6-2)フィールドワーク(実際の地域活動への訪問調査など)(2) |
| 第13回 | (7-1)フィールドワーク(実際の地域活動への訪問調査など)(3) |
| 第14回 | (7-2)フィールドワーク(実際の地域活動への訪問調査など)(4) |
| 第15回 | — |
| 第16回 | — |

【成績評価】

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(70%)

【成績評価(備考)】

その他の評価方法の内訳は、フィールドワークへの参加25%、授業への貢献度25%、リアクションペーパー等による学び20%である。課題はフィールドワークの記録としてまとめる。なお、4回以上授業を欠席した場合、またはフィールドワークに欠席した場合は、原則として不可とする。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

三鷹市・小金井市・武蔵野市・調布市の4市の福祉行政および社会福祉協議会の事業について事前に学んでおくこと。本科目では各授業回におよそ200分(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。課題については、授業時にコメントを行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。市民の方とともに

地域の福祉課題について調査することを通じて、地域福祉を推進するソーシャルワーカーなどの援助者としての知識と技術を体験的に学ぶ。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

その都度、資料を提供する。

地域支援技法Ⅱ	
科目ナンバー	ICD2304-L
2単位：後期1コマ	2～4年
山口 麻衣、和田 敏明、岸 千代	

【科目補足情報】

2年次から履修可能。地域活動に関心があれば、コースを問わず履修できる。

【到達目標】

地域住民とともに「新たな支えあい活動」を企画開発することを通じて、地域福祉の推進に欠かせない「住民参加」の意義と手法を学ぶ。

【履修の条件】

- ①「地域福祉論Ⅰ」および「地域福祉論Ⅱ」の両方を履修済みまたは並行履修すること。
- ②「地域支援技法Ⅰ」を受講していること、「地域支援技法Ⅱ」のみの受講は不可。
- ③この科目は、木曜日3限および4限で、地域支援技法Ⅰのあとの11月下旬から1月に開講する。その授業すべてに出席すること。詳細日程は4月に提示する。
- ④地域支援に関心があり、将来、社会福祉協議会など、地域福祉推進にかかわる職業を目指している、もしくは子どもや高齢者、外国人などを対象にした地域活動に関心があること。
- ⑤小グループでの演習において積極的に発言し役割を果たすことを求める。

【講義概要】

本学が三鷹市・小金井市・武蔵野市・調布市の自治体及び社会福祉協議会と共催で、4市の市民の方を対象に開催している「地域福祉ファシリテーター養成講座」を受講するものである。講義を聴くだけでなく、小グループに分かれて市民の方とともに演習を受ける参加型の授業である。地域の社会資源や福祉課題について考え、小グループに分かれて実際に福祉課題解決に向けた「新たな支えあい」活動について検討し、グループでまとめて発表する。社協ごとのグループワークにも分かれて参加する。

■授業計画

- | | |
|-----|----------------------------------|
| 第1回 | (1-1) 地域の問題解決のためのニーズ把握の方法と計画の立て方 |
| 第2回 | (1-2) 地域の福祉課題を考える |
| 第3回 | (2-1) グループワーク：福祉課題とそれを解決するた |

めの地域活動について(1)

- | | |
|------|---|
| 第4回 | (2-2) グループワーク：福祉課題とそれを解決するための地域活動について(2) |
| 第5回 | (3-1) グループワーク：福祉課題とそれを解決するための地域活動について(3) |
| 第6回 | (3-2) グループワーク：福祉課題とそれを解決するための地域活動について(4) |
| 第7回 | (4-1) グループワーク：福祉課題とそれを解決するための地域活動について(5)、報告会準備(1) |
| 第8回 | (4-2) グループワーク：福祉課題とそれを解決するための地域活動について(6)、報告会準備(2) |
| 第9回 | (5-1) グループワーク：福祉課題とそれを解決するための地域活動について(7)、報告会準備(3) |
| 第10回 | (5-2) グループワーク：福祉課題とそれを解決するための地域活動について(8)、報告会準備(4) |
| 第11回 | (6-1) 報告会発表の最終確認、これからの地域活動に関する思いの分かち合い(1) |
| 第12回 | (6-2) これからの地域活動に関する思いの分かち合い(2) |
| 第13回 | (7-1) プレゼンテーション：「私(達)」が解決したい福祉課題と取り組みたい地域活動(1) |
| 第14回 | (7-2) プレゼンテーション：「私(達)」が解決したい福祉課題と取り組みたい地域活動(2) |
| 第15回 | — |
| 第16回 | — |

【成績評価】

試験(0%)、レポート(40%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(40%)

【成績評価(備考)】

その他の評価方法の内訳は、グループワーク、授業・報告会への貢献度である。

なお、4回以上授業を欠席した場合、原則として不可とする。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

三鷹市・小金井市・武蔵野市・調布市の4市の福祉行政および社会福祉協議会について事前に学んでおくとい。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

【試験・レポート等のフィードバック】

リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。課題については、授業時にコメントを行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。市民の方とともに地域の福祉課題について調査することを通じて、地域福祉を推進するソーシャルワーカーとしての知識と技術を体験的に学ぶ。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

その都度、資料を提供する。

〔備考〕

第3回目～第6回目は、各市の社旗福祉協議会にて行われているグループ活動へ参加する。

福祉サービスの組織と経営

科目ナンバー	ICD 2306-L
2単位：後期1コマ	3年
山口 麻衣	

〔到達目標〕

福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論を学び、福祉サービスに係る多様な組織や団体の経営や連携について理解を深める。

〔履修の条件〕

原則的には3,4年次の学生を対象とする。

〔講義概要〕

ソーシャルワークとして働く上で、組織に属しながら、多職種・多機関との連携を含め、組織のマネジメントや人的資源のマネジメントに携わることも多く、マネジメントを理解する重要性が指摘されている。講義では、モチベーション、リーダーシップなどの組織論を学びながら、福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治体など)の経営の実際やサービスの質の向上にむけた課題について、学生自身が単に知識を習得するだけでなく、将来、組織で働くことを意識して考えるような授業展開としたい。講義中心だが、一部グループディスカッションも含む。

■授業計画

第1回	講義の目的と意義、福祉サービスにおける組織と経営 福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割(1) 法人とは 営利・非営利・社会福祉法人・NPO 法人、 一般社団法人、株式会社
第2回	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割(2) 福祉サービスの沿革と概要
第3回	福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割(3) 組織間連携と協働、地域連携
第4回	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(1) 戦略運営に関する基礎理論 組織運営、組織における意思決定、問題解決の思考と手順 モチベーションと組織の活性化
第5回	福祉サービスの組織と経営の基礎理論(2) 集団力学に関する基礎理論 チームアプローチと集団力学、チームの機能と構成
第6回	福祉サービス提供組織の経営と実際
第7回	福祉サービスと経営に係る基礎理論(3) リーダーシップに関する基礎理論 リーダーシップ、フォロワーシップ、リーダーの機能と役割
第8回	福祉サービス提供組織の経営と実際(1) 経営体制
第9回	福祉サービス提供組織の経営と実際(2) 福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス

第10回 福祉サービス提供組織の経営と実際(3) 適切な福祉サービスの管理

第11回 福祉サービス提供組織の経営と実際(4) 情報管理

第12回 福祉サービス提供組織の経営と実際(5) 財務管理・会計管理

第13回 福祉人材のマネジメント(1) 福祉人材の育成・福祉人材マネジメント

第14回 福祉人材のマネジメント(2) 働きやすい労働環境の整備、福祉サービスにおける組織と経営-全体のまとめからわかること-

第15回 期末試験

第16回 -

〔成績評価〕

試験(50%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(10%)、その他の評価方法(10%)

〔成績評価(備考)〕

「課題」としてフィードバックの提出、「その他」として、授業での回答を求める。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

予習・復習として教科書を読むこと、自分のテーマにあわせて、参考文献を読むことを薦める。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義において行う。課題レポートについては、レポート返却時に個別にコメントし、授業時に全体的なコメントを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。福祉サービスの組織と経営に関する学びを深めることにより、福祉サービスに関する本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになるための知識を得る。

〔テキスト〕

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2021)『福祉サービスの組織と経営』第1版,中央法規。

〔参考文献〕

フィリップ・コトラー&N・リー『民間企業の知恵を公共サービスに活かす 社会が変わるマーケティング』(2007=2007) 英治出版。
P.F.ドラッカー『非営利組織の経営』(1990=2007) ダイヤモンド社。
P.F.ドラッカー(1993=1995)『非営利組織の自己評価手法』
岩崎夏海(2009)『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』ダイヤモンド社。
E.H.シャイン(2009)『人を助けるとはどういうことか本当の「協力関係」をつくる7つの原則』
田尾雅夫(1995)『ヒューマン・サービスの組織：医療・保健・福祉における経営管理』法律文化社
その他の参考文献は授業で紹介する。

社会福祉調査

科目ナンバー	ICD2307-L
2単位：後期1コマ	3～4年
山口 麻衣	

【到達目標】

- ①社会福祉に従事する専門家に必要な社会福祉援助技術の一つである社会福祉調査に関する基礎知識を養い、社会福祉分野における調査の目的、意義、課題を理解する。
- ②社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係について理解する。
- ③社会福祉調査における倫理や個人情報保護について理解する。
- ④社会福祉調査における量的調査法と質的調査法についての具体的な調査方法や分析方法の習得する。
- ⑤ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について理解する。

【履修の条件】

原則的には3、4年次の学生を対象とする。

【講義概要】

本講義では、まず、社会福祉分野における調査の目的、意義、課題を理解する。次に、社会福祉分野における調査の目的、意義、課題を理解する。次に、歴史的関係や統計法を学ぶ。さらに、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。社会福祉調査における量的調査法と質的調査法について、具体的な調査方法や分析方法を学ぶとともに社会福祉実践に社会福祉調査を活用し、社会福祉調査に実践知を反映するための学びを深める。

■授業計画

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | 社会福祉調査の概要(目的・意義・課題、社会福祉調査と歴史的関係) |
| 第2回 | 統計法の概要、社会調査における倫理、個人情報の保護 |
| 第3回 | 社会福祉調査のデザイン、調査における考え方・論理、目的と対象、データ収集と分析
社会福祉調査のプロセス |
| 第4回 | 社会福祉調査における量的調査法の概要、調査の種類と方法 |
| 第5回 | 量的調査における測定、変数と尺度測定の信頼性と妥当性、質問紙作成方法と留意点 |
| 第6回 | 変数と尺度測定の信頼性と妥当性、質問紙の配布と回収、量的調査の集計と分析(単純集計・記述統計) |
| 第7回 | 量的調査におけるデータ分析；質的データの関連性(クロス集計)
量的データの関連性(散布図、相関と回帰)社会調査実施にあたってのITの活用方法 |
| 第8回 | 社会福祉調査における質的調査法の概要、観察法、面接法 |
| 第9回 | 質的調査の方法：質的調査のサンプリング、質的調査のデータ収集法・観察法、面接法多様な調査手法を実践にいかすために、ニーズ調査、アクションリサーチ、参加型調査、ミックス法 |

- 第10回 質的調査のデータ分析方法(1)
事例研究、ナラティブアプローチ、ライフストーリー法、エスノグラフィー
- 第11回 質的調査のデータ分析方法(2)
TEM, グランデッドセオリーアプローチ
- 第12回 アクションリサーチ、実験計画法、集団比較実験計画法
ソーシャルワークにおける評価の構造(ストラクチャー)・過程(プロセス)・結果(アウトカム)・影響(インパクト)プログラム評価
- 第13回 シングル・システム・デザイン
- 第14回 社会福祉調査の展望、全体のまとめ

第15回 期末試験

第16回 ー

【成績評価】

試験(50%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(10%)、その他の評価方法(10%)

【成績評価(備考)】

「課題」としてフィードバックの提出、「その他」として授業での積極的な参加

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

テキストの予習・復習を薦める。本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

【試験・レポート等のフィードバック】

リアクションペーパーに対するフィードバックを次の講義において行う。課題レポートについては、レポート返却時に個別にコメントし、授業時に全体的なコメントを行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。社会福祉に関する調査方法の基本を学ぶことにより、福祉ニーズや実態の把握し、実証的に分析し、実践の解決策への示唆を提言できるようになるための知識を得る。

【テキスト】

日本ソーシャルワーク学校連盟編(2021)『社会福祉調査の基礎』初版、中央法規、2750円

【参考文献】

ハンス・ロスリング(2019)『FACTFULNESS：10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』日経BP社、統計の威力(『ニュートン』2013.33巻第12号 p50-)
『地域の〈実践〉を変える社会福祉調査入門』、春秋社、2,625円。その他の参考文献は授業で紹介する。

保育原理と保育士の専門性

科目ナンバー	ICF 2201-L
2単位：前期1コマ	2年
山梨 有子	

〔到達目標〕

保育の原理的体系的な知識及び考え方について理解する。また、保育の内容と方法の基本について理解する。

保育士の専門性について理解する。

〔履修の条件〕

履修の条件は特にありません。

〔講義概要〕

保育の概念と今日の保育の実態の概要を総合的に知る。保育の目標や方法を知り、保育の総合的理解の上に保育者の役割について知る。上記、保育の基本的な知識を基に保育の実際についての学びを深める。基本的には講義形式だが、一部題材によっては、DVD や画像を活用する。

■授業計画

第1回	オリエンテーション 授業のねらい、方針について 保育とは
第2回	現在の保育の周辺状況
第3回	日本の保育の思想と歴史
第4回	諸外国の保育の思想と歴史
第5回	保育の意義① 児童の最善の利益とは
第6回	保育の意義② 保育所保育の理念と概念
第7回	保育の意義③ 保育の社会的意義
第8回	保育所保育指針における保育の基本① 養護と教育の一体性・環境を通して行う保育
第9回	保育所保育指針における保育の基本② 発達過程に応じた保育
第10回	保育所保育指針における保育の基本③ 保護者との密接な連携
第11回	保育の目標と方法① 保育の目標
第12回	保育の目標と方法② 生活と遊びを通して総合的に 行う保育
第13回	保育の目標と方法③ 保育の計画と評価
第14回	保育の現状と課題/保育士の専門性とは
第15回	-
第16回	-

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(10%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

身近な保育に関する時事情報に関心を持ちまとめておく。各自の積極的な予習・復習が望まれる。紹介文献を読んでおくこと。本科目では各授業回に200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計14回の授業で60時間となる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを次回講義内容において行う。

課題レポートについては、次の授業の際にコメントを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することにより、子ども理解を深め、保育者のありかたについて検討し、子どもと保育を総合的に考えることができる。

〔テキスト〕

指定しない。適宜資料を配布する。

〔参考文献〕

- ① 穴戸健夫・阿部真奈美編『戦後保育50年史第1巻保育思想の潮流』日本図書センター 6,000円
- ② 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』(2018)フレーベル館 320円

児童・家庭福祉論

科目ナンバー	ICF 2202-L
2単位：後期1コマ	2年
加藤 純	

〔科目補足情報〕

2021年度以降に1年次入学した学生、2022年度以降に2年次編入学をした学生対象の科目です。2020年度までに入学した学生は「児童福祉論」に履修登録してください。

〔到達目標〕

1. この授業の目的は、子どもや家族が遭遇する困難に対応できるように支援する時に、法令に関する知識を支援に活用できるようにすることです。そのために、
 - (a) 児童福祉に関する法令を自分で調べ理解し、実際の支援場面に結びつける力を身につけます。具体的には、法令の条文の見つけ方と示し方、条文の内容を理解する力を養います。
 - (b) 子どもの権利と幸せを保障するための制度、特に、児童福祉施設や相談機関の機能や、そこで働く職員の資格や役割について学びます。
- 力を養う方法の一つとして社会福祉士国家試験や保育士試験の過去問題を使います。

〔履修の条件〕

社会福祉士国家試験受験資格を得るのに必要な指定科目です。

1. 「児童福祉の諸問題」を履修していなくても本科目を履修できます。
2. いずれのコースであっても履修できます。
3. 「ソーシャルワーク実習Ⅱ」で児童分野の実習をするためには「児童福祉論」の単位を取得しておく必要があります。

〔講義概要〕

児童福祉に関する法体系から始まり、児童福祉の主要な領域に

ついて、制度や機関、職員に関する法令を学びます。
授業初期は、法令の条文を一つ一つ見つけて所在地を示し内容を理解する練習をします。後半になるに従い、要点の説明のみになりますので、各自で条文を見つけて理解するように努めて下さい。

また、授業初期は授業中に社会福祉士や保育士の過去問題に取り組み丁寧に解説をしますが、後半は過去問題を示すだけにしますので各自で取り組んでください。

■授業計画

第1回	法令を学ぶ重要性 オリエンテーション(授業の目的・内容・日程・課題)
第2回	児童福祉に関する法令の体系(児童福祉六法の名称と制定年、施行令と施行規則)
第3回	法令の条文の所在地の読み取り方と書き方(条・項・号の規則と例外) 児童福祉法の対象
第4回	児童福祉法の基本理念(児童福祉法第1条～第3条)
第5回	児童福祉施設、児童福祉の事業(児童福祉法第6条～第7条)
第6回	児童相談所の設置と職員：自治体の設置義務、職員の職種と任用資格(児童福祉法第11条～第13条)
第7回	社会的養護：児童養護施設と乳児院の目的や対象(児童福祉法第37条・第41条など)
第8回	社会的養護：児童養護施設と乳児院の設備・職員・支援(児童福祉施設の設備及び運営に関する基準)
第9回	児童福祉に関する都道府県・市・町村の業務(児童福祉法第10条～第12条など)
第10回	児童福祉施設の利用・入所経路(児童福祉法第22条～第29条など、児童虐待の防止等に関する法律)
第11回	子育て支援(健全育成の理念、児童委員、児童厚生施設の種類と職員、市町村の相談機関)
第12回	子育て支援(母子保健)
第13回	ひとり親家庭への援助(母子及び父子並びに寡婦福祉法)
第14回	ひとり親家庭への援助(母子生活支援施設、児童扶養手当)
第15回	期末試験
第16回	-

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(20%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

「その他の評価方法」は授業への取り組みに関する自己評価などです。すべての授業に出席することを前提として、欠席は3点、遅刻は1点の減点とします。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

1)小テストと期末試験の際は、法令検索サイトや『社会福祉小六法』を活用して解答して下さい。『小六法』を使う場合は、付箋を付けたり書き込みをしたりして使いやすい状態にしておくことをお勧めします。法令検索サイトを使う場合はブックマークを活用する

か、見つけた条文をダウンロードして書き込みをするなど、工夫してください。

2)グーグルフォームにより社会福祉士の過去問題を掲載します。六法を活用して取り組み、グーグルフォームを通して提出してください。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

小テストと期末試験はオンラインで実施、採点します。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当します。この科目では、ソーシャルワーカーとしての全人的なヒューマン・ケアに必要な専門性として特に法律や制度に関する知識を身につけることを目指します。

〔テキスト〕

- 1.グーグル・ドライブを通して授業資料を提供します。
- 2.グーグルフォームにより資料と課題を提示します。
- 3.紙媒体で法律を調べるためには、ミネルヴァ書房の『ワイド版社会福祉小六法資料付』または『社会福祉小六法』をお勧めします。『社会福祉六法』ではありません。法令の改正が毎年あるので、できる限り最新版を用意してください。インターネットで厚生労働省またはe-govの法令検索ページを利用しても良いです。利用方法は授業で詳しく説明します。

〔参考文献〕

政策や統計などの最新の動きを知るために、財団法人厚生統計協会編『国民の福祉と介護の動向』を推薦します。最新版は9月から10月頃に発行されます。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目。児童養護施設での児童指導員および児童相談所における子供の権利擁護専門員としての経験を活かして、児童福祉分野での制度と対人援助の方法の指導を行います。

児童福祉論

科目ナンバー	ICF 2202-L
2単位：後期1コマ	2年
加藤 純	

〔科目補足情報〕

2020年度までに入学した学生対象の科目です。2021～2022年度に1年次入学した学生、2022～2023年度に2年次編入学をした学生は「児童・家庭福祉論」に履修登録してください。

〔到達目標〕

- 1.この授業の目的は、子どもや家族が遭遇する困難に対応できるように支援する時に、法令に関する知識を支援に活用できるようになることです。そのために、
(a)児童福祉に関する法令を自分で調べ理解し、実際の支援場面に結びつける力を身につけます。具体的には、法令の条文

の見つけ方と示し方、条文の内容を理解する力を養います。
(b)子どもの権利と幸せを保障するための制度、特に、児童福祉施設や相談機関の機能や、そこで働く職員の資格や役割について学びます。
力を養う方法の一つとして社会福祉士国家試験や保育士試験の過去問題を使います。

〔履修の条件〕

社会福祉士国家試験受験資格を得るのに必要な指定科目です。

1. 「児童福祉の諸問題」を履修していなくても本科目を履修できます。
2. いずれのコースであっても履修できます。
3. 「ソーシャルワーク実習Ⅰ」で児童分野の実習をするためには「児童福祉論」の単位を取得しておく必要があります。

〔講義概要〕

児童福祉に関する法体系から始まり、児童福祉の主要な領域について、制度や機関、職員に関する法令を学びます。
授業初期は、法令の条文を一つ一つ見つけて所在地を示し内容を理解する練習をします。後半になるに従い、要点の説明のみになりますので、各自で条文を見つけて理解するように努めて下さい。
また、授業初期は授業中に社会福祉士や保育士の過去問題に取り組み丁寧に解説をしますが、後半は過去問題を示すだけにしますので各自で取り組んでください。

■授業計画

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 法令を学ぶ重要性
オリエンテーション(授業の目的・内容・日程・課題) |
| 第2回 | 児童福祉に関する法令の体系(児童福祉六法の名称と制定年、施行令と施行規則) |
| 第3回 | 法令の条文の所在地の読み取り方と書き方(条・項・号の規則と例外)
児童福祉法の対象 |
| 第4回 | 児童福祉法の基本理念(児童福祉法第1条～第3条) |
| 第5回 | 児童福祉施設、児童福祉の事業(児童福祉法第6条～第7条) |
| 第6回 | 児童相談所の設置と職員：自治体の設置義務、職員の職種と任用資格(児童福祉法第11条～第13条) |
| 第7回 | 社会的養護：児童養護施設と乳児院の目的や対象(児童福祉法第37条・第41条など) |
| 第8回 | 社会的養護：児童養護施設と乳児院の設備・職員・支援(児童福祉施設の設備及び運営に関する基準) |
| 第9回 | 児童福祉に関する都道府県・市・町村の業務(児童福祉法第10条～第12条など) |
| 第10回 | 児童福祉施設の利用・入所経路(児童福祉法第22条～第29条など、児童虐待の防止等に関する法律) |
| 第11回 | 子育て支援(健全育成の理念、児童委員、児童厚生施設の種類の職員、市町村の相談機関) |
| 第12回 | 子育て支援(母子保健) |
| 第13回 | ひとり親家庭への援助(母子及び父子並びに寡婦福祉法) |
| 第14回 | ひとり親家庭への援助(母子生活支援施設、児童扶 |

養手当)

第15回 期末試験

第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(20%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

「その他の評価方法」は授業への取り組みに関する自己評価などです。すべての授業に出席することを前提として、欠席は3点、遅刻は1点の減点とします。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

- 1) 小テストと期末試験の際は、法令検索サイトや『社会福祉小六法』を活用して解答して下さい。『小六法』を使う場合は、付箋を付けたり書き込みをしたりして使いやすい状態にしておくことをお勧めします。法令検索サイトを使う場合はブックマークを活用するか、見つけた条文をダウンロードして書き込みをするなど、工夫してください。
- 2) グーグルフォームにより社会福祉士の過去問題を掲載します。六法を活用して取り組み、グーグルフォームを通して提出してください。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

小テストと期末試験はオンラインで実施、採点します。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当します。この科目では、ソーシャルワーカーとしての全人的なヒューマン・ケアに必要な専門性として特に法律や制度に関する知識を身につけることを目指します。

〔テキスト〕

1. グーグル・ドライブを通して授業資料を提供します。
2. グーグルフォームにより資料と課題を提示します。
3. 紙媒体で法律を調べるためには、ミネルヴァ書房の『ワイド版社会福祉小六法資料付』または『社会福祉小六法』をお勧めします。『社会福祉六法』ではありません。法令の改正が毎年あるので、できる限り最新版を用意してください。インターネットで厚生労働省またはe-govの法令検索ページを利用しても良いです。利用方法は授業で詳しく説明します。

〔参考文献〕

政策や統計などの最新の動きを知るために、財団法人厚生統計協会編『国民の福祉と介護の動向』を推薦します。最新版は9月から10月頃に発行されます。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目。児童養護施設での児童指導員および児童相談所における子供の権利擁護専門員としての経験を活かして、児童福祉分野での制度と対人援助の方法の指導を行います。

レクリエーションとグループリーダー

科目ナンバー	ICF2203-S
2単位：後期1コマ	2年
山崎 律子	

〔到達目標〕

レクリエーションの基本概念を把握し、レクリエーション活動の意義を理解する。各種ゲームの実践を通してプログラムの企画について学び、さらにプログラムを実践するリーダーとして必要事項を習得する。

〔履修の条件〕

人とかかわる活動や仕事を希望する学生。

授業数の2/3以上の出席をすること。

積極的な授業参加を希望。

〔講義概要〕

この授業を通してレクリエーションを正しく理解する。また実践を通してレクリエーション活動の楽しさを実感する。そしてその楽しさを演出するために指導者として必要なレクリエーション活動の企画方法を学び作成する。さらに指導者としての必要事項確認しまとめていく。

■授業計画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション この授業の目的と内容について確認する。授業で使用する参考書などの紹介 |
| 第2回 | レクリエーションの概念 基本的理解 一日の生活時間行動から考える |
| 第3回 | 自由時間の充実に向けて 自由時間活動の分類から考える |
| 第4回 | 楽しいレクリエーション活動のためのチームワーク コミュニケーションの大切さから考える |
| 第5回 | 新聞紙を利用したゲームの実践 幼児から高齢者までの応用を踏まえる |
| 第6回 | チラシを利用したゲームの実践 幼児から高齢者までの応用を踏まえる |
| 第7回 | 集団ゲームの紹介の紹介・実践 マルチコートにて実施 |
| 第8回 | ニュースポーツの紹介・実践 マルチコートにて実施 |
| 第9回 | ニュースポーツの紹介 ルールの工夫を考えての実践
マルチコートにて実施 |
| 第10回 | レクリエーション活動指導法 |
| 第11回 | レクリエーション活動の企画、運営 |
| 第12回 | レクリエーション活動の企画、作成 |
| 第13回 | 企画書の発表、意見交換
発表・意見交換を通して学んだことをまとめて企画書に反映させる |
| 第14回 | まとめ・質疑応答
さらにレクリエーション活動を今後の自分の生活にどのように取り入れていくかを具体的に考える |
| 第15回 | — |
| 第16回 | — |

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

講義内容の確認として提出されたリアクションペーパーの評価各自が作成した企画書を基本事項を踏まえて評価

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

毎回 次週の授業の資料を配布する。

本科目では各授業におよそ200分の準備学習(予習・復習)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントあるいはメールをする。

企画書を発表の前に提出をする。発表後再度内容を検討し再提出をする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

全人的なフューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、私達が生きる喜びを感じて歩んでいくために必要な知識・技能・態度をレクリエーションの考え方から学ぶ。

〔テキスト〕

資料を配布する。

〔参考文献〕

- 余暇問題研究所編著 現代人とレジャー・レクリエーション 不昧堂出版 1977年
- 高橋和敏・川向妙子編著 図解ゲームの指導事典 不昧堂出版 1986年
- 参加したくなる介護現場のレクリエーション 山崎律子著 中央法規 2015年
- 寝ながらできる認知予防シリーズ(①～⑤) 山崎律子・上野幸ミネルバ書房 2020年

障害者・障害児心理学

科目ナンバー	ICF2204-L
2単位：前期1コマ	2年
永杉 理恵	

〔到達目標〕

- ①身体障害、知的障害及び精神障害について概説できる。
- ②障害者(児)の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。
- ③障害と自己を関係づけて論じることができる。

〔履修の条件〕

テキストについては初回授業で説明をします。オリエンテーションまでに準備をする必要はありません。

【講義概要】

障害者と関わる施設における実習や将来障害者と関わる仕事に就く際に必要となる、障害(児・者)に関する知識と理解を深めることを目指します。障害理解に終わりや正解はなく、立場や歴史文化の違いによって著しくその捉え方も異なります。そこで、今後のキャリア発達の中で障害とは何かについて学び続けるための、基礎的な知識や態度を身につけることが求められます。毎回30～40分程度のグループディスカッションの時間やビデオの視聴等の時間を設けます。グループで調べる課題を1回出題します。

■授業計画

- 第1回 【オリエンテーション】
本科目の進め方や評価の仕方についての説明、障害者・障害児心理学を学ぶことの目的や意義について概説をします。キーワード：共生社会、国際生活機能分類(ICF)、インクルージョン、障害理解、障害者心理と仕事
- 第2回 【障害児教育の歴史①(明治～戦前)】
明治期から戦前における我が国の障害児教育の歴史について議論を行います。
キーワード：障害児教育史、就学の猶予と免除、優生思想
- 第3回 【障害児教育の歴史②(戦後～現在)】
戦後から現在における我が国の障害児教育の歴史と、世界のインクルーシブ教育の潮流についての議論を行います。キーワード：障害児教育史、養護学校義務化、インクルーシブ教育
- 第4回 【視覚障害の理解と支援】
視覚障害の定義と種類や知覚の特徴、視覚障害児の学習や視覚障害者の社会参加の状況を知り、ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。
キーワード：視覚機構と視機能、弱視と盲、墨字と点字、情報アクセシビリティ、視覚障害者心理
- 第5回 【聴覚障害の理解と支援】
聴覚障害の定義と種類やコミュニケーションの特徴、聴覚障害児の学習や聴覚障害者の社会参加の状況を知り、ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。
キーワード：聴覚機構と聴機能、難聴と聾、口話と手話、ろう教育史、聴覚障害者心理
- 第6回 【肢体不自由の理解と支援】
肢体不自由の定義と種類、肢体不自由児の学習・発達や肢体不自由者の社会参加の状況を知り、ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。
キーワード：脳性まひ、二分脊椎、進行性筋ジストロフィー、医療と肢体不自由児教育、療育、医療的ケア
- 第7回 【知的障害の理解と支援①(前半)】
知的障害の診断に関わる知能検査、知的障害児教育の特徴について議論を行います。
キーワード：知能、知能検査、ダウン症、知的障害特別支援教育
- 第8回 【知的障害の理解と支援②(後半)】
知的障害児の認知発達と言語発達、行動の特徴についての議論を行います。
キーワード：ピアジェ、認知発達、言語発達

第9回 【重複障害、重複障害の理解と支援】

知的障害と他の障害との重複障害、重症心身障害、盲ろうの特徴と支援の方法についての議論を行います。

キーワード：重複障害、重症心身障害、盲ろう

第10回 【発達障害の理解と支援①(前半)】

発達障害と知的障害の関係、発達障害の種類、ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。特に限局性学習症を扱います。

キーワード：発達障害、限局性学習症

第11回 【発達障害の理解と支援②(後半)】

発達障害児へのニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。特に自閉スペクトラム症と注意欠如・多動症を扱います。

キーワード：自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症

第12回 【精神障害の理解と支援・病弱児の理解と支援】

精神障害の定義と種類について学び、支援の在り方について議論します。また、病弱の定義や病弱児が抱えやすい心理発達の課題について学び、支援の在り方について議論します。

キーワード：精神障害、病弱と身体虚弱、院内学級

第13回 【障害者の社会参加と法制度】

障害者権利条約への署名から批准にかけてのわが国の障害者関連法の整備過程についての議論を行います。

キーワード：障害者権利条約、障害者基本法、障害者総合支援法、障害者差別解消法、障害者雇用促進法、障害者の自立

第14回 【障害当事者と家族/障害の捉え方(様々なモデル)】

前半で、障害者と家族への支援の在り方についての議論を行います。後半で、障害に関する多様なモデルについての議論を行います。

キーワード：障害受容、障害児の親、同胞(きょうだい)、社会モデル、医療モデル、国際生活機能分類

第15回 【試験】

第16回 -

【成績評価】

試験(50%)、レポート(20%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(0%)

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

【試験・レポート等のフィードバック】

最終試験のフィードバックは行いません。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することによって、将来的に障害児・者に対する理解や支援を進んで行うことができるための基礎となる知識や態度を習得することができる。

【テキスト】

・授業で配布する課題プリント

・本郷一夫・大伴潔編著 公認心理士スタンダードテキストシリーズ『障害者・障害児心理学』ミネルヴァ書房

【参考文献】

各回の授業のテーマに沿って、授業内で紹介します。

家族心理学	
科目ナンバー	ICF2205-L
2単位：後期1コマ	2～4年
松野 航大	

【到達目標】

- (1) 家族心理学および家族療法の基礎理論を理解し、説明できる。
- (2) 現代社会におけるさまざまな家族の問題を理解し、それらを実生活と関連づけることができる。
- (3) 家族の問題に対するさまざまな支援方法を知り、それらを実生活に活かすことができる。

【履修の条件】

特に条件はありません。ただし、初回の授業でオリエンテーションを行います。そのため、初回の授業に必ず出席してください。

【講義概要】

「家族」は、我々の生活に密接に関わっており、心理学・臨床心理学においても非常に重要なテーマです。本授業では、家族心理学および家族療法の基礎理論とその応用について概観し、家族心理学および家族療法の理論と実践に関して学習します。本年度の本授業は対面形式で実施する予定ですが、社会情勢によって、オンラインで実施する場合があります。また、授業はパワーポイント資料等を用いた講義を中心に構成されますが、ビデオ視聴、ワークなども適宜行います。

■授業計画

第1回	オリエンテーション(授業の方法、成績評価の説明など)
第2回	家族とは何か(家族の定義、現代の家族の特徴など)
第3回	家族の発達 独身の若い成人期
第4回	家族の発達 結婚による家族の成立期
第5回	家族の発達 乳幼児を育てる段階・小学生の子どもとその家族
第6回	家族の発達 若者世代とその家族・老年期の家族
第7回	家族療法(1)家族療法とは①(家族療法の基礎)
第8回	家族療法(2)家族療法とは②(さまざまな家族療法と家族療法の実際)
第9回	夫婦関係の危機と支援
第10回	子育てをめぐる問題と支援
第11回	家族が経験するストレスと支援
第12回	ジェノグラム
第13回	アサーション
第14回	授業の総括(まとめ)
第15回	-
第16回	-

【成績評価】

試験(0%)、レポート(40%)、小テスト(0%)、課題提出(60%)、その他の評価方法(0%)

【成績評価(備考)】

※なお、出席回数が全講義回数の2/3に満たない者は評価の対象になりません。

※不正行為やそれに準ずる行為など、不適切な形で受講があった場合、単位の修得は認められません。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

【事前学習】 各回の授業について、教科書の各講義に該当する部分を通読しておいてください。また、各講義のテーマについて、関連書籍等に当たって知識を深めてください。

【事後学習】 各回の授業について、配布資料を復習し、必要に応じて内容要約を行ってください。また、各回の授業のテーマについて、教科書や参考書などの書籍や論文など読んで理解を深めてください。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

【試験・レポート等のフィードバック】

・授業内で実施する課題について、講義時間内に適宜口頭でフィードバックを行います。

・その他の方法でフィードバックを行う場合もあります。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。本科目を履修することにより、自己や他者を含めたさまざまな家族について理解を深め、個人や家族を広い視点でとらえることができるようになる。また、家族を支援するための基礎的なスキルを身につけることができる。

【テキスト】

【教科書】家族心理学第2版、中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子(2019)、、有斐閣、2750円

※授業および予習・復習で使用するため必ず購入すること。

【参考文献】

【参考書】家族の心理 第2版、平木典子・中釜洋子・藤田博康・野末武義(2019)、、サイエンス社、2090円

【備考】

【その他】

※本科目の担当講師は臨床心理士・公認心理師として、家族への心理支援に関わる実務経験を有している。その経験を踏まえ、授業の中では家族の心理臨床にも触れる。

※初回の授業で、本授業の目的・方法・成績評価法等の重要事項を説明します。

※各授業前にお知らせする連絡事項を確認し、必ずそれに従ってください。連絡の確認ミスによる不利益についてはこちらで一切補償できません。

※質問は授業後に受け付けます。

※学習進度により授業内容を一部変更することがあります。

※緊急時連絡先 k_matsuno@asagi.waseda.jp

子どもと教育

科目ナンバー	ICF 2301-L
2単位：前期1コマ	3年
崔 善愛	

〔到達目標〕

こどもを一人の人格として尊重する感性を習得する。いじめや差別に苦しむ人の立場に身を置き、問題の所在を考え、問うことができるようにする。また、多様な生き方に出会い、自分と異なる思想や個性を受け入れられるようにする。健やかな教育の場をどのように実現できるか、あるべき姿を見いだせるようにする。

〔履修の条件〕

なし

〔講義概要〕

こどもたちの抱える問題は、その家族や学校教育と切り離せない。家庭でのDV、学校のいじめ問題は、社会の縮図ととらえ、日本の教育の歴史や特徴を近代教育史とくに「教育勅語」「教育基本法」そして「子どもの権利条約」をたどる。新聞やDVDを活用し、現代の問題の中において、こどもたちが生かされる教育を考える。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション・授業の概要
- 第2回 日本の近代教育史1
- 第3回 日本の近代教育史2「教育勅語」
- 第4回 教育基本法「改正」前と後
- 第5回 優生思想とは
- 第6回 学校における思想・信条の自由
- 第7回 教科書問題
- 第8回 いじめと差別
- 第9回 「子どもの権利条約」1
- 第10回 「子どもの権利条約」2
- 第11回 「子どもの権利条約」とわたし（発表）
- 第12回 「子どもの権利条約」とわたし（発表のつづき）
- 第13回 教育の力と役割
- 第14回 まとめ
- 第15回 レポート提出
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(30%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(40%)

〔成績評価(備考)〕

毎時間の講義のリアクションペーパーと授業への積極性を評価対象にします。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

各授業で配布される資料を各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)をすること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを次の講義で行

う。

課題レポートについては、講義内で説明する。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。さらに「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」を授業での発表、討論で身につけることができる。

〔テキスト〕

「日本教育小史」(山住正己著)、「子どもの権利条約」(岩波ジュニア新書)中野光・小笠毅編著

〔参考文献〕

適宜、資料と参考文献を配布する

プレイセラピーの理論と実際

科目ナンバー	ICF 2303-L
1単位：後期1コマ	3～4年
小嶋 リベカ	

〔科目補足情報〕

隔年開講となります。

〔到達目標〕

- 1、遊び(Play)やイメージなどを用いた心理的介入の意義を理解できるようになる。
- 2、子どもによって表現されるメッセージに関心をもって関わるができるようになる。
- 3、プレイセラピーの背景にある理論を理解する。

〔履修の条件〕

- 1、履修の条件は定めません。
- 2、「子どものグリーフワーク」と同じコマに開講します。
- 3、第1週から第7週が「プレイセラピーの理論と実際」、第8週から第14週が「子どものグリーフワーク」です。
- 4、状況に応じて、事例に関する小グループでのディスカッションや子ども役とおとな役に分かれてのロールプレイも行います。どうぞ、慣れない場面もあるかもしれませんが積極的に参加してください。

〔講義概要〕

子どもは遊び(Play)を通じて、様々なことを学び成長していきます。子どもの心を理解していくための心理療法の一つにプレイセラピーがあります。その遊び(Play)について、いくつかの視点から学んでいきます。遊びの意義を知るための理論、子どもの心身の発達を支援するためのスキルやその意義などについて学びます。さらに、事例を用いて理論と実践の結びつきを検討し、学びを深めます。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション(目的・授業の内容・日程・課題)。子どもにとっての遊び(play)の意義。
- 第2回 プレイセラピーの歴史と概要
- 第3回 プレイセラピーの枠組み(安全と安心を保つために)

- 第4回 想像力と創造力を用いた子どもの遊び方を知る
 第5回 子どもの遊ぶチカラを活性化するために必要なスキルと役割
 第6回 子どもの遊びをどう捉えられるか(医療現場での事例を用いて)
 第7回 子どもとのセラピーの場で大切にすべきこと
 第8回 期末レポート
 第9回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

各授業でご提出いただく自己評価などを含みます。授業内容は全て出席いただくことを前提に構成しております。欠席は減点評価といたします。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では子どもの社会性の発達、心理臨床の技法に関する理解を深めていただくと、より学びが深まります。子どもの心身の成長に欠かせない児童文学やイメージの世界への興味を広げていただくこともお勧めします。授業内でも紹介しますので、参考文献やその関連文献をぜひお読みください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となります。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックはその次の講義の時にを行います。課題レポートについては、授業の中でお伝えします。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当します。この科目では、対人援助職としての全人的なケアに必要な専門性として、特に問題理解と支援方法に関する理論と実践を結びつける力を身につけることを目指します。

〔テキスト〕

授業中に紹介します。

〔参考文献〕

- ①小嶋リベカ(2018)『子どもとつむぐものがたり-プレイセラピーの現場から-』日本キリスト教団出版局

子どものグリーフワーク	
科目ナンバー	ICF2304-L
1単位：後期1コマ	3～4年
小嶋 リベカ	

〔科目補足情報〕

隔年開講となります。

〔到達目標〕

- 1、さまざまな loss(喪失)とグリーフについて理解する。
- 2、喪失体験が子どもにどのように影響するのかを理解する。

- 3、喪失を体験した子どもへの支援のあり方を理解する。

〔履修の条件〕

- 1、履修の条件は定めません。
- 2、「プレイセラピーの理論と実際」と同じコマに開講します。
- 3、第1週から第7週が「プレイセラピーの理論と実際」、第8週から第14週が「子どものグリーフワーク」です。
- 4、状況に応じて小グループで討議またはロールプレイを行います。どうぞ、慣れない場面もあるかもしれませんが積極的に参加してください。

〔講義概要〕

おとなと同じように、子どもも喪失体験によるグリーフを抱えます。この授業では、子どもが体験する様々な喪失体験について学びます。子どもがそれらの体験を通してどのような変化を体験し、反応をするかを事例を用いて学びます。さらに、喪失体験をした子どものチカラや個々に異なるグリーフを尊重するうえで、どのようなファシリテーション(寄り添い方)が重要なのかを考えます。

■授業計画

- 第1回 さまざまな喪失(loss)とグリーフのプロセスを理解する
 第2回 子どもの発達段階における死の理解と反応(絵本などを用いながら)
 第3回 喪失体験をした子どもの抱える課題とチカラ
 第4回 喪失体験がどのような変化を及ぼすか(家族を題材とした資料を用いて)
 第5回 子どもへのグリーフサポートの意義と実践(実際の活動を題材として)
 第6回 自分と相手にとっての安全や安心を保つファシリテーションスキル①(「気づき」の実践など)
 第7回 自分と相手にとっての安全や安心を保つファシリテーションスキル②(「リフレクション/ジョイニング」の実践など)
 第8回 期末レポート
 第9回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

各授業でご提出いただく自己評価などを含みます。授業内容は全て出席いただくことを前提に構成しております。欠席は減点評価といたします。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では喪失やグリーフに関する専門書や論文だけでなく、喪失に関連する児童文学への興味も広げていただくことにより、より理解が深まると考えます。授業内で紹介します参考文献やその関連文献をぜひお読みください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となります。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックはその次の講義の時にを行います。課題レポートについては、授業の中でお伝えします。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性に該当します。また、子どもの喪失体験を理解し全人的にケアするために必要な専門性を身に付けることを目指します。

〔テキスト〕

授業中に紹介します。

〔参考文献〕

- ①坂口幸弘(2022)『増補版悲嘆学入門ー死別の悲しみを学ぶ』昭和堂
- ②シンシア・ホワイト他(2017)『子どものグリーフとトラウマに寄りそうーハワイの経験に学ぶー』一般社団法人グリーフサポートセタがや
- ③ローリー・クラスニーブラウン(1998)『「死」って、なに?ーかんがえよう、命のたいせつさ』文溪堂

教育・学校心理学

科目ナンバー	ICF 2206-L
2単位：後期1コマ	2～4年
北村 英哉	

〔到達目標〕

教育現場で生じる諸問題とその背景について臨床、教育、発達、社会心理学的知見から理解を深める。主に、教育相談員、スクールカウンセラーの立場から、教育現場における子どもの心理社会的課題および必要な支援法についての理解と活用ができるようになることをこの授業の目標とする。

〔履修の条件〕

資料の復習をし、内容についての理解を深めること。本科目を履修するには「教育心理学」が履修済みであることが望ましい。

〔講義概要〕

この授業では、講義およびグループディスカッションを通して、教育と学校というものの特徴の把握、教育相談のごく基礎的な知識についての理解を得ると共に、教育現場における子どもの理解と関わり、支援の方法について学ぶ。基本的に講義形式の授業ではあるが、講義内容を基にグループディスカッションを行うこともある。また、内容は基本的には講義計画に沿って進むが、適宜変更されることもある。

■授業計画

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | オリエンテーション、講義の進め方、授業に使用する参考文献の紹介
イントロダクションー学校と教育相談とは |
| 第2回 | 学校の位置づけ：学校とは何か |
| 第3回 | 学校不適応の種類と支援ー集団のはたらき |
| 第4回 | カウンセリングマインドと対応の臨床的基礎 |
| 第5回 | 学校不適応の種類と支援ー発達障害について1 |
| 第6回 | 学校不適応の種類と支援ー発達障害について2 |
| 第7回 | 学校不適応の種類と支援ー不登校、いじめ、暴力行為について 理論編 |
| 第8回 | 学校不適応の種類と支援ー不登校、いじめ、暴力行為 |

について 実践編

- | | |
|------|----------------------------|
| 第9回 | 教育相談の方法ー心理教育的なアセスメントについて |
| 第10回 | 教育相談の方法ーカウンセリングの基本的な理論と方法1 |
| 第11回 | 教育相談の方法ーカウンセリングの基本的な理論と方法2 |
| 第12回 | 教育相談の方法ーカウンセリングの基本的な理論と方法3 |
| 第13回 | 教育相談の方法ー学校で有効な支援活動について |
| 第14回 | 予防・開発的な援助・学校内外の連携、地域臨床 |
| 第15回 | テスト |
| 第16回 | なし |

〔成績評価〕

試験(70%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回に4時間の準備学習(予習・復習等)を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。案内した文献に積極的にあたること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを必要に応じて次の講義時に全体に向けて行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目はディプロマポリシーに定める「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。心理および福祉の高度な専門職に必要とされる知識及び技術を学び、総合的な人間理解から、対人援助についての知識を身に着けることを目的とする。

〔テキスト〕

黒田祐二(編著)2014, 実践につながる教育相談, 北樹出版 2100円+税

〔参考文献〕

伊藤美奈子・平野直己(編)2003学校臨床心理学・入門 有斐閣。春日井敏之・伊藤美奈子(編)2011 よくわかる教育相談 ミネルヴァ書房。石隈他、日本学校心理学会編2016 学校心理学ハンドブック第2版 教育出版。森岡正芳(編著)2012カウンセリングと教育相談：具体事例を通して理解する あいり出版

〔備考〕

授業後に講義の内容を見直し、復習すること。疑問点などはその都度質問すること。取り上げられた事例やディスカッションで共有された情報の取り扱いには十分な配慮をすること。

小児と高齢者の栄養

科目ナンバー	ICF2208-L
2単位：前期1コマ	2～4年
江草 愛	

〔到達目標〕

- 1.健康な体と心を育むために必要不可欠な「栄養」の基礎について理解できるようになる。
- 2.ライフステージの中でも特にケアが必要な小児期と高齢期の栄養管理に関する知識の習得を通して、自己の食生活にも応用できる能力を身につける。

〔履修の条件〕

高校で生物基礎を履修した者は、「細胞とエネルギー」、「遺伝情報とタンパク質合成」、「体内環境の維持のしくみ」の単元について復習をしておくことが望ましい。

〔講義概要〕

栄養と栄養素の基本について学んだ上で、小児(胎児期～学童期)、妊婦、高齢者の各ステージで必要となる栄養サポートについて掘り下げて解説を行う。基本的にはパワーポイントを用いて講義を進めるが、こちらから課題を提示し、その内容について受講者が発表する場合もある。

■授業計画

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション(講義概要の解説と参考書の紹介)、「食品のおいしさと栄養・機能」に関する講義 |
| 第2回 | 身体のおいしさと栄養素の消化・吸収 |
| 第3回 | 代謝と代謝調節 |
| 第4回 | 糖質・脂質・タンパク質の栄養 |
| 第5回 | ビタミン・ミネラル・非栄養素の働き |
| 第6回 | 遺伝子発現と栄養-時間栄養学- |
| 第7回 | 栄養所要量と食育 |
| 第8回 | 胎児期(妊婦)の食と栄養 |
| 第9回 | 乳児期の食と栄養 |
| 第10回 | 幼児期の食と栄養 |
| 第11回 | 学童期の食と栄養 |
| 第12回 | 高齢者の食と栄養-身体機能の変化- |
| 第13回 | 高齢者の食と栄養-低栄養と認知症- |
| 第14回 | 「小児と高齢者の栄養」の総括 |
| 第15回 | 試験 |
| 第16回 | - |

〔成績評価〕

試験(70%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回あたり予習プリントの学習を含む事前学習が100分間、復習を含めた事後学習が100分間必要であり、計200分(約3時間半)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

試験の解答・解説は実施した最終回に行う。課題のフィードバックは、授業回毎に行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

本科目の履修を通して、小児から高齢者までの全人的なヒューマン・ケアに必要な栄養に関する専門知識を習得し、自身や周りの方の栄養管理についても実践出来るような総合的な能力を身につける。

〔テキスト〕

講義に必要な資料は適宜配布する。

〔参考文献〕

(予復習に活用したい人のみ購入)

1. 五明紀春、渡邊早苗、山田哲雄編「スタンダード人間栄養学基礎栄養学」朝倉書店 2700円
2. 堤ちはる、土井正子 編著「子どもの食と栄養」萌文書林 2400円
3. 下田妙子 編集「高齢者の栄養管理ガイドブック」文光堂 2600円

〔備考〕

特になし

子ども支援キャリアデザイン

科目ナンバー	ICF2101-S
2単位：前期1コマ	1～3年
加藤 純	

〔科目補足情報〕

2022年度までの入学者を対象とした科目です。

2023年度の1年次入学者は「フレッシュマンキャリアデザイン」を、社会人入学生・編入学生は「社会人キャリアデザイン」を履修してください。

〔到達目標〕

- 1) 子どもや家族を支援する施設や機関の機能や、働く職員の役割などについて具体的なイメージを持ち、各自が将来の進路を現実的に描けるようになることを目指します。
- 2) 将来の進路希望に向けて、本学の科目をどのように組み合わせるかを計画を立てられることを目指します。

〔履修の条件〕

将来の進路や資格について考えたい学生はコースや学年を問わず履修できます。

〔講義概要〕

子どもや家族の支援に関連する仕事や資格について解説します。

先輩の在校生や卒業生などをゲストスピーカーとして招き、ボランティアや実習、仕事の体験を踏まえて、子どもと関わる支援のやりがいや難しさなどについて話して頂きます。学生や卒業生の都合により、下記の日程や内容を変更することがあります。

子どもや家族の支援についてイメージを作るために映像資料をみます。

まとめとして、具体的な仕事の内容を理解するために各自が調べた成果を発表してもらいます。

■授業計画

- 第1回 1. オリエンテーション(授業の目標、方法、課題など)
2. 総合的支援とは何か、生物心理社会的アプローチの視点から考えてみましょう
- 第2回 専門性と資格
1. 専門性とは何でしょう?
2. 資格とは何でしょう?
3. 専門性を身につけるために大切な学習とは何か考えてみましょう。
- 第3回 在学中のアルバイトやボランティア
1. どのような体験ができるのか?
2. どのような力が養われるのか?
3. 将来にどのように役立つのか?
- 第4回 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを目指すには
1. どのような仕事をするのでしょうか?
2. どうやったらなれるのでしょうか?
3. 勤務時間や給料は?
- 第5回 学童保育や児童館での仕事と資格
- 第6回 発達支援センターにおける障害児への支援
- 第7回 児童福祉施設の職員を目指すには
1. どのような仕事をするのでしょうか?
2. どのような職員がいるのでしょうか?
3. どうやったらなれるのでしょうか?
- 第8回 児童福祉施設での心理職の仕事と資格
- 第9回 地域の相談機関での仕事と資格
- 第10回 海外の子ども達を支援する仕事と本学での教育プログラム
- 第11回 野外活動やレクリエーションによる子ども支援
- 第12回 子ども支援と心理実習
- 第13回 子ども支援とソーシャルワーク実習
- 第14回 子どもと家族を支援する仕事について調べたこと(発表)
将来の進路設計と大学での学習計画
- 第15回 レポート提出
- 第16回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(30%)

【成績評価(備考)】

レポート：自分が目指したい仕事について調べ、どのような役割を持つ専門職か、その役割を果たすためにどのような知識や技術、価値観が必要かを説明して下さい。これから大学でどのように学んでいきたいかを記して下さい。課題は Google フォームに解答を示します。毎回の授業への参加や発展的な学習の取組状況等です。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

児童福祉や児童臨床心理の仕事について具体的なイメージが思い浮かべられるように本を読んだり、テレビやDVDを観たりしてください。また、ボランティアなど体験を通して学ぶ機会を作ることをお勧めします。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

【試験・レポート等のフィードバック】

レポートはメールにより提出してください。提出されたレポートには、オンラインでコメントを記します。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当します。この科目を履修することにより、各自が目指す専門職のイメージを描き、大学において学習すべき専門性とは何かを明確にすることを目指します。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

汐見稔幸(2011)『子どもにかかわる仕事』岩波ジュニア新書683号

【備考】

実務経験のある教員による科目。児童養護施設、教育委員会、児童相談所などでの職務経験を活かして、子どもを支援する様々な職員の役割と専門性について指導します。

野外活動とキャンピング		
科目ナンバー	ICF2102-P	
2単位：前期1コマ	1～4年	
伊藤 光太郎		

【科目補足情報】

公益社団法人日本キャンプ協会公認「キャンプインストラクター資格」取得可能

【到達目標】

- ① 野外活動またキャンプの楽しさを体感する。
- ② ①を通して、指導者・支援者として子どもを対象とした野外活動またキャンプにたずさわる場合(引率などをする場合)の要点を学ぶ。
- ③ 基本的かつ実践的で、安全を重視した技術を得る。
- ④ 本授業を通して、キャンプインストラクター資格を取得する(希望者のみ)。
- ⑤ リモート授業が含まれる場合は、実技・理論をバランスよく学ぶ。

【履修の条件】

・授業内で必要な食材費と教材用具費合わせて3500円分の券を学生支援センター前の券売機で購入して履修登録の際に貼付すること。(雨天による内容変更・実施方法変更になった際も、他の方法で実習を行う機会を設けるため返金できません。)

・キャンプインストラクター資格取得希望者には試験があります。資格試験は、試験用紙を配布後各自試験を行い最後の授業までの間で期限を決めますので、それまでに提出してください。テキストの購入(2200円)資格試験の受験料や資格登録費15300円のなど資格にまつわる費用が必要。※試験に合格しなかった場合は15300円は返金する。※テキストと併せて17500円を要する。[資格取得については希望者のみであり、授業での説明を

要することから、授業開始後(履修登録後)の検討また手続きで良い。]

【講義概要】

【1回に2コマ分を隔週で実施します。(奇数回に実施予定)】

【諸事情で実施週が変更される場合もありますので、全週受講できるようにしておいてください。】

【たのしむ】

野外活動の愉快さと、誰かを野外に引率する際の安全について実地に学ぶ、笑顔と小さなチャレンジでいっぱい体験型講義。災害時にも支えになる具体的な技術を大いに含む。

キャンパス内でのアウトドア実技・演習中心の講義とする。野外活動(自然体験活動、組織や団体でのキャンプなど)の楽しさを体感しながら、アウトドア技術・安全(野外におけるリスクマネジメント)・支援者の役割を学ぶ。

キャンパス内にカマドを作り、それを利用して野外料理をするなどし、各回で学ぶ技術は以降の演習でも踏まえる流れになり、技術また安全意識を自然に会得する。

今キャンプ・アウトドアは注目され、将来様々な場面で触れてゆくことになり、その際に安全管理や基礎技術を得ていることは大きなアドバンテージになるため、各回時間をしっかり使い様々なチャレンジ・経験・活動をする。まずはその楽しさを体感してほしい。

晴天時は屋外での授業、雨天時は教室で理論を実施するため、授業内容の差し替え・変更が大いにあり得る。また、キャンパス内の資源(剪定木やリサイクル可能資源)を活用するため、資源の質量により活用方法を検討して内容の変更もある。

なお、リモート授業が含まれる場合は、実技だけでなく理論も多く含む、バランスよく学ぶ対応となる。・野外での実習・演習中心の授業だが、コロナウイルスの影響によってリモート授業になることがある。その際、タイミングによっては、下記授業計画を変更し、都度変更した計画を確認しながらの授業になると理解しておくこと。

※隔週が基本だが、雨天ほか事情で連続週で実施することもあり、期内の月曜3・4限は出席できるようにしておくこと。

【感染拡大状況による】

野外での実習・演習中心の授業だが、ウイルス感染症の影響によってリモート授業になることがある。その際、タイミングによっては、下記授業計画を大きく変更し、都度変更した計画を確認しながらの進める。

・リモート授業の場合は基本的にZOOMを利用する。授業の特性上、ビデオオンが望ましい。ビデオオン不可の学生には遠慮なく申し出てもらう。

【履修学生数による対応】

履修人数が多数の場合は、全員を二つに分けて授業を行う可能性がある。

授業を行うスペースの限界があり、コロナ禍での密を避ける対策も相まって人数を小規模に保つ対応となる。

具体的な方法は初回で連絡する。

【雨天時・理論部分】

雨天時は、理論講習に変更する。ただし、基礎技術にあたる回が雨天の場合は、次週に変更する可能性もある。

野外活動の理論を学ぶために2〜3回ほどの雨天は想定内とし

歓迎していることでもある。

■授業計画

第1回	(1回・2回) キャンプ概論・オリエンテーション オリエンテーション、アイスブレイク、野外ゲーム、授業フィールド紹介、ねらい・持ち物・安全対策などの説明 自己紹介など
第2回	(1回・2回) キャンプ概論・オリエンテーション オリエンテーション、アイスブレイク、野外ゲーム、授業フィールド紹介、ねらい・持ち物・安全対策などの説明 自己紹介など
第3回	(3回・4回) 火を学ぶ ・野外ゲーム・薪づくり・かまどの作り方、火起こしの基本を実施。
第4回	(3回・4回) 火を学ぶ ・野外ゲーム・薪づくり・かまどの作り方、火起こしの基本を実施。
第5回	(5回・6回) 焚火スイーツ 2回での経験を活かし火を用いたクッキングに取り組む。 薪づくり・かまど・火おこし・火の管理・火の利用などを総合的に実施。
第6回	(5回・6回) 焚火スイーツ 2回での経験を活かし火を用いたクッキングに取り組む。 薪づくり・かまど・火おこし・火の管理・火の利用などを総合的に実施。
第7回	(7回・8回) ロープワーク・クラフト 役立つロープの結び方を実施。ロープと火を活かした工作を実施。
第8回	(7回・8回) ロープワーク・クラフト 役立つロープの結び方を実施。ロープと火を活かした工作を実施。
第9回	(9回・10回) 様々な火おこし・災害時調理 原始的な火おこしに挑戦し、火を活かした災害時に役立つ調理を実施。
第10回	(9回・10回) 様々な火おこし・災害時調理 原始的な火おこしに挑戦し、火を活かした災害時に役立つ調理を実施。
第11回	(11回・12回) 刃物の使い方・サバイブチャレンジ(自分だけで焚火) ナイフを安全に使い、自分だけの焚火に挑戦する。 昨今耳にする「ソロキャンプ」の導入・サバイバル技術にもつながる。
第12回	(11回・12回) 刃物の使い方・サバイブチャレンジ(自分だけで焚火)

ナイフを安全に使い、自分だけの焚火に挑戦する。
昨今耳にする「ソロキャンプ」の導入・サバイバル技術
にもつながる。

第13回 (13回・14回)
キャンプファイヤーをつくろう・試験対策
学生主体でキャンプファイヤーを企画運営する。授業
まとめの回にもなる。
試験はレポート試験を予定しており、その説明も行う。

第14回 (13回・14回)
キャンプファイヤーをつくろう・試験対策
学生主体でキャンプファイヤーを企画運営する。授業
まとめの回にもなる。
試験はレポート試験を予定しており、その説明も行う。

第15回 試験
レポート試験を予定。メール提出を予定。

第16回 --

〔成績評価〕

試験(50%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

〔成績評価(備考)〕

レポート課題・演習での成果発表をまとめて その他の評価方法
としてある。必要に応じて都度説明する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

資料の理解、アウトドアスキルの確認と復習、用具管理や授業実施前の備品準備、授業のための装備準備、本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパー(リモートの場合はリアクションフォーム)に対するフィードバックを次の講義時に行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

主に、3. 総合的・実践的な学習能力 に該当する。野外活動またキャンプは、生きる力を育む機会と捉えられ、この科目を履修することで、・自然・命・ヒューマンスキル・安全また安心・他者理解、協力、共有 などを実践的かつ総合的に学び、自身が野外活動を指導する場面でより確かなスキルで自信をもって行動できるようになる。

〔参考文献〕

公益社団法人日本キャンプ協会発行
「キャンプ指導者入門」 価格：2200円(税込み送料別)
※キャンプインストラクター資格希望者は必須。資格試験受験前に購入する。

〔備考〕

・軍手、雨具、帽子、など安全に活動するための用具や野外活動に適した服装が必要。
(基本的に、長袖・長ズボン・しっかりした靴で受講する。)
・特に雨具(レインウェア)は必須。初回授業でどのような雨具が良いかレクチャーする。
・屋外活動が多いため、虫除け、UV 対策、多目の水分など対策をすること。

・天候により、教室での授業になる場合や、授業内容の入れ替えなどがある。

・キャンパス裏庭にあたる屋外スペースをキャンプ広場として利用し、キャンパスの剪定木も薪に利用するなどキャンパス環境の影響が大きく、内容変更もありうる。

・その他状況(受講人数など)により、頻繁な変更が考えられる。

保育士特講Ⅰ

科目ナンバー	ICF2103-L
2単位：前期1コマ	1～4年
原島 博	

〔到達目標〕

- ①保育士資格取得を目指している学生が、試験に合格できる学習スキルを身につける。
- ②国家資格である保育士としての知識を試験対策の学習を通して得る。

〔履修の条件〕

- ・保育士「国家資格」取得を目指していること。
- ・保育士筆記試験は9科目あるので、保育士特講Ⅱと合わせて通年で受講することが望ましい。
- ・第2回目の授業前までテキストの販売を行うので、各自テキストを購入すること。テキストを購入せずに第2回目以降の授業を受講することは認めない。

〔講義概要〕

保育士筆記試験の各科目の重要ポイントをおさえ、試験合格に向けて効率よく学習が進められるような内容である。また、本カリキュラムにより、講義を聞くことでのインプットのみならず、問題の解答を導き出すアウトプットの力がつけられることを目指す。

■授業計画

- | | | |
|------|-----------|--|
| 第1回 | オリエンテーション | 保育士試験に臨むにあたっての心構えと保育士資格を取得することの社会的メリット |
| 第2回 | 保育所保育指針 | 保育所保育指針の全体像と必要性についての学習 |
| 第3回 | 保育原理 | 科目(保育の基本と子どもの発達及び保育の計画と評価)の理解 |
| 第4回 | 保育原理 | 科目(保護者支援と保育の現状と課題)の理解 |
| 第5回 | 保育の心理学 | 科目(子どもの発達と各発達段階の特徴)の理解 |
| 第6回 | 保育の心理学 | 科目(子どもの生活と遊び、保育の発達援助と保育、保育実践)の理解 |
| 第7回 | 子どもの保健 | 科目(子どもの発育・発達と疾病への対応)の理解 |
| 第8回 | 子どもの保健 | 科目(子どもの精神保健と事故の処置及び母子保健)の理解 |
| 第9回 | 子どもの食と栄養 | 科目(栄養の基礎知識と献立や調理の基本)の理解 |
| 第10回 | 子どもの食と栄養 | 科目(小児期の食生活と栄養)の理解 |
| 第11回 | 子どもの食と栄養 | 科目(保育現場の食育と配慮が |

- 必要な子どもの栄養)の理解
- 第12回 問題演習【発達編】 学習した4科目について復習と問題の解き方の演習
- 第13回 保育内容(保育実習理論)科目(乳幼児期の言語発達と理論)の理解
- 第14回 絵画理論(保育実習理論)科目(乳幼児期の絵画発達と理論)の理解
- 第15回 試験 受講科目の基礎的な理解度を確認する
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(100%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業前にテキストの該当ページを読んで予習しておくこと。また、授業後は習った箇所を必ず復習すること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

各科目の終了時にリアクションペーパーの提出を行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。保育士試験対策の学習を通して、子どもから大人までの対人的な関わり方の実践を学ぶことができる。

〔テキスト〕

受講するには、下記の備考欄に記載する①<テキスト通年セット>または、②<テキスト前期セット>の購入が必須。友人等からの購入・譲受は認めない。尚、購入後の返金は行わない。

〔参考文献〕

特になし。

〔備考〕

①キャリア・ステーション専門学院著<テキスト通年(保育士特講Ⅰ・Ⅱ)セット>21,000円(税込)

テキスト10冊(保育原理、教育原理、社会的養護、子ども家庭福祉、社会福祉、保育の心理学、子どもの保健、子どもの食と栄養、保育実習理論、楽典)、法令資料、問題集。

②キャリア・ステーション専門学院著<テキスト前期(保育士特講Ⅰ)セット>12,000円(税込)

テキスト5冊(保育原理、保育の心理学、子どもの保健、子どもの食と栄養、保育実習理論)、法令資料。※問題集は任意購入。

習スキルを身につける。

②国家資格である保育士としての知識を試験対策の学習を通して得る。

〔履修の条件〕

- ・保育士「国家資格」取得を目指していること。
- ・保育士筆記試験は9科目あるので、保育士特講Ⅰと合わせて通年で受講することが望ましい。
- ・前期に<テキスト通年セット>を購入していない学生は、第1回目の授業前までに<テキスト後期セット>の販売を行うので、各自購入しておくこと。テキストを持たずに授業を受講することは認めない。

〔講義概要〕

保育士筆記試験の各科目の重要ポイントをおさえ、試験合格に向けて効率よく学習が進められるような内容である。また、本カリキュラムにより、講義を聞くことでのインプットのみならず、問題の解答を導き出すアウトプットの力がつけられることを目指す。

■授業計画

- 第1回 法令の読み方 科目(保育士試験関連の法令の基礎的な読み解き方)の理解
- 第2回 教育原理 科目(教育の意義と子ども観・教育思想)の理解
- 第3回 教育原理 科目(教育の実践と生涯学習、学校制度と教育制度)の理解
- 第4回 社会的養護 科目(社会的養護の基礎と歴史、児童の権利)の理解
- 第5回 社会的養護 科目(児童福祉施設と児童福祉法に基づく事業)の理解
- 第6回 社会的養護 科目(家庭的養護とソーシャルワーク)の理解
- 第7回 子ども家庭福祉 科目(児童家庭福祉の現状と歴史)の理解
- 第8回 子ども家庭福祉 科目(児童家庭福祉の法体系と費用、少子化対策)の理解
- 第9回 子ども家庭福祉 科目(社会的養護サービスと障害児保育)の理解
- 第10回 社会福祉 科目(社会福祉の概要と法体系)の理解
- 第11回 社会福祉 科目(社会保障制度と地域福祉)の理解
- 第12回 問題演習【福祉系】学習した4科目(実習理論以外)について復習と問題の解き方の演習
- 第13回 音楽理論 科目(試験範囲での音楽理論の概要)の理解
- 第14回 音楽理論 科目(音程とコードネーム)の理解
- 第15回 試験 受講科目の基礎的な理解度を確認する。
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(100%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業前にテキストの該当ページを読んで予習しておくこと。また、授業後は習った箇所を必ず復習すること。

保育士特講Ⅱ	
科目ナンバー	ICF2104-L
2単位：後期1コマ	1～4年
原島 博	

〔到達目標〕

①保育士資格取得を目指している学生が、試験に合格できる学

〔試験・レポート等のフィードバック〕

各科目の終了時にリアクションペーパーの提出を行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。保育士試験対策の学習を通して、子どもから大人までの対人的な関わり方の実践を学ぶことができる。

〔テキスト〕

受講するには、前期に〈テキスト通年(保育士特講Ⅰ・Ⅱ)セット〉を購入済みか、下記の備考欄に記載する〈テキスト後期(保育士特講Ⅱ)セット〉の購入が必須。友人等からの購入・譲受は認めない。尚、購入後の返金は行わない。

〔参考文献〕

特になし。

〔備考〕

キャリア・ステーション専門学院著〈テキスト後期(保育士特講Ⅱ)セット〉12,000円(税込)
テキスト5冊(楽典、教育原理、社会的養護、子ども家庭福祉、社会福祉)、法令資料。※問題集は任意購入。

心理学的支援法

科目ナンバー

ICP 2102-L

2単位：前期1コマ

1年

高城 絵里子

〔到達目標〕

- ①臨床心理学と心理学的支援に関する基本的知識と考え方を身につける
- ②人間関係や社会における臨床心理学的視点の重要性について考えを深める
- ③受身的に講義を聞くだけでなくとどまらない、主体的な学びのスタイルを身につける
- ④臨床心理学に対する関心を広げ、自身の今後の学習や研究の方向性を考える基盤として本講義で身につけた知識を活用する

〔履修の条件〕

- ①公認心理師資格取得に必要な科目である。公認心理師資格を目指す学生は必ず受講すること。
- ②ディスカッションやグループ課題などコミュニケーションと体験を重視した科目であるため、受講生の積極的な参加を求める。

〔講義概要〕

臨床心理学の基本的内容を概観するとともに、公認心理師・臨床心理士の職務とその支援について理解を深める。臨床心理学の知見や視点は公認心理師・臨床心理士として活用する以外にも非常に有用である。よって、心の健康に関する知識を身につけ、それぞれが卒業後を含めた人生の中で臨床心理学の考え方をどのように役立てていけるかについても考えていきたい。基本的に講義形式の授業になるが、毎回の授業の中でグループディスカッションや質疑応答、毎回のリアクションペーパーへの

記入とフィードバックを実施することによって、学生の理解を丁寧に進めていく。また、一部の題材についてはグループ課題とし、グループごとに研究テーマの設定、文献調査および発表を経験することによって主体的な学びのスタイルを習得する。

本講では以下の内容を扱う。

- 1.代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界
- 2.訪問による支援や地域支援の意義
- 3.良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法
- 4.プライバシーへの配慮
- 5.心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援
- 6.心の健康教育

■授業計画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 本講の目的、内容、評価に関するオリエンテーション
コミュニケーション実習「良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法」 |
| 第2回 | 臨床心理学とは何か
その定義と歴史 |
| 第3回 | 臨床心理士と公認心理師
①求められる役割と活動の実際 |
| 第4回 | 臨床心理士と公認心理師
②養成のための教育と訓練
本学臨床心理学専攻院生によるスピーチとレポート作成 |
| 第5回 | 臨床心理士と公認心理師
③資格の倫理的問題とプライバシーへの配慮 |
| 第6回 | 心理学的支援に必要なコミュニケーション
コミュニケーション実習「信頼関係を形成するためのコミュニケーション」 |
| 第7回 | 心理学的支援の方法
心理査定①・・・心理査定とはなにか、心理査定面接の理解 |
| 第8回 | 心理学的支援の方法
心理査定②・・・心理検査の基本とその考え方 |
| 第9回 | 心理学的支援の方法
臨床心理面接①・・・その基本と考え方 |
| 第10回 | 心理学的支援の方法
臨床心理面接②・・・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界 |
| 第11回 | 心理学的支援の方法
臨床心理学的地域援助・・・訪問による支援や地域支援の意義、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育 |
| 第12回 | 心理学的支援の対象(グループ課題)
心の問題に関するグループ発表① |
| 第13回 | 心理学的支援の対象(グループ課題)
心の問題に関するグループ発表② |
| 第14回 | 心理学的支援の対象(グループ課題)
心の問題に関するグループ発表③ |
| 第15回 | レポート |
| 第16回 | ー |

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(60%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

レポートは最終課題のレポート提出を指す。

課題提出は毎回のリアクションペーパー、および授業中に実施するワーク、小レポート、グループ課題の発表資料の提出を指す。

その他の評価とは、授業およびディスカッション、グループ課題への参加に関する評価を指す。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

予習では、各単元で学ぶ理論や概念について文献や辞典などを用いた学習、および臨床心理士・公認心理師資格について各自あらかじめ調べておくことを勧める。

復習として、その日の単元で扱った内容の復習と課題に対する考察、授業時間外でのグループ課題への取り組みを求める。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを次の講義において行う。

課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメントを行う。

グループ発表については、授業内に適宜口頭でコメントする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

本学ディプロマポリシーにおける「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「3. 総合的・実践的な学習能力」「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。本科目を習得することにより、臨床心理学的支援の基本的な理論と方法に関する理解を深める。またグループによる文献調査と発表を通して、現在の心の問題に関する課題の発見と分析、解決への提言といった学習能力を身につけることができる。さらに、授業内でのコミュニケーション実習、ディスカッション、グループワークを通して、他者理解と自己表現のコミュニケーションを体験的に習得する。

〔テキスト〕

特に定めない。必要に応じて授業内でテキストを配布する。

〔参考文献〕

馬場禮子「臨床心理士への道」アエラブックス入門読本 朝日出版社

日本臨床心理士資格認定協会監修「新・臨床心理士になるために(令和4年版)」誠信書房

〔備考〕

「実務経験のある教員による科目」臨床心理士/公認心理師としての経験を活かして心理職の実践について講義・指導を行う。受講生と教員との対話を重視するため、毎回授業終了後にリアクションペーパーの提出を求める。

公認心理師の職責

科目ナンバー	ICP 2206-L
2単位：前期1コマ	2～4年
石川 与志也	

〔到達目標〕

- ①公認心理師の職責について理解する
- ②臨床心理専門職の倫理について理解し、専門家として自らの行為の判断、選択、実行の決断をするための基礎を身につける

〔履修の条件〕

与えられることを待つだけでなく、自らの探究心と自己責任性を持って公認心理師の職責を理解しようとする熱意のある学生の履修を期待する。

〔講義概要〕

公認心理師の職責の具体的内容について学ぶ。特に、公認心理師の法律と倫理についての理解を深め、専門職としての考え方の基礎を身につけることができるようディスカッションを重視したい。

本講義は、以下の内容を含む

- 1 公認心理師の役割
- 2 公認心理師の法的義務及び倫理
- 3 心理に関する支援を要する者等の安全の確保
- 4 情報の適切な取扱い
- 5 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務
- 6 自己課題発見・解決能力
- 7 生涯学習への準備
- 8 多職種連携及び地域連携

■授業計画

- 第1回 公認心理師の職責とは何か
- 第2回 公認心理師の役割
- 第3回 汝自身を知れ：倫理的な行為の主体
- 第4回 公認心理師の法的義務
- 第5回 公認心理師の倫理(1)：安全の確保
- 第6回 公認心理師の倫理(2)：情報の適切な取り扱い
- 第7回 公認心理師の倫理(3)：専門家としての責任
- 第8回 職業倫理に関わる実際問題(1)
- 第9回 職業倫理に関わる実際問題(2)
- 第10回 公認心理師の具体的な業務(1)保健医療分野
- 第11回 公認心理師の具体的な業務(2)教育および福祉分野
- 第12回 公認心理師の具体的な業務(3)司法・犯罪および産業・労働分野
- 第13回 専門家としての発達：自己課題の発見解決能力および生涯学習への準備
- 第14回 多職種連携と地域連携
- 第15回 レポート
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(30%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(10%)、その他の評価方法(10%)

〔成績評価(備考)〕

ディスカッションへの参加を評価する

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

クラスで提示された課題に取り組み、クラスの内容の復習をすること。教科書および参考文献等の関連文献を自分で読み進め、公認心理師の職責の理解を深めること

〔試験・レポート等のフィードバック〕

- ・リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義において行う。
- ・講義内小テストの解答・解説は、原則としてテストが実施された翌週に行う。
- ・期末レポートの評価について個別のフィードバックが必要な場合は、個別に対応するので教員にアポイントメントを取ること。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

公認心理師の職責を学ぶ本科目は、「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」および「2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性」を基盤とし、「3.総合的・実践的な学習能力」と「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を習得することで、臨床心理学の専門家になるための基盤として、上記4つのディプロマポリシーと関連する態度、知識、技術の基礎を身につけることができる。

〔テキスト〕

野島一彦編(2018)公認心理師の職責. 遠見書房
その他、資料を配布する

〔参考文献〕

- Anderson, S.K. & Handelsman, M.M.(2010). Ethics for Psychotherapists and Counselors : A proactive approach. Wiley-Blackwell.
- 金沢吉展(2006)臨床心理学の倫理を学ぶ. 東京大学出版会.
- 小谷英文(2006)心理教育的介入の倫理. 小谷英文編著 現代のエスプリ別冊 心の安全空間—価値・地域・学校・社会. 至文堂. pp.268-277.
- 仲正昌樹(2009)今こそアレントを読み直す.講談社現代新書.
- 中山元(2017)アレント入門.ちくま新書.
- 矢野久美子(2014)ハンナ・アレント—「戦争の世紀」を生きた政治哲学者.中公新書.

その他、随時紹介する。

〔備考〕

「実務経験のある教員による科目」臨床心理学の専門家としての実務経験を生かして、公認心理師の職責に関わる具体的内容に関する教育を行う。

心理学統計法

科目ナンバー	ICP 2104-L
2単位：後期1コマ	1年
谷井 淳一	

〔到達目標〕

- ①心理学の論文を読んだり書いたりする際に必要な心理統計の初歩的知識を理解する。
- ②統計的検定の考え方を理解して、統計的に有意かどうかを判断できる。
- ③統計的検定についての基本的な例題に関して、適切な計算によって、有意な違いがあるかどうかを判断する力を養う。

〔履修の条件〕

臨床心理コースのコース必修科目であり、1年生の後期に必ず履修するように。子ども支援コースの学生の中で、心理学的研究方法を用いて卒論を書きたいと思っている場合も履修してほしい。2年生の心理学研究法Ⅰや心理学実験はこの科目の履修を前提にしている。また、授業には簡単な電卓を持ってくる。公認心理師の指定科目でもある。

〔講義概要〕

心理学は実証科学として発展してきた。つまり、何らかの方法を用いてデータを得、人間の行動や心をめぐるいろいろな現象やメカニズムを明らかにしてきた。データを得る方法には質問紙法、観察法、実験法、面接法等がある。そして、これらの方法で得られたデータを適切に分析するためには、心理学統計法の理解が必要となる。初年度の科目として、記述統計並びに推測統計の初歩的な内容をゆっくり丁寧に講義していく。

なお、本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

■授業計画

- | | |
|------|---------------------|
| 第1回 | 名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度 |
| 第2回 | 統計手法の選び方・ |
| 第3回 | シグマの計算方法 |
| 第4回 | 正規分布と標準得点 |
| 第5回 | 帰無仮説 |
| 第6回 | 標本分布・標準誤差 |
| 第7回 | z 検定 |
| 第8回 | t 検定 |
| 第9回 | 小テスト・対応のある t 検定 |
| 第10回 | 相関 |
| 第11回 | 相関の意味の考察 |
| 第12回 | ノンパラメトリック検定・カイ二乗検定 |
| 第13回 | 信頼性と妥当性(第1.5回動画) |
| 第14回 | まとめ |
| 第15回 | — |
| 第16回 | — |

〔成績評価〕

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

【成績評価(備考)】

授業中の参加度を評価する。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

復習を中心にして、授業で解説した例題は、4時間程度の学習をし、繰り返し練習して完全にマスターしてほしい。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。動画視聴も含む。

【試験・レポート等のフィードバック】

小テストは返却時にフィードバックを行う

【ディプロマポリシーとの関連性】

「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目の理解を前提にして、2年生以降、データ解析や心理実験での統計処理が可能になる。

【テキスト】

「新版要説心理統計法」山上暁・倉智佐一著 北大路書房。

【参考文献】

授業で指示をする。

【備考】

教科書・ノート・電卓持ち込み可で期末テストを行う

質的研究法		
科目ナンバー	ICP 2208-L	
2単位：後期1コマ	2～4年	
荘島 幸子		

【科目補足情報】

この授業では、学生自らが問題意識を持って課題を発見し、探求し、それを調べ、その課題を深めていく。1つのテーマについて理論を得るグループ実習においては、ディスカッション、協働作業が必要です。

【到達目標】

①質的研究の意義と目的を理解する、②さまざまな質的研究法の特徴を知る、③質的心理学の理論について説明できる、④質的データを収集できる、⑤質的研究の分析のプロセスを学ぶ、⑥質的研究の分析を行う自分自身について内省を深めること、⑦自分の研究をまとめ、レポートを作成できる、⑧グループで協働し、実習を行うことができる、⑨研究をまとめて発表できる、⑩日常生活のなかや現場実践での経験を研究に結び付ける意欲とスキルを養う

【履修の条件】

①日常生活のなかに問いや驚きを感じられること、②グループワーク、グループディスカッション、発表を行うため、ほかの受講生と互いに協力したり、自分の意見を述べたりすること、③各回の授業の間で内容的な関連が強い授業であるため、欠席しないこと。これらを十分に理解し行動に移せる学生である必要がある。

【講義概要】

この授業は研究法(つまり、方法)を学ぶ授業であり、方法を実践する自分自身のスタイルを自覚する授業でもある。授業で課される宿題や、研究法の実践、分析プロセスを体験することを通じて、技法の獲得のみならず、自己への覚知を促していきたい。具体的な質的研究法としては、観察法とインタビュー法を取り上げる。実際に質的データに触れ、あるいは質的データを生み出し、得られたデータの分析を行う。分析の技法はステップを分けて細かく解説し、データをまとめあげて文章化する作業を行う。また、テキストや質的研究法を用いた論文を読み、さまざまな質的研究法を概観する。なお、講義を行う際にはパワーポイントの提示や配布資料を用いる。

■授業計画

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション ①受講者の研究的関心、本講義への期待を話し合う ②講義：質的研究とは |
| 第2回 | ①講義：質的研究の特徴、理論的背景について |
| 第3回 | ①講義：さまざまな観察法 |
| 第4回 | ①実習：園児同士の相互作用の観察(文脈をみつける) |
| 第5回 | ①実習：園児同士の相互作用の観察(分析の視点を見出す) |
| 第6回 | ①実習：園児同士の相互作用の観察(焦点的にみる) |
| 第7回 | ①文献購読(発表)：観察法を用いた質的論文を読む ②ディスカッション |
| 第8回 | ①講義：インタビュー法 ②文献購読(発表)：インタビュー法を用いた質的論文を読み込む③インタビュー法の実習：グループに分かれてインタビューガイドを作成する |
| 第9回 | ①質的研究に関する課題(インタビューガイド)の報告 ②講義：インタビューの仕方 |
| 第10回 | ①実習：インタビューを実践する ②講義：トランスクリプトの作成 |
| 第11回 | ①実習：インタビューデータの分析(KJ法)②講義：何を意味ある語りとして選択するか |
| 第12回 | ①実習：インタビューデータの分析(KJ法)②講義：グループ編成 |
| 第13回 | ①実習：インタビューデータの分析(KJ法)②講義：A型図解化とB型文章化 |
| 第14回 | ①分析結果の発表と相互評価②グループレポートの講評 |
| 第15回 | － |
| 第16回 | － |

【成績評価】

試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(10%)、その他の評価方法(10%)

【成績評価(備考)】

グループディスカッションでの積極的な発言や質問、授業への意欲を評価する
グループワークにおける積極的な態度を評価する

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習)

等)を必要とする。従って、分析資料や参考文献を読んでくこと、課題をまとめること(個人作業・グループでの作業)などの課題を行った上で授業を受けることになる。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

- ①リアクション・ペーパー、課題の報告に対して、その都度、コメントする。
- ②実習の際は、教室を周回、学生の作業内容や質問に対して指導、コメント、評価する。
- ③分析のまとめ発表の際には、課題達成レベルや問題点についてレポート作成の参考になるようなコメントをする。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

ヒューマン・ケアに必要な資質は、現場で出会う課題の本質をとらえ、問題点の発見と適切な分析を行って改善・解決への提言を行い、自らも実践と研究の回路を歩むことである。本講義では人間への深い関心と共感に基づき、実践・研究に重要な問題の把握や分析力、コミュニケーション能力を養う。

〔テキスト〕

指定しない

〔参考文献〕

- 川喜田二郎(1967)発想法,中公新書。
- 無藤隆・南博文・麻生武・やまだようこ・サトウタツヤ(編)(2004)質的心理学-創造的に活用するコツ(ワードマップ),新曜社

〔備考〕

観察法の授業ではビデオデータを扱うため、PCを使用する。

質問紙調査法	
科目ナンバー	ICP 2303-S
2単位：前期1コマ	3年
谷井 淳一	

〔科目補足情報〕

対面授業のつもりで作成している。

〔到達目標〕

- ①質問紙調査の方法を実習し理解する。
- ②因子分析の方法を体験的に学ぶ

〔履修の条件〕

臨床心理コースで卒業論文に取り組み人は必ず履修してほしい。原則として3年前期に履修してほしい。「心理学研究法Ⅰ」「心理学実験」を履修済みが望ましいが、並行履修も認める。3年編入の人は、できるだけ3年で履修してほしい。入学していきなりなので大変ではあるが、頑張してほしい。

〔講義概要〕

質問紙調査の方法について体験的に学んでいく。グループで実際に調査票を作成し、調査実施する。得られたデータをパソコンを用いて入力しデータをチェックする方法を学

ぶ。そののち、因子分析を用いて、項目内容を精選する。これら一連の流れを体験的に実習する。この授業を通じて言葉のセンスを磨いてほしい、特に、自分が作成した項目が、調査協力者にどのように受け取られ反応が返ってくるかを体得することが大切である。質問紙に記入している調査対象者がどのように応答しているかを想像できるようにデータを読み取る力をつけてほしい。質問紙を作るまでのプロセスは質的研究に近いものなので、自分は質的な研究をしたいと考えている人も、質問紙作成の体験は是非真剣に取り組んでほしい。グループ作業なのでグループで助け合って頑張してほしい。

■授業計画

- 第1回 因子分析を用いた論文を探す
質問紙尺度を用いた研究事例
- 第2回 因子分析表の見方と理解
- 第3回 グループ分けと構成概念表の作成1
(グループごとに、論文を選び、その論文中の因子分析結果を参考にしながら、質問紙尺度の改訂版、その概念表を作成する)
- 第4回 グループ分けと構成概念表の作成2
- 第5回 質問紙調査票の作成
- 第6回 尺度の水準とワーディング
- 第7回 Web 調査の方法
- 第8回 調査の実施
- 第9回 データ入力の方法
- 第10回 データチェックの方法
- 第11回 因子分析結果の整理
- 第12回 相関係数の算出
- 第13回 下位尺度別に男女別の平均値・標準偏差を算出し t 検定の実施
- 第14回 レポートの作成
- 第15回 レポートの作成2
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(100%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

質問紙調査実施から分析するまで、グループ作業として実施したことをレポートしてもらう。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

復習を中心に定着を図ることが望まれる。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

各段階ごとに進行具合をチェックし、それに対して、フィードバックを行ってすすめていく。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目はディプロマポリシーに定める「広い学識と、高度な学識を備え、専門性を必要とする職業を担うための優れた能力を身につける」ことを目標とする。特に研究を企画・実施・分析するための方法の習得を目的とする。

【テキスト】

「新版要説心理統計法」山上暁・倉智佐一著 北大路書房
(この教科書でなくてもいいが、何か一つ統計の教科書を持ってほしい)

【参考文献】

「社会心理学研究入門」末永俊郎編 東京大学出版会
「SPSSとAmosによる心理・調査データ解析」小塩真司著 東京書籍

【備考】

昨年作成した動画が Youtube にある。これらも利用して、繰り返し視聴し、理解を深めてほしい。

心理学研究法Ⅱ(観察法・面接法・実験法)

科目ナンバー	ICP2304-S
2単位：前期1コマ	3～4年
松田 崇志	

【科目補足情報】

公認心理師の資格試験の受験資格を得るためには、心理学研究法Ⅰ(データ解析)と心理学研究法Ⅱ(観察法・面接法・実験法)の両方を履修する必要があります。

【到達目標】

- 1) 心理学研究における実証的な研究方法である面接法・観察法・実験法それぞれの特徴を理解する。
- 2) 面接法・観察法・実験法の計画、実施、分析、まとめまでの一連の手続きを理解し、データを用いた実証的な思考方法ができるようになる。
- 3) 研究における倫理を理解する。

【履修の条件】

発展的な内容であるため、「心理学実験」、「心理学統計法」、「心理学研究法Ⅰ(データ解析)」を履修済みであると望ましい。

【講義概要】

心理学はこれまで幅広い研究領域をカバーするため、さまざまな方法論を発展させてきた。したがって、心理学研究を行う際には、自らの研究課題にもっとも適した方法を選択することが必要になる。本講義では、心理学の代表的な研究方法のうち「面接法」「観察法」「実験法」を取り上げる。それぞれの特徴をふまえた上で、計画から実施、分析、まとめまで一連の手続きを学んでいく。本講義では、実際のデータ分析の体験を通して、学べるようにする予定である。

■授業計画

- | | |
|-----|--------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション、心理学における研究とは |
| 第2回 | 心理学研究のリサーチデザイン、量的研究と質的研究 |
| 第3回 | 研究倫理 |
| 第4回 | 面接法①：種類と方法論 |
| 第5回 | 面接法②：特徴の理解 |
| 第6回 | 調査法①：種類と方法論 |
| 第7回 | 調査法②：特徴の理解 |

- | | |
|------|-------------|
| 第8回 | 観察法①：種類と方法論 |
| 第9回 | 観察法②：特徴の理解 |
| 第10回 | 実験法①：種類と方法論 |
| 第11回 | 実験法②：特徴の理解 |
| 第12回 | 実験法③：工夫と注意点 |
| 第13回 | 検査法 |
| 第14回 | 研究成果の公開 |
| 第15回 | 最終レポート |
| 第16回 | － |

【成績評価】

試験(0%)、レポート(100%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

【成績評価(備考)】

それぞれの方法(①面接・調査、②観察、③実験)に該当する授業内レポートと最終レポートによって成績評価を行う。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

事前予習：統計の基本的な知識を復習しておくこと。

復習：授業内で示す参考文献などを読んで、理解を深めること。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目習得することで、論理的・客観的な視点でものごとをとらえることができるようになる。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

- ①中澤潤・大野木裕明・南博文(編著)「心理学マニュアル観察法」北大路書房 1997年 (本体価格：1,300円+税)
- ②村井潤一郎(編著)「Progress & Application 心理学研究法」サイエンス社 2012年 (本体価格：2,200円+税)
- ③サール、アン(著)宮本聡介・渡辺真由美(訳)「心理学エッセメンタルズ 心理学研究法入門」新曜社 2005年 (本体価格：2,200円+税)
- ④山田剛史・林 創「大学生のためのリサーチリテラシー入門 研究のための8つの力」ミネルヴァ書房 2011年 (本体価格：2,400円+税)

【備考】

本講義の内容は受講生の人数や状況に合わせて修正することがある。

心理検査技法演習

科目ナンバー	ICP 2209-S
2単位：後期1コマ	2～4年
田副 真美	

〔科目補足情報〕

「心理的アセスメント」を履修済みでないと、この科目は履修できない。

〔到達目標〕

1. 心理的アセスメントの目的及び倫理の理解
2. 心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）の理解
3. 心理検査（投映法）の背景にある理論、配慮項目の理解
4. 検査者および被検査者の体験
5. 自己理解を深める
6. 検査結果によるアセスメントやテストバッテリーについての理解
7. 心理検査を実施する際の倫理上の問題への理解を深める

〔履修の条件〕

1. 「心理的アセスメント」を履修済みであること
2. 検査の十分な知識を身につけるために、継続して出席が可能なこと
3. 心理検査の実施における倫理上の問題を十分理解できること
4. 検査所見などのすべてのレポート提出が可能なこと

〔講義概要〕

心理検査では、投映法を中心に講義する。各検査の概説、実施方法の説明の後、検査の実施と結果のまとめ方について体験する。結果のアセスメントやテストバッテリーについてふれ、検査の実際について具体的な事例を提示し説明する。

■授業計画

第1回	オリエンテーション 授業の狙い、講義の進め方、授業に使用するテキストや参考文献の紹介
第2回	投映法総論
第3回	SCT 体験 実施方法の説明、検査の体験と解説
第4回	P-F スタディ① 体験 実施方法の説明、検査の体験と解説
第5回	P-F スタディ② 実施方法の説明、検査の体験と解説
第6回	バウムテスト① 体験 実施方法の説明、検査の体験と解説
第7回	バウムテスト②：実施方法の説明、検査の体験と解説
第8回	HTP テスト① 体験 実施方法の説明、検査の体験と解説
第9回	HTP テスト②：実施方法の説明、検査の体験と解説
第10回	風景構成法① 体験 実施方法の説明、検査の体験と解説

第11回 風景構成法②：実施方法の説明、検査の体験と解説

第12回 TAT
体験
実施方法の説明、検査の体験と解説

第13回 ロールシャッハ・テスト
実施方法の説明と解説

第14回 テストバッテリーについて
相談、助言、指導等への応用の仕方
事例提示、全体のまとめ

第15回 期末レポート

第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(10%)

〔成績評価(備考)〕

授業参加態度、小レポート、レポート試験により評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

連続する複数回の授業では、必ず前回の資料や検査に目を通し、講義に臨むこと。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、「3. 総合的・実践的な学習能力」、「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。公認心理師や臨床心理学の専門家としての実践的な知識と技術を身に付けることができる。

〔テキスト〕

必要な資料を適宜配布する。

〔参考文献〕

沼 初枝「臨床心理アセスメントの基礎」ナカニシヤ出版
2,100円

願興寺礼子、住吉隆弘(編)「心理検査の実際の初歩」ナカニシヤ出版 2,600円

〔備考〕

「実務経験のある教員による科目」公認心理師および臨床心理士として、主に医療領域等における心理臨床経験を活かして心理検査(投映法)の指導を行う。

学習・言語心理学

科目ナンバー	ICP 2210-L
2単位：後期1コマ	2～4年
上田 卓司	

〔到達目標〕

本授業では「学習」「行動」「言語」にまつわる心的現象や基本的知識を取得する事と同時に、「客観的な事実による裏付け」がどのように得られるのか、どのように「事実」を解釈するかについても見つけることを目標とします。

〔履修の条件〕

「心理学」等の基礎的な科目を受講した上で履修するのが望ましい。欠席せずに、毎回参加できる学生に向けた科目です。

〔講義概要〕

本授業では「学習」「獲得」という観点を元に種々の心理学的現象について考察します。講義形式を中心としますが、適宜マルチメディア資料を活用したり、実験の体験を行ったりしながら理解を深めてゆきます。

■授業計画

- 第1回 導入：心理学における「学習」と「言語」の位置付け
- 第2回 生得的行動と学習
- 第3回 条件付け(1)：古典的条件付け
- 第4回 条件付け(2)：道具的条件付け
- 第5回 一般化と弁別：学習の諸要素
- 第6回 学習における認知的要因
- 第7回 学習・獲得における動機的作用
- 第8回 社会的学習：模倣と観察学習
- 第9回 行動療法(1)：心理的障害への学習・行動主義的アプローチ
- 第10回 行動療法(2)：行動療法と認知的変容
- 第11回 言語とコミュニケーション(1) 言語・文章の理解
- 第12回 言語とコミュニケーション(2) 非言語情報の役割
- 第13回 言語の獲得と発達
- 第14回 言語の障害と喪失
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(70%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

授業内容についてノートを整理し、指示した参考文献に目を通します。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします

〔試験・レポート等のフィードバック〕

ほぼ毎回行われることになる小テストについては、解説・復習を行い、新たな授業トピックの導入の役割を果たします。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当しま

す。本科目を履修することにより、基礎的な側面からの人間・心理についての理解が深まることが期待されます。

〔テキスト〕

特定の教科書は用いません。

〔参考文献〕

教場で、必要な資料を適宜配布します。参考文献情報は資料に掲載されています。

知覚・認知心理学

科目ナンバー	ICP 2211-L
2単位：後期1コマ	2～4年
松田 崇志	

〔到達目標〕

- ①知覚心理学と認知心理学の基礎的な知識を得る
- ②人の感覚・知覚、認知・思考の機序及びその障害について理解する
- ③日常生活の中での知覚や認知の働きについて気づき、専門的な知識を用いて考えることができるようになる

〔履修の条件〕

「心理学」や「心理学概論」といった基礎的な科目を受講したうえで履修するのが望ましい。

〔講義概要〕

本授業では、パワーポイントと配布資料に基づいて、感覚、知覚、注意、記憶、思考といったテーマを中心に上げ、知覚や認知の働きに関する基礎的な知識を学んでいく。人の感覚・知覚等の機序及びその障害、人の認知・思考等の機序及びその障害について理解することを目指す。知覚や認知の働きは普段から当たり前のように行われていることであり、我々の日常生活と密接にかかわりあっている。本授業を通してそのことに気づき、専門的な知識を日常生活に活かすことができるようになることも目指す。各授業の中では、それぞれのテーマについて概説するとともに、簡単な実験や調査を入れながら、理解を深めていく。

■授業計画

- 第1回 知覚心理学と認知心理学について
- 第2回 感覚
- 第3回 視知覚の基礎
- 第4回 注意
- 第5回 感覚・知覚の障害
- 第6回 記憶の仕組み
- 第7回 記憶術
- 第8回 日常生活における記憶
- 第9回 知識の構造
- 第10回 イメージと表象
- 第11回 問題解決
- 第12回 推論
- 第13回 意思決定
- 第14回 認知・思考の障害
- 第15回 試験

[成績評価]

試験(100%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

授業後に、配布資料を見返す、授業中に紹介する参考文献の該当箇所を読むなどして復習をすること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]

授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]

「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当します。本科目を履修することにより、基礎的な側面からの人間・心理についての理解が深まることが期待されます。

[テキスト]

特になし

[参考文献]

- ①松田隆夫 『知覚心理学の基礎』 培風館
- ②箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 『認知心理学』 有斐閣
- ③森敏昭・井上毅・松井孝雄 『グラフィック認知心理学』 サイエンス社

神経・生理心理学	
科目ナンバー	ICP2213-L
2単位：前期1コマ	2～4年
越智 隆太	

[到達目標]

- ・脳神経系の解剖学的構造および生理学的機能について理解する(脳神経系の構造及び機能の理解)
- ・脳をモデルとした認知機能の機序について理解する(記憶、感情等の生理学的反応の機序の理解)
- ・脳損傷や疾患によって生じる障害を理解する(高次脳機能障害の概要と理解)

[履修の条件]

- ・この科目を履修するにあたって特別な条件は設けません。
- ・講義内容の性質上、症候が実感しにくかったり、理解することが難しいと感じることが予想されますが、興味を持って根気よく臨む姿勢が求められます。
- ・この科目で扱う神経心理学は医学領域と密接に関わる学問分野です。必須ではありませんが、公認心理師養成カリキュラムの必須科目である「人体の構造と機能及び疾病」を履修されると、より理解が深まります。

[講義概要]

神経心理学とは、脳の損傷や機能的変化によって生じる知覚や行動の障害(高次脳機能障害)を通して、人間の心がもつ機能(高次脳機能)のメカニズムや脳領域との対応を探究する学問です。この科目では、脳の解剖学的構造や生理学的機序を理解した上で、映像資料も使いながら高次脳機能障害の各種症状、神経心理学的検査の方法など、臨床実践のための基本的知識について理解を深めていきます。また、臨床に限らず基礎研究的な話題も提供していきます。

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション・神経心理学の位置付け及び研究方法について
- 第2回 脳神経系の解剖学的構造、生理学的機能
- 第3回 視覚機能とその障害
- 第4回 聴覚機能とその障害
- 第5回 運動・体性感覚とその障害
- 第6回 言語機能とその障害(1)
- 第7回 言語機能とその障害(2)
- 第8回 注意機能とその障害
- 第9回 記憶機能とその障害
- 第10回 情動機能とその障害(社会的行動障害)
- 第11回 遂行機能とその障害
- 第12回 認知症
- 第13回 精神疾患・発達障害
- 第14回 神経心理学的検査の理解と実践
- 第15回 試験
- 第16回 予備日

[成績評価]

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価(備考)]

課題提出として、毎回講義終了後にリアクションペーパーの提出が必要です。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

この科目では、脳の領域名や症状名など専門的な用語を憶え、様々な認知機能の機序について理解する必要があります。そのため、それらを自分の知識にできるよう本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

[試験・レポート等のフィードバック]

各講義終了後に提出されたリアクションペーパーのうち、全体で共有をした方が良いものについては次回講義時にフィードバックします。試験は後日模範解答を共有します。

[ディプロマポリシーとの関連性]

この科目は、ディプロマポリシーに定める「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当し、この科目を履修することにより、高次脳機能障害や精神疾患、発達障害についての知識を身に付け、その知識を当事者やその家族の理解や援助に役立てることができます。これらの能力は、公認心理師に必要な「クライアントへの臨床的支援能力」「他職種の専門家と連携

する能力」にあたります。

【テキスト】

特に教科書は指定しません。講義回ごとに資料を共有します。

【参考文献】

以下に挙げる書籍は必ずしも購入する必要はありません。大学内の図書館などでどのような書籍かを確認して、興味があれば購入をお勧めします。

将来的に公認心理師試験を視野に入れている方は、緑川他(編)「臨床神経心理学」を持っていることをお勧めします。

緑川晶 他(編) 臨床神経心理学 医歯薬出版(2018)
石合純夫 高次脳機能障害学第3版 医歯薬出版(2022)
坂爪一幸 高次脳機能の障害心理学-神経心理学的症状とリハビリテーション・アプローチ 学文社(2007)
山鳥重 神経心理学入門 医学書院(1985)

臨床心理学概論	
科目ナンバー	ICP2105-L
2単位：前期1コマ	1～2年
植松 晃子	

【到達目標】

現在の様々な心理療法の基盤となる理論を理解する。精神分析、行動療法、来談者中心療法、一般システム理論を成り立ちから学びます。

【履修の条件】

心理臨床とは何か、基礎となる理論を学ぶ意欲を持った学生であること。地域の方にも開かれた公開講座です。本学の学生で聴講を希望する場合は事前に相談してください。

【講義概要】

臨床心理学が提案する様々な理論やアプローチは、「人」を理解するためのものです。この講義では、臨床心理学の理論に焦点を当て、それぞれの理論の背景や核となる考え方を学びます。基本的に授業計画に沿って進みますが、適宜変更することがあります。

■授業計画

第1回	授業についての説明：心理臨床とはどのような支援なのか
第2回	精神分析(1)導入：背景の理解
第3回	精神分析(2)局所論・構造論
第4回	精神分析(3)心理力動論
第5回	精神分析(4)発達論
第6回	精神分析(5)後の展開
第7回	行動療法(1)導入：背景の理解
第8回	行動療法(2)様々な技法1
第9回	行動療法(3)様々な技法2
第10回	来談者中心療法(1)導入：背景の理解
第11回	来談者中心療法(2)理論の展開
第12回	来談者中心療法(3)人格論

第13回	システムズ理論(1)導入：背景の理解
第14回	システムズ理論(2)心理社会的アプローチ
第15回	定期試験
第16回	-

【成績評価】

試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

【成績評価(備考)】

毎回授業後に質問の時間を設けます。分からないことはクラスの為に積極的に質問してください。その他の評価方法とは、質問を含め授業への積極的参加となります。

※遠隔授業になった場合は、毎回の授業後の小レポートと、期末レポートの提出が定期試験の代わりに課題となります。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

積極的な予習・復習を勧めます。授業で扱う内容を1回ですべて理解しようとせず、各自復習することを勧めます。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

【試験・レポート等のフィードバック】

授業内容についての質問や授業で掴んだことのフィードバックの時間を毎回設ける。

定期試験では、授業で作成したノートのみ、持ち込みを可としています(教科書や辞書は不可)。授業内容については、板書を中心に各自でノートを作ってください。

【ディプロマポリシーとの関連性】

2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。現在の様々な心理療法の基盤となる理論を理解し、臨床心理学を学びを深める。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

授業時に適宜紹介する

【備考】

実務経験のある教員による科目。臨床心理士として実践経験のある教員が、人の心の理解のために臨床心理学の各理論がどのような視点を提供しているのかを講義する。

サイコドラマI	
科目ナンバー	ICP2214-L
1単位：前期1コマ	2～4年
谷井 淳一	

【科目補足情報】

対面授業のつもりで作成しています。

【到達目標】

- ①集団心理療法の1つであるサイコドラマを体験し、その目的を理解する。
- ②主役や補助自我および観客役割を経験することにより、自己理解や他者理解をすすめる機会とする。
- ③他者に対する共感性を高め、安心感のあるグループを形成し、癒しの体験を共有する。
- ④このグループで得た新たなつながりによって、学生の皆さんのキャンパスライフが豊かになって欲しいと考えている。いいキャンパス仲間をこのグループの中で一緒に作り共通の良い体験を味わいましょう。
- ⑤サイコドラマはこころを扱うので、その適用の限界や実施上の注意点についても理解をする。

【履修の条件】

希望者を2つのグループに分け、全7回を隔週(2週間に1回のペース)で実施する(単位数は1)。サイコドラマを初めて受講するものは原則として前期から始めてほしい。1グループは15人程度としたいので、何らかの方法で、人数制限か人数調整をする。授業開始日にグループ分けを行うので第1日目は必ず出席してください(1回目だけ大きめの別の教室で行い、2回目からは小さめの教室に移動する。掲示に注意してほしい)後期に初めてサイコドラマを履修したい場合は相談してください。

【講義概要】

(1)サイコドラマの目的

サイコドラマは、即興的なドラマ表現を媒介として、個人に自己理解あるいは自己洞察をもたらすことを期待した心理療法である。臨床心理学を学ぶものとして、個人を対象にした技法とともに集団を対象としたスキルを身につけることも将来的に必要となる。そこで、集団心理療法の1つである「サイコドラマ」を体験的に学習する。

(2)サイコドラマの構成

サイコドラマは、集団のウォームアップ、個人のウォームアップ、主役の選択、ドラマ化、シェアリングという一連の流れをもっている。これらの流れを理解し体験的に学ぶ。

(3)サイコドラマの要素

サイコドラマは、主役、補助自我、観客などの要素からなり、主役の世界を立体的に表現していく。そのために、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法を駆使する。その技法について体験的に理解をはかる。

■授業計画

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | サイコドラマについての概要を説明する。
グループ分けとグループメンバーを知るワークを実施する。
サイコドラマ実施上の限界や注意点についても理解する。 |
| 第2回 | サイコドラマの構成の体験的理解
これまでのサイコドラマの記録を読んで、サイコドラマのすすめ方に関する理解を深める。 |
| 第3回 | 「自分にプレゼントをする」のワークから連想するテーマに関するドラマ体験(ただし第3回以降のテーマは変わる可能性もある) |
| 第4回 | 「もう一度行きたい場所」をテーマにしたドラマ体験 |

第5回 「エンブティティエ」から連想したテーマに基づくドラマ体験

第6回 「最近の自分に対する評価」をテーマにしたドラマ体験

第7回 「自分にとってベスト月、ワースト月」をテーマにしたドラマ体験

第8回 1単位なので第7回で終了である

第9回 -

第10回 -

第11回 -

第12回 -

第13回 -

第14回 -

第15回 -

第16回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

【成績評価(備考)】

授業への積極的参加(主役体験、補助自我体験)を期待している。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

本科目では各授業回におよそ200分の復習時間をとって、各授業での体験を自分にあてはめて振り返りをしてください。以下の内容をレポートにしてみらうので、その日の役割やその日感じたことをメモしておいてください。

- (1) 各回ごとにどんな役割(主役・補助自我・観客)をして、何を感じたか。
- (2) サイコドラマの体験が、自分の日常に影響を与えたか。
- (3) 自分の課題に気づいたことがあったか。何らかの課題解決に役立ったか。
- (4) 主役体験をする前としたあとのサイコドラマのイメージや自分のことについて違いがあったか。主役をやらなかった場合はどうしてやらなかったか。
- (5) その他

【試験・レポート等のフィードバック】

毎回、シェアリングの時間をとって、その授業の振り返りを行う。必要に応じてその場でフィードバックを行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性、及び4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。サイコドラマに積極的に参加することにより、他者理解だけでなく自己理解も深めることを目指す。

【テキスト】

とくになし、必要に応じて参考文献を読んでください。

【参考文献】

谷井淳一著「自己成長のためのサイコドラマ入門」日本評論社
高良聖著「サイコドラマの技法」岩崎学術出版
磯田雄二郎著「サイコドラマの理論と実践」誠信書房

サイコドラマⅡ

科目ナンバー	ICP2215-S
1単位：後期1コマ	2～4年
谷井 淳一	

〔科目補足情報〕

最初の授業でグループ分けを行い、以後、隔週に実施する。Aグループの翌週はBグループとなり、交互に授業を実施する。

〔到達目標〕

- ①内容そのものはサイコドラマⅠと同じであるが、経験者のクラスである。役割をとることの理解が深まっているはずなので、自発性を発揮し、ダブルや補助自我の役割をしっかりとれるようになることを目指して欲しい。
- ②主役や補助自我および観客役割を経験することにより、自己理解や他者理解をすすめる機会とする。
- ③他者に対する共感性を高め、安心感のあるグループを形成し、癒しの体験を共有する。
- ④このグループで得た新たなつながりによって、学生の皆さんのキャンパスライフが豊かになって欲しいと考えている。いいキャンパス仲間をこのグループの中で一緒に作り共通の良い体験を味わいましょう。
- ⑤サイコドラマはこころを扱うので、その適用の限界や実施上の注意点についても理解をする。

〔履修の条件〕

サイコドラマⅠを履修済みのもの。ただし、後期からサイコドラマを履修したい場合は谷井に相談してください。やる気があればⅡからの履修も認めます

サイコドラマを始めてようやく慣れた頃に、サイコドラマⅠが終わったと思うので、引続き履修を続けて自己理解や他者理解を深めたい学生のための科目である。

最初の授業で(または事前に)履修者を2つのグループに分けるので、希望者は1回目から参加すること。

〔講義概要〕

サイコドラマは、主役のこころの世界を立体的に表現し、集団の力に支援されながら自分のこころを検討していく。そのために、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法を駆使する。サイコドラマⅡでは、ダブルなどの補助自我の役割を、主役の心情を理解して適切に表現できるようになることを目指したい。また、少し遊び心豊かなドラマを一緒に創って行きたい。

■授業計画

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | サイコドラマⅠの経験の振り返り、ダブルの練習。 |
| 第2回 | 「今年一番の思い出を写真にとる」をテーマにしたドラマ体験(以後の回でテーマの内容は変更する場合もある) |
| 第3回 | 「自分にプレゼントをする」をテーマにしたドラマ体験 |
| 第4回 | 「エンブティチュア」から出発したドラマ体験 |
| 第5回 | 「今の気持ちを表す物になる」のワークから思い浮かんだことをテーマにしたドラマ体験 |
| 第6回 | 「カードを選んでメッセージをもらう」のワークから思い浮かんだことをテーマにしたドラマ体験 |
| 第7回 | 「今年一番重要だった月」をテーマにしたドラマ体験 |

- 第8回 -
- 第9回 -
- 第10回 -
- 第11回 -
- 第12回 -
- 第13回 -
- 第14回 -
- 第15回 -
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

授業への積極的参加(主役体験・補助自我体験)を期待している。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ50分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業での体験を自分にあてはめて振り返りをしてください。

以下の内容を期末のレポートにしてもらうので、その日の役割やその日感じたことを簡単にメモしておいてください。

- (1) 毎回ごとにどんな役割(主役・補助自我・観客)をして、何を感じたか。
- (2) サイコドラマの体験が、自分の日常に影響を与えたか。
- (3) 自分の課題に気づいたことがあったか。何らかの課題解決に役立ったか。
- (4) 主役体験をする前としたあとのサイコドラマのイメージや自分についてのことで違いがあったか。主役をやらなかった場合はどうしてやらなかったか。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

毎回、シェアリングの時間を設けてその日の授業の振り返りを行う。必要に応じてその場でフィードバックを行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

1、いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性、及び4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。サイコドラマに積極的に参加することにより、他者理解だけでなく自己理解が深まることを目指す。

〔テキスト〕

とくになし、必要に応じて参考文献を読んでください。

〔参考文献〕

谷井淳一著「自己成長のためのサイコドラマ入門」日本評論社
高良聖著「サイコドラマの技法」岩崎学術出版
磯田雄二郎「サイコドラマの理論と実践」誠信書房

〔備考〕

ー

サイコドラマⅢ

科目ナンバー	ICP 2216-S
1単位：後期1コマ	2～4年
谷井 淳一	

【科目補足情報】

後期に1単位のサイコドラマⅢとⅣ演習をまとめて2単位として実施する。そのため、サイコドラマⅢ演習も必ず同時履修してください。監督としてのドラマの進め方を学び、監督の役割を体験的に理解する。

【到達目標】

- ①サイコドラマの監督として、特定のグループに対してサイコドラマを実施する方法を学ぶ。
- ②ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングの役割を理解し、その流れを会得する。
- ③ダブル・ミラー・役割交換などの適切な使い方を会得する。
- ④主役体験についても、同時に参加者が体験するのでよりサイコドラマに関する理解が深まり、癒しの体験を集団で味わうことができると思う。

④対面授業を念頭に記載している。遠隔授業になった場合は、別途連絡する。

【履修の条件】

- ①原則としてサイコドラマⅠ（またはⅡ）を履修済みのこと。
 - ②3・4年生の場合はサイコドラマⅠ（またはⅡ）と同時に並行履修も認めている。その場合は谷井と相談してください。
 - ③サイコドラマⅢ演習と合わせて2単位として実施する（前半7コマはサイコドラマⅢ、後半7コマはサイコドラマⅣ演習であると考えてください。
- だから、サイコドラマⅢ演習も必ず履修してください。

【講義概要】

- (1) 将来、病院や福祉施設でのデイケアや学校で集団活動の指導の機会を持つ可能性がある。グループを運営する方法の一つとして、サイコドラマの方法は役に立つ技法である。そのためのスキルを学ぶ。
- (2) サイコドラマの構成
サイコドラマは、集団のウォームアップ、個人のウォームアップ、主役の選択、ドラマ化、シェアリングという一連の流れをもっている。これらの流れを理解し、監督として実践する。
- (3) サイコドラマの要素
サイコドラマは、主役、補助自我、観客などの要素からなり、主役の世界を立体的に表現していく。そのために、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法を駆使する。その技法を学ぶ。

■授業計画

- 第1回 ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングの役割
- 第2回 ウォーミングアップのいろいろ
- 第3回 主役選択の方法とファーストインタビュー
- 第4回 ロールリバーサルの使い方
- 第5回 ドラマをどのように展開するか(1)
- 第6回 ドラマをどのように展開するか(2)
- 第7回 ウォーミングアップから主役選択までの監督体験1(で

きるだけ1人につき1回は監督体験の機会がもてるようにしたい)

- 第8回 「第8回から第14回はサイコドラマⅢ演習として実施する」

ウォーミングアップから主役選択までの監督体験2

- 第9回 ウォーミングアップから主役選択までの監督体験3

- 第10回 ウォーミングアップから主役選択までの監督体験4

- 第11回 ウォーミングアップから主役選択までの監督体験5

- 第12回 ウォーミングアップから主役選択までの監督体験6

- 第13回 ウォーミングアップから主役選択までの監督体験7

- 第14回 ウォーミングアップから主役選択までの監督体験8

- 第15回 -

- 第16回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

【成績評価(備考)】

授業への積極的参加を期待している。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

この授業を履修しただけで、ただちに監督ができるようになるわけではないが、できるだけ丁寧に手ほどきをしたい。1回1回の積み重ねが大切であるので、セッションごとにどのような学びがあったかを復習しながら参加してほしい。働くようになって将来サイコドラマのスキルが必要になったときにもう一度学びなおせるように基本的な考え方を体得してもらおう。本科目では各授業回におよそ50分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業後に自分が今回の授業でとった役割を振り返り、どのような気づきがあったかをまとめておいてください。

【試験・レポート等のフィードバック】

毎回、シェアリングの時間、レビューの時間を設け、その際に出た質問について、フィードバックを実施する。

【ディプロマポリシーとの関連性】

3. 総合的・実践的な学習能力、及び4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。監督をすることにより、主役のテーマを把握しどのようにドラマを組み立てるかを学習する。

【テキスト】

必要であれば以下の参考文献を参照してください。谷井の著作は監督としてドラマをどのようにすすめるかを平易に説明しています。サイコドラマの構成の仕方について事例も豊富に取り上げていますので、楽しみながら読めると思います。

【参考文献】

谷井淳一著「自己成長のためのサイコドラマ入門」日本評論社
高良聖著「サイコドラマの技法」岩崎学術出版
磯田雄二郎「サイコドラマの理論と実践」誠信書房

【備考】

レポートは、この授業で体験したことを、「主役体験で感じたこと」と「監督体験で感じたこと」を別々にA4判用紙2枚ずつ程度書

いてもらう予定である。主役体験はこれまでのⅠおよびⅡの授業と同じ観点から書いてください。監督体験(ウォーミングアップの工夫、主役へのファーストインタビュー、役割交換、ミラーなどの指示や全体の構成)に関しては、うまくできたところ難しかったところなどを含めやってみた感想や考察を書いてください。

サイコドラマⅢ 演習		
科目ナンバー	ICP 2217-S	
1 単位：後期1 コマ	2～4 年	
谷井 淳一		

【科目補足情報】

サイコドラマⅢ演習は、サイコドラマⅢと合体させて、2単位の科目として実施する。必ず、ⅢとⅢ演習は必ず両方の科目を同時に履修してください。

【到達目標】

- ①サイコドラマの監督として、特定のグループに対してサイコドラマを実施する方法を学ぶ。
- ②ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングの役割を理解し、その流れを会得する。
- ③ダブル・ミラー・役割交換などの適切な使い方を会得する。
- ④主役体験についても、同時に参加者が体験するのでよりサイコドラマに関する理解が深まり、癒しの体験を集団で味わうことができると思う。

【履修の条件】

- ①サイコドラマⅢ演習と合わせて2単位として実施する(前半7コマはサイコドラマⅢ、後半7コマはサイコドラマⅢ演習であると考えてください)。必ずサイコドラマⅢも履修してください。
- ②場合によって大学院の科目と合同で実施することがある。その場合は最初の時間に説明する。

【講義概要】

- (1)将来、病院や福祉施設でのデイケアや学校で集団活動の指導の機会を持つ可能性がある。グループを運営する方法の一つとして、サイコドラマの方法は役に立つ技法である。そのためのスキルを学ぶ。
- (2)サイコドラマの構成
サイコドラマは、集団のウォームアップ、個人のウォームアップ、主役の選択、ドラマ化、シェアリングという一連の流れをもっている。これらの流れを理解し、監督として実践する。
- (3)サイコドラマの要素
サイコドラマは、主役、補助自我、観客などの要素からなり、主役の世界を立体的に表現していく。そのために、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法を駆使する。その技法を学ぶ。

■授業計画

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングの役割
(以下、第7回まではサイコドラマⅢとして考えてください) |
| 第2回 | ウォーミングアップのいろいろ |
| 第3回 | 主役選択の方法とファーストインタビュー |
| 第4回 | ロールリバーサルの使い方 |

- | | |
|------|---|
| 第5回 | ドラマをどのように展開するか(1) |
| 第6回 | ドラマをどのように展開するか(2) |
| 第7回 | ウォーミングアップから主役選択までの監督体験1(1人1回は監督体験ができるようにしたいと思っています) |
| 第8回 | 「第8回から第14回はサイコドラマⅢ演習として実施する」
ウォーミングアップから主役選択までの監督体験2 |
| 第9回 | ウォーミングアップから主役選択までの監督体験3 |
| 第10回 | ウォーミングアップから主役選択までの監督体験4 |
| 第11回 | ウォーミングアップから主役選択までの監督体験5 |
| 第12回 | ウォーミングアップから主役選択までの監督体験6 |
| 第13回 | ウォーミングアップから主役選択までの監督体験7 |
| 第14回 | ウォーミングアップから主役選択までの監督体験8 |
| 第15回 | - |
| 第16回 | - |

【成績評価】

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

【成績評価(備考)】

授業への積極的参加を期待している。主役体験も積極的にしてください。サイコドラマⅢと一括評価となります。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

この授業を履修しただけで、ただちに監督ができるようになるわけではないが、できるだけ丁寧に手ほどきをしたい。1回1回の積み重ねが大切であるので、セッションごとにどのような学びがあったかを復習しながら参加してほしい。将来サイコドラマのスキルが必要になったときにもう一度学びなおせるように基本的な考え方を体得してもらう。本科目では各授業回におよそ50分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業後に自分が今回の授業でとった役割を振り返り、どのような気づきがあったかをまとめておいてください。

【試験・レポート等のフィードバック】

毎回、シェアリングの時間、レビューの時間を設け、その際に出た質問について、フィードバックを実施する。

【ディプロマポリシーとの関連性】

3. 総合的・実践的な学習能力、及び4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。監督をすることにより、主役のテーマを把握しどのようにドラマを組み立てるかを学習する。

【テキスト】

必要であれば以下の参考文献を参照してください。谷井の著作は監督としてドラマをどのようにすすめるかを平易に説明しています。サイコドラマの構成の仕方について事例も豊富に取り上げていますので、楽しみながら読めると思います。

【参考文献】

谷井淳一著「自己成長のためのサイコドラマ入門」日本評論社
高良聖著「サイコドラマの技法」岩崎学術出版
磯田雄二郎「サイコドラマの理論と実践」誠信書房

〔備考〕

レポートは、この授業で体験したことを、「主役体験で感じたこと」と「監督体験で感じたこと」を別々に A4判用紙2枚ずつ程度書いてもらう予定である。主役体験はこれまでの授業と同じ観点から書いてください。監督体験(ウォーミングアップの工夫、主役へのファーストインタビュー、役割交換、ミラーなどの指示や全体の構成)に関しては、うまくできたところ難しかったところなどを含めやってみた感想や考察を書いてください。

感情・人格心理学

科目ナンバー	ICP 2218-S
2単位：後期1コマ	2～4年
村田 夏子	

〔到達目標〕

- 感情および人格(パーソナリティ)についての主要な理論を学ぶ。
- 感情、人格をめぐる問題について、科学的・客観的な視点から考えることができるようになる。
- 心理学的知見を学ぶことにより、直接「見る」ことのできない感情・人格について、他者についても自分自身についても、偏見のない建設的な考えかたをすることを目指す。

〔履修の条件〕

感情や性格は、他ならぬ自分のことであってさえ、よくわからなかったり持て余したりすることがしばしばある。しかし心理学は、それに対してお告げのように「解決」をもたらすものではない。本講義で扱う心理学的な研究について意欲的に学び、感情や人格をめぐる諸問題を科学的な観点から主体的に考えることを期待する。

〔講義概要〕

感情と人格(パーソナリティ)について心理学がどのように研究してきたか、主要な理論をそのアプローチの方法を含めて学ぶ。さらに感情とパーソナリティについて、認知、発達、適応といった視点から多角的に考察する。各回、関連する今日的な話題に言及しながら解説して課題を出すので、自分の生き方に活かすことを視野に入れつつ主体性を持って授業に取り組んで欲しい。

■授業計画

第1回	オリエンテーション この講義で何を学ぶかを概観し、授業の進めかた、評価のしかたなどを説明する
第2回	感情とは何か
第3回	感情と脳・身体
第4回	感情の機能
第5回	感情と認知
第6回	感情と発達
第7回	感情の健康・病理
第8回	パーソナリティとは何か
第9回	類型論と特性論(1)
第10回	類型論と特性論(2)
第11回	個人差をどう測定、記述するか
第12回	パーソナリティの発達

第13回 パーソナリティの成熟

第14回 総括

第15回 レポートまたは試験

第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(60%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(0%)

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

課題、リアクションペーパーおよび質問に対するフィードバックを次の講義において行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修すると、他者理解が深まり、コミュニケーションの取りかたの幅が広がる。

〔テキスト〕

特に指定しない。毎回資料を配布する。

〔参考文献〕

授業内で適宜紹介する。

〔備考〕

授業の内容や進度、評価方法は、状況に応じて変更する場合がある。

交流分析

科目ナンバー	ICP 2219-L
2単位：前期1コマ	2～4年
田副 真美	

〔到達目標〕

- ①交流分析の理論を理解する。
- ②交流分析の理論の学びを日常生活の対人コミュニケーションの理解に活かすことができる。
- ③交流分析の理論の学びを日常生活のより良い対人コミュニケーションに活用できる。
- ④交流分析の理論におけるワークやエゴグラム体験から自己理解を深める。

〔履修の条件〕

「心理学」、「臨床心理学概論」などの基礎的な科目を履修した上で、受講することが望ましい。

〔講義概要〕

交流分析(Transaction Analysis: TA)は、1950年代米国の精神医学者エリック・バーン(Berne, E.)によって創始されたパーソナリティ理論やコミュニケーション理論で、またその理論に

よる心理療法でもある。TAは、ジークムント・フロイト(Freud, S.)の創始した精神分析をもとにしているが簡潔でわかりやすい言葉を使って理解しやすいことが特徴である。TAのゴールは、自身の性格・行動パターンや人間関係のダイナミクスをさぐり、ありのままの自己を発見し、障害に感じている現在の不適応の状況の「気づき」を深めることにより、それを修正して、自分らしい生き生きとした日常を送るという自己実現にある。現在は、医療現場のみならず、教育現場、企業・産業現場、司法矯正の場あるいは日常生活の場などで広く利用されている。本講義では、TAの理論、対人援助の場面での活用(アセスメントや介入など)について学ぶ。また、自身の自己理解の一助として、ワークやエゴグラムの体験を予定している。

■授業計画

第1回	オリエンテーション 授業の狙い、講義の進め方、授業に使用するテキストや参考文献の紹介
第2回	構造分析1 ①自我状態 ②自我状態モデル
第3回	構造分析2 ①エゴグラムの体験と解説 ②ワーク
第4回	構造分析3 自我状態：構造上の病理(汚染と除外)
第5回	やり取りの分析1 交流パターンの分類：相補交流、交叉交流、裏面交流
第6回	やり取りの分析2 ①コミュニケーションの原則 ②ワーク
第7回	ストローク 時間の構造化 ストロークと時間の構造化のワーク
第8回	基本的構え ①基本的構えとエゴグラム ②ワーク(紙上)
第9回	(心理)ゲーム分析1 ①ゲームとは ②ゲームの特徴 ③ゲームのレベル
第10回	ゲーム分析2 ①ゲームの過程と分析方法
第11回	ゲーム分析3 ①ゲームをするのはなぜか ②ワーク(紙上)
第12回	脚本分析1 ①脚本とは ②脚本の構成要素：禁止令、拮抗禁止令 ③脚本のでき方
第13回	脚本分析2 ①自身の脚本のテーマを知る ②脚本の種類 ③脚本を書き直す
第14回	まとめ ①交流分析のゴール

②自律性と自律を達成するための3つの能力

第15回 期末レポート

第16回 -

【成績評価】

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(10%)

【成績評価(備考)】

授業参加態度、ワークに関する小レポート、レポート試験により評価する。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

連続する複数回の授業では、必ず前回の資料や検査に目を通し、講義に臨むこと。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

【試験・レポート等のフィードバック】

リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、「3. 総合的・実践的な学習能力」、「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。公認心理師や臨床心理学の専門家としての実践的な知識と技術を身に付けることができる。

【テキスト】

中村延江他、「初学者のための交流分析の基礎」 金子書房 2,600円

【参考文献】

必要な資料を適宜配布する。

【備考】

「実務経験のある教員による科目」

公認心理師および臨床心理士として、特に医療・教育領域等における心理臨床経験を活かして、実践的な講義とワークを行う。

社会・集団・家族心理学

科目ナンバー	ICP 2220-L
2単位：集中	2～4年
渡邊 由己	

【到達目標】

- ①対人や集団での関係における人の意識、行動について、その心理のプロセスを理解し説明できる。
- ②社会や集団、家族における人の態度や行動のあり方について心理学的に理解し説明できる。
- ③社会や集団、家族が有する文化や価値観が、それらの成員である個人にどのような影響を及ぼすのかについて、相互作用性も踏まえて理解し説明できる。

〔履修の条件〕

- ・集中講義期間中、休まず出席できること。
- ・事前にテキストを購入して予習と復習ができること。テキストはアンダーラインの指示も含めて頻繁に活用するため、毎回の授業で必携すること。

〔講義概要〕

対人関係や集団内における人の意識や行動が、どのような心の働きによりいかなる過程を経ていくのかについて心理学的に学んでいく。また、集団や社会、家族における人の態度や行動の形成と変容の心理学的機序と、集団や家族、文化が個人に及ぼす心理学的影響についても学ぶ。加えて、多様な人々が共生していく上での心理学的課題についても考察を深めていく。

基本的に講義形式でおこなうが、短時間のディスカッションやグループワークの導入も予定している。

■授業計画

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 授業オリエンテーション:本授業に含まれる心理学領域と心理支援との関わり
テキスト第1章 |
| 第2回 | 対人認知の特徴とプロセス
テキスト第2章 |
| 第3回 | 人の態度と行動
テキスト第3章 |
| 第4回 | ステレオタイプと偏見
テキスト第4章 |
| 第5回 | 向社会的行動と反社会的行動
テキスト第5章 |
| 第6回 | 社会的影響:社会的促進と社会的抑制
テキスト第6章 |
| 第7回 | 社会的影響:同調と説得
テキスト第7章 |
| 第8回 | 集団形成プロセスと社会的相互作用
テキスト第8章、第9章 |
| 第9回 | 対人関係の形成と発展
テキスト第10章 |
| 第10回 | 家族関係:家族の特質と現代的変容
テキスト第11章 |
| 第11回 | 家族関係:様々な危機と対応、支援
テキスト第11章 |
| 第12回 | コミュニティの現代的課題
身近な地域(コミュニティ)の特徴と課題を考えておく |
| 第13回 | 文化と価値観の影響
テキスト第13章 |
| 第14回 | 人間共生と心理支援、全体のまとめ
多様な人間が共生出来るようになるプロセスについて考えておく |
| 第15回 | 期末試験 |

〔成績評価〕

試験(80%)、レポート0%、小テスト0%、課題提出20%、その他の評価方法0%

〔成績評価(備考)〕

授業中の小課題への取り組み

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

集中講義のため、各自で1ヶ月前(目安)にテキストを購入の上、毎回の授業計画に示してあるテキスト該当箇所を読んでおくこと。また、第12回、第14回に記された課題を考えておくこと。

この授業では毎回の授業準備として200分の事前学修を要する。集中講義形式であるため、第1回授業までの準備学修として200分×15回=3,000分(50時間)を目安とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

授業のリアクションペーパー等のフィードバックは、後の回の授業でおこなう。試験についてコメントが必要な場合は大学ポータルサイトの授業に関する連絡機能を用いておこなう。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

本授業を履修し、社会や集団、家族の心理学的知識や心の問題、人間共生との関わりを学ぶことにより、他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力の基礎を身につける。

〔テキスト〕

(公認心理師の基礎と実践11)「社会・集団・家族心理学」、竹村和久(編)、遠見書房、2018年、
ISBN : 978-4-86616-061-0

〔参考文献〕

授業時に適宜紹介する。

産業・組織心理学		
科目ナンバー	ICP2221-L	
2単位：前期1コマ	2～4年	
中村 洸太		

〔到達目標〕

産業社会の激変やグローバル化の進展、ニューノーマル、そして新型コロナウイルス感染症拡大など社会の有様は大きく変化しています。加えて超少子高齢化時代となり、多様化が叫ばれる時代に個人の価値観も大きく変化しています。その意味で講義は非常に身近なテーマを扱っていきます。産業・組織心理学に関する知識や考え方を知り、働く人のストレスの増大からくる心の健康問題、人間関係の希薄さなどによる職場の状況と企業の課題、消費社会における心理などについて理解を深め、広い学識を身につけます。

そのうえで、より良い職業人生を送るためのメンタルヘルス対策、キャリア開発、良好なコミュニケーションづくりについて学習することを目的とします。この目的を達成するために、集団・組織や職場・職業に関わる心理学の理論を学びながら、産業・労働分野についての知識と考え方をバランスよく身につけることを目指します。

〔履修の条件〕

企業ではコミュニケーション能力の高い人が求められます。また、企業に限らず、コミュニケーションは組織が成立し機能するため的重要要件の1つです。社会に貢献したり、良い仕事をしたりするために、また、人を支援する仕事に就く場合は、特に、ラポールの構築のために良好なコミュニケーションは重要です。

コミュニケーション能力は、生まれもった能力や性格とまったく関係がないわけではありませんが、大きく反映されるものではありません。饒舌に話すことや、情報を伝達しあうだけではなく、それぞれの思いや意見の交換を通して、心を通じ合わせるプロセスです。他者の話に興味・感心をもち、情報や気持を聴く一方で、自身の考えや思いを発信するスキルは実践して身に付くのです。授業内でのコミュニケーション演習は、価値観の相違を感じ取り、他者の異なる視点で見る目を養ったり、また、自分のよさを発揮する機会です。日常会話とは異なるコミュニケーションを通して、日ごろの友人とだけでなく、広く良好な関係性を築く準備をしましょう。

【講義概要】

レジュメを中心に講義します。毎回の講義内で参加者同士での意見交換を行うことで、他者の意見に触れる機会を重要視します。毎授業の最後には、講義内容と演習を含めた「フィードバックシート」を作成し提出します。「レポート」は中間と最終の2回を予定しています。

■授業計画

第1回	オリエンテーション、産業・組織心理学とは
第2回	組織と個人
第3回	集団・モチベーション
第4回	組織とコミュニケーション
第5回	ストレス
第6回	仕事の能率と安全
第7回	キャリア
第8回	リーダーシップ
第9回	人事アセスメント
第10回	消費者行動マーケティング
第11回	消費者の意思決定
第12回	ハラスメント
第13回	法律の理解
第14回	現代社会の課題(休職・復職など)
第15回	試験
第16回	-

【成績評価】

試験(30%)、レポート(20%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(10%)

【成績評価(備考)】

最終試験(レポート)、レポート(第7回時)、毎回の授業の課題(課題提出)に加えて、授業参加態度の評価も行います。

【予習・復習の内容及びそれに必要な時間】

科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

予習は、該当する項目を自習しておきましょう。復習は、講義配布資料やノートを整理し、演習(ワーク&シェア)で実施したワークやディスカッションの内容を振り返っておきましょう。

【試験・レポート等のフィードバック】

課題やレポートなどのフィードバックは、基本的には、次回の講義において行いますが、数回分をまとめることもあります。発表等については、授業内に適宜口頭でコメントします。

【ディプロマポリシーとの関連性】

他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになることを研鑽するとともに、専門家としての資格を取得しようとする者は、クライアントを尊重する姿勢を有し、倫理や法を理解し、遵守姿勢と遵守に必要な実践能力を有するよう心構え、目指しましょう。

【テキスト】

毎授業で、参考テキストをベースにしたレジュメを配布します。

【参考文献】

参考テキストは次のとおりです(あるとベター)

・経営とワークライフに生かそう！産業・組織心理学改訂版(山口裕幸(著),高橋潔(著),芳賀繁(著),竹村和久(著))有斐閣
その他、適宜、授業で紹介します。

【備考】

毎回、前回のレジュメを参照すること。

精神分析学	
科目ナンバー	ICP2222-L
2単位：後期1コマ	2～4年
石川 与志也	

【到達目標】

フロイトの人生とそこで成された彼の仕事、そしてフロイトに端を発する精神分析学の展開の意味するところを多角的に理解する。その上で、精神分析学が生み出した産物の一端を、現代社会の様々な現象や自身の体験等を踏まえ、实际的に吟味する。

【履修の条件】

「心理学」等の基礎的な科目や「カウンセリングの理論」「臨床心理概説」などを受講した上で履修するのが望ましい。

【講義概要】

精神分析がその根底に有している人間に対する思想、方法、成果を理解し、人間個々人が有する内なる宇宙への関心を高め、その現代的意義を問うことを目的とする。

なお、基本的にはシラバスに沿って進めるが、授業計画は適宜変更することがある。

■授業計画

第1回	オリエンテーション：授業の進め方、精神分析とは何か
第2回	精神分析の歴史
第3回	フロイトの人生
第4回	心のモデル(1)情動外傷モデル
第5回	心のモデル(2)局所論モデル
第6回	心のモデル(3)構造論モデル
第7回	不安と防衛機制
第8回	内的世界の起源(1)エディプス・コンプレックス(Ⅰ)
第9回	内的世界の起源(2)エディプス・コンプレックス(Ⅱ)

- 第10回 内的世界の起源(3)プレエディパルの心の発達
- 第11回 転移と逆転移
- 第12回 夢、象徴、冗談
- 第13回 フロイトの症例
- 第14回 改めて精神分析とは何か
- 第15回 レポート
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

ディスカッションやワークショップへの取り組みを評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

参考文献をはじめ自分で関連の文献を探し、読み進めること。精神分析学の基本的事項の理解を、クラスの講義やディスカッション、文献等を読みながら、自分なりに深めること。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

- ・リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。
- ・講義内小テストの解答・解説は、テストが実施された翌週に行う。
- ・期末レポートの評価について個別のフィードバックが必要な場合は、個別に対応するので教員にアポイントメントを取ること。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

主に、「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」および「3.総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を修得することで、精神分析学の視点から人間存在や社会について理解し、探求する基礎が身につく。

〔テキスト〕

特に指定しない

〔参考文献〕

- フロイト全集. 岩波書店.
 ラブランシュ, J.&ポンタリス, J.B.[村上仁監訳](1967/1977)精神分析用語辞典. みすず書房.
 ベイトマン, A.&ホームズ, J.(1995/2010)臨床家のための精神分析入門. 岩崎学術出版社.
 土居健郎(1956/1988)精神分析. 講談社学術文庫.
 土居健郎(1961)精神療法と精神分析. 金子書房.
 藤山直樹(2008)集中講義・精神分析(上). 岩崎学術出版社.
 藤山直樹(2010)集中講義・精神分析(下). 岩崎学術出版社.
 ピーター・ゲイ[鈴木晶訳](1997)フロイト1 みすず書房.
 ピーター・ゲイ[鈴木晶訳](2004)フロイト2 みすず書房.
 ネヴィル・シミントン(1986/2006)分析の経験. 創元社.
 ソフォクレス(1967)オイディプス王. 岩波文庫.
 十川幸司(2003)精神分析. 岩波書店.
 十川幸司(2019)フロイディアン・ステッパー分析家の誕生ー みすず書房.

I・ザルツバーガー—ウィッテンバーグ(1970/2007)臨床現場に生かすクライン派精神分析: 精神分析における洞察と関係性 岩崎学術出版社.
 その他、適宜クラスで紹介する。

〔備考〕

「実務経験のある教員による科目」精神分析的な心理療法の専門家としての実務経験を生かし、実際の臨床現場での現象を踏まえて精神分析学を教える

健康・医療心理学			
科目ナンバー		ICP 2223-L	
2単位：前期1コマ		2～4年	
田副		真美	

〔科目補足情報〕

公認心理師指定科目である

〔到達目標〕

1. 健康心理学の特徴と実際の活動が説明できる。
2. 医療機関の心理職の役割が説明できる。
3. 保健医療領域におけるチーム医療の一員ある心理職の役割と多職種協働の重要性が理解できる。

〔履修の条件〕

実践の基礎となる科目(心理学、知覚・認知心理学、学習・言語心理学、発達心理学など)を履修しておくことが望ましい。

〔講義概要〕

1. 本講義では、健康心理学および医療心理学の概要
2. ストレスと心身の疾病との関係
3. 医療現場における心理社会的問題と必要な支援心理社会的支援
4. 災害時などに必要な心理に関する支援
5. ゲストスピーカーをによる心理職の実践についての講義

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション
授業のねらい：健康心理学とは 医療心理学とは
- 第2回 健康心理学とは
健康心理学におけるアセスメントと支援
- 第3回 健康心理学におけるアセスメント
- 第4回 健康心理学の実践①ストレスとストレスマネジメント
- 第5回 健康心理学の実践②各種の心理療法
- 第6回 医療心理学とは
医療心理学におけるアセスメント
- 第7回 医療心理学の実践②精神科・児童精神
- 第8回 医療心理学の実践③院内独立型心理室
- 第9回 医療心理学の実践③心療内科
- 第10回 医療心理学の実践④小児科 ゲストスピーカー(小児科医)による講義
- 第11回 医療心理学の実践⑤緩和医療
- 第12回 医療心理学の実践⑥産業保健
- 第13回 地域保健活動とその実際

- 第14回 災害心理学
多職種協働と医療連携
まとめ
- 第15回 期末レポート
- 第16回 -

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(10%)

〔成績評価(備考)〕

授業参加態度、授業内で実施する課題レポートおよび試験レポートにより評価する。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

連続した内容の講義では、必ず前回の資料などに目を通し講義に臨むこと。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、「3. 総合的・実践的な学習能力」、「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。公認心理師や臨床心理学の専門家としての実践的な知識と技術を身に付けることができる。

〔テキスト〕

宮脇稔他(編)健康・医療心理学 医歯薬出版株式会社
3,000円

〔参考文献〕

鈴木伸一(編・著)医療心理学の新展開-チーム医療に活かす心理学の最前線- 北大路書房 2,500円、必要に応じて資料を配布する。

〔備考〕

「実務経験のある教員による科目」公認心理師および臨床心理士として、医療領域等における心理臨床経験を活かして指導を行う。

福祉心理学	
科目ナンバー	ICP2305-L
2単位：後期1コマ	3～4年
加藤 純	

〔科目補足情報〕

公認心理師に必要な科目です。

〔到達目標〕

公認心理師に必要な科目に含まれる事項として、下記の3点について理解することを到達目標とします。

- 1.福祉現場において生じる問題及びその背景
- 2.福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援
- 3.虐待や配偶者暴力に関する法律と対応

〔履修の条件〕

1. 3～4年生であればコースを問わず履修できます。
- 2.公認心理師に必要な科目です。公認心理師を目指す学生は必ず履修してください。
- 3.この科目で学ぶ内容を理解するために「児童福祉の諸問題」が役立ちます。また、「児童福祉論」を履修しておくか、または後期に並行履修することが望ましいです。

〔講義概要〕

福祉分野に関する心理的支援の理論と実際を学びます。資料に基づく討議や短いロールプレイなどにより、社会生活で生じる問題の現状と社会的背景について理解を深めます。また、事例検討を通して、生物・社会・心理など諸側面から包括的にアセスメントし、多職種と協働して支援する力を養います。学習内容を公認心理師国家試験と関連付けられるように、公認心理師の出題基準と過去問題を紹介します。

■授業計画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 1.オリエンテーション(授業の目的・内容・日程・課題)。
2.生物心理社会的アプローチ：社会福祉と臨床心理に求められる専門性 |
| 第2回 | 福祉分野における心理職の仕事と任用資格
1. 入所施設など生活場面での心理職
2. 相談を主な業務とする心理職の仕事 |
| 第3回 | 福祉分野におけるアセスメント(1)対象者や対象課題を法令によって定義する意味 |
| 第4回 | 福祉分野におけるアセスメント(2)生活課題の把握
生物心理社会的アプローチによる包括的アセスメント(子育て家族の事例検討を通して) |
| 第5回 | 福祉分野におけるアセスメント(3) 社会問題としての把握
1.社会問題とは何か
2. 社会構築主義から見た社会問題の成立過程 |
| 第6回 | 福祉分野における支援方法(1)地域における子育て支援と環境調整
要保護児童、要支援児童、特定妊婦 |
| 第7回 | 福祉分野における支援方法(2)相談機関における家族・専門職への心理支援(暴力がある家庭への事例・他職種へのコンサルテーション) |
| 第8回 | 行政機関の法的権限と介入過程(1)：通告から措置までの経路・児童相談所の権限と対応 |
| 第9回 | 行政機関の法的権限と介入過程(2)：虐待の通告・通報義務と通告先(児童虐待、障害者虐待、高齢者虐待の比較) |
| 第10回 | 福祉分野における支援方法(3)入所施設の生活場面での心理支援
暴力や喪失の影響、愛着形成、誤学習、生活習慣、2次被害 |
| 第11回 | 福祉分野における支援方法(4)入所施設での面接室 |

- での心理支援
- 第12回 福祉分野における支援方法(5)障害者虐待、高齢者虐待、配偶者暴力についての通告義務と通告先
- 第13回 高齢者分野での心理的支援：認知症の理解とアセスメント
- 第14回 家族支援におけるリスクアセスメントとリスクマネジメント
- 第15回 試験
- 第16回 ー

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(70%)、その他の評価方法(30%)

〔成績評価(備考)〕

その他の評価方法には、授業への出席や課題の取り組みなどの努力に関する自己評価を含みます。授業には全て出席することを原則としますので、欠席は減点材料となります。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

期末試験はオンラインで実施、採点します。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

この科目では「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」を養成します。対人援助職としての全人的なヒューマン・ケアに必要な専門性として、特に問題理解と支援方法に関する知識を身につけることを目指します。

〔テキスト〕

ポータルを通して授業資料を提供します。グーグルフォームにより資料と課題を提示します。

授業では、下記の文献の内容を紹介します。

上野加代子・野村知二(2003)『〈児童虐待〉の構築』世界思想社

M. Durrant(1991)“Residential Treatment.” W. W. Norton.

衣斐哲臣(1997)「体罰習慣がある家族に対する助言指導と保母・教師へのコンサルテーション」『家族療法研究』14巻2号

〔参考文献〕

公認心理師の資格取得を目指してこの科目を履修する学生は、公認心理師養成のために出版されている『福祉心理学』の教科書を参考にしてください。

〔備考〕

実務経験のある教員による科目。児童養護施設での児童指導員および児童相談所における子供の権利擁護専門員としての経験を活かして、社会福祉分野での心理的支援方法について指導する。

司法・犯罪心理学

科目ナンバー	ICP 2224-L
2単位：後期1コマ	2～4年
室城 順子	

〔科目補足情報〕

公認心理師資格取得のための指定科目

〔到達目標〕

- (1) 犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件に関する基本的知識を身につける。
- (2) 司法・犯罪分野において必要とされる心理的支援について学ぶ。

〔履修の条件〕

特になし

〔講義概要〕

犯罪を通して人間理解を深める機会とし、以下の内容について学習する。

授業計画に基づき、テキスト及びパワーポイントの講義資料を用いた講義形式の授業になる。課題、参考資料をポータルを通じて提供する。

- (1) 犯罪の原因に関する生物学的、社会的、心理学的諸理論
- (2) 非行少年・犯罪者の捜査、司法手続、処遇、立ち直りという一連の各プロセスにおける心理的支援
- (3) 家庭裁判所における家事事件の内容とプロセス及び心理的支援
- (4) 児童虐待、DV等、家庭内における暴力被害・加害の実態及び心理的支援
- (5) 各種犯罪の特徴、犯罪被害・加害の実情
- (6) 犯罪被害者への支援や犯罪の予防

■授業計画

- 第1回 オリエンテーション
司法・犯罪心理学とは何か～対象と方法
- 第2回 犯罪の原因論(1)生物学的要因
- 第3回 犯罪の原因論(2)社会的要因・心理学的要因
- 第4回 犯罪の原因論(3)環境との相互作用・犯罪原因の統合的理解
- 第5回 犯罪捜査と心理的支援
- 第6回 非行・犯罪に対する司法手続
- 第7回 非行少年・犯罪者の処遇・矯正(1)
- 第8回 非行少年・犯罪者の処遇・矯正(2)
犯罪からの立ち直り
- 第9回 家庭裁判所の家事事件と心理的支援
児童虐待とドメスティックバイオレンス
- 第10回 犯罪各論(1)暴力犯罪、殺人
- 第11回 犯罪各論(2)性犯罪、放火
- 第12回 犯罪各論(3)窃盗等の財産犯、その他の犯罪
- 第13回 犯罪各論(4)少年非行
- 第14回 犯罪被害者支援と犯罪予防、グリーフケア
まとめ～司法・犯罪心理学の課題
- 第15回 試験

第16回

〔成績評価〕

試験(55%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(45%)

〔成績評価(備考)〕

各講義の終了時に提出するリアクション・ペーパーで行う。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

本科目の予習においては、テキストの該当箇所を読んでおく。復習においては、講義資料を読み直すことが求められる。

本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

毎回提出されるリアクションペーパーに対するフィードバック及び質問へのコメントを、次の授業の際に行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。

この科目を履修することによって、犯罪や非行の加害者の理解と更生のための援助能力を身につけるとともに、犯罪や非行の被害者の痛みを癒すための援助能力を身につけることができる。また、様々な家庭問題の課題と解決のための援助方法を学ぶことができる。特に、臨床心理士・公認心理師に必要な「臨床心理の専門職としての使命と社会的責任」、「倫理や法令の理解と遵守」、「クライアントへの臨床的支援能力」、「他職種の専門家と連携する能力」の習得を目指す。

〔テキスト〕

『Progress&Application 司法犯罪心理学』越智啓太著 サイエンス社 2,530円

パワーポイント講義資料を配布する。

〔参考文献〕

藤岡淳子『司法・犯罪心理学』有斐閣 2,750円

大淵憲一『犯罪心理学』培風館 3,080円

門本泉 『司法・犯罪心理学』ミネルヴァ書房 2,420円

〔備考〕

実務経験のある教員による科目。公認心理師、臨床心理士であり、司法領域や行政での心理支援業務等における実務経験を活かして講義を行う。

関係行政論	
科目ナンバー	ICP2225-L
2単位：前期1コマ	2年
谷井 淳一	

〔科目補足情報〕

時間割の都合上、前期に授業を行う

〔到達目標〕

(1) 公認心理師の活躍が期待される5分野(保健医療・教育・福祉・産業労働・司法犯罪等の5分野)に関しての、法制度を理解する。

(2) 5分野の法制度の理解を前提に、関係他職種や地域の中で、心の問題に関する連携の中心的役割を担える存在になるための基礎を会得する。

〔履修の条件〕

公認心理師の指定科目の1つであり、公認心理師を目指している人は必ず履修してください。

〔講義概要〕

今後、公認心理師の活躍が期待される関係5分野(保健医療・教育・福祉・産業労働・司法犯罪等の5分野)に関しての、法制度を理解する科目である。YouTubeに20分から30分程度の動画を準備しているので、授業ごとにそれを視聴してもらう。そののち、動画にはしなくなったことについて授業を行う。

5分野の法制度について簡単なレポートを5回分提出してもらう予定である。

■授業計画

- 第1回 授業の進め方と課題の提出の仕方
公認心理師法と日本における関連法規
- 第2回 司法・犯罪分野に関する法制度(1)
- 第3回 司法・犯罪分野に関する法制度(2)
- 第4回 保健医療分野に関する法制度(1) 司法分野レポート提出
- 第5回 保健医療分野に関する法制度(2)
- 第6回 保健医療分野に関する法制度(3)
- 第7回 教育分野に関する法制度(1) 保健医療分野レポート提出
- 第8回 教育分野に関する法制度(2)
- 第9回 産業・労働分野に関する法制度(1) 教育分野レポート提出
- 第10回 産業・労働分野に関する法制度(2)
- 第11回 産業・労働分野に関する法制度(3)
- 第12回 福祉分野に関する法制度(1) 産業分野レポート提出
- 第13回 福祉分野に関する法制度(2)
- 第14回 福祉分野に関する法制度(3)
- 第15回 まとめ 福祉分野レポート提出
- 第16回

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

〔成績評価(備考)〕

成績評価の「その他」20%は、授業への参加度を評価する。5分野あるが、1分野について1回ずつレポートを提出してもらう。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

各分野の法制度についてはこの授業でしか扱わない分野もある。各授業ごとに200分間の予習復習の時間が必要である。動画の視聴もこの中に含まれる。

【試験・レポート等のフィードバック】

レポートやその他の質問等への対応は授業時を中心に行う。

【ディプロマポリシーとの関連性】

本講義を通じて、本学のディプロマポリシーに示されている、「2. 全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性」の一端を身に着けることになる。

【テキスト】

基本的にはプリントと動画を用意する。以下の参考文献の書籍を参考にしてほしい

【参考文献】

公認心理師の基礎と実践23 関係行政論 元永拓郎編(遠見書房)

【備考】

谷井は保護観察所保護観察官や公立高校教員の経験があり、その経験を生かした講義を行っている。

心理演習

科目ナンバー

ICP 2226-L

2単位：後期1コマ

2年

村上 律子、谷井 淳一、加藤 純、
田副 真美

【科目補足情報】

受講定員は30名とする。

【到達目標】

心理支援が様々な対人援助場面でどの様に実践されているのか、その実際を学びます。

具体的な場面を想定した役割演技や事例検討を通して、対人援助のあり方を理解し、心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能の基本的な水準の習得を目的とします。

【履修の条件】

公認心理師資格取得のための指定科目です。

(a) 当該年度前期開講科目までで臨床心理系科目(別表 参照)を20単位以上の取得

(b) 2023年度前期までの全履修科目のGPA 2.40以上

(c) 「心理学的支援法」「臨床心理学概論」の2科目に関して「良」以上の成績での単位取得

であることを条件とします。また、履修に関しては選抜が行われる場合があります。詳しくは、公認心理師の演習・実習についての項を参照してください。

体験型の授業ですので、すべての授業に出席し、積極的な授業参加を求めます。

【講義概要】

小人数グループでの体験学習を重視します。

心理支援に必要な基本的な態度、心理療法、心理検査、及び地域支援に関して、実際にはどのようなプロセスで実践されているか、前半は具体的な場面を設定しながら役割演技を行い、知

識の整理をします。後半は医療、教育、産業、福祉、司法等の臨床場面での事例素材により、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握、現実生活を視野に入れたチームアプローチをグループディスカッションにより検討します。さらに、公認心理師としての職業倫理、及び法的義務の理解も考えます。

なお、第1回の授業において第2回以降の体験学習の際のクラス分けを行いますので、履修希望者は必ず出席して下さい。

■授業計画

第1回	オリエンテーション 学習の目標と概観、授業の進め方、評価、参考文献の紹介等 (体験学習の進め方と注意点の説明 及びグループ分け)
第2回	心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能 情報の適切な取り扱い
第3回	心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能 心理アセスメントの意義
第4回	心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能 インテーク面接実習①
第5回	心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能 インテーク面接実習②
第6回	心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能 心理検査事例検討
第7回	心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 教育領域事例検討
第8回	心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 地域支援事例検討(高齢者)
第9回	心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 児童福祉事例検討
第10回	心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 医療事例検討・役割演技演習
第11回	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームワーク 医療領域・グループ体験
第12回	多職種連携及び地域連携 事例検討(司法)
第13回	多職種連携及び地域連携 産業領域事例検討
第14回	公認心理師としての職業倫理及び法的義務の理解 まとめ
第15回	試験
第16回	-

【成績評価】

試験(50%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

課題提出：毎回授業後にリアクションペーパー(①授業で興味を持ったところ・感想。②疑問点 ③質問・要望等)を提出。
心理演習・心理実習Ⅰの成績が良以上の場合に、心理実習Ⅱの参加を認めます。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

毎回授業で扱ったテーマ・事例に関して、自分でその内容を振り返り知識を整理し考察を深めること。心理学的支援や対人援助に関しては様々な文献が出ています。それぞれ興味のある所から自己学習し学びを深めてほしい。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

リアクションペーパーに対するフィードバックを次の講義内容において行います。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「3. 総合的・実践的な学習能力」「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当します。この科目を履修することにより、対人援助のあり方を理解し、心理に関する支援を要する者等に関する実践的な知識と技能の基本を身につけることができます。さらに役割演技、事例検討におけるディスカッション、グループワークを通じて他者理解と自己表現の力を高めます。

〔テキスト〕

特に定めません。必要に応じてテキストを配布します。

〔参考文献〕

「時間のかかる営みを、時間をかけて学ぶための心理療法入門」小松貴弘・渡辺亘・中村博文 創元社 2019
「新・カウンセリングの話」(朝日選書)平木典子 朝日新聞出版 2020
「初回面接入門ー心理力動フォーミュレーション」妙木浩之 岩崎学術出版 2010
「心理臨床へのまなざし 経験の意味を支えるコンテキストと理念」小川恵 日本評論社 2006

〔備考〕

実務経験のある教員による科目。
担当教員それぞれは、公認心理師・臨床心理士として医療・教育・児童・福祉・産業において心理支援の業務を行ってきています。その経験を生かし、心理支援に関しての様々な知識、基本的な技能について具体的な事例を提示して演習を行います。

臨床心理特講 A(大学院進学支援講座)

科目ナンバー	ICP 2227-L
1単位：前期1コマ	2～4年
松田 崇志	

〔到達目標〕

本講義では、受講者が心理学系または臨床心理学系の大学院の受験準備に主体的に取り組めるようになることを目標とする。ま

た、進路に関する目標を設定できることを目指し、自身の職業適性や関心のある研究テーマについて理解を深めることを目標とする。

- ①大学院の試験の仕組みの基本を理解する。
- ②専門試験に向けての学習方法を身につける。
- ③関心のある研究テーマについて研究計画を立てることができるようになる。

〔履修の条件〕

大学卒業後あるいは近い将来、心理学・臨床心理学系の大学院への進学を考えている2～4年生が対象である。
※とりあえず大学院の進学でも考えてみようかという程度の動機づけだと、課題に取り組む意欲が続かない。就職進路相談室による説明会などを活用して進路を考え、目標を持って参加することを期待する。

〔講義概要〕

本講義では、心理学・臨床心理学系の大学院進学を目指す受講者の目標設定を支援する。
具体的には、①大学院の試験の仕組み、②心理学の各領域のトピックの学習(専門知識に関する問題への解答と英文読解)、③研究テーマの設定の4つについて学ぶ。
授業はパワーポイントを用いて行う。

■授業計画

- | | |
|-----|------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション、大学院受験に向けての心構えと勉強方法 |
| 第2回 | 大学院の試験の仕組み：入学試験と大学院の選び方について |
| 第3回 | 重要用語・人物の知識整理と英語学習①：認知 |
| 第4回 | 重要用語・人物の知識整理と英語学習②：発達 |
| 第5回 | 重要用語・人物の知識整理と英語学習③：学習 |
| 第6回 | 重要用語・人物の知識整理と英語学習④：臨床 |
| 第7回 | 研究計画を考える：研究計画の立て方と書き方 |
| 第8回 | － |
| 第9回 | － |

〔成績評価〕

試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(70%)、その他の評価方法(0%)

〔成績評価(備考)〕

レポート(進学候補先となる大学院を調査した結果の報告)と専門知識に関する問題への回答と英文読解の課題提出によって成績評価を行う。

〔予習・復習の内容及びそれに必要な時間〕

- ①関心に応じて進学先候補となる大学院をインターネットや資料請求によって、情報収集を事前に行っておくこと。
 - ②予習として、「重要用語・人物の知識整理」や「重要用語・人物の英語学習」の回では、対応する領域に関する書籍やこれまでの授業資料を読むなどして専門用語を確認しておくこと。
 - ③復習として、正答と解説を示した資料をもとに自身の回答の答え合わせを行い、確認しておくこと。
- 本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

〔試験・レポート等のフィードバック〕

授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。

〔ディプロマポリシーとの関連性〕

「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目習得することで、心理職を志す者としての態度、自主的に学ぶ学習能力を身に付けることができる。

〔テキスト〕

テキストは指定しない。

〔参考文献〕

- ①山田剛史・林 創「大学生のためのリサーチリテラシー入門 研究のための8つの力」 ミネルヴァ書房 2011年（本体価格：2,400円+税）
- ②遠田諭他「合格ナビ！臨床心理士指定大学院 〔研究計画書〕」 東京出版 2014年（本体価格：2,800円+税）
- ③渋谷寛子他「臨床心理士指定大学院対策 鉄則10&サンプル18 研究計画書編」講談社 2016年（本体価格：2,600円+税）

〔備考〕

授業の進度などに応じて、授業内容を変更することがある。

「重要用語・人物の知識整理と英語学習」では予習・復習にしっかりと取り組むことを期待する。

この授業に出席しただけでは、大学院に合格できるところまでは達しないので、継続的な学習が重要である。

ルーテル学院大学

2023 年度 講 義 概 要

発行：ルーテル学院大学

〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-20

TEL 0422-31-4611

印刷 株式会社 佐伯コミュニケーションズ

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-29-7-1002



ルーテル学院大学